

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第227集

上八木田 I 遺跡発掘調査報告書

新盛岡競馬場建設関連遺跡発掘調査

分 冊 2

(住居跡以外の遺構・遺構外出土遺物・まとめ)

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第227集

上八木田 I 遺跡発掘調査報告書

新盛岡競馬場建設関連遺跡発掘調査

分 冊 2

(住居跡以外の遺構・遺構外出土遺物・まとめ)

〈分冊2〉

本文目次

2	土坑	1
3	陥し穴	66
4	土器埋設遺構	73
5	炉跡	74
6	焼土遺構	75
7	遺構外出土遺物	86
	(1) 土器・土製品	86
	(2) 石器・石製品	146
	(3) 鉄器	175
V	まとめ	235
1	遺構	235
	(1) 竪穴住居跡	235
	(2) 土坑	255
	(3) 陥し穴	259
	(4) 土器埋設遺構	261
	(5) 焼土遺構	262
2	上八木田 I 遺跡の集落の変遷	262
3	遺物	264
	(1) 土器	264
	(2) 石器	287
4	上八木田遺跡群について	291

〈分冊1掲載内容〉

I	調査に至る経過
II	野外調査方法と室内整理
III	遺跡の位置と環境
IV	検出された遺構と遺物
1	竪穴住居跡
	(1) 縄文時代の竪穴住居跡
	(2) 平安時代の竪穴住居跡

〈分冊3掲載内容〉

写真図版
遺跡全景・遺構
遺物

付篇 1	上八木田 I 遺跡出土火山灰の蛍光 X 線分析	297
2	上八木田 I 遺跡の縄文時代中期末葉の住居跡の炉の構築土と土器胎土の蛍光 X 線分析	299
3	上八木田 I 遺跡出土の黒曜石製遺物の石材産地分析	301
4	上八木田 I 遺跡出土種子同定報告	310
5	上八木田 I 遺跡出土鉄器の金属学的解析	313
6	上八木田 I 遺跡 X I C 6 b 住居跡出土繊維について	318

目 次

第 290 ~ 311 図	土坑 (1) ~ (22)	2	第 379 ~ 380 図	透眼状土遺物 土器(46) 煎餅類(1)・(2)...	142
第 312 ~ 321 図	土坑内出土遺物 (1) ~ (10)	56	第 381 ~ 382 図	透眼状土遺物 小型土・土器(1)・(2)	144
第 322 ~ 324 図	陥し穴 (1) ~ (3)	67	第 383 図	器種別石器出土割合	146
第 325 図	陥し穴出土遺物	72	第 384 図	石鏃分類概念図	147
第 326 図	埋 C 6 h 土器埋没遺構・埋没土器	73	第 385 図	石鏃基部形状による分類別出土割合	149
第 327 図	炉跡・出土遺物	74	第 386 図	石鏃側面形状による分類別出土割合	149
第 328 ~ 332 図	焼土遺構 (1) ~ (5)	77	第 387 図	石鏃石材別割合	149
第 333 図	焼土遺構出土遺物	85	第 388 図	石鏃重量分布	150
第 334 図	突起名称概念図	90	第 389 図	尖頭器・棒石器長幅相関図	151
第 335 図	透眼状土遺物 土器(1) 第1群・第2群1~2層	98	第 390 図	尖頭器・棒石器重量分布	151
第 336 図	透眼状土遺物 土器(1) 第3群1~5層	99	第 391 図	尖頭器・棒石器と石鏃の先端内の対比	151
第 337 ~ 350 図	透眼状土遺物 土器(1)~(16) 第1群4層	100	第 392 図	石匙分類概念図	152
第 351 ~ 352 図	透眼状土遺物 土器(17)~(18) 第1群7層	114	第 393 図	石匙分類別割合	153
第 353 図	透眼状土遺物 土器(19) 第1群8層	116	第 394 図	石匙石材別割合	153
第 354 図	透眼状土遺物 土器(20) 第1群9層・第2群	117	第 395 図	石鏃・打製石斧長幅相関図	155
第 355 図	透眼状土遺物 土器(21) 第2群1~第3群	118	第 396 図	石鏃重量分布	155
第 356 図	透眼状土遺物 土器(22) 第1群・第2群1層	119	第 397 図	ピエス・エスキューニ長幅相関図	155
第 357 図	透眼状土遺物 土器(23) 第2群1層	120	第 398 図	ピエス・エスキューニ重量分布	155
第 358 図	透眼状土遺物 土器(24) 第2群1~2層	121	第 399 図	不定形石器 I 類重量分布	157
第 359 図	透眼状土遺物 土器(25) 第2群2~3層	122	第 400 図	不定形石器 I 類分類概念図	157
第 360 図	透眼状土遺物 土器(26) 第2群3層	123	第 401 図	不定形石器 I 類分類別割合	157
第 361 図	透眼状土遺物 土器(27) 第2群4~6層	124	第 402 図	不定形石器 I 類石材別割合	157
第 362 ~ 369 図	透眼状土遺物 土器(28)~(35) 第2群4層	125	第 403 図	磨製石斧石材別割合	159
第 370 ~ 371 図	透眼状土遺物 土器(36)・(37) 第2群7層	133	第 404 図	石鏃分類別割合	160
第 372 図	透眼状土遺物 土器(38) 第2群7~8層	135	第 405 図	石鏃石材別割合	160
第 373 図	透眼状土遺物 土器(39) 第2群8層	136	第 406 図	石鏃重量分布	160
第 374 図	透眼状土遺物 土器(40) 第2群9層	137	第 407 図	融着器類 A 群分類基準概念図	162
第 375 図	透眼状土遺物 土器(41) 第2群1層	138	第 408 図	融着器類 A 群分類別割合	165
第 376 図	透眼状土遺物 土器(42) 第2群1~2層	139	第 409 ~ 411 図	融着器類 A 群重量分布 (I 類)~(III 類)	165
第 377 図	透眼状土遺物 土器(43) 第2群1層~第3群1層	140	第 412 図	融着器類 A 群石材別割合	167
第 378 図	透眼状土遺物 土器(44) 第3群1層~第4群	138	第 413 図	融着器類 A 群磨面幅の分布	168

第 414 図	融着器類 B 群長幅相関図	170
第 415 図	融着器類 B 群重量分布	170
第 416 図	融着器類 B 群石材別分布	171
第 417 図	半円状花崗岩質岩針測値分布	172
第 418 図	耳飾り幅分布	173
第 419 - 421 図	透眼出土遺物 石皿(1)-(3)	176
第 422 図	透眼出土遺物 石皿(4)・尖頭器(1)	179
第 423 図	透眼出土遺物 尖頭器(1)・尖頭器縁石皿・石皿(1)	180
第 424 図	透眼出土遺物 石皿(2)・石皿(1)	181
第 425 - 429 図	透眼出土遺物 石皿(2)-(6)	182
第 430 図	透眼出土遺物 石皿(1)	187
第 431 図	透眼出土遺物 石皿(2)・ピエス・エスキュー	188
第 432 - 439 図	透眼出土遺物 不定形石器 I 類(1)-(8)	189
第 440 図	透眼出土遺物 不定形石器 II 類(8)	197
第 441 図	透眼出土遺物 不定形石器 III 類(1)	198
第 442 図	透眼出土遺物 不定形石器 II 類(2)・I 類	199
第 443 図	透眼出土遺物 不定形石器 III 類・磨製石片(1)	200
第 444 図	透眼出土遺物 磨製石片(2)	201
第 445 図	透眼出土遺物 磨製石片(3)・打製石片	202
第 446 - 450 図	透眼出土遺物 石皿(1)-(5)	203
第 451 図	透眼出土遺物 石皿(4)・融着器類 A 群(1)	208
第 452 - 466 図	透眼出土遺物 融着器類 A 群(2)-(10)	209
第 467 - 472 図	透眼出土遺物 融着器類 B 群(1)-(6)	224
第 473 図	透眼出土遺物 石皿・右石皿(1)	230
第 474 図	透眼出土遺物 石皿・右石皿(2)・砥石	231

第 475 図	透眼出土遺物 磨石・石皿・石皿蓋(1)	232
第 476 図	透眼出土遺物 石皿蓋(2)	233
第 477 図	透眼出土遺物 石皿蓋(3)・磨石	234
第 478 図	住居跡平面形名称概念図	236
第 479 図	A 区南西斜面と B 区西尾根地区の遺構分布	237
第 480 図	B 区東尾根地区の遺構分布	238
第 481 図	縄文時代前期から中期初期の住居跡集積図	239
第 482 図	縄文時代前期から中期初期の住居跡最大・最小の規模	243
第 483 図	縄文時代前期後葉から中期初期の住居跡計測値分布	249
第 484 図	縄文時代中期末葉の住居跡群	252
第 485 図	土坑開口部計測値分布	256
第 486 図	土坑深さ計測値分布	256
第 487 図	形状別土坑分布図	257
第 488 図	底面に施設を有する土坑	260
第 489 図	第 II 群 3 類土器に類似する資料	266
第 490 図	第 II 群 6 類土器器形タイプとその割合	267
第 491 図	第 II 群 6 類土器の計測値	268
第 492 図	第 II 群 6・7 類土器の地文と焼遺跡との比較	269
第 493 図	第 II 群 6 類土器相互の関係	270
第 494 - 496 図	遺構共存土器(1)-(3)	276
第 497 - 501 図	縄文時代前期の土器集積(1)-(5)・279	
第 402 - 503 図	土器出土状況(1)・(2)	285
第 504 図	石皿重量分布割合	287
第 505 図	石器の器種構成割合	290

表 目 次

第 6 - 10 表	焼土遺構観察表(1) - (5)	76
第 11 表	グロッド別土器出土量	86
第 12 表	石器出土点数	146
第 13 表	石皿基部形状による分類別出土点数	149
第 14 表	石皿側面形状による分類別出土点数	149

第 15 表	石皿分類別出土点数	153
第 16 表	不定形石器 I 類分類別出土点数	157
第 17 表	石皿分類別出土点数	160
第 18 表	融着器類 A 群分類別出土点数	165
第 19 表	融着器類 B 群分類別出土点数	169

第 20 表	時期別住居跡検出数	236
第 21 表	縄文時代前期から中期初頃の住居跡の傾向	247
第 22 表	扁平な自然礫を伴う住居跡	248
第 23 表	大形・中形住居跡	250
第 24 表	大形の土坑	258

第 25 表	陥し穴分類表	261
第26～28表	竪穴住居跡一覧表(1)～(3)	320
第29・30表	土坑一覧表(1)・(2)	323
第31～55表	不登載石器一覧表	325

2. 土坑

IVD 8 c 土坑 (遺構番号201)

遺構 (第290図、写真図版106)

A区南斜面に位置する。第Ⅲ層暗褐色土層上面で検出した。平面形は小判形で、長軸方向はN-36°-Eである。規模は開口部径120×140cm、底部径70×115cm、深さ65cmである。壁土は第Ⅲ層暗褐色土～第Ⅴ層暗褐色土で、ほぼ直立する。埋土は4層に分けられ、人為堆積の様相を示す。底面は平坦で、ほぼ水平である。遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

IVD 0 c 土坑 (遺構番号202)

遺構 (第290図、写真図版106)

A区南斜面に位置する。IVD 0 c 住居跡の埋土を切って構築される。平面的な検出ができず、同住居の精査時に土層断面を確認できた。平面形は円形で、壁は直立気味に立ち上がった後大きく外反する。規模は開口部径100×102cm、底部径80×86cm、深さ72cmである。埋土は4層に分けられ、IVD 0 c 住居跡の炉の焼土が鍋状に流れ込んで堆積している。自然堆積と考えられる。底面は平坦で、ほぼ水平である。遺物は、重複する住居跡の遺物として取り上げた可能性はあるが、本遺構に属するものはない。

時期 検出面・重複関係・埋土から、縄文時代に属するものと推定される。

VD 1 d 土坑 (遺構番号203)

遺構 (第290図、写真図版106)

A区南斜面に位置する。暗褐色土層上面で、黒褐色土の落ち込みとして検出した。平面形は円形で、断面形は開口部で外反するフラスコ状である。壁土は上位は崩れやすい暗褐色土、下位は基盤層である黄褐色土である。規模は、開口部径115cm、底部径115cm、頸部径105cm、深さ60cmである。上位は黒褐色土、中位は黒色土が堆積し、下位と壁際は崩落土を混入する。自然堆積の様相を示す。底面は大きくうねるような凹凸があり、最大比高20cmである。

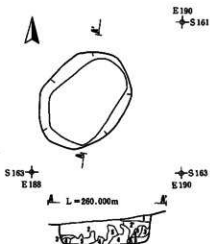
遺物 埋土上位から、LR単節斜縄文と無文の縄文土器片2点出土している。図示は割愛した。

時期 検出面・形状・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

VID 8 d 土坑 (遺構番号204)

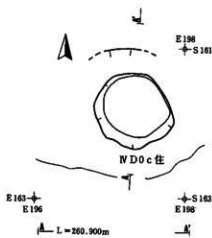
遺構 (第290図、写真図版107)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は歪な円形で、壁は



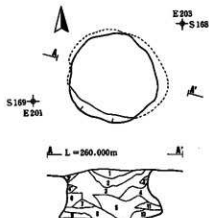
1. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。黄褐色土を粒状に含む。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりあり。灰質褐色土、黄褐色土を含む。
- 2'は、2層よりやや明るい。
3. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。黄褐色土、褐色土を含む。
4. 10Y R% 褐色土 しまりあり。下位に黄褐色土をブロック状に含む。
5. 10Y R% 褐色土 しまりあり。黒褐色土をブロック状に含む。
6. 10Y R% 黄褐色土 しまりあり。黒褐色土をブロック状に含む。

ND#c土坑



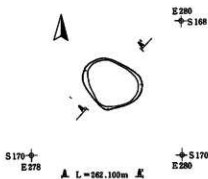
1. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。
2. 7.5Y R% 黒褐色土 しまりなし。炭化物、褐色土、暗褐色土を含む。
3. 7.5Y R% 黒褐色土 しまりなし。炭化物、暗褐色土を含む。
4. 7.5Y R% 黒褐色土 ややしまりあり。下位に褐色土を少量含む。
5. 7.5Y R% 暗褐色土 固さ不均一。褐色土を含む。
6. 7.5Y R% 褐色土

ND#e土坑



1. 7.5Y R% 黒褐色土 粘土質土。しまりあり。
2. 7.5Y R% 黒褐色土 しまりあり。
3. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。褐色土をブロック状に含む。
- 3'は、褐色土を含む。
4. 7.5Y R% 黒褐色土 しまりなし。暗褐色土を粉末状に含む。
- 4'は、4層より褐色土が多い。
5. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。下位に褐色土を含む。
6. 7.5Y R% 黒褐色土 しまりなし。褐色土を粉末状に含む。
7. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。褐色土を粉末状に多く含む。
8. 7.5Y R% 黒褐色土 しまりなし。褐色土を粉末状に多く含む。
9. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。褐色土を粉末状に多く含む。
10. 7.5Y R% 明褐色土 中央部に褐色土を含む。
11. 7.5Y R% 黒褐色土

VD1d土坑



1. 7.5Y R% 暗褐色土 ややしまりあり。黄褐色土を含む。
2. 10Y R% 黒褐色土 しまりあり。褐色土をブロック状に含む。
3. 10Y R% 褐色土 ややしまりあり。

VD#d土坑



第290図 土坑 (1)

ほぼ直立する。規模は、開口部径60×80cm、底部径57×70cm、深さ20cmである。埋土は、暗褐色土を主体とする。底面は、北東四半部にやや傾斜する。遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

VI D 7 e 土坑 (遺構番号205)

遺構 (第291図、写真図版107)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は歪な円形で、断面形はフラスコ状となる。規模は、開口部径110cm、底部径124×130cm、深さ70cmである。埋土は、黒色土を主体とする。底面は、南西方向にやや傾斜する。遺物は出土していない。

時期 検出面・形状から縄文時代に属するものと推定される。

VI D 7 i 土坑 (遺構番号206)

遺構 (第291図、写真図版107)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は小判形で、長軸方向はN-40°-Wである。東壁はほぼ直立し、西壁は外傾する。規模は、開口部径65×117cm、底部径33×70cm、深さ26cmである。埋土は、5層に分けられるが、3、4、5層は崩落土を含む。底面は、凹凸があり、灰が付着している。

遺物 (第312図、写真図版220図)

1274は土器底面であるが木葉痕が観察される。主葉脈が深く残る。本遺跡では木葉痕は稀有である。他に縄文土器が2片出土している。

時期 検出面・出土土器から縄文時代に属するものと推定される。

VI D 8 a 土坑 (遺構番号207)

遺構 (第291図、写真図版107)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径70cm、底部径55cm、深さ22cmである。埋土は、黒褐色土を主体に、崩落土を僅かに含む。底面は、ほぼ平坦である。

遺物 埋土から縄文前期の土器の底部破片が2点出土しているが、図示は割愛した。

時期 検出面・出土土器から縄文時代に属するものと推定される。

VID 8 a-2 土坑 (遺構番号208)

遺構 (第291図、写真図版108)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、壁はやや外傾する。規模は、開口部径80cm、底部径70cm、深さ14cmである。埋土は、黒褐色土を主体に、崩落土を僅かに含む。底面は、ほぼ平坦である。VID 8 a土坑と埋土・形状が類似し、同時期で同性格のものかと考えられる。遺物は出土していない。

時期 検出面・埋土から縄文時代に属するものと推定される。

VID 8 e土坑 (遺構番号209)

遺構 (第291図、写真図版108)

西尾根南麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径75×85cm、底部径65×77cm、深さ16cmである。埋土は黒褐色土の単層である。底面は、基盤層である黄褐色土でやや東側に傾斜する。遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

VID 8 h土坑 (遺構番号210)

遺構 (第292図、写真図版108)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、西壁はほぼ直立、東壁はやや内傾気味である。規模は、開口部径107×115cm、底部径90×100cm、深さ38cmである。埋土は、黒褐色を主体に、崩落土を僅かに含む。底面は、中央部がやや窪む。

遺物 (第312図、写真図版220)

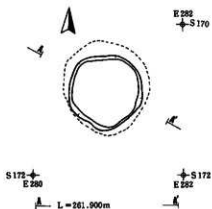
埋土から1275が1点出土したのみである。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

VID 9 e土坑 (遺構番号211)

遺構 (第292図、写真図版108)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は小判形で、長軸方向はN-60°-Wである。壁は、一部オーバーハング気味になる部分もあるが、ほぼ直立する。規模は、開口部径125×230cm、底部径115×220cm、深さ33cmである。埋土は、黒褐色土を主体とするが、全体に焼土粒を含み固く締まっていて、VID 8 e住居跡の埋土に酷似する。底面は、ほぼ水平で平坦である。



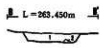
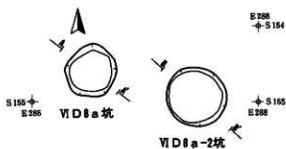
1. 7.5Y R 5/6 黒褐色土 ややしまりあり、小角礫を含む。
2. 10Y R 5/6 黒褐色土 黒色土を含む。
3. 10Y R 5/6 黒褐色土 固くしまっている。
4. 10Y R 5/6 黒褐色土 ややしまり。黒色土を含む。

VID7e 土坑



1. 10Y R 5/6 黒褐色土 ややしまりあり。草木根あり。
2. 10Y R 5/6 黒褐色土 ややしまりあり。黄褐色土を含む。
3. 10Y R 5/6 暗褐色土
4. 10Y R 5/6 黒褐色土 しまりあり。黒色土、黄褐色土(崩落土)を含む。
5. 10Y R 5/6 黒褐色土 しまりなし。黄褐色土を粒状に含む。

VID7i 坑



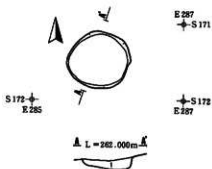
A...A'

1. 7.5Y R 5/6 黒褐色土 ややしまりあり。黒色土をブロック状に含む。
2. 10Y R 5/6 黒褐色土 ややしまりあり。崩落土。
3. 10Y R 5/6 黒褐色土 しまりなし。黒色土を含む。

B...B'

1. 7.5Y R 5/6 黒褐色土 しまりあり。黄褐色土(崩落土)を含む。
2. 10Y R 5/6 暗褐色土 しまりなし。黄褐色土(崩落土)を含む。

VID8e 土坑・VID8a-2 土坑



1. 10Y R 5/6 黒褐色土 しまりあり。黄褐色土粒を含む。

VID8e 土坑



遺物 (第312図、写真図版221)

1277は組縄縄文に類似する。図示した他に、埋土から木目状然糸文、単節斜縄文など縄文時代前期の土器小片20点程 (230g)が出土した。

時期 検出面・埋土から縄文時代前期に属するものと推定される。

VID 0 b 土坑 (遺構番号212)

遺構 (第292図、写真図版109)

西尾根西斜面に位置する。暗褐色土層下位で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-4°-Wである。規模は開口部径102×150cm、底部径78×124cm、深さ24cmである。壁土は黄褐色土と暗褐色土の混土で、やや外傾する。埋土は3層に分けられるが、小角礫を混入する暗褐色土を主体とする。底面は、中央部がやや窪み、全体として斜面に沿って傾斜する。遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

VID 0 d 土坑 (遺構番号213)

遺構 (第292図、写真図版109)

西尾根南西斜面に位置する。暗褐色土層で検出した。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径105cm、底部径95cm、深さ50cmである。埋土は、締まりを欠く黒褐色土を主体とする。底面は、基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。

遺物 埋土から、LR単節斜縄文の縄文土器片が7点(105g)出土している。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

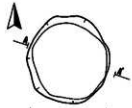
VID 0 e 土坑 (遺構番号214)

遺構 (第293図、写真図版109)

西尾根南麓の斜面から平坦部への傾斜変換点に位置する。黄褐色土と黒褐色土の混土層上面で検出した。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径90cm、底部径85cm、深さ17cmである。埋土は黒褐色土の単層で、部分的に暗褐色土ブロックが混入する。底面は基盤層である黄褐色土で、固く締まっている。平坦で、ほぼ水平である。遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

E 286
 + S 188



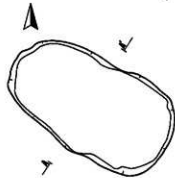
S 190 + E 286
 + S 100 + E 286



1. 7.5Y R% 黒褐色土 ややしりあり。黒色土を含む。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 しりあり。黄褐色土を粒状に含む。
3. 7.5Y R% 黒色土 しりなし。
4. 7.5Y R% 黒色土 しりなし。黒色土を粒状に含む。
5. 7.5Y R% 黒色土 ややしりあり。

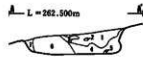
VID8h 土坑

E 295
 + S 170



S 173 + E 291

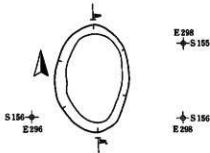
+ S 178 + E 293



1. 10Y R% 黒褐色土 しりあり。黄褐色土、焼土粒をまばらに含む。
2. 10Y R% 暗褐色土 ややしりあり。焼土アロップ。
3. 10Y R% 黒色土 しりあり。やんばらを受けている。
4. 10Y R% 暗褐色土 しりあり。黄褐色土粒、焼土粒、炭化物をわずかに含む。
5. 10Y R% 黄褐色土 しりあり。
6. 10Y R% 黒褐色土 しりあり。炭化物を粒状に含む。
7. 10Y R% 黒色土 しりあり。

VID9e 土坑

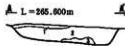
E 296
 + S 167



E 298
 + S 155

S 156 + E 296

+ S 156 + E 298



1. 7.5Y R% 黒色土 しりなし。小角礫を含む。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 しりあり。小角礫を含む。
3. 10Y R% 暗褐色土 固くしまっている。

VID8b 土坑



S 169 + E 295

+ S 169 + E 296



1. 7.5Y R% 黒褐色土 しりなし。黒色土と褐色土との混土。
2. 7.5Y R% 暗褐色土

VID8d 土坑



第292図 土坑(3)

VID 0 g 土坑 (遺構番号215)

遺構 (第293図、写真図版109)

西尾根南麓に位置する。VID 0 g 住居跡の床下から検出した。本土坑の埋土上位が、同住居の炉の焼成をうけていることから、本土坑の方が同住居に先行すると考えられる。

平面形は、長軸が斜面に平行する楕円形で、その方向はほぼ東西方向と一致する。壁は西壁が緩やかに立ち上がるが、他はほぼ直立する。規模は開口部径 110 × 155 cm、底部径 90 × 130 cm、深さ 20 cm である。埋土は黒褐色土による単層で、微細な炭化物を少量含む。底面は基盤層である黄褐色土で、中央部がやや下がるほか、南側は凹凸がある。

遺物 埋土から縄文時代前期の土器片が出土している。

時期 重複関係・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。

VID 0 g-2 土坑 (遺構番号216)

遺構 (第293図、写真図版110)

西尾根南麓に位置する。VID 0 g 住居跡の床面に形成された焼土の下の面から検出された。検出状況から、本土坑の方が同住居に先行する。

平面形は、長軸が斜面に平行する不整な楕円形状で、その方向は N-82°-W である。壁は北壁と西壁は緩やかに立ち上がるが、他はほぼ直立する。規模は開口部径 90 × 170 cm、底部径 70 × 135 cm、深さ 15 cm である。埋土は締まりある黒褐色土による単層で、微細な炭化物と焼土粒を少量含む。底面は基盤層である黄褐色土で、凹凸がある。

遺物 埋土から縄文時代前期の土器片が出土している。

時期 重複関係・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと考えられる。

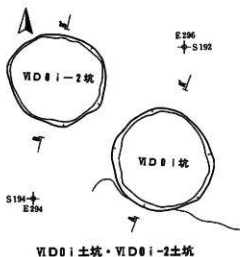
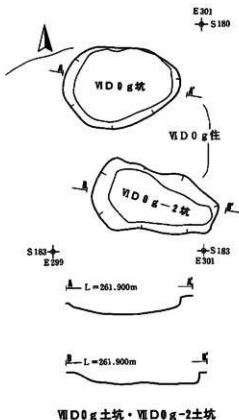
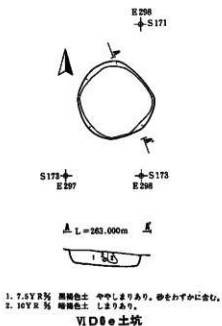
VID 0 i 土坑 (遺構番号217)

遺構 (第293図、写真図版110)

西尾根南麓の平坦部に位置する。VID 0 i 住居跡とごく一部で重複する。本土坑が同住居を切っていることが検出時に確認されており、本土坑の方が新しい。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径 135 cm、底部径 120 cm、深さ 24 cm である。上位から黒色土、黒褐色土、褐色土と変移する。これは VID 0 i 住居跡の埋土と酷似する。第3層には炭化物の細片を含む。自然堆積と考えられる。底面は、基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。

遺物 (第312図、写真図版220)

埋土から1279の他、縄文時代前期の網目状縻糸文の土器小片4点、縄文後～晩期の土器小片が1点出土している。



1. 10YR 6 黄褐色土 ややしまりあり。黄褐色土粒を含む。
1'は、1層に炭化物を含み黄褐色が強い。
2. 10YR 6 暗褐色土 ややしまりあり。暗褐色土をブロック状に含む。
3. 10YR 6 暗褐色土 しまりなし。黄褐色土との混土。
4. 10YR 6 黄褐色土 ややしまりあり。黄褐色土を盛かに含む。
5. 10YR 6 黄褐色土 しまりなし。黄褐色土を含む。



1. 10YR 6 黄褐色土 ややしまりあり。黄褐色土粒をわずかに含む。
2. 10YR 6 黄褐色土 ややしまりあり。黄褐色土を小ブロックで含む。
3. 10YR 6 黄褐色土 ややしまりあり。黄褐色土粒をわずかに含む。
4. 10YR 6 暗褐色土 しまりなし。黄褐色土。黄褐色土を含む。
5. 10YR 6 黄褐色土 しまりなし。黄褐色土。

第293図 土坑(4)

時期 検出面・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

VID 0 i - 2 土坑 (遺構番号218)

遺構 (第293図、写真図版110)

西尾根南西麓の平坦部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径 125 cm、底部径 120 cm、深さ 30 cm である。埋土は、黒色土、黒褐色土を主体とし、壁際に崩落土を含む。底面は、基盤層である黄褐色土でほぼ水平で、平坦である。

遺物 縄文時代前期の土器片が10数点出土している。

時期 VID 0 i 土坑と、形状・規模・埋土・位置が類似し、同じ性格を有するものと思われ、検出面・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

VIC 6 g 土坑 (遺構番号219)

遺構 (第294図、写真図版110)

西尾根西斜面に位置する。VIC 6 g 住居跡の床面下から検出された。埋土と壁の大部分は、同住居によって切られ、遺存状況は悪い。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径 160 cm、底部径 150 cm、深さ 17 cm である。埋土は、褐色土と、細かい炭化物をブロック状に含む明黄褐色土による単層である。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。ほぼ中央部に粉炭がこくうすく、34×38 cm の楕円形状に分布する。

遺物 床面から、縄文時代前期の R L 単節斜縄文と縦位の綾絡文を有する土器小片、多軸絡糸体を原体とする土器小片が出土している。

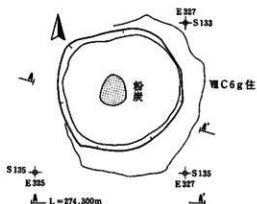
時期 重複関係・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

VIC 6 g - 2 土坑 (遺構番号220)

遺構 (第294図、写真図版110)

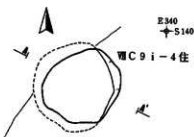
西尾根西斜面に位置する。本土坑の北側で VIC 6 g 住居跡によって切られ、南側は倒木痕による攪乱を受けており、東西壁のみ残存する。そのため平面形は不明である。規模は、東西方向は開口部 84 cm、底部 70 cm、南北方向は残存値で 64 cm である。深さは 40 cm である。埋土は 3 層に分かれる。上層には細かい炭化物を含む。第 2 層・第 3 層には小さい角礫を含む。いずれも締まりを欠く。底面は基盤層で、ほぼ水平である。遺物は出土していない。

時期 検出面・重複関係から縄文時代前期に属するものと推定される。

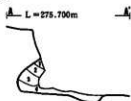


1. 10Y R% 明褐色土 褐色土、炭化物を含む。

VII C 6 g 土坑

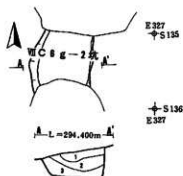


S 142 E 338 S 142 E 340



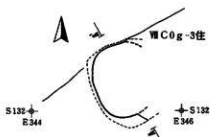
1. 10Y R% 明黄褐色土 しまりあり、小角礫を含む。
 2. 10Y R% 黄褐色土 しまりなし、小角礫を含む。
 3. 10Y R% 黄褐色土 しまりなし。
 4. 10Y R% にぶい黄褐色土 しまりなし。

VII C 8 i 土坑



1. 10Y R% 褐色土 しまりなし、炭化物、小角礫を少量含む。
 2. 10Y R% 明黄褐色土 しまりなし、小角礫を含む。
 3. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし、小角礫を多く含む。

VII C 8 g - 2 土坑



1. 10Y R% 黄褐色土 しまりなし、小角礫を少量含む。
 2. 10Y R% 明黄褐色土 しまりなし、小角礫を少量含む。
 3. 10Y R% にぶい黄褐色土 しまりなし、小角礫を少量含む。
 4. 10Y R% にぶい黄褐色土 しまりなし、小角礫を多く含む。
 5. 10Y R% 黄褐色土 しまりなし、小角礫を少量含む。
 6. 10Y R% 明黄褐色土 しまりなし、小角礫を少量含む。
 7. 10Y R% 褐色土 しまりなし、小角礫を多く含む。

VII C 8 g 土坑



第294図 土坑(5)

ⅦC 8 i 土坑 (遺構番号221)

遺構 (第294図、写真図版111)

西尾根頂部から東斜面への変換点に位置する。ⅦC 9 i - 4 住居跡の床面下と西壁から検出された。同住居に東側の埋土と壁の大半を壊され、遺存状況は悪い。平面形は円形で、断面形はフラスコ状である。規模は、開口部径は推定で90cm、頸部径は推定で60cm、底部径 120cm、深さ92cmである。埋土は、残存部で4層確認できた。基盤層起源の黄褐色土を主体とし、自然堆積の様相を示す。底面は基盤層で、ほぼ水平で平坦である。

遺物 (第312図、写真図版220)

1280・1281の他、埋土から縄文時代前期の網目状捺糸文、木目状捺糸文の土器小片が出土している。

時期 検出状況・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦC 9 g 土坑 (遺構番号222)

遺構 (第294図、写真図版111)

西尾根頂部から東斜面への変換点に位置する。ⅦC 0 g - 3 住居跡の床面下および西壁で検出された。本土坑の南東四半部は同住居によって壊されており、詳細は不明であるが、平面形は円形と推定され、断面形はフラスコ状である。規模は、残存部から開口部径 100 cm、底部径 120 cm、頸部径90cm前後と推定される。深さは60cmである。埋土は7層に分けられるが、いずれも小角礫を含み、締まりを欠く。自然堆積と思われる。底面はうねるような凹凸がある。

遺物 埋土から、縄文時代前期の網目状捺糸文、縦位の綾絡文、単筋斜縄文の土器小片が出土している。

時期 重複関係・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦC 9 i 土坑 (遺構番号223)

遺構 (第295図、写真図版127)

<検出状況>ⅦC 9 i - 4 住居跡の床面精査で検出された。平面形は不整な楕円形状で、規模は開口部径 140 × 193 cm、底部径 115 × 180 cm、深さ14cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土からなり粉炭を含む。底面は基盤層で固く、やや凹凸がある。焼土が、北西壁寄りに位置する。50×73cmの不整形の範囲に分布し、厚さは最大8cmである。

遺物 焼土内から横位の綾絡文の土器片が出土しているが小片のため図示は割愛した。

時代 重複関係・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦC 9 j 土坑 (遺構番号224)

遺構 (第295図、写真図版111)

西根根東斜面に位置する。ⅦC 9 j 住居跡、ⅦC 9 j - 2 住居跡と重複する。ⅦC 9 j 住居跡の精査時にその床面と北壁で検出した。断面図をとることができなかったが、本土坑が同住居に先行すると観察された。また、ⅦC 9 j - 2 住居跡との関係では、平面で本土坑の方が新しいことを確認している。平面形は歪な円形で、壁はやや外傾する。規模は、開口部径 104 × 110 cm、底部径 85 × 94 cm、深さ 30 cm である。埋土は、4 層に分けられる。

遺物 (第312図、写真図版220)

土器は、埋土から木目状燃糸文、網目状燃糸文、横位羽状縄文 (第1種結束) の小破片が出土している。石器は1282の1点のみの出土である。

時期 重複関係・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦC 0 i 土坑 (遺構番号225)

遺構 (第295図、写真図版111)

西根根東斜面の急傾斜部から緩斜面への変換点に位置する。検出面は表土直下で基盤層上面である。平面形は円形で、壁は斜面上方に当たる北側がややオーバーハングし、他はほぼ直立する。規模は開口部径 128 cm、底部径 125 cm、深さ 24 cm である。埋土は 4 層に分けられるが、第 2 層には粉炭を少量含み、第 3 層には焼土粒が混入する。底面中央部に、幅 10~25 cm、深さ 5~14 cm の溝が、斜面に沿って北西から南東方向に走る。東壁際には、20 × 34 cm の楕円形状に焼土が検出された。底面は焼成を受けておらず、異地性のものと観察された。焼土は 5 YR 5 / 8 の明赤褐色で、褐色土と粉炭が混入している。

遺物 埋土から縄文時代前期の網目状燃糸文の土器小片が1点出土しているが図化は省略した。

時期 出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

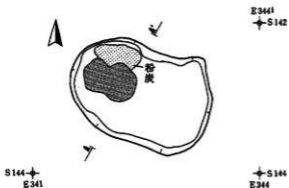
ⅦC 0 j 土坑 (遺構番号226)

遺構 (第295図、写真図版112)

西根根東斜面に位置する。検出面は表土直下で、基盤層上面である。平面形は円形で、壁はやや外反気味にほぼ直立する。規模は、開口部径 175 cm、底部径 150 cm、深さ 32 cm である。埋土は 5 層に分けられる。第 2 層・第 3 層には粉炭を少量含む。第 4 層・第 5 層は崩落土を主体とする。底面はほぼ水平で平坦である。

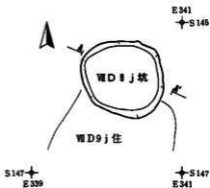
遺物 (第312図、写真図版220)

埋土上位より、縄文時代前期の綾絡文、木目状燃糸文の土器小片が出土している。石器は 1

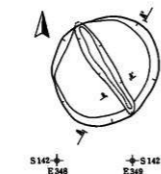


1. 10 Y R % 暗褐色土 しまりなし。粉炭を含む。草木根多い。
2. 10 Y R % 黄褐色土 しまりなし。小角礫。粉炭を少量含む。
3. 5 Y R % 暗赤褐色土 焼土。
4. 10 Y R % 暗褐色土 しまりなし。粉炭をわずかに含み。小角礫を多く含む。
5. 10 Y R % 暗褐色土 しまりなし。粉炭をわずかに含み。小角礫を多く含む。

VI C 9 i 土坑



VI C 9 j 土坑



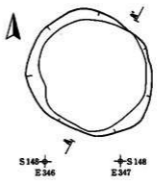
A...A'

1. 10 Y R % 暗褐色土 しまりなし。
2. 10 Y R % 黄褐色土 しまりなし。炭化物を少量。小角礫を多く含む。
3. 10 Y R % 暗褐色土 しまりなし。焼土。小角礫を少量含む。
4. 10 Y R % 褐色土 しまりなし。砂を含む。

a...a'

1. 10 Y R % 灰黄褐色土 しまりなし。
2. 10 Y R % 灰黄褐色土 しまりなし。小角礫を少量含む。

VI C 8 i 土坑



1. 10 Y R % におい黄褐色土 しまりなし。炭化物を少量含む。
2. 10 Y R % 暗褐色土 しまりなし。炭化物。小角礫を含む。
3. 10 Y R % 褐色土 しまりあり。炭化物を少量含む。
4. 10 Y R % 黄褐色土 しまりなし。暗褐色土を弱状に。小角礫を含む。
5. 7.5 Y R % におい黄褐色土 しまりあり。小角礫を多く含む。

VI C 8 j 土坑



点のみの出土である。1284は側面観がやや鋸歯状を呈する。

時期 出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD1e土坑 (遺構番号227)

遺構 (第296図、写真図版112)

西尾根南斜面から平坦部への傾斜変換点に位置する。ⅧD1e住居跡の床面で検出した。同住居の付属施設の可能性もあり得るが、同住居の埋土と異なること、非常に固く締まっていることから、独自の遺構と認定した。南側の壁は斜面のため流失している。平面形は隅丸方形で、壁はやや外傾する。規模は東西方向の開口部155cm、底部144cmである。南北方向は残存値で、130cm程度である。深さは14cmである。埋土は5層に分けられるが、黒褐色土と暗褐色土を主体とし、いずれも固く締まっている。底面は、ほぼ平坦であるが、斜面に沿ってやや傾斜し、最大比高4cmである。底面に腰が2個あるが、使用痕・加工痕は観察されない。

遺物 (第313図、写真図版220)

埋土から、横位の羽状縄文、鋸歯状沈線、単節斜縄文の土器小片が出土しているが図化に耐えないものであり省略した。1285は磨面の両側面も平滑に調整されている。

時期 重複関係から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD1f土坑 (遺構番号228)

遺構 (第296図、写真図版112)

西尾根南麓の平坦部に位置する。黒褐色土と黄褐色土の混土层で検出した。南側でⅧD1g住居跡と重複する。検出面および埋土観察から本土坑の方が新しいと考えられる。平面形は歪な円形で、断面形はややフラスコ状となる。規模は、開口部径105×115cm、底部径97×117cm、深さ67cmである。埋土は上位は黒色土、下位は黒褐色土で、中位に崩落土を混入する。底面は基盤層でやや中央部が窪む。

遺物 (第313図、写真図版220)

1286の1点のみ図示した。他に縄文時代前期の単節斜縄文土器小片が10数点出土している。

時期 検出面・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD1g-2土坑 (遺構番号229)

遺構 (第296図、写真図版112)

西尾根南麓斜面に位置する。ⅧD1g-2住居跡の床面で、黒褐色土の長方形プランとして検出した。本土坑は同住居の地床炉の直下に位置し、同住居に先行することは明らかである。

平面形は、隅丸長方形で、壁はやや外傾する。規模は、開口部で106×172cm、底部で84×144cm、深さ26cmである。埋土は7層に分けられるが、第3層の暗褐色土を主体とする。全体に粉炭が混入する。上位の第1層・第4層はⅧD1g-2住居跡の炉からの熱をうけた痕跡がある。底面は基盤層で、ほぼ水平で凹凸は殆どない。

遺物 (第313図、写真図版221)

埋土中位から縄文時代前期の土器片と炭化物および不定形石器が検出された。土器は、捻糸文・LR単節・木目状捻糸文のそれぞれ地文のみの土器小片、および図示した底部で、計6点である。1287は、胴部は残存部が少なく文様(地文)は明らかではない。網目状捻糸文かと思われる。底部にはLRによる縄文と、その片結びによる綾絡文が施文されている。本遺跡では底部への施文は希である。

時期 重複関係・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD2e土坑 (遺構番号230)

遺構 (第296図、写真図版113)

西尾根南西斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層上面で検出した。南側は斜面のため流失している。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-30°-Eである。壁は全体にやや外傾する。規模は、短軸方向で開口部110cm、底部78cm、長軸方向は残存値で170cmである。深さは、北壁際で36cmである。埋土は3層に分けられる。斜面下方は基盤層起源の黄褐色土である。底面は斜面に沿って大きく傾斜し、斜度17°となる。北壁際と南側の最大比高46cmである。凹凸は少ない。副穴状の施設が北西隅よりに検出された。規模は15×25cm、深さ15cmである。性格は不明である。

遺物 (第313図、写真図版221)

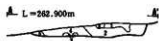
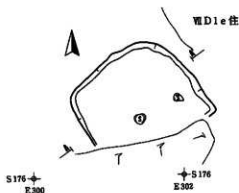
埋土から、1289の他、縄文時代前期に属する網目状捻糸文・捻糸文・櫛歯状沈線・羽状縄文・LR単節斜縄文の土器小片が出土している。

時期 出土遺物・検出面から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD2g土坑 (遺構番号231)

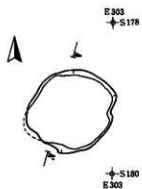
遺構 (第297図、写真図版113)

西尾根南麓の平坦部に位置する。ⅧD3g住居跡の床面で、基盤層を掘り込んだ黒褐色土の円形のプランとして検出された。ⅧD3g住居跡の焼土の下に位置することから、本土坑は同住居に先行する。平面形はやや歪な円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径174×200cm、底部径156×170cmで、深さは40cmである。埋土は3層に分けられるが、第2層黒褐色土



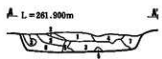
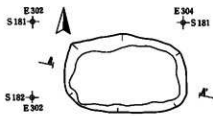
1. 10Y R% 暗褐色土 固くしまっている。
2. 10Y R% 黄褐色土 極めて固くしまっている。炭化物を含む。
3. 10Y R% 褐色土 固くしまっている。
4. 10Y R% 暗褐色土 極めて固くしまっている。小角礫を含む。しまりあり。
5. 10Y R% 褐色土 しまりあり。

VII D1e 土坑



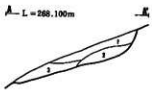
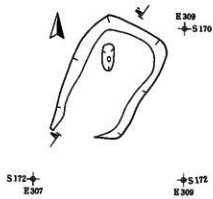
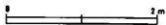
1. 10Y R% 褐色土 しまりあり。草木根を含む。
2. 10Y R% 暗褐色土 しまりあり。腐落土。
3. 10Y R% 黄褐色土 しまりあり。腐落土。
4. 10Y R% 黄褐色土 ややしまりあり。褐色土を含む。

VII D1f 土坑



1. 10Y R% 暗褐色土
2. 10Y R% 黄褐色土
3. 10Y R% 暗褐色土
4. 7.5Y R% 褐色土 赤褐色土を含む。
5. 10Y R% 黄褐色土 粘土質土。
6. 10Y R% 褐色土
7. 7.5Y R% 暗褐色土

VII D1g-2 土坑



1. 10Y R% 褐色土 しまりなし。
2. 10Y R% 暗褐色土 しまりあり。
3. 10Y R% 黄褐色土 しまりあり。腐落土。

VII D2e 土坑

を主体とする。底面はほぼ水平で平坦である。

遺物 (第313図、写真図版221)

埋土から、1290・1291のほか組縄文 (7点)、木目状燃糸文 (1点)、横位の綾結文 (1点)の各土器小片が出土しているがいずれも図化に耐えないので割愛した。

時期 重複関係から、縄文時代前期に属するものと考えられる。

ⅦD 2 h 土坑 (遺構番号232)

遺構 (第297図)

西尾根南麓の平坦部に位置する。ⅦD 2 h-2 住居跡の床面で検出した。同住居は耕作により削剥されており、埋土で新旧関係を把握することはできなかった。本土坑の埋土最上位には明黄褐色粘土が貼られていることから、同住居による貼り床ととらえ、本土坑は同住居に先行すると考えた。

平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径72×80cm、底部径58×66cm、深さ70cmである。埋土は5層に分けられるが、第1層・第4層は現在ⅦD 2 h-2 住居跡周辺にはない粘土であり、堆積状況も人為的な埋め戻しの様相を示している。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。底面中央部に、副穴が位置する。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 3 e 土坑 (遺構番号233)

遺構 (第297図、写真図版113図)

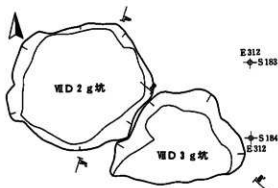
西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。平面形は、長軸が斜面に直交する小判形で、その方向はN-34°-Eである。壁はやや外傾する。規模は、開口部径63×82cm、底部径32×57cm、深さ29cmである。埋土は3層に分けられる。全体に締まりを欠き、上位には微細な炭化物を含む。底面は基盤層である黄褐色土で、平坦だが斜面に沿ってやや傾斜し、比高最大値11cmである。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

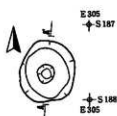
ⅦD 3 g 土坑 (遺構番号234)

遺構 (第297図、写真図版113)

西尾根南麓の平坦部に位置する。ⅦD 3 g 住居跡の床面において、黒褐色土の半円形のプランとして、ⅦD 2 g 土坑と同時に検出した。南側は斜面下方のため流失している。平面形は不整形で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は最大値で、開口部158cm、底部96cm、深さ36cmである。



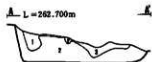
ⅧD2g土坑・ⅧD3g土坑



ⅧD2h土坑



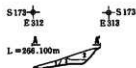
- L=261.200m
1. 7.5YR% 暗褐色土 粘土
 2. 7.5YR% 赤色土
 3. 7.5YR% 褐色土
 4. 7.5YR% 暗褐色土
 5. 7.5YR% 暗褐色土



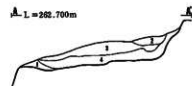
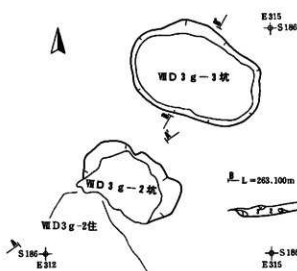
- L=262.700m
1. 7.5YR% 褐色土 しまりあり、黄褐色土を含む。
 2. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり、炭化物・小角礫を含む。
 3. 7.5YR% 暗褐色土 固くしまっている。小角礫を含む。



ⅧD3e土坑



- S173
E312
S173
E313
L=206.100m
1. 10YR% 褐色土 しまりなし。炭化物を含む。
 2. 10YR% 暗褐色土 しまりなし。炭化物を少量含む。
 3. 10YR% 褐色土 しまりなし。



- L=262.700m
- A...A'
1. 7.5YR% 褐色土 しまりなし。黄褐色土を含む。
 2. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。炭化物、小角礫を含む。
 3. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。
 4. 7.5YR% 褐色土-暗褐色土。



- L=263.100m
- B...B'
1. 7.5YR% 褐色土 粘土質土。
 2. 7.5YR% 暗褐色土
 3. 7.5YR% 褐色土
 4. 7.5YR% 暗褐色土 粘土質土。

ⅧD3g-2土坑・ⅧD3g-3土坑



第297図 土坑(8)

埋土は、ⅧD 2 g 土坑とおなじ7.5YR3/2黒褐色土で粉炭を含む。底面は基盤層でやや凹凸がある。遺物は出土していない。

時期 検出面・埋土から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD 3 g-2 土坑 (遺構番号235)

遺構 (第297図)

西尾根南麓の平坦部に位置する。ⅧD 3 g-4 住居跡の床面において検出した。検出時に平面プランは明瞭でなく、底面からの立上がりによって平面形をとらえた。南側は斜面のため流失していて、構築時の平面形は不明である。残存形は、歪な楕円形状で長軸方向はN-47°-Wである。壁は緩やかに立ち上がる。規模は、長軸方向の開口部140cm、底部100cmである。短軸方向は、残存値で80cmである。埋土は上位は黒褐色土、下位は黒色土を主体とし、固く締まっている。底面は、基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。

遺物 埋土からR L縦・多軸結条体・重層する横位綾結文の縄文時代前期の土器片が出土している。

時期 重複関係・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD 3 g-3 土坑 (遺構番号236)

遺構 (第297図、写真図版114)

西尾根南麓の平坦部に位置する。ⅧD 3 g-3 住居跡の床面で検出した。同住居と埋土が異なること、同住居の北壁より外側までをその範囲とすることなどから、同住居に伴うものでなく、それに先行する遺構と考えられる。

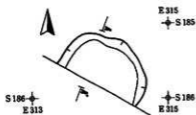
平面形は楕円形で、長軸方向はN-63°-Wである。壁は緩やかに立ち上がる。規模は、開口部径126×196cm、底部径100×180cm、深さ14cmである。埋土は粉炭を含む黒褐色土を主体とし、暗褐色土・褐色土ブロックが混入する。底面は基盤層である黄褐色土で、凹凸はなく平坦であるが、斜面に沿ってやや傾斜し、比高最大値12cmである。遺物は出土していない。

時期 重複関係から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD 3 h 土坑 (遺構番号237)

遺構 (第298図、写真図版113)

西尾根南斜面に位置する。道路により南側を削削されている。小角礫を含む暗褐色土層中に極暗褐色の落ち込みとして検出した。南側が不明であるが、平面形は円形ないし小判形と推定される。規模は、東西方向は、開口部116cm、底部100cmで、南北方向は残存値で70cmである。

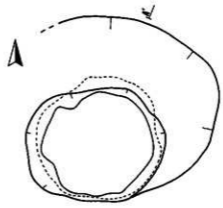


L = 263.700m

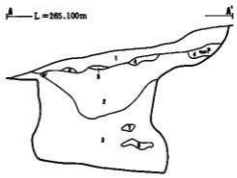


1. 7.5Y R% 暗褐色土 固くしまっている。
2. 7.5Y R% 暗褐色土

VII D3h 土坑

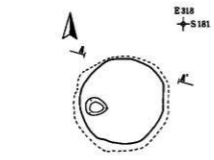


L = 265.100m



1. 7.5Y R% 褐色土 しまりあり。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりあり。小角礫を含む。
3. 10Y R% 褐色土 しまりあり。小角礫を含む。
4. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。
5. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。
6. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。
7. 10Y R% 褐色土 しまりあり。
8. 10Y R% 黄褐色土 しまりあり。小角礫を含む。

VII D4g 土坑

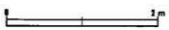


L = 263.800m



1. 7.5Y R% 褐色土
2. 7.5Y R% 暗褐色土
3. 10Y R% 黄褐色土
4. 7.5Y R% 暗褐色土

VII D4g-2 土坑



第298図 土坑(8)

深さは北壁と最深部で20cmである。埋土は2層に分けられるが、いずれも固く締まっている。暗褐色土を主体とする。底面は暗褐色土層中にあり、凹凸があって、北壁側がやや高くなっている。

遺物 本遺構から出土した破片は、ⅦD3 g-3 住居跡で取り上げた514と接合した。他にr無節の撚糸文の破片が出土している。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD4 g 土坑 (遺構番号238)

遺構 (第298図、写真図版114)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。平面形は東西方向にやや長い歪な円形で、断面形はフラスコ状であり、斜面上方は崩落している。規模は、開口部径145×185cm、底部径157×170cm、頸部径124×148cm、深さ154cmである。埋土は暗褐色土と褐色土の2つの層を主体とし、よく締まっている。底面は基盤層で固く、ほぼ水平で平坦である。

遺物 (第313図、写真図版221・222)

遺物は、埋土から5620gと多量の縄文の土器片が出土している。そのうち7点を図示した。縄文時代前期のものが主体をなすが、晩期の注口土器も混入している。

時期 出土遺物・検出面から縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD4 g-2 土坑 (遺構番号239)

遺構 (第313図、写真図版114)

西尾根南斜面に位置する。新期の道路によって壁の大半は削刺され基盤層上面で検出したが、北側は暗褐色土層を掘り込んでいることが断面から確認できた。

平面形は円形で、断面形はフラスコ状である。規模は基盤層上面で、開口部径120cm、底部径134cm、深さは、褐色土層から最深部まで98cmである。埋土は4層に分けられるが、暗褐色土が上位と下位に堆積し、径3mm程度の炭化物を含む黒褐色土が間層として入り込む。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平である。西壁寄りに副穴らしい小穴が1個検出された。径は15cm、深さは4cmである。この小穴の性格は不明である。

遺物 埋土から、縄文時代前期の土器片が出土している。

時期 形状・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 4 g-3 土坑 (遺構番号240)

遺構 (第299図、写真図版114)

西尾根南斜面に位置する。基盤層への漸移層で検出した。平面形はやや歪な円形で、北壁はオーバーハングしてフラスコ状となり、他の壁はほぼ直立する。規模は、開口部径120×138cm、底部径105×115cm、深さ45cmである。埋土は4層に分けられるが、微細な炭化物を僅かに含む暗褐色土を主体とする。最下層には基盤層起源の黄褐色土が褐色土と混土して堆積する。底面は、ほぼ水平で凹凸は殆どない。

遺物 (第314図、写真図版222)

埋土から縄文時代前期・後晩期の土器片が出土した。1300は埋土上位のからの出土で遺構外出土の土器片と接合したものである。

時期 出土遺物・検出面・形状から縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 4 h-2 土坑 (遺構番号241)

遺構 (第299図、写真図版115)

西尾根南麓の平坦部に位置する。小角礫を含む暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で北壁がややオーバーハングしてフラスコ状となり、他の壁はほぼ直立する。規模は、開口部で103×106cm、底部で95×104cm、深さ23cmである。埋土は単層で、微細な炭化物を含む。底面は基盤層で、ややうねるような凹凸があるが、全体としては水平である。

遺物 埋土から、LR単節と組縄縄文の小破片が出土している。

時期 出土遺物・形状から縄文時代に属するものと推定される。

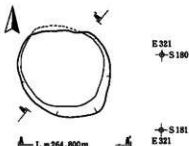
ⅧD 5 f 土坑 (遺構番号242)

遺構 (第299図、写真図版115)

西尾根南斜面に位置する。基盤層への漸移層で検出した。平面形は開口部はほぼ円形であるのに対し、底部はやや東西に長い歪な円形である。壁は底部から直立後に内傾し再び直立し、断面形フラスコ状となる。規模は、開口部径154cm、底部径162cm×190cm、深さは102cmである。埋土は、斜面下方に当たる南側に基盤層起源の黄褐色土が厚く堆積し、その上に乗るように北側に褐色土～暗褐色土が堆積する。底面は基盤層で、ほぼ水平で平坦である。

遺物 埋土から、縄文時代前期の土器小片10数点が出土しているが図化は省略した。

時期 出土遺物・検出面から縄文時代に属するものと推定される。



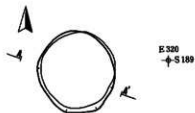
E 321
+ S 180

+ S 181
E 321



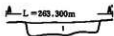
1. 10Y R% 暗褐色土
2. 10Y R% 暗褐色土 炭化物をわずかに含む。
3. 10Y R% 黄褐色土 暗褐色土をブロック状に含む。
4. 10Y R% 暗褐色土 暗褐色土をブロック状に含む。

ⅧD4 g-3土坑



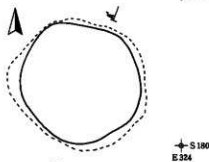
E 320
+ S 189

+ S 190
E 320



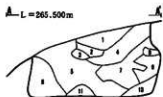
1. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。

ⅧD4 h-2土坑



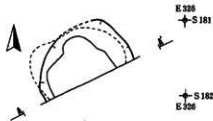
E 324
+ S 178

+ S 180
E 324



1. 7.5Y R% 暗暗褐色土 炭化物、焼土粒を含む。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 暗褐色土を含む。
3. 10Y R% 黄褐色土 炭化物をわずかに含む。
4. 7.5Y R% 暗褐色土 炭化物をわずかに含む。
5. 10Y R% 黄褐色土 炭化物をわずかに含む。
6. 10Y R% 黄褐色土 炭化物を含む。
7. 7.5Y R% 暗褐色土 暗褐色土を含む。
8. 7.5Y R% 暗褐色土 暗褐色土を含む。
9. 10Y R% 黄褐色土 暗褐色土をブロック状に含む。
10. 10Y R% 暗褐色土 暗褐色土をブロック状に含む。
11. 10Y R% 黄褐色土 炭化物をわずかに含む。

ⅧD5 f 土坑



E 326
+ S 181

+ S 182
E 326



1. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。小角礫を含む。1'は、1層より粘性を欠く。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりあり。小角礫を含む。
3. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりあり。
4. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりあり。
5. 10Y R% 暗褐色土 しまりあり。小角礫を含む。

ⅧD5 g 土坑



ⅦD 5 g 土坑 (遺構番号243)

遺構 (第299図、写真図版115)

西尾根南斜面に位置する。ⅦD 5 g-3 住居跡の北壁において本土坑の断面を確認した。精査時の埋土観察では、本土坑の方が先行すると考えられた。

南半はⅦD 5 g-3 住居跡に切られていて不明であるが、残存状況から平面形は円形、断面形はフラスコ状であると推定される。規模は、開口部、底部とも130cm程度、頸部径約90cm、深さは88cmである。中央部分から北側上部にかけて攪乱を受けている。埋土は暗褐色土〜褐色土を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、やや凹凸がある。

遺物 (第314図、写真図版222)

埋土から、縄文時代前期に属する木目状捺糸文・R L単節・網目状捺糸文・横位の綾絡文等20数点が出土した。1301は埋土断面図に示されている土器であるが、器形・器厚・焼成等から後晩期の深鉢と考えられる。

時期 出土遺物・検出面から縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 5 g-2 土坑 (遺構番号244)

遺構 (第300図、写真図版115)

西尾根南斜面に位置する。ⅦD 5 g-2 住居跡の精査中に検出した。同住居と重複し、埋土断面観察から本土坑の方が新しいと考えられる。斜面下方に当たる南側は、新期の道路により削刺されている。

平面形は円形で、壁は直立気味に立ち上った後、斜面上方において外傾する。崩落によるものかとも考えられる。規模は、開口部径112cm、底部径102cm、深さは北壁と最深くで52cmである。埋土は極暗褐色土を主体とする。底面は基盤層で、ほぼ水平で平坦である。底面北西よりで副穴が1個検出された。規模は17×19cm、深さ8cmである。性格は不明である。

遺物 埋土から、木目状捺糸文・捺糸文・L R単節斜縄文等縄文時代前期の土器片が7点出土しているが図示は割愛した。石器は図示した2点の他、フレーク1点が埋土から出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 5 g-3 土坑 (遺構番号245)

遺構 (第300図、写真図版116)

西尾根南斜面中腹に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位で検出した。平面形は、やや東西に長い歪な円形で、断面形はフラスコ状である。規模は、開口部径112×123cm、底部径136×140cm、深さ47cmである。埋土は4層に分けられるが、最下層には基盤層起源の黄褐色土が

混入する。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。

遺物 埋土から、網目状捺糸文・S字状連鎖沈文・組縄縄文等10数点の縄文時代前期土器片が出土している。図示は省略した。石器は2点出土した。1307は周縁を二次加工したもので中央部は一次剝離を残す。

時期 出土遺物・検出面・形状から縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 5 g-4 土坑 (遺構番号246)

遺構 (第300図、写真図版116)

西尾根南斜面中腹部に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。南側でⅧD 5 g 土坑と接するが、新旧関係は、一部攪乱もあって不明である。

平面形はやや東西に長い歪な円形で、断面形はフラスコ状である。頸部は凹凸が多い。規模は、開口部径225cm程度、底部径145×155cm。頸部径135×155cm、深さ132cmである。埋土は7層に分けられる。上位は黒色土、中位は褐色土を主体とし、下位には崩落土を堆積する。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。

遺物 (第315図、写真図版222・223)

1310は鋸歯状の隆帯を器面に対して斜位に貼り付け隆帯屈折部分に竹管刺突を施したものである。1311は大波状口縁で、頂部上面観は器の内側にややカーブしている。図示した3点の他には捺糸文・木目状捺糸文・横位の羽状縄文等、縄文時代前期の土器片が出土している。石器は図示した2点の他、フレーク5点が埋土から出土している。

時期 出土遺物・検出面・形状から縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 5 g-5 土坑 (遺構番号247)

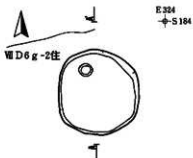
遺構 (第300図、写真図版116)

西尾根南斜面に位置する。ⅧD 6 g-2 住居跡の南壁および床面下から検出された。同居層と北側で重複し、本土坑の方が先行すると考えられる。南側は新期の道路により削剝されている。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径135×144cm、底部径132×135cm、深さ46cmである。埋土は6層に分けられるが、いずれも固く締まっている。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。

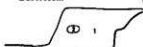
遺物 (第315図、写真図版223)

図示した1314の他、横位の羽状縄文・網目状捺糸文等縄文時代前期の土器片が10数点出土している。

時期 重複関係・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。

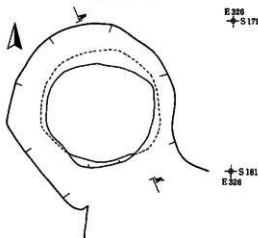


S 186
E 322
L 264.000m
E 324
S 186



1. 7.5YR% 暗褐色土 しまりなし。
2. 7.5YR% 暗褐色土 しまりなし。

VII D 5 g-2 土坑



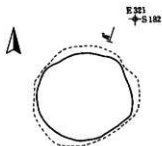
E 328
S 179

L = 266.000m



1. 7.5YR% 褐色土 しまりあり。小内層を少量含む。
2. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。
3. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。小内層を含む。
4. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。小内層を含む。
5. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。
6. 10YR% 黄褐色土 しまりあり。小内層を含む。
7. 10YR% 褐色土 しまりあり。底層土。

VII D 5 g-4 土坑

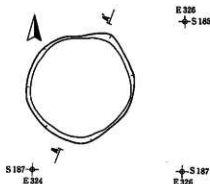


S 184
E 319
L = 263.800m
E 321
S 184



1. 7.5YR% 暗褐色土 しまりなし。
2. 7.5YR% 褐色土 しまりあり。
3. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。
4. 7.5YR% 褐色土 しまりあり。黄褐色土を含む。

VII D 5 g-3 土坑



E 326
S 185

L = 263.700m



1. 7.5YR% 暗褐色土 固くしまっている。
2. 10YR% 褐色土 しまりあり。
3. 7.5YR% 暗褐色土 固くしまっている。
4. 7.5YR% 暗褐色土 しまりあり。
5. 7.5YR% 褐色土 しまりあり。暗褐色土をブロック状に含む。
6. 7.5YR% 暗褐色土 しまりなし。褐色土をブロック状に含む。

VII D 5 g-5 土坑



ⅦD 5 g-Ⅱ土坑 (遺構番号248)

遺構 (第306図、写真図版116)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。北側でⅦD 5 g-Ⅲ住居跡と重複する。本土坑は同住居の埋土から掘り込んでいることから、本土坑のほうが新しいと考えられる。平面形は東西方向にやや長い歪な円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径145×160cm、底部径134×145cm、深さ68cmである。埋土は3層に分けられるが、上位と下位は暗褐色土で、間に黒褐色土を挟む。自然堆積と考えられる。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。西壁よりに副穴を1個検出した。規模は径16×21cm、深さ26cmである。性格は不明である。

遺物 (第315図、写真図版223)

1315は器形・器厚・焼成等から縄文時代後晩期のものである。他に網目状捺糸文・木目状捺糸文・横綾絡文等がある。1317は側面に磨面が観察される他、一部敲打痕もある。軟質で表面が剥落している。

時期 検出面・出土遺物から、縄文時代後期ないし晩期に属するものと推定される。

ⅦD 5 h土坑 (遺構番号249)

遺構 (第301図、写真図版117)

西尾根南麓の平坦部への傾斜変換点に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。平面形はやや南北に長い歪な円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径108×120cm、底部径104cm、深さ40cmである。埋土は4層に分けられるが、暗褐色土(第2層)と褐色土(第3層)を主体とする。第4層はそれらの混土である。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。底面の南北中軸線上に副穴が2個検出された。規模は、径18cmと径20cm、深さ10cmである。

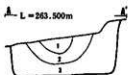
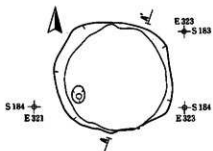
遺物 埋土から、網目状捺糸文・組縄縄文等、縄文時代前期の土器片が6点出土した。

時期 検出面・形状から縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 5 h-2土坑 (遺構番号250)

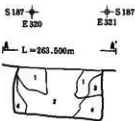
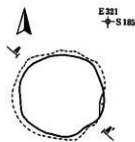
遺構 (第316図、写真図版224)

西尾根南斜面の傾斜変換点に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。平面形は円形で、断面形はややフラスコ状である。規模は開口部径120cm、底部径125cm、深さ67cmである。埋土は4層に分けられるが、暗褐色土(第3層)を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。



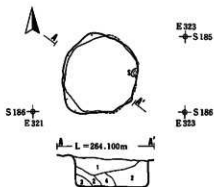
1. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。炭化物を少量含む。
2. 10Y R% 黒褐色土 しまりあり。
3. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。

VII D5 g-6土坑



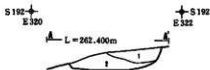
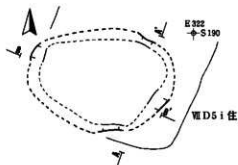
1. 10Y R% 褐色土 しまりあり。小角礫を含む。
2. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。
3. 10Y R% 暗褐色土 しまりあり。
4. 10Y R% 黒褐色土 しまりなし。

VII D5 h-2土坑



- J. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。暗褐色土を含む。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。
3. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。小角礫を含む。
4. 7.5Y R% 暗褐色土 2層と3層の混土。パリスを若干含む。

VII D5 h土坑



1. 10Y R% 褐色土 しまりなし。炭化物、褐色土ブロックを含む。
2. 10Y R% 黒褐色土 しまりあり。炭化物を含む。



VII D5 i土坑



第301図 土坑(1)

遺物 (第316図、写真図版223)

1318は組縄縄文を地文とする。底部付近は無文の部分があるが、地文施文後に磨り消したものである。意図的か否かは不明であるが、磨り消しはむらがあり、装飾性を意識したものとは考えにくい。胎土には繊維が多く含まれる。他に木目状捺糸文の土器片が埋土上位から出土している。石器はフレーク5点が埋土から出土したのみである。

時期 出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 5 i 土坑 (遺構番号251)

遺構 (第301図、写真図版117)

ⅧD 5 i 住居跡の埋土観察用のベルトで確認した。同住居の埋土と明瞭に区別され、それと異なる、より新しい遺構と考えられた。当初は同住居の単一遺構と考えられたため、本土坑の大部分を、同住居の埋土と誤って掘り過ぎてしまい、残された埋土断面で形状・規模を推定し把握した。

平面形は楕円形で、長軸方向はN-72°-Wであると推定される。壁はやや外傾する。規模は、開口部径136×194cm、底部径116×160cm、深さ14cmである。埋土は3層に分けられるが、黒褐色土を主体とする。壁・底面ともⅧD 5 i 住居跡の埋土である黒褐色土である。

遺物 ベルトとして残した部分から、縄文時代前期の網目状捺糸文・木目状捺糸文・捺糸文の土器片が10数点出土した。石器はフレークが7点出土したのみである。

時期 検出面・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 5 i - 2 土坑 (遺構番号252)

遺構 (第302図、写真図版117)

ⅧD 5 i - 3 住居跡の床面で検出した。同住居の焼土の下に位置することから、本土坑は同住居に先行するものと考えられる。平面形は円形で、壁はやや外傾する。規模は、開口部径118×120cm、底部径94×98cm、深さ64cmである。埋土は5層に分かれるが、自然堆積の様相を示し、第2層、第3層には基盤層起源の黄褐色土ブロックが混入する。底面は基盤層で、少し凹凸があるが、全体としてはほぼ水平である。南北中軸線上に副穴が2個検出された。規模は、中央部に位置するものが径10cm、深さ5cm、南壁際に位置するものが径15cm、深さ7cmである。遺物は出土していない。

時期 重複関係から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦD 5 i - 3 土坑 (遺構番号253)

遺構 (第302図)

ⅦD 5 i 住居跡の床面で検出した。ⅦD 4 h - 4 住居跡とも重複し、同住居の周溝をこわしていることから、本土坑のほうが新しいと考えられる。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-35°-Eである。壁はほぼ直立する。規模は開口部径110×160cm、底部径86×140cm、深さ5cmである。埋土は調査の不備により断面実測図をとらなかったが、10YR5/6 黄褐色シルトを主体とし、10YR4/4 褐色土が混入する。固く締まっている。ⅦD 5 i 住居跡のそれに似た暗褐色土である。底面は基盤層である黄褐色土で、凹凸は殆どない。東壁際の一部と西壁際に周溝が巡る。幅12cm~18cm、深さ10cm程度である。

遺物 埋土から、縄文時代前期に属する木目状捺糸文・原体側面圧痕の土器片10数点が出土している。

時期 重複関係から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦD 5 i - 4 土坑 (遺構番号254)

遺構 (第302図、写真図版118)

ⅦD 5 i - 3 住居跡の床面において検出した。本土坑の埋土最上部には、同住居に伴う貼り床と想定される黄褐色粘土が、5cm程度の厚さに堆積しており、本土坑は同住居に先行すると考えられる。平面形は円形で、壁は北側がやや外傾し、南側はほぼ直立する。規模は開口部径104×110cm、底部径74×84cm、深さは56cmである。埋土は7層に分けられるが、第1層はⅦD 5 i - 3 住居跡の貼り床と考えられる黄褐色土で、第2層~第7層は自然堆積の様相を示す。第2層は黒褐色土で固くしまっており、他は崩落土を含み締まりを欠く。底面は基盤層である黄褐色土で、凹凸は殆どなく、ほぼ水平である。遺物は出土していない。

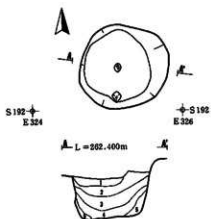
時期 重複関係から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦD 5 d 土坑 (遺構番号255)

遺構 (第302図、写真図版118)

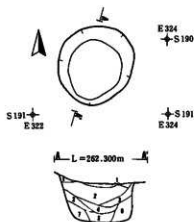
西根根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位で検出した。西側南壁の一部は掘り過ぎてしまった。平面形は小判形で、長軸方向はN-70°-Wである。壁はほぼ直立する。規模は開口部径116×216cm、底部径100×200cm、深さ41cmである。埋土は3層に分けられるが、褐色土を主体とする。底面はほぼ平坦であるが、斜面に沿って傾斜し、比高最大値18cmである。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。



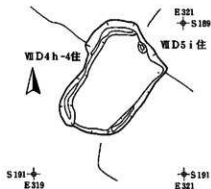
1. 10Y R 7% 褐色土 しまりあり。
2. 10Y R 7% 褐色土 しまりなし。黄褐色土を含む。
3. 10Y R 7% 暗褐色土 しまりなし。黄褐色土をブロック状に含む。
4. 10Y R 7% におい黄褐色土 しまりなし。
5. 10Y R 7% 明黄褐色土 しまりあり。

VII D5 i-2土坑

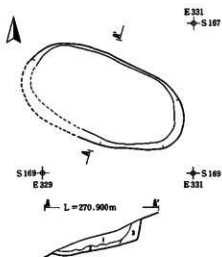


1. 10Y R 7% 黄褐色土 しまりあり。
2. 10Y R 7% 黄褐色土 しまりあり。
3. 10Y R 7% 暗褐色土 しまりなし。
4. 10Y R 7% におい黄褐色土 しまりなし。
5. 10Y R 7% 暗褐色土 しまりなし。
6. 10Y R 7% 黄褐色土 しまりなし。
7. 10Y R 7% 明黄褐色土 しまりあり。小角礫を含む。

VII D5 i-4土坑



埋土 10Y R 7% 黄褐色土 しまりあり。褐色土を含む。
VII D5 i-3土坑



1. 10Y R 7% 褐色土 深くしまっている。
2. 10Y R 7% 明黄褐色土 しまりなし。
3. 10Y R 7% 黄褐色土 しまりあり。

VII D5 d土坑



ⅧD 6 e 土坑 (遺構番号256)

遺構 (第303図、写真図版118)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位で検出した。南側は斜面のため流失している。南東隅で、ⅧD 6 e-2 土坑と僅かに重複するが、新旧関係を判断することはできなかった。平面形は楕円形で、長軸が斜面にほぼ平行し、その方向は $N-70^{\circ}-W$ である。壁はほぼ直立する。規模は、長軸方向が開口部径 210 cm、底部径 175 cm で、短軸方向は推定値 170 cm 程度、深さは 58 cm である。埋土は 5 層に分けられるが、暗褐色土層および基盤層起源の自然堆積の様相を示す。底面は小さな凹凸が数箇所に認められるが、人工的なものとは考えられない。全体としてはほぼ水平である。

遺物 底面から、縄文時代前期の木目状燃糸文・燃糸文の土器片が 10 数点出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 6 e-2 土坑 (遺構番号257)

遺構 (第303図、写真図版118)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位で検出した。南側は斜面のため流失している。北側でⅧD 6 e 土坑と僅かに重複するが、新旧関係を判断することはできなかった。平面形は小判形で、長軸が等高線にほぼ直交し、その方向は $N-15^{\circ}-W$ である。壁は外傾する。規模は、短軸方向が開口部径 114 cm、底部径 88 cm で、長軸方向は推定値 130 cm 程度、深さは 50 cm である。埋土は 7 層に分けられるが、暗褐色土層と基盤の黄褐色土層を起源とし、自然堆積の様相を示す。底面は基盤層である黄褐色土で小さな凹凸が数箇所に認められるが、人工的なものとは考えられない。全体としては斜面に沿って傾斜し、最大比高 11 cm である。遺物は出土していない。

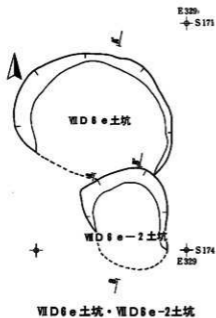
時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅧD 6 f 土坑 (遺構番号258)

遺構 (第303図、写真図版119)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位で検出した。平面形は、長軸が等高線にほぼ平行する楕円形で、その方向は $N-70^{\circ}-W$ である。壁は南側がやや外傾するが、他はほぼ直立する。規模は、開口部径 90×120 cm、底部径 70×105 cm、深さ 30 cm である。埋土は第 3 層・第 4 層の暗褐色土を主体とし、第 2 層がその後堆積している。底面は基盤層である黄褐色土で、斜面に沿ってやや傾斜し、最大比高 13 cm である。遺物は出土していない。

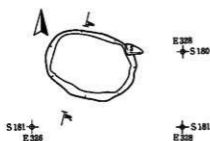
時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。



1. 10 Y R % 褐色土 しまりあり。
2. 10 Y R % 黄褐色土 固くしまっている。
3. 10 Y R % 暗褐色土 固くしまっている。
4. 10 Y R % 黄褐色土 固くしまっている。
5. 10 Y R % 明黄褐色土 固くしまっている。

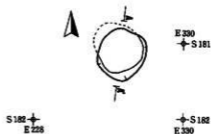


1. 10 Y R % 暗褐色土 しまりあり。
2. 10 Y R % 褐色土 しまりなし。
3. 10 Y R % 黄褐色土 しまりあり。
4. 10 Y R % 黄褐色土 しまりあり。
5. 10 Y R % 褐色土 しまりあり。
6. 10 Y R % 明黄褐色土 しまりなし。
7. 10 Y R % 明黄褐色土 しまりなし。



1. 7.5 Y R % 暗褐色土 粘土質土。しまりあり。
2. 7.5 Y R % 褐色土 しまりあり。
3. 7.5 Y R % 暗褐色土 固くしまっている。
4. 7.5 Y R % 暗褐色土 固くしまっている。
5. 10 Y R % 暗褐色土 しまりなし。

VII D 8 f 土坑



VII D 8 f-2 土坑



ⅦD 6 f-2 土坑 (遺構番号259)

遺構 (第303図、写真図版119)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位で検出した。平面形は円形で、壁は斜面上方に当たる北側が内傾し、南側は逆にやや外傾、東西壁はほぼ直立する。規模は、開口部径60×70cm、底部径55×70cm、深さ55cmである。埋土は調査の不備により実測図をとれなかった。底面は基盤層である黄褐色土で凹凸があり、中央部がやや低い。

遺物 検出面・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 6 g 土坑 (遺構番号260)

遺構 (第304図、写真図版119)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。平面形は、長軸が等高線に直交する楕円形で、その方向はN-30°-Eである。壁は外傾気味に立ち上がった後、開口部付近で内湾気味に大きく外傾する。規模は開口部径60×80cm、底部径37×57cm、深さ49cmである。埋土は4層に分けられるが、再堆積層起源と考えられる第3層褐色土を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、中央部がやや低くなっている。

遺物 (第316図、写真図版224)

1319は単節斜縄文の地文のみの深鉢であるが、器形・器厚・焼成等から縄文時代後晩期のものと思われる。他に、埋土から縄文時代前期と思われる単節斜縄文・撚糸文の小破片が出土している。1320は側面観が鋸歯状で交互に剝離した可能性がある。図示した他に小型の磨製石斧の基部のごく一部が残存したものの1点、半円状花崗岩質岩が1点、フレークが12点出土した。時期 検出面・出土遺物から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 6 h 土坑 (遺構番号261)

遺構 (第304図、写真図版119)

西尾根南斜面に位置する。新期の道路下、小角礫を含む暗褐色土層下位で黒褐色土の円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は、開口部径100×105cm、底部径80×72cm、深さ16cmである。埋土は3層に分けられるが、上位は暗褐色土、下位は黒褐色土である。底面は基盤層である黄褐色土で、小さな凹凸があり、中央部がやや低い。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 8 c 土坑 (遺構番号262)

遺構 (第304図、写真図版119)

西尾根東斜面中腹に位置する。ⅦD 8 c 住居跡の斜面下方の、小角礫を含む暗褐色土層で検出した。同住居と本土坑との新旧関係は不明である。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径 140 × 157 cm、底部径 125 × 135 cm、深さ 56 cm である。埋土は褐色土の単層である。底面は基盤層である黄褐色土で、小さな凹凸があり、全体としては中央部がやや低く、最大比高 9 cm である。

遺物 (第317図、写真図版224)

1324の櫛歯状沈線は7本程度を1単位とする。焼成は良好で硬質である。1325～1328は同一個体である。大波状口縁で頂部は円形突起となりやや窪む。口縁部は2段階に複合しており、半截竹管が連続刺突される。口縁胴部には半截竹管による平行沈線が展開し、要所にボタン状突起が配される。1331は胴部破片である。半截竹管平行沈線による弧線が展開する。

時期 検出面・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦD 8 a 土坑 (遺構番号263)

遺構 (第304図、写真図版120)

西尾根東斜面中腹に位置する。表土下の小角礫を含む暗褐色土層上面で検出した。平面形はやや東西方向に長い歪な円形で、断面形はフラスコ状である。規模は開口部径 105 × 110 cm、底部径 117 × 130 cm、深さ 43 cm である。埋土は2層に分けられ、上位は基盤層起源、下位は再堆積層起源と考えられ、人為的な埋め戻しが行われたことが明瞭に観察された。底面は小さな凹凸がある他、全体としては、やや南側が低い。

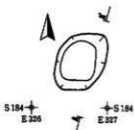
遺物 埋土から縄文時代前期の土器小片が出土しているが因化に耐えないので割愛した。

時期 検出面・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦD 9 b 土坑 (遺構番号264)

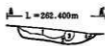
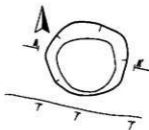
遺構 (第305図、写真図版120)

西尾根東斜面中腹のやや平坦となる傾斜変換点に位置する。表土下の、小角礫を含む暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、壁はやや内傾気味に立ち上がった後、大きく内傾し、さらに外反する。全体としてはフラスコ状の断面形である。規模は、開口部径 100 × 105 cm、底部径 157 × 174 cm、深さは 134 cm である。埋土は7層に分けられるが、再堆積層起源と考えられる褐色土を主体とする。中位と最下位には、崩落土である暗褐色土が混入する。底面は、小さな凹凸があるが、全体としてはほぼ平坦で水平である。



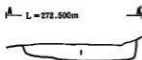
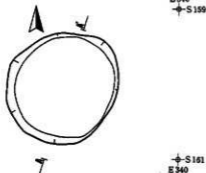
1. 10Y R₆ 褐色土 固くしまっている。炭化物を含む。
2. 10Y R₆ 褐色土 固くしまっている。小角礫を含む。
3. 10Y R₆ 褐色土 しまりあり。炭化物、小角礫を含む。
4. 10Y R₆ 明黄褐色土 しまりあり。小角礫を含む。

VII D 6 g 土坑



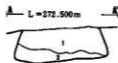
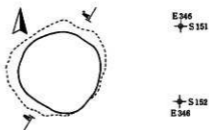
1. 7.5Y R₆ 暗褐色土 しまりなし。
2. 7.5Y R₆ 暗褐色土 しまりあり。
3. 7.5Y R₆ 暗褐色土 しまりあり。
4. 7.5Y R₆ 暗褐色土 しまりあり。

VII D 6 h 土坑



1. 7.5Y R₆ 褐色土 しまりなし。小角礫を含む。

VII D 8 c 土坑



1. 10Y R₆ におい黄褐色土 固くしまっている。小角礫を多く含む。
2. 10Y R₆ 褐色土 固くしまっている。

VII D 9 a 土坑



遺物（第318図、写真図版225）

〈土器〉1333・1334は底面から横倒しの状態で出土したものである。内部の土をフローティングによって処理したが、特別のものは検出されなかった。1333は6個の頂部を有する波状口縁の土器である。頂部から短い隆帯を垂下させ、隆帯上には棒状工具による下方向からの刺突が施される。文様帯は口縁部から頸部におよび、棒状又は竹管の外表面による弧状ないし平行沈線が施文される。地文はRLを結束させて縦回転したものである。内面は、ハケメ状の調整が施されている。1334は4つ頂部を有する緩い波状口縁の土器である。縦位の第一種結束羽状縄文を地文とし、口縁部に2段の縄を原体とする圧痕が施される。口縁頂部下には渦巻き状に、その下には山形状のモチーフが展開し、頂部と頂部の間は逆山形状のそれである。しかし対称性は大きく崩れていて、部分により位置・形状・条間の幅等が異なる。文様帯最下部は2条の平行な原体圧痕によって胴部地文区画されるが、区画性は弱い。内面は棒または篋状の工具によりミガキがかけられ、とくに口縁部内面は丁寧である。1335は埋土から破片で出土したものである。口縁部は欠損している。残存部最上部に横位沈線が観察されるが、棒状工具又は竹管の外表面によるものである。地文は木目状燃糸文であるが、原体は、R1段の縄の先端部を軸中央部に挟み込み、そこから引き出したものを一旦結んだ後に、軸の両端方向にそれぞれ巻き付けたものであろう。1336は埋土2層上位から一括出土したものである。口縁部分は欠損している。内面の底部付近はススの付着が著しい。

〈石器〉埋土から、磨石の欠損品、岩手火山起源の溶岩各1点が出土しているが図示は省略した。

時期 床面出土遺物から、縄文時代前期末葉に属すると考えられる。

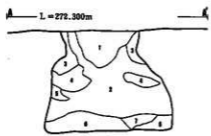
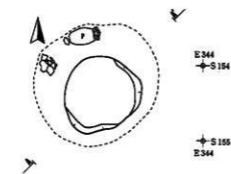
ⅧD9b-2土坑（遺構番号265）

遺構（第305図、写真図版120）

西尾根東斜面中腹のやや平坦となる部分から再び傾斜が急になる傾斜変換点に位置する。基盤層上面で検出した。平面形はやや南北に長い歪な円形で、断面形はフラスコ状である。規模は、開口部径90×115cm、底部径165×180cm、深さ78cmである。埋土は3層に分けられるが、再堆積層起源と考えられる褐色土を主体とする。底面はほぼ平坦であるが、斜面に沿ってやや傾斜し、比高最大値4.5cmである。

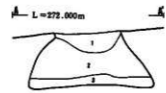
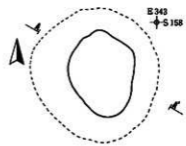
遺物（第318図、写真図版225）

1338は波状口縁の頂部破片である。口縁に沿って2条の凹線が引かれ、頂部からは同じく2条の凹線が垂下する。1339は弁状突起の破片で外側が剥落しており詳細は分からない。他に埋土から、縄文時代前期の木目状燃糸文・多軸絡条体・単節斜縄文・網目状燃糸文の土器小破



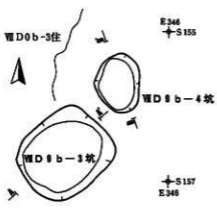
1. 10Y R% 暗褐色土 しまりあり。小角礫を含む。
2. 10Y R% 褐色土 しまりあり。炭化物、暗褐色土を含む。
3. 10Y R% 褐色土 しまりあり。褐色土を含む。炭化物。
4. 10Y R% 褐色土 しまりあり。炭化物。
5. 10Y R% 明黄褐色土 固くしまっている。内礫を含む。炭化物。
6. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。
7. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。炭化物を少量含む。

VII D9b-1土坑

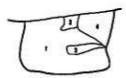


1. 10Y R% 褐色土 しまりなし。小角礫を含む。
2. 10Y R% 褐色土 しまりなし。炭化物。小角礫を少量含む。
3. 10Y R% 暗褐色土 しまりあり。

VII D9b-2土坑



VII D9b-3土坑・VII D9b-4土坑



1. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。炭化物。小角礫を含む。
2. 10Y R% 褐色土 しまりあり。
3. 10Y R% 明黄褐色土 しまりなし。小角礫を多く含む。
4. 1層と2層の混土。 しまりなし。

VII D9b-3土坑



片が出土した。石器は、岩手火山起源の溶岩1点、フレーク3点が出土したのみである。

時期 検出面・出土遺物から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 9 b-3 土坑 (遺構番号266)

遺構 (第305図、写真図版120)

西尾根南斜面に位置する。基盤層で検出した。平面形は楕円形で、長軸が等高線にほぼ平行し、その方向はN-45°-Eである。壁は北側が内傾後にやや外傾、他はほぼ直立する。規模は、開口部径105×123cm、底部径83×106cm、深さ90cmである。埋土は、中位に崩落土を含み、暗褐色土を主体とする。床面は基盤層で、中央部分がやや低く、最大比高8cmである。

遺物 (第319図、写真図版225・226)

1340はやや外反する頸部破片で、半截竹管により数段の波状平行沈線が施される。1341は花卉状口縁で、胴部は摺糸文が施文される。他に埋土から、縄文時代前期のR摺糸文・網目状摺糸文・多軸絡糸文・縦位絞絡文等の土器片が出土しているが、地文のみの胴部破片であり図示は割愛した。石器は、埋土から石鏃が10点出土した。いずれも古生界北上産地産(9点は凝灰岩、1点は硬砂岩)で、長軸方向に剥離が施されている。大きさも概ね等しい。

時期 検出面・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 9 b-4 土坑 (遺構番号267)

遺構 (第305図、写真図版120)

西尾根南斜面に位置する。ⅦD 9 b-3 住居跡の西壁で検出した。調査の不備により埋土断面図をとれなかったが、検出状況からは本土坑が同居に先行するものと考えられる。

平面形は小判形で、長軸は等高線にほぼ平行し、その方向はN-4°-Eである。壁はほぼ直立する。規模は、開口部径60×80cm、底部径45×70cm、深さ40cmである。底面は基盤層である黄褐色土で小さな凹凸が数箇所に認められるが、人工的なものとは考えられない。南壁際に副穴が1個検出された。径は22×27cm、深さは17cmである。その性格については不明である。

遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 9 h 土坑 (遺構番号268)

遺構 (第306図、写真図版121)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。平面形は、長軸が等高線に斜交する小判形で、その方向はN-60°-Wである。壁は北側がやや外傾する。南側は斜面のた

め残存状況が悪い。規模は、開口部径100×118cm、底部径90×104cm、深さ24cmである。埋土は2層に分かれ、暗褐色土を主体とする。底面直上は基盤層起源の褐色土である。底面は基盤層である黄褐色土で、斜面に沿って傾斜し、比高最大値20cmである。遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属するものと推定される。

ⅦD 8 h-2 土坑 (遺構番号269)

遺構 (第306図、写真図版121)

西尾根南斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層で検出した。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径65×75cm、底部径64×67cm、深さ27cmである。埋土は2層に分かれ、暗褐色土を主体とし、壁際および底面直上は基盤層起源と考えられる層が堆積する。底面は、基盤層である黄褐色土で、小さな凹凸がある。副穴が1個、底面中央部に位置する。規模は、径18×20cm、深さ8cmである。やや開口部がやや南側に傾斜する。性格は不明である。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅦC 1 h 土坑 (遺構番号270)

遺構 (第306図、写真図版127)

西尾根東斜面に位置する。ⅦC 1 h 住居跡の床面下およびⅦC 1 h-2 住居跡の西壁から検出された。本土坑の断面から、ⅦC 1 h 住居跡は本土坑の埋土の上に貼り床をしていると観察された。よって本土坑が同住居に先行すると考えられる。またⅦC 1 h-2 住居跡との関係では、同住居の埋土観察から、本土坑の方が同住居に先行すると考えられる。平面形はやや歪な円形で、壁はほぼ直立する。規模は、最大値で開口部径150cm、底部径132cm、深さ40cmである。埋土は堆積状況に規則性を見出だし難く、人為的な埋め戻しの可能性がある。底面は基盤層である黄褐色土で、凹凸はなく平坦であるが、斜面にそってやや傾斜し、比高最大値7.5cmである。

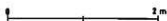
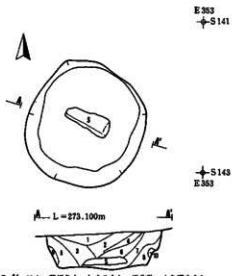
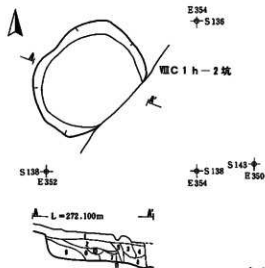
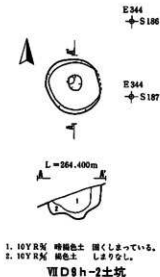
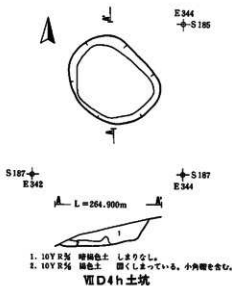
遺物 埋土から縄文時代前期の網目状燃糸文・無文の土器小破片が各1点出土している。

時期 重複関係・出土遺物から縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅦC 1 i 土坑 (遺構番号271)

遺構 (第306図、写真図版121)

西尾根東斜面の中腹部緩やかな傾斜地に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位で検出した。



平面形は円形で、壁はやや外傾する。規模は、開口部径160cm、底部径130cm、深さ45cmである。埋土は10層に分けられるが、6層までに粉炭を含む。全体に小角礫を含み締まりを欠き、自然堆積の様相を示す。底面は基盤層である黄褐色土で、やや小さな凹凸がみられる。

遺物 (第320図)

床面で検出された礫は、長さ約60cm・幅約19cm・厚さ約8cmで、北上山地産の珪長質凝灰岩である。使用痕、加工痕は観察されない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅧC 2 j 土坑 (遺構番号272)

遺構 (第307図)

西尾根東斜面中腹に位置する。ⅧC 2 j 住居跡の床面下から検出された。検出状況から本土坑は、同住居に先行する。東側は削平されていて不明である。平面形は歪な円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径173×206cm、底部径156×190cm、深さ25cmである。埋土は粉炭と焼土粒を含む褐色土を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。壁際に断続的に周溝が巡る。規模は幅6～10cm、深さ5cm程度である。副穴が1個底面中央部に検出された。規模は径24×26cm、深さ8cmである。その性格については不明である。

遺物 (第320図、写真図版226)

1354は頸部でやや屈曲する器形で、口唇部は平らである。他に縄文時代前期の、L捲糸文・L R単節斜縄文・網目状捲糸文・縦位綾絡文等20数点の土器片が出土した。

時期 重複関係・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。

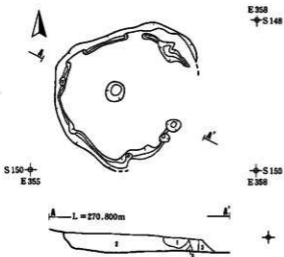
ⅧC 2 j - 2 土坑 (遺構番号273)

遺構 (第307図、写真図版122)

西尾根東斜面中腹に位置する。ⅧC 2 j 住居跡の床面下から検出された。検出状況から、本土坑は同住居に先行する。斜面下方に当たる東側は、木根による攪乱を受け、また壁は一部流失している。平面形は、長軸が等高線にはほぼ平行する小判形で、その方向はN-40°-Eである。壁はほぼ直立する。規模は開口部径172×246cm、底部径152×220cm、深さ22cmである。埋土は焼土粒と粉炭を含む褐色土を主体とし、ⅧC 2 j 住居跡の床面を構成している。第2層は、同住居に伴う焼土と考えられる。底面は基盤層である黄褐色土で、小さな凹凸があるが全体としてはほぼ水平である。壁際に周溝が全周する。規模は幅16～18cm、深さ4～8cmである。

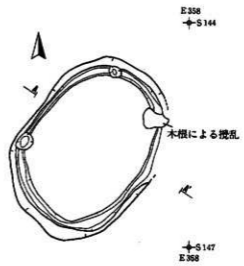
遺物 埋土から縄文時代前期の、R捲糸文・縦位綾絡文等4点の小片が出土している。

時期 重複関係・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。



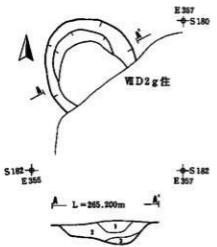
1. 10Y R% 褐色土 しまりなし、炭化物、焼土を含む。
2. 10Y R% 暗褐色土 しまりあり、炭化物、焼土を粒状に含む。
3. 10Y R% 黄褐色土 しまりなし、炭化物、焼土を少量含む。

VII C2 j 土坑



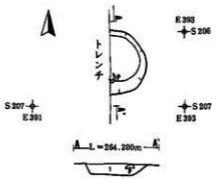
1. 7.5Y R% 褐色土 しまりあり、炭化物、焼土を含む。
2. 7.5Y R% 褐色土 しまりあり、炭化物、焼土を少量含む。

VII C2 j-2 土坑



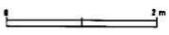
1. 10Y R% 黄褐色土 しまりなし。
2. 10Y R% 褐色土 しまりあり、黄褐色土を含む。
3. 10Y R% 黄褐色土 しまりあり。

VII D2 g 土坑



1. 10Y R% 褐色土 しまりあり、炭化物を微量含む。

VII E9 b 土坑



ⅧD 2 g 土坑 (遺構番号274)

遺構 (第307図、写真図版122)

西尾根東麓に位置する。ⅧD 2 g 住居跡の斜面上方の壁と重複しているが、本遺構の検出が遅れたため新旧関係を明らかにすることはできなかった。平面形は、円形を基調とし、壁は内湾気味に外傾する。規模は開口部径 120 cm 程度、底部径 85 cm 程度、深さは最大 47 cm である。埋土は 3 層に分かれ、上位から黒褐色・褐色・黒褐色土で下層ほどしまっている。底面は基盤層である黄褐色土で、凹凸があり南東部が最も深い。

遺物 埋土から、縄文時代前期の網目状燃糸文の小破片が数点、フレークが 8 点出土した。

時期 重複関係・出土土器から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧE 9 b 土坑 (遺構番号275)

遺構 (第307図、写真図版122)

東尾根南麓の平坦部に位置する。褐色土層を掘り込んでいるが、検出が遅れ基盤層まで下げた段階で、断面で立上がりを確認した。そのため西半分を削削してしまった。平面形は、径 110 cm の円形と推定され、深さは 20 cm である。壁はやや外傾する。埋土は黒色土を主体とし、微細な炭化物を微量含む。底面は基盤層である黄褐色土で、やや凹凸がある。

遺物 (第320図、写真図版226)

1355は床面直上から出土したものである。人為的埋設とは考えにくい。胎土・焼成は他の縄文時代前期の土器に等しい。

時期 出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅧD 1 g 土坑 (遺構番号276)

遺構 (第308図、写真図版122)

東西尾根南斜面に位置する。褐色土層上面で検出した。平面形は歪な円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径 92 × 106 cm、底部径 74 × 80 cm、深さ 40 cm である。埋土は暗褐色土を主体とする。底面直上の西側に焼土と粉炭が分布する。底面との間に間層を挟み、底面に焼成が及んでいないことから、異地性のものと考えられる。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。南側に礫が検出されたが、焼成をうけていないことから焼土に関わる可能性は低い。掘り込みも確認されない。

遺物 埋土から縄文時代前期の土器極小片が 1 点出土した。

時期 検出面から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅨD 1 g-2 土坑 (遺構番号277)

遺構 (第308図、写真図版123)

東尾根南斜面に位置する。褐色土層上面で検出した。平面形は歪な円形で、壁は、北側は内傾気味に立上がった後外傾、東側はほぼ直立、西側はやや外傾する。規模は、開口部径 134 × 152 cm、底部径 104 × 114 cm、深さ 62 cm である。底面は基盤層である黄褐色土で小さな凹凸が数箇所に認められる。底面中央の南北軸線に溝が検出された。規模は幅 13~20 cm、深さ 9~10 cm である。その性格については不明である。

遺物 (第320図、写真図版226)

1356、1357の他、埋土中位から縄文時代前期の横位綾絡文の土器片が出土している。

時期 検出面・出土遺物から縄文時代に属するものと推定される。

ⅨD 2 h 土坑 (遺構番号278)

遺構 (第308図、写真図版123)

東尾根南斜面に位置する。褐色土層上面で検出した。平面形は歪な円形で、壁は内湾気味に外傾する。規模は、開口部径 120 × 145 cm、底部径 100 × 117 cm、深さ 45 cm である。埋土は 3 層に分かれるが、黒褐色土を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、やや斜面に沿って傾斜し、比高最大値 21 cm である。底面のほぼ南北中軸線上に副穴を 2 個検出したが、その性格については不明である。

遺物 埋土から縄文時代前期の、組縄縄文・横位 2 条の綾絡文・LR 単節斜縄文計 5 点の土器小片が出土している。

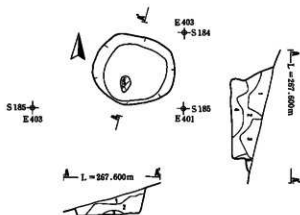
時期 検出面・出土遺物から、縄文時代に属するものと推定される。

ⅨD 3 g 土坑 (遺構番号279)

遺構 (第308図、写真図版123)

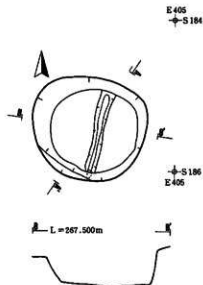
東尾根南斜面に位置する。褐色土層上面で検出した。平面形は、西側がやや不整であるが概ね円形で、壁はほぼ直立する。規模は開口部径 83 × 87 cm、底部径 64 × 70 cm、深さ 39 cm である。埋土は 2 層に分けられるが、褐色土を主体とする。底面は、基盤層である黄褐色土で、小さな凹凸があり、中央部が幾分低い。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。



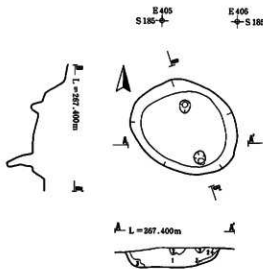
1. 10YR% 暗褐色土 しまりなし、小角礫を含む。
2. 10YR% 暗褐色土 しまりなし。
3. 5YR% 暗赤褐色土 しまりあり、焼土を含む。

IX D1g 土坑



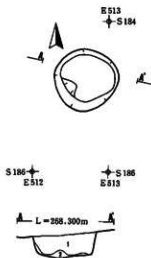
1. 10YR% 暗褐色土 しまりあり、炭化物を少量含む。
2. 10YR% 褐色土 ややしまりあり。
3. 10YR% 暗褐色土 しまりなし。
4. 10YR% 褐色土 しまりあり、炭化物を少量含む。
5. 10YR% 暗褐色土 しまりあり。

IX D1g-2 土坑



1. 7.5YR% 黄褐色土 しまりあり、炭化物、小角礫を含む。
2. 7.5YR% 褐色土 しまりなし。
3. 10YR% 褐色土 ややしまりあり。

IX D2h 土坑



1. 7.5YR% 褐色土 しまりあり、小角礫を含む。
2. 7.5YR% に近い褐色土 しまりあり。

IX D3g 土坑

ⅩD 3 h 土坑 (遺構番号280)

遺構 (第309図、写真図版124)

東尾根南斜面に位置する。ⅩD 3 h 住居跡の床面下から検出された。検出状況から、本土坑はN-47-Wである。壁はやや外傾する。規模は、開口部径117×157cm、底部径100×145cm、深さ43cmである。埋土は4層に分けられるが、堆積状況に規則性を見出だし難く、人為的な埋め戻しの可能性がある。底面は基盤層である黄褐色土で、やや凹凸がある。底面において北壁際に10個の小さい副穴と、西壁際および北東寄りの位置にそれよりは大きめの副穴を2個検出したが、その性格については不明である。

遺物 (第320図、写真図版226)

1358が床面から出土した。口縁部で極く緩やかに外反し、胴部でやや膨らみをもつ。口唇部に指頭状丘痕が施され、胴部には綾絡文が横走するが、原体の末端処理によるものであろう。

時期 重複関係・出土遺物から、縄文時代前期に属するものと推定される。

ⅩD 8 f 土坑 (遺構番号281)

遺構 (第309図、写真図版123)

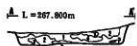
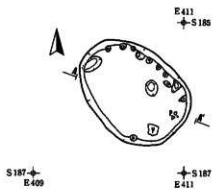
東尾根南斜面の中腹部に位置する。北側でⅩD 8 f 住居跡、南側でⅩD 8 g-3 住居跡と重複する。本土坑はⅩD 8 f 住居跡の床面で検出されたもので、同住居に先行する。ⅩD 8 g-3 住居跡との関係では、同住居の埋土を切って本土坑が構築されたと考えられることから、本土坑の方が新しい。調査の不備により、本土坑の南側を同住居の埋土と誤って掘り過ぎてしまった。

平面形は、南側が不明であるが、長軸が等高線にほぼ平行する楕円形で、その方向はN-70°-Eと推定される。壁は緩やかに立ち上がる。規模は、東西方向で開口部径210cm、底部径160cm、深さは25cmである。埋土は、微細な炭化物を微量含む黒褐色土の単層である。底面は基盤層である黄褐色土でほぼ平坦である。

遺物 (第320図、写真図版226)

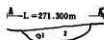
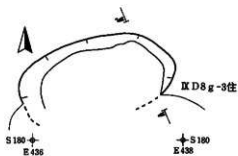
1359は組縄縄文であるが、口唇部にも同一原体により施文される。図示した他に組縄縄文(8点)、横位綾絡文(1点)の土器小片が出土している。

時期 重複関係から、縄文時代前期に属するものと推定される。



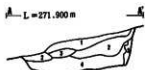
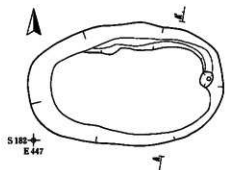
1. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 固くしまっている。
3. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。
4. 10Y R% 褐色土 しまりややあり。斑土粒を含む。

IXD3h 土坑



1. 7.5Y R% 暗褐色土 しまりなし。炭化物を少量含む。
2. 10Y R% 黄褐色土 しまりあり。

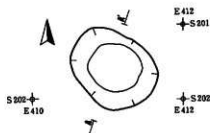
IXD8g-3 土坑



1. 7.5Y R% 褐色土 しまりなし。
2. 7.5Y R% 暗褐色土 ややしまりあり。小角礫を含む。
3. 7.5Y R% 灰褐色土 小角礫を含む。
4. 7.5Y R% 褐色土 固くしまっている。小角礫を含む。
5. 10Y R% 褐色土 小角礫を含む。

IXD0g 土坑

E450
+ S180



1. 7.5Y R% 暗褐色土 固くしまっている。褐色土をブロック状に含む。
2. 7.5Y R% 褐色土 固くしまっている。暗褐色土をブロック状に含む。

IXE3a 土坑



第308図 土坑(7)

IX D 0 g 土坑 (遺構番号282)

遺構 (第309図)

東尾根南斜面に位置する。褐色土層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。平面形は、長軸が等高線にほぼ平行する楕円形である。規模は、開口部径 165 × 255 cm、底部径 120 × 210 cmである。上位は褐色土層、下位は基盤層を壁とし、ほぼ直立する。深さは53cmである。埋土は5層で構成されるが、非常に固く締まる灰褐色土を主体とする。壁際には崩落土が混入し、全体として自然堆積の様相を示す。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。東壁際に柱穴を1個検出した。径は18×20cm、深さ19cmである。周溝が、東壁際の一部と北壁際に通る。規模は、幅14～22cm、深さ2～5cmである。東壁際の周溝が途切れる位置に柱穴が位置する。

遺物 (第321図、写真図版227)

1361・1362は粘土に繊維を混入する組縄縄文の土器片である。1364はノッチ部分が細くない点が特徴的である。1365は両面の平坦部に凹みが数箇所観察される。他に埋土から、縄文時代前期の網目状捺糸文、木目状捺糸文の土器小片が出土している。

時期 出土土器から、縄文時代前期に属すると推定される。

IX E 3 a 土坑 (遺構番号283)

遺構 (第309図、写真図版124)

東尾根南麓の平坦部に位置する。褐色土層上面で検出した。平面形は歪な円形で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は、開口部径95×120cm、底部径60×70cm、深さ17cmである。埋土は微細な炭化物を多く含む黒褐色土を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ平坦である。

遺物 (第321図、写真図版227)

1366の1点のみの出土である。やや屈曲した棒状の自然石の一部に磨面が観察される。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

IX D 1 g 土坑 (遺構番号284)

遺構 (第310図、写真図版127)

東西尾根南斜面に位置する。IX D 1 g - 3 住居跡の北壁および床面から検出された。同住居の埋土観察から、同住居は本土坑を壊して構築されたと考えられる。南壁と底面の一部は消滅している。平面形は、長軸が等高線にほぼ直交する小判形で、その方向はN-8°-Wである。断面形はフラスコ状である。規模は短軸方向で開口部径105cm・底部径80cmで、長軸方向は、

残存する周構から、底部で180cm程度と推定される。深さは60cmである。埋土は黒色土と褐色土の混土を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、ほぼ水平で平坦である。壁際に周構が検出された。南側は斜面のため消失しているが、全周するものと推定される。規模は、幅6～9cm、深さ4～5cmである。遺物は出土していない。

時期 重複関係から、縄文時代前期に属するものと推定される。

X D 2 f 土坑 (遺構番号285)

遺構 (第310図、写真図版125)

西尾根南斜面に位置する。褐色土層を掘り込んで構築されている。平面形は、長軸が斜面に平行する楕円形で、その方向はほぼ東西方向と一致する。壁は北壁はほぼ直立し、南壁はやや外傾する。規模は開口部径170×250cm、底部径160×220cm、深さ53cmである。埋土は、黒色土と褐色土の混土および褐色土を主体とする。底面は基盤層である黄褐色土で、斜面に沿ってやや傾斜し、比高最大値18cmである。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

XI B 9 f 土坑 (遺構番号286)

遺構 (第316図、写真図版125)

東尾根東斜面に位置する。基盤層上面で検出した。長軸が等高線に斜交する不整な楕円形で、その方向はN-65°-Wである。壁はやや凹凸があり、全体として外傾する。規模は開口部径85×120cm、底部径40×65cm、深さ42cmである。埋土は締まりを欠く黒褐色土を主体とする。底面はやや凹凸があり、中央部が最も低い。埋土から縄文土器の細片が1点出土している。

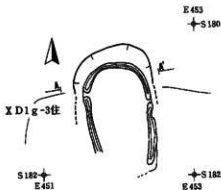
時期 特定する資料を欠き、不明である。

XI B 9 h 土坑 (遺構番号287)

遺構 (第310図、写真図版125)

東尾根東斜面に位置する。基盤層上面で検出した。北西部分で擾乱を受けている。長軸が等高線に斜交する不整な楕円形で、その方向はN-65°-Wである。壁はやや凹凸があり、斜面上方にあたる北壁はほぼ直立し、南壁は緩やかに立ち上がる。規模は開口部径80×102cm、底部径50×80cm、深さ16cmである。埋土は微細な炭化物を微量含む黒褐色土による単層である。底面は基盤層である黄褐色土で、やや凹凸がある。遺物は出土していない。

時期 特定する資料を欠き、不明である。

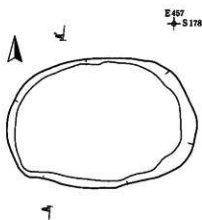


▲ L = 272.000m ▲



1. 10Y R 列 褐色土 褐色土との混土。小角礫を含む。
2. 10Y R 列 褐色土 しまりあり。1層より褐色土少ない。

XD1g土坑

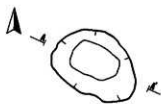


▲ L = 273.500m ▲



1. 10Y R 列 褐色土 極めてしまりなし。黄土。
2. 7.5Y R 列 褐色土 小角礫を含む。
3. 7.5Y R 列 褐色土 褐色土を含む。
4. 7.5Y R 列 褐色土 腐植土。小角礫を含む。
5. 10Y R 列 褐色土 小角礫を含む。

XD2f土坑



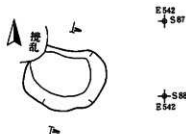
▲ L = 285.000m ▲



1. 10Y R 列 黒褐色土 しまりなし。炭化物を散見含む。
2. 10Y R 列 褐色土 しまりなし。暗褐色土をブロック状に含む。

XD9f土坑

0 2m



▲ L = 286.500m ▲



1. 10Y R 列 黒褐色土 しまりあり。褐色土をブロック状に含む。炭化物を散見含む。

XD9h土坑

XI B 0 h 土坑 (遺構番号288)

遺構 (第311図、写真図版125)

東尾根東斜面に位置する。基盤層上面で検出した。平面形は、長軸が等高線に斜交する不整な楕円形で、その方向はN-24°-Eである。円形で、壁は、外傾気味に立上がる。規模は、開口部径96×120cm、底部径68×90cm、深さ33cmである。埋土は4層に分けられるが、褐色土を主体とする。底面は小さな凹凸があるが、全体としてはほぼ水平である。

遺物 (第321図、写真図版227)

1367の他に、埋土から100g出土しているが極細片のみである。

時期 時期を特定することは困難であり、不明としておく。

XI B 0 i 土坑 (遺構番号289)

遺構 (第311図、写真図版126)

東尾根東斜面に位置する。基盤層上面で検出した。平面形は不整な円形で、斜面上方に当たる北東壁が緩やかに立ち上がる。他はほぼ直立する。規模は、開口部径80×98cm、底部径42×58cm、深さ40cmである。埋土は微細な炭化物を微量含む黒褐色土を主体とし、斜面上方寄りに崩落土と考えられる黄褐色土が混入する。底面は小さな凹凸はあるが、全体としてはほぼ水平で平坦である。埋土から縄文時代前期のものと思われる無文の土器片が1点、詳細不明の細片1点が出土している。

時期 時期を特定することは困難であり、不明としておく。

XI C 5 f 土坑 (遺構番号290)

遺構 (第311図、写真図版126)

東尾根東斜面に位置する。第IV層黒褐色土層上面で検出した。平面形は円形で壁はほぼ直立する。規模は開口部径77×80cm、底部径64×75cm、深さ20cmである。埋土は黒色土がそのほとんどを占める。底面は基盤層である黄褐色土でややゆるい凹凸がある。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

XI C 5 f-2 土坑 (遺構番号290)

遺構 (第311図、写真図版126)

東尾根東斜面に位置する。第IV層黒褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、断面形はフラスコ状である。規模は開口部径93×103cm、底部径110cm、深さ37cmである。埋土は締まりを欠く黒色土を主体とし、壁際に崩落土を少量含む。底面はほぼ水平で平坦である。

遺物 埋土からR L単節斜縄文の土器片が1点出土したが、図示は省略した。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

XI E 1 c 土坑 (遺構番号292)

遺構 (第311図、写真図版126)

C区西緩斜面に位置する。基盤層上面で検出した。平面形は円形で、壁はやや外傾する。規模は、開口部径98×104 cm、底部径67×74 cm、深さ57 cmである。埋土は8層に分かれるが、上位は黒色土～黒褐色土、下位は黄褐色土を基調とし、全体としてU字状～レンズ状に堆積している。底面は基盤層である黄褐色土で、中央部が最も深い。遺物は出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

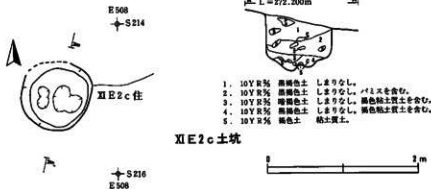
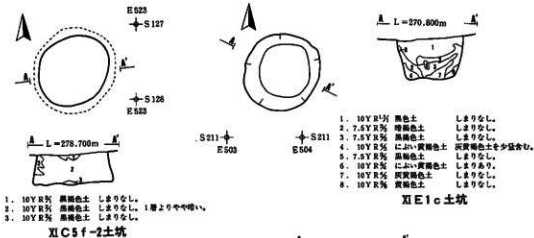
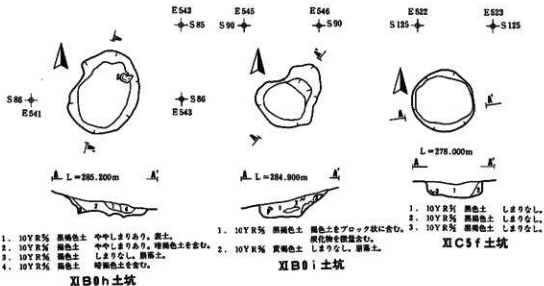
XI E 2 c 土坑 (遺構番号293)

遺構 (第311図、写真図版127)

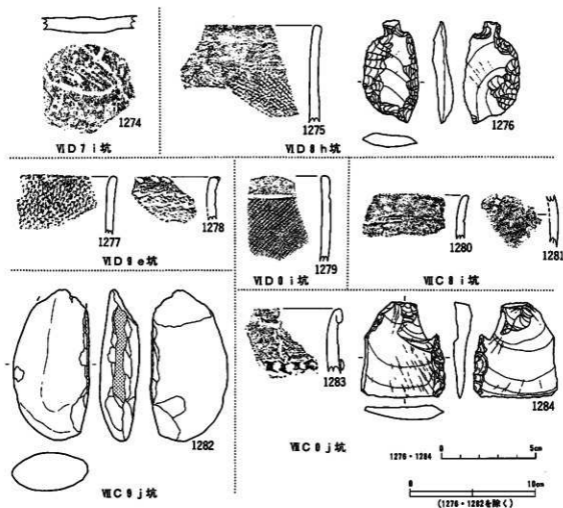
C区西緩斜面に位置する。XI C 2 c 住居跡の精査中に検出した。北側の壁を誤って掘り過ぎてしまった。平面形は円形で、壁はほぼ直立する。規模は、開口部径100 cm、底部径80 cmで、深さは概ね60 cm、最深部で78 cmである。埋土は、締まりを欠く黒褐色土～黒色土を主体とし、十和田 a 降下火山灰 (付編1 参照) がスポット状に散在する。

遺物 埋土中位から土師器甕胴部の小破片が1点出土している。図示は省略した。

時期 検出面・埋土・出土遺物から、平安時代に属するものと考えられる。



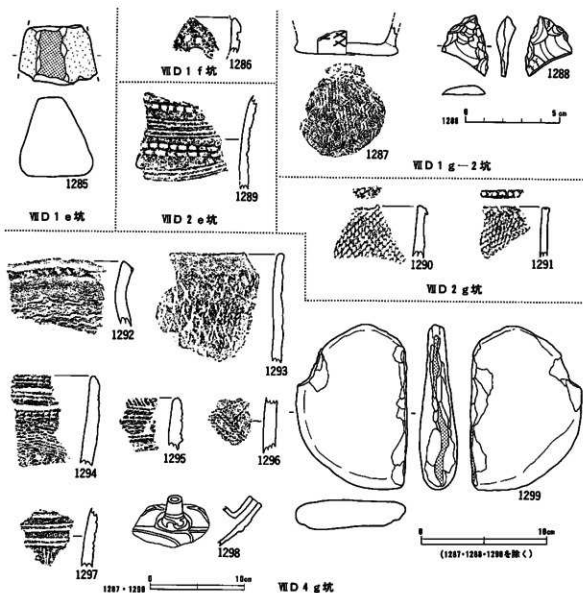
第311図 土坑(7)



番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底部直徑	器高	備考	分類	写真
1274	VD7 i 坑	埋土	木葉文							220
1275	VD8 h 坑	埋土中位	横位線文	縞線				縞線わずかに混入		220
1277	VD9 e 坑	埋土		縦横線文				縞線混入		220
1278	VD9 e 坑	埋土	口唇端棒状工具による割み、横位線文							220
1279	VD9 i 坑	埋土	小波状口縁、口縁部段状線文を磨研して横文帯とする。	L.R 模						220
1280	VC9 i 坑	埋土	L.R 模印痕							220
1281	VC9 i 坑	埋土	棒状工具による押し引き?							220
1283	VC9 j 坑	埋土	唇令口縁、器身上左方向からの割れ痕印痕、L.R 模印痕(上唇部線部印痕)							220

番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
1276	VD8 h 坑	埋土上位	石匙	軽粗岩	北上山地	5.4	2.9	1.2	12.60		I b3	220
1282	VC9 j 坑	埋土	腕輪形磨A器	緑色粗灰質硬砂岩	北上山地	11.9	6.0	5.9	2053		II b	220
1284	VC9 j 坑	埋土上位	不定形石器	硬質泥岩	平石西部	5.0	4.4	0.7	17.30	腕輪形磨B器、器縁の一部のみ方形形成	II	220

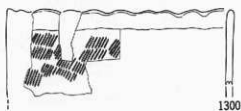
第312図 土坑内出土遺物(1)



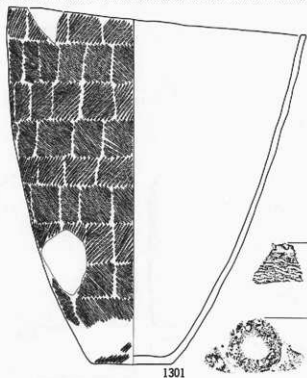
番号	出土地点	層位	文様	地名	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1286	ⅧD1 f 坑	北平塚土	剥落した最層か? 竹管削突。							220
1287	ⅧD1 g-2 坑	北平塚土		R 網目状巻糸文	-	11.0	2.0			221
1289	ⅧD2 e 坑	埴土	手鍬竹管平行沈蝕。棒状工具による斜位削突。							II 7 221
1290	ⅧD2 g 坑	埴土	口唇部縄文彫文。	縞縞縄文				縞縞混入。		II 1 a 221
1291	ⅧD2 g 坑	埴土	口唇部圧痕。	縞縞縄文				縞縞混入。		II 1 a 221
1292	ⅧD4 g 坑	埴土	口唇部へ糸工による右方向からの削み。重層する縞位縞彫文。							II 3 221
1293	ⅧD4 g 坑	埴土		L 網目状巻糸文						II 6 221
1294	ⅧD4 g 坑	埴土	手鍬竹管削突(押し引き)。沈蝕(凹蝕)。	R 縞糸文。						II 7 221
1295	ⅧD4 g 坑	埴土	口唇部棒状工具による削み。手鍬竹管押し引き。							221
1296	ⅧD4 g 坑	埴土	互し痕部圧痕。							III a 221
1297	ⅧD4 g 坑	埴土	手鍬竹管平行沈蝕(押し引き)。	L 縞糸文。						II 7 221
1298	ⅧD4 g 坑	埴土	三叉文							II 2 221

番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
1285	ⅧD1 e 坑	埴土	融着磨製A群	両輝石安山岩	奥羽山地	4.0	6.2	6.2	(50)	平磨面3面。	I a	221
1288	ⅧD1 g-2 坑	埴土	不定形石器	燧岩硬岩	宇石西部	3.2	2.5	0.5	3.56	折断面(折痕面)あり。	W	221
1289	ⅧD4 g 坑	埴土	融着磨製A群	輝石安山岩	北上山地	13.0	8.0	8.4	400		III b 2	221

第313圖 土坑内出土遺物(2)



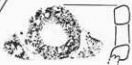
ⅦD 4 g-3 坑



ⅦD 5 g 坑



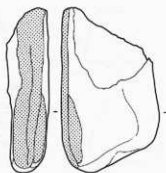
1302



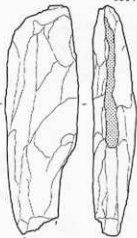
1303



ⅦD 5 g-3 坑



1304



1305

ⅦD 5 g-2 坑

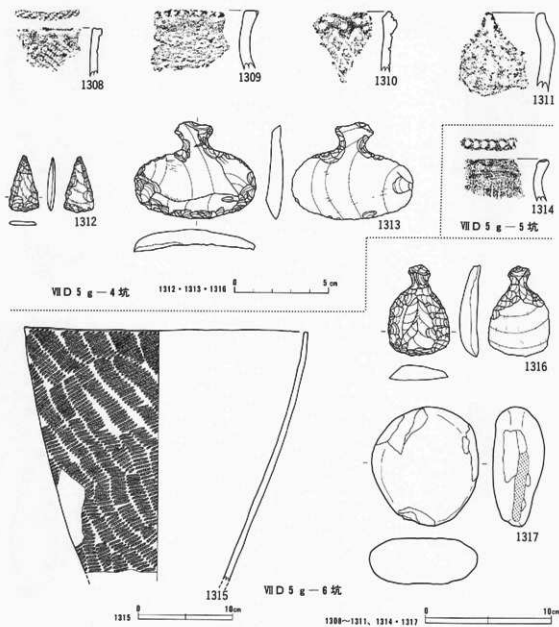


上記を除く

番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	器高	備考	分類	写真
1300	ⅦD 4 g-3 坑	埋土	網状口縁、口縁部軸文	L 瓦縷	[24.3]	-	(9.3)		V 2	222
1301	ⅦD 5 g 坑	埋土上段		L 瓦縷結束取状横文	31.5	8.1	38.0		V	222
1302	ⅦD 5 g 坑	埋土	口縁部棒状工具による割み、重層する横位縦横文。						IIa 2	222
1303	ⅦD 5 g 坑	埋土	口縁部円筒状裝飾体。編組による割突か？						IIIa 2	222

番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
1304	ⅦD 5 g-3 坑	埋土	磁器器型A群	磁灰質硬砂岩	北上山地	(12.0)	(7.7)	(7.4)	(400)	割縁無し。	Ia	222
1305	ⅦD 5 g-3 坑	埋土	磁器器型A群	磁灰質千枚岩	北上山地	(18.2)	5.9	5.8	(460)		IIa 2	222
1306	ⅦD 5 g-3 坑	埋土	石蓋	硬質泥岩	平石西部	2.8	1.6	0.4	(2.14)	裏面に平形痕あり、左側縁に一部欠損痕あり。	IIa 2	222
1307	ⅦD 5 g-3 坑	埋土	石蓋	硬質泥岩	平石西部	2.9	2.0	0.2	(1.77)	割縁二次加工。中央部は平段で耳縁性に欠ける。	IIa 2	222

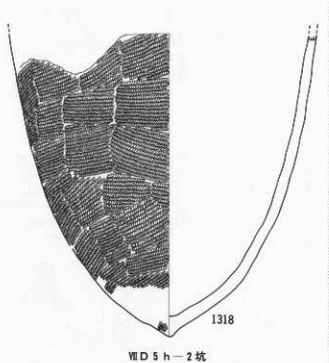
第314図 土坑内出土遺物(3)



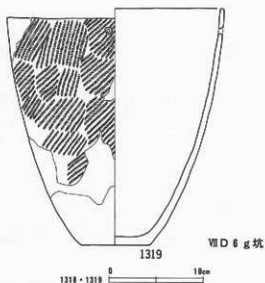
番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底径	器高	備考	分類	写真
1308	VII D 5 g-4 坑	埋土	口唇部 L.R 施文。	L.R 縦、縦付線施文。						222
1309	VII D 5 g-4 坑	埋土	口唇部厚状工具による右方向からの削み、重層する横位線施文。						II 3	222
1310	VII D 5 g-4 坑	埋土	口縁部厚状装飾部、装飾部上行管刺突。	R 斜目状施文。					II 6	222
1311	VII D 5 g-4 坑	埋土	大液状口縁。							222
1314	VII D 5 g-4 坑	埋土	口唇部右方向からの指痕状存痕。	L 横施文。					II 6	223
1315	VII D 5 g-4 坑	埋土		L.R 横	26.0	-	106.0		V	223

番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真	
1312	VII D 5 g-4 坑	埋土	石鏃	粘板岩	北上山地	3.0	1.6	0.4	1.40		II 1	223
1313	VII D 5 g-4 坑	埋土	石鏃	珉質泥岩	宇石西部	5.1	6.5	1.3	23.73		II 5	223
1316	VII D 5 g-6 坑	埋土	石鏃	珉質泥岩	宇石西部	4.8	3.3	0.7	14.33		II 8	223
1317	VII D 5 g-6 坑	埋土	磁器器蓋口縁	凝灰岩	北上山地	9.4	8.5	3.6	4.00	割込に磨痕、剥離を伴う痕あり。	V	223

第315図 土坑内出土遺物(4)

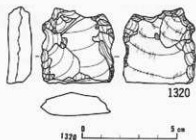


VII D 5 h-2 坑



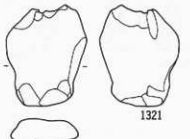
VII D 6 g 坑

1318 · 1319 0 18cm

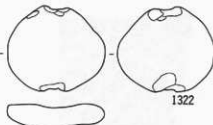


1320

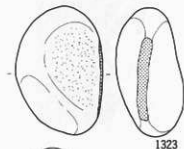
0 5cm



1321



1322



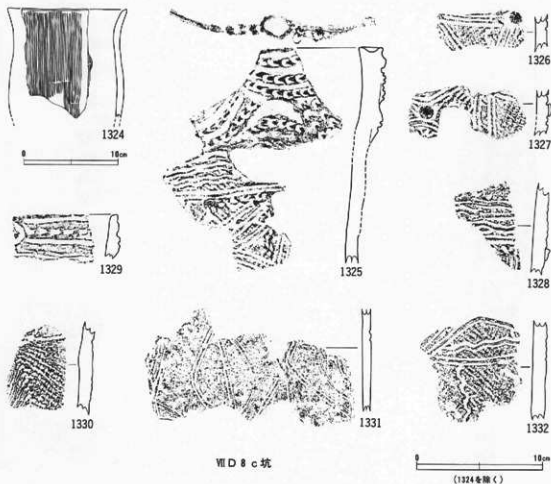
1323

1321~1323 0 16cm

番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底徑	高さ	備考	分類	写真
1318	VII D 5 h-2 坑	埋土	尖柱	網織羅文	-	-	深1)	編押混入。	II a	223
1319	VII D 6 g 坑	埋土		L 紋様	23.0	7.4	25.2	捺彫孔。	V	224

番号	出土地点	層位	器種	材質	所在地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真	
1320	VII D 6 g 坑	埋土	不定形石器	硬質燧石質泥岩	北山西部	4.9	3.8	1.0	27.36	側面觀が歪曲線。	II	224
1321	VII D 6 g 坑	埋土	石錘	綠礫石片岩	北山山地	8.0	6.4	1.9	132		I	224
1322	VII D 6 g 坑	埋土	石錘	綠礫石片岩	北山山地	28.7	43.2	4.0	146		II	224
1323	VII D 6 g 坑	埋土	刮削器類A群	凝灰質硬砂岩	北山山地	10.1	7.0	6.8	460	平端面1面。割線無し。	I a)	224

第316圖 土坑内出土遺物(5)

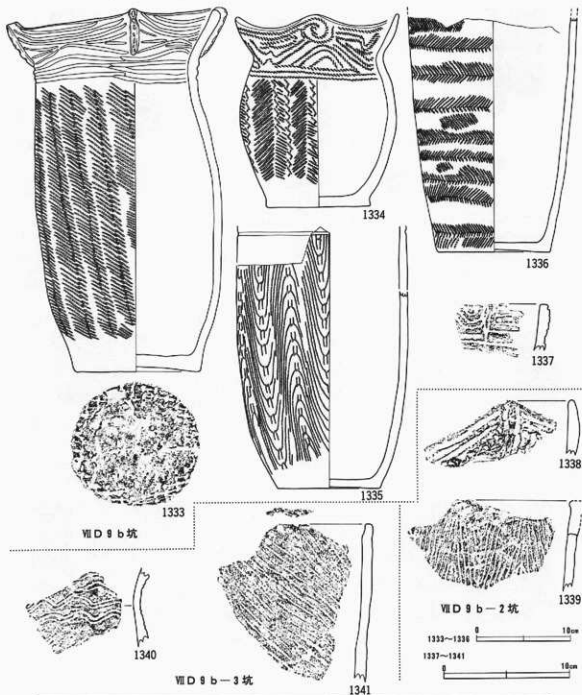


ⅧD 8 c 坑

(1324を除く)

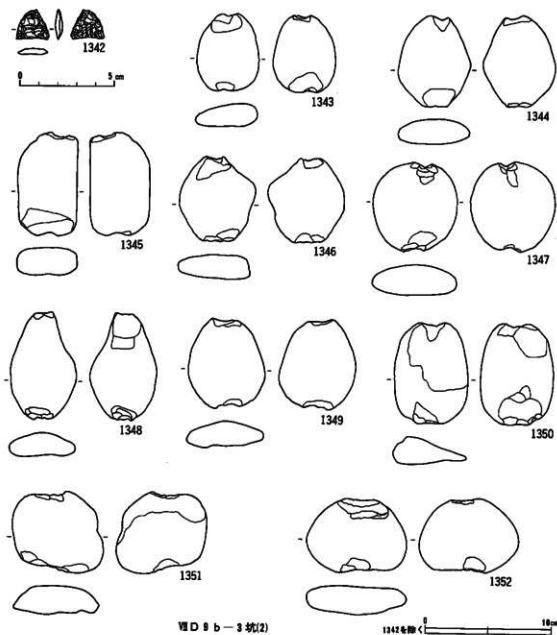
番号	出土地点	層位	文様	地文	11 種織度層	総高	備考	分類	写真
1324	ⅧD 8 c 坑	埋土	縦条状沈線(縦位)		(12.5)	-	(11.5)		Ⅷ9a 224
1325	ⅧD 8 c 坑	埋土	大波状模様、後部上半横竹管付織、半横竹管平行沈線。					1326、1327と同じ織体	Ⅷ1a 224
1326	ⅧD 8 c 坑	埋土	半横竹管平行沈線、ボタン状突起貼り付付。	L 京織。				1325、1327と同じ織体	Ⅷ1a 224
1327	ⅧD 8 c 坑	埋土	半横竹管平行沈線、ボタン状突起貼り付付。	L 京織。				1325、1326と同じ織体	Ⅷ1a 224
1328	ⅧD 8 c 坑	埋土	隣部上棒状工具による割み、半横竹管平行沈線。						Ⅷ1a 224
1329	ⅧD 8 c 坑	埋土	竹管外面による右方向からの斜位割裂、沈線(同織)。						224
1330	ⅧD 8 c 坑	埋土	L 京織面行波	L 京×R 京帯1種縦条状織文					224
1331	ⅧD 8 c 坑	埋土	半横竹管平行沈線。						224
1332	ⅧD 8 c 坑	埋土	半横竹管平行沈線。	L 京織、片部が縦位織結文。					Ⅷ1a 224

第317図 土坑内出土遺物(6)



番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	器高	備考	分類	写真
1333	甕D9b坑	表面	縦い波状口縁、肩部垂下隆帯に刺突、沈線(凹線)	L R 縦	19.3	13.3	37.8		II7 a	225
1334	甕D9b坑	表面	波状口縁、L R 側面平肌	L R × R L 帯1種組身取縁文	17.4	11.0	20.4		225	
1335	甕D9b坑	埋土	口頸部沈線(凹線)	R 木目状標赤文	-	10.8	27.8		II7 a	225
1336	甕D9b坑	埋土	沈線(モチーフ不明)	L R × R L 帯1種組身取縁文	-	12.0	25.0		225	
1337	甕D9b坑	埋土	沈線(モチーフ不明)						225	
1338	甕D9b-2坑	埋土	波状口縁、沈線(凹線)、器外周による右方向からの凹取縁						II 7	225
1339	甕D9b-2坑	埋土	波状口縁	R 木目状標赤文					II 6	225
1340	甕D9b-3坑	埋土	平截竹管平行波状沈線						II 7	225
1341	甕D9b-3坑	埋土	花卉状口縁	L 標赤文					II 6	225

第318図 土坑内出土遺物(7)

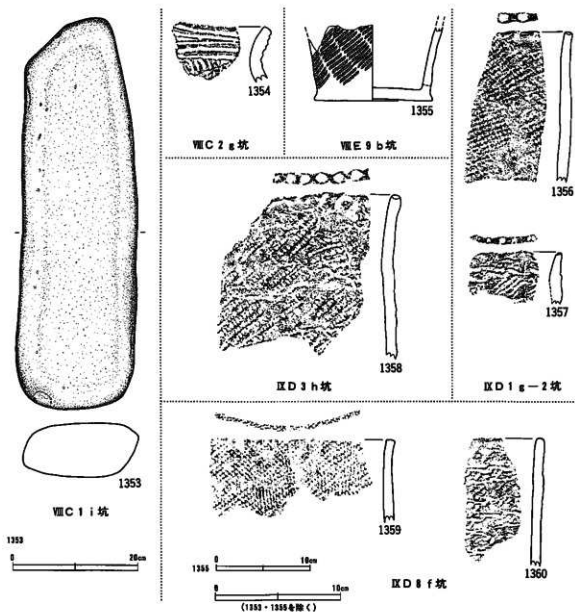


ⅧD 9 b-3 坑(2)

1342号物 < 10cm

番号	出土地点	层位	器种	石质	产地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
1342	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	硬灰質硬泥岩	华石西部	1.5	1.7	0.3	0.66			Ⅱa 225
1343	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	6.1	4.9	1.6	95		I	225
1344	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	7.2	5.7	2.0	135		I	225
1345	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	8.2	4.7	2.2	140		I	225
1346	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	6.6	6.0	1.9	110		I	226
1347	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	7.0	6.6	2.4	170		I	226
1348	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	硬灰質硬泥岩	北上山地	8.5	5.3	1.8	120		I	226
1349	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	7.1	6.1	2.0	125		I	226
1350	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	8.3	5.8	2.2	129		I	226
1351	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	燧石岩	北上山地	6.4	7.0	2.3	145		II	226
1352	ⅧD 9 b-3 坑	壤土	石鏃	硬砂岩	北上山地	5.9	7.8	2.2	140		II	226

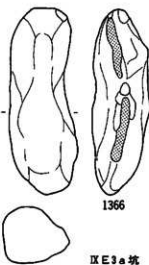
第319图 土坑内出土遺物(6)



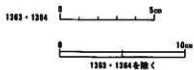
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1354	VIC 2 g 坑	埋土	沈澱 (彫刻)						III	226
1355	VIC 9 b 坑	埋土		L 字横						226
1356	VIC 2 g 坑	埋土中位	口縁部褶皺状圧痕	L 字横, 横位線跡文,					IIIb	226
1357	VIC 1 g-2 坑	埋土中位		L 横, 横位線跡文,					IIIb	226
1358	VIC 3 h 坑	床面	口縁部褶皺状圧痕,	L 字横, 横位線跡文,					IIIb	226
1359	VIC 1 g-2 坑	埋土下位	口縁部に 6 角文,	縦横網文					III a	226
1360	VIC 8 f 坑	埋土下位	重なる層位線跡文,						III	226

番号	出土地点	層位	種類	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
1353	VIC 1 i 坑	床面	石柱	延長燧石	北上山地	82.2	19.2	8.4	140g			

第320圖 土坑内出土遺物(9)



XI B 0 h 坑



番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底径後	高さ	番号	分類	写真
1361	IX D 0 g 坑	透洞							織物遺入。II 1 a	227
1362	IX D 0 g 坑	透洞		縹緋織文					織物遺入。II 1 a	227
1367	XI B 0 h 坑	埋土	磨地等 (凹線を掻くことによって作出)	L R 模。						227

番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	番号	分類	写真
1363	IX D 0 g 坑	埋土	石匙	透岩凝灰	宇石西郡	5.5	2.6	0.8	10.18		1 b 2	227
1364	IX D 0 g 坑	埋土	石匙	粘板岩	北上山地	8.1	4.7	1.7	46.38		1 b 1	227
1365	IX D 0 g 坑	埋土	磨物器類 A 群	凝灰質硬砂岩	北上山地	13.4	13.0	3.2	320	+ 附石。	II a 1	227
1366	IX D 0 g 坑	埋土	磨物器類 A 群	緑色凝灰岩	北上山地	14.9	4.7	5.3	450		I a 1	227

第321図 土坑内出土遺物(0)

3. 陥し穴

VC 8 J 陥し穴 (遺構番号301)

遺構 (第322図、写真図版127)

A区南斜面に位置する。基盤層上面で検出した。新期の道路部分に当たり、人力による掘り下げが困難だったことから重機により削削した。構築面はより上層であった可能性がある。

平面形は中央部がやや広い溝状で、長軸が等高線にほぼ平行し、その方向はN-32°-Eである。短軸断面形はU字状であるが、検出状況に記したように、上半部を削削した可能性がある。北壁はややオーバーハング気味であるが、南壁はほぼ直立する。規模は開口部52×370cm、底部18×370cm、深さ73cmである。埋土は6層に分けられ、上位は黒褐色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土である。最上位には十和田a降下火山灰(付編1参照)が含まれる。底面は、ほぼ平坦であるが、全体として南側に傾斜し、比高最大値27cmである。遺物は出土していない。

時期 特定する資料を欠くが、形状から縄文時代中期から後期に属するものと推定される。

VD 7 e 陥し穴 (遺構番号302)

遺構 (第322図、写真図版128)

西尾根南麓平坦部への変換点に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は、長軸が等高線にほぼ平行する長方形で、その方向はN-65°-Eである。側壁は底部から中位までほぼ直立し、その後開口部に向かって外反気味に外傾する。短軸方向の壁はほぼ直立する。規模は開口部105×212cm、底部47×183cm、深さ100cmである。埋土は6層に分けられ、上位は褐色土、中位は黒褐色土、下位は基盤層起源のいぶい黄褐色土が、全体としてU字状に堆積する。最上位に薄く灰白色火山灰が堆積している。底面は、常時湧水があり、施設の有無等の確認は十分にはできなかったが、ほぼ平坦であると観察された。

遺物 (第325図、写真図版227)

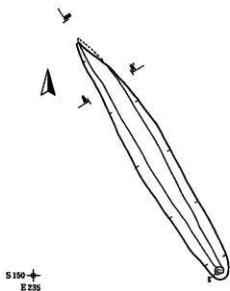
図示した他に、埋土から縄文時代前期のRL単節斜縄文の破片が出土している。

時期 特定する資料を欠き不明である。

VD 8 b 陥し穴 (遺構番号303)

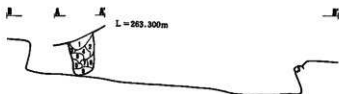
遺構 (第322図、写真図版128)

西尾根南麓平坦部への変換点に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は隅丸方形で、壁は底部からやや内傾した後外傾する。規模は、開口部110×134cm、底部78×88cm、深さ70cmである。埋土は9層に分けられるが、全体的に黒色土・黒褐色土が卓越し、最下位に褐色土が堆積する。底面中央部に副穴が検出された。規模は開口部15×18cm、深さ6cmと浅いもの



E 238

+ S 147

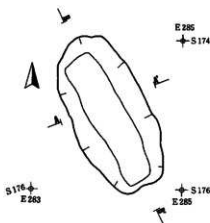


1. 10Y R% 黒褐色土 しまりなし
2. 10Y R% 黒褐色土 しまりなし、褐色土を含む。
3. 10Y R% 褐色土 しまりあり、腐葉土。
4. 10Y R% 黒褐色土 しまりなし、灰白色土を含む。
5. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし、腐葉土を含む。
6. 10Y R% 質褐色土 しまりなし、腐葉土を含む。
7. 10Y R% 褐色土 しまりなし。
8. 10Y R% 黒褐色土 しまりなし、褐色土、灰白色土を砂状に含む。

+ S 150

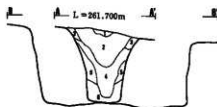
E 238

VC8j 陥し穴



E 285

+ S 174



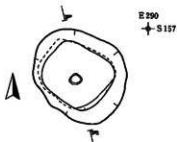
1. 10Y R% 暗褐色土 ややしりあり、褐色土を粒状に含む。
2. 10Y R% 褐色土 ややしりあり、にぶい質褐色土を小ブロック状に含む。
3. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし、草木屑を含む。
4. 10Y R% 黒褐色土 しまりなし、質褐色土を粒状に含む。
5. 10Y R% 黒褐色土 しまりなし、灰質褐色土を小ブロック状に含む。
6. 10Y R% にぶい質褐色土 しまりなし、腐葉土、砂を含む。

S 176 +
E 283

+ S 176

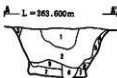
E 285

VI D7e 陥し穴



E 290

+ S 157



1. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。
2. 10Y R% 褐色土 固くしまっている。小角礫を含む。
3. 10Y R% 暗褐色土 固くしまっている。
4. 10Y R% 褐色土 しまりなし。
5. 10Y R% 暗褐色土 しまりなし。
6. 10Y R% 褐色土 固くしまっている。
7. 10Y R% 暗褐色土 固くしまっている。
8. 10Y R% 褐色土 しまりなし。
9. 10Y R% 褐色土 しまりなし。

S 159 +
E 288

+ S 159

E 290

IV VI D8b 陥し穴



第322図 陥し穴(1)

である。

遺物 埋土上位から組縄縄文の小破片2点が出土している。

時期 特定する資料を欠くが、形状から縄文時代前期初頭と推定される。

ⅦC 8 g 陥し穴 (遺構番号304)

遺構 (第323図、写真図版128)

西尾根頂部に位置する。小角礫を含む暗褐色土層上面で検出した。平面形は、長軸が尾根方向に直交する隅丸長方形で、その方向はN-55°-Wである。壁は長軸中央部はやや外反気味の部分があるが、全体的に概ね直線的に急角度で外傾する。規模は、開口部110×186cm、底部40×134cm、深さ142cmである。埋土は10層に分けられる。第1層は腐植土層である黒色土であるが、他は再堆積層および基盤層起源の褐色土～明黄褐色土がU字状に堆積する。底面は小さな凹凸はあるが、全体的には平坦で、やや東側に傾斜する。

遺物 埋土中位から縄文時代前期の網目状摺糸文の土器片が出土している。

時期 特定する資料を欠き不明である。

ⅦD 1 j 陥し穴 (遺構番号305)

遺構 (第323図、写真図版128)

西尾根南西麓部に位置する。小角礫を含む暗褐色土層上面で検出した。平面形は、歪な円形で、壁は底部から外反気味に立ち上がる。規模は、開口部130×142cm、底部70×70cm、深さ102cmである。埋土は11層に分けられる。上位は腐植土である黒色土、下位は褐色土・および崩落土である明褐色土を主体とし、自然堆積の様相を示す。底面は小さな凹凸はあるが、全体的には平坦である。遺物は出土していない。

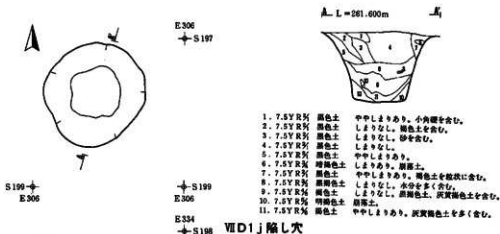
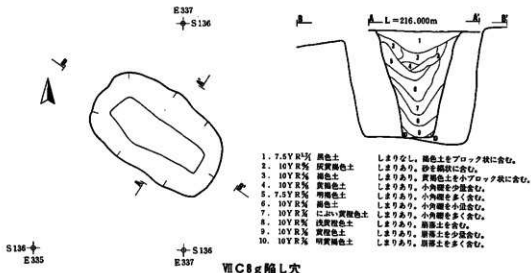
時期 特定する資料を欠くが、形状から縄文時代前期初頭と推定される。

ⅦD 7 j 陥し穴 (遺構番号306)

遺構 (第323図、写真図版129)

西尾根南麓の平坦部で、沢への移行部に位置する。暗褐色土層上面で検出した。平面形は円形で、壁は底部から中位まではほぼ直立し、その後開口部に向かってやや外傾する。規模は、開口部122×135cm、底部80×100cm、深さ74cmである。埋土は9層に分けられるが、黒色土と黒褐色土が主体をなし、下位に崩落土を含む。底面は、ほぼ水平で平坦である。底面中央部に副穴が1個検出された。規模は開口部径18cm、深さ10cmである。

遺物 埋土から、縄文時代前期の繊維を含有する0段多糸・LR単節斜縄文の土器片が出土



第323図 陥し穴(2)

している。

時期 特定する資料を欠くが、形状から縄文時代前期初頭と推定される。

ⅦC 1 f 陥し穴 (遺構番号307)

遺構 (第324図、写真図版129)

西尾根東斜面に位置する。小角礫を含む暗褐色土層上面で検出した。平面形は、長軸が等高線にはほぼ直交する溝状で、その方向はN-52°-Eである。壁は、短軸方向にはほぼ直立し、長軸方向は底部からほぼ直立し、開口部に近づくると内湾気味に外傾する。規模は、開口部80×230cm、底部18×198cm、深さ104cmである。埋土は10層に分けられるが、第4・6・7・8層は崩落土と思われ、間層として暗褐色土層起源の埋土が堆積している。第2・3層部分も崩落していて原形をとどめているものではないと考えられる。底面は平坦であるが、斜面沿ってやや傾斜し、比高最大値28cmである。

遺物 埋土から、縄文時代前期の綾絡文、木目状摺糸文の土器片が少量出土している。

時期 不明であるが、形状は縄文時代中期から後期に属するものと類似する。

ⅦD 2 c 陥し穴 (遺構番号308)

遺構 (第324図、写真図版129)

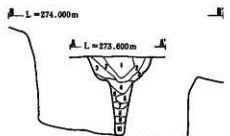
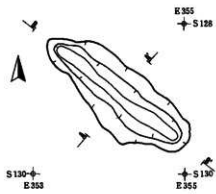
西尾根東斜面下位に位置する。基盤層上面で検出したが、新期の整地に伴う擾乱がある場所で、本来の構築面はより上位からであったと考えられる。平面形は、長軸が等高線にはほぼ直交する長方形で、その方向はN-25°-Wである。壁は全体にやや外傾する。規模は、開口部114×218cm、底部55×170cm、深さ70cmである。埋土は4層に分けられる。最上位には灰白色火山灰が混入する砂質土が堆積し、壁際には崩落土が堆積する。底面はほぼ平坦であるが、斜面に沿って南側にやや傾斜し、比高最大値25cmである。遺物は出土していない。

時期 特定する資料を欠き不明である。

ⅨD 6 b 陥し穴 (遺構番号309)

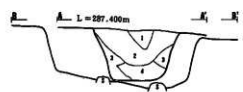
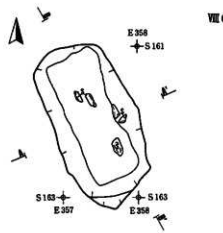
遺構 (第324図、写真図版129)

東尾根西斜面に位置する。黄褐色土層上面で検出した。平面形は、長軸が等高線にはほぼ平行する隅丸長方形を基調とし、開口部は小判形である。長軸方向はN-15°-Eである。壁は、底部から30cmの高さまではほぼ直立し、その後2つの変換点を有して外傾する。規模は、開口部240×305cm、底部70×178cm、深さ180cmである。埋土は20層に分けられる。最上位は腐植土層である黒色土が堆積し、第3・4層には灰白色火山灰(附篇1参照)が竊状に混入する。



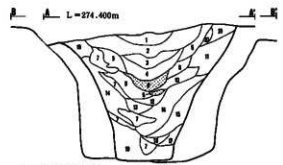
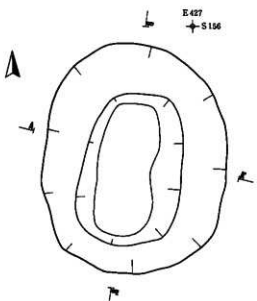
- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 10Y R% 黒褐色土 | しまりなし。小角礫を少量含む。 |
| 2. 10Y R% 暗褐色土 | しまりなし。黄褐色土をブロック状に含む。 |
| 3. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。暗褐色土をブロック状に含む。 |
| 4. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。暗褐色土。小角礫を含む。 |
| 5. 10Y R% 褐色土 | しまりなし。暗褐色土。小角礫を含む。 |
| 6. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。暗褐色土。小角礫を含む。 |
| 7. 10Y R% 明黄褐色土 | ややしまりあり。小角礫を含む。 |
| 8. 10Y R% におい黄褐色土 | しまりなし。小角礫を含む。腐葉土。 |
| 9. 10Y R% 暗褐色土 | しまりなし。褐色土。黄褐色土。小角礫を含む。 |
| 10. 10Y R% 褐色土 | しまりなし。砂を含む。 |

ⅢC1f 陥し穴



- | | |
|-----------------|--------|
| 1. 10Y R% 灰黄褐色土 | しまりあり。 |
| 2. 10Y R% 灰褐色土 | しまりなし。 |
| 3. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。 |
| 4. 10Y R% 暗褐色土 | しまりなし。 |

ⅢD2c 陥し穴



- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 10Y R% 褐色土 | しまりなし。 |
| 2. 10Y R% 黄褐色土 | ややしまりあり。 |
| 3. 10Y R% におい黄褐色土 | しまりなし。 |
| 4. 10Y R% 明黄褐色土 | ややしまりあり。 |
| 5. 10Y R% 明黄褐色土 | ややしまりあり。バクスを含む。 |
| 6. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。 |
| 7. 10Y R% 黄褐色土 | 粘土質。しまりなし。明黄褐色土との混土。 |
| 8. 10Y R% 灰白色 | バミス。固くしまっている。 |
| 9. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。 |
| 10. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。 |
| 11. 7.5Y R% 褐色土 | ややしまりあり。 |
| 12. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。 |
| 13. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。 |
| 14. 7.5Y R% 暗褐色土 | しまりなし。 |
| 15. 7.5Y R% 褐色土 | 14層は、14層に7層の粘土を含む。 |
| 16. 10Y R% 褐色土 | しまりなし。 |
| 17. 10Y R% 明黄褐色土 | 固くしまっている。 |
| 18. 10Y R% 黄褐色土 | 7層の粘土をブロック状に含む。 |
| 19. 10Y R% 褐色土 | しまりなし。 |
| 20. 10Y R% 黄褐色土 | しまりなし。 |

ⅢD8b 陥し穴

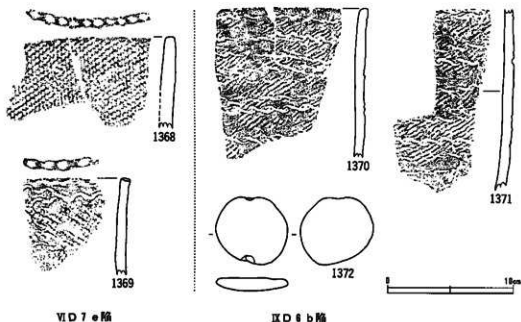


第324図 陥し穴(3)

中位は再堆積層起源と考えられる褐色土が主体を占め、壁際は崩落土である黄褐色～明黄褐色土が堆積する。全体としてはレンズ状を呈する。底面はほぼ水平で平坦であり、粘土質土であるため湧水により軟質となっている。

遺物（第325図、写真図版227）

図示した2点は同一個体であるが、1371は底面直上、1370は埋土中位からの出土である。
 時期 特定する資料を欠き不明である。



番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底徑	器高	備考	分類	写真
1368	VI D 7 e 陶	埋土	口唇部指痕状圧痕。	縦縞筋文						227
1369	VI D 7 e 陶	埋土	口唇部指痕状圧痕。口縁下縦筋文。	凡し横。						227
1370	IX D 6 b 陶	埋土中位		L R 横。横位縦筋文。					1371と同一個体。	227
1371	IX D 6 b 陶	底面直上		L R 横。縦位縦筋文。					1370と同一個体。	227

番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
1372	IX D 6 b 陶	埋土下位	石輪	埋土質凝灰岩	北上山城	5.3	5.8	1.1	45		I	227

第325図 陥し穴出土遺物

4. 土器埋設遺構

ⅧC 6 h 土器埋設遺構 (遺構番号401)

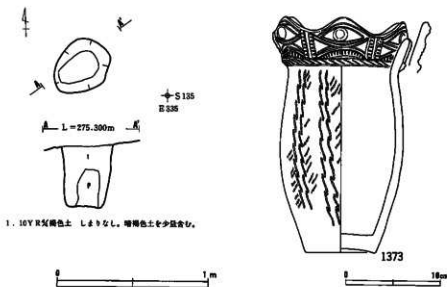
遺構 (第326図、写真図版130)

西尾根頂部に位置する。小角礫を含む暗褐色土層下位でⅧC 6 h 住居跡の精査中に検出したが、断面によって暗褐色土層上位から掘り込んでいることが観察された。土器は底面に口縁部を接して倒立した状態で検出された。掘り方の規模は開口部34×42cm、底部14×28cm、深さ40cmである。埋土は褐色土の単層で締まりを欠く。底面はほぼ水平で平坦である。

遺物 (第326図、写真図版227)

1373が、倒立して埋設されていた深鉢である。6単位の波状口縁を有し、頸部には鋭い斜位の刻みが施された隆帯を巡らしている。口縁波底部からは筧状工具を連続刺突した2本の隆帯が垂下する。同隆帯の区画内には弧線が1画ずつ描かれる。頂部下の弧線内には指頭大の凹文が、頸部隆帯側の上向きの弧線内には筧状工具による連続刺突が施されている。胴部には2条単位の綾結文が縦走する。

時期 埋設された土器から、縄文時代前期末葉から中期初頭と考えられる。



1. 10Y R 質褐色土 しまりなし。暗褐色土を少量含む。

番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	器高	備考	分類	写真
1373	ⅧC 6 h 埋設		波状口縁・上刻み目、口縁部波状底文、8つの隆帯を有する波状口縁、頸部下斜文	縦縞、腰状縦結文	14.9	7.5	25.0			227

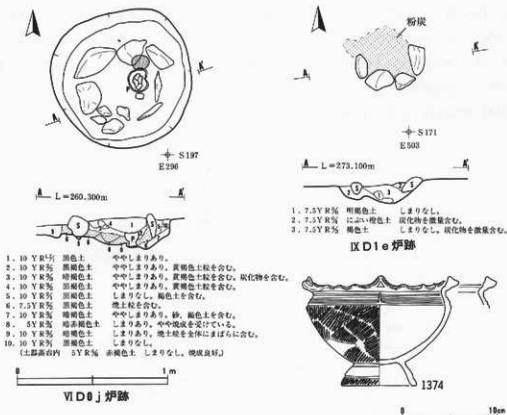
第326図 ⅧC 6 h 土器埋設遺構・埋設土器

5. 炉跡

VI D 0 j 炉跡 (遺構番号501)

遺構 (第327図、写真図版130)

西尾根南麓の平坦部に位置する。表土下の暗褐色土層上面で、炉跡のみ単独で検出した。長さ10～30cmの10個の亜角礫を円形に配し、規模は外法で55×68cmである。亜角礫は全体的に焼成痕を残す。内部には、焼土粒が混入した黒色土・黒褐色土が堆積しており、やや東寄りに高台つきの鉢形土器がやや斜めに埋設される。高台内には明瞭な焼土がパツクされている。炉の構築に伴うと考えられる径90cmの円形の掘り方が確認された。



番号	出土地点	特性	文様	地文	口径	底径	器高	備考	分類	写真
1374	VI D 0 j 炉跡	が埋設	口縁に4つの突起。比類による文様。	L R 横	16.7	8.6	11.6		V	228

第327図 炉跡・出土遺物

11.6

遺物 (第327図、写真図版228)

1374が、炉内に埋設された土器である。口縁部は小波状で4か所に突起をもつ。内側にも横位の沈線が引かれ、突起部は「人」字状となる。全体に焼成を受けて赤変している。

時期 埋設された土器から、縄文晩期中葉に属する。

Ⅺ D 1 ● 炉跡 (遺構番号502)

遺構 (第327図、写真図版130)

東尾根南東斜面に位置する。表土下の黒色土上面で検出された。住居のプランや柱穴などは検出できなかった。南側4個の自然礫で構成される。北側半分には礫も、礫の抜き取り痕も確認できなかった。4個の自然礫のうち3個は角礫を用い、残り1個は丸礫である。2個についてその内側に焼成痕が残る。炉内部は焼土の発達が弱く、断面に僅かに現れる程度で、炉外の土と大差ない。炉内には粉炭が多く散在する。構成礫は15~20cmの大きさで、石質は、丸礫が半花崗閃緑岩(北上山地産・中生界)、角礫が緑色凝灰岩質千枚岩(北上山地産・中生界)である。礫の周辺では、断面観察においては僅かな掘り方が観察されたが、明瞭なものではない。遺物は、周辺から縄文時代前期の土器片が出土しているが、本遺構に伴うものかどうかは確認できない。

時期 特定する資料を欠き不明である。

6. 焼土遺構

焼土遺構は、B区の次の3区域において多く検出された。西尾根の南斜面~南麓、同じく頂部~東斜面、東尾根の南斜面~南麓である。それは、竪穴住居跡や土坑が集中する区域でもある。また、焼土遺構の検出面は、住居跡などの検出面より上層である場合もあるが、多くはそれと同じである場合が多い。これらの焼土の中には、住居に伴う地床炉であったものも含まれている可能性も否定できないが、壁や柱穴など住居と認定できる要素を認め得なかったものである。屋外炉の可能性もあるが、それを特定する判断材料は得られなかったことからすべて、同列的に扱うこととする。

焼土の断面観察から、明らかに異地性であると判断されたものは、1遺構を除き、遺構扱いせず図面もとらなかつた。すなわちここに報告する焼土は原則的には、原位置を保っていると想定されるものである。

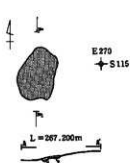
一つ一つの遺構の説明は表によって行うこととする。

遺構名	VID 5 d 焼土 (遺構番号601)				VID h 焼土 (遺構番号602)				VID 6 a 焼土 (遺構番号603)				
照準	写真照準	照準	328	写真照準	照準	328	写真照準	照準	328	写真照準	照準	328	写真照準
検出面	小角礫を含む暗褐色土層下位				暗褐色土層上面				黒褐色土層上面				
平面形	不整な楕円形				不整形				不整形				
規模	径	48×70cm	厚	8 cm	径	68×78cm	厚	6 cm	径	75×110cm	厚	13cm	
備考	縄文時代前期の住居跡と同じ検出面である。				VID 7 g 住居跡に近接する。検出面は、同住居と同一面である。木根により一部擾乱を受けている。				黒褐色土が焼土化したものである。				
時期	検出面から縄文時代に属するものと推定される。				検出面から縄文時代に属するものと推定される。				特定する資料を欠き不明である。				

遺構名	VID 5 b 焼土 (遺構番号604)				VID 5 d 焼土 (遺構番号605)				VID 5 f 焼土 (遺構番号606)					
照準	写真照準	照準	328	写真照準	照準	328	写真照準	131	照準	328	写真照準	照準	328	写真照準
検出面	小角礫を含む暗褐色土層下位				小角礫を含む暗褐色土層下位				小角礫を含む暗褐色土層下位					
平面形	不整形				不整形				不整な円形					
規模	径	70×105cm	厚	14cm	径	56×88cm	厚	18cm	径	26×28cm	厚	5 cm		
備考	本焼土の周囲で炭化材や縄文土器片が多く検出されていること、本焼土が固くしっかりしたものであることから、住居に伴うものであった可能性が高い。				暗褐色土層が焼土化したもので、固くしっかりしている。本焼土も住居の炉であった可能性が高い。				暗褐色土層が焼土化したもので固くしまっている。					
時期	検出面から縄文時代に属するものと推定される。				検出面から縄文時代に属するものと推定される。				検出面から縄文時代に属するものと推定される。					

遺構名	VID 5 h 焼土 (遺構番号607)				VIC 5 h 焼土 (遺構番号608)										
照準	写真照準	照準	328	写真照準	131	照準	328	写真照準	131	照準	328	写真照準	照準	328	写真照準
検出面	表土直下暗褐色土層上位				小角礫を含む暗褐色土層下位										
平面形	不整な帯状				不整形										
規模	径	65×180cm	厚	12cm	径	36×50cm	厚	6 cm	径		厚				
備考	断面形は薄状で、脆く散細な炭化物を含んでいる。長軸方向が等高線にはほぼ直交する。斜面上位と下位の焼土の比高最大値は71cmで、傾斜角は約23°である。遺物は出土していない。				暗褐色土層下位から相当量の遺物が出土し、それらを取り上げ後に検出した。焼土周辺にフラットな部分があり、住居に伴う焼土である可能性が高い。出土した遺物は縄文時代前期の網目状燃糸文・木目状燃糸文の土器片で、被熱しているものあり。										
時期	表土下での検出であり、不明である。				検出状況から、縄文時代前期に属するものと推定される。										

第 8 表 焼土遺構観察表(1)



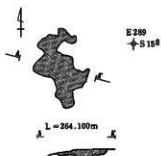
1. 2.5YR% 暗赤褐色土 焼土、ややしまりあり。
2. 2.5YR% 赤褐色土 焼土、ややしまりあり。

VIC5d 焼土



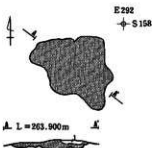
1. 7.5YR% 暗褐色土 本層底
2. 5YR% 赤褐色土 焼土、しまりなし。

VID7h 焼土



- 5YR% 明赤褐色土 焼土、ややしまりあり。

VID8a 焼土



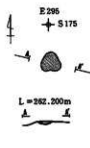
1. 10YR% 暗褐色土 ややしまりあり、焼土粒を若干含む。
2. 2.5YR% 赤褐色土 焼土、しまりあり。

VID9b 焼土



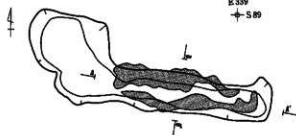
1. 5YR% 明赤褐色土 焼土、極めて固くしまっている。
2. 7.5YR% 暗褐色土 やや焼成を受けている、しまりあり。

VID9d 焼土



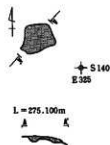
- 5YR% 赤褐色土 焼土、固くしまっている。

VID9f 焼土



1. 10YR% 暗褐色土 しまりなし。
2. 7.5YR% 暗褐色土 ややしまりあり、炭化物を微量含む。
3. 10YR% 暗褐色土 ややしまりあり。
4. 5YR% 赤褐色土 焼土、しまりなし。

VIC5h 焼土



- 5YR% 明赤褐色土 焼土、しまりなし。

VIC5b 焼土

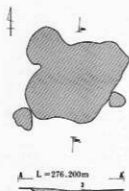
第328図 焼土遺構(1)

遺構名	ⅥC 9 a 焼土 (遺構番号609)	ⅥC 9 b 焼土 (遺構番号610)	Ⅵ1 j 焼土 (遺構番号611)
図面番号/写真図番号	図 329, 333 写真図 229	図 329 写真図	図 329 写真図
検出面	小角礫を含む暗褐色土層下位	小角礫を含む暗褐色土層下位	暗褐色土層上面
平面形	不整形	不整形	不整形
規模	96図 106×120cm 厚 10cm	96図 70×90cm 厚 10cm	96図 42×52cm 厚 10cm
備考	暗褐色土層下位から相当量の遺物が出土し、それらと共に検出された。断面から2単位あることが考えられる。1375～1378を共存遺物として把握した。住居の炉であった可能性が高い。	断面形はレンズ状で、固くしっぺりしている。地床炉の可能性もあるが、壁や柱穴は確認できなかった。近接した地点から石礫が出土している。	擾乱を受けているが、基盤層まで焼成が及んでいることから現地性の焼土と考えられる。
時期	検出状況から、縄文時代前期に属するものと推定される。	検出面から、縄文時代に属するものと推定される。	特定する資料を欠き不明である。

遺構名	ⅥD 3 g 焼土 (遺構番号612)	ⅥD 3 f 焼土 (遺構番号613)	ⅥD 5 h 焼土 (遺構番号614)
図面番号/写真図番号	図 329 写真図 131	図 329 写真図	図 329 写真図
検出面	小角礫を含む暗褐色土層下位	小角礫を含む暗褐色土層下位	基盤層へ漸移する暗褐色土層
平面形	不整な円形	不整形	不整形
規模	96図 50×50cm 厚 9 cm	96図 30×46cm 厚 4 cm	96図 35×40cm 厚 5 cm
備考	断面形はレンズ状で、固くしっぺりしている。本焼土の周辺は平坦であり、住居の炉である可能性が高い。が、新期の道路造成による擾乱を受けており、詳細は不明である。2047の石礫が本遺構に伴う可能性がある。	一部擾乱があるものの、漸移的に固くしっぺりした焼土が形成される。	ⅥD 5 h-2 焼土と同時に、それと近接して検出された。本焼土および同焼土付近からは縄文時代前期の土器片が多く出土しており、住居の炉である可能性がある。
時期	検出面から、縄文時代に属するものと推定される。	検出面から、縄文時代に属するものと推定される。	検出状況から、縄文時代前期に属するものと推定される。

遺構名	ⅥD 5 h-2 焼土 (遺構番号615)	ⅥD 8 h 焼土 (遺構番号616)	ⅥD 8 j 焼土 (遺構番号617)
図面番号/写真図番号	図 329 写真図	図 329 写真図	図 329 写真図
検出面	基盤層へ漸移する暗褐色土層	小角礫を含む暗褐色土層	基盤層へ漸移する暗褐色土層
平面形	不整形	不整形	不整形
規模	96図 20×33cm 厚 7 cm	96図 × cm 厚 cm	96図 62×70cm 厚 8 cm
備考	ⅥD 5 h 焼土と同時に検出した。この2基の焼土は同レベルにあり、遺物量も比較的多かったことから、住居の炉であった可能性がある。	平面で3単位、断面で4単位のまとまりが見られるが、近接していることから同じ性格のものとして把え1遺構として扱った。漸移的に焼土化しており、現地性のものと考えられる。	焼土は締まりを欠くが、断面形はレンズ状を呈し、現地性と考えられる。
時期	検出状況から、縄文時代前期に属するものと推定される。	検出面から、縄文時代に属するものと推定される。	検出面から、縄文時代に属するものと推定される。

第7表 焼土遺構観察表(2)



E344
 ⊕ S122

1. 5 YR% 明赤褐色土 焼土。しまりなし。
2. 5 YR% 赤褐色土 焼土。炭化物を含む。
3. 10 YR% 褐色土 しまりなし。
4. 10 YR% 褐色土 しまりなし。

VII C9e 焼土

E314
 ⊕ S181



1. 5 YR% 赤褐色土 焼土。極めて固くしまっている。
2. 5 YR% 赤褐色土 焼土。極めて固くしまっている。

VII D3g 焼土



S188
 ⊕ E319



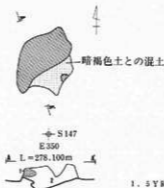
A...A'

1. 7.5 YR% 明褐色土 しまりあり。
2. 7.5 YR% 褐色土 焼土。固くしまっている。炭化物、パリスを含む。
3. 7.5 YR% 暗褐色土 しまりなし。

B...B'

1. 7.5 YR% 褐色土 焼土。しまりあり。
2. 7.5 YR% 暗褐色土 しまりなし。
3. 7.5 YR% 暗褐色土 しまりあり。
4. 7.5 YR% 暗褐色土 しまりあり。やや焼成を受けている。

VII D5h 焼土・VII D5h-2 焼土



⊕ S147
 E350

1. 5 YR% 明褐色土 焼土。極めて固くしまっている。
2. 5 YR% 褐色土 焼土を含む。

VII C0b 焼土



- 2.5 YR% 赤褐色土 固くしまっている。

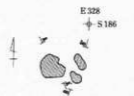
VII D5f 焼土



⊕ S193
 E304

1. 5 YR% 赤褐色土 焼土。固くしまっている。～与明褐色土。
2. 7.5 YR% 暗褐色土 しまりあり。焼成を受けている。

VII D1j 焼土



E328
 ⊕ S186



A...A'

- 5 YR% 明赤褐色土 焼土。

B...B'

- 5 YR% 赤褐色土 焼土。

VII D6h 焼土



⊕ S185
 E321



E397
 ⊕ S185

L=265.200m



- 2.5 YR% 暗赤褐色土 焼土。しまりなし。

VII D0j 焼土



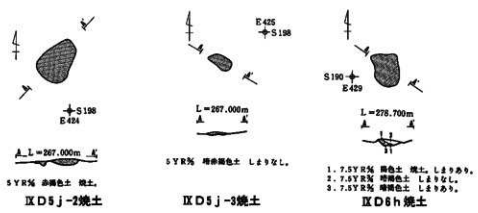
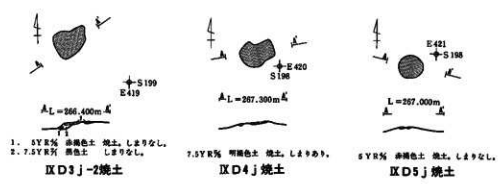
第329図 焼土遺構(2)

遺構名	ⅩD 1 j 焼土 (遺構番号618)				ⅩD 2 i 焼土 (遺構番号619)				ⅩD 3 j 焼土 (遺構番号620)				
図面番号	写期図番号	図面	330	写期図	図面	330	写期図	図面	330	写期図	図面	330	写期図
検出面	基盤層へ漸移する褐色土層				基盤層へ漸移する褐色土層				基盤層へ漸移する褐色土層				
平面形	円形				不整形				不整形				
規模	96範囲	25×30cm	厚さ	4 cm	96範囲	68×78cm	厚さ	6 cm	96範囲	20×50cm	厚さ	10cm	
備考	層厚は薄いが、原位置を保っていると考えられる。				木根による擾乱がある。焼土そのものは固くしまっており、漸移的に赤変している。				腐植土層下からⅩD 3 j-2 焼土と同時に検出した。固くしまっており、漸移的に赤変している。				
時期	検出面から、縄文時代に属するものと推定される。				検出面から縄文時代に属するものと推定される。				検出面から縄文時代に属するものと推定される。				

遺構名	ⅩD 3 j-2 焼土 (遺構番号621)				ⅩD 4 j 焼土 (遺構番号622)				ⅩD 5 j 焼土 (遺構番号623)				
図面番号	写期図番号	図面	330	写期図	図面	330	写期図	図面	330	写期図	図面	330	写期図
検出面	基盤層へ漸移する暗褐色土層				基盤層へ漸移する暗褐色土層				黒褐色土層				
平面形	不整形				不整形				円形				
規模	96範囲	40×50cm	厚さ	4 cm	96範囲	40×46cm	厚さ	3 cm	96範囲	30×32cm	厚さ	2 cm	
備考	腐植土層下からⅩD 3 j 焼土と同時に検出した。同焼土よりは軟質である。				一部擾乱を受けているが、漸移的に赤変している。				ⅩD 5 j-2 焼土、ⅩD 5 j-3 焼土と同時に同じ面で検出した。層厚薄く締まりを欠くが、黒褐色土層が焼成を受けたものである。本焼土の下からはⅩD 5 j-2 住居跡が検出された。				
時期	検出面から縄文時代に属するものと推定される。				検出面から縄文時代に属するものと推定される。				特定する資料を欠き不明である。				

遺構名	ⅩD 5 j-2 焼土 (遺構番号624)				ⅩD 5 j-3 焼土 (遺構番号625)				ⅩD 8 h 焼土 (遺構番号626)					
図面番号	写期図番号	図面	330	写期図	131	図面	330	写期図	図面	330	写期図	図面	330	写期図
検出面	黒褐色土層				黒褐色土層				基盤層					
平面形	不整形				不整形				不正な楕円形					
規模	96範囲	43×56cm	厚さ	9 cm	96範囲	19×36cm	厚さ	4 cm	96範囲	44×50cm	厚さ	12cm		
備考	ⅩD 5 j 焼土、ⅩD 5 j-3 焼土と同じ面で検出した。3基の焼土の中では最もしっかりしている。黒褐色土が焼土化したものでやや締まりを欠く。				ⅩD 5 j-2 焼土、ⅩD 5 j-3 焼土と同時に同じ面で検出した。層厚薄く締まりを欠くが、黒褐色土層が焼成を受けたものである。				近辺に倒木痕があり、その影響と考えられる擾乱がある。					
時期	特定する資料を欠き不明である。				特定する資料を欠き不明である。				検出面から縄文時代に属するものと推定される。					

第 8 表 焼土遺構観測表(3)



第330図 焼土遺構(3)

遺構名	ⅩD 8 g 焼土 (遺構番号627)	ⅩD 8 g-2 焼土 (遺構番号628)	ⅩD 8 h 焼土 (遺構番号629)
図面番号	ⅩD 331	ⅩD 331	ⅩD 331
検出面	小角礫を含む暗褐色土層	基礎層上面	小角礫を含む暗褐色土層
平面形	不整形	不整形	
規模	99範囲 40×78cm 厚さ 10cm	99範囲 28×43cm 厚さ 4cm	99範囲 34×52cm 厚さ 5cm
備考	ⅩD 8 g-2 住居跡の埋土に形成された焼土である。	ⅩD 8 g-3 住居跡の床面と同一面にあり、同住居の炉である可能性もあるが、同住居の推定範囲と若干ずれることから別個の遺構とした。	層厚は薄い。断面形はレンズ状を呈し、現地性のものと考えられる。
時期	検出面から縄文時代に属するものと推定される。	検出面から縄文時代に属するものと推定される。	検出面から縄文時代に属するものと推定される。

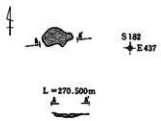
遺構名	ⅩD 8 f 焼土 (遺構番号630)	ⅩD 8 g (遺構番号631)	ⅩD 8 h 焼土 (遺構番号632)
図面番号	ⅩD 331	ⅩD 331	ⅩD 331
検出面	小角礫を含む暗褐色土層	小角礫を含む暗褐色土層	基礎層上面
平面形	不整形	不整形	不整形
規模	99範囲 (22)×53cm 厚さ (9)cm	99範囲 34×43cm 厚さ 14cm	99範囲 28×56cm 厚さ 8cm
備考	検出時に、誤って北半分を掘り過ぎてしまった。住居跡の炉を想定して精査をしたが壁は確認できなかった。	住居跡の炉を想定して精査したが、壁は確認できなかった。焼成は弱い。	住居跡の炉を想定して精査したが壁は確認できなかった。
時期	検出面から縄文時代に属するものと推定される。	検出面から縄文時代に属するものと推定される。	検出面から縄文時代に属するものと推定される。

遺構名	ⅩE 1 b 焼土 (遺構番号633)	ⅩE 2 a 焼土 (遺構番号634)	ⅩD 5 f 焼土 (遺構番号635)
図面番号	ⅩE 331	ⅩE 331	ⅩD 331
検出面	腐植土である黒色土層上面	腐植土である黒色土層上面	基礎層へ漸移する褐色土層
平面形	不整形	不整形	不整形
規模	99範囲 38×42cm 厚さ 12cm	99範囲 42×52cm 厚さ 14cm	99範囲 24×46cm 厚さ 9cm
備考	焼土は縮まりを欠く。	焼土は縮まりを欠く。	発色に均一性を欠くが、褐色土層そのものが黒褐色土と黄褐色土の混土層で不均一であることから現地性焼土として取り上げた。近接して炭化材片と縄文時代前期の土器片が出土している。
時期	特定する資料を欠き不明である。	特定する資料を欠き不明である。	検出面から縄文時代に属するものと推定される。

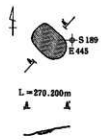
第 9 図 焼土遺構観察表(4)



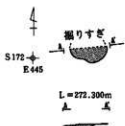
5YR% 赤褐色土 焼土、しまりあり。
IXD8g 焼土



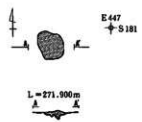
5YR% 赤褐色土 焼土、固くしまっている。
IXD8g-2 焼土



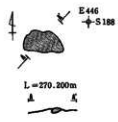
5YR% 赤褐色土 焼土、しまりなし。
IXD8h 焼土



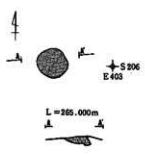
5YR% 赤褐色土 焼土、しまりなし。
IXD8f 焼土



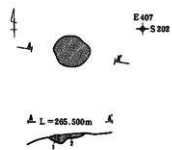
5YR% 暗赤褐色土 焼土、固くしまっている。
IXD8g 焼土



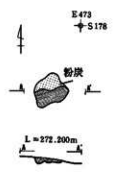
5YR% 暗赤褐色土 焼土、しまりなし。
IXD8h 焼土



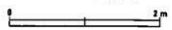
7.5YR% 褐色土 焼土、しまりなし。
IXE1b 焼土



1. 5YR% 暗赤褐色土 焼土、しまりなし。
2. 5YR% 赤褐色土 焼土、しまりなし。
IXE2a 焼土



5YR% 暗赤褐色土 焼土、しまりあり。
IXD5f 焼土

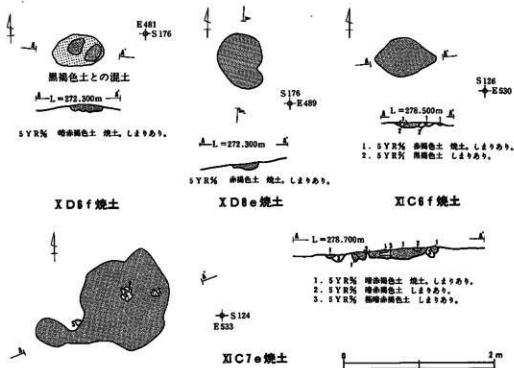


第331図 焼土遺構(4)

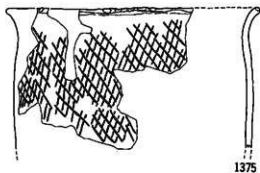
遺構名	XD8f焼土 (遺構番号636)		XD8e焼土 (遺構番号637)		XC6f焼土 (遺構番号638)			
図版番号	写取版番号	図版	332	写取版	図版	332	写取版	
検出面	基盤層へ漸移する褐色土層		黒色土層上面		黒褐色土層上面			
平面形	楕円形状		不整形		不整形円形			
規模	分範囲	40×70cm	厚さ	10cm	分範囲	52×82cm	厚さ	8cm
備考	平面では、焼成の中心が2単位あるように観察されたが、断面形はレンズ状で、単一のものと考えられる。		断面形はレンズ状で固く締まっている。		表土下の黒褐色土層が焼成を受けたものである。周辺からは、縄文土器片、土師器片が比較的多く出土した。			
時期	検出面から縄文時代に属するものと推定される。		検出面から縄文時代に属するものと推定される。		特定する資料を欠き不明である。			

遺構名	XC7e焼土 (遺構番号639)		図版番号	332, 333	写取版	131, 228	検出面	黒褐色土層上面
平面形	不整形		規模	分布範囲 124×194cm			厚さ	16cm
備考	全体的に固くしっかりした焼土であるが、発色・堅さにややむらがある。焼土の中に多量の土師器細片が混入する。これらのことから、本焼土は投棄されたものと考えられる。斜面上方約10mに平安時代の住居跡が存在する。						時期	出土遺物から、平安時代に属する。

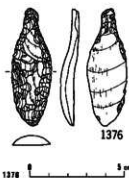
第10表 焼土遺構観察表(5)



第332図 焼土遺構(5)

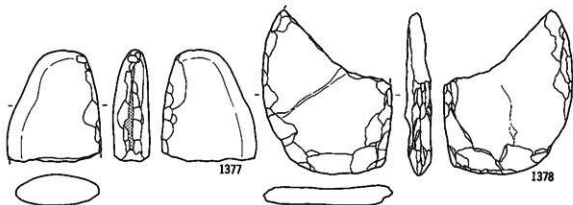


1375



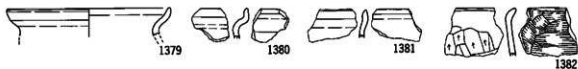
1376

1376 0 5 cm



VII C 9 e 焼土

1377 - 1378 0 10 cm



XI C 7 e 焼土

1379 - 1379 - 1382 0 10 cm

番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1375	VII C 9 e 焼		一部口唇部に雷線状圧痕(4カ所か?)	L.網目状磨糸文	(27.4)	-	(16.0)		II 6	228
1379	XI C 7 e 焼		ロクロ		(27.4)	-	(12.7)		III	228
1380	XI C 7 e 焼	暗褐色土	ロクロ		-	-	-		III	228
1381	XI C 7 e 焼		ロクロ		-	-	-		III	228
1382	XI C 7 e 焼		外面ケズリ、内面ナシ		-	-	-		III	228

番号	出土地点	層位	母種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
1376	VII C 9 e 焼		石胎	地質泥岩	平石西郷	6.2	2.1	0.6	15.44		Ia1	228
1377	VII C 9 e 焼		胎部部類A群	凝灰質硬砂岩	北上山地	8.8	7.5	6.4	(256)		III b	228
1378	VII C 9 e 焼		胎部部類A群	輝石安山岩	奥羽山地 (13)	10.2	1.5	(240)			III c	228

第333図 焼土遺構出土遺物

7. 遺構外出土遺物

(1) 土器・土製品

出土した土器は、遺構内・外合わせてコンテナで約170箱で、うち遺構外は約105箱である。大まかな数であるが大グリッド別の出土量を次表に示した。

大グリッド	III C	V C	V D	IV C	IV D	VII C	VII D	VII E	VIII C	VIII D	VIII E
箱数	0.5	0.5	1.5	1.5	8.0	42.5	15.5	2.0	5.5	5.0	3.0

IX C	IX D	XIC	計
0.5	11.5	8.0	105.5箱

第11表 大グリッド別土器出土量

比較的多量の出土量を示している区域は、多い順にVII C区、VII D区、IX D区、VII D区などであるが、これらの区域は遺構の検出数も多く、しかも著しい重複関係を示す区域と概ね重なる。特に原立って出土量が多いのはVII C区であるが、同区は西尾根を中心とする区域に当たる。西尾根の頂部ないし東斜面の土器出土量と遺構数の関係は上記の傾向を示すのに対して、西斜面においては多量の土器が出土しているにもかかわらず、遺構の検出数は希少である。

土器の分類基準については遺構内・外とも同一とし、遺構外遺物は出土地点とは無関係に分類基準に照らして掲載した。また同基準の大別は上八木田遺跡群の既刊報告書にあわせることとし、時期によって第I群から第VII群まで次のように設定した。

第I群 縄文早期 第II群 縄文前期 第III群 縄文中期 第IV群 縄文後期
 第V群 縄文晩期 第VI群 弥生 第VII 土師器 第VIII群 時期不明

またそれぞれの群の細分は、今日まで積み上げられてきた編年研究を踏まえ、概ね時期・型式に沿うように努めたが、本遺跡の出土遺物の主体をなす第II群土器については、装飾・文様・器形・地文など任意の基準を設けて行った。但し破片については、器形や全体の文様展開が不明であり、表れた特徴の一部を把えて分類してある。

土器

第I群土器：縄文早期に属する土器群

出土量は少なく、口縁部破片は全体で12点である。分布は西尾根西斜面、同南麓、東尾根

南麓で少量ずつ出土した他、V D 9 c の黒色土で1個体分がまとまって出土した。

I 群 1 類 (第356図1518～1524、写真図版238)

貝殻腹縁文・貝殻条痕文を主な文様構成要素とする土器を集めた。器形および全体の文様展開のわかるものは無い。口縁部は外削ぎである点が特徴的である。

1518と1519は胎土・焼成色調が酷似し同一個体の可能性が高い。貝殻腹縁による刺突を施した後、棒状工具による沈線を、外削ぎによる角度変換点に1条、刺突文を挟んで2条、横位に展開させる。1519の下位の2条の沈線の間には、沈線施工により右斜方向から刺突が連続しているが、1518にはそれは確認できない。1520は色調は異なるものの刺突・沈線の状況はほぼ等しい。沈線より下部は貝殻腹縁による条痕が施される。1521は条痕のみであるが、1520の下部にあたる可能性がある。1522～1524は沈線が付加されないものである。1523は緩い波状口縁を呈する。貝殻腹縁による刺突は浅い。1524には条痕が観察される。

I 群 2 類 (第335図1383、第356図1525～1528、写真図版229・238)

貝殻条痕文・沈線文・刺突文を主な文様構成要素とする土器群である。器形はキャリパー型を呈する。1383は沈線によって区画された部分を貝殻腹縁により充填している。焼成は良好で硬質である。下部は沈線が横位に数段施される。1525～1527は沈線を曲線的・幾何学的に施文する点は同様だが、同沈線上に腹縁文を施す点が異なる。要所に先端が鋭利な工具による刺突が施されるが1525のそののりはやや堆い。

第II群土器：縄文前期に属する土器群

II 群 1 類 (第335図1384～1386、第356図1529～第358図1556、写真図版229・238・239)

胎土に植物性繊維（以下単に繊維という）を多量に含む土器を集めた。地文・焼成などから a～d に細分する。

1 類 a. 組縄縄文^(注1)およびそれら近似する地文を有する土器群 (1384～1385、1529～1537) である。

西尾根と東尾根の各麓部からの出土が多い。尾根の頂部・鞍部、およびA区ではほとんど出土していない。器形は、口縁部に最大径を有して徐々にすばまり底部は尖底となる。焼成は軟質で色調はやや赤みを帯びるものが多い。

用いた縄には、2段 (1529、1530など) と3段 (1532、1535など) とがある。口唇部の形状や施文パターンには一様ではない。1384と1529は口唇部は無施文であるが丁寧に撫でられ、口唇部と器面との境界は明瞭な角を有する。口唇部に施文されるものでは指頭によるもの (1530～1532)、棒状工具によるもの (1533～1534)、地文原体によるもの (1535～1536) がある。1532は指頭圧痕が強く、細波状口縁状となる。1536は口唇部の内面にも外面と同一の施

文がなされる。他に比し焼成が良好で硬質である。

1類b. 地文がaと異なるが器形・胎土・焼成などが酷似する土器を集めた(1386、1538～1548)。分布はⅥD区などの西尾根南麓部、ⅧD区の南半である東尾根南麓部に厚い。僅かであるが西尾根鞍部からも出土している。地文は斜縄文・組紐等がある。aと同様に、口唇部への施文についてはバリエーションがある。

1538～1544は斜縄文を地文とする。1543と1544にはループ文に類似した文様が横位に等間隔につけられている。縄端を押圧したものであろうか。1386、1545～1549は組紐を地文とする。

1類c. 羽状縄文を地文とする土器群を集めた(1549～1554)。

結束の有無・器厚・胎土などから3分した。

ア、器厚が厚く、非結束の羽状縄文を有する土器(1549・1550)

イ、器厚が厚く、結束羽状縄文を有する土器(1551・1552)

ウ、器厚が薄く、非結束の羽状縄文を有する土器(1553・1554)

アは、器厚が最大15mmで、原体は太いものを用いて柔らかかなうちに施文しており、器面の凹凸が大きい。色調は暗褐色である。イは、焼成が良好で硬質で、色調は黄褐色で明るい。ウは原体の細い縄を用いており、やや軟質である。色調はやや赤みを帯びる褐色である。

1類d. 沈線のみが施文された土器である(1555・1556)。

図示した2点のみの出土である。繊維の含有率が大きく、破片の断面には細孔が顕著で、軽量である。外面はやや磨耗しているが内面は丁寧にみがきかけられているのが観察される。沈線は浅く、モチーフは不明である。焼成は良好で、色調は褐色である。

Ⅱ群2類(第335図1387～1390、第358図1557～第359図1577、写真図版229・239)

胎土に繊維を含有する土器で、1類と比較して隆帯・口唇部への施文など装飾性のあるものおよび燃糸文を有する土器を集めた。繊維の含有量は1類に比し少ないものが多い。

2類a. 地文に組紐を用いるもの(1387、1557～1562)。

1類にも組紐を地文とするものを入れたが、ここに分類したものは、繊維の含有量が少なく、焼成が良好で硬質で、色調は赤みを帯びた褐色のものが多い点などがそれと異なることから分別した。1387は上面観が楕円形を呈する。口縁部には綾絡文が横位に展開するが正整なものではない。口唇部に無施文のもの(1387、1559)もあるが口唇部へ施文されるものも多い。篋のような平坦な工具で押圧したもの(1557・1558)、棒状工具を器面に対して平行に(1560)、あるいは斜位に(1561)押圧したものなどがある。1559・1560は緩い組紐の回転により口縁部文様帯が形成される。1561には凹文が、1562には爪型押圧による隆帯が施される。

2類b. 地文に斜縄文他を用いるもの(1388～1390、1563～1574)。

ここに分類したものは、地文は異なるものの、胎土・焼成・施文の特徴がa種に類似するも

の多い。爪型押圧による隆帯を有するもの(1388、1563)や、口唇部端部に棒状工具で押圧したもの(1389・1390、1566～1569)などがそれである。やや砂も含有するもの(1564・1565)もある。1570～1574は地文の器面への施文が浅く、明瞭性を欠く。波状口縁や小突起を有する。

2類c. 地文に捺糸文を用いるもの(1575～1577)。

出土量は極少である。網目状捺糸文、木目状捺糸文が、いずれも横位に展開する。

II群3類(第336図1391～1394、第359図1578～第360図1601、写真図版229・239・240)

口縁部を主体に横位に重層する綾絡文や不整捺糸文を有する土器群で繊維を含むものが多いが、一部含まないものもここに入れた。VID区、IXD区などの尾根の麓部に分布する。A区や西尾根鞍部では出土していない。

3類a. 口縁部に横位に重層する綾絡文を有するもの(1391～1394、1578～1584、1586～1595)。

器形は、口縁部がやや外反して径が最大となる。頸部はやくびれ胴中央部で幾分膨らんだ後、曲線的にすばまって底部へと連続する。底部の形状については不明である。口縁には小突起がつくものも多く、口唇部に凹線が施されるもの、口唇端部に棒状工具による刻みが連続するものが一般的である。横位綾絡文は口縁部に限られるもの(1392・1593など)から胴中央部まで展開するもの(1391・1594など)まである。地文は、1392が組紐を用いている他はすべて斜縄文である。全体的に焼成は良好で硬質で、色調は灰黄褐色から明褐色のものが多い。

1595は口唇端部刻み目と横位綾絡文の間に、竹管による刺突文が鋸歯状に展開する。やや軟質で、繊維の含有量は他に比較して多い。

3類b. 不整捺糸文など、aに含まれないもの(1585、1596～1601)。

1585と1596は、胎土・焼成などはaに酷似する。1577は口縁部には不整捺糸文を、胴部には複節の羽状縄文を施文する。1598～1601は器面全体に不整捺糸文が施される。口唇部断面は丸みを帯びる。

II群4類(第336図1395、第361図1602～1608、写真図版229・240)

S字状連鎖沈文を有する土器で繊維を微量含む。焼成は良好で硬質であり、色調はにぶい黄褐色～にぶい黄橙色である。VID区のみで出土している。

S字状連鎖沈文が、器面全体に施されるものと、口縁部のみに施され胴部は縄文のもの(1395)とがある。口縁部は、外反するもの(1395・1605)、直立するもの(1602・1603)、内弯するもの(1607)と各種ある。口縁の断面は外削ぎのもの(1604・1605)があり、1605・1606は波状口縁であることが明らかである。

II群5類(第336図1396、第361図1609～1614、写真図版229・240)

口縁部または胴上半部に鋸歯状沈文が施される土器群である。分布は西尾根に厚く、口縁

部破片に限ると西尾根の麓部から7点、東尾根の麓部から2点である。

1609～1612は、焼成は良好で硬質、色調は黒褐色～暗褐色であるのに対し、1396・1613・1614は胎土に砂が混入しやや軟質で、色調は黄褐色である。1612には繊維を多く含む。沈線はやや深めの凹線である。1609～1611には、縦位の沈線が2本走る。1614には、一筆でカーブを描く部分がある。

II群 6類 (第337図1397～第350図1479、第361図1615～第369図1754、写真図版229～235、241～245)

繊維を含まず、地文に斜縄文・羽状縄文・各種捺糸文などを用い、装飾性の乏しい土器群を集めた。焼成は良好で硬質のものが多い。胎土には粗砂を含むものが多く、長石や黒雲母を含むものもある。内面は拙てやおさえた程度で研磨されるものはない。色調は黄褐色から暗褐色でやや赤味を帯びるものもある。調査区全域から出土するが、とくに西尾根の鞍部・東西両斜面からの出土が際立っている。

口縁部への加飾の有無によって二分する。

6類 a. 鋸歯状装飾体や弁状突起・円形突起など各種突起によって口縁部が加飾される土器群である (1397～1414、1615～1678)。

鋸歯状装飾体を有する土器は、遺構外からの出土はそれ程多くはないが、西尾根とその麓部に散在する。その他の突起を有する土器は西尾根鞍部と西斜面に多く、東西麓部がそれに次ぐ。装飾体や突起の形状などによりア～イに三分した。名称については下の模式図による。

ア、鋸歯状装飾体によって加飾されるもの (1397～1400、1615～1632)。

太い粘土紐を、口唇部に波状ないし鋸歯状に貼りつけて加飾するもので一括して鋸歯状装飾体と呼ぶことにする。装飾体上に施文されないもの (1397・1398、1615～1622など) と、竹管刺突などにより施文されるもの (1399・1400、1624～1628) がある。装飾体のほかに隆帯や沈線が付加されるもの (1399、1628～1632) などのバリエーションがある。器体に対して直角につけるものが殆どであるが、斜位につけられるもの (1615・1616・1630など) もある。1632は丸山状突起に隆帯が波状に垂下するものであるが、1631と同一個体であることからここに含めた。



第334図 突起名称概念図

これらの土器群の器形は、口縁部に最大径を有し、緩いカーブを描いて底部へと接続する。装飾については、2種のモチーフが2個一対で対向する位置にそれぞれ配置されるものが多い。1400にみられるように一方は大きく顕然としているのに対し、他方は指頭圧痕のみという相対的に消極的な装飾である。1631と1632も同様の関係で把握できる。

イ、弁状突起によって加飾されるもの (1401~1414、1633~1654)

突起上に施文されないもの (1401、1633~1639) もあるが、爪・指頭・沈線などによって施文されるもの (1402~1414) もある。さらに突起のほかに器面に隆帯や沈線が付加されるもの (1412~1414、1649~1654) がある。

これらの土器群もアと同様の器形を有する。底部が外側に張り出すものもあるが本種に限るものではない。装飾が、2個一対で対向する位置にそれぞれ配置されることもまた類似した特徴である。1402・1405・1411は大きさの異なる同種の突起を1対ずつもつものであり、1401は一方が退化して突起が1対のみとなるものである。1408も同じく弁状突起が1対のみのものであるが、低平化し平縁に近づいている。1409・1410は3対6個の弁状突起を有する。突起はほぼ同形同大である。

ウ、円形突起など各種突起によって加飾されるもの (1415・1416、1655~1678)

上面観が円形となる突起 (1655~1661)、半円状突起 (1415・1662)、山形突起とその組み合わせ (1663~1674) などがある。突起上に刺突が施されるもの (1660など) や器面に隆帯がつけられるもの (1666) がある。1632のように、アやイと組み合わせ用いられたものも多いと考えられる。

Ⅱ類b、口縁部に装飾体や突起を有しない土器群 (1417~1479、1679~1754) である。

一部に不明なものもあるが、地文・胎土・焼成・遺構内での共存関係などから、aと同類と考えられる。

ア、隆帯が、口頸部または胴上半部に、曲線的または幾何学的に展開する土器群 (1417~1420、1679~1707)。

出土分布状況は、西尾根の鞍部麓部全域から少量ずつ、東尾根の麓部からは口縁部破片に限ると3点のみである。

隆帯上に施文されないもの (1679~1681) と施文されるものがある。施文されるものでは沈線 (1682~1688) ・竹管刺突 (1690~1692など) ・指頭圧痕 (1693~1700など) ・地文原体 (1701) によるものなどがある。隆帯のモチーフには、波状 (1679~1681) ・鋸齒状 (1682・1683) ・鉤状ないし馬蹄形状 (1418・1685など) ・円形や渦巻状 (1419・1703~1707など) ほかがある。隆帯が器面に対し段差ないように丁寧に調整されるものは1706の1点のみであり、他はすべて無調整である。

イ、口縁に沿って籐状に隆帯が施される土器群 (1421～1429、1708～1722)。

隆帯は、断面が扁平で器面との接合部分は調整されない。隆帯上には指頭圧痕 (1708～1717など)・竹管刺突 (1425)・凹線 (1422)・縄文 (1718) が施される。隆帯上へ、2種の施文がなされるものがある。指頭圧痕+凹線 (1427・1428など)・竹管刺突+凹線 (1429) のパターンがある。1423の口唇部には、4個1単位の指頭圧痕が、4か所に施されるものと思われる。

ウ、口縁に沿って凹線・竹管文・綾格文他が施文され裝飾されるもの (1723～1727)。

平縁で、口頸部に凹線が横位に巡るもの (1723～1725)、波状口縁で、口縁に沿って凹線が施文されるもの (1727・1728) がある。1726は、沈線の流れから弁状口縁であろうと思われる。口唇部にも沈線が引かれる。

エ、地文のみで、指頭による前後波状口縁 (以下花卉状口縁という。) で裝飾されるもの (1430・1431、1729～1744)。

西尾根の鞍部と斜面、東尾根の南西両斜面と麓部で出土している。

地文には、縄文・燃糸文・網目状燃糸文・櫛歯状沈線などがある。パリエーションとして、前後波状の単位が大きいもの (1737・1741など) や小刻みなもの (1732)、口唇部が平坦に撫でられているもの (1733・1738など) や口唇断面が丸いもの (1735・1736) などがあつた。指頭のほかに爪痕が外面または内面に顕著な痕跡を残しているものも多い。1730と1734は、前後波状というよりは上斜め方向からの指頭圧痕で、オに分類したものととの中間形をしている。

オ、地文のみで、口唇部に指頭状圧痕などが施されるもの (1432～1439、1745～1750)。

指頭圧痕が口唇部全体に施文されるもの (1432～1435など) と、口唇の一部に施文されるもの (1437～1439、1749・1750) とがある。指頭押圧が強く施され、細波状口縁状をていするものも多い。

カ、地文のみで、その他の裝飾を有しないもの (1440～1479、1751～1754)。

波状口縁のものは1440・1441の2点を掲げた。1441のそれは緩やかである。平縁の地文には、斜縄文と綾格文 (1442～1445)・燃糸文 (1446～1450)・木目状燃糸文とその変形 (1451～1460)・網目状燃糸文 (1461～1476)・多軸輪条体回転文 (1477・1478)・付加条縄文 (1753・1754) などがあつた。

II群 7類 (第351図1480～第352図1490、第370図1755～1757・1761～第372図1803、写真図版 235・236・245～247)

凹線・平行沈線・刺突文他を主要な文様構成要素とする土器を集めた。平行沈線は器体に対し半截竹管の内面を向けたものであり、凹線は竹管の外面を用いたものである。全体に焼成が

良好で硬質である。胎土には粗砂を含む。西尾根の鞍部とその斜面および南麓部から多くの出土をみたのに対し、東尾根からは殆ど出土していない。器形によって二分する。

7類 a. 胴部最大径がほぼ中央部にあり、全体として円筒形を基調とするもの(1480~1485、1755~1757、1761~1789)。

口径に対し器高の低い土器群もあるがここに一括してある。文様が、胴部に展開する土器群(1480、1755~1762)と、口縁部または口頸部に限られる土器群(1481~1485)とがある。

色調は褐色~暗褐色のものが多い。

7類 b. 胴部が球状に膨らみ下半部が円筒形となる、いわゆる金魚鉢形の器形を呈するもの(1486~1490、1790~1802)。

a とは、一見して色調が異なり、にぶい黄褐色~黄褐色を呈するもの(1487・1488など)が多い。

II群 8類 (第353図1491~1500、第372図1804~第373図1829、写真図版236・247・248)

燃紐または結条体の側面圧痕、竹管刺突他が口縁部文様帯を構成し、器形は円筒形を基調とする土器群である。出土分布は7類のそれに殆ど一致し、西尾根の鞍部とその斜面部および南麓部での出土量が多い。東尾根の東端の谷頭型斜面で少量出土している点が異なる。

8類 a. 燃紐の側面圧痕が施されたもの(1491~1496、1804~1819)。

燃紐の圧痕が口縁部に横走するもの(1491~1495、1804~1812)と幾何学的なモチーフをもつもの(1496、1813~1820)とがある。隆帯を有するもの(1809~1812)や凹文をもつもの(1814・1815)がある。半截竹管文と組み合わせるもの(1814~1819)は、7類に分類すべきかもしれない。

8類 b. 結条体の側面圧痕が施されたもの(1497~1500、1820~1829)

波状口縁のもの(1498・1499、1820・1821など)、凹文を有するもの(1820・1821)、複合口縁となるもの(1499、1824~1826など)、半截竹管文と組み合わせるもの(1829)、棒状工具による刺突文と組み合わせるもの(1496)などがある。

II群 9類 (第354図1501~1505、第374図1830~1847、写真図版236・237・248)

1類から8類のなかに分類できないものを集めた。

9類 a. 地文のみの土器(1501、1820~1826)である。

櫛歯状沈線文を有する土器は第6群 b 種エにもあるが、1830や1832のような菱形や格子目類似のモチーフをもつものについては、その中にはなくあるいは第7類に伴うものかもしれない。1501・1834~1836は原体不明の土器である。多軸結条体の回転文かとも思われたが、通常の縄とは異なり、器体に小さな刺突が連続するような印象がある。オオバコの花軸などの可能性もあるかもしれない。^(注2)

9類b. 竹管刺突または半(多?)截竹管文を有するもの(1837~1840)である。

沈線は浅く施文され、不明瞭である。

9類c. 口縁に小突起や刻み目を有するもの(1502~1505、1841~1843)。

1502・1503は口唇端への刻みが第2類に類似するが、胎土に繊維を含まない点異なる。第6類に各種突起を有するものがあるが、それらと同一視してよいものかどうか不明であり、本類に含めた。

9類d. a~cに含まれないもの(1844~1847)

1844は胎土に繊維を含み軽量で、やや脆弱である。1845~1847は焼成が良好で硬質であり、縄文の糸・節が細かい。あるいは第III群に所属するものかもしれない。

第III群：縄文中期に属する土器群

III群1類(第354図1506~第355図1511、第370図1758~1760、第375図1848~第376図1881、写真図版237・245・246・249・250)

縄文中期前葉に位置づく土器群を一括する。胎土に粗砂を含み、焼成は良好で硬質ある。内面もみがきやなでにより調整されるものが多い。特徴的な施文・時期を助案して細分する。

1類a. 竹管文を主要な文様構成要素とするもの(1508~1510、1758~1760、1848~1858)

1509と1510は同一個体である。半截竹管による押し引き沈線と波状に垂下する隆帯が施される。1508は不均整な波状口縁を呈するもので、口縁部にハの字状の短沈線が連続する。他には、半截竹管により鋸歯状の平行沈線を施すもの(1848・1849)や三角形彫刻文(1848)、縦位に鋭い沈線を施文後に横位の凹線が引かれるもの(1850・1852)、有節沈線文(1853~1857)、変形爪形文(1857)、交互刺突文(1858)などがある。

1類b. 複合口縁が特徴的な土器群(1506・1507、1859~1868)

1506と1867は同一個体である。口縁部と口頸部の2段にわたって複合させる。縦位に粘土紐を2本垂下させる。1507・1859~1861も同様に2段の複合口縁である。1860は縦位にX字状の隆帯が施される。1862~1866は複合させた口縁に縦位に繩の側面を押圧させたり、工具で鋭い沈線を引いたものである。

1類c. 隆帯が特徴的な土器群(1869~1878)

aやbに含まれないもので、隆帯を有するものを集めた。鋸歯状に垂下する隆帯を有するもの(1870~1872)や、渦巻ないし円を描くもの(1873~1875)などがある。1868・1869の隆帯は第II群のそれと異なり、器体との段差がないようになて調整される。

1類d. a~cに含まれないものを集めた(1511、1879~1882)。

1511は無文の土器であるが、胎土・焼成などから本類に属すると考えられるものである。口縁部に輪積みの痕跡がうかがえる。1879と1880とは同一個体である。口縁に沿ってその内外両側から器体を挟み込むように粘土紐を貼り付け、その境界には縄の側面を押圧する。波状口縁の頂部から2本の隆帯を垂下させる。1880にはボタン状の突起が付けられている。1881は口縁部に浅い沈線が施されるがモチーフは不明である。1882は口縁部および縦位の隆帯の上に縄の側面が押圧され、一部にC字状の圧痕も観察される。

Ⅲ群2類（第376図1883～1885、写真図版250）

縄文中期末葉に属する、渦巻状の隆帯が特徴的な土器群である。焼成は良好で硬質である。色調は明褐色で、内面は丁寧なみがきかけられている。西尾根の鞍部から出土している。

1884は胴部まで隆帯が展開し、頸部が括れる器形を有する。1885は隆帯の展開は口縁部に限られ、器形は口縁部が内弯するものである。

Ⅲ群3類（第355図1512・1513、第377図1886～1888、写真図版237・250）

縄文中期末葉に属する土器である。焼成は良好で硬質である。色調は褐灰色～褐色で、内面は撫でまたはみがきによって調整される。当該時期の住居跡が検出されたA区に分布するが、西尾根にも極少量の出土をみた。遺構内に比し、遺構外の出土量は比較的少ない。5点のみ図化した。遺構内土器も含め文様によって細分した。

3類a. 沈線によって区画された無文帯が、胴上半部に曲線的に展開する土器群(1512・1886)。

沈線によって区画された円形基調の区域に刺突文を充填させるもの(1886)と、刺突文を伴わないもの(1512)とがある。1512には口縁部内側にも罐状突起が貼付けられる。

3類b. 無文帯が口縁部にめぐもの、または地文のみのもの。

3類c. a・bに含まれないもの(1513・1887・1888)。

1513は無文の土器である。丸山状の突起を有し、突起の内側に罐状突起がつく。1887・1888の2点は、撚糸文を地文とし凹線が曲線的に展開するが、a・bのように区画の意味合いは持たない点で異なる。

第Ⅳ群土器：縄文後期に属する土器群

出土量は僅少である。

Ⅳ群1類（第377図1889・1891～1895、写真図版250・251）

後期初頭に属する土器群である。隆帯上に刺突が施されるもの(1891～1884など)や一定区画に竹管刺突文・爪形圧痕が充填されるもの(1890・1892)などがある。

Ⅳ群2類（第377図1896～1898、写真図版251）

後期前葉に属する土器群である。地文施文後に平行沈線により横位を基調とする曲線的な文

様が展開する土器（1896・1897）と、細く浅い平行沈線により直線的な文様が描かれるもの（1898）とがある。

IV群3類（第377図1890、写真図版250）

後期中葉に属する土器である。大波状口縁で口縁に沿って1条の沈線を施し、その下には下方向からの竹筥による刺突を充填させている。

第V群土器：縄文晩期に属する土器群

縄文後期の土器よりは多いものの、やはり僅少である。

V群1類（第377図1898～1904、写真図版251）

縄文晩期初頭に属する土器群である。1899は2山の山形状突起のうちの片側である。1900は隆帯が蛇行して垂下する。1901～1904は入り組み文であろう。

V群2類（第355図1514、第378図1905～1907、写真図版237・251）

縄文晩期前葉に属する土器群である。三叉文を有するもの（1514・1905・1906）と、羊歯状文を有するもの（1907）をここに分類した。

V群3類（第355図1515、第378図1909～1911・1924、写真図版237・251）

縄文晩期中葉に属する土器群である。雲形文を有するもの（1515）と、口縁部や胴上半部に横位に沈線が巡るもの（1908～1911・1924）をここに分類した。

V群4類（第355図1516、第378図1912、写真図版237・251）

粗製の土器である。1912は口縁部に無文帯が形成され小波状を呈する。

第VI群土器：弥生時代に属する土器群（第355図1517、第378図1913～1923、写真図版237・251）

西尾根南麓部から1517が、A区と東尾根の谷頭凹型斜面からは小片が出土した。地文が撚糸文のもの（1517・1913～1915）、細い沈線が施文されるもの（1916など）、交互刺突文およびその簡略形が施文されるもの（1920～1923）などがある。1517には上向きの弧状短沈線が連続する。口縁部内側にも撚糸文が施文される。

第VII群土器：土師器

遺構外からは殆ど出土していない。

底部資料 (第379図1925～第 380図1945、写真図版252)

第 379 図は本遺跡の主体をなす縄文前期～中期初頭に属すると思われる土器の底部立上がりや底径のバリエーションを示すものである。

1925～1929は底部から直線的に外反するものである。底径は 5.6cm (1925)～22.1cm (1929)までの幅がある。1930から1935は外弯しながら立ち上がるタイプであるが、直接外弯するものと、一旦内弯したのち外弯するものがある。全体に、底部が外側に張り出すもの (1925～1928、1930・1931) も多い。

第 380 図は底面に網代等の痕跡のあるものを示した。図示した他には不明瞭なものが数点あるのみで、本遺跡では底部に文様があるものは希少である。

1531～1538は網代痕である。密に編まれたもの (1531～1534) と疎に編まれたもの (1535～1538) とがある。1534は底面中央部が密で外周部分が疎な痕跡が残るもので、2種のものを用いたものか。1539は笹葉痕、1540は木葉痕である。

小型土器・土製品 (第381図1946～第382図1975、写真図版253)

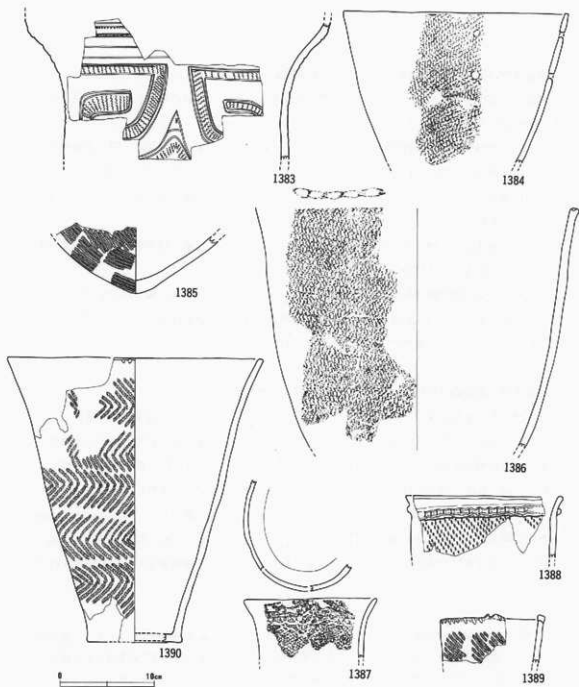
小型土器・土製品は、ここに図示したものが本遺跡から出土したものの全てである。

1947～1951は、胎土・焼成から縄文前期ないし中期初頭に属するものである。すべて無文で手づくねの痕跡が明瞭である。1946・1952・1953は縄文後晩期の所産と考えられる。1952と1953は同一個体で無文の壺型土器である。1954は耳栓か葺状土製品か不明である。

第48図は円盤状土製品であるが、1956～1972・1976は円形基調であり、1973～1975は方形基調である。1956は胎土に纖維を含み、縦方向に糸痕が施されている。1975～1963は縄文、1966～1970は横位の綾結文、1971～1975は組紐回転文、1976は多軸絡糸体回転文が施文されている。

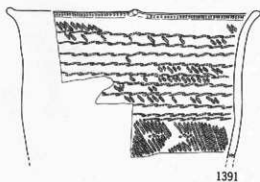
(注1) 組縄縄文の用語は、高橋亜貴子 (1992) 「東北地方前期前葉組縄縄文について」『加藤登先生還暦記念 東北文化論のための先史歴史学論集』に拠る。滝沢村教育委員会のご好意により、氏が明らかにした組縄縄文の原体を見せていただくとともに、その作り方についてもご指導いただいた。

(注2) その可能性について林謙作氏からご教示いただいた。しかし、時季的な問題により報告者は試みることできなかった。

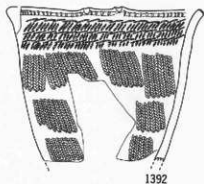


番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底径	器高	備考	分類	写真
1383	V D 9 c	II層 (黒色土)	沈線、具段襷縁圧痕文		—	—	(37.3)		II 2	229
1384	Ⅴ D 6 g	II層			(34.0)	—	(36.6)	織障目入。	II 1 a	229
1385	Ⅴ D 7 d	暗褐色土	雲底土器	粗織目文	—	—	(7.5)	織障目入。	II 1 a	229
1386	Ⅴ D 9 h		口唇部指頭状圧痕、尖底土器	粗織?	(34.2)	—	(25.4)	織障目入。	II 1 b	229
1387	Ⅴ D 3 h	II層	石炭・ヤツツ形		—	—	(6.2)	織障わずか混入。	II 2	229
1388	No 13 レンテ	表土	隆部上指頭状圧痕 (糸許器蓋)	R L R 横	(36.8)	—	(6.2)	織障わずか混入。	II 2	229
1389	Ⅴ E 3 a		口唇部指頭状圧痕による傾入、曲線状尖底(2山)	R L 横	(11.2)	—	(3.2)	織障わずか混入。	II 2	229
1390	Ⅴ C 6 e	丹波焼層下位	口唇部刺突	L R × R L 第 1 種結束縄文	(27.2)	(10.2)	20.3	織障わずか混入。	II 2	229

第335図 遺構外出土遺物 土器(1) 第I群・第II群1~2類



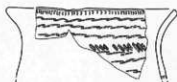
1391



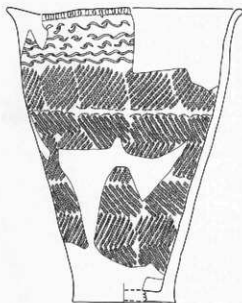
1392



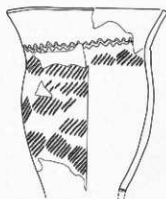
1393



1394



1395

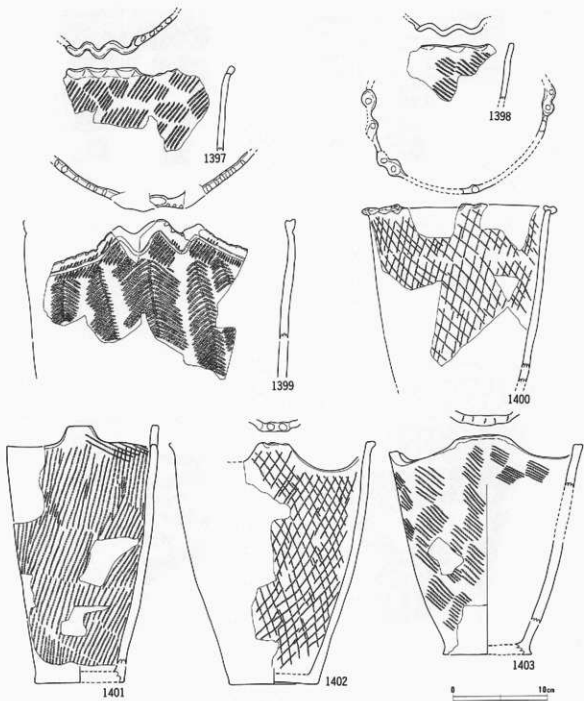


1396



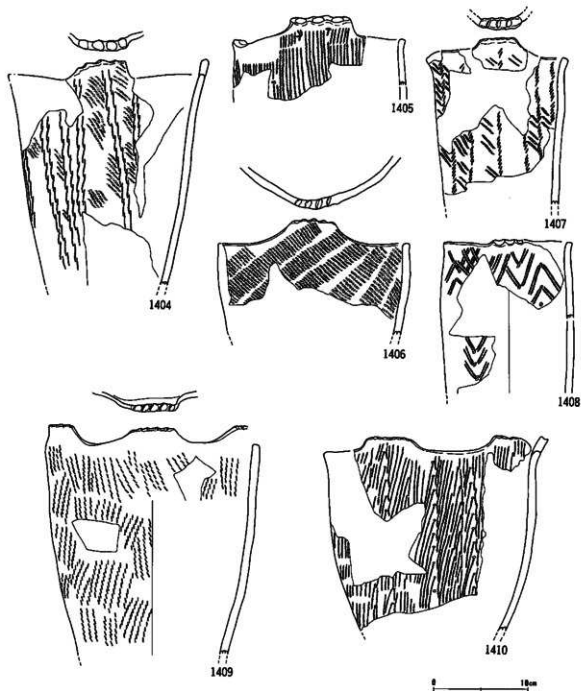
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底部径	器高	備考	分類	写真
1391	W D 9 e	暗褐色土	①斜線文、②斜線文(上)による白文、③横線文(上)による白文	黒 L O 段多条	27.0	—	35.40		Ⅱ 3 a	229
1392	W D 6 i	黒色土	①斜線文(上)による白文、②斜線文による白文(斜線文 L R 段作部)	縦線	29.2	—	36.5	1層一帯位の白土を4単位	Ⅱ 3 a	229
1393	W D 2 g	I 層	①斜線文(上)による白文、②斜線文による白文(斜線文 L R 段作部)		38.0	—	7.30		Ⅱ 3 a	229
1394	W D 8 g	I 層	①斜線文、②横線(上)による白文、③斜線文による白文(斜線文 L R 段作部)		36.4	—	7.50		Ⅱ 3 a	229
1395	W D 0 b	褐色土上下位	①斜線文、②横線(上)による白文、③斜線文による白文(斜線文 L R 段作部)	L R + R L 斜線文斜線文	26.8	11.0	31.5		Ⅱ 4	229
1396	Z D 6 i	I 層	①斜線文(上)による白文	L R 横	37.0	—	39.3		Ⅱ 5	229

第336図 遺構外出土遺物 土器(2) 第Ⅱ群3~5類



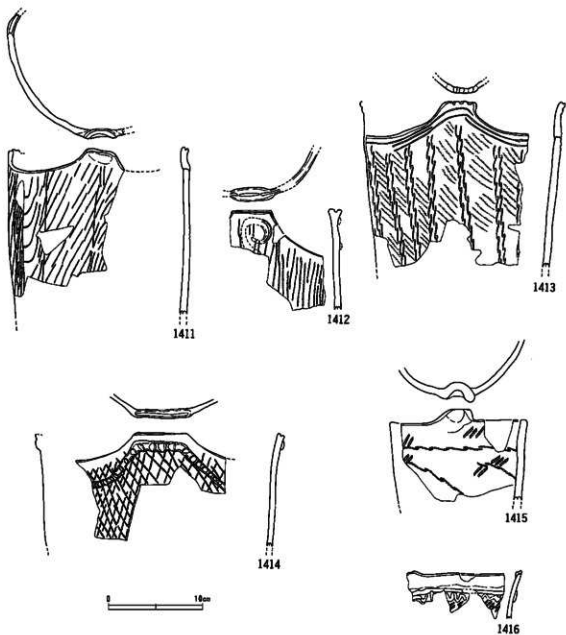
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁	底形	器高	備考	分類	写真
1397	Ⅷ D 9 f	I 層	縦条状装飾体、口唇部指頭状仕立	L.R. 縹	-	-	9.0		Ⅱ 6 a 7	229
1398	Ⅷ D 2 d	I 層	縦条状装飾体	L.R. 縹	-	-	6.0	1417 と同一體	Ⅱ 6 a 7	229
1399	Ⅷ D 5 h	I 層	波状口縁装飾体、頸部部指頭状仕立、口唇部指頭状仕立、口唇部指頭状仕立、口唇部指頭状仕立、口唇部指頭状仕立	L.R. × 紅土 (厚) 用磁鉄粉施	29.0	-	10.0	1424、1426 と同一體	Ⅱ 6 a 7	229
1400	Ⅷ C	I 層	口縁部指頭状装飾体、頸部部指頭状仕立、口唇部指頭状仕立	黒網目状縹赤皮	29.0	-	10.0		Ⅱ 6 a 7	230
1401	Ⅷ C 4 h	西畑塚層下位	弁状突起 (2 單位)	黒縹赤皮	16.0	9.5	25.3		Ⅱ 6 a 7	230
1402	Ⅷ C 8 e	西畑塚層下位	波状口縁、弁状突起指頭指頭状仕立	黒網目状縹赤皮	21.0	9.0	25.7		Ⅱ 6 a 7	230
1403	Ⅷ C 5 h	I 層下位	波状口縁、弁状突起、突起部部爪形仕立	L.R. 縹	25.5	9.0	22.1	突起部部一単位のみ	Ⅱ 6 a 7	230

第337图 遺構外出土遺物 土器(3) 第Ⅱ群6類



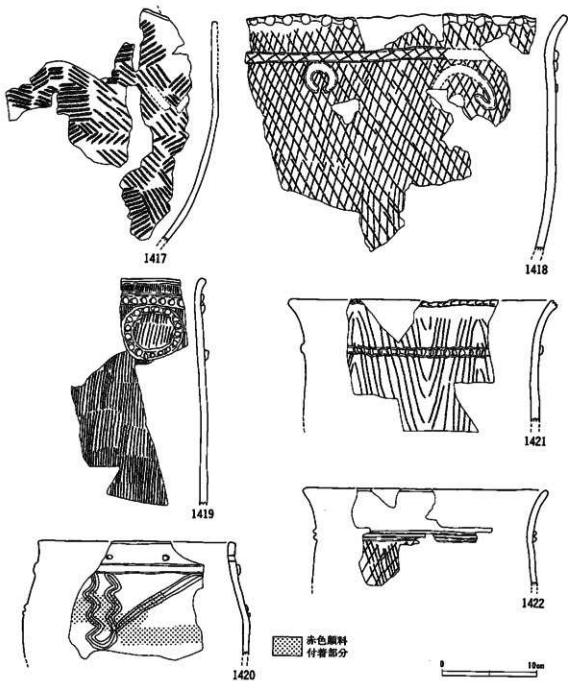
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1404	ⅣC 7 f	再地層下位	弁状突起、突起上指環状圧痕	L. 縦、2巻1単位の縦線陶文	(21.6)	-	(24.1)		Ⅱ 6 a f	230
1405	ⅣD 1	褐色土	細い波状口縁、弁状突起、突起上指環状圧痕	L. 横糸文	(28.6)	-	(8.6)		Ⅱ 6 a f	230
1406	ⅣC 6 f	再地層	波状口縁、弁状突起、突起上指環状圧痕 (爪跡顯著)	L.	(38.4)	-	(12.7)		Ⅱ 6 a f	230
1407	ⅣC 4 f	再地層	弁状突起、突起上指環状圧痕	L. R. 縦、縦位横筋文	(19.0)	-	(17.7)		Ⅱ 6 a f	230
1408	ⅣC 4 h	再地層下位	扁平な弁状突起、突起上指環状圧痕 (2単位)	L. 木目状横糸文	(3.4)	-	(16.2)		Ⅱ 6 a f	230
1409	ⅣC 区	1層	波状口縁、弁状突起(6単位)、突起上に指環状圧痕(爪跡顯著)	R. L. 多線給糸弁	(20.4)	-	(25.3)		Ⅱ 6 a f	230
1410	ⅣD 5 :	1層	細い波状口縁、弁状突起 (6個)、突起上指環状圧痕	L. 横糸文	(22.9)	-	(20.3)		Ⅱ 6 a f	230

第338図 遺構外出土遺物 土器(4) 第Ⅱ群6類



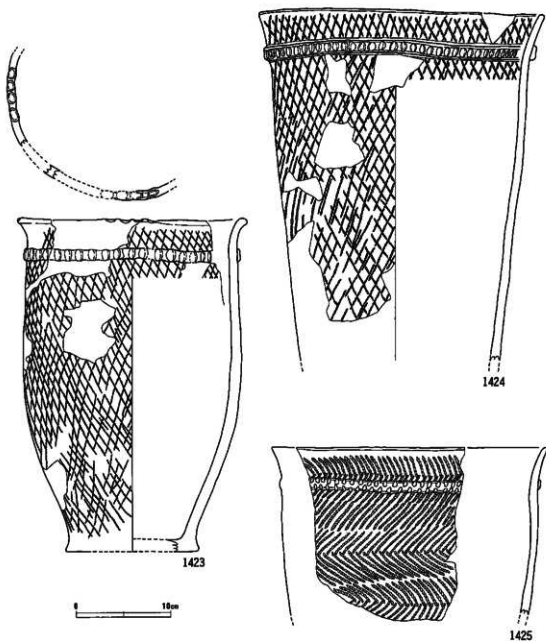
番号	出土地点	附注	文様	地文	口径	底径	器高	番号	分類	写真	
1411	甕 C 7 f	西端破損	線状口縁、弁状突起、突起頂面花飾(明輪)	R 捲糸文	(39.1)	-	(38.0)		IIa	(230)	
1412	甕 B 6 b	黒色土	線状口縁、弁状突起、突起頂面花飾、突起頂面花飾上流線	L 捲糸文	-	-	(38.0)		陸奥割落。	IIa	(230)
1413	甕 C 6 g	西端破損	線状口縁、弁状突起、突起上(棒状工具?)の突	L 捲、縹段 2巻 1 串位縹輪文	(31.1)	-	(37.0)		IIa	(230)	
1414	甕 C 6 b	I 器	線状口縁、弁状突起、突起頂面花飾	L 縹目状捲糸文	(38.0)	-	(32.0)		IIa	(231)	
1415	甕 C 4 h	西端破損下位	半円状蓋部	L R 横、縹段縹輪文	(34.0)	-	(9.7)		口縁蓋部併。	IIa ⁹	(231)
1416	甕 D 4 g	II 器	縹麻状隆帯(縹・粘土紋)	L R 横	-	-	(4.1)		IIa ⁹	(231)	

第330圖 遺構外出土遺物 土器(5) 第II群 B類



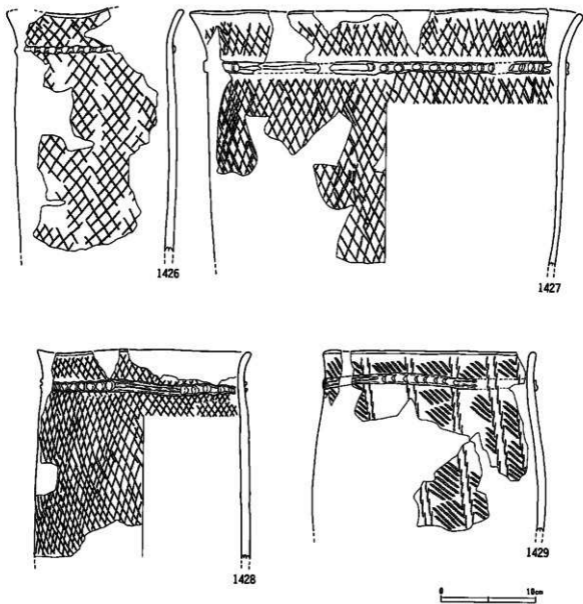
番号	出土地点	层位	纹様	地文	口徑	幅	厚	高さ	紐字	分類	写真
1417	ⅡD 2 d	1層	波状口縁、陸帯刺繍	L R	-	-	34.69	398上段一帯体、		Ⅱ637	231
1418	ⅡD 0 g	1層	花卉状口縁、陸帯上も魚文、瓦葺状陸帯	R斜目状地赤文	-	-	25.0	170上段一帯体		Ⅱ637	231
1419	ⅡD 3 g	1層	陸帯上附線状压痕	R横赤文	-	-	34.3			Ⅱ637	231
1420	ⅡD 0 j	褐色土	陸帯、刺繍状陸帯、口縁部穿孔		(21.0)	-	(12.5)			Ⅱ637	231
1421	ⅡC 6 e	両赤土層	陸帯上附線状压痕、口帯部半圓竹管刺繍	R木目状地赤文	(28.6)	-	(13.0)			Ⅱ644	231
1422	ⅡC 4 f	1層	陸帯上付線(凹線)	R斜目状地赤文	(26.0)	-	(10.2)			Ⅱ644	231

第340図 遺構外出土遺物 土器(6) 第Ⅱ群6類



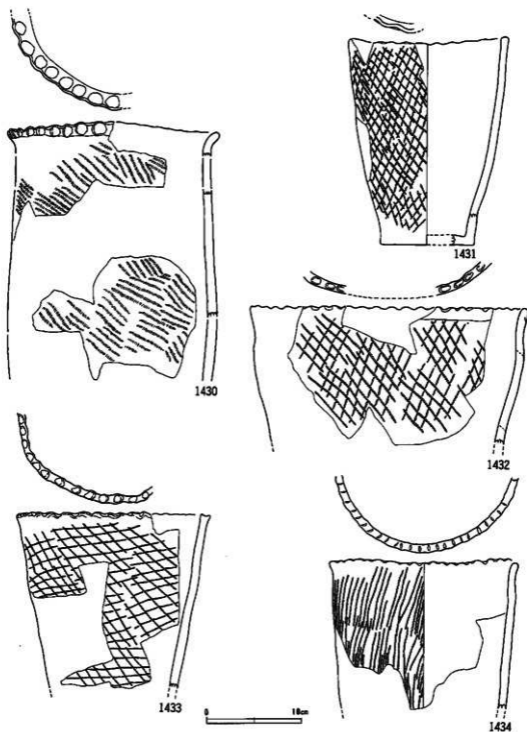
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	逆唇径	器高	備考	分類	寸法
1423	宮 C 8 e	河地前期	一帯口唇部指輪状圧痕(4か所?)、器唇上左方向からの指輪状痕	R 網目状捺糸文	(24.0)	(34.4)	25.4		B44	231
1424	宮 C 7 f	河地前期	口唇部指輪状圧痕	L R 網目状捺糸文	(20.0)	-	(28.3)		B44	231
1425	宮 C 7 e	河地前期	器唇上捺状工具による削突	L R × R L 帯1線輪状捺糸文	(29.4)	-	(17.4)		B44	231

第341図 遺構外出土遺物 土器(7) 第II群 6類



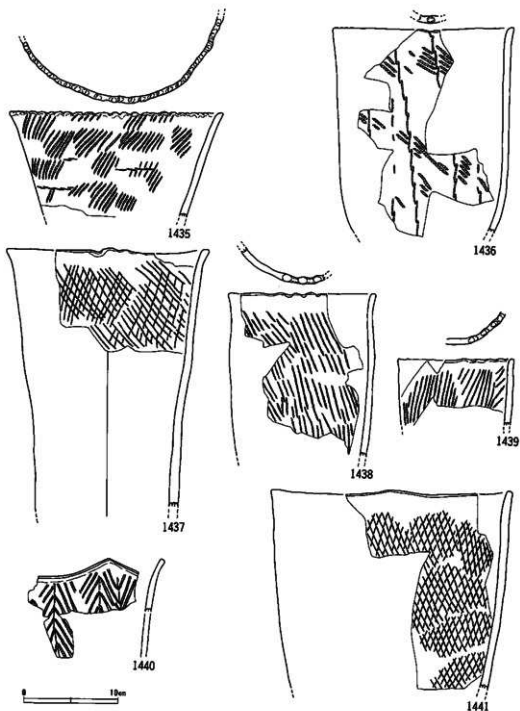
番号	出土地点	层位	纹样	地文	口径	底径	器高	图号	分期	写真
1426	甬 C 4 h	河城郡地下位	口部部縁帶上面斜状压痕 (原典原着)	京朝目状照承文	18.7	-	26.0			06b-231
1427	甬 C 6 f	河城郡西	口部部縁帶上面斜状压痕之比類(仿製)、沈黙24分角?	L朝目状照承文	41.5	-	26.7			06b-231
1428	甬 C 6 e	河城郡西	口部部縁帶上面斜状压痕と沈黙 (仿製)	京朝目状照承文	32.6	-	22.0			06b-232
1429	IX D 1 g	河城郡西		L.R縦、横位斜線文	22.6	-	19.0			06b-232

第342图 遼城外出土遺物 土器(8) 第II群6類



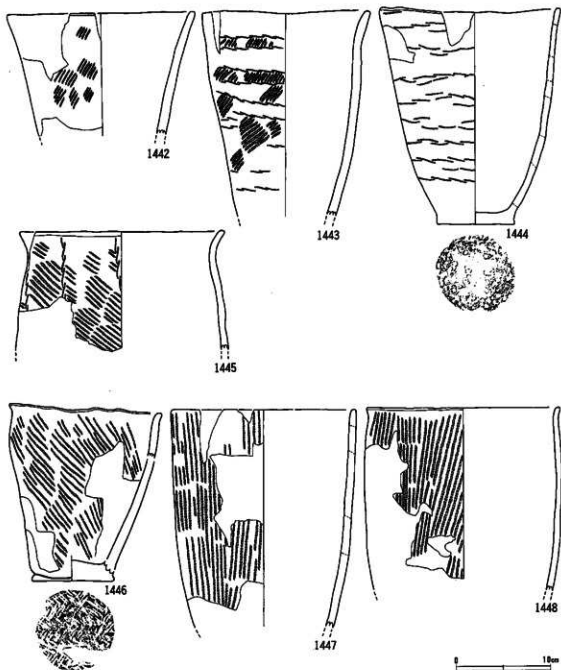
番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底径	高さ	備考	分類	写真
1430	宮C 4 g	再建被褥下位	花卉状口縁 (指頭明瞭)	?	22.4	-	27.5		B1b-2	232
1431	堀D 4 h	被褥面	花卉状口縁	L網目状襷糸文	16.9	(18.0)	22.1		B1b-2	231
1432	宮C 3 h	再建被褥下位	口縁部右方向からの指頭状圧痕	L網目状襷糸文	29.4	-	14.5	輪切痕顯著。	B1b-7	232
1433	宮C 6 g	再建被褥	口縁部指頭状圧痕	R網目状襷糸文	20.2	-	18.7		B1b-6	232
1434	宮C 6 f	再建被褥	口縁部指頭状圧痕 (爪跡顯著)	R襷糸文	20.6	-	15.7		B1b-7	232

第343図 遺構外出土遺物 土器(9) 第II群6類



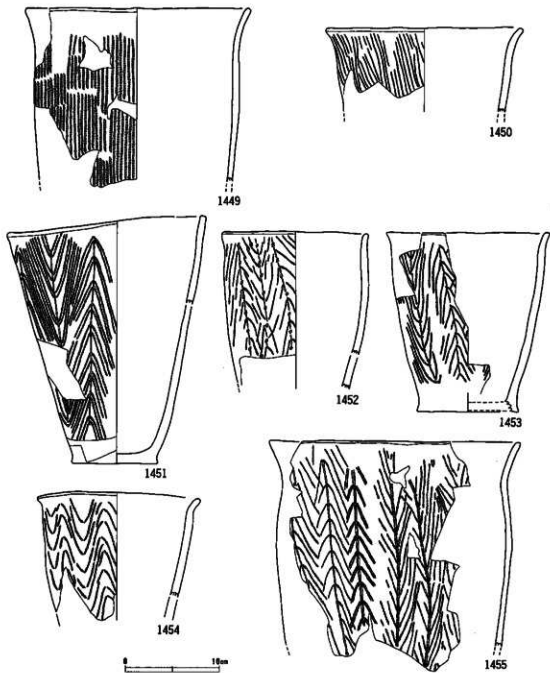
番号/出土地点	層位	文様	地文	口縁	袖部	裾部	備考	分級	写真
1435	ⅧC 6 g	再帰縹帯	口縁部右方向からの指環状圧痕（爪跡顯著）	L.R.縦、横位綾結文	(21.0)	-	(11.0)	口縁部短目	Ⅷa-f 232
1436	ⅧC 3 e	再帰縹帯	口縁部指環状圧痕。	L.R.縦、横位綾結文	(19.2)	-	(22.0)		Ⅷa-f 232
1437	ⅧC 7 g	再帰縹帯下位	一部口縁部指環状圧痕（4か所?）	R.縦目状無糸文	(21.4)	-	(27.4)		Ⅷa-f 232
1438	ⅧC 7 g	1層下位	一部口縁部指環状圧痕	R.横糸文	(15.7)	-	(17.0)		Ⅷa-f 232
1439	ⅧC 6 g	再帰縹帯	一部口縁部指環状圧痕	L.横糸文	(18.0)	-	(7.0)		Ⅷa-f 232
1440	ⅧD 1 j	11層	指環口縁	L+Rの木目状無糸文	(10.0)	-	(10.5)	山形口縁	Ⅷa-f 232
1441	ⅧC 6 f	再帰縹帯下位	縦い波状口縁	R.縦目状無糸文	(26.0)	-	(21.0)		Ⅷa-f 232

第344図 遺構外出土遺物 土器⑩ 第Ⅱ群 6類



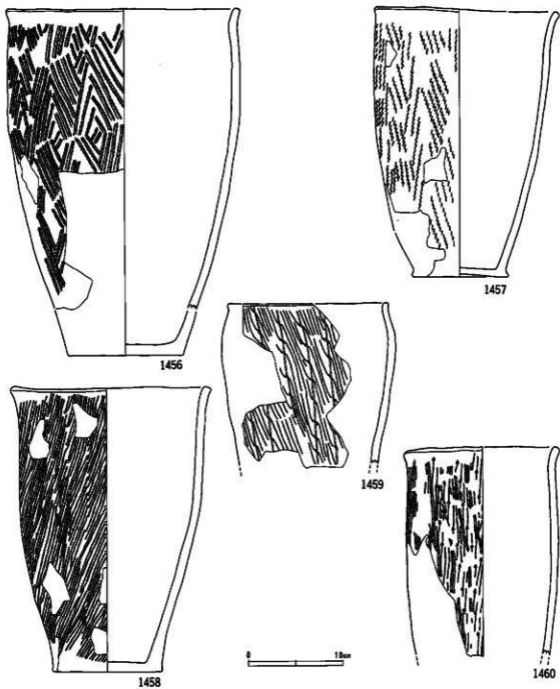
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	器高	番号	分類	写真
1442	ⅡC 4 h	再地層下位		L 点线	(18.4)	-	(15.0)		Ⅱb4	232
1443	ⅡD 9 d	1層		L 点线、横位波线文	17.8	-	(21.9)		Ⅱb4	233
1444	ⅡD 4 g	口唇		L 点线、横位波线文	19.2	8.2	22.4		Ⅱb4	233
1445	ⅡC 4 h	再地層下位		L 点线	(21.4)	-	(12.4)		Ⅱb4	233
1446	ⅡC 7 e	再地層上位	小波状口縁	L 点线文	16.3	8.7	18.8	底形不明。	Ⅱb4	233
1447	ⅡC 7 f	再地層		R 点线文	(21.4)	-	(23.3)		Ⅱb4	233
1448	ⅡC 8 f	再地層下位		R 点线文	(20.5)	-	(23.3)		Ⅱb4	233

第345図 遺構外出土遺物 土器Ⅱ 第Ⅱ群 6類



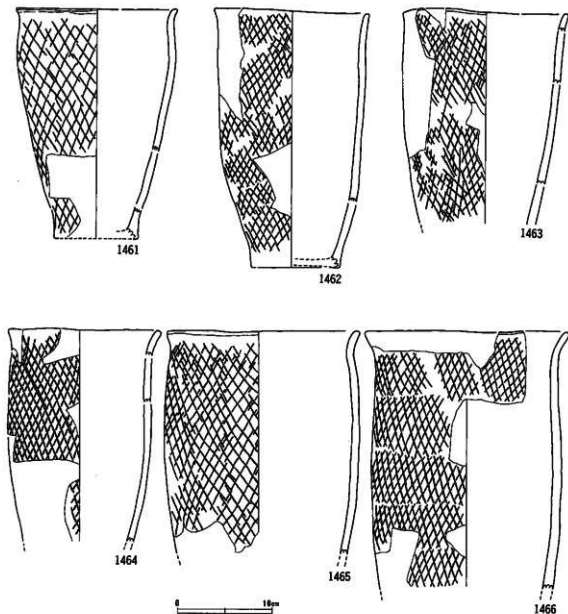
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	通身径	器高	番号	分館	室号
1449	甬 C 6 f	再堀初層下		竖線赤文	34.0	-	(19.0)		06a	233
1450	甬 C 6 e	再堀初層下位		竖線赤文	31.0	-	9.0		06a	233
1451	甬 C 7 f	再堀初層		L木目状横赤文	32.1	9.0	26.5		06a	233
1452	甬 C 7 f	再堀初層下位		L木目状横赤文	15.6	-	(18.3)		06a	233
1453	甬 C 0 a	再堀初層		L木目状横赤文	37.4	(30.8)	19.1		06a	233
1454	甬 C 6 f	再堀初層		L木目状横赤文	17.3	-	(12.7)		06a	233
1455	甬 C 7 f	再堀初層		L木目状横赤文	26.7	-	(20.9)		06a	233

第346图 遺構外出土遺物 土器(12) 第II群6類



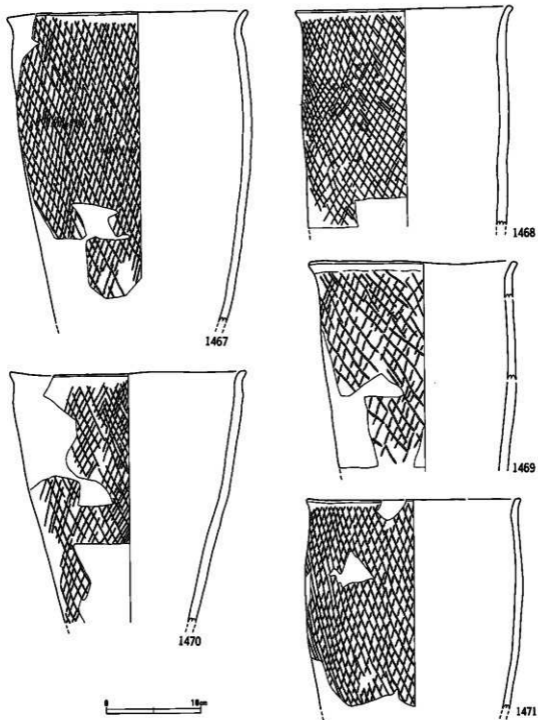
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	口径	高さ	番号	分類	写真
1456	堀 C 7 g	再埋位層下位	菱砂文 (器体の左右を充てて)	R + L Rによる木目状燃糸文	24.4	12.2	32.0		II 6 b 力	2333
1457	堀 C 7 f	再埋位層下位		L R木目状燃糸文	19.4	10.0	28.8		II 6 b 力	233
1458	堀 C 5 j	再埋位層		燃糸文	21.2	11.6	30.5		II 6 b 力	233
1459	堀 C 6 g	再埋位層		R燃糸文	17.4	-	17.0		II 6 b 力	234
1460	堀 C 2 g	再埋位層下位		L燃糸文	16.4	-	12.4		II 6 b 力	234

第347図 遺構外出土遺物 土器(1) 第II群 6類



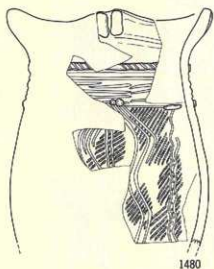
番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	袖幅	総高	袖寸	分類	写真
1461	甕 C 6 f	再埋藏層下位		R網目状格子文	(17.4)	9.6	26.3		II 6 b 才	234
1462	甕 C 8 i	再埋藏層		R網目状格子文	(16.4)	9.4	27.5		II 6 b 才	234
1463	甕 C 5 b	I層下位		R網目状格子文	(17.7)	-	(22.4)		II 6 b 才	234
1464	甕 C 4 b	再埋藏層		L網目状格子文	(16.4)	-	(22.5)		II 6 b 才	234
1465	甕 C 7 f	再埋藏層		R網目状格子文	20.4	-	(22.3)		II 6 b 才	234
1466	甕 C 7 f	再埋藏層下位		R網目状格子文	(21.4)	-	(22.3)		II 6 b 才	234

第348図 遺構外出土遺物 土器14 第II群 6類

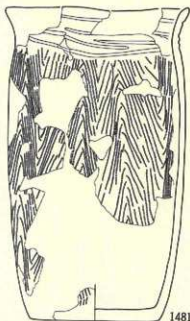


番号	出土地点	层位	纹样	地文	口径	法眼径	器高	番号	分類	写真
1467	甕 C 7 e	再碾烧层		L. 網目状烧糸文	(25.4)	-	(23.3)		IIb④	234
1468	甕 C 7 g	再碾烧层下位		R. 網目状烧糸文	(21.5)	-	(22.4)		IIb④	234
1469	甕 C 6 e	再碾烧层下位		L. 網目状烧糸文	(22.1)	-	(21.9)		IIb④	234
1470	甕 C 4 b	再碾烧层下位		R. 網目状烧糸文	(25.4)	-	(25.4)		IIb④	234
1471	甕 C 7 f	再碾烧层下位		L. 網目状烧糸文	(22.7)	-	(22.4)		IIb④	234

第349图 遺構外出土遺物 土器05 第II群6類



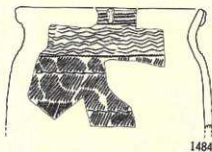
1480



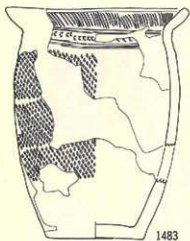
1481



1482



1484



1483

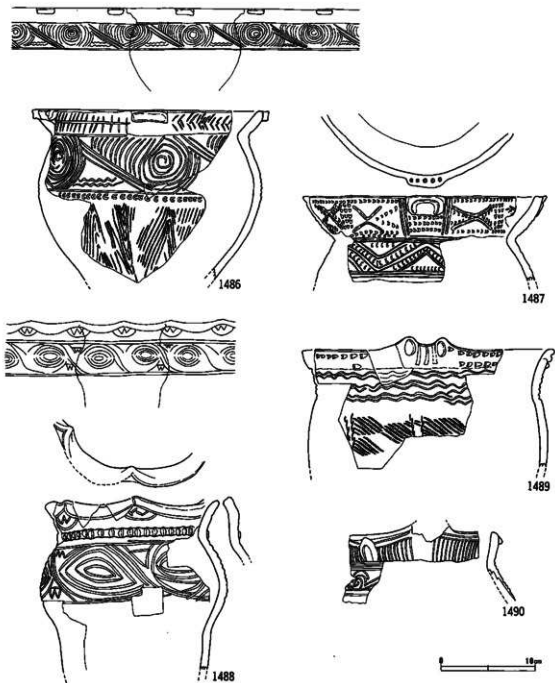


1485

0 10cm

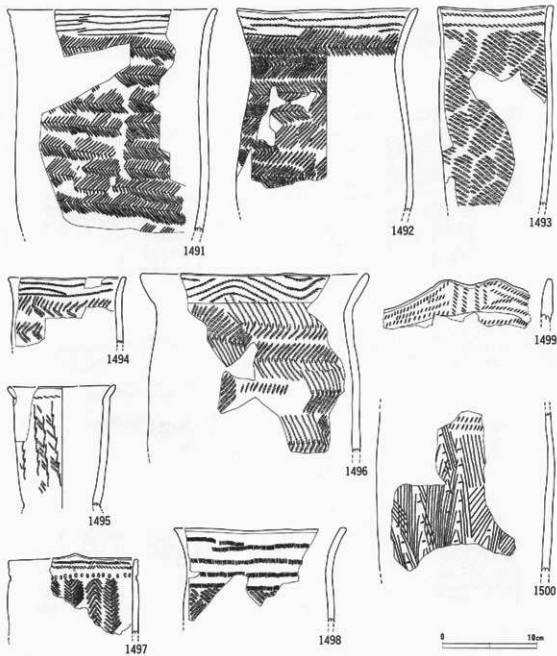
番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底徑	器高	備考	分類	写真
1480	西條川下	下層	波線	L. 波線	28.0	-	21.8		Ⅱ 7 a	235
1481	西條川下	下層	波線	L. 波線	33.5	13.2	35.3		Ⅱ 7 a	235
1482	西條川下	下層	波線	L. 波線	28.5	-	9.5		Ⅱ 7 a	235
1483	西條川下	下層	波線	L. 波線	38.5	10.2	24.5		Ⅱ 7 a	235
1484	西條川下	下層	波線	L. 波線	30.5	-	12.5		Ⅱ 7 a	235
1485	西條川下	下層	波線	L. 波線	30.5	-	11.5		Ⅱ 7 a	235

第351図 遺構外出土遺物 土器(1) 第Ⅱ群7類



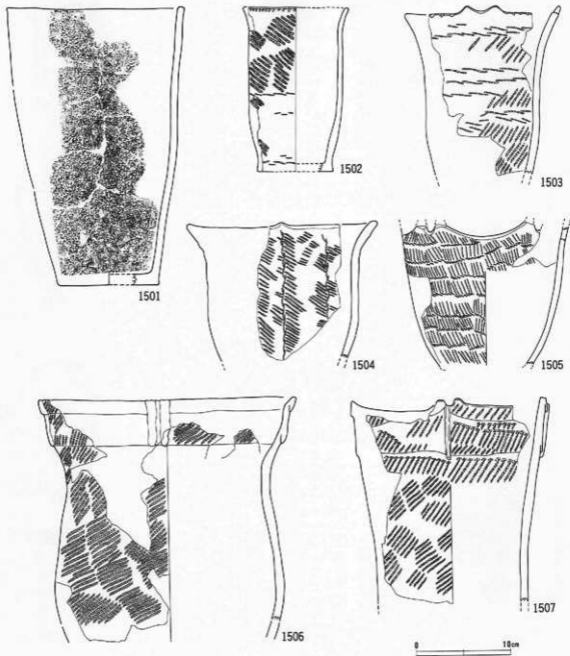
番号	出土地点	部位	文様	地文	口径	底径	器高	備考	分類	番号
1486	ⅡC 5 f	両面縁部 下位	左側に上る渦巻文、線状文、短沈線、半長竹管状文、斜十字状文	L 木目状隠糸文	(25.2)	—	(18.0)		Ⅱ 7 b	235
1487	ⅡC 6 f	両面縁部	斜十字状文・竹管状文、口縁部短沈線、柳文、柳文工具に上る短沈線、斜十字状文		(26.0)	—	(8.0)		Ⅱ 7 b	235
1488	ⅡC 7 g	両面縁部 下位	突形花弁状口縁、左側に上る渦巻、柳部縁部上段縁部短沈線		18.6	—	(18.0)		Ⅱ 7 b	235
1489	ⅡC 2 h	両面縁部	68部 (100) 突形花、短沈線、柳部縁部上段に上る短沈線、柳部半長竹管半十字状文	L R 網、縦位線状文	(28.8)	—	(12.6)		Ⅱ 7 b	236
1490	ⅡD 2 e	両面縁部	破い波状口縁、長條状短沈線、比喩	L R 横	—	—	(7.2)		Ⅱ 7 b	236

第352図 遺構外出土遺物 土器(Ⅱ) 第Ⅱ群7類



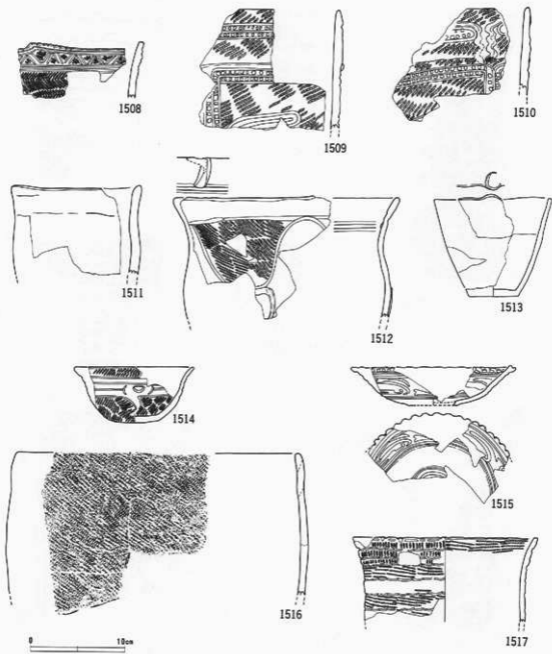
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1491	ⅧC 5 h	再埋積層下位	R側面圧痕	L R × R L 第1種粘糸羽状縄文 (20.2)	—	—	(23.7)		Ra7	236
1492	ⅧD 8 g	I層	L R側面圧痕	L R × R L 第1種粘糸羽状縄文 (19.2)	—	—	(21.3)	原形存残	Ra7	236
1493	ⅧD 4 f	再埋積層	口頸部 L R側面圧痕	L R 縦	(12.3)	—	(21.1)		Ra7	236
1494	ⅧC 6 h	I層上位	L R側面圧痕	L R × R L 第1種粘糸羽状縄文 (12.4)	—	—	(7.1)		Ra7	236
1495	ⅧC 6 f	再埋積層	L R側面圧痕	L R 縦、縦位線跡文	(11.4)	—	(13.9)		Ra7	236
1496	ⅧD 0 a	I層	L R側面圧痕	L R × R R 第1種粘糸羽状縄文 (24.4)	—	—	(19.9)		Ra4	236
1497	ⅧC 4 g	再埋積層下位	山形状突起、L R側面圧痕、押痕工具による衝突	L R × R L 第1種粘糸羽状縄文 (13.8)	—	—	(8.6)		Rb	236
1498	ⅧC 1 j	再埋積層	粘糸体存残	R L	(18.4)	—	(10.0)		Rb	236
1499	ⅧC 2 g	再埋積層	波状口縁、頸部2山	R L 粘糸体存残	—	—	(1.0)	1500と同一個体	Rb	236
1500	ⅧC 4 b	再埋積層	R L 粘糸体存残	R 木目状洗糸文	—	—	(16.8)	1499と同一個体	Rb	236

第353図 遺構外出土遺物土器(19) 第II群 8類



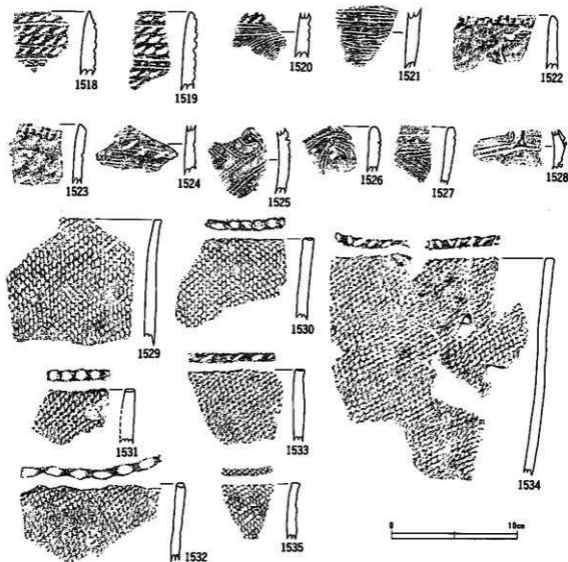
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	肩径	器高	備考	分類	写真
1501	ⅧC 7 f	再埋積層		多輪筋糸体? (詳細不明)	28.0	29.5	29.6		Ⅷ 9 a	236
1502	ⅧD 8 f	Ⅰ層	口縁部捺状工具による刻み	斜し横、横位捺状文	11.1	8.0	12.5		Ⅷ 9 e	236
1503	ⅧD 3 f	Ⅱ層	口縁部突起(2面)、口縁部捺状工具による刻み	L.R横、横位捺状文	26.5	-	28.1		Ⅷ 9 c	236
1504	ⅧC 6 b	再埋積層	山形突突起	L.R横、横位捺状文	28.2	-	24.5		Ⅷ 9 c	237
1505	ⅧC 6 i	再埋積層	波状口縁、頸部下穿孔	斜筋糸文(車輪第4 廻30-3)	-	-	24.8		Ⅷ 9 c	237
1506	ⅧC 6 g	再埋積層	複合口縁、垂下陰帯	L.R横	27.0	-	24.0	1867と同一個体	Ⅷ 1 b	237
1507	ⅧC 4 f	再埋積層	片9返し口縁、山形突突起(2面)、垂下陰帯	L.R横、縄渦器蓋	22.0	-	21.7		Ⅷ 1 b	237

第354図 遺構外出土遺物土器(Ⅱ) 第Ⅱ群9類・第Ⅲ群



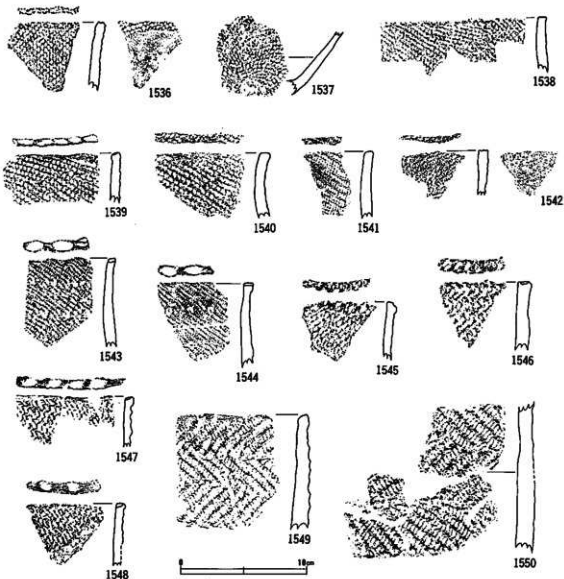
番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底直徑	器高	備考	分類	写真
1508	ⅢC 1 h	内堀積層	不明な波状口縁?、底部中央に2本の筋、沈線	L、R×2、L、R 1種は表面が織文	—	—	(5.8)		Ⅲ 1 d	237
1509	ⅢC 6 f	内堀積層	平直竹管平行沈線(多数?)、刺突	L、R 織	—	—	(12.8)	1510と同一個体。	Ⅲ 1 a	237
1510	ⅢC 6 i	内堀積層	波状波帯、平直竹管平行沈線(多数?)、刺突	L、R 織	—	—	(9.6)	1509と同一個体	Ⅲ 1 a	237
1511	ⅢC 5 h	内堀積層下位	無文	—	(13.8)	—	(9.5)		Ⅲ 1 d	237
1512	ⅢD 9 d	埋層	沈線(波状)、垂直波文、内面に波帯、斜線状筋	L、R 織	(21.8)	—	(12.8)		Ⅲ 3 a	237
1513	ⅢC 5 g	埋層	無文、口縁部内側波状突起	—	(12.4)	5.2	10.6		Ⅲ 3 c	237
1514	ⅢC 6 g	1層	三叉文	L、R 織	(11.7)	5.6	6.8		Ⅳ 1	237
1515	ⅢD 8 g	埋層	雲形文、赤色顔料付着	—	(17.5)	—	(4.8)		Ⅳ 2	237
1516	ⅢC 5 i	1層	—	R、L 織	(10.6)	—	(11.0)		Ⅳ 4	237
1517	ⅢD 2 g	1層	波状波帯口縁部内側に施文	L、R 織文	(19.4)	—	(9.5)		Ⅴ	237

第355図 遺構外出土遺物 土器(Ⅱ) 第Ⅲ～Ⅵ群



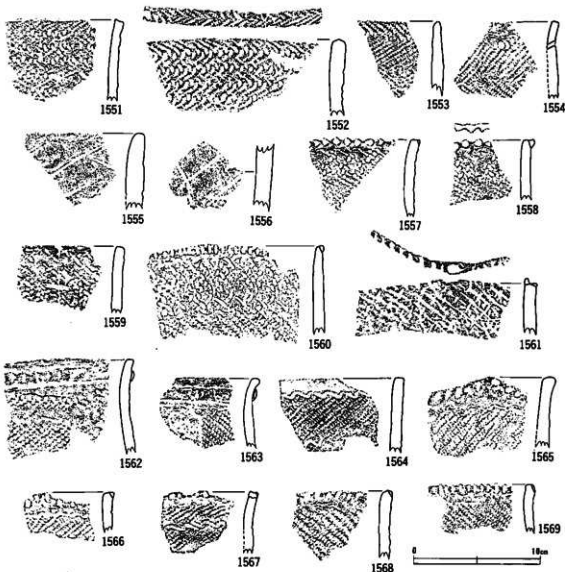
番号	出土地点	層位	文様	地名	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1518	ⅧD 5g	暗褐色土	貝殻線刻突。沈線。					1519と同一體。	Ⅱ	238
1519	ⅧD 5g	暗褐色土	貝殻線刻突。沈線。					1519と同一體。	Ⅱ	238
1520	ⅧC 6j	再堆積層	貝殻線刻突。沈線。条状。						Ⅱ	238
1521	ⅧD 9c	褐色土	貝の痕。						Ⅱ	238
1522	ⅧC 5g	再堆積層下位	貝殻線刻突。						Ⅱ	238
1523	ⅧD 9g	褐色土	貝殻線刻突。破綻状口縁。						Ⅱ	238
1524	ⅧD 9d	褐色土	貝殻線刻突。貝殻条痕。						Ⅱ	238
1525	ⅧE 8a	褐色土	波状口縁。沈線。貝殻線跡による幾何学的文様。刻突。						Ⅱ	238
1526	ⅧD 8a	褐色土	沈線。貝殻線跡による幾何学的文様。刻突。						Ⅱ	238
1527	ⅧE 8a	日層	沈線。貝殻線跡跡による幾何学的文様。						Ⅱ	238
1528	ⅧE 1a	日層	沈線と貝殻線跡による幾何学的文様。先端部が棒状工具による痕。						Ⅱ	238
1529	ⅧD 2e	再堆積層		越前陶文				縦線直入。	Ⅱ	238
1530	ⅧE 9a	日層	口唇部指痕状圧痕。	越前陶文(池上がり)				縦線直入。	Ⅱ	238
1531	ⅧD 1i	被出層	口唇部爪形圧痕により小波状口縁となる。	越前陶文				縦線直入。	Ⅱ	238
1532	ⅧD 8h	日層	口唇部指痕状圧痕	越前陶文(?)				縦線直入。	Ⅱ	238
1533	ⅧD 6f	暗褐色土	口唇部棒状工具による圧痕。	越前陶文3段?				縦線直入。	Ⅱ	238
1534	ⅧD 7d	暗褐色土	口唇部棒状工具による圧痕。	越前陶文				縦線直入。	Ⅱ	238
1535	ⅧD 8f	日層	口唇部指痕状圧痕。	越前陶文				縦線直入。	Ⅱ	238

第356図 遺構外出土遺物 土器(2) 第I群・第II群1類



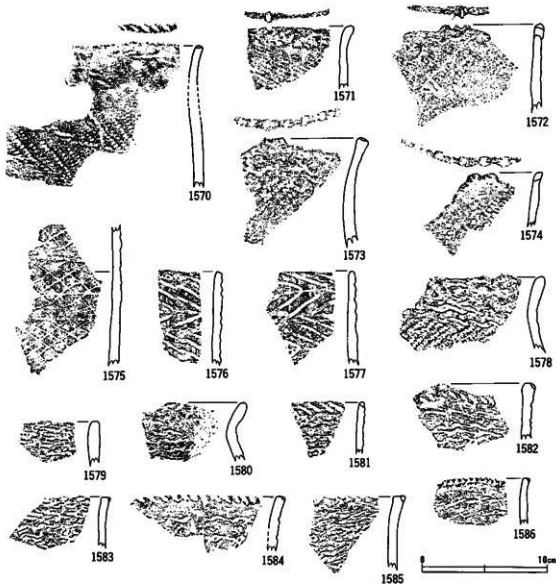
番号	出土地点	層位	文様	地文	口部形状	器高	備考	分類	写真
1536	ⅩD7i	I層	口部部と内側にも亀文。	粗縦縄文			縁縁わずかな入。	Ⅱ1a	236
1537	V D 9 g	I層		粗縦縄文			縁縁混入。	Ⅱ1a	236
1538	X D 5 f	再埋埋層	口部部にも縦文亀文。底部R L R	R L R 縦。			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1539	ⅩD 0 b	Ⅱ層	口部部指線状圧痕。	R L 縦?			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1540	ⅩD 0 b	褐色土下層	口部部縦文亀文。	R L 縦。			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1541	ⅩD 9 i	I層	口部部にも縦文亀文。	R R L 縦?			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1542	Ⅹa4トレンチ	盛土	口部部と口縁部内側にも亀文。	L R 縦。			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1543	ⅩD Ⅹ	I層	口部部指線状圧痕。部分的にループ状。	R R L 縦?			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1544	ⅩD 0 e	I層	口部部指線状圧痕。部分的にループ状。	R R L 縦?			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1545	Ⅹa13トレンチ	盛土	口部部縦文。	粗縦縄文			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1546	ⅩD 8 i	I層	口部部指線状(縦線?)圧痕。	縦線?			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1547	ⅩD 1 e	再埋埋層	口部部指線状圧痕。	縦線?			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1548	ⅩD 0 f	I層	口部部指線状圧痕。	縦線?			縁縁混入。	Ⅱ1b	236
1549	ⅩD 8 f	Ⅱ層		L R + R L の9段多色段取縦文。			縁縁混入。	Ⅱ1cア	236
1550	ⅩD 0 c	I層		R L の9段多色による段取縦文			縁縁・黒雲寄混入。	Ⅱ1cア	236

第357図 遺構外出土遺物 土器23 第Ⅱ群1類



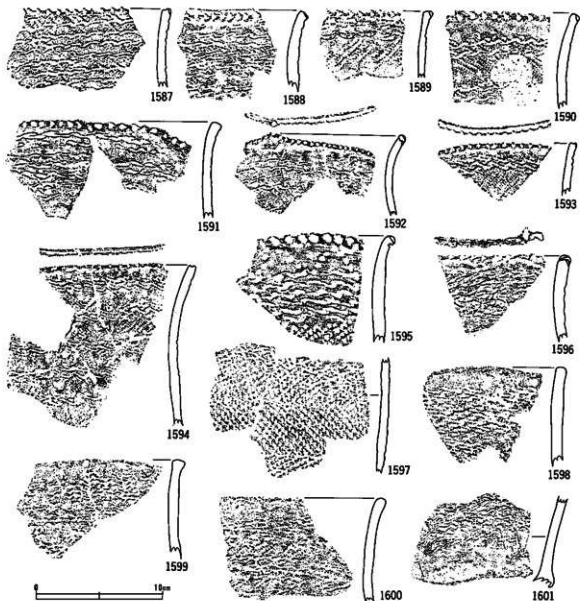
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁形状	備考	分類	写真
1551	ⅩD91	Ⅱ層	口縁部平削。	L R × R L 型; 層状雲形刺状文。		縁線混入。	B1c	258
1552	ⅩD21	Ⅱ層	口縁部にも縦文施文。	L R × R L 型; 層状雲形刺状文。		縁線混入。	B1c	258
1553	ⅩD9f	Ⅱ層		L R × R L 型; 層状雲形刺状文。		縁線混入。	B1c	259
1554	ⅧC7e	再埋埋層		赤褐色? 刺状織文。		特殊孔。縁線混入。	B1c	259
1555	ⅧC7g	トレンチ	棒状工具による沈線(モチーフ不明)。			縁線多量。巻孔。1556と同一形状。	B1d	259
1556	ⅧD4f	Ⅰ層	棒状工具による沈線(モチーフ不明)。			縁線多量。巻孔。1556と同一形状。	B1d	259
1557	ⅩD61	Ⅱ層	口縁埋埋状工具による削み。	縦線。		縁線わずか混入。	B2a	259
1558	ⅧD9f	Ⅰ層	口縁埋埋状削み。	縦線。		縁線混入。	B2a	259
1559	ⅧD9e	Ⅰ層		網目状横糸文。縦線。		縁線わずか混入。	B2a	259
1560	ⅩC2h	埋埋色土	口縁埋埋状工具による削み。	縦線。R L 縦。		縁線わずか混入。	B2a	259
1561	ⅩID0h	埋埋色土	口縁埋埋状工具による削み。隠文。	網目状横糸文。		縁線わずか混入。	B2a	259
1562	ⅧD8a	Ⅰ層	陶器上層状工具による削み。	縦線。		縁線混入。	B2a	259
1563	ⅧD8h	検出面	陶器上左方からの埋埋状圧痕(具跡不明)。	R L 縦。		縁線混入。	B2a	259
1564	ⅧD8a	Ⅰ層		L R 縦。横線織絡文。		縁線混入。	B2b	259
1565	ⅧD51	埋埋色土	小波状口縁。口縁埋埋状工具による削み。	L R 縦。		縁線混入。	B2b	259
1566	ⅧC1g	再埋埋層	波状口縁。口縁埋埋状工具による削み。	L R 縦。横線織絡文。		縁線わずか混入。	B2b	259
1567	ⅧD9j	再埋埋層	小波状口縁。埋埋?。口縁埋埋状工具による削み。	L L R ? 縦。		縁線混入。	B2b	259
1568	ⅧE6a	Ⅰ層	口縁埋埋状工具による削み。	R L 縦。		縁線わずか混入。	B2b	259
1569	ⅧC0h	Ⅰ層	口縁埋埋状工具による削み。	R L 縦。		縁線混入。	B2b	259

第358図 遺構外出土遺物 土器04 第Ⅱ群1~2類



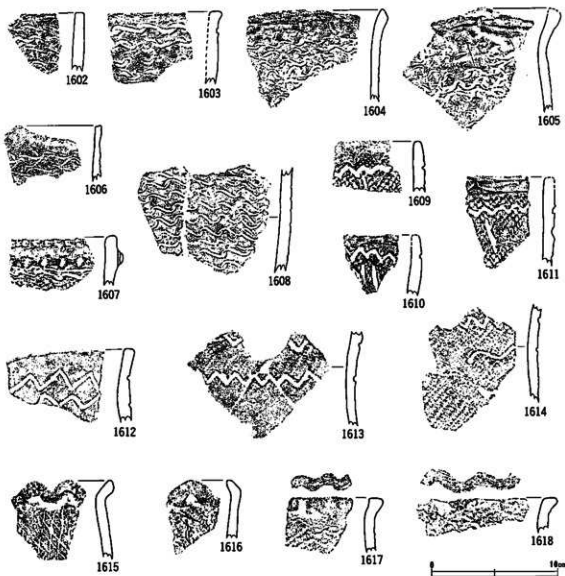
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁部断面	器高	備考	分類	写真
1570	ⅡD5b	Ⅱ層上面	口縁部特殊工具押圧。横位破砕文。	R.L.破。			縦線力少か混入。	Ⅱ2b	239
1571	ⅡC3b	再堆積層	口縁部特殊工具による押圧。	L.R.破。			縦線力少か混入。	Ⅱ2b	239
1572	ⅡD2b	Ⅱ層	小突起。	L.R.破。			縦線力少か混入。	Ⅱ2b	239
1573	ⅡE4b	Ⅱ層	波状口縁。口縁部指輪状圧痕。横位破砕文。	L.R.破。			縦線力少か混入。	Ⅱ2b	239
1574	ⅡD9g	I層	波状口縁。口縁部指輪状圧痕。横位破砕文。	L.R.破。			縦線力少か混入。	Ⅱ2b	239
1575	ⅡC7f	再堆積層下位		Ⅱ層位特殊文			縦線力少か混入。	Ⅱ2c	239
1576	ⅡC4a	再堆積層下位		L.N.目状特殊文(横位)			縦線力少か混入。	Ⅱ2c	239
1577	ⅡC区	再堆積層		L.N.目状特殊文(横位)			縦線力少か混入。	Ⅱ2c	239
1578	ⅡC4b	再堆積層	波状口縁。縦層する横位破砕文。	L.R.破。			縦線力少か混入。	Ⅱ2a	239
1579	ⅡC1i	整地下位	縦層する横位破砕文。					Ⅱ2a	239
1580	ⅡD8h	I層	波状口縁。縦層する横位破砕文。					Ⅱ2a	239
1581	ⅡD8i	黒色土	口縁部特殊工具による斜位削入。縦層する横位破砕文。					Ⅱ2a	239
1582	ⅡD3h	Ⅱ層	口縁部特殊工具による斜位削入。縦層する横位破砕文。	L.R.破。				Ⅱ2a	239
1584	ⅡD1e	再堆積層	口縁部特殊工具による斜位削入。縦層する横位破砕文。					Ⅱ2a	239
1584	ⅡD2h	Ⅱ層	口縁部特殊工具による削入。縦層する横位破砕文。	L.R.破。				Ⅱ2a	239
1585	ⅡD9f	I層	口縁部特殊工具による削入。縦層する横位破砕文。				縦線混入。	Ⅱ2b	239
1586	ⅡD6i	黒色土	波状口縁?口縁部特殊工具による削入。縦層する横位破砕文。					Ⅱ2a	240

第359図 遺構外出土遺物 土器(25) 第Ⅱ群2類~3類



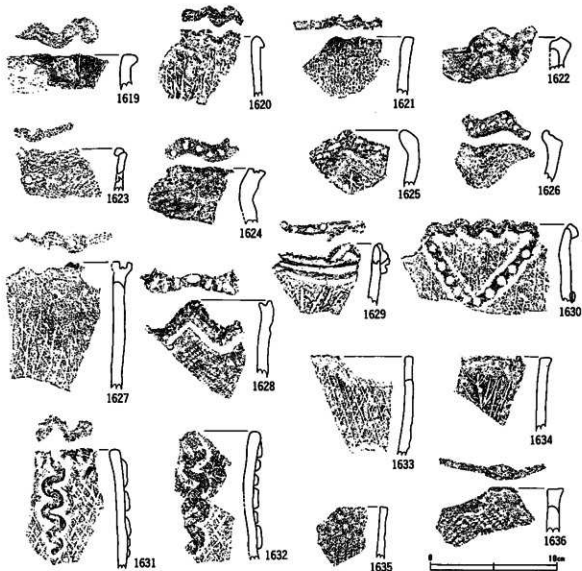
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁	底縁	器高	備考	分類	写真
1587	ⅨD5j	Ⅰ層	口縁部短状工具による右方向からの彫み。重層する横位線刻文。	R.L.横。					Ⅸ3a	240
1588	ⅨD5i	Ⅰ層	口縁部短状工具による右方向からの彫み。重層する横位線刻文。	R.L.横。					Ⅸ3a	240
1589	ⅨD5f	Ⅱ層	口縁部短状工具による右方向からの彫み。重層する横位線刻文。	L.R.横。					Ⅸ3a	240
1590	ⅨD8i	Ⅱ層	口縁部短状工具による右方向からの彫み。重層する横位線刻文。	R.L.横。					Ⅸ3a	240
1591	ⅨE2a	Ⅰ層	不均形波状口縁。口縁部短状工具による右方向からの彫み。重層する横位線刻文。						Ⅸ3a	240
1592	ⅨD6i	Ⅰ層	小波状口縁。口縁部短状工具による彫み。重層する横位線刻文。						Ⅸ3a	240
1593	ⅨD9j	Ⅰ層	口縁部短状工具による右方向からの彫み。重層する横位線刻文。	L.R.横。					Ⅸ3a	240
1594	ⅨD3i	Ⅱ層	口縁部短状工具による彫み。重層する横位線刻文。	L.R.横。					Ⅸ3a	240
1595	ⅨD7i	Ⅰ層	口縁部短状工具による彫み。竹字研究による彫み。重層する横位線刻文。	L.R.横。				縦線刻入。	Ⅸ3a	240
1596	ⅨD8a	褐色土	小波状口縁。器内面短状工具。口縁部短状工具による彫み。重層する横位線刻文。						Ⅸ3b	240
1597	ⅨD5f	横出面	重層する横位線刻文。	R.L.R.					Ⅸ3b	240
1598	ⅨD5f	横出面	重層する横位線刻文。						Ⅸ3b	240
1599	ⅨD8c	Ⅰ層	重層する横位線刻文。	L.R.横。					Ⅸ3b	240
1600	ⅨD8d	暗褐色土	重層する横位線刻文。	L.R.横。					Ⅸ3b	240
1601	ⅨD5f	横出面	重層する横位線刻文。					縦線刻入。	Ⅸ3b	240

第360図 遺構外出土遺物 土器Q9 第II群3類



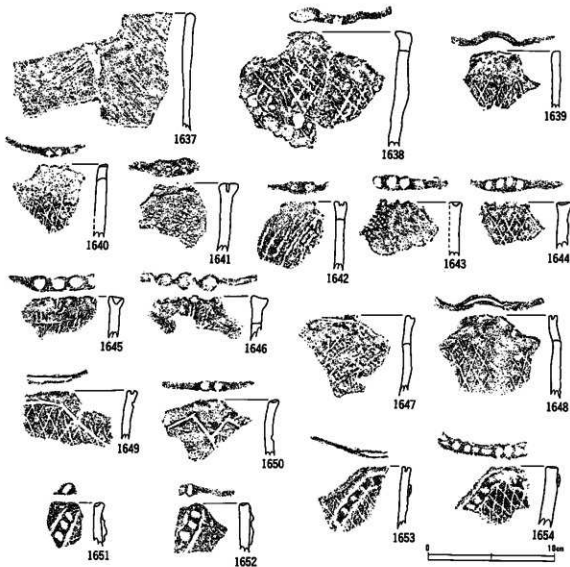
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁	底脚部	高さ	備考	分瓶	写真
1602	甕D 8 h	II層	S字状連続文。						II 4	240
1603	甕D 4 h	II層	S字状連続文。					縁部没入。	II 4	240
1604	甕D 9 a	褐色土	S字状連続文。						II 4	240
1605	甕D 9 a	褐色土	S字状連続文。						II 4	240
1606	鉢4トレンチ	盛土	波状口縁, S字状連続文。						II 4	240
1607	甕D 5 f	I層	赤褐色等斜紋, 甕D 1層土工具による圧痕, S字状連続文。					縁部没入。	II 4	240
1608	甕D 7 e	I層	S字状連続文。						II 4	240
1609	甕D 6 f	I層	縞状文様, 縦位2条の沈線。	L R縞。					II 5	240
1610	甕D 0 i	I層	縞状文様, 縦位2条の沈線。						II 5	240
1611	甕D 5 h	I層	縞状文様, 縦位の沈線。	R縞赤文, L R縞。				縁部口縁。	II 6	240
1612	甕D 9 h	褐色土	縞状文様。						II 5	240
1613	甕D 8 d	褐色土	縞状文様。(修状工具)。	L R縞。				1614と同一器体。	II 5	240
1614	甕D 8 d	褐色土	縞状文様, 波状沈線(修状工具)。	L R縞。				1613と同一器体。	II 5	240
1615	甕D 1 a	II層	縞状文様。	R縞目状赤文。					II 6 a 7	241
1616	甕C 5 h	再発着下位	縞状文様。	L R縞, 片部以縦位赤文。					II 6 a 7	241
1617	甕C 4 f	再発着位	縞状文様。	L R縞, 横位縞赤文。				内面スス肌。	II 6 a 7	241
1618	甕C 3 e	II層	縞状文様。	横位縞赤文。					II 6 a 7	241

第361図 遺構外出土遺物 土器(7) 第II群4類~6類



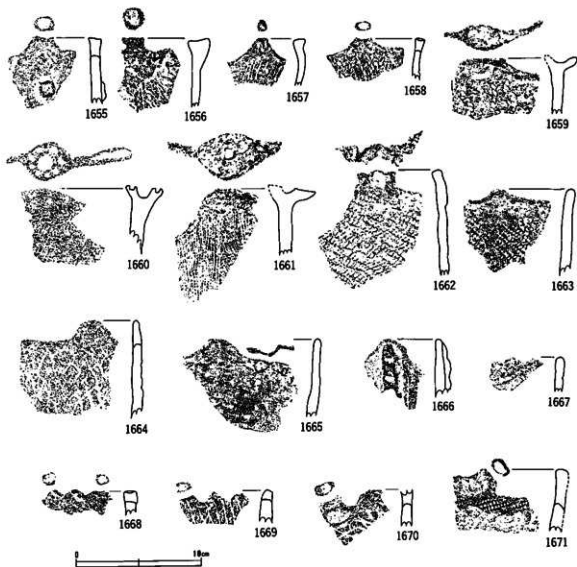
番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底径	高さ	備考	分類	写真
1619	ⅢC4e	再帰焼層	縞線状波線体。						Ⅱ6a7	241
1620	ⅢD4i	再帰焼層	縞線状波線体。	互綱目状燃赤文。					Ⅱ6a7	243
1621	ⅢC7f	I層	縞線状波線体 (表面に黒い斑に若干の赤と下土)。	不明(多角筒体?)					Ⅱ6a7	241
1622	ⅢE9a	I層	縞線状波線体。						Ⅱ6a7	243
1623	ⅢB3c	I層	口縁に縞線状波線体。直下1層位に縞線体。縞線。	L.R縞。					Ⅱ6a7	241
1624	ⅢD8e	I層	縞線状波線体。裏面土に赤土層による縞線。中腹竹管刺突。						Ⅱ6a7	243
1625	ⅢC3b	再帰焼層	縞線状波線体。裏面土に中腹竹管刺突。	互綱目状燃赤文。					Ⅱ6a7	241
1626	ⅢD1g	I層	縞線状波線体。裏面土に中腹竹管刺突。	互綱目状燃赤文。					Ⅱ6a7	243
1627	ⅢD1レンテ	盛土	赤土口縁。縞線状波線体。裏面土に中腹竹管刺突による縞線。	互綱目状燃赤文。					Ⅱ6a7	241
1628	ⅢD6i	I層	縞線状波線体。口縁部から下土による縞線。縞線。L.R縞。	L.R縞。L.R×L.R縞。縞線状燃赤文。			1300、1302と同一個体		Ⅱ6a7	241
1629	ⅢD7d	II層	縞線状波線体。口縁部から下土による縞線。縞線。L.R縞。	L.R木目状燃赤文。					Ⅱ6a7	241
1630	ⅢD0ライン	再帰焼層	縞線状波線体。裏面土に縞線状燃赤文。	互綱目状燃赤文。					Ⅱ6a7	241
1631	ⅢD8g	II層	縞線状波線体。裏面土に縞線状燃赤文。	互綱目状燃赤文。			1629と同一個体		Ⅱ6a7	241
1632	ⅢD9f	再帰焼層	縞線状波線体。裏面土に縞線状燃赤文。	互綱目状燃赤文。			1629と同一個体		Ⅱ6a7	241
1633	ⅢE6a	I層	赤土突縁。	互綱目状燃赤文。					Ⅱ6a7	241
1634	ⅢD0g	再帰焼層	赤土突縁 (やや厚い)。	互木目状燃赤文。					Ⅱ6a7	241
1635	ⅢC6f	再帰焼層	赤土突縁。	L.R縞。					Ⅱ6a7	241
1636	不明		赤土突縁。	L.R縞。					Ⅱ6a7	241

第362図 遺構外出土遺物 土器20 第II群6類



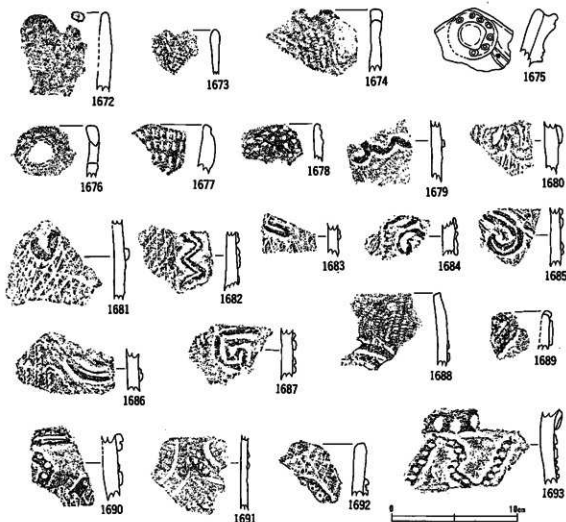
番号	出土地点	層位	文様	地文	口唇	捺目	器高	備考	分類	写真
1637	ⅢE 5 c	Ⅰ層	弁状突起。	L 肌織。					ⅡB a f	241
1638	ⅢC 3 e	Ⅱ層	動物口輪 (弁状突起), 花弁状口輪。	L 網目状捺糸文。					ⅡB a f	241
1639	ⅢC 6 h	Ⅰ層	弁状突起。	L 網目状捺糸文。					ⅡB a f	241
1640	ⅢC 6 e	Ⅱ層	弁状突起, 帯部突起工具による凹凸。	L 網目状捺糸文。					ⅡB a f	241
1641	ⅢD 0 g	Ⅱ層	弁状突起, 帯部と口唇部に突起工具による突起。	多輪筋条体?					ⅡB a f	241
1642	ⅢE 9 a	Ⅰ層	弁状突起, 帯部竹管突起。	R 捺糸文。					ⅡB a f	241
1643	ⅢC 5 e	Ⅱ層	弁状突起, 帯部指輪状突起 (爪跡網目)。	R L 肌。					ⅡB a f	242
1644	ⅢC 8 h	Ⅱ層	弁状突起, 帯部指輪状突起 (爪跡網目)。	R 網目状捺糸文。					ⅡB a f	242
1645	ⅢD 6 g	Ⅱ層	弁状突起, 帯部突起工具による凹凸 (?) による凹凸。	L 捺糸文 (? L)。					ⅡB a f	242
1646	ⅢC 7 f	Ⅱ層	弁状突起, 帯部指輪状突起, 帯部も指輪により凹凸を作り出す。	L 捺糸文。					ⅡB a f	242
1647	ⅢC 6 f	Ⅱ層	弁状突起, 帯部突起工具による突起。	L 網目状捺糸文。					ⅡB a f	242
1648	ⅢC 5 h	Ⅱ層	弁状突起, 帯部に突起工具による突起。	L 網目状捺糸文。					ⅡB a f	242
1649	ⅢC 4 g	Ⅱ層	弁状突起, 帯部に突起工具による突起, 口唇下に突起 (凹網)。	L 網目状捺糸文。					ⅡB a f	242
1650	ⅢC 4 f	Ⅱ層	弁状突起, 帯部指輪状突起, 突起。	ⅡB a f					ⅡB a f	242
1651	ⅢD 2 e	Ⅱ層	弁状突起, 帯部突起, 帯部上層指輪状突起。	ⅡB a f					ⅡB a f	242
1652	ⅢD 8 c	Ⅰ層	弁状突起, 帯部突起, 帯部上層指輪状突起。	ⅡB a f					ⅡB a f	242
1653	ⅢC 6 h	Ⅰ層	弁状突起, 帯部に突起工具による突起, 帯部上左方向からの指輪状突起。	L 網目状捺糸文。					ⅡB a f	242
1654	ⅢB 区	Ⅱ層	弁状突起, 帯部と口唇部に指輪状突起, 帯部上左方向からの指輪状突起。	R 網目状捺糸文。					ⅡB a f	242

第363図 遺構外出土遺物 土器(2) 第II群6類



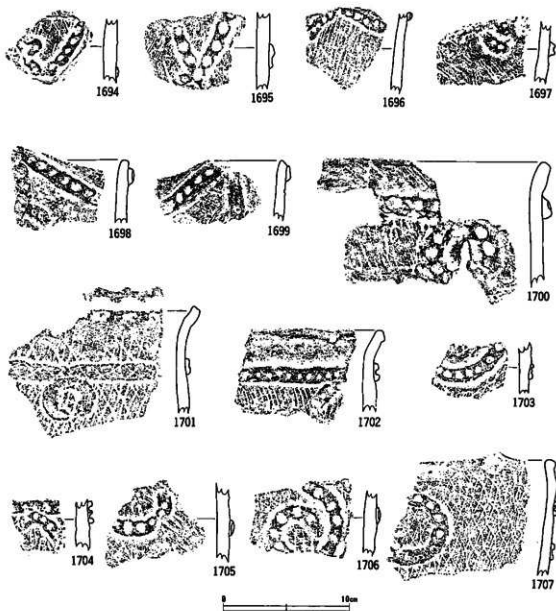
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁部断面	器高	備考	分類	写真
1655	ⅩD 5 j	I層	台形状突起。ボタン状貼付文。(1個側面)。					Ⅹ6a9	242
1656	ⅩD 9 f	I層	円文状突起。扇状(波状)粘土凝結付け。	R縞赤文。				Ⅹ6a9	242
1657	ⅩC 6 g	再堆積層	台形状突起(上面側面形に近い)。					Ⅹ6a9	242
1658	ⅩC 5 h	再堆積層	台形状突起。	I.網目状赤赤文。				Ⅹ6a9	242
1659	ⅩC 2 i	再堆積層	円筒状突起。中央部円文。	縦位線格文。				Ⅹ6a9	242
1660	Ⅹa20トレンチ	盛土	円筒状突起。上部に若干の突起。波状口縁。口縁部浅彫。	I.縞赤文。				Ⅹ6a9	242
1661	ⅩD 2 g	再堆積層	円筒状突起。中央部円文。	L.縞赤文。				Ⅹ6a9	242
1662	ⅩD 8 i	II層	中円状突起。口唇部浅彫文。	L.R縞。				Ⅹ6a9	242
1663	ⅩC 6 f	再堆積層	山形状突起。	L.R縞。縦位線格文。				Ⅹ6a9	242
1664	ⅩD 1 i	検出面	丸山状突起。	R.網目状赤赤文。				Ⅹ6a9	242
1665	ⅩD 9 f	I層	山形状突起。平縁部細文(用江より上部認め難状(注本表))。					Ⅹ6a9	242
1666	ⅩD 1 b	側面トレンチ	波状口縁。唇下する隆部上に縦線状圧痕。	R.網目状赤赤文。				Ⅹ6a9	242
1667	ⅩD 7 d	II層	山形状突起(三角形状+三角形状)右側欠損。	L.R.縞面圧痕?				Ⅹ6a9	242
1668	ⅩE 4 d	II層	山形状突起(三角形状+三角形状+台形状)。					Ⅹ6a9	242
1669	ⅩE 8区	再堆積層	山形状突起(台形状+三角形状+三角形状)右側欠損。	L.網目状赤赤文。				Ⅹ6a9	242
1670	ⅩE 0 e	I層	山形状突起(台形状)右側欠損して不明。	網目状赤赤文。				Ⅹ6a9	242
1671	ⅩD 2 d	I層	突起(形状不明)。	L.R縞。				Ⅹ6a9	242

第364図 遺構外出土遺物 土器③ 第II群 6類



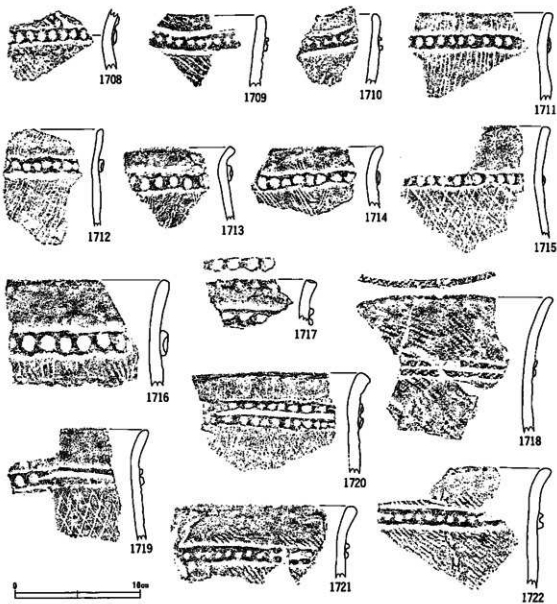
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁 蓋部 器高 番号	分類	写真
1672	ⅣC3e	再成段層	山形突起(丸山状+台形状) 右面欠損。				Ⅱ67 242
1673	ⅣD7c	II層	山形突起(三角形状+三角形状) 欠頂。	縦位線筋文。			Ⅱ67 242
1674	ⅣD0b	II層	波状口縁。山形突起。	L.R?			Ⅱ67 242
1675	ⅣD3i	褐色土	山形突起内凹縁部縁部削り。竹管削突。器管上竹管削突。				Ⅱ67 242
1676	ⅣE5f	褐色土直上	内状突起。				Ⅱ67 242
1677	ⅣC5f	I層	波状口縁部削突状工具による削突。				Ⅱ67 242
1678	ⅣD区	I層	波状口縁部削突状工具による削突。				Ⅱ67 242
1679	ⅣD2トレンチ	盛土	隆帯による波状文と内文。	L.R.			Ⅱ67 242
1680	ⅣD0g	II層	隆帯。	器承文。			Ⅱ67 242
1681	ⅣD0g	II層	隆帯。	網目状器承文。			Ⅱ67 242
1682	ⅣD8j	II層	隆帯(扇状) 上沈線(凹線)。	R網目状器承文。器承文。			Ⅱ67 242
1683	ⅣD9j	I層	隆帯(扇状) 上沈線(凹線)。	R網目状器承文。			Ⅱ67 242
1684	ⅣD7i	褐色土	隆帯(扇状) 上沈線(凹線)。	L+Rの器承文。			Ⅱ67 242
1685	ⅣE3c	I層	隆帯(釣針状) 上沈線(凹線)。	L器承文。			Ⅱ67 242
1686	不明		隆帯(釣針状) 上沈線(凹線)。	L.R本目状器承文。			Ⅱ67 242
1687	ⅣD3h	検出面	隆帯(方形) 上沈線(凹線)。	L.R×R.L器1 器管上竹管削突。			Ⅱ67 242
1688	ⅣE3b	II層	波状口縁。隆帯上沈線(凹線)。隆帯上にも縦文筋文。	L.R線。			Ⅱ67 242
1689	不明		口唇部から器管へ隆帯。縦位線筋文。				Ⅱ67 242
1690	ⅣD5f	再成段層	隆帯上沈線。器管上竹管削突。	L網目状器承文。			Ⅱ67 242
1691	ⅣC7f	II層上層	隆帯削突。隆帯上に竹管削突による削突。沈線凹線。	L.R線。			Ⅱ67 242
1692	ⅣD6トレンチ	盛土	隆帯上竹管削突。	R網目状器承文。			Ⅱ67 242
1693	ⅣD5c	褐色土上層	隆帯上竹管削突。隆帯上竹管削突。	L網目状器承文。			Ⅱ67 242

第365図 遺構外出土遺物 土器① 第II群6類



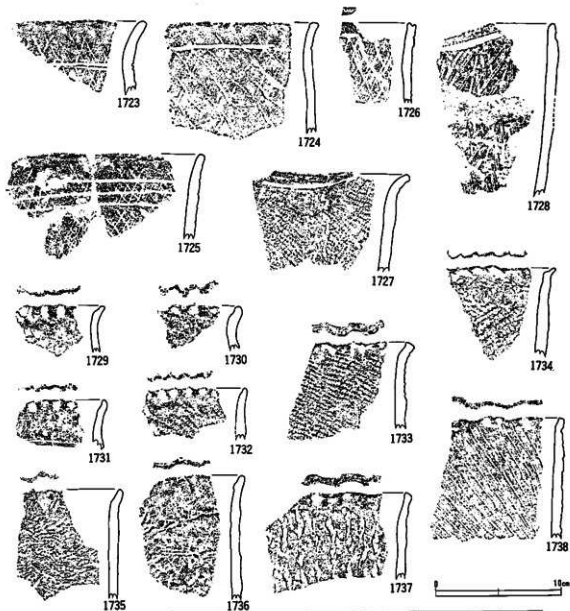
番号	出土地点	層位	文様	地文	口徑	底径	器高	備考	分類	写真
1694	ⅣD 9 f	I層	沈陥。陶管上竹管刺突。	L.網目状燃承文。					Ⅱ617	243
1695	ⅣD 4 g	I層	陶管上微陥状圧痕。	R.木目状燃承文。					Ⅱ617	243
1696	ⅣD 7 d	II層	陶管上竹管刺突。	燃承文 (r ?)					Ⅱ617	243
1697	ⅣC 4 h	II層	陶管上竹管刺突。	L + R (木目状?) 燃承文。					Ⅱ617	243
1698	ⅣC 4 b	II層	狭口鉢(浅碗状?)。陶管上微陥状圧痕と竹管刺突。	L.燃承文。			1699と同一體形		Ⅱ617	243
1699	ⅣC 4 b	II層	狭口鉢(浅碗状?)。陶管上微陥状圧痕と竹管刺突。	L.燃承文。			1698と同一體形		Ⅱ617	243
1700	ⅣD 4 b	II層	陶管上微陥状圧痕。	L.燃承文。					Ⅱ617	243
1701	ⅣD 1 f	I層	浅弁状口鉢。陶管上網目状燃承文施文。基部状残存。	R.網目状燃承文。					Ⅱ617	243
1702	ⅣD 9 g	I層	陶管上竹管刺突。	R.網目状燃承文。					Ⅱ617	243
1703	ⅣD 6 a	褐色土	陶管上竹管刺突。	網目状燃承文。					Ⅱ617	243
1704	不明		陶管上竹管刺突。	L.木目状燃承文。					Ⅱ617	243
1705	ⅣC 1 g	褐色土上面	陶管上微陥状圧痕。	R.木目状燃承文。					Ⅱ617	243
1706	ⅣD 1 a	銅面	陶管上微陥状圧痕。	R.網目状燃承文。					Ⅱ617	243
1707	Ⅳb16トレンチ	盛土	陶管上竹管刺突。	R.網目状燃承文。				口縁部平直	Ⅱ617	243

第366図 遺構外出土遺物 土器(3) 第II群6類



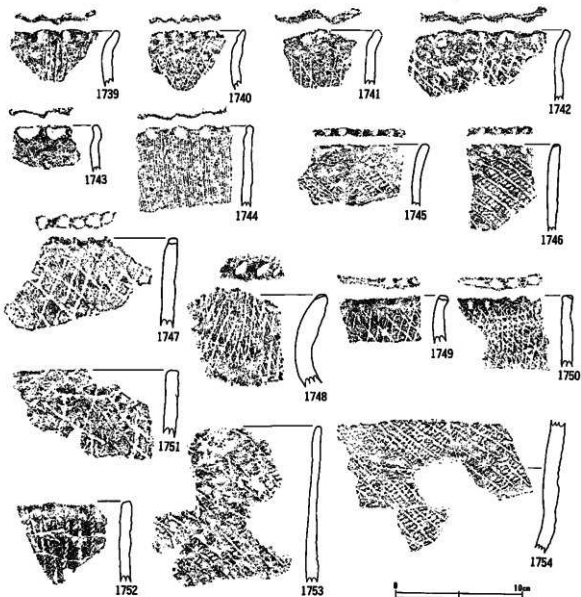
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁部断面	器高	番号	分類	写真
1708	ⅢC e d	再帰焼層	胎帯上指環状圧痕(爪跡類着)	L.R.縦。				Ⅲb-f	243
1709	ⅢE 5 b	I層	波状口縁。胎帯上竹管刺突。	L.胎赤文。		1710と同一個体。		Ⅲb-f	243
1710	ⅢE 5 b	I層	波状口縁。胎帯上竹管刺突。	L.胎赤文。		1709と同一個体。		Ⅲb-f	243
1711	ⅢC 区	I層	胎帯左上方向からの爪による跡み。	R.胎赤文。				Ⅲb-f	244
1712	ⅢC 6 f	再帰焼層	波状口縁。胎帯上指環状圧痕(爪跡類着)	r.胎赤文。				Ⅲb-f	244
1713	ⅢD 3 c	再帰焼層	胎帯上指環状圧痕。	L.木目状胎赤文。				Ⅲb-f	244
1714	ⅢC 5 h	再帰焼層	胎帯上指環状圧痕。	R.木目状胎赤文。				Ⅲb-f	244
1715	ⅢC 2 g	I層	胎帯左上方向からの指環状圧痕(爪跡類着)	R.網目状胎赤文。				Ⅲb-f	244
1716	ⅢD 1 g	Ⅱ層	胎帯上指環状圧痕。	R.木目状胎赤文。				Ⅲb-f	244
1717	ⅢD 9 h	I層	明確な胎帯上の指環状圧痕。胎帯左上方向からの指環状圧痕による刺突。					Ⅲb-f	244
1718	ⅢC 4 h	再帰焼層下位	口唇部縦文施文。胎帯上縦文施文後沈線(凹線)。	L.R.縦。				Ⅲb-f	244
1719	ⅢC 4 g	再帰焼層下位	胎帯左上方向からの指環状圧痕。胎帯上沈線(凹線)。	L.網目状胎赤文。				Ⅲb-f	244
1720	ⅢD 1 a	Ⅱ層	胎帯上指環状圧痕施文後沈線(凹線)。	R.網目状胎赤文。				Ⅲb-f	244
1721	ⅢC 9 e	I層	胎帯上棒状工具(竹管?)による刺突。	L.縦。網目状胎赤文。				Ⅲb-f	244
1722	ⅢD 0 c	黄褐色土	胎帯上棒状工具(竹管?)刺突。胎帯上沈線(凹線)。	L.縦。網目状胎赤文。				Ⅲb-f	244

第367図 遺構外出土遺物 土器(Ⅲ) 第II群 6類



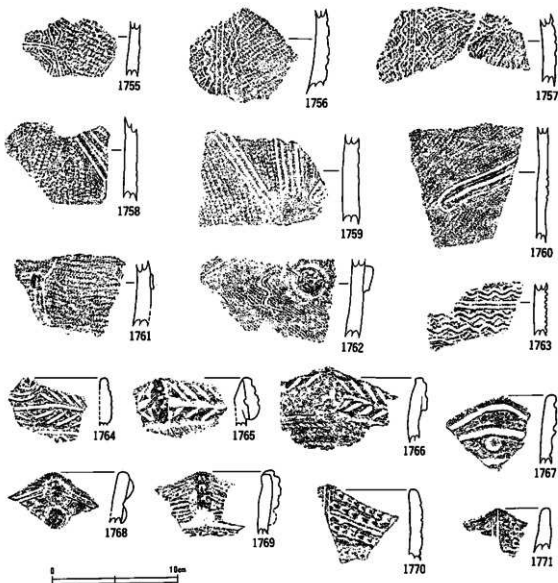
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁	底面	器高	備考	分類	写真	
1723	ⅡC 5 g	河津橋層	沈線 (凹線)	L. 網目状押糸文。					Ⅱb?	244	
1724	ⅡC 7 f	河津橋層	沈線 (凹線)	L. 網目状押糸文。					Ⅱb?	244	
1725	ⅡD 7 b	Ⅱ層	沈線 (凹線)	R. 網目状押糸文。					Ⅱb?	244	
1726	ⅡC 区	Ⅰ層	口唇状沈線、口縁直下沈線、腹面曲線の沈線、作って凹線。	L. 網目状押糸文。					Ⅱb?	244	
1727	ⅡC 0 i	Ⅰ層	波状口縁。	L. R. 底。腹面直文。					Ⅱb?	244	
1728	ⅡC 6 h	河津橋層	波状口縁。沈線 (凹線)	R. 本目状押糸文。					Ⅱb?	244	
1729	ⅡD 0 c	黄褐色土	花卉状口縁 (口唇部に近い位置)						Ⅱb?	244	
1730	ⅡC 5 j	Ⅰ層	花卉状口縁 (口唇部に近い位置)						Ⅱb?	244	
1731	ⅡC 6 e	河津橋層	花卉状口縁。半横竹管平行沈線。						Ⅱb?	244	
1732	ⅡC 6 h	河津橋層	花卉状口縁。爪痕顯著。	L. R. 底。					前後波状は小割入。	Ⅱb?	244
1733	ⅡD 1 a	Ⅱ層	花卉状口縁。	L. R. 底。第1層底面。					内面凹線付。口唇部平直。	Ⅱb?	244
1734	ⅡE 0 b	Ⅰ層	花卉状口縁 (内面爪痕顯著)	L. R. 底。腹面直文。					口唇部指頭状沈線。	Ⅱb?	244
1735	ⅡE 2 d	Ⅰ層	花卉状口縁。						口唇部丸入。	Ⅱb?	245
1736	ⅡD 0 j	褐色土	花卉状口縁。						口唇部平直。	Ⅱb?	245
1737	ⅡC 3 e	Ⅰ層	花卉状口縁。	腹面直線文。					口唇部丸入。	Ⅱb?	245
1738	ⅡD 1 a	Ⅱ層	花卉状口縁。	L. 押糸文。					口唇部丸入。	Ⅱb?	245

第368図 遺構外出土遺物 土器34 第Ⅱ群 6類



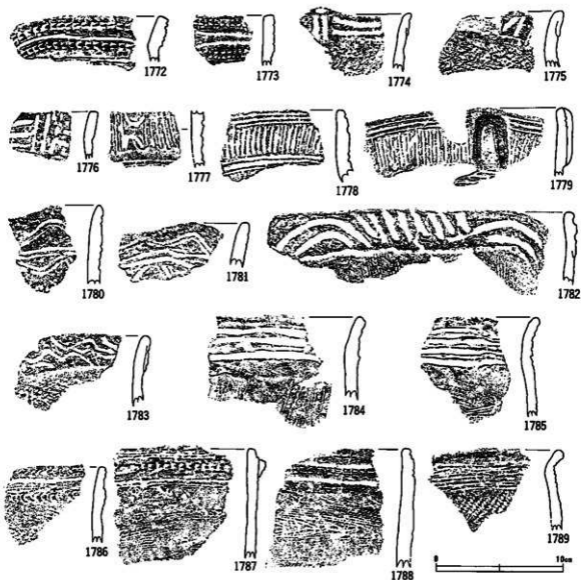
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁	胎体	器高	備考	分類	写真
1739	ⅡD 2 e	再埋設層	花卉状口縁。	反摺糸文。				口縁部欠入。	Ⅱb Ⅱ	245
1740	ⅡD 3 e	再埋設層	花卉状口縁。	反網目状地文。				前後縁状は小割み。	Ⅱb Ⅱ	245
1741	ⅡE 5 b	I層	花卉状口縁。	反網目状地文。					Ⅱb Ⅱ	245
1742	ⅡC 3 c	再埋設層	花卉状口縁。	反網目状地文。					Ⅱb Ⅱ	245
1743	ⅡC 8 d	再埋設層	花卉状口縁。						Ⅱb Ⅱ	245
1744	ⅡD 0 a	褐色土	花卉状口縁。(外周右方向からの指環状圧痕跡)。						Ⅱb Ⅱ	245
1745	ⅡD 9 f	I層	口縁部左方向からの指環状圧痕。	稀巻縄文(Lに1)					Ⅱb Ⅱ	245
1746	ⅡD 9 f	I層	口縁部右方向からの指環状圧痕。	稀巻縄文(Lに1)					Ⅱb Ⅱ	245
1747	ⅡD 4 j	II層	口縁部指環状圧痕。	反網目状地文。					Ⅱb Ⅱ	245
1748	ⅡD 6 f	検出層	口縁部内側縁状圧痕(工具による割み)。	反網目状地文。					Ⅱb Ⅱ	245
1749	ⅡD 9 j	I層	口縁部指環状圧痕(部分別)。	反網目状地文。				2単位になるものか?	Ⅱb Ⅱ	245
1750	ⅡD 6 g	II層	口縁部指環状圧痕(部分別)。口縁部下指環状圧痕(部分別)。	反網目状地文。				2単位になるものか?	Ⅱb Ⅱ	245
1751	ⅡC 9 e	I層		反網目状地文。				粗砂含む。	Ⅱb Ⅱ	245
1752	ⅡD 5 f	I層		L 摺糸文。					Ⅱb Ⅱ	245
1753	ⅡC 4 f	褐色土		稀巻縄文(Lに1)					Ⅱb Ⅱ	245
1754	ⅡC 4 f	褐色土		稀巻縄文(Lに1)					Ⅱb Ⅱ	245

第369図 遺構外出土遺物 土器③ Ⅱ群6類



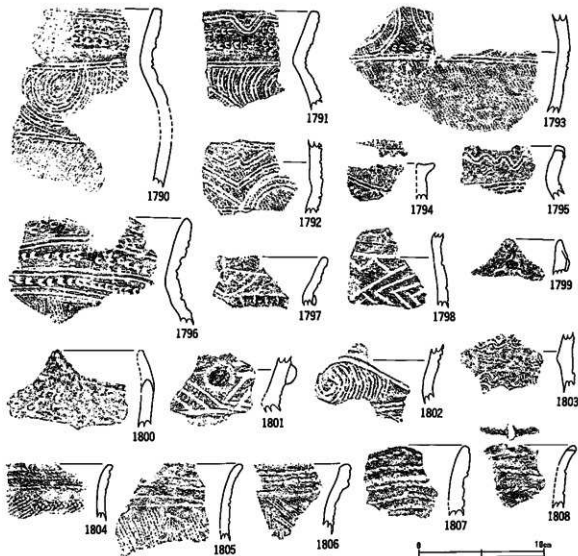
番号	出土地点	層位	文様	施文	口縁部	断面	番号	分層	写真
1755	ⅧD 3 h	1層	半縦竹管平行沈線。	L.R横。			Ⅱ 7 a	245	
1756	ⅧC 7 f	再埋積層	半縦竹管平行沈線。	L.R横。			Ⅱ 7 a	245	
1757	ⅧC 5 f	再埋積層	半縦竹管平行沈線。	L.R横。			Ⅱ 7 a	245	
1758	ⅧC 2 j	再埋積層	半縦竹管平行沈線。	L.R横。			Ⅱ 7 a	245	
1759	ⅧC 2 i	埋地層	半縦竹管平行沈線。	L.R横。			Ⅱ 7 a	246	
1760	ⅧC 1 g	II層	半縦竹管平行沈線。	L.R横。			Ⅱ 7 a	246	
1761	ⅧC 5 b	再埋積層	半縦竹管平行沈線。ボタン状貼付け。	L.R横。			Ⅱ 7 a	246	
1762	ⅧD9 トレンチ	盛土	ボタン状突起。半縦竹管平行沈線。	R.L横。			Ⅱ 7 a	246	
1763	ⅧC 7 f	1層	沈線(凹線)。				Ⅱ 7 a	245	
1764	ⅧC 区	再埋積層	波状口縁。沈線(凹線)。				Ⅱ 7 a	246	
1765	ⅧC 区	再埋積層	複合口縁。垂下する隆帯上押状工具による彫み。沈線(凹線)。				Ⅱ 7 a	246	
1766	ⅧC 4 g	再埋積層	波状口縁。複合口縁。押状工具による沈線(凹線)。L側面圧痕。				Ⅱ 7 a	246	
1767	ⅧD 2 a	1層	波状口縁。沈線(凹線)凹文。				Ⅱ 7 a	246	
1768	ⅧD 3 f	再埋積層	波状口縁。沈線。ボタン状貼付け。沈線(先地彫削)。				Ⅱ 7 a	246	
1769	ⅧC 6 h	再埋積層下位	波状口縁。彫削から垂下する隆帯上半縦竹管斜突。半縦竹管平行沈線。				Ⅱ 7 a	245	
1770	ⅧC 6 f	再埋積層	波状口縁。半縦竹管平行沈線。半縦竹管斜突。				Ⅱ 7 a	246	
1771	ⅧD 3 h	1層	波状口縁。頂部から垂下する沈線。半縦竹管斜突。				Ⅱ 7 a	246	

第370図 遺構外出土遺物 土器30 第II群7類



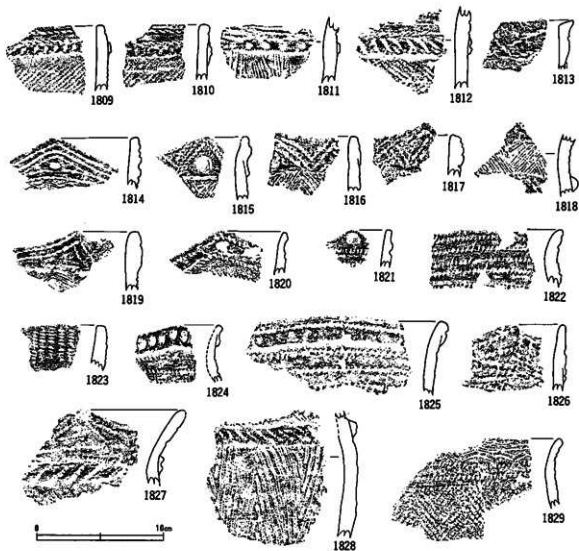
番号	出土地点	層位	文様	施文	口縁部形	唇高	備考	番号	分層	写真
1772	ⅢD 7 d	II層	沈線 (四線), 半截竹管割突。						Ⅱ 7 a	246
1773	ⅢD 3 f	II層	半截竹管押し引き。沈線 (四線)。						Ⅱ 7 a	246
1774	ⅢD 3 h	横穴部	複合口縁。波状口縁。器状工具による沈線。	R R L ?					Ⅱ 7 a	246
1775	ⅢC 7 f	両層焼層	複合口縁。沈線 (四線)。重層する横位線跡文。	R L 線。横位線跡文。					Ⅱ 7 a	246
1776	ⅢD 2 e	両層焼層	沈線 (四線)。						Ⅱ 7 a	246
1777	ⅢD 5 f	両層焼層	沈線 (四線)。短尺棒は器状工具。						Ⅱ 7 a	246
1778	ⅢD 2 g	I層	沈線。						Ⅱ 7 a	246
1779	ⅢC 6 h	I層	粘土縮退付けによる逆じ字。沈線。						Ⅱ 7 a	246
1780	ⅢC 1 f	I層	波状口縁。棒状工具による沈線。						Ⅱ 7 a	246
1781	ⅢC 4 g	両層焼層	波状口縁。半截竹管平行沈線。						Ⅱ 7 a	246
1782	ⅢC 4 g	両層焼層	複合口縁。沈線 (四線)。	L + R の器承文。					Ⅱ 7 a	246
1783	ⅢC 2 e	両層焼層	複合口縁。棒状工具による沈線。	L L R ?					Ⅱ 7 a	246
1784	ⅢD 6 d	両層焼層	沈線 (四線)。	R 横糸文。					Ⅱ 7 a	246
1785	ⅢD 6 f	II層	沈線 (四線)。	L + R の器承文 (横筋板)。					Ⅱ 7 a	246
1786	ⅢD 3 e	両層焼層	口縁と器縁部上半截竹管割突。半截竹管平行沈線。	器 1 横筋板波状跡文。					Ⅱ 7 a	246
1787	ⅢC 6 g	両層焼層	半截竹管平行沈線。器上半截竹管割突。	横位線承文。					Ⅱ 7 a	246
1788	ⅢD 4 f	両層焼層	半截竹管割突。沈線 (四線)。	R 本目状器承文 (横)。					Ⅱ 7 a	247
1789	ⅢC 7 f	両層焼層	半截竹管平行沈線。	L R 線。					Ⅱ 7 a	247

第371図 遺構外出土遺物 土器(7) 第II群7類



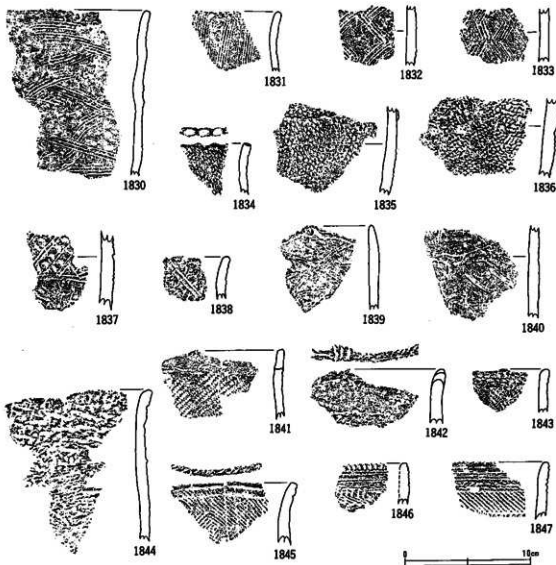
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	器高	番号	分類	器具
1790	甬 C 5 g	再帰焼層	半段竹管平行沈線。半段竹管割突。	L R 眼。					Ⅱb	247
1791	甬 C 5 g	再帰焼層	半段竹管平行沈線。半段竹管割突。						Ⅱb	247
1792	甬 C 4 h	1層	半段竹管平行沈線。半段竹管割突。						Ⅱb	247
1793	甬 D 2 g	1層	半段竹管平行沈線。半段竹管割突。						Ⅱb	247
1794	甬 C 区	再帰焼層	口縁部内面割突(破損)工具? 半段竹管平行沈線。半段竹管? 割突。						Ⅱb	247
1795	甬 C 区	再帰焼層	半段竹管平行沈線。口縁部に割突(粘土粒を縦位に貼付け)。						Ⅱb	247
1796	甬 C 5 f	再帰焼層	半段竹管平行沈線。半段竹管割突。	L 木目状横糸文。					Ⅱb	247
1797	甬 D 1 b	銅器トレンチ	波状口縁。複合口縁。頂部下にボタン状突起貼付け。						Ⅱb	247
1798	甬 C 0 f	再帰焼層上段	沈線。隆帯割突。						Ⅱb	247
1799	甬 C 6 h	再帰焼層	波状口縁。複合口縁。頂部下にボタン状突起貼付け。						Ⅱb	247
1800	甬 D 6 h	1層	波彩花弁状口縁。						Ⅱb	247
1801	甬 D 1 g	1層	沈線(凹線)。ボタン状突起	L R 眼。					Ⅱb	247
1802	甬 C 区	再帰焼層	先鋭が鋭利な工具による縦沈線。横収工具による沈線。						Ⅱb	247
1803	甬 D 6 c	銅器トレンチ	半段竹管平行沈線。内面に横を穿する。						Ⅱb	247
1804	甬 C 5 g	再帰焼層	L R 割面任成。	L R x R L 層に波状横糸文。					Ⅱa 7	247
1805	甬 D 3 e	再帰焼層	L R 割面任成。	L + R の木目状横糸文。					Ⅱa 7	247
1806	甬 C 3 j	1層	複合口縁。L R 割面任成。	R 2 条木目状横糸文。					Ⅱa 7	247
1807	甬 C 3 f	再帰焼層	波状口縁。複合口縁。L R 割面任成。						Ⅱa 7	247
1808	甬 C 4 h	再帰焼層	波状口縁。頂部横収工具による任成。L R 割面任成。						Ⅱa 7	247

第372図 遺構外出土遺物 土器Ⅲ 第Ⅱ群7～8類



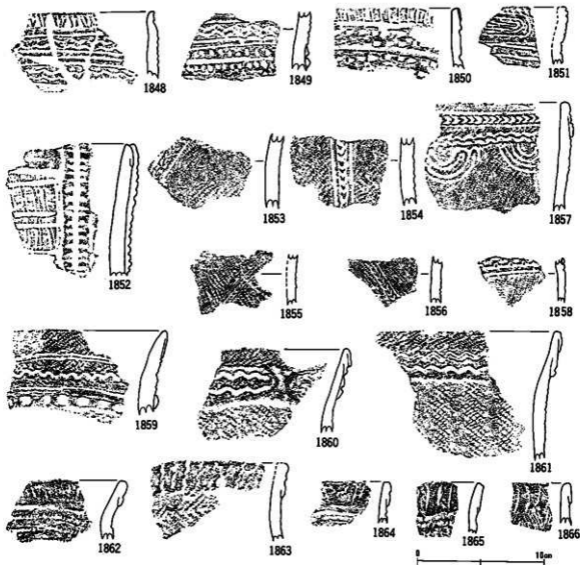
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁	底面	断面	高さ	備考	分類	写真
1809	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。		L R横。						Ⅱa7	247
1810	Ⅱ層	胎帯上側面圧痕。口縁部 L R側面圧痕。		L R横。						Ⅱa7	247
1811	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1812	Ⅱ層	胎帯上側面圧痕。胎帯上側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1814	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1815	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1816	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1817	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1818	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1819	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1820	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1821	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1822	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1823	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1824	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1825	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1826	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1827	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1828	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247
1829	Ⅱ層	L R側面圧痕。胎帯上側面圧痕。								Ⅱa7	247

第373図 遺構外出土遺物 土器Ⅲ Ⅱ群 Ⅱ類



No.	出土地点	層位	文様	施文	口縁	底形	器高	備考	分類	写真
1830	箱C4e	胴中部	衝面状沈線文。						II 9 a	248
1831	箱C6f	再層底層	衝面状沈線文。						II 9 a	248
1832	不明		衝面状沈線文。						II 9 a	248
1833	箱C6b	再層底層	衝面状沈線文。						II 9 a	248
1834	ⅡD3h	Ⅱ層	口唇部衝面状沈線。	オオバコ花輪?				器体詳細不明。	II 9 a	248
1835	ⅡD5e	Ⅱ層		オオバコ花輪?				器体詳細不明。	II 9 a	248
1836	箱C1f	Ⅱ層		オオバコ花輪?				器体詳細不明。	II 9 a	248
1837	箱D7i	再層底層	半歳竹管平行沈線。半歳竹管?爪形文。						II 9 b	248
1838	箱C3e	Ⅱ層	半歳竹管平行沈線。						II 9 b	248
1839	箱C7f	再層底層	散点状。口唇部沈線に上る部、9歳(半)竹管平行沈線。						II 9 b	248
1840	箱C2f	再層底層	半歳竹管平行沈線(多歳竹管?)						II 9 b	248
1841	ⅡE3a	Ⅱ層	波状口縁。散点線輪文。	L.R線。					II 9 c	248
1842	箱C6f	再層底層	山形状突起。頂部と口唇部に厚層沈線。						II 9 c	248
1843	箱C1i	Ⅱ層	山形状突起。棒状工具による右方向からの削突。	L.R線。					II 9 c	248
1844	ⅡE8b	黒色土	遺着する散点線輪文。	R線承文?				破損遺入。	II 9 d	248
1845	箱C7f	Ⅱ層	L.R散面沈線。	L.R×L.R1線散点線輪文。					II 9 d	248
1846	不明		散点状。口唇部沈線に上る部、9歳(半)竹管平行沈線。	散点線1線散点線輪文。				破損遺入。	II 9 d	248
1847	箱C7f	再層底層	散点状。口唇部沈線に上る部、9歳(半)竹管平行沈線。	R×L.R1線散点線輪文。				破損遺入。	II 9 d	248

第374図 遺構外出土遺物 土器40 第II群9類



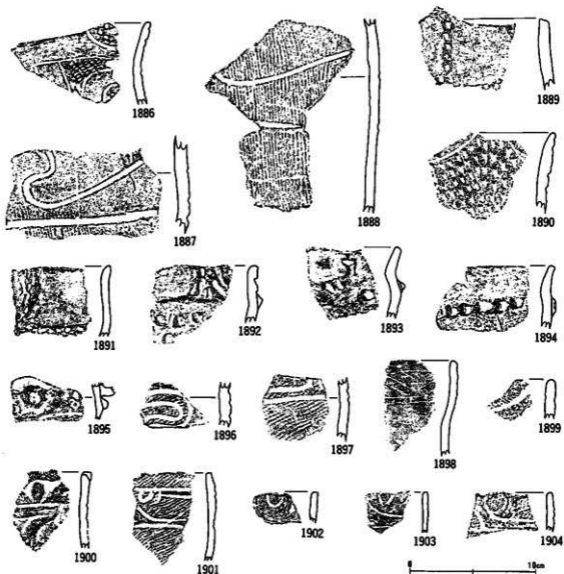
番号	出土地点	層位	文様	施文	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1848	窪D 5 i	1層	三角型浮文、半横竹管平行沈線。						窪1 a	249
1849	窪D 5 d	1層	陶管上棒状工具による刻み、半横竹管平行無歯状沈線。						窪1 a	249
1850	窪C 4 g	再埴積層	棒状工具による縦位沈線、棒状工具による縦位沈線(凹線)、棒状工具による刻み。						窪1 a	249
1851	窪C 区	再埴積層	口縁部棒状工具による刻み、先端が鋭利な棒状工具による沈線、沈線(凹線)。						窪1 a	249
1852	窪D 5 b	再埴積層	縦位隆帯上に凹線、縦位沈線施文後に凹線。						窪1 a	249
1853	窪C 5 j	1層	半横竹管の先端部を斜めに削り通した工具による刻み、沈線(凹線)。	L.R.沈。					窪1 a	249
1854	窪C 5 h	再埴積層下位	半横竹管の先端部を外側に削り通した工具による刻み、沈線(凹線)。	L.R.沈。					窪1 a	249
1855	窪B トレンチ	盛土	半横竹管の先端部を加工作した工具による彫刻状沈線、沈線。	L.R.					窪1 a	249
1856	窪C 7 b	1層	半横竹管の先端部を加工作した工具による彫刻状沈線、施文後沈線。	L.R.					窪1 a	249
1857	窪C 9 i	再埴積層	接合口縁、口縁部に半横竹管の外側を斜位に削って押し引き、縦線、コンパズ文。	L.R.沈。					窪1 a	249
1858	窪C 6 f	再埴積層	沈線、竹管突刃刻み。	L.R.沈。					窪1 a	249
1859	窪C 9 i	再埴積層	接合口縁、半横竹管平行沈線、棒状工具による波状沈線、陶管上無歯状沈線。	L.R.沈。					窪1 b	249
1860	窪C 6 f	再埴積層	接合口縁、波状沈線(凹線)、縦位基状隆帯。	L.R.沈。					窪1 b	249
1861	窪C 6 f	再埴積層	接合口縁、波状沈線。(半横竹管?)	L.R.沈。					窪1 b	249
1862	窪D 3 a	再埴積層	接合口縁。L.R.軸部未検証。						窪1 b	249
1863	窪C 6 j	再埴積層	接合口縁。L.R.軸部L.R.製成圧痕(縦位)。	L.R.×L.R.1層1埴積層取付痕。					窪1 b	249
1864	窪D 4 i	再埴積層下位	接合口縁。L.R.面圧痕、沈線(凹線)。						窪1 b	249
1865	窪D 1 e	再埴積層	接合口縁、波状工具による突筋、半横竹管棒?圧痕(R.L.)。						窪1 b	249
1866	窪C 5 h	再埴積層	口縁部外側にやや肥厚、R.(R.L.?) 面圧痕。	L+Rの本目取筋未検。					窪1 b	249

第375図 遺構外出土遺物 土器(4) 第三群1類



番号	出土地点	層位	文様	施文	口縁	縁部	唇高	備考	分類	写真
1867	宮C6g	再帰焼層下位	複合口縁。重下焼香。	L.R.焼。				1806と同一個体。	Ⅱ1b	549
1868	宮C5e	1層	焼香上部縦状圧痕。複合口縁。	L.R.焼。					Ⅱ1c	549
1869	宮C5g	再帰焼層	焼香上部縦状圧痕。	L.R.焼。					Ⅱ1c	549
1870	宮C6f	再帰焼層	細い粘土粒による方形区画焼香。重下焼状焼香。	L.R.焼。					Ⅱ1c	549
1871	宮C7h	Ⅱ層	重下焼状焼香上焼文施文。	L.R.焼。					Ⅱ1c	250
1872	宮C6h	1層	焼香(粘土層面曲状)	L.R.焼。					Ⅱ1c	250
1873	宮C6i	1層	複合口縁。焼香(粘土粒による渦巻き)	L.R.焼。					Ⅱ1c	250
1874	仏部1レンテ	盛土	焼香による円文。焼香上にも焼文施文。	L.R.焼。					Ⅱ1c	250
1875	宮C2f	再帰焼層	円状焼痕跡。沈澱(凹線)。						Ⅱ1c	250
1876	宮D1g	1層	縦状口縁。粘土凝結付け。R側面圧痕。						Ⅱ1c	250
1877	宮D3b	再帰焼層	口縁部も焼文圧痕。R側面圧痕。焼香上R側面圧痕。						Ⅱ1c	250
1878	宮C0b	再帰焼層	焼香上L側面圧痕。						Ⅱ1c	250
1879	宮C7h	1層	複合口縁。複合口縁。口縁部と内面に粘土凝結付け。L.R.側面圧痕。重下焼香。	L.R.焼。				1880と同一個体	Ⅱ1d	250
1880	宮C7h	1層	縦状口縁。複合口縁。L.R.側面圧痕。2つのボタン状突起付。	L.R.焼。				1879と同一個体	Ⅱ1d	250
1881	宮D3g	1層	小突起。沈澱。	L.R.焼。					Ⅱ1d	250
1882	宮C6h	1層	焼香上L側面圧痕。						Ⅱ1d	250
1883	宮C6g	Ⅱ層	渦巻き状焼香。						Ⅱ2	250
1884	宮D9e	1層	焼香による渦巻き文。	R.L.焼。					Ⅱ2	250
1885	宮C7f	1層	焼香による渦巻き文。	R.L.R.焼。					Ⅱ2	250

第376図 遺構外出土遺物 土器(4) 第Ⅲ群1~2類



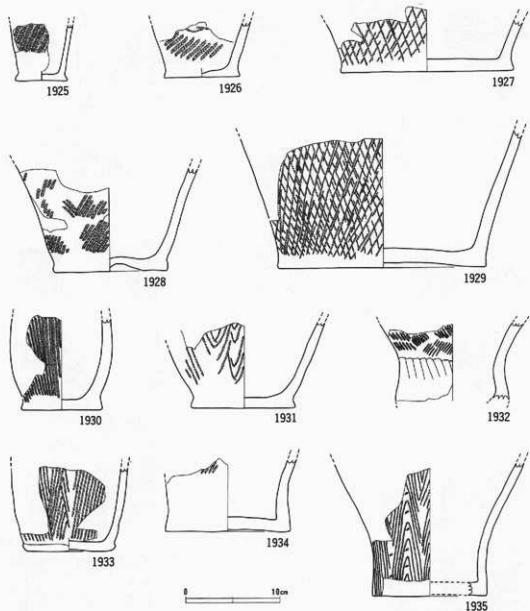
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁 断面 器高 備考	分類	写真
1886	VD1d	I層	沈線(凹線), 竹筥刺突。	L.R線。		Ⅱ3a	250
1887	VD1d	I層	沈線(凹線)。	L.R線文。	1886と同一個体。	Ⅱ3c	250
1888	VD2d	I層	沈線(凹線)。	L.R線文。	1887と同一個体。	Ⅱ3c	250
1889	XC7f	II層上層	連続状浮線文。				
1890	No17トレンチ	灰土	波状口縁。竹筥刺突。沈線(凹線)。		内面ミガキ磨面。	Ⅱ1	250
1891	VD6h	I層	隆帯。棒状工具による刺突。			Ⅱ1	250
1892	XC5e	I層	隆帯。彫文。棒状工具による刺突。			Ⅱ1	250
1893	VD6e	灰土	隆帯上棒状工具による刺突。			Ⅱ1	250
1894	VD5f	灰土	隆帯上指輪状刺突。			Ⅱ1	250
1895	XC7g	II層	四文状突起。			Ⅱ1	251
1896	VD1d	No3トレンチ	沈線(凹線)。	L.R線。		Ⅱ2	251
1897	VD1d	No4トレンチ	沈線(凹線)。	L.R線。		Ⅱ2	251
1898	XE3a	II層	沈線			Ⅱ2	251
1899	VD4g	I層	突起。沈線(凹線)。	R.L線。		Ⅱ1	251
1900	VD3g	I層	沈線(凹線), 三叉状。	R.L線。		Ⅱ1	251
1901	不明	I層		L.R線		Ⅱ1	251
1902	WC5a	再堆積層		L.R.		Ⅱ1	251
1903	WC5f	I層		L.R.		Ⅱ1	251
1904	WC6g	再堆積層	磨面刺突。	L.R.		Ⅱ1	251

第377図 遺構外出土遺物 土器(4) 第Ⅲ群3類～V群1類



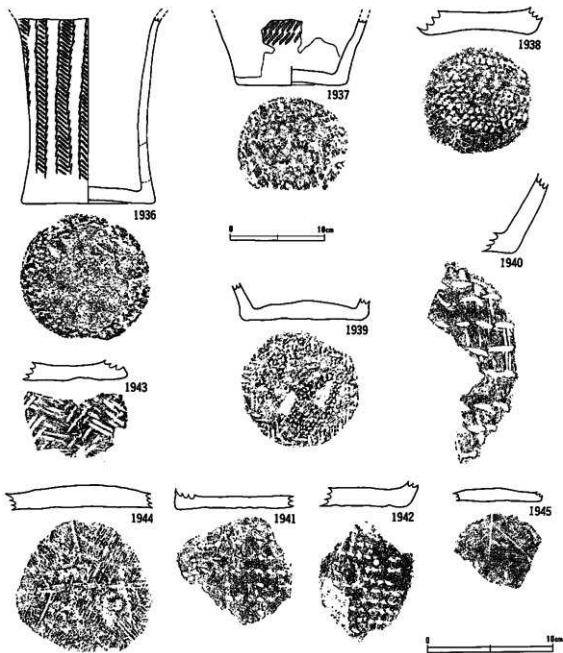
番号	出土地点	層位	文様	地文	口縁部断面 番号	分類	写真
1905	WD 4 d	I層	三叉文。	L 直線。		V 2	251
1906	WD 8 i	I層	三叉文。口縁部半截竹管削突。			V 2	251
1907	WC 5 j	I層	半曲状文。	L 直線。		V 2	251
1908	WE 7 b	黒色土下部	沈線 (凹線)。口縁部にも沈線。	L 直線。		V 3	251
1909	WD 0 i	黒色土	突起。沈線。内面にも沈線。	L 直線。		V 3	251
1910	WD 6 i	黒色土	口縁部篋状工具による刻み。肩部篋状工具による刻み。沈線。	L 直線。		V 3	251
1911	WD 6 b	黒色土直上	口縁部篋状工具による刻み。沈線。	L R + R L 肩部家形状文。		V 3	251
1912	WC 5 h	I層	小波状口縁。沈線 (凹線)。口縁部削突。	L 直線。		V 4	253
1913	VD 4 b	灰土		L 断赤文。		VI	251
1914	Ⅱ区	№27 トレンチ	口縁部も削突。	L 断赤文。		VI	251
1915	WE 1 a	黒色土直上	竹管削突。	L 断赤文。		VI	251
1916	WD 2 g	I層	扇状短沈線。	L 断赤文。		VI	251
1917	WC 区	I層	沈線。	L 断赤文。		VI	251
1918	VD 2 c	II層	沈線。			VI	251
1919	XD 9 f	II層	交互削突文。沈線。			VI	251
1920	XC 6 f	II層上面	沈線。			VI	251
1921	VD 2 d	№5 トレンチ	交互削突。沈線。			VI	251
1922	WE 9 b	I層	交互削突。沈線。	L + R の断赤文。		VI	251
1923	№11 トレンチ	灰土	竹管削突。沈線。			VI	251
1924	WD 8 i	II層	沈線。口縁内側も沈線。	L R。		V 3	251

第378図 遺構外出土遺物 土器(4) 第V群2類~VI群



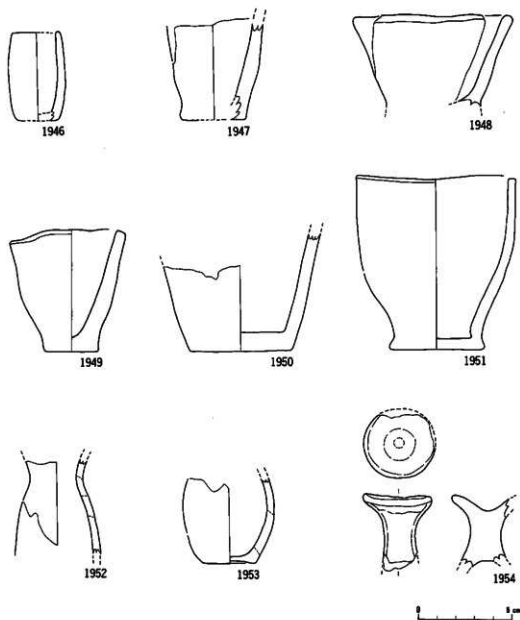
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1925	甕 C 3 g	1層		縄巻縄文	—	5.6	6.0			252
1926	甕 C 3 h	1層		L.R横、横位綾結文	—	8.6	6.0			252
1927	甕 C 3 g	再埋藏層		L.網目状捺糸文	—	16.2	6.8			252
1928	甕 D 5 h	1層		L.R × R.L.器1種結束羽状縄文	—	22.1	12.8	1399、1628と同一個体		252
1929	甕 C 5 g	再埋藏層		L.網目状捺糸文	—	22.1	14.3			252
1930	甕 C 7 g	再埋藏層		R.捺糸文	—	8.5	10.8			252
1931	甕 C 7 f	再埋藏層		L.木目状捺糸文	—	11.0	9.0	底径断代直。		252
1932	甕 D 3 e	再埋藏層		R.L.横	—	—	8.2	底部分近々寸。		252
1933	甕 C 8 e	再埋藏層		L.捺糸文	—	9.8	8.8			252
1934	甕 D 8 g	1層		L.R横	—	12.2	7.4			252
1935	甕 C 4 g	再埋藏層		R.木目状捺糸文	—	22.2	14.8			252

第379図 遺構外出土遺物 土器(45) 底部資料(1)



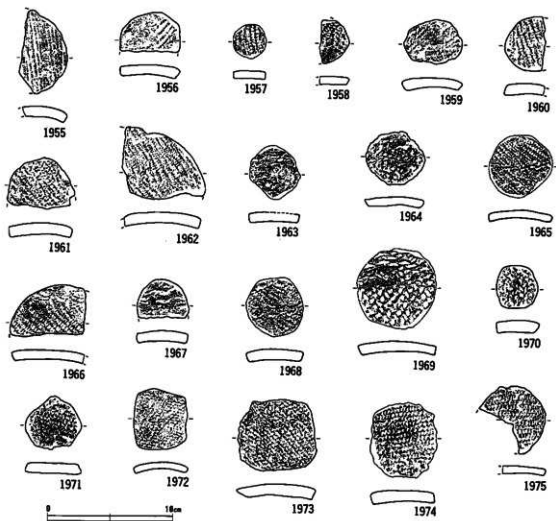
番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	高さ	備考	分類	写真
1936	ⅧC 8 b	I層	綾織文周縁部なし	L.R.直、縦位綾織文、磨面なし	-	14.0	13.7		252	
1937	ⅧC 6 g	河地層下位		L.R.直					252	
1938	ⅧC 7 h	III層	網代文。						252	
1939	ⅧD 8 g	II層	網代文、縦文。						252	
1940	ⅧC 5 j	築地層下位	網代文。						252	
1941	ⅧD 4 h	河地層	網代文。						252	
1942	ⅧD 3 f	褐色土	網代文。						252	
1943	ⅧD 6 f		網代文。						252	
1944	ⅧD 7 i	黒色土	網代文。						252	
1945	No.17トレンチ	盛土	木葉文。						252	

第380図 遺構外出土遺物 土器(46) 底部資料(2)



番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底口径	器高	備考	分類	厚尺
1946	ⅡD 1 f	I 層	無文		(2.7)	(2.2)	4.7			253
1947	ⅡC 2 l	I 層	無文		-	(3.4)	(5.0)			253
1948	ⅡD 2 d	I 層	無文		(17.0)	-	(4.8)			253
1949	ⅡC 4 e	別平部	無文		6.1	2.8	5.5			253
1950	ⅡD 7 d	暗褐色土	無文		-	5.4	(6.2)			253
1951	ⅡE 5 a a	I 層	無文		(8.5)	5.1	9.2			253
1952	ⅡD 1 f	I 層	無文		-	-	(5.0)	1953と同一個体		253
1953	ⅡD 1 f	I 層	無文		-	3.0	(4.5)	1952と同一個体		253
1954	ⅡC 4 d	再確認層	無文		-	-	-			253

第381図 遺構外出土遺物 小型土器・土製品(1)



番号	出土地点	層位	文様	地文	口径	底径	器高	番号	分類	写真
1955	箱 C 7 g	I 層下位						線線透入。	253	
1956	箱 D 4 i	検出面							253	
1957	X I C 7 f	II 層上面							253	
1958	箱 C 7 g	I 層下位							253	
1959	箱 D 9 h	I 層							253	
1960	箱 C 3 g	再埋埋層下位						線線透入。	253	
1961	箱 D 9	I 層							253	
1962	箱 D 9 e	検出面							253	
1963	箱 D 3 i	I 層						線線透入。	253	
1964	箱 C 5 f	再埋埋層							253	
1965	箱 D 7 h	I 層							253	
1966	箱 D 7 i	I 層						線線透入。	253	
1967	箱 D 7 j	黒色土						線線透入。	253	
1968	箱 D 8 c	I 層						線線透入。	253	
1969	箱 D 7 a	I 層						線線透入。	253	
1970	箱 D 5 i	検出面							253	
1971	箱 D 5 h	検出面						線線透入。	253	
1972	箱 D 5 i	検出面							253	
1973	箱 D 6 i	I 層							253	
1974	箱 E 9 a	II 層						線線透入。	253	
1975	箱 C 9 j	再埋埋層上位							253	

第382圖 遺構外出土遺物 土製品(2)

(2) 石器・石製品

本遺跡で石器・石製品として、遺構内 883点、遺構外2103点、計2986点を登録した。これらの中には、フレークやチップは含まない。

剥片石器については、定形的な石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石筥をまず抽出し、次に形態・分量から尖頭器様石器とピエス・エスキューをとりあげた。残った剥片石器群から、刃部形状・二次加工状況によって不定形石器としてI群からVII群を設けた。以上の抽出の結果残ったものを、二次加工のある剥片（リタッチドフレーク。Rフレと略称する。）、および微小剥離が連続していることから使用したと考えられる剥片（ユーティライズドフレーク。Uフレと略称する。）とした。

石核石器・礫石器については形状・使用痕・加工痕から、磨製石斧・打製石斧・敲磨器類・石皿台石類・砥石・礫器・石核という器種名を設けて分類した。

石製品については、耳飾・円盤状石製品・石刀石剣・石棒・有孔石の5種類に分類した。

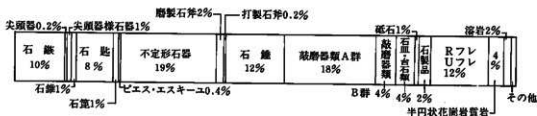
以上の他に、加工痕が判然としないものの半円形を呈する花崗閃緑岩（半円状花崗岩質岩と仮称する）、本遺跡の地層には存在しない溶岩（両輝石安山岩）が遺構内外から出土しており、これらも本遺跡の性格を把握する上での資料となりうるという立場から登録してある。

それぞれの器種の細分は遺構内出土石器も含めて行い、その出土点数も器種毎に示した。ただし、粗掘り・検出作業時の排土はふるいをかけていないので、剥片石器を中心にサンプリングエラーがかなりあるものと思われる。前年度に実施された試掘のトレンチの盛土については、全て1cmメッシュのふるいをかけて遺物を採取してから排土した。

器種毎の出土量と全体に占める割合は図表（第12表・第383図）に示した。

器種	石鏃	尖頭器	尖頭器様石器	石錐	石匙	石筥	ピエス・エスキュー	不定形石器	磨製石斧	打製石斧	石鏃	敲磨器類A群	敲磨器類B群	石皿・台石類	砥石	礫器	石核	石製品	Uフレ	Rフレ	花崗岩	溶岩	計
遺構内	131	0	13	14	67	8	5	153	9	6	62	130	16	21	5	0	3	21	168	30	21	883	
遺構外	173	5	8	18	161	16	8	417	37	2	291	407	102	98	16	2	12	35	175	90	30	2103	
計	304	5	21	32	228	24	13	570	46	8	353	537	118	119	21	2	15	56	343	120	51	2986	

第12表 石器 器種別出土点数



第383図 石器 器種別出土割合

ここに図示したのは561点で、遺構外出土石器の総量の28%に過ぎない。各器種の細分毎に代表的なものを取り上げた。ただし、図示した点数は出土量を反映していない。

本遺跡では分層的な発掘はできなかったため、遺物の時期を特定することは不可能であり、時間幅の広い石器が含まれている。土器の時期は、縄文前期の中葉ないし中期の初頭までが主体を占めることから、多くの石器の時期もそれら時期に相当する蓋然性は高いと言えよう。

石器

(1) 石鏃 (第419図1976～第422図2051、写真図版254～257)

矢の先につけて用いたと思われる小型の石器である。偏平で左右対称、尖頭部とそれより幅の広い基部を有する。遺構内からの出土点数は131点、遺構外からの出土点数は173点、合計304点が出土した。調査面積の割合には、遺構内からの出土割合が高いと言えよう。ただし、遺構外のサンプリングエラーは多いと思われる。遺構外からの出土総数は173点である。

茎の有無・基部の形状によって、I類～VI類に分類した。さらに側辺の形状によって、(1)直線状のもの、(2)外弯するもの、(3)外弯するもので基部側が内側にさらにすばまるもの、(4)内弯するものにそれぞれ細分し、分類表記は、基部形状と側辺形状とを組み合わせ、I 2・II c 1などとしてある。

I類 (平基無茎鏃) : 基部形状が直線状で中心線に対しほぼ直交するもの。(1978～2000)

I 1は7点出土したがそのうちの3点(1976～1978)を図示した。片面に大きく一次剝離面を残すものと、丁寧な二次加工が施され一次剝離面が全く分からないもの、その中間型がある。

I 2は38点のうち20点(1980～1999)を図示した。幅に対する長さの比(以下、長幅比)の大

基部形状

I (平基)	II (凹基)					III (円基)	IV (尖基)	V	VI (有茎)
	a	b	c	d	e				

側辺形状

1	2	3	4

第384図 石鏃分類概念図

きい細身のもの(1980～1983)がある。表裏両面に一次剝離面を残すもの(1997)もあるが希である。1998は長・幅の点で2009(Ⅱb1)や2019(Ⅱb2)に類似する。I3は1点あるが欠損品であり図示していない。I4は4点のうち2点(1999・2000)を図示した。対称性をやや欠く。

Ⅱ類(凹基無基磯)：基部に抉りを有するもので、本遺跡から出土した石磯の主体をなす。基部形状によって細分する。(2001～2034)

Ⅱa：抉りの部分の弧の半径が石器の最大幅より大きく、抉りは1mm程度と不明瞭で浅いものをここに入れた。Iと次のⅡbとの中間に位置する。(2001～2005)

Ⅱa1は2点のみの出土である。2001～2005はⅡa2に分類した。23点出土している。

Ⅱb：抉りの部分の弧の半径が石器の最大幅より大きく、抉りは2mm程度またはそれ以上で凹基であることが明瞭である。(2006～2027)

Ⅱb1は13点が出土し、6点(2006～2011)を図示した。2012～2020はⅡb2である23点のうち9点を図示した。長幅比は1.2(2012)から2.4(2005)まで多様である。Ⅱb3は5点出土し2点(2021・2022)、Ⅱb4は7点の出土のうち5点(2023～2027)をそれぞれ図示した。

Ⅱc：抉りの部分の弧の半径が石器の最大幅より小さく、逆U字状となるもので、a・bに比し抉りが深い。(2028・2029)

Ⅱc1は1点のみ出土した。Ⅱc2は3点の出土のうち2点(2028・2029)を図示した。

Ⅱd：抉りが直線的なハの字状のもの。(2030～2031)

遺構外からの出土としては、図示した2点(Ⅱd2に分類)とⅡd4に分類できる欠損品1点のみである。

Ⅱe：抉りが直線的な一ノ字状で、基部両端が下方に突き出したような形になるもの。中には両端の突出部が一方にしか見られず、Ⅱbとの区別が困難なものもあった。(2032～2034)

図示した3点のほかに、Ⅱe2に分類できる欠損品が1点出土した。2032・2033は片面からみると突出部は不明瞭である。

Ⅲ類(円基磯)：基部が外側に弧を描くもので、弧の径が大きく緩いものと、小さくより丸みを帯びるものがある。(2035～2045)

Ⅲ1は7点出土のうち5点(2035～2039)、Ⅲ2は出土した全て(2040～2044)を図示した。2039と2040については、Ⅲ3あるいはⅣに分類すべきかも知れない。

Ⅳ類(尖基磯)：基部が尖るもの。

遺構外からは出土していない。

Ⅴ類：基部が左右対称な2つの弧によって抉りを持ち、結果として基部両端と中央部がやや突

	I (平基)	II (凹基)					III (凹基)	IV (尖基)	V	VI (有基)	その他	計
		a	b	c	d	e						
遺構内	44	19	28	6	4	3	10	1	0	2	14	131
遺構外	56	25	49	3	3	5	12	0	4	3	13	173

第13表 石礎基部形状による分類別出土点数

I (平基) 100 (33%)	II (凹基) 145 (48%)			III (凹基) 22 (7%)	その他 27 (9%)
	II a 44 (14%)	II b 77 (25%)	II c 9 (3%)	IV 1 (0.3%)	V 5 (2%)
				VI 1 (0.3%)	その他 8 (3%)

第13図 石礎基部形状による分類別出土割合

	I	II					III	IV	V	VI	その他	計
		a	b	c	d	e						
1 (直線状)	13	4	21	1	0	3	13	0	2	3		60
2 (外弯)	72	40	40	8	4	4	7	1	2	1		179
3	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0		8
4 (内弯)	7	0	9	0	0	1	1	0	0	0		18

第14表 石礎側辺形状による分類別出土点数

1 (直線状) 60 (20%)	2 (外弯) 179 (59%)	3 3 (3%)	4 (内弯) 16 (6%)	その他 39 (13%)
---------------------	---------------------	-------------	-------------------	-----------------

第14図 石礎側辺形状による分類別出土割合

泥岩 (礫石) 168 (55%)	粘板岩 (北上山地) 79 (26%)	凝灰岩 (礫石) 40 (13%)	流紋岩 14 (5%)	その他 3 (1%)
----------------------	------------------------	----------------------	----------------	---------------

第15図 石礎石材別割合

出する平面形を有する。(2046-2048)

巨視的には平基(I)に分類すべきかも知れない。4点出土した。

VI類(有茎鐵)：茎を有する石鐵。(2050-2052)

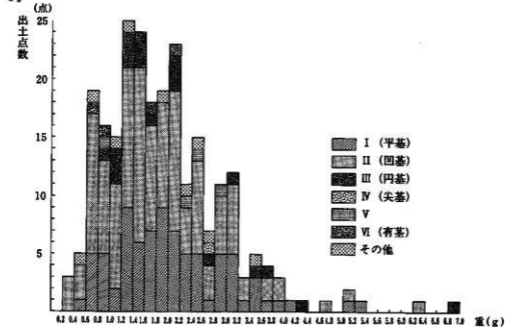
図示した3点のみの出土である。

基形形状による分類別出土割合は、凹基が最も多く全体の約半数を占め、ついで平基が多いが、平基と凹基で全体の8割強、本遺跡から出土した石鐵の大部分を占める。凹基の内でも、挟りが緩い弧を描くIIaとIIbが全体の4割で最も多い。遺構内からの出土・遺構外からの出土を問わず、この傾向は同じである。

側辺形状による分類別割合では、外弯するものが全体の6割を占める。直線状のものを含めると8割となる。本遺跡では、基部が平基であれ凹基であれ、側辺は外弯するものが主体的である。

重量分布は、欠損品を除いた245点を対象にしたものである。最小値は0.28g、最大値は6.81gでピークは1.2g-1.4gの25点である。1.2g-2.2gに44%にあたる109点が入り、0.6g-2.2gの間には、4分の3強の185点が入る。

石材は大半が奥羽山脈の東端である磐石西部産の泥岩(珪質泥岩・硬質泥岩)で、北上山地産の粘板岩が約4分の1でそれに次ぐ。凝灰岩・流紋岩を含めると磐石産は73%を占め、本遺跡の石鐵の大部分は、本遺跡から15km以上離れた場所から持ち込まれているということができ



第386図 石鐵 重量分布

(2) 尖頭器 (第422図2052～第423図2056、写真図版257)

鋭い尖頭部を有し、突き刺す道具として用いられたと思われるもののうち、石鏃と石鏃をのぞいたものである。有舌尖頭器 (I) と石槍的なもの (II) とがある。

I類: 有舌尖頭器 (2052・2053)

図示した2点のみの出土である。出土地点はいずれも東尾根谷頭凹型斜面にあたるXIC区である。微細で精巧な剝離が連続し、側縁はきめ細かな鋸歯状となる。2053は尖頭部が欠損している。石材は北上山地の粘板岩と雫石西部の硬質泥岩で、同質ではない。

II類: 石槍的なもの (2055～2057)

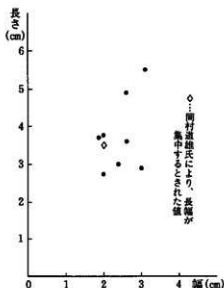
図示した3点のみを本類にいた。2056は先端が平面形は丸みを帯びており軽筒も残るが、二次加工の状況から先端部が機能面と考えられることから便宜上本類とした。

(3) 尖頭器様石器 (第423図2057～2064、写真図版257)

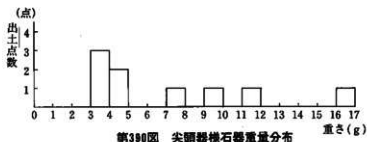
尖頭部がつくり出された扁平な石器のうち二次加工が粗いものである。岡村道雄氏によって新器種とされた石器 (岡村1979) に類似するものを集めた。^(注1) 細分は行わない。

大きさは、幅2cm～3cm・長さ2.5cm～5.5cmで、2063と2064を除くと、ほぼ一定の細まりを示す。先端角を石鏃と比較した。石鏃は本遺跡で最も多く出土しているIIb2類のうち、図示したものを計測した。石鏃は1点を除き20°～36°に分布するのに対し、尖頭器様石器は全て40°以上である。重量は3g～5gが最も多い。

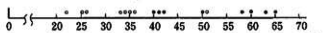
石材は、2060が凝灰岩、他は全て泥岩である。産地はいずれも雫石西部である。



第389図 尖頭器様石器長幅相関図



第390図 尖頭器様石器重量分布



第391図 尖頭器様石器と石鏃の先端角の対比 (度)

(4) 石錐 (第423図2065～第424図2084、写真図版257・258)

鋭い尖頭部を有し、孔を穿つのに用いられたと思われるものである。遺構外から18点の出土である。全体に身部が短く、つまみ部と明瞭に区別されるものはない。平面形によって2分する。

I類：棒状ないし柳葉形のもの (2065～2067)。

側辺は二次加工が全周に施される。一部一次剝離面を残す。小型である。

II類：素材の形を大きく残し、その一端に二次加工を施したもの (2068～2080)。

つまみ部は一次剝離の状態を保つ。平面形は素材に規定され、Iのような一定の形状をもたない。

石材は、I類・II類とも礫石西部産の泥岩が主体をなす。

(5) 石匙 (第424図2081～第429図2140、写真図版258・262)

両側辺から抉りをいれることによって作出されたつまみ部と、刃部とを有する石器である。遺構内から67点、遺構外から116点¹⁾が出土している。石鏃に比し遺構外出土の割合が高い。つまみ部と剥片の長軸方向の関係・尖頭部の有無・刃部形状などから分類する。分類毎の出土点数は表 (第15表) に示した。

I類：つまみ部が剥片のほぼ長軸方向に位置するもの。いわゆる縦型石匙である。(2081～2130)










I a：先端部 (つまみ部に対向する部分) が多少なりとも尖るもの (2081～2105)。

I a 1：平面形がほぼ左右対称となるもの (2081～2090)。

^(注2)
「有縁石器」と称されるものもここに含めた。2081～2084は断面形が厚い凸レンズ状で有り、「切る」よりは「突き割す」用途を想定できる。2084～2090は断面形がより扁平で、平面形の対称性も低い。

I a 2：平面形が非対称のもの (2028～2105)

左側辺が直線状で右側辺が弧状となるもの (2028～2099) と、その逆に左側辺が弧状となるもの (2100～2105) とがある。二次加工が表面の左右両側辺に施されるもの (2093～

I (縦型)					II (横型)		III (中間型)	
a		b			a	b		
1	2	1	2	3				
								

第382図 石匙分類概念図

2094他) や、直線部分のみに施されるもの (2104他)、弧の部分のみ施されるもの (2099他) などがある。2101や2103は「^(注3)打面調整剥離」によるものか。

I b : 先端部が尖らないもの (2106~2130)。

I b 1 : 長軸方向にのみ刃部を有するもの (2106~2117)。

I b 2 : 先端部にも刃部を有するもの (2118~2127)。

先端部が、つまみ部の中軸線に対し直角に交わるもの (2126・2127他) と斜位に交わるもの (2120・2121他) がある。後者は I a 2 と区別が困難になる場合もある。

I b 3 : 先端部の刃部が丸凸刃となるもの (2128~2130)。

II類 : つまみ部が、剥片の長軸と直交する方向に位置するもの。いわゆる横型石匙である。
(2131~2137)

	I (縦型)							II (横型)					III	その他	計
	a		b				その他	a			b	その他			
	1	2	1	2	3	その他		1	2	その他					
遺構内	5	12	12	9	6	0	6	3	1	2	5	2	3	1	67
遺構外	12	27	35	28	9	4	8	0	4	2	13	3	7	9	161

第15表 石匙 分類別出土点数

I 縦型 173 (76%)				II (横型) 35 (15%)		田中 10 (4%)	その他 10 (4%)
I a 46 (20%)	I b 103 (45%)		I その他 14 (6%)	II a 12 (5%)	II b 18 (2%)	II その他 5 (2%)	10 (4%)

第183図 石匙 分類別割合

泥岩 (字石) 169 (74%)			粘板岩 (北上山地) 23 (10%)	凝灰岩 (字石) 21 (9%)	凝灰岩 5 (2%)	その他 7 (3%)
----------------------	--	--	---------------------------	------------------------	---------------	---------------

第184図 石匙 石材別割合 (北上山地) 5 (12%)

II a : 多少なりとも尖頭部分を有するもの (2131~2134)。

II a 1 : 左右がほぼ対称なもの。

遺構内で3点出土しているが、遺構外からは出土していない。

II a 2 : 左右が非対称なもの (2131~2134)。

2134・2135はやや丸みを帯びる。

II b : 尖頭部分を有しないもの (2135~2137)。

III類 : I類およびII類に分類できないもの (2138~2139)。

長軸方向の判断が困難なもの (2138) や、長軸とつまみ部の角度が45°に近いもの (2139) をここに入れた。

出土総点数228点のうちの大部分、4分の3強はI類(縦型)に属する。II類(横型)は15%にすぎない。縦型のうちでも、尖頭部を有しないI b類が全体の約半数を占める。

石材は、多い順に泥岩・粘板岩・凝灰岩であるが、雫石西部産の泥岩がその主体を占め、凝灰岩と合わせると、雫石西部産は83%を占める。雫石西部産の占有率は石畿の場合より10%も高い。

(6) 石篋 (第430図2141~第431図2161、写真図版263・264)

平面形が楕形あるいは短冊形で、一端に刃部を作出する石器である。裏面に一次剝離面を大きく残して断面形が薄針状(片面凸レンズ状)となるもの、および両面加工で凸レンズ状となるものでも7cm以下のものは石篋とし、8cm以上のものは打製石斧とした。

刃部の剝離の状況によって二分する。

I類 : 比較的長い奥まで入る剝離が連続するもの (2141~2145)。

遺構内から3点、遺構外から6点出土している。刃部からは、搔器としての用途を想定できる。

II類 : 粗い不均整な階段状の剝離(ステップ状剝離)が連続するもの (2146~2154)。

遺構内から5点、遺構外から9点出土している。刃部に強い打撃を加えたことが想定され、I類とは異なった用途を考えるべきかも知れない。

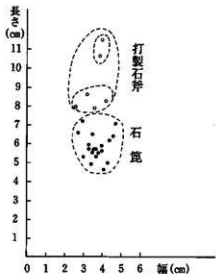
石材はI類が、北上山地産の千枚岩が1点の他は、すべて雫石西部産で泥岩5点、凝灰岩4点である。II類は、北上山地産の粘板岩が2点、他は雫石西部産の泥岩11点、凝灰岩1点である。I・II類とも9割は雫石西部産の石材を用いていることになる。

重量分布では20g~50gに7割以上の16点が集中する。

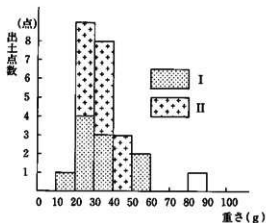
(7) ビエス・エスキュー (第431図2155~2161、写真図版264)

対向する側辺にステップ状またはリングの密な刻線が認められるもので、両極打法によったと思われるものである。遺構内5点、遺構外8点の計13点を認定した。細分はしない。

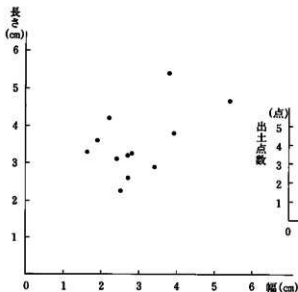
大きさは、最大長・幅6 cm程度のももあるが、概ね2 cm~4 cmのところに集中する。重さは、2 g~4 gが最も多い。



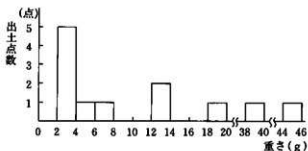
第395図 石筥・打製石斧 長幅相関図



第396図 石筥 重量分布図



第397図 ビエス・エスキュー 長幅相関図



第398図 ビエス・エスキュー 重量分布

石材は、2159が北上山地産の粘板岩である他は、遺構内出土のものを含め、すべて平石西部産の泥岩である。

(8) 不定形石器 (第432図2162～第443図2288、写真図版264～272)

剥片に刃部と想定される二次加工が施された石器のうち定形的な石器(石錐、尖頭器、尖頭器椽石器、石錐、石匙、石筥、ピエス・エスキュー)を除いたものを不定形石器として一括する。二次加工の状況によってⅠ～Ⅶに分類する。

Ⅰ類：削器・搔器・削搔器などと呼称されるものにあたる。器体に沿って連続してスクレーパーエッジを有する石器である。(2162～2250)。

二次加工の剝離の部位によってa～eに分類し、さらにその平面形状によって、(1)直線状の刃部を有するもの、(2)凸状の刃部を有するもの、(3)凹状の刃部を有するもの、(4)丸凸状の刃部を有するもの、に細分した。二次加工が複数ある場合には、便宜的に刃部として、より主体的と判断される方で取り上げた。

分類表記はこれらの組み合わせにより、Ⅰa1、Ⅱb2などとした。

Ⅰa：素材の1側面に二次加工が施され、スクレーパーエッジを有するもの(2162～2189)。

Ⅰb：素材の隣接する2側面に二次加工が施され、スクレーパーエッジを有するもの(2190～2202)。

Ⅰc：素材の、直接には隣接しない2側面に二次加工が施され、スクレーパーエッジを有するもの(2203～2218)。

Ⅰd：素材の3側面、または全周に二次加工が施され、スクレーパーエッジを有するもの(2219～2246)。

Ⅰe：尖頭部を形成するもののうち、尖頭器や尖頭器椽石器などに分類できないもの(2247～2250)

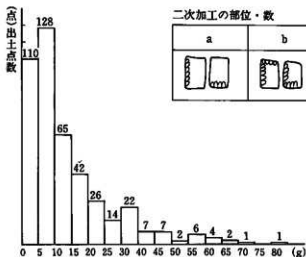
分類別の出土点数については第16表に示した。1側面にのみ二次加工が施されるⅠa類が4割を占めて最も多く、隣接する2側面に施されるⅠb類がそれに次ぐ。刃部の形状では、約半数が凸刃を有する。ついて直刃が3割である。

重量別では、約3割が5g～10gで最も多く、0g～10gの範囲に全体の半数以上が収まる。概ね35g以下ということができよう。

石材は、平石西部産の泥岩と凝灰岩で8割強を占める。

Ⅱ類：鋸歯縁石器と呼ばれるもので、二次加工の施された側面の平面観が鋸歯状を呈するものである(2251～2257)。

細分は行わない。全体にネガティブバルブが発達する短い剝離で、2256・2257を除き側



第399図 不定形石器I類重量分布

第400図 不定形石器I類
分類概念図

	a				b				c				d				e	その他	計
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4			
遺構内	23	22	5	0	4	16	4	4	3	6	1	0	0	8	2	0	7	3	108
遺構外	43	72	6	6	9	48	3	9	30	21	8	2	15	15	4	12	11	15	329
計	66	94	11	6	13	64	7	13	33	27	9	2	15	23	6	12	18	18	437

第16表 不定形石器I類 分類別出土地点数

加工部位

a 177 (41%)	b 97 (22%)	c 71 (16%)	d 56 (13%)	e 18 (4%)	その他 18 (4%)
刃部形状					
1 (直刃) 127 (29%)	2 (凸刃) 208 (48%)		3 (凹刃) 33 (8%)	4 (丸凸刃) 33 (8%)	

第401図 不定形石器I類 分類別出土割合

玉髓(北上山地)1(0.2%)		
泥岩(平石西部) 315 (72%)	粘板岩 (北上山地) 72 (17%)	凝灰岩 (平石西部) 41 (9%)
第402図不定形石器I類 石材別割合		その他 8 (2%)

面観は直線状に近い。

遺構内出土5点、遺構外出土21点、計26点を本類に入れた。

石材は、雫石西部産が19点、北上山地産が7点である。雫石西部産のうちわけは泥岩15点、凝灰岩4点、北上山地産のうちわけは粘板岩6点、玉髓1点である。

Ⅲ類：平面観は直線状であるが、側面観が鋸歯状を呈する石器である。交互刺彫石器と呼ばれることもある(2258～2259)。

遺構内出土7点、遺構外出土9点、計16点を本類に分類した。

石材は、雫石西部産が14点、北上山地産が2点である。雫石西部産のうちわけは泥岩10点、凝灰岩4点、北上山地産は2点とも粘板岩である。

Ⅳ類：粗く比較的大きな刺彫が施された石器である。急角度で片刃のものと、面的な粗い加工が両面に施されたものを一括した(2260～2274・2287・2288)。

遺構内出土23点、遺構外出土37点、計60点を本類とした。

2274・2287・2288は急角度の粗く大きな刺彫が施されたものである。同種のもは、遺構内から3点、遺構外から4点出土している。

石材は、雫石西部産が92%にあたる57点、北上山地産が8%にあたる5点である。雫石西部産のうちわけは泥岩51点、凝灰岩6点、北上山地産は凝灰岩1点、粘板岩4点である。

Ⅴ類：挿入石器またはノッチなどと呼ばれる石器で、二次加工がノッチ状を呈するものである(2275～2282)。

11点を本類に分類したが、全て遺構外からの出土である。

石材は全て雫石西部産で、泥岩9点、凝灰岩1点である。

Ⅵ類：急角度の細かい二次加工が施された石器で、急角度細加工石器と呼ばれたりするものである(2283～2286)。

遺構内出土3点、遺構外出土7点、計10点を本類に入れた。

石材は、雫石西部産が8点、北上山地産が2点である。雫石西部産のうちわけは泥岩5点、凝灰岩3点、北上山地産は2点とも粘板岩である。

Ⅶ類：その他、加工状況に纏まりがなく、Ⅰ～Ⅵに分類できないものを一括した。

遺構内出土7点、遺構外出土1点、計8点を本類に入れた。

(9) 磨製石斧(第443図2289～第444図2305、写真図版272～274)

研磨によって製作された斧状の石器である。

遺構内出土8点、遺構外出土30点であるが、基部のみ又は刃部の一部など大幅な欠損品が多い。平面形や大きさによって分類する。

凝灰岩 (北上山地) 24 (52%)	砂 土 岩	粘板岩 (北上山地) 13 (28%)	その他
---------------------	-------------	------------------------	-----

5 (11%)

第403図 磨製石斧 石材別割合

I類：両側辺が基部側に向かって収斂するもの。最大幅が刃部にあり、基部は幅と厚さが近い値を示す。(2289～2294)

II類：両側辺がほぼ平行するもの。基部側は偏平である。(2295～2299)

III類：幅ほぼ3 cm以下の細長い形状を有するもの。(2300～2302)

IV類：長さほぼ6 cm以下の小型のもの。(2303・2304)

V類：長さほぼ18cm以上の大型のもの(2305)

2289・2298は敲打と部分的な研磨によって整形されている。2290・2304には部分的に剝離による整形が観察される。擦り切り技法による痕跡が顕著なものは2292である。

2301は、中央に穿孔があり、あるいは石製品とすべきかも知れない。2303は、石錘として転用したものと思われる。

石材は、雫石西部産は凝灰岩が1点あるのみで、他はすべて北上山地産である。凝灰岩と粘板岩の占める割合が高い。

(10) 打製石斧 (第445図2306～2307、写真図版274)

打製による斧状の石器で、長さは8 cm以上で断面形は凸レンズ状となる。遺構内出土6点、遺構外出土2点、計8点である。

平面形によって二分する。

I類：撥形ないし短冊形のもの(2306・2307)。図示したものが全てである。

II類：胴張形のもの。遺構外からの出土はない。

石材は、雫石西部産は泥岩が4点、凝灰岩が2点、北上山地産は粘板岩が2点である。

(11) 石錘 (第446図2308～第451図2373、写真図版274～278)

偏平な磯の、長軸あるいは短軸方向の両端を打ち欠き、袂りを入れた石器である。

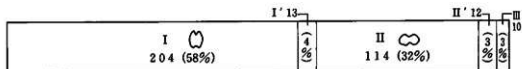
打ち欠きの位置によって分類する。分類別の出土点数については第17表に示す。

I類：長軸方向の両端に打ち欠きがあるもの(2308～2342)。

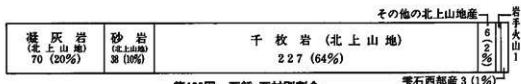
I'類：長軸方向の両端に打ち欠きがあり、さらに短軸方向の1箇所に打ち欠きのあるもの(2343～2348)。

	I	I'	II	II'	III	計
遼構内	38	1	19	0	4	62
遼構外	166	12	95	12	6	291
計	204	13	114	12	10	353

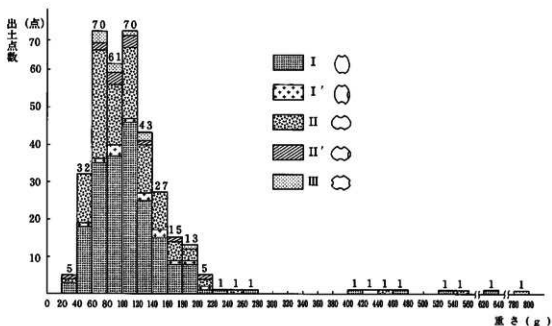
第17表 石鏝分類別出土点数



第404図 石鏝分類別割合



第405図 石鏝石材別割合



第406図 石鏝重量分布

Ⅱ類：短軸方向の両端に打ち欠きがあるもの（2349～2364）。

Ⅱ'類：短軸方向の両端に打ち欠きがあり、さらに長軸方向の1箇所打ち欠きのあるもの（2365～2372）。

Ⅲ類：長軸方向・短軸方向の両方向に打ち欠きのあるもの（2373）。

I類・Ⅱ類の打ち欠きが明瞭な抉りとなるのに対し、I'類・Ⅱ'類の1箇所だけの打ち欠きは抉りとはならないものが多く、その意味ではI'類をI類に、Ⅱ'類をⅡ類に含めて考えることも可能である。

分類別出土割合では、I類が6割弱、Ⅱ類は3割強で本遺跡では、長軸方向に打ち欠くものの方が多い。重量別分布をみると、60g～120gに全体の57%が集中し、最も多くを占める。この傾向は、I類・Ⅱ類とも同様である。400g以上のものが8点あるが、分布が稀薄であるだけでなく、空白地帯を挟んでの分布である事を考えれば、異なった用途を想定する必要がある。

石材は、9割以上が北上山地産であり、なかでも千枚岩が大部分を占める点特徴的である。

(12) 敲磨器類

自然石の一部に、敲打痕・磨（擦）面などを有し、「敲き潰す」・「磨り潰す」・「敲き切る」・「磨り切る」などに用いられたと思われる石器を一括した。2群に大別する。

A群：細長く、断面が三角形から扁平な石を素材とし、その1側面ないし複数の側面を使用しているものである。従来、「特殊磨石」・「棒状擦石」などとよばれてきたものと、「半円状扁平打製石器」・「横刃型石器」・「敲打磨石」とよばれてきたものの両者を含む。これらは機能が重複する例も多く、判然と分離できないものがあり、一括して取り上げた。

B群：円形ないし長円形基調の自然石を素材とし、その平坦面や側面に敲打痕・磨（擦）面などが観察されるものである。従来、磨石、敲石、凹石とよばれてきたものを一括した。

敲磨器類A群（第451図2374～第446図2458、写真図版278～288）

自然石の側面に形成された磨面（機能面）には、そのほとんどに、使用痕または加工痕と考えられる剝離が伴う。また磨面がほとんど無く剝離のみが観察される場合もある。また、機能面とは別に、周縁に整形のためと考えられる加工痕（剝離）が観察される場合もある。

これらのことをふまえ、本群の石器を、断面形、機能面の状況、および周縁加工（ないし剝離）の有無によって分類する。

＜断面形＞

- I類：厚手で、三角形ないしそれに近いもの。
 II類：I類とII類の中間形で、楕円形基調（最大厚が器体のはば中央部にある）のもの。
 III類：薄く、扁平なもの。

＜機能面の状況＞

- a：剥離に比べ磨面が顕著で、その幅がほぼ一定の形状となるもの。
 b：剥離が連続し、磨面は、不定形をなすもの。
 c：磨面は観察されず、剥離が連続するもの。

＜周縁加工（剥離）の有無＞

本群の石器の周縁の剥離には、整形のためであることが明らかなものもあるが、使用の痕跡かどうか判断が困難なものもある。ここでは両者を分離せず、周縁に剥離を伴うものを全てとりあげた。「加工（剥離）」という言葉は、加工によるものの他に、一部は使用によるものも含めたという意味で用いた。

- 1：周縁に加工（剥離）を伴わないもの。
 2：周縁の一部に加工（剥離）を伴うもの。
 3：周縁の全体ないしほぼ全体に加工（剥離）を伴うもの。

なお、2と3には、長軸方向の加工がかり状となるものも含めた。

分類表記は、以上の3つの観点を組み合わせて、例えばI a 1（断面三角形・磨面顕著・周縁加工なし）、II b 2（断面楕円形・磨面不定形・周縁一部加工）などとした。

また、磨面（機能面）に接する側面には、自然面をそのまま残す場合も多いものの、1面または両面を、磨って平滑に調整したと考えられるものもある。これについてはスクリーントンによって表現した。

I類（第451図2374～第459図2415、写真図版278～283）

I a 1（2374～2403）

遺構内23点、遺構外108点、計131点出土した。遺構外出土のうち30点を図示した。

機能面に剥離がほとんどないもの（2376・2381・2385・2389他）もあるが、多くは磨面の外縁に剥離を伴う（2373・2374他）。この剥離は、磨面（機能面）方向からの打撃によ

断 面 形	I	II	III	機 能 面	a	b	c	周 縁 加 工 状 況	1	2	3

第407図 敲磨器類A群 分類基準概念図

るもので、深さはあまりない。磨面が1面のもの(2374~2396)と、2面のもの(2397~2399)、3面のもの(2400~2403)がある。側面に凹み(または凹みには至らない連続的敲打痕)が観察されるもの(2393~2396)もある。

側面への調整については、無調整のもの(2374~2382他)、1面が平滑に調整されるもの(2383~2385・2394・2396他)と、両面が調整されるもの(2386~2392・2395・2399)がある。

I a 2 (2404~2408)

遺構内5点、遺構外11点、計16点出土した。遺構外出土のうち5点を図示した。

長軸方向の端部に、強い打撃による剝離を伴う。使用痕と考える方が妥当であろう。剝離後に磨っているもの(2407)もある。

2408は磨面が3面ある。2407は両側面に凹みが観察される。側面が平滑に調整されるのは2406~2408である。

I b 1 (2409・2410)

遺構内3点、遺構外8点、計11点出土した。遺構外出土のうち2点を図示した。

磨面が細く不定形で、剝離後に磨面が形成されたと考えられる。2410は、端部にも磨面が観察される。

I b 2 (2411~2413)

遺構内1点、遺構外5点、計6点出土した。遺構外出土のうち3点を図示した。

2412は機能面の対辺に剝離を伴う。使用痕か、整形のための加工痕か、判然としない。

I c 1 (2414~2415)

遺構外出土2点を全て図示した。

2414は1面が磨面、1面が剝離のみである。2415はやや薄くなるが、最大厚は周縁部にあることからI類にいた。

II類 (第89図2416~第91図2425、写真図版283・284)

II a 1 (2417~2420)

遺構内7点、遺構外27点、計34点出土した。遺構外出土のうち5点を図示した。

2417~2420は、磨面の外縁に剝離はほとんど観察されない。

II a 2 (2421)

遺構内3点、遺構外5点、計8点出土した。遺構外出土のうち1点のみ図示した。

2421は欠損品であるが、端部の剝離が明瞭であり、平面形では挟り状には至らないが、それに近似する形状である。

II b 1

遺構内1点、遺構外5点、計6点出土した。

II b 2 (2422~2424)

遺構内8点、遺構外8点、計16点出土した。遺構外出土のうち3点を図示した。

2422の端部の剥離は単位が大きく、破損の可能性も考えられる。2424の端部は抉り状となる。

II b 3 (2425)

遺構内1点、遺構外1点、計2点出土した。

2425はやや厚手であるが、全周を加工して半円状に整形している。磨面は1面であるが、弧状を呈する対辺は明瞭な稜を有する。

III 類 (第91図2426~第96図2458、写真図版 284~288)

III a 1 (2426・2429)

遺構内1点、遺構外10点、計11点出土した。遺構外出土のうち2点を図示した。

2426は未製品かも知れない。

2427・2428は欠損品であり、周縁加工の有無については不明である。

III a 2 (2430)

遺構外から8点出土した。うち1点のみ図示した。

端部の剥離は両方とも、やや抉り状となる。

III a 3 (2431・2432)

遺構外から3点出土し、うち2点を図示した。

磨面の剥離が、2431は顕著であるのに対し、2432はほとんど観察されない。周縁の加工は2432は粗く不均一である。

III b 1 (2434~2436)

遺構内3点、遺構外8点、計11点出土した。遺構外出土のうち3点を図示した。

磨面がやや幅広いもの(2434)から、ごく一部のもの(2436)まである。2433は周縁加工の有無は不明である。

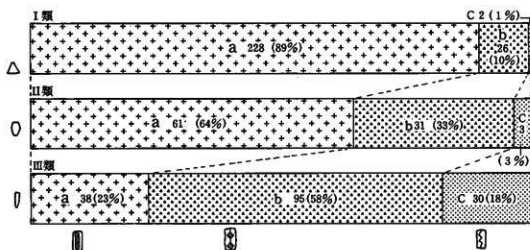
III b 2 (2437~2448)

遺構内12点、遺構外33点、計45点出土した。遺構外出土のうち10点を図示した。

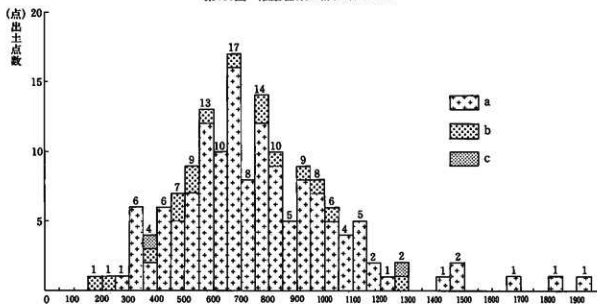
周縁加工は、稜能面の対辺の弧状部に施されるもの(2437・2438)、長軸の端部に施されるもの(2439~2445)、その両方に施されるもの(2446~2448)がある。端部の剥離が、抉り状となるもの(2439~2447)が多い。

	I			II			III			その他	計
	a	d	c	a	b	c	a	b	c		
遺構内	41	7	0	12	11	1	3	35	11	9	130
遺構外	187	19	2	49	20	2	35	60	19	14	407
計	228	26	2	61	31	3	38	95	30	23	537
	256			95			163				

第18表 敲磨器類A群分類別出土点数



第408図 敲磨器類A群分類別割合



第409図 敲磨器類A群 重量分布 (I類)

重さ (g)

III b 3 (2449)

遺構内15点、遺構外10点、計25点出土した。遺構外出土のうち1点のみ図示した。

2449は剝離が全周におよび、端部の剝離は袂り状となる。2面を磨面とし、平面形は弧状をなさず、長方形に近い。

III c 1 (2450)

遺構内1点、遺構外2点、計3点出土した。遺構外出土のうち1点のみ図示した。

III c 2 (2451-2455)

遺構内6点、遺構外8点、計14点出土した。遺構外出土のうち5点を図示した。

III c 3 (2457-2458)

遺構内3点、遺構外8点、計11点出土した。遺構外出土のうち3点を図示した。

3045は機能面の対辺に袂り状の剝離を有する。全周する剝離は片面に観察される。2458は、端部が袂り状となるほか、機能面の対辺の剝離は、袂りを2単位形成する。

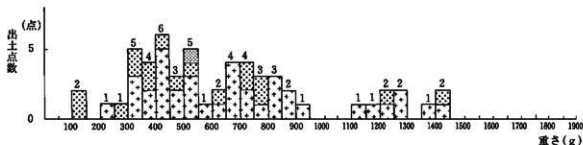
重量分布を類別に図示した。欠損品は統計から除外してある。I類は150g～1950gの範囲に分布するが、650g～700gをピークに、500g～1000gのものが66%を占める。II類は100g～1450gの範囲に分布し、とくに集中する階級はない。III類は150g～1900gの範囲に分布するが、400g～450gをピークとし、300g～500gのものが約6割を占める。I類がIII類より重いことは断面形からも容易に想定できることであるが、それぞれの用途にかかわる重要な要素の1つといえよう。

機能面（磨面）の状況を類別にみる。I類は、磨面が顕著なもの（a）がそのほとんどを占める。磨面がなく剝離による稜線を有するもの（c）は、1%に満たない2点のみである。III類は、磨面が顕著なもの（a）と、磨面がなく剝離のみのもの（c）が、それぞれ約3割で、剝離が顕著で磨面が不定形となるもの（b）が6割弱と最も多い。

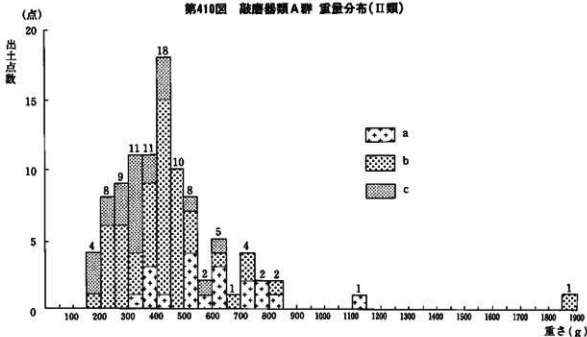
磨面の最大幅の分布をみる。磨面がなく剝離による稜線を有するもの（c）は、各類とも統計から除外してある。I類は1.4cm～1.6cmをピークとし、4.2cmまで分布している。0.6cm～2.6cmが大部分を占め、約88%である。II類は0.8cm～1.0cmをピークとし3.8cmまで分布している。0.6cm～2.0cmに8割強が入る。III類は同じく0.8cm～1.0cmをピークとし、2.6cmまで分布している0.4cm～1.4cmが7割強を占める。

機能面（磨面）の状況と、磨面の幅については、素材として用いた石材に規制されたと考えられることもできるが、用途を想定して選材していたとすれば、機能面（磨面）の状況および磨面幅の分布が異なることは、I類～III類の用途を推定する際の要素として、やはり重要なことと思われる。

石材については、I類～III類のいずれも北上山地産の砂岩、凝灰岩が主体をなす。I類でや



第410図 敲磨器類A群 重量分布(II類)



第411図 敲磨器類A群 重量分布(III類)

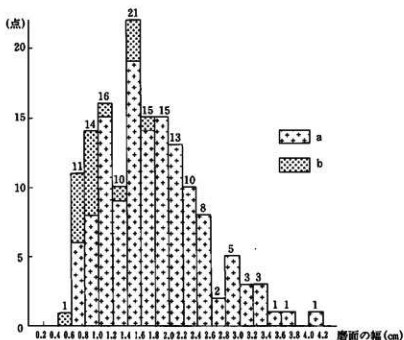
I類	凝灰岩(北上山地) 67(26%)	砂岩(北上山地) 62(24%)	千枚岩 15(6%)	安山岩 28(11%)	花崗岩 粘板岩	安山岩(奥羽山地) 62(24%)	その他
II類	凝灰岩(北上山地) 31(33%)	砂岩(北上山地) 25(26%)	千枚岩 9(10%)	粘板岩 5(5%)	安山岩(北上山地) 3(3%)	安山岩(奥羽山地) 15(16%)	凝灰岩(奥羽山地) 5(5%)
III類	凝灰岩 30(18%)	砂岩(北上山地) 45(28%)	千枚岩 29(18%)	粘板岩 6(4%)	安山岩(北上山地) 8(5%)	安山岩(奥羽山地) 24(15%)	安山岩 4(3%)

Additional breakdowns for Group I and II:

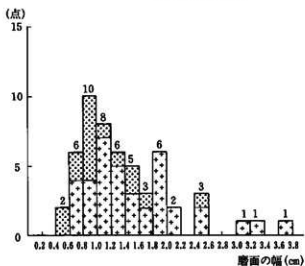
- Group I: 安山岩(奥羽山地) includes (北上山地) 4 (2%) and (北上山地) 6 (2%).
- Group II: 粘板岩 includes (北上山地) 5 (5%).
- Group II: 安山岩(北上山地) includes (北上山地) 3 (3%).
- Group II: 凝灰岩(奥羽山地) includes (岩手山) 4 (3%).

第412図 敲磨器類A群石材別割合

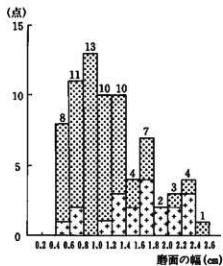
や奥羽山地産安山岩のものが多く、Ⅲ類でやや千枚岩が多い点を除けば、大きな相違はない。



敲磨器類A群Ⅰ類



敲磨器類A群Ⅱ類



敲磨器類A群Ⅲ類

第413図 敲磨器類A群磨面幅の分布

敲磨器類B群（第467図2459～第472図2499、写真図版289～292）

円形基調の自然石の一部または全部に使用痕が観察されるものである。使用痕には「磨面」、「凹み」、「敲打痕」がある。これらの使用痕は複合することも多く、1種類に特定できない場合が多い。分類はそのことを考慮して、次のように行った。

I類：「磨面」のみを有するもの。（2459～2469）

磨面には、ややザラつきを有するものと、研磨され光沢を帯びるものがあるが、その両者を含めた。磨面が平坦な片面に観察されるもの（2460・2461他）、両面に観察されるもの（2461・2466他）、側面に磨面を有するもの（2463・2467他）がある。2468・2469は溶岩に磨面が観察されるものである。2468は整形が丁寧であり、あるいは石製品の種類かも知れない。

II類：「凹み」のみを有するもの。（2470～2473）

凹みには、円錐状のもの（2472）や溝状のもの（2471）があるが、全て凹みとして把握した。

III類：「敲打痕」を有するもの。（2475～2480）

敲打痕が一部に集中し、凹みと区別が困難なものもあるが、浅く凹みに至らないものはここに入れた（2474・2475）。また、礫の端部に強い打撃による剥離を伴うもの（2480）も本類に含めた。

IV類：「磨面」と「凹み」を有するもの。（2481～2483）

V類：「磨面」と「敲打痕」を有するもの。（2484～2494）

VI類：「凹み」と「敲打痕」を有するもの。

VII類：「磨面」と「凹み」と「敲打痕」を有するもの。（2495～2499）

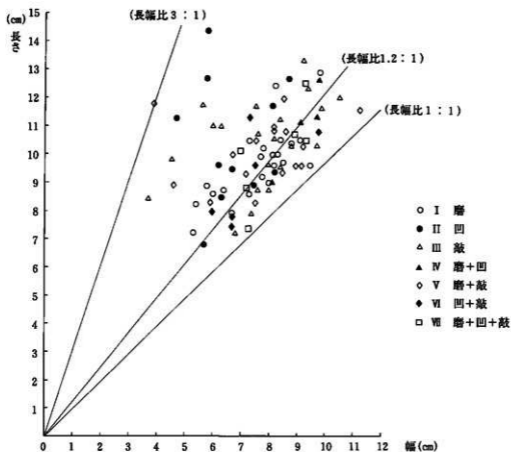
出土点数は第19表に示した。

I群～VII群の長幅相関図をみると、長幅比が3～1の範囲に分布するが、集中するのはおよそ1・2前後のところである。群による分布の偏りはみられず混在している。

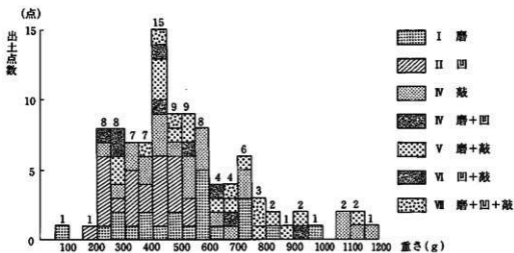
重量分布では、最小値75g最大値1180gであるが、400g～450gをピークとして、7割は200g～600gの中に収まる。群別では、II類がやや軽い傾向を示し、平均値は357gと、敲磨

	I	II	III	IV	V	VI	VII	他	計
遺構内	4	4	2	0	3	2	0	1	16
遺構外	26	22	26	5	13	4	6	0	102
計	30	26	28	5	16	6	6	1	118

第19表 敲磨器類B群分類別出土点数



第414図 敲磨器類日群長幅相關図



第415図 敲磨器類日群重量分布

凝灰岩(北上山地) 27 (23%)	砂岩(北上山地) 42 (36%)	千代 枚上山 岩 3 (3%)	安山岩 (北上山地) 11 (9%)	安山岩 (奥群山地) 17 (15%)	安山岩 (百千 代山)	その他
-----------------------	----------------------	--------------------------	-----------------------------	------------------------------	-------------------	-----

第418図 敲磨器類B群 石材別分布

器類B群全体の平均値502gより150g弱少ない点が注目される。

石材は、北上山地産の砂岩・凝灰岩・安山岩を主体とし、その割合は敲磨器類A群に類似する。

(14) 石皿・台石類 (第473図2500～第474図2509、写真図版292)

遺構内21点、遺構外88点、計109点をここにいった。

整形・調整されたものはなく、扁平な自然円礫ないし不整形な亜角礫の平坦面に、敲打痕や磨面が観察されるものである。

2506～2508に代表されるように、原形を止めないほどに細かな破損品が多く出土しているが図示は省略した。

石材は、北上山地産の凝灰岩60点、砂岩18点で、その他10点である。

(15) 礫石 (第474図2510・2511、写真図版293)

遺構内5点、遺構外16点、計21点出土した。表土からの出土も多く、近現代のものも多く含まれている可能性がある。

石材は、磐石西部産の凝灰岩14点、北上山地産の凝灰岩2点、その他5点である。

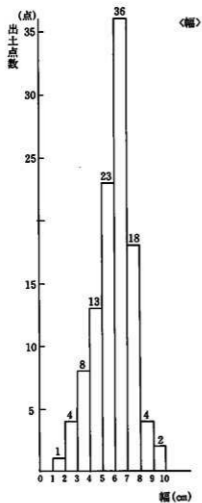
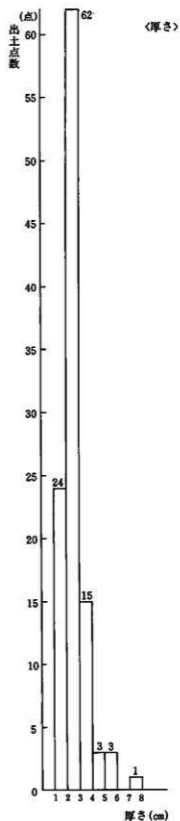
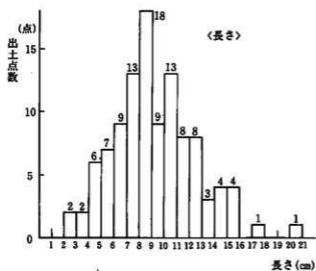
(16) 礫器 (第475図2512、写真図版293)

遺構外出土の2点を礫器とした。2512は、両面に自然面を残し、下半部に粗い剥離によって明瞭な稜が形成されている。図示していないが、もう1点は、2512より小振りの扁平な礫の周縁に、片面からの粗い剥離が連続するものである。

(17) 石核 (第475図2513、写真図版293)

遺構内3点、遺構外12点、計15点を石核とした。多方向からの剥離により、多面体の計上を呈するものが殆どである。図示した2513は、一定方向から剥離が多く観察される希な例である。

石材はすべて磐石西部産で、泥岩12点、凝灰岩3点である。



第417図 半円状花崗岩質岩計測値分布

(14) 半円状花崗岩質岩 (第477図2536・2537、写真図版294)

平面形が半円状を呈する花崗岩質の岩石が出土した。剥落が激しく脆弱化しているため、加工痕も使用痕も不明であるが、形状に一定の纏まりを有すること、出土量も相当数あることから遺物として取り上げた。

遺構内30点、遺構外90点、計120点したが、2536・2537の2点のみを図化した。平面形・分量は敲磨器類A群Ⅲ類としたもの(いわゆる半円状偏平打製石器)に酷似することから、それと同様の用途が想定される。

(15) 溶岩 (第468図2468・2469、写真図版289)

岩手火山起源の溶岩(両輝石安山岩)が、遺構内21点、遺構外30点、計51点出土した。これらは、本遺跡に持ち込まれたものであり遺物として取り上げた。磨石として用いられたもの(2468・2469)のみを図化した。2468以外は全て不整形であり、また磨面などの使用痕は不明瞭である。

石製品

(1) 耳飾 (第475図2514～2521、写真図版293)

中央部に円形の穴があり、下端から切り込みを入れた、いわゆる玦状の耳飾である。遺構内から6点、遺構外から8点、計14点出土した。

全て破損品であるが、円形を基調とするものが多く、断面形は偏平である。破損部に孔が穿たれているもの(2515・2521)もあり、補修を目的としたものかと思われる。遺構内出土のものには、制作時の痕跡が中央部の穴の側面に表れているもの(1080)、切り込みが完成する前に破損したと思われるもの(1123)もある。

幅の値の分布をみた。欠損のため正確な値は不明なものが殆どであり、残存部の形状から推定したもので、やや正確性を欠くが、それほど大きな相違もないと思われる。それによると、2cm～4.8cmの範囲に分布するが、とくに集中する部分はない。2cm～3cmは連続し、3cm～5cmは間断的である。

石材は北上山地産のチャート6点、チャート質凝灰岩6点、その他2点である。



第418図 耳飾幅分布

(2) 円盤状石製品 (第476図2522・2523、写真図版293)

遺構外からのみ2点の出土である。2522は周縁を打ち欠いただけであるが、2523は表裏および側面を磨って調整している。石材は、いずれも北上山地産の千枚岩である。

(3) 石刀・石剣類 (第476図2524～2528、写真図版293)

偏平で細長い、刀状または剣状の石製品である。遺構内から3点、遺構外から7点、計10点をここに入れた。2525・2527は擦痕が明瞭である。2525は端部に孔が穿たれる。2528は加工痕は不明瞭であるが、形状から遺物として取り上げた。

石材は、全て北上山地産で、粘板岩4点、千枚岩4点、その他2点である。

(4) 石棒 (第476図2529～第477図2535、写真図版293・294)

棒状の石器であるが、加工の有無については必ずしも明瞭ではない。石材から他地域から持ち込まれたことが明らかであるもの、および形状がそれに類似するものをここに入れた。遺構内13点、遺構外18点、計31点をここに分類した。

2529・2532・2533・2535などは、松尾村長者屋敷産の流波岩を用いており、断面形が三角形または四角形・五角形状である。2530・2531・2535などは、北上山地産の粘板岩である。2531は、敲磨器類(凹石)に分類すべきかも知れない。

(5) 有孔石

自然石の一部に孔を有するもので、582の1点のみである。

(注1) 岡村道雄 (1979) : 「縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例—その1—」

『東北歴史資料館研究紀要』No 5

岡村氏は、同論文(p 9)で石鏃と異なる属性として次の5点を上げている。

- 大きさは長さ3.5cm、幅2.0cmに集中し、石鏃と分布を異にする。
- この器種は、石鏃や石鏃に分類するものより先端角平均20°大きく、先端に加工が無かったり、尖らせるに十分な二次加工が施されていない。
- 完形である。石鏃と機能を異にする。
- 一次剥離面を残す半両面加工のものが圧倒的に多い。
- アスファルト付着はみられない。

(注2) 秋田県教育委員会 (1988) : 「上ノ山遺跡」『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書II』

p 239～241

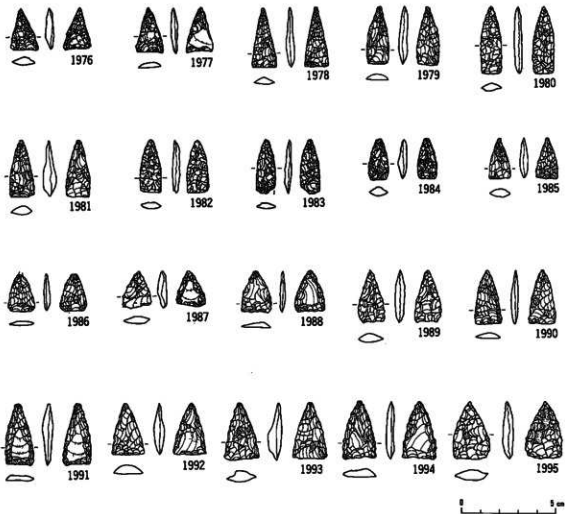
(注3) 宮城県教育委員会 (1986) : 『田柄貝塚Ⅱ 土製品 石器・石製品編』宮城県文化財
調査報告書第111集 p.126～127

3. 鉄器

針状鉄製品 (第477図2538、写真図版294)

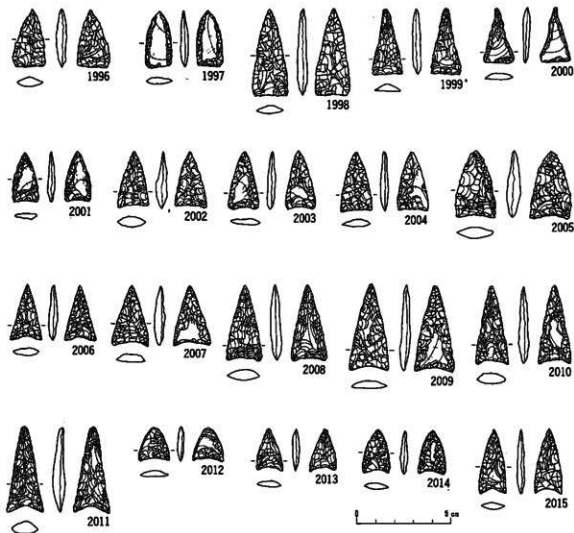
遺構外出土のものは1点のみである。

I層からの出土であり、出土状況からは時期は特定できない。分析の結果、チタンの含有量が多いことなどから、たたら製鉄によるものの可能性が指摘されている。(付篇5参照)



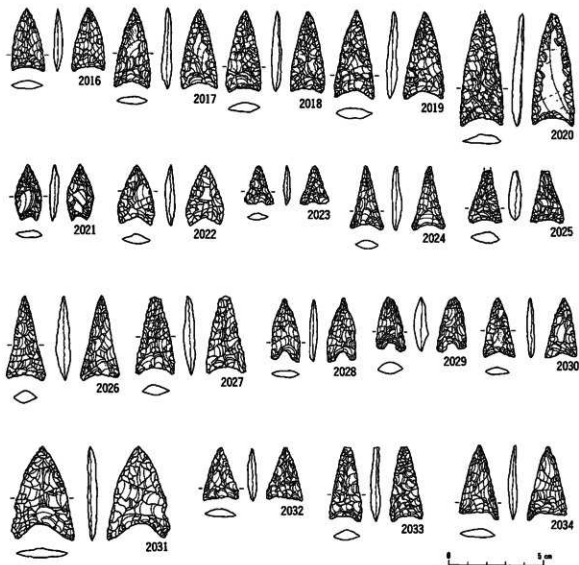
番号	出土地点	層位	素材	石質	産地	長さ	幅	厚さ	番号	分類	序次
1976	箱D4h	表土	石鏃	埴貫泥岩	宇石西部	2.7	1.3	0.4	0.86		1 1 254
1977	箱D9d	褐色土	石鏃	粘板岩	北上山地	2.4	1.5	0.3	0.85		1 1 254
1978	箱D3c	I層	石鏃	流紋岩	宇石西部	3.1	1.3	0.3	1.15		1 1 254
1979	箱C1j	I層	石鏃	硬灰硬質泥岩	宇石西部	3.0	1.2	0.3	1.46	幅狭で、層平である。	1 2 254
1980	箱C8g	I層	石鏃	埴貫泥岩	宇石西部	3.5	1.1	0.5	1.59	串に対して長めの石鏃である	1 2 254
1981	箱C2i	両層境層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	3.0	1.3	0.6	1.97	幅狭で、肉厚の鏃である。	1 2 254
1982	箱C5j	I層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	2.8	1.1	0.4	1.03	基、裏とも鋭角があり、断面がうねる鏃である。	1 2 254
1983	箱D4g	両層境層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	2.9	1.0	0.3	0.88		1 2 254
1984	箱C2g	褐色土	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	2.1	1.0	0.5	0.78		1 2 254
1985	箱D7g	II層	石鏃	硬灰硬質泥岩	宇石西部	2.1	1.1	0.4	0.90	小振り。	1 2 254
1986	表層		石鏃	粘板岩	北上山地	3.0	1.4	0.2	0.70	層平で小振りである。	1 2 254
1987	箱C2j	I層	石鏃	硬灰硬質泥岩	宇石西部	1.9	1.4	0.35	0.93	刃先にも欠け部が認められ、串一次刻面を有す。	1 2 254
1988	箱D1e	I層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	2.3	1.0	0.2	0.96		1 2 254
1989	箱D5f	II層	石鏃	硬灰硬質泥岩	宇石西部	2.8	1.4	0.5	1.57		1 2 254
1990	箱D2h	II層	石鏃	埴貫泥岩	宇石西部	2.9	1.4	0.3	1.42		1 2 254
1991	箱D5j	I層	石鏃	埴貫泥岩	宇石西部	3.2	1.5	0.4	2.01		1 2 254
1992	箱D4d	I層	石鏃	硬灰硬質泥岩	宇石西部	2.8	1.7	0.5	2.16		1 2 254
1993	箱D1h	III層	石鏃	粘板岩	北上山地	3.1	1.9	0.6	2.61	一部に裏材の痕を有す。	1 2 254
1994	箱C6g	I層	石鏃	埴貫泥岩	宇石西部	3.1	1.7	0.3	2.13		1 2 254
1995	箱D9c	II層	石鏃	埴貫泥岩	宇石西部	3.1	1.9	0.6	2.94	裏材の平断面を一面に有す。裏材には中切痕あり。	1 2 254

第418図 遺構外出土遺物 石鏃(1)



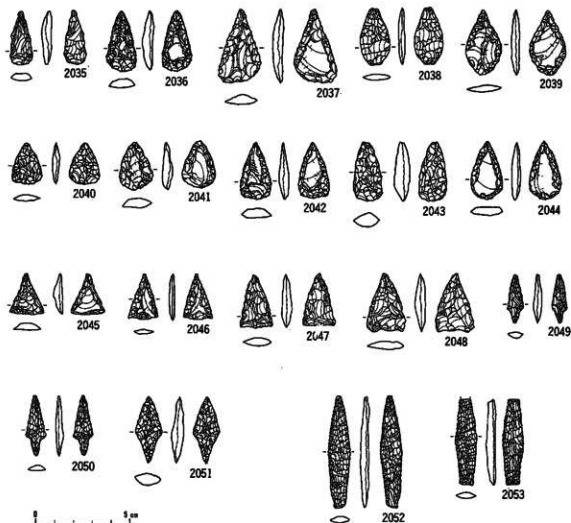
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真
1996	ⅢC 6 g	再埋蔵層下位	石鏃	硬質燧灰質泥岩	宇石西部	3.1	1.8	0.0	2.33		1 F 254
1997	ⅢD 3 b	表出層	石鏃	硬質泥質礫灰岩	宇石西部	3.0	1.4	0.4	1.95		1 F 254
1998	ⅢB 8 b		石鏃	硬質泥質礫灰岩	宇石西部	4.6	1.9	0.0	2.43		1 F 254
1999	不明		石鏃	地質新緑礫泥岩	宇石西部	3.5	1.6	0.4	1.85		1 F 254
2000	ⅢD 0 i		石鏃	粘板岩	北上山地	2.9	1.6	0.3	1.22		1 F 254
2001	ⅢD 1 g		石鏃	硬質燧灰質泥岩	宇石西部	2.6	1.4	0.3	1.15	表裏とも素材の面を活用して二次加工。	Ⅱa 2 254
2002	ⅢD 1 j		石鏃	粘板岩	北上山地	2.9	1.6	0.0	2.00	今や厚手。	Ⅱa 2 255
2003	ⅢC 7 f	I層	石鏃	粘板岩	北上山地	3.0	1.6	0.4	1.37		Ⅱa 2 255
2004	ⅢD 9 b	I層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	3.1	1.6	0.4	1.65	素材面を一部に活用。	Ⅱa 2 255
2005	ⅢC 4 f	I層	石鏃	地質泥岩	宇石西部	3.5	2.1	0.6	3.65		Ⅱa 2 255
2006	ⅢD 6 b	鈍頭トレンチ	石鏃	粘板岩	北上山地	2.9	1.7	0.4	1.25		Ⅱb 1 255
2007	ⅢC 7 f	再埋蔵層	石鏃	硬質燧灰質泥岩	宇石西部	3.2	1.9	0.5	1.92		Ⅱb 1 255
2008	ⅢC 5 j	II層	石鏃	粘板岩	北上山地西縁	3.8	1.9	0.3	3.26		Ⅱb 1 255
2009	ⅢD 7 a	風胸木	石鏃	地質泥岩	宇石西部	4.6	2.1	0.4	2.13		Ⅱb 1 255
2010	ⅢD 8 g	II層	石鏃	硬質燧灰質泥岩	宇石西部	4.1	1.7	0.3	2.82		Ⅱb 1 255
2011	ⅢD 5 a	I層	石鏃	地質新緑礫泥岩	宇石西部	4.6	2.0	0.3	3.21		Ⅱb 1 255
2012	ⅢD 9 b		石鏃	硬質燧灰質泥岩	宇石西部	1.8	1.5	0.3	0.73	表裏に素材の平直面を残り、土層跡の先端のごく一部を欠失。	Ⅱb 2 255
2013	ⅢD 3 g		石鏃	粘板岩	北上山地	2.3	1.4	0.3	0.88		Ⅱb 2 255
2014	ⅢC 2 d	再埋蔵層	石鏃	陸長質礫泥岩	宇石西部	2.3	1.5	0.4	0.97		Ⅱb 2 255
2015	ⅢD 0 b		石鏃	地質泥岩	宇石西部	2.4	1.4	0.4	1.56		Ⅱb 2 255

第420図 遺構外出土遺物 石鏃(2)



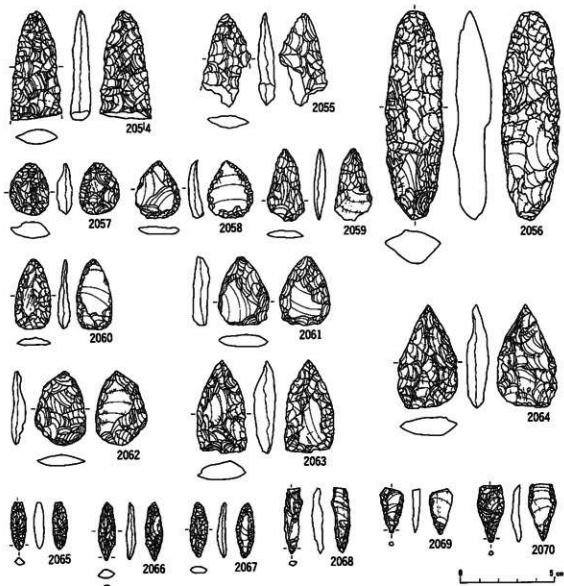
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	長さ	備考	分類	写真
2016	ⅡD3 i	扉層上面	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	3.3	1.7	0.4	2.09		Ⅱb2	256
2017	ⅡC6 e	再帰線層	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	4.2	1.9	0.5	3.04	中央部に素材の平坦面を残す。	Ⅱb1	255
2018	ⅡC4 b	Ⅱ層	石鏃	粘板岩	北上山地	4.3	1.8	0.5	3.08		Ⅱb2	255
2019	ⅡD7 f	再帰線層	石鏃	地質粘板岩	宇石西郡	4.6	2.1	0.6	3.91		Ⅱb2	255
2020	ⅡD0 f	Ⅱ層	石鏃	地質粘板岩	宇石西郡	(6.2)	2.3	0.6	(3.2)	表面の網目は弱く、片方のように出歯上がりとなる。	Ⅱb2	255
2021	ⅡC2 f	再帰線層	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	3.0	1.3	0.4	1.34		Ⅱb3	255
2022	ⅡC2 j	築地層下	石鏃	地質粘板岩	宇石西郡	3.3	2.6	0.6	2.42		Ⅱb3	255
2023	ⅡC9 i	再帰線層	石鏃	硬質泥岩	宇石西郡	2.1	1.5	0.4	0.63	縁部がやや強く張り出す。	Ⅱb4	255
2024	ⅡD5 j	Ⅱ層	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	3.3	1.8	0.4	1.64		Ⅱb4	256
2025	ⅡD4 h	再帰線層	石鏃	硬質凝灰質泥岩	宇石西郡	位.3)	1.8	0.6	(2.3)	表面、尖部の一部欠損、変形による欠損かと思われる。	Ⅱb4	256
2026	ⅡE7 b	表掘	石鏃	粘板岩	北上山地	4.5	2.0	0.8	3.82		Ⅱb4	256
2027	ⅡC4 b	再帰線層下位	石鏃	硬質泥岩	宇石西郡	4.1	2.0	0.6	3.64	尖部先端が欠損。	Ⅱb4	256
2028	ⅡI C8 b	Ⅱ層	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	3.3	1.5	0.3	1.73	基部の張りが大きい。	Ⅱc2	256
2029	ⅡE4 a	Ⅱ層	石鏃	粘板岩	北上山地	2.9	1.3	0.6	2.58	内面で縁の断面形が特徴的。	Ⅱc2	256
2030	ⅡC4 b	表掘	石鏃	硬質凝灰質泥岩	宇石西郡	3.1	1.7	0.4	1.54	二次加工跡あり。基部の縁の形は二等辺三角形。	Ⅱc2	256
2031	ⅡD8 f	Ⅱ層	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	5.0	3.3	0.5	3.32	基部の一部に微溝の状況が観察される。	Ⅱc2	256
2032	ⅡD0 f	Ⅱ層	石鏃	硬質泥岩	宇石西郡	2.8	1.9	0.4	2.06	縁部は一方は外巻、他の方は直線。	Ⅱe1	256
2033	ⅡC5 g	再帰線層	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	3.9	1.7	0.5	3.07	尖部先端が欠損。	Ⅱe1	256
2034	ⅡI C6 g	黒色土上面	石鏃	地質泥岩	宇石西郡	4.0	2.0	0.4	2.47		Ⅱe1	256

第421図 遺構外出土遺物 石鏃(3)



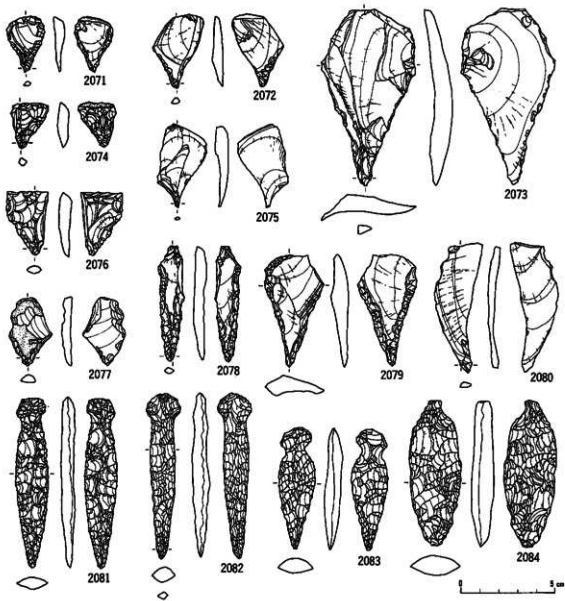
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	専号
2035	表埋		石鏃	粘板岩	北上山地	2.8	1.2	0.9	1.99		Ⅱ 1	256
2036	ⅡC 5 f	埋藏土上	石鏃	硬質泥岩	半石西郷	3.2	1.6	0.5	2.09		Ⅱ 1	256
2037	ⅡC 0 j		石鏃	硬質凝灰質泥岩	半石西郷	3.9	2.3	0.4	2.67		Ⅱ 1	256
2038	ⅡD 6 g	表土	石鏃	地質泥岩	半石西郷	3.3	1.6	0.2	1.95	尖頭部先端欠損。	Ⅱ 1	256
2039	ⅡC 4 h	再建層下位	石鏃	粘板岩	北上山地	3.3	1.9	0.4	2.27		Ⅱ 1	256
2040	ⅡE 4 a		石鏃	チャート	北上山地	2.2	1.6	0.4	1.06		Ⅱ 2	256
2041	ⅡC 9 f	I 層	石鏃	粘板岩	北上山地	2.5	1.8	0.5	2.16		Ⅱ 2	256
2042	ⅡD 4 h		石鏃	硬質凝灰質泥岩	半石西郷	3.0	1.8	0.5	2.08	裏付の面を両面に残す。	Ⅱ 2	256
2043	ⅡC 6 g	再建層下位	石鏃	硬質凝灰質泥岩	半石西郷	3.1	1.5	0.9	2.47	断面が菱形になるような角形の石鏃である	Ⅱ 2	256
2044	ⅡD 3 i	褐色土直上	石鏃	硬質凝灰質泥岩	半石西郷	3.0	1.7	0.4	2.16	両面とも裏材面を残し、偏平である。	Ⅱ 2	256
2045	ⅡE 8 a		石鏃	粘板岩	北上山地	2.2	1.8	0.4	1.26		Ⅱ 4	256
2046	ⅡC 7 d	再建層下位	石鏃	硬質泥岩	半石西郷	2.4	1.5	0.3	0.82		Ⅱ 1	256
2047	ⅡD 3 g		石鏃	硬質泥岩	半石西郷	2.8	1.7	0.4	2.34		Ⅱ 1	256
2048	ⅡD 4 b	I 層	石鏃	地質泥岩	半石西郷	3.1	2.0	0.5	2.81		Ⅱ 8	257
2049	ⅡC 4 j	I 層	石鏃	地質泥岩	半石西郷	2.6	0.9	0.4	0.67	長さ 2cm	Ⅱ 1	257
2050	ⅡC 6 f	I 層上位	石鏃	地質泥岩	半石西郷	3.2	1.4	0.2	0.82	長さ 2.3cm	Ⅱ 1	257
2051	ⅡC 5 j	I 層	石鏃	地質泥岩	半石西郷	3.6	1.4	0.6	2.10	やや内厚の感あり。	Ⅱ 1	257
2052	ⅡC 8 e	I 層	尖頭器	粘板岩	北上山地跡跡	6.0	1.1	0.4	2.67		257	
2053	ⅡC 4 d	I 層	尖頭器	硬質泥岩	新第三系中硬板	(4.8)	1.1	0.3	0.89		257	

第422図 遺構外出土遺物 石鏃(4)・尖頭器(1)



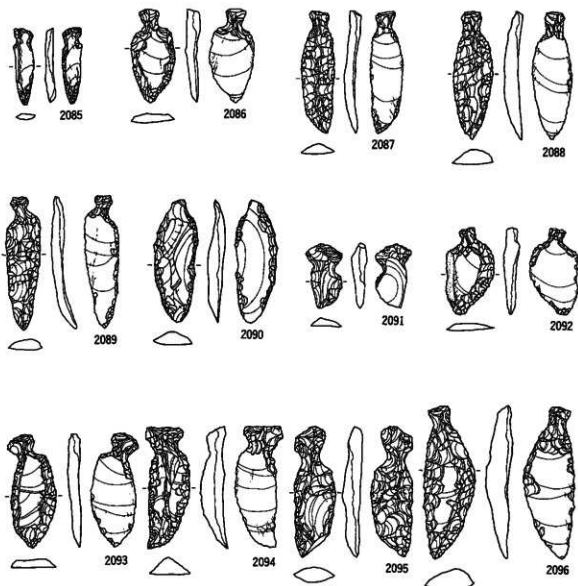
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2054	WE 6 a	表層	尖頭器	硬質泥岩	宇石西部	15.40	2.7	1.0	0.96		II	257
2055	WE C 5 g		尖頭器	硬質泥岩	宇石西部	14.80	2.3	0.7	0.80		II	257
2056	WD 7 a		尖頭器	硬質泥岩	宇石西部	11.0	3.7	1.7	66.87	尖頭部はやや丸み。	II	257
2057	WD 3 f	暗褐色土	尖頭器・棒石器	珪質泥岩	宇石西部	2.7	2.0	0.8	4.31			257
2058	WD 8 i	II層	尖頭器・棒石器	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.0	2.4	0.5	3.23			257
2059	WD 4 j	黄土	尖頭器・棒石器	珪質泥岩	宇石西部	5.8	2.0	0.5	3.98			257
2060	WD 0 a	表層	尖頭器・棒石器	硬質泥岩	宇石西部	3.7	1.9	0.7	3.23	尖頭部はやや丸みがかっている。断面は割れ面を残す。		257
2061	heltトロンク		尖頭器・棒石器	硬質泥岩	宇石西部	3.6	2.8	0.8	6.11			257
2062	WC 4 g	再堆積層	尖頭器・棒石器	硬質泥岩	宇石西部	3.9	2.6	0.6	7.11			257
2063	WD 6 b	黄土	尖頭器・棒石器	硬質泥岩	宇石西部	4.9	2.6	1.0	11.17			257
2064	WE 7 a	褐色土	尖頭器・棒石器	珪質泥岩	宇石西部	5.5	3.1	1.0	16.87			257
2065	WD 1 a	II層	石鏃	粘板岩	北上山地	2.5	0.8	0.5	1.07			257
2066	WD 0 c		石鏃	硬質泥岩	宇石西部	3.0	0.9	0.5	1.08	石鏃の可能性あり。		257
2067	WC 1 i	I層	石鏃	珪質泥岩	宇石西部	2.9	0.9	0.5	1.08			258
2068	WD 5 i	II層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	3.5	1.0	0.2	1.73			258
2069	WD 5 i	黄土直下	石鏃	粘板岩	北上山地	2.4	1.2	0.4	1.08	尖頭部のみ二次加工。他は裏材面を残す。		258
2070	不明		石鏃	硬質泥岩	宇石西部	3.0	1.4	0.5	1.49	断面に眼が、挟り・磨有り。		258

第423図 遺構外出土遺物 尖頭器(2)・尖頭器・棒石器・石鏃(1)



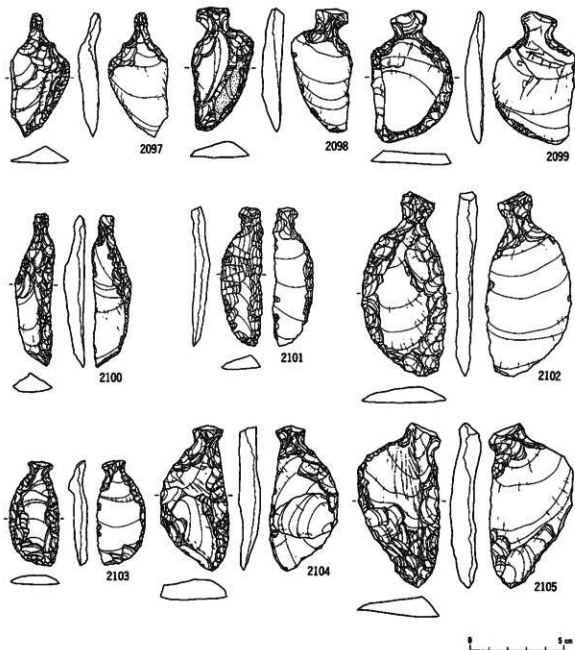
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2071	ⅡC区	Ⅱ層上層	石鏃	粘板岩	北上山地	3.0	2.0	0.5	3.40			258
2072	ⅡC6c	Ⅱ層上層	石鏃	地質泥岩	宇石西部	3.8	2.8	0.6	5.09			258
2073	ⅡC9f	Ⅱ層	石鏃	地質泥岩	宇石西部	9.3	5.0	0.9	27.32			258
2074	ⅡD4b	Ⅱ層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	2.3	1.9	0.6	2.74	北側部がやや膨張していることから石鏃とした。		258
2075	ⅡC6g	河床積層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	4.4	2.7	0.7	5.34			258
2076	ⅡD9j	Ⅱ層	石鏃	地質質硬質泥岩	宇石西部	3.4	2.2	0.7	5.34			258
2077	ⅡD2b	Ⅱ層	石鏃	地質質硬質泥岩	宇石西部	3.6	2.3	0.4	4.80			258
2078	ⅡD6h	表土直下	石鏃	粘板岩	北上山地	6.1	1.9	0.3	5.22			258
2079	ⅡD2b	Ⅱ層	石鏃	硬質泥岩	宇石西部	5.9	3.1	0.9	10.20			258
2080	ⅡD7i	暗褐色土	石鏃	地質泥岩	宇石西部	6.9	2.6	0.5	6.15			258
2081	ⅡD0c	Ⅱ層	石鏃	地質泥岩	宇石西部	9.0	1.7	0.7	10.34	射突具。	1a)	258
2082	ⅡD0j	Ⅱ層	石鏃	硬質泥岩	新第三系中新統	8.8	1.8	0.8	10.22		1a)	258
2083	ⅡC2j	Ⅱ層	石鏃	赤色凝灰岩	北上山地	6.5	2.0	0.8	9.15	欠いた縁部を盛り出す。原料の硬さを一掃済す。	1a)	258
2084	ⅡC6f	河床積層	石鏃	凝結石	北海道釧路	7.8	2.7	1.0	23.75		1a)	258

第424図 遺構外出土遺物 石鏃(2)・石匙(1)



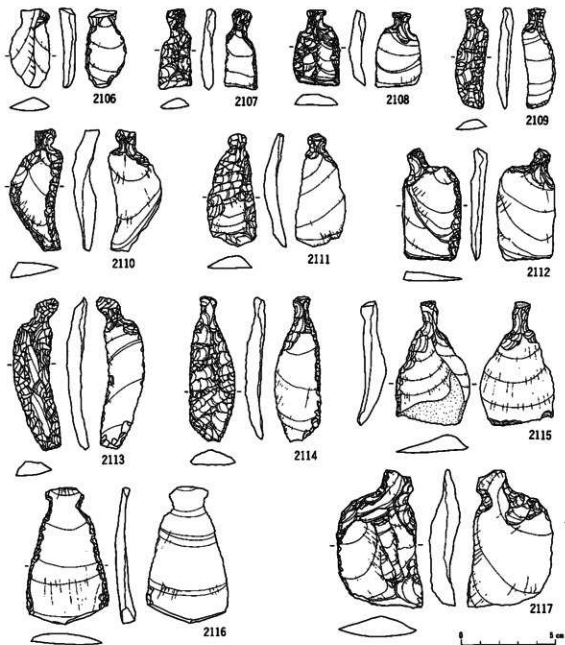
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	厚尺	
2085	Ⅷ D 2 i	Ⅱ層	石匙	粘板岩	北上山地	4.0	1.1	0.4	1.83	Ⅰ a 1	250	
2086	X D 1 f	Ⅱ層	石匙	硬質凝灰質泥岩	宇石西郡	4.9	2.4	0.8	6.50	Ⅰ a 1	250	
2087	Ⅸ D 5 j	Ⅱ層	石匙	硬質泥岩	宇石西郡	6.5	1.8	0.8	5.32	Ⅰ a 1	250	
2088	Ⅸ D 1 l	Ⅰ層	石匙	硬質泥岩	宇石西郡	6.8	2.1	0.9	10.15	Ⅰ a 1	250	
2089	X D 3 g	Ⅱ層	石匙	硬質凝灰質泥岩	宇石西郡	7.1	1.5	1.3	7.81	Ⅰ a 1	250	
2090	X D 3 f	Ⅰ層	石匙	硬質泥岩	宇石盆地西部	6.4	2.2	0.8	9.46	Ⅰ a 1	250	
2091	Ⅷ C 2 j	Ⅰ層	石匙	粘質泥岩	宇石西郡	3.4	1.9	0.6	3.54	Ⅰ a 2	250	
2092	X D 1 f	Ⅱ層	石匙	硬質凝灰質泥岩	宇石西郡	4.5	2.5	0.4	5.50	刃部、身部よりつまみ部の方が大ぶり。	Ⅰ a 2	250
2093	Ⅸ D 8 j	Ⅰ層	石匙	粘板岩	北上山地	6.0	2.6	0.7	8.37	Ⅰ a 2	250	
2094	表採		石匙	粘質泥岩	宇石西郡	6.4	2.1	1.1	12.77	Ⅰ a 2	250	
2095	Ⅷ C 4 f	埴輪色土	石匙	粘質泥岩	宇石西郡	6.9	2.3	0.8	12.73	Ⅰ a 2	250	
2096	Ⅸ D 5 f	Ⅱ層	石匙	粘質凝灰質泥岩	宇石西郡	6.1	2.6	1.4	19.36	Ⅰ a 2	250	

第425図 遺構外出土遺物 石匙(2)



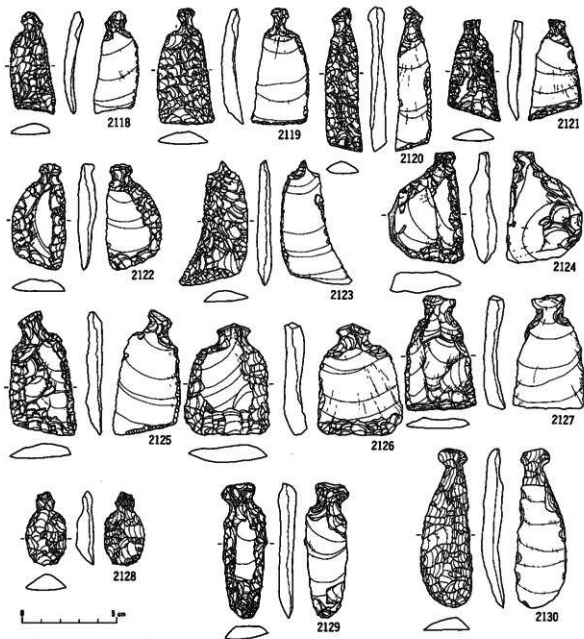
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2097	X D 2 g	即處	石匙	硬質凝灰質泥岩	早石西層	6.2	3.1	0.9	12.15		I a 2	259
2098	Ⅱ D 3 e	再堆積層	石匙	硬質凝灰質泥岩	早石西層	6.6	3.3	0.9	18.54	全面加工。	I a 2	258
2099	Ⅱ C 7 f	再堆積層	石匙	硬質泥岩	早石西層	7.0	4.4	0.5	22.87	全面加工。	I a 2	258
2100	Ⅱ D 2 j	灰土直下	石匙	硬質凝灰質泥岩	早石西層	8.2	2.1	1.1	12.67		I a 2	260
2101	X E 6 f		石匙	硬質泥岩	新第三系中新統	7.3	3.1	0.7	10.69		I a 2	260
2102	Ⅱ D 7 f	再堆積層	石匙	硬質泥岩	早石西層	9.6	4.6	0.8	38.38	尖端部や中央部がある。	I a 2	260
2103	X D 4 h		石匙	地質泥岩	早石西層	5.5	2.6	1.7	10.07		I a 2	260
2104	Ⅱ C 4 f		石匙	地質泥岩	早石西層	7.7	3.6	1.0	27.74		I a 2	260
2105	Ⅱ C 5 b	I層	石匙	粘板岩	北上山地	8.7	4.4	1.0	39.38		I a 2	260

第426圖 遺構外出土遺物 石匙(3)



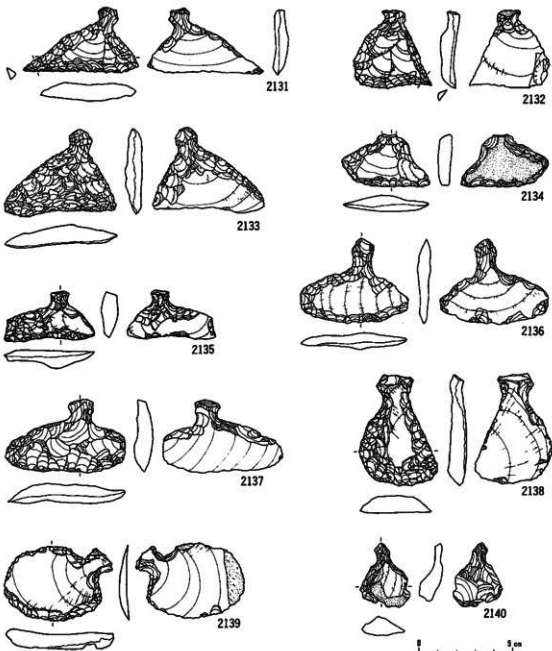
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真
2106	X D 2 g	再編紋層	石匙	塊状質細粒凝灰岩	宇石西部	4.1	2.1	0.9	5.02		1 b 1 260
2107	層 D 7 f	再編紋層	石匙	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	4.3	1.7	0.6	4.11		1 b 1 260
2108	層 D 6 h	検出層	石匙	塊質泥岩	宇石西部	4.0	2.4	0.6	6.27		1 b 1 260
2109	Ⅱ E 1 a		石匙	塊質泥岩	宇石西部	5.4	1.8	0.8	5.31		1 b 1 260
2110	層 E 4 a		石匙	塊質泥岩	宇石西部	6.4	2.8	0.8	13.48		1 b 1 260
2111	X D 8 a		石匙	硬質泥岩	宇石西部	6.0	2.6	1.2	16.49		1 b 1 260
2112	層 D 4 h		石匙	硬質泥岩	宇石西部	6.0	3.1	0.5	12.02		1 b 1 260
2113	Ⅱ D 5 g		石匙	塊質泥岩	宇石西部	8.0	2.4	1.1	13.42		1 b 1 260
2114	Y C 0 h	木の切り株	石匙	塊質泥岩	宇石西部	7.7	2.4	0.7	12.94		1 b 1 261
2115	層 D 5 i	1層	石匙	硬質泥岩	宇石西部	6.6	5.9	1.3	26.43		1 b 1 261
2116	Ⅱ D 3 j	1層	石匙	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	7.3	4.4	1.0	21.60		1 b 1 261
2117	層 C 0 j	再編紋層	石匙	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	7.3	4.5	1.2	34.16		1 b 1 261

第427図 遺構外出土遺物 石匙(4)



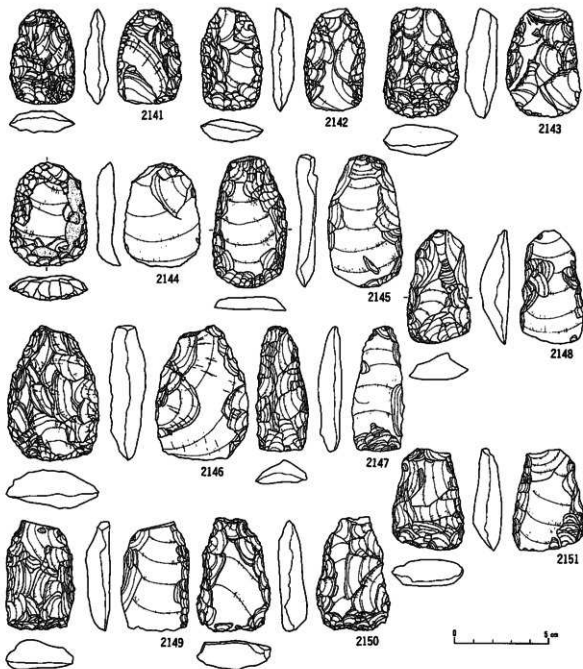
序号	出土地点	层位	器型	石质	产地	長さ	幅	厚さ	重量	参考	分属	写真
2118	ⅡD7h	I层	石匙	硬質泥岩	宇石西側	5.5	2.4	1.0	7.34		I b 2	261
2119	ⅡD7b	I層表土直下	石匙	硬質礫灰質泥岩	宇石西側	6.2	3.0	0.6	12.76		I b 2	261
2120	ⅡE3a		石匙	硬質泥岩	宇石西側	7.7	1.9	0.7	8.96		I b 2	261
2121	ⅡD3h	検出層	石匙	粘板岩	北上山地	5.3	2.7	0.6	8.60		I b 2	261
2122	ⅡD3h	西堆積層	石匙	硬質泥岩	宇石西側	5.6	2.9	0.6	12.55		I b 2	261
2123	ⅡE3a		石匙	地質礫砂質泥岩	宇石西側	6.2	2.9	0.7	12.36	図片	I b 2	261
2124	ⅡC0b	西堆積層	石匙	粘板岩	北上山地	5.8	3.0	1.1	27.30		I b 2	261
2125	ⅡD6a	I层	石匙	硬質泥岩	宇石西側	8.4	3.4	0.7	16.00		I b 2	261
2126	ⅡD2h	II层	石匙	地質泥岩	宇石西側	6.0	4.5	1.2	28.56		I b 2	261
2127	ⅡD1g		石匙	硬質礫灰質泥岩	宇石西側	8.1	3.7	0.5	17.04		I b 2	261
2128	ⅡD9b	表土直下	石匙	黒曜石	青森県赤松	3.9	2.1	0.8	6.58		I b 2	262
2129	ⅡD0f	表土	石匙	硬質礫灰質泥岩	宇石西側	7.2	2.4	0.7	14.76		I b 2	262
2130	ⅡE1b		石匙	地質泥岩	宇石西側	8.4	2.7	0.6	19.12		I b 2	262

第428図 遺構外出土遺物 石匙(5)



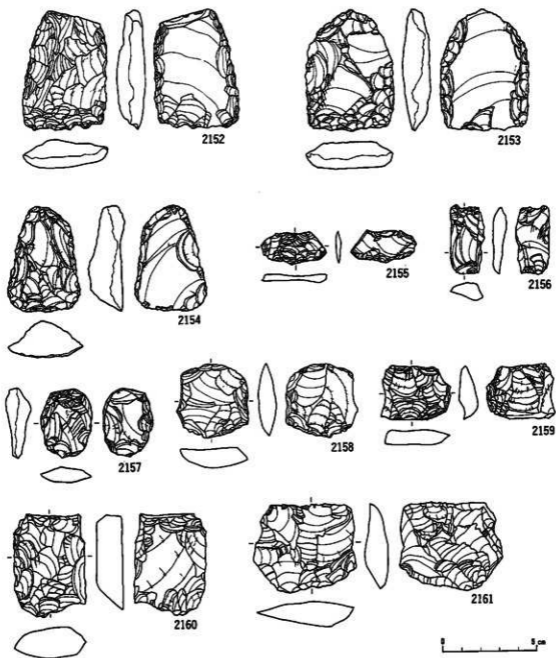
番号	出土地点	層位	形状	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2131	WC 5 i	I層	石匙	硬質燧石質泥岩	宇石西郡	3.4	6.1	0.7	19.50		II a 2	262
2132	XI K トレンチ	盛土	石匙	硬質燧石質泥岩	宇石西郡	4.0	3.6	0.6	8.94		II a 2	262
2133	VC 0 g	I層	石匙	地質泥岩	宇石西郡	4.6	5.9	0.9	17.11		II a 2	262
2134	Na17 トレンチ	盛土	石匙	硬質燧石質泥岩	宇石西郡	3.8	4.2	0.8	10.06		II a 2	262
2135	WD 7 c	原層	石匙	硬質泥岩	宇石西郡	2.6	4.7	0.9	6.70	全周加工。	II b	262
2136	WD 4 f	再編積層	石匙	硬質泥岩	宇石西郡	4.5	5.7	0.7	14.35	全周加工。	II b	262
2137	WC 6 h	II層	石匙	地質泥岩	宇石西郡	3.8	6.4	0.8	20.66	全周加工。	II b	262
2138	WD 9 c	II層	石匙	硬質燧石質泥岩	宇石西郡	5.8	4.1	0.9	19.04		III	262
2139	Na25 トレンチ	盛土	石匙	硬質泥岩	宇石西郡	5.5	4.0	0.4	13.17	全周加工。	III	262
2140	VD 1 d	I層	石匙	燧石	宇石	3.4	2.6	1.0	7.06	未製品。	IV	262

第429図 遺構物外出土遺物 石匙(6)



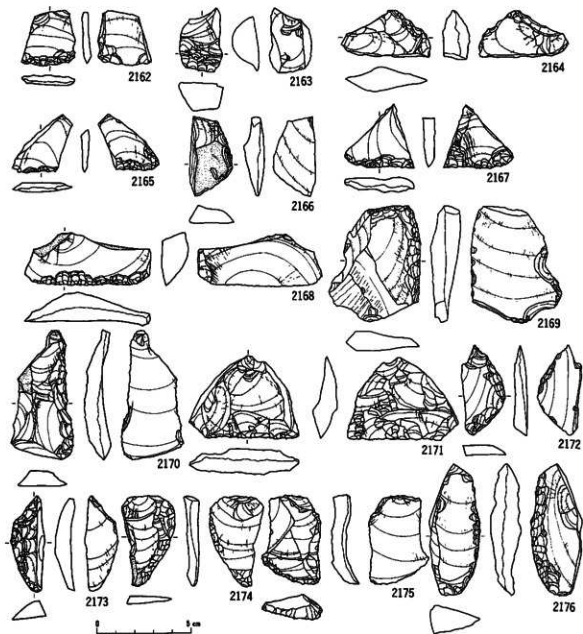
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2141	ⅧC 1 j	再堆積層	石筥	硬質泥岩	宇石西部	5.0	3.4	1.1	19.90		I	263
2142	ⅧC 3 f	表土	石筥	地長貫細粒凝灰岩	宇石西部	5.4	3.3	1.2	23.79		I	263
2143	ⅧD 3 e	再堆積層	石筥	地長貫細粒凝灰岩	宇石西部	5.7	4.0	1.4	36.87		I	263
2144	Ⅷa2 トレンチ	盛土	石筥	硬質泥岩	宇石西部	5.5	4.0	1.3	28.26		I	263
2145	X E 4 f	I層	石筥	硬質泥岩	宇石當地南端	7.0	3.9	0.7	29.07		I	263
2146	ⅧD 4 a	表土直下	石筥	地長貫細粒凝灰岩	宇石西部	7.2	4.8	1.7	59.47		II	263
2147	出土不明		石筥	硬質泥岩	宇石西部	6.7	2.7	1.0	21.62		II	263
2148	ⅧD 3 g		石筥	硬質泥岩	宇石西部	6.0	3.3	1.5	27.67		II	263
2149	ⅧD 3 i	I層	石筥	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	5.8	3.6	1.3	33.35		II	263
2150	ⅧC 2 h	表層	石筥	粘板岩	北上山地	5.8	3.6	1.5	49		II	263
2151	ⅧE 3 a	II層	石筥	硬質泥岩	宇石西部	5.3	3.7	0.6	22.70		II	263

第430図 遺構外出土遺物 石筥(1)



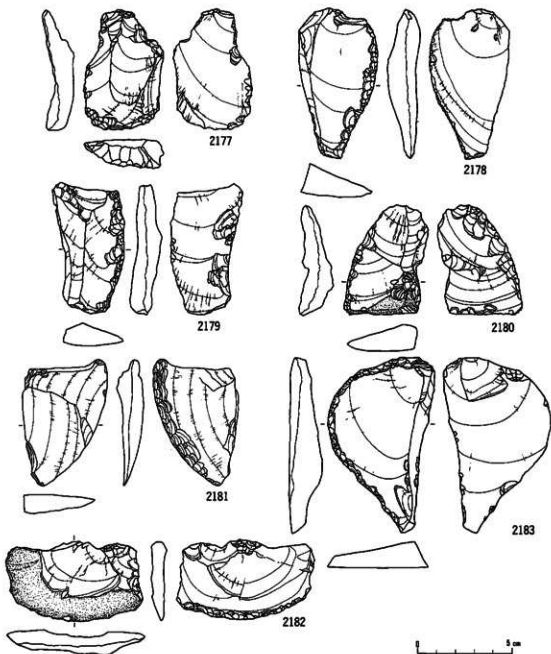
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2152	ⅠD3h	河床積層	石筥	粘板岩	北上山地	6.3	4.4	1.5	49.90		Ⅱ	263
2153	ⅠD9i	Ⅱ層	石筥	硬質泥岩	宇石西部	6.5	4.6	1.3	48.10		Ⅱ	264
2154	ⅡC2e	Ⅱ層	石筥	硬質泥岩	宇石盆地西部	5.6	3.6	1.9	31.97		Ⅱ	264
2155	ⅡC3b	河床積層下位	ビエス・エスキュー	硬質泥岩	宇石西部	3.3	1.6	0.5	2.06			264
2156	ⅠC4e	Ⅱ層	ビエス・エスキュー	硬質泥岩	宇石西部	3.6	1.6	0.8	6.00			264
2157	ⅡC2j	Ⅰ層	ビエス・エスキュー	硬質泥岩	宇石西部	2.7	2.7	1.4	12.12			264
2158	ⅠD1d	Ⅰ層	ビエス・エスキュー	粘板岩	宇石西部	3.8	3.9	1.0	18.21			264
2159	ⅡD9c	Ⅱ層	ビエス・エスキュー	粘板岩	北上山地	2.9	3.4	0.8	12.49			264
2160	ⅡC3b		ビエス・エスキュー	硬質泥岩	宇石西部	5.4	3.8	1.7	45.97			264
2161	ⅡC8e	河床積層	ビエス・エスキュー	硬質泥岩	宇石西部	4.7	5.4	1.3	39.58			264

第431図 遺構外出土遺物 石筥(2)・ビエス・エスキュー



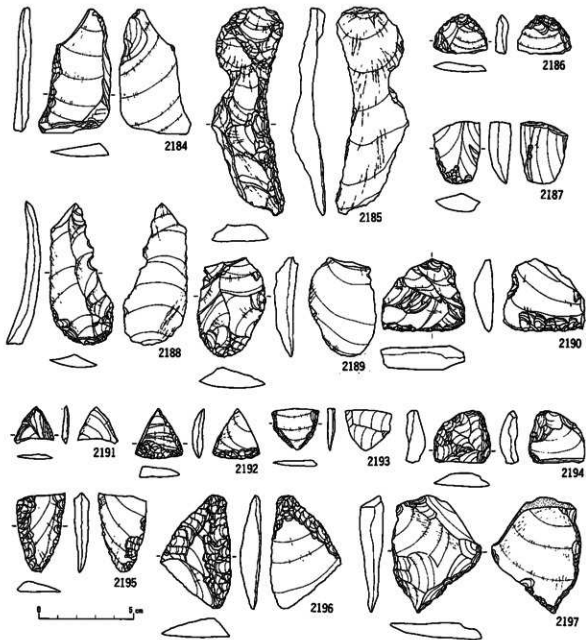
番号	出土地点	層位	器種	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2162	ⅠD 9 g	Ⅰ層	不定形石器	礫質硬質泥岩	宇石西部	2.8	2.9	0.5	4.72	2つの断面がわかる。台形状を呈する。	Ⅰa 1	264
2163	ⅡC 4 f		不定形石器	粘板岩	北上山地	2.3	3.4	1.4	39.66		Ⅰa 1	264
2164	ⅡC 4 f	暗褐色土	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	2.4	4.7	1.3	13.84		Ⅰa 1	264
2165	ⅡC 2 i	竪地層下	不定形石器	硬質凝灰質頁岩	宇石西部	2.9	3.2	0.5	3.41	断面がやや傾斜を呈する。2つの断面はほぼ直交。	Ⅰa 1	264
2166	ⅡC 5 g	再堆積層	不定形石器	硬質泥質礫状岩	宇石西部	4.2	2.3	1.0	8.61	大きな割傷の中に微小割傷あり。	Ⅰa 1	264
2167	ⅠD 7 g	Ⅰ層	不定形石器	粘板岩	北上山地	3.6	3.4	0.8	7.80		Ⅰa 1	264
2168	ⅡD 4 f	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	2.8	6.7	1.6	23.00		Ⅰa 1	264
2169	ⅠD 5 f	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	5.9	4.7	1.1	35.54		Ⅰa 1	264
2170	ⅡD 5 i	再堆積層	不定形石器	硬質泥質礫状岩	宇石西部	6.8	3.3	1.5	38.16		Ⅰa 1	264
2171	ⅡE 4 a	Ⅰ層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	4.3	5.9	1.3	36.46		Ⅰa 1	265
2172	ⅡD 1 a	Ⅰ層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	4.7	2.2	0.6	7.72	断面面あり、欠損品の可能性もある。	Ⅰa 2	265
2173	ⅡC 5 g	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	5.1	1.8	0.9	6.41		Ⅰa 2	265
2174	ⅡD 3 b	Ⅰ層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	4.8	2.8	0.5	7.06	裏面の方形加工は表より鋭い。	Ⅰa 2	265
2175	ⅡD 4 h	横断面	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	4.7	3.1	1.5	31.30	いわゆる撻棒。	Ⅰa 2	265
2176	出土地不明		不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	7.0	2.7	1.5	32.01		Ⅰa 2	265

第432図 遺構外出土遺物 不定形石器Ⅰ類(1)



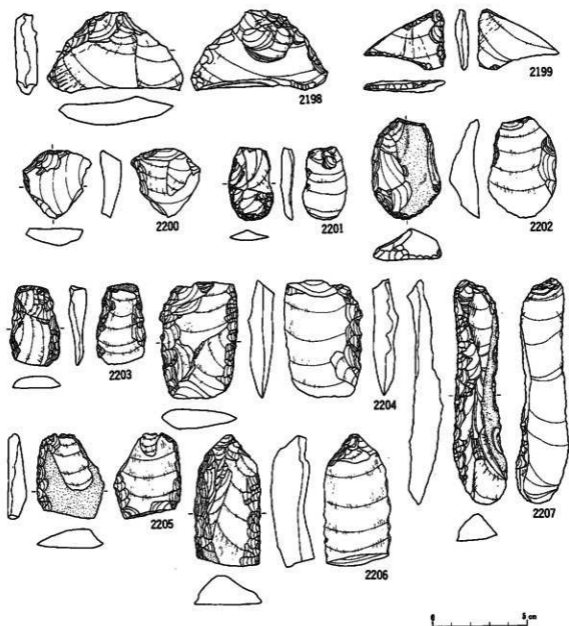
番号	出土地点	層位	種類	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2177	窪D 2 i	I層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郡	6.3	4.7	1.8	26.14	備録。	I a 2	285
2178	窪D 9 i		不定形石器	硬質燧石	宇石西郡	7.6	3.7	1.4	6.98		I a 2	285
2179	窪C 7 f	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郡	6.9	3.8	1.2	26.10		I a 2	285
2180	窪C 1 トレンチ		不定形石器	硬質燧石質泥岩	宇石西郡	5.7	3.9	1.3	31.37		I a 2	285
2181	窪D 2 d		不定形石器	粘板岩	北上山地	6.2	4.4	1.1	25.60	刀部はやや薄枚状剥離である。	I a 2	285
2182	窪C 2 i	I層	不定形石器	硬質燧石質泥岩	宇石西郡	4.2	7.3	1.1	28.37		I a 2	285
2183	窪C 1 i	黄土	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郡	9.3	5.7	1.4	64.79		I a 2	285

第433図 遺構外出土遺物 不定形石器 I類(2)



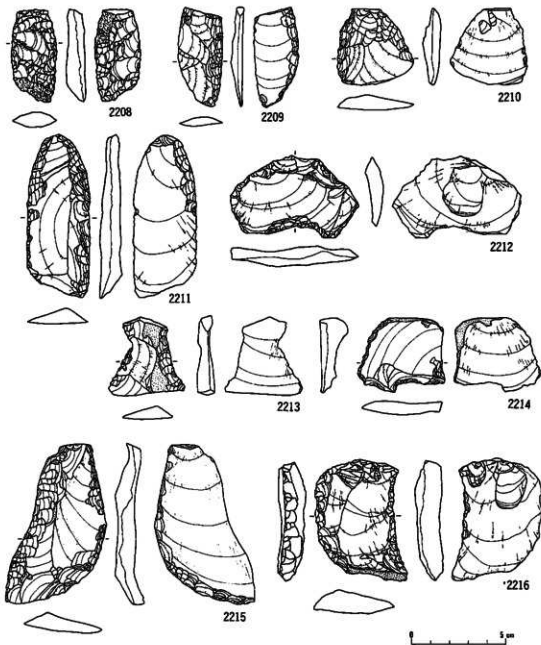
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	専長
2184	ⅡD 1 d	1層	不定形石器	緑閃石硬質泥岩	宇石西郷	6.5	3.7	0.6	17.34		1a3 266
2185	ⅡD 3 c	再堆積層	不定形石器	粘板岩	北上山地	10.9	3.8	1.3	37.85		1a3 266
2186	ⅡD 4 g		不定形石器	硬質黒質礫状岩	宇石西郷	5.3	3.2	0.7	18.85		1a4 266
2187	ⅡC 7 f	再堆積層下位	不定形石器	硬質黒質泥岩	宇石西郷	3.3	2.5	1.0	9.11		1a4 266
2188	ⅡC 7 e	再堆積層	不定形石器	硬質黒質泥岩	宇石西郷	7.3	3.3	0.8	15.35		1a4 266
2189	ⅡD 0 ライン		不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	5.2	3.6	1.3	16.09		1a4 266
2190	ⅡD 3 c		不定形石器	緑質泥岩	宇石西郷	3.8	4.4	1.1	13.28		1a1 266
2191	ⅡC 2 b	褐色土上位	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	1.9	2.1	0.3	8.85		1b2 266
2192	ⅡC 3 区	1層	不定形石器	緑質泥岩	宇石西郷	2.0	2.9	0.6	3.88		1b2 266
2193	ⅡC 3 区		不定形石器	硬質黒質泥岩	宇石西郷	2.2	2.4	0.2	3.88		1b2 266
2194	ⅡD 1 a		不定形石器	緑閃石硬質泥岩	宇石西郷	2.8	3.0	0.9	8.79	断面あり、欠損品の可能性もある。	1b2 266
2195	ⅡD 2 b	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	4.0	2.5	0.7	5.27		1b2 266
2196	ⅡD 4 g	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	6.0	3.7	1.1	17.45		1b2 266
2197	ⅡE 4 c		不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	5.4	4.8	1.1	27.16		1b2 266

第434図 遺構外出土遺物 不定形石器Ⅰ類(3)



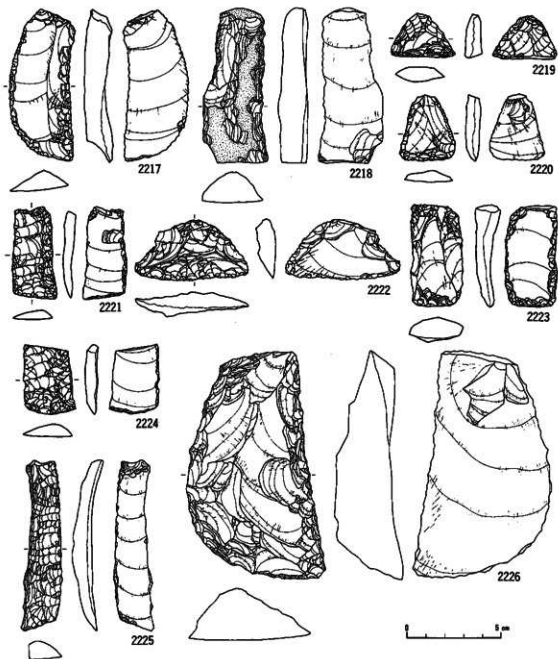
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2198	ⅧC 6 g	汚雑層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	4.0	7.3	1.0	30.73		1b1	267
2199	ⅧD 9 e	土層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	3.1	4.3	0.7	6.60	両面がゆがみ、平面が鋭角の二等辺三角形。	1b3	267
2200	ⅧD 8 i	1層	不定形石器	地質泥岩	宇石西郷	3.6	3.6	1.0	13.86		1b3	267
2201	ⅧC 7 f	汚雑層	不定形石器	地質泥岩	宇石西郷	3.8	2.3	0.5	5.21		1b4	267
2202	ⅧC 8 e		不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	3.3	2.5	1.0	9.11	裏面石製品に似るが、二次加工は認められず。	1b4	267
2203	Ⅷa2 トレンチ	表土	不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	4.3	1.6	0.6	10.72		1c1	267
2204	ⅧB 2 c		不定形石器	硬質泥岩	宇石西郷	6.3	4.1	1.1	32.90	両側から二次加工あり、長く鋭角は磨損状である。	1c1	267
2205	ⅧD 6 d	汚雑層	不定形石器	粘板岩	北山土地蔵	4.3	3.5	1.0	18.05		1c1	267
2206	ⅧB 2 b	表土	不定形石器	地質泥岩	宇石西郷	6.9	3.5	1.7	36.44		1c1	267
2207	ⅧD 8 i		不定形石器	地質泥岩	宇石西郷	11.8	2.9	2.0	42.90	横の前面が三角形。	1c1	267

第435図 遺構外出土遺物 不定形石器Ⅰ類(4)



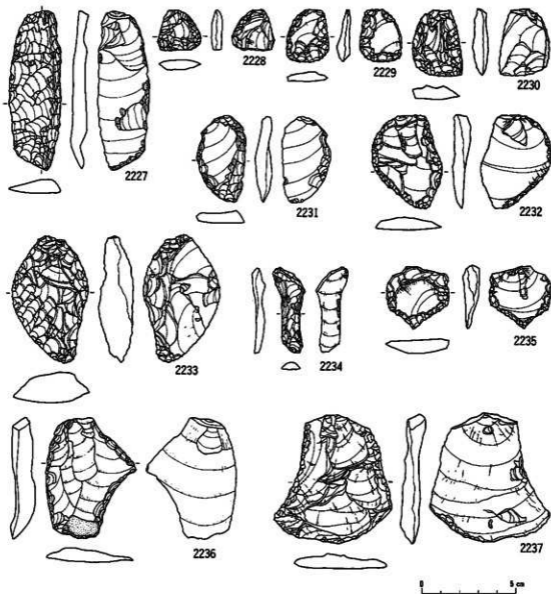
番号	出土地点	層位	形態	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	分類	写真
2208	彌C 2 b	表土	不定形石器	埴質泥岩	宇石西部	4.9	2.4	1.0	12.86		1 c 2 267
2209	X D 1 f	I層	不定形石器	埴質礫岩	宇石西部	5.2	2.4	0.4	6.89		1 c 2 267
2210	菅D 5 f		不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	4.0	4.1	0.8	14.32		1 c 2 267
2211	葦D 9 b	表土	不定形石器	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	8.3	3.3	0.9	26.43		1 c 2 267
2212	葦C 8 c	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	3.3	6.9	0.7	12.12		1 c 3 267
2213	葦D 4 g	I層	不定形石器	埴質泥岩	宇石西部	4.2	4.0	0.9	9.86	1道は正装、もう1道は今や不装。	1 c 3 267
2214	葦C 5 f	II層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	3.9	4.6	1.0	16.63	日月の方には使用の痕跡あり。	1 c 3 267
2215	X D 4 f	II層	不定形石器	埴質礫岩	宇石西部	8.6	3.4	0.9	40.92		1 c 3 268
2216	菅D 6 f	黒褐色土	不定形石器	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	6.4	4.8	1.2	24.62		1 c 3 268

第436図 遺構外出土遺物 不定形石器 I 類(5)



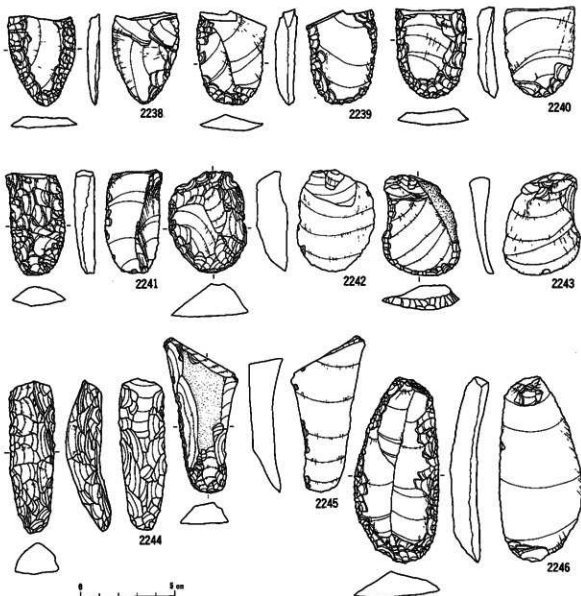
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2217	ⅡD 3 j		不定形石器	地質泥岩	宇石西部	7.6	3.2	1.1	36.90		1c 3	268
2218	ⅡC 4 j	再帰層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	8.3	3.2	1.6	54.39		1c 3	268
2219	ⅡD 4 j	I層	不定形石器	硬質泥岩	宇石盆地西縁	8.3	3.4	0.9	6.35		1d 1	268
2220	X D 6 g	II層	不定形石器	粘板岩	北上山地	3.5	3.0	0.8	7.59		1d 1	268
2221	ⅡC 2 i	I層	不定形石器	地質泥岩	宇石西部	4.9	2.3	0.6	7.12	石趾の欠損品?	1d 1	268
2222	ⅡD 6 b	II層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	3.3	6.1	1.3	18.02	刃部の端部に尖頭部あり。	1d 1	268
2223	ⅡD 5 i	検出層	不定形石器	地質細粒凝灰岩	宇石西部	5.3	2.8	1.3	17.02		1d 1	268
2224	ⅡC 3 f	再帰層	不定形石器	硬質通灰質泥岩	宇石西部	3.7	2.7	0.7	6.74	石趾の欠損品?	1d 1	268
2225	ⅡD9 トレンチ	盛土	不定形石器	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	9.1	2.0	0.9	19.89	石趾の欠損品?	1d 5	268
2226	ⅡE 1 a	盛土	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	12.0	7.3	2.8	248		1d 1	268

第437図 遺構外出土遺物 不定形石器 I類(6)



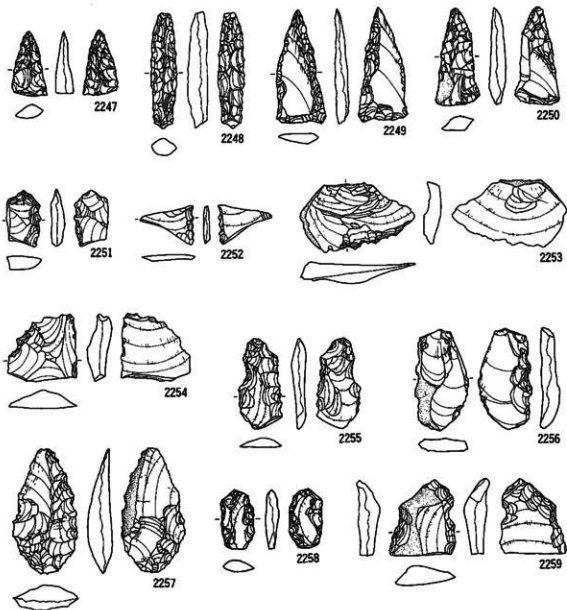
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分庫	写真
2227	X D 9 e	II層	不定形石器	地質泥岩	宇石西部	8.4	2.7	0.9	21.06		141	259
2228	Ⅱ D 7 i	II層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	2.1	2.3	0.5	2.77		141	259
2229	Ⅲ C 4 f	I層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	2.8	2.2	0.6	4.30		141	260
2230	Ⅲ D 7 h	黄土層下	不定形石器	粘板岩	北上山地	3.5	2.7	0.9	9.03		141	260
2231	Ⅲ D 5 i		不定形石器	地質砂礫硬灰岩	宇石西部	4.6	2.6	0.6	10.15	1方は急角度、もう1方は鋭い。	141	259
2232	Ⅲ D 7 b		不定形石器	地質泥岩	宇石西部	4.9	3.7	1.0	13.09	1方が分り、両面加工の部分も一部あるが、右月形跡である。	141	259
2233	Ⅲ C 6 g	II層	不定形石器	地質泥岩	宇石西部	6.7	4.0	1.8	41.36		141	259
2234	X I C 4 g	II層	不定形石器	陸奥質細粒凝灰岩	宇石西部	4.5	1.4	0.6	3.94		141	259
2235	Ⅲ D 7 b		不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	3.2	3.3	0.9	6.55	2つの面が接して鋭い尖頭部を形成する。	141	259
2236	Ⅲ D 5 i	II層	不定形石器	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	6.4	4.6	0.9	26.88		141	260
2237	Ⅲ C 6 b	再帰層	不定形石器	流紋岩	宇石西部	6.8	6.3	0.8	31.03		151	260

第438図 遺構外出土遺物 不定形石器Ⅰ類(7)



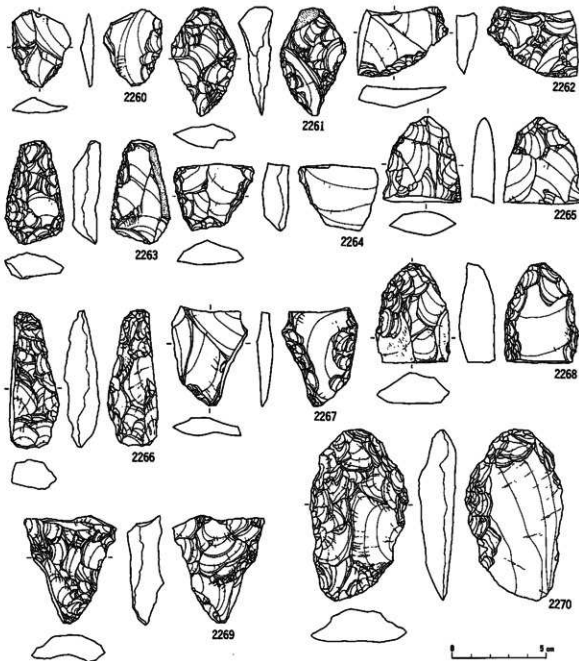
番号	出土地点	層位	器種	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2238	WC 1 f	再埋藏層	不定形石器	地質凝灰質泥岩	等石西部	4.8	3.5	0.8	11.46		143	268
2239	IX D 1 h	II層	不定形石器	硬質泥岩	等石西部	4.9	3.6	0.8	16.41		144	269
2240	WD 7 i		不定形石器	硬質泥岩	等石西部	4.7	3.7	1.2	20.36		144	269
2241	WD 7 f	再埋藏層	不定形石器	地質泥岩	等石西部	5.4	3.1	1.1	20.57		144	269
2242	IX E 4 c		不定形石器	硬質泥岩	等石西部	5.4	4.1	1.6	41.44	丁寧な作り。	144	269
2243	WD 3 i	I層	不定形石器	地質泥岩	等石西部	5.4	4.0	0.8	19.90	一部縁に自然面を遺す。	144	270
2244	WD 4 g	I層	不定形石器	地質凝灰質泥岩	等石西部	5.0	2.3	1.6	35.85	最大2)に似る。断面3角形。縁部につくり跡がない。	144	270
2245	IX D 5 i	II層	不定形石器	凝灰岩	等石西部	8.3	3.5	1.5	39.47	丁寧な作り。大ぶり。	144	270
2246	WC 6 f		不定形石器	地質泥岩	等石西部	9.8	4.3	2.0	69.58		144	270

第439図 遺構外出土遺物 不定形石器I類(8)



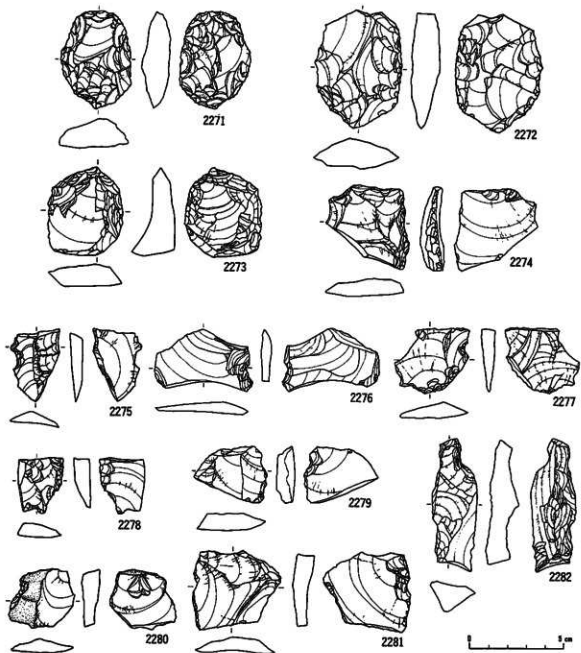
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2247	ⅡD 9 c	埴土	不定形石器	粘板岩	北上山地区	3.4	1.8	0.8	3.97		I a	270
2248	ⅡC 5 h	I層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	5.1	1.4	1.0	6.22		I a	270
2249	ⅡC 6 g	再成礫層	不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	6.1	2.6	0.7	8.34		I a	270
2250	不明		不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	9.1	3.4	0.9	7.75	1つの刃部で互に縁部を形成する。両側の部が変形痕を帯び、	I a	270
2251	ⅡC 0 b	埴土	不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	5.5	4.6	0.8	22.90	加工は粗末。	II	270
2252	ⅡD 1 h	II層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	2.1	2.8	0.2	1.50	1つの刃部が顕著で、全体として鈍角二等三角形状。	II	270
2253	ⅡC 5 i	I層	不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.6	6.1	0.7	16.48		II	270
2254	ⅡD 5 j	I層	不定形石器	粘板岩	北上山地区	3.4	3.7	0.9	14.34		II	270
2255	Ⅱa 跡トレンチ	埴土	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	4.8	2.2	0.6	6.68		II	270
2256	ⅡD 8 d		不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	5.3	3.0	1.1	12.46		II	270
2257	ⅡD 区	洪洲	不定形石器	硬質泥岩	宇石盆地西部	6.6	3.4	1.3	23.32		II	271
2258	ⅡC 0 e	I層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	3.1	1.6	0.6	4.19		III	271
2259	ⅡC 4 h	再成礫層下段	不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	4.4	2.4	0.4	6.31		III	271

第440図 遺構外出土遺物 不定形石器(0)・II～III類



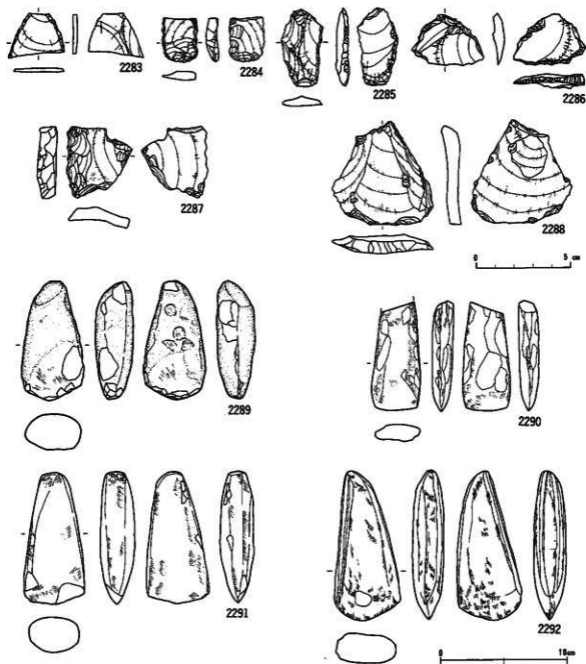
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2260	■ C 1 g	表土	不定形石器	硬質泥質凝灰岩	宇石西部	4.1	3.1	0.7	7.70		■	271
2261	■ C 7 d	再帰段階	不定形石器	粘板岩	北上山地	5.7	3.5	1.6	24.20		■	271
2262	■ D 5 g	再帰段階下位	不定形石器	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.5	4.8	1.1	21.21		■	271
2263	■ D 9 e		不定形石器	硬質泥岩	宇石盆地西部	5.5	3.1	1.4	22.41	石質の未製品か?	■	271
2264	■ E 6 a		不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	3.5	4.2	1.4	20.43		■	271
2265	■ D 3 e	I層	不定形石器	地質硬質凝灰岩	宇石西部	5.1	4.2	1.4	26.04		■	271
2266	■ D 6 h		不定形石器	地質硬質凝灰岩	宇石西部	7.2	2.6	1.5	20.32		■	271
2267	■ E 5 a		不定形石器	地質硬質凝灰岩	宇石西部	5.3	4.0	0.9	15.82		■	271
2268	■ C 8 i	I層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	5.3	3.8	1.5	28.55		■	271
2269	■ C 6 h	再帰段階下位	不定形石器	地質泥岩	宇石西部	5.7	4.8	1.4	24.74	加工は浅いが、透磨する段階である。	■	271
2270	■ D 7 b	I層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	9.1	5.2	1.7	74.05		■	271

第441図 遺構外出土遺物 不定形石器Ⅳ類(1)



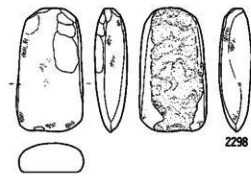
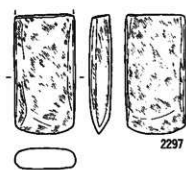
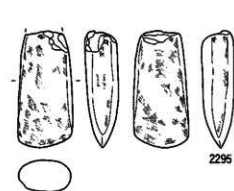
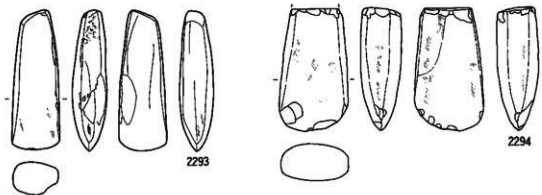
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	番号	分類	厚尺
2271	ⅡD 8 i	黄土	不定形石器	地質質細粒凝灰岩	宇石西部	5.2	3.7	1.5	30.58	Ⅳ	271
2272	ⅡC 5 f	黄土	不定形石器	硬質花崗凝灰岩	宇石西部	6.3	4.6	1.5	46.5	Ⅳ	272
2273	ⅡD 4 b	横浜層	不定形石器	珸質泥岩	宇石西部	4.7	4.0	2.1	35.60	Ⅳ	273
2274	ⅡC 7 h	I層	不定形石器	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	4.5	4.4	0.9	20.12	Ⅳ	274
2275	ⅡD 3 b	横浜層	不定形石器	珸質泥岩	宇石西部	3.6	2.6	0.6	5.70	Ⅳ	275
2276	ⅡE 6 b		不定形石器	硬質泥質凝灰岩	宇石西部	5.2	2.8	0.5	10.64	Ⅳ	276
2277	ⅡI C 5 d		不定形石器	珸質泥岩	宇石西部	3.4	3.9	0.7	10.94	Ⅳ	277
2278	ⅡD 6 d	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	2.9	2.4	0.9	6.80	Ⅳ	278
2279	ⅡD 4 g	横浜層	不定形石器	珸質泥岩	宇石西部	3.0	3.9	0.9	11.82	Ⅳ	279
2280	ⅡE 1 a		不定形石器	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	3.0	3.4	0.9	9.62	Ⅳ	280
2281	ⅡI d	再堆積層	不定形石器	硬質泥岩	宇石西部	4.2	4.6	1.0	19.23	Ⅳ	281
2282	ⅡD 3 c	I層	不定形石器	地質泥岩	宇石西部	7.1	2.4	1.4	28.04	Ⅳ	282

第442図 遺構外出土遺物 不定形石器Ⅳ類(2)・Ⅴ類



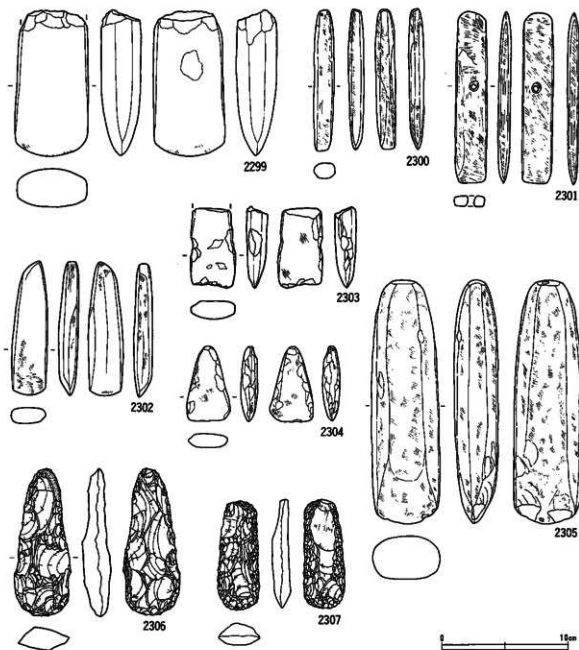
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真	
2283	樋D 1 a	II層	不定形石器	粘板岩	北上山地	2.3	2.6	0.2	2.22	欠頭面または折断面がかかわる。	Ⅱ	272
2284	ⅡE 7 a		不定形石器	硬質花岩	宇石西郡	2.3	1.9	0.4	2.86		Ⅱ	272
2285	ⅡD 7 i	II層	不定形石器	陸奥長瀬粘板岩	宇石西郡	4.1	2.2	0.7	4.31		Ⅱ	272
2286	ⅡD 2 b		不定形石器	粘板岩	北上山地西縁	2.6	3.6	0.6	5.68		Ⅱ	272
2287	ⅡC 4 e	II層	不定形石器	硬質黒灰質泥岩	宇石西郡	3.8	3.3	0.7	11.43		Ⅱ	272
2288	ⅡD 5 i		不定形石器	硬質黒灰質泥岩	宇石西郡	5.5	4.6	0.8	23.99	背面面を大きく残す。	Ⅱ	272
2289	XIC区トレンチ	盛土	磨製石斧	硬灰岩	北上山地	9.4	4.9	2.9	178	敲打痕あり。	I	272
2290	ⅡD 7 i	I層	磨製石斧	陸奥粘板岩	北上山地	9.4	3.8	1.3	98		I	272
2291	ⅡD 3 f	II層	磨製石斧	陸奥黒灰質硬質砂岩	北上山地	10.5	4.8	2.7	250		I	273
2292	ⅡD 7 h	盛土	磨製石斧	粘板岩	北上山地	11.8	5.2	1.4	220	摺り切り手法。	I	273

第443図 遺構外出土遺物 不定形石器VI~VII類・磨製石斧(1)



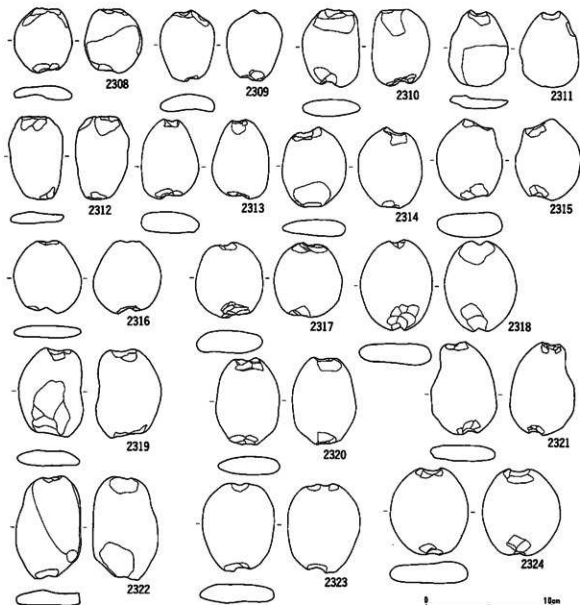
番号	出土地点	層位	器種	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2293	ⅡC区		磨製石斧	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	11.1	3.8	2.6	195	推?切?手法。	I	273
2294	ⅡD1a		磨製石斧	凝灰岩	北上山地	9.7	5.4	3.1	206	基部欠損少?	I	273
2295	ⅡD9j	I層	磨製石斧	粗質凝灰岩質硬砂岩	北上山地	9.3	4.4	2.7	190		II	273
2296	ⅡD7j	II層	磨製石斧	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	10.0	5.4	2.7	270		II	273
2297	ⅡD4a	黄土	磨製石斧	緑色凝灰岩	北上山地	9.5	4.9	1.7	180		II	273
2298	ⅡC4f	暗褐色土	磨製石斧	凝灰岩	北上山地	9.6	5.4	2.3	220		II	273

第444図 遺構外出土遺物 磨製石斧



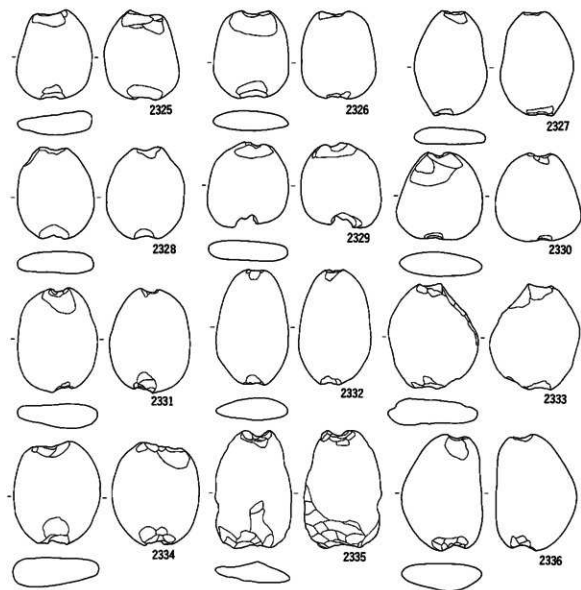
番号	出土地点	層位	種類	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分庫	平均
2299	X D 4 f	II層	磨製石斧	凝灰岩	北上山地	11.5	5.8	3.0	570		II	273
2300	IX D 4 h	II層	磨製石斧	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	11.1	1.5	1.2	50	磨り切り手法。	III	273
2301	IX D 1 i	II層	磨製石斧	粘板岩	北上山地	13.5	2.9	0.9	75	石刀?	III	273
2302	VI D 8 e	表土直下	磨製石斧	粘板岩	北上山地	10.6	2.8	1.3	80	磨り切り手法。	III	273
2303	X I C 7 g	II層上面	磨製石斧	粘板岩	北上山地	16.3	3.5	1.5	75		III	273
2304	VI D 9 i	褐色土	磨製石斧	粘板岩	北上山地	5.9	3.5	1.1	40		IV	273
2305	X I D 5 a		磨製石斧	緑色片岩	北上山地西縁	19.3	5.4	2.9	660		V	274
2306	VI D 4 e	再埋納層	打製石斧	粘板岩	北上山地	11.7	4.5	1.9	100		I	274
2307	VI D 7 a	銅木灰	打製石斧	硬質泥質凝灰岩	李石百部	8.7	3.2	1.3	48		I	274

第445図 遺構外出土遺物 磨製石斧(3)・打製石斧



番号	出土地点	層位	形種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2308	甬D 3 e	再編観察	石鏢	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.2	4.6	1.0	35		I	274
2309	甬D 9 j	I層	石鏢	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.7	4.3	1.4	45		I	274
2310	甬C 1 g	堆積色土上面	石鏢	赤色凝灰岩質千枚岩	北上山地	6.2	5.6	1.3	60		I	274
2311	甬C 5 d	再編観察	石鏢	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.0	4.7	1.0	30		I	274
2312	甬C 6 f	再編観察	石鏢	凝灰質千枚岩	北上山地	6.4	4.3	1.1	40		I	274
2313	甬E 9 g		石鏢	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.4	4.5	1.7	90		I	274
2314	甬C 5 g	再編観察	石鏢	凝灰質千枚岩	北上山地	6.3	5.1	1.3	60		I	274
2315	甬D 区	II層	石鏢	硬砂岩	北上山地	6.4	5.3	1.9	100		I	274
2316	甬C 5 g	再編観察	石鏢	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.8	5.4	1.0	50		I	274
2317	ⅡD 1 i	II層	石鏢	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.0	5.3	1.8	80		I	274
2318	ⅡD 1 h	II層	石鏢	硬砂岩	北上山地	7.2	5.7	1.7	100		I	274
2319	ⅡD 1 h	I層	石鏢	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.0	5.0	1.3	80		I	274
2320	ⅡD 4 i	I層	石鏢	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.0	5.0	1.5	75		I	274
2321	甬C 7 f	再編観察下位	石鏢	凝灰質千枚岩	北上山地	7.5	5.2	1.3	70		I	274
2322	ⅡD 4 h		石鏢	硬砂岩	宇石西部	8.3	5.1	1.2	70		I	274
2323	甬E 7 a	表土直下	石鏢	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.0	5.7	1.6	100		I	274
2324	ⅡD 5 g	II層	石鏢	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.0	6.2	1.7	110		I	275

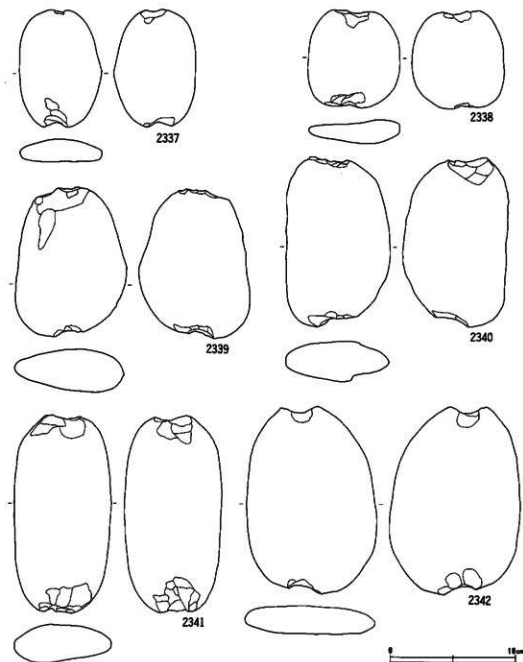
第446図 遺構外出土遺物 石鏢(1)



10cm

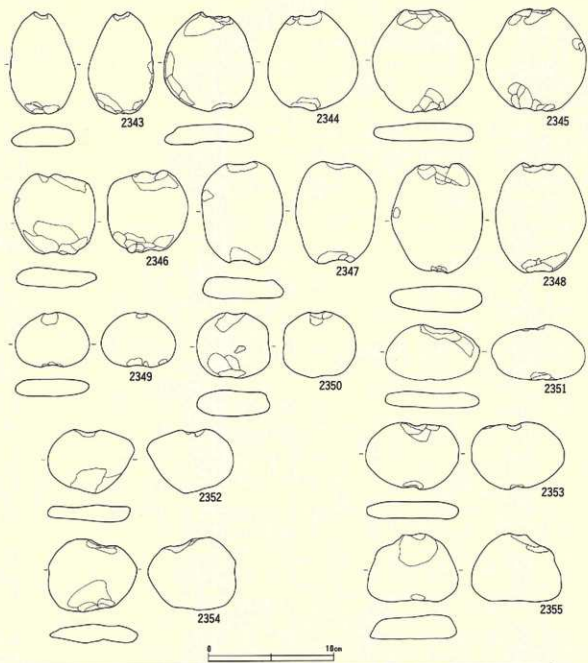
番号	出土地点	層位	種類	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分限	写真
2325	野D 7 f	再帰積層	石鏝	凝灰質千枚岩	北上山地	6.9	6.0	1.6	105		1	275
2326	野C 6 h	1層	石鏝	凝灰質千枚岩	北上山地	7.0	6.0	1.6	105		1	275
2327	野D 0 g		石鏝	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.3	5.9	1.6	95		1	275
2328	野E 5 a	黒色土直上	石鏝	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.3	6.1	1.6	120		1	275
2329	野D 4 f	再帰積層	石鏝	凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	6.5	1.9	105		1	275
2330	野D3 トレンチ	盛土	石鏝	硬砂岩	北上山地	7.0	6.9	1.9	130		1	275
2331	野D 5 g	1層	石鏝	地長質凝結凝灰岩	堺石原部	8.3	6.4	1.9	110		1	275
2332	野D 2 g	1層	石鏝	硬砂岩	北上山地	9.3	5.8	1.8	135		1	275
2333	野C 0 i	1層	石鏝	粘板岩質千枚岩	北上山地	8.4	7.2	2.1	170		1	275
2334	野C 6 d	1層	石鏝	アルコーヌ砂岩	北上山地	8.2	6.8	2.4	180		1	275
2335	野D 2 c	黒色土中	石鏝	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	9.5	6.1	1.7	125		1	275
2336	野D 3 j	1層	石鏝	硬砂岩	北上山地	9.3	6.5	2.1	190		1	275

第447図 遺構外出土遺物 石鏝(2)



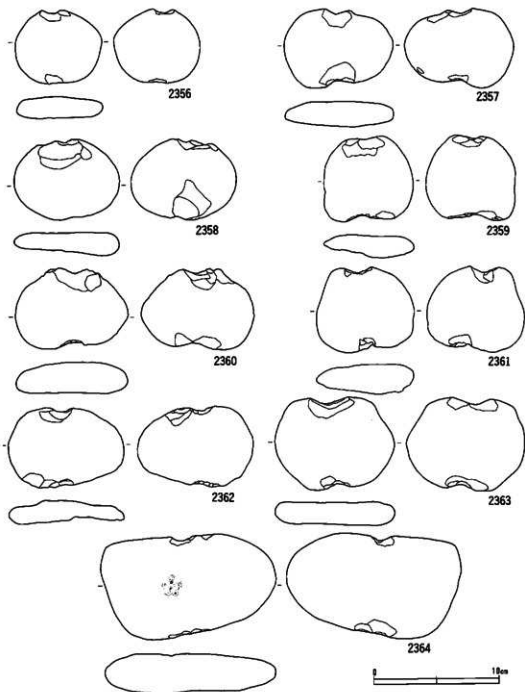
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	厚尺
2337	ⅡD 7 i	褐色土	石錘	輪磨岩質千枚岩	北上山地	9.3	6.5	1.8	145		Ⅰ	275
2338	ⅡC 5 g		石錘	縹灰岩千枚岩	北上山地	7.8	7.4	1.9	175		Ⅰ	275
2339	ⅡC 5 h	黒色土	石錘	縹石鞍山岩	北上山地	12.0	8.8	3.9	460		Ⅰ	276
2340	ⅡD 2 g	灰土直下	石錘	縹灰岩千枚岩	北上山地	13.6	8.4	3.2	525		Ⅰ	276
2341	ⅡE 1 a		石錘	赤旗頁岩所岩	北上山地	15.8	7.7	3.4	625		Ⅰ	276
2342	ⅡD 3 e	再堆積層	石錘	阿摩石鞍山岩	君子山	15.1	10.4	3.3	430		Ⅰ	276

第448圖 遺構外出土遺物 石錘(3)



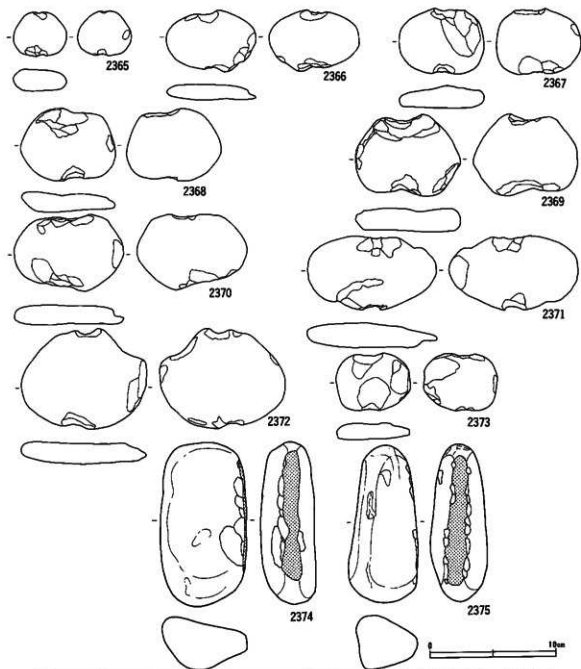
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	
2343	ⅢC 5 g	河原橋層下位	石錘	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.1	5.3	1.7	95	I'	276
2344	ⅢD区	日層	石錘	凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	7.2	1.6	135	I'	276
2345	ⅢD 5 j	日層	石錘	地長質凝灰岩	北上山地	8.2	8.0	1.4	190	I'	276
2346	ⅢD 0 i	I層	石錘	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.4	6.5	1.6	100	I'	276
2347	ⅢD 5 e	日層	石錘	粘板岩質千枚岩	北上山地	8.2	6.5	2.0	165	I'	276
2348	ⅢD5 トレンチ	盛土	石錘	凝砂岩	北上山地	8.8	7.3	2.1	210	I'	276
2349	ⅢD 0 e	表土	石錘	岩鉄質凝灰岩	北上山地	4.0	5.8	1.4	55	II	276
2350	ⅢC 8 c	河原橋層	石錘	凝砂岩	北上山地	5.2	5.8	2.0	95	II	276
2351	ⅢD 9 f	I層	石錘	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	4.5	7.4	1.3	75	II	276
2352	ⅢD 7 d	表土直下	石錘	チャート質千枚岩	北上山地	5.1	6.8	1.3	60	II	276
2353	ⅢC 8 f	河原橋層	石錘	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.4	7.5	1.4	98	II	277
2354	ⅢC 8 e	河原橋層	石錘	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	7.1	1.5	80	II	277
2355	ⅢD 1 h	日層	石錘	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.4	7.2	1.9	125	II	277

第449 図 遺構外出土遺物 石錘(4)



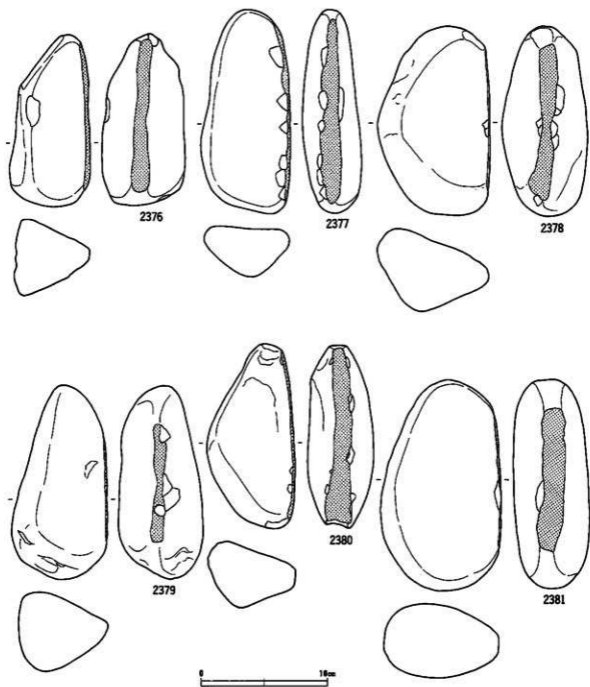
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2356	Ⅷ E 5 a		石罎	硬砂岩	北上山地	6.9	6.9	1.7	115		Ⅱ	277
2357	Ⅷ C 4 g	再建部周	石罎	硬砂岩	北上山地	6.3	6.7	2.1	145		Ⅱ	277
2358	Ⅷ D 4 c	1層	石罎	輝石質山岩	北上山地	6.4	8.4	1.9	149		Ⅱ	277
2359	Ⅷ C 2 c		石罎	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	7.1	1.7	129		Ⅱ	277
2360	Ⅷ D 0 a	黄緑色土	石罎	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.5	9.0	2.5	180		Ⅱ	277
2361	Ⅷ D 4 i	1層	石罎	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.8	6.7	2.3	160		Ⅱ	277
2362	Ⅷ D 0 ライン		石罎	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.4	9.3	1.9	150		Ⅱ	277
2363	Ⅷ D 7 a	1層上面	石罎	チャート質千枚岩	北上山地	7.4	9.5	1.9	195		Ⅱ	277
2364	Ⅷ D 9 j	1層	石罎	硬砂岩	北上山地	8.4	13.9	3.1	555	+ 附石。	Ⅱ	278

第450図 遺構外出土遺物 石罎(5)



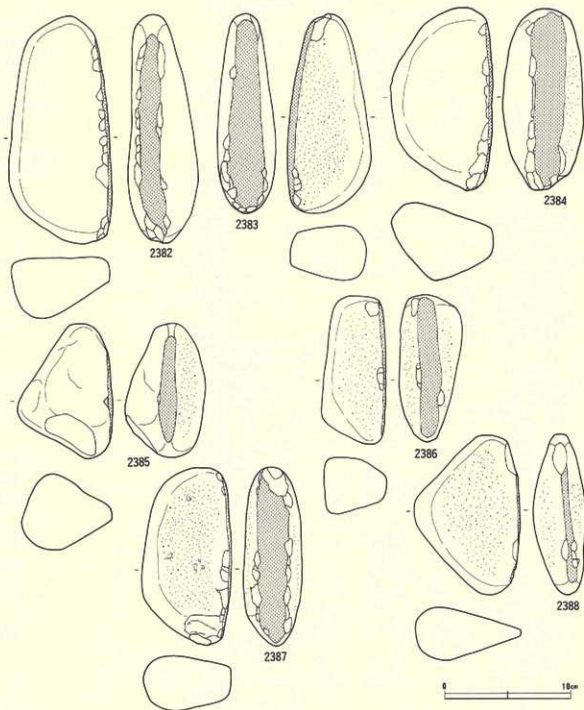
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	高さ	重さ	番号	分類	写真
2365	丸沼トレンチ		石鉢	アルコース砂岩	北上山地	3.5	4.2	1.8	30		II'	273
2366	甕D 0 f	遺土直下	石鉢	チャート質千枚岩	北上山地	4.8	7.1	1.6	65		II'	273
2367	甕D 7 a	II層上面	石鉢	チャート質千枚岩	北上山地	5.2	6.5	1.8	95		II'	273
2368	甕C 9 f	II層	石鉢	凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	7.5	1.7	85		II'	273
2369	甕C 7 e	再地積層	石鉢	凝灰質千枚岩	北上山地	6.5	8.4	1.8	115		II'	273
2370	甕C 7 f	再地積層下位	石鉢	凝灰質千枚岩	北上山地	6.1	8.8	1.6	110		II'	273
2371	甕D 1 b	II層	石鉢	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	10.4	5.8	2.1	170		II'	273
2372	甕D区	II層	石鉢	硬砂岩	北上山地	10.0	8.0	1.8	200		II'	273
2373	甕C 9 e	I層	石鉢	チャート質千枚岩	北上山地	4.3	5.9	1.4	60		III	273
2374	甕D 7 g	I層	敲磨器類A群	硬砂岩	北上山地	13.0	6.9	4.1	570		I a 1	273
2375	ⅩD区	遺土	敲磨器類A群	赤色凝灰質内層岩	北上山地	17.5	5.5	4.5	440		I a 1	273

第451図 遺構外出土遺物 石鉢(6)・敲磨器類A群(1)



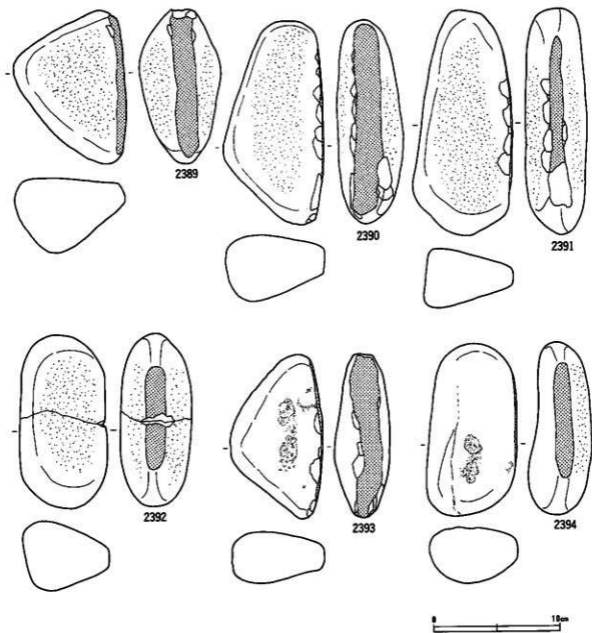
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2376	ⅡD 9 g	口用	敲磨器類A群	塩基質凝灰岩	北上山地	13.6	6.3	5.9	680	94種無し。	Ⅰa 1	279
2377	ⅡD 7 i	黑色土	敲磨器類A群	角礫石安山岩	奥羽山地	10.1	7.1	4.1	640		Ⅰa 1	279
2378	ⅡE 0 a		敲磨器類A群	緑色凝灰岩	北上山地	14.9	9.0	6.6	1110		Ⅰa 1	279
2379	ⅡE 6 b		敲磨器類A群	緑色凝灰岩	北上山地	15.3	7.7	6.2	1050		Ⅰa 1	279
2380	ⅡD 6 f	口用	敲磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	14.6	7.0	5.3	615		Ⅰa 1	279
2381	ⅡD 5 b	表産	敲磨器類A群	緑色凝灰岩	北上山地	16.7	9.6	6.0	1400		Ⅰa 1	279

第452図 遺構外出土遺物 敲磨器類A群(2)



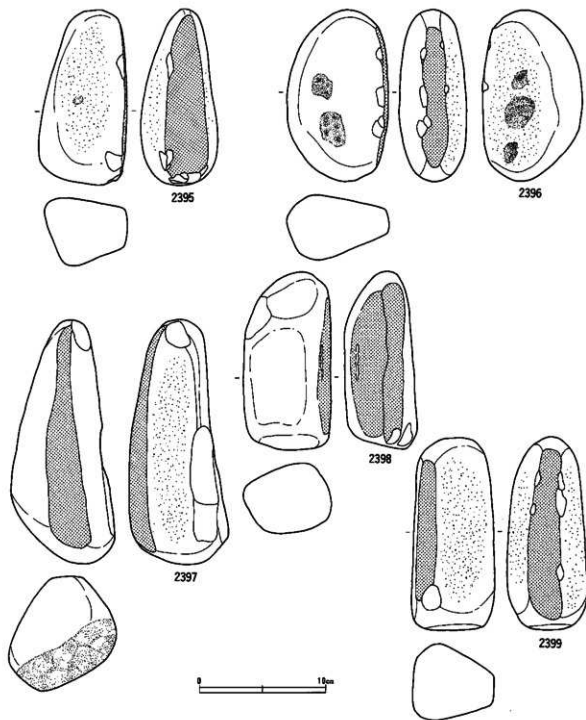
番号	出土地点	層位	群組	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2382	ⅤC 5 h	再堆積層	敲磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	18.2	8.2	5.7	1110		Ⅰa 1	279
2383	ⅤE 4 a	日屋	敲磨器類A群	輝石安山岩	奥羽山地	15.7	6.6	4.6	600	平滑面1面。	Ⅰa 1	279
2384	ⅤC 2 h	整地層下位	敲磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	14.5	8.1	6.1	910	平滑面1面。	Ⅰa 1	279
2385	ⅤC 4 f	再堆積層下位	敲磨器類A群	花崗閃綠岩	北上山地	16.6	7.6	6.0	620	平滑面1面。	Ⅰa 1	280
2386	ⅤD 2 j		敲磨器類A群	輝石安山岩	奥羽山地	11.7	5.1	4.5	430	平滑面2面。	Ⅰa 1	280
2387	ⅤC 4 g	再堆積層下位	敲磨器類A群	輝石安山岩	奥羽山地	14.1	7.1	4.3	695	平滑面2面。	Ⅰa 1	280
2388	ⅤD 3 f	再堆積層	敲磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	12.6	8.3	4.1	490	平滑面2面。	Ⅰa 1	280

第453図 遺構外出土遺物 敲磨器類A群(3)



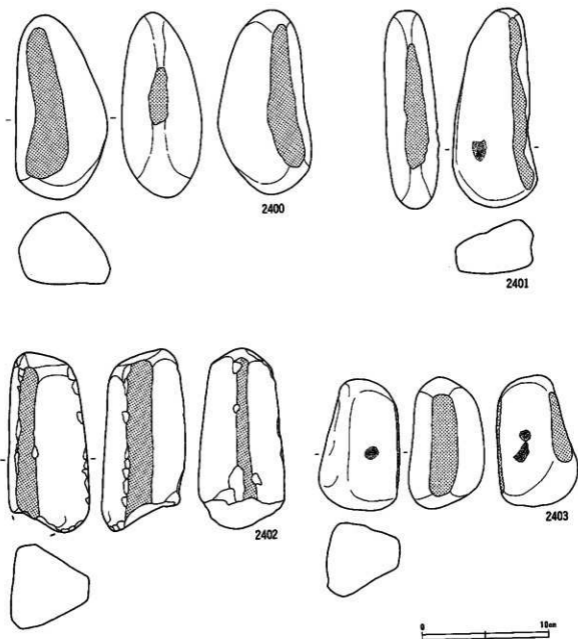
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2389	No.25 トレンチ	底土	砥磨器類 A 群	輝石安山岩	北上山地	12.2	8.9	6.5	730	平滑面 2 面。	Ⅰ a Ⅰ	280
2390	幅 D 8 i	II 層 褐色土	砥磨器類 A 群	輝石安山岩	北上山地	16.2	8.0	5.2	950	平滑面 2 面。	Ⅰ a Ⅰ	280
2391	Ⅱ E 9 a		砥磨器類 A 群	輝石安山岩	黒羽山地	17.8	8.0	4.8	990	平滑面 2 面。	Ⅰ a Ⅰ	280
2392	Ⅱ E 1 a		砥磨器類 A 群	輝石安山岩	北上山地	13.7	7.1	5.5	830	平滑面 2 面。剝離無し。	Ⅰ a Ⅰ	280
2393	幅 D 9 f	I 層	砥磨器類 A 群	流紋質硬砂岩	北上山地	13.0	7.4	4.0	530	+ 凹石。	Ⅰ a Ⅰ	280
2394	幅 D 9 f	I 層	砥磨器類 A 群	流紋質硬砂岩	北上山地	13.6	7.1	4.5	670	剝離無し。平滑面 1 面。	Ⅰ a Ⅰ	280

第454図 遺構外出土遺物 砥磨器類 A 群(4)



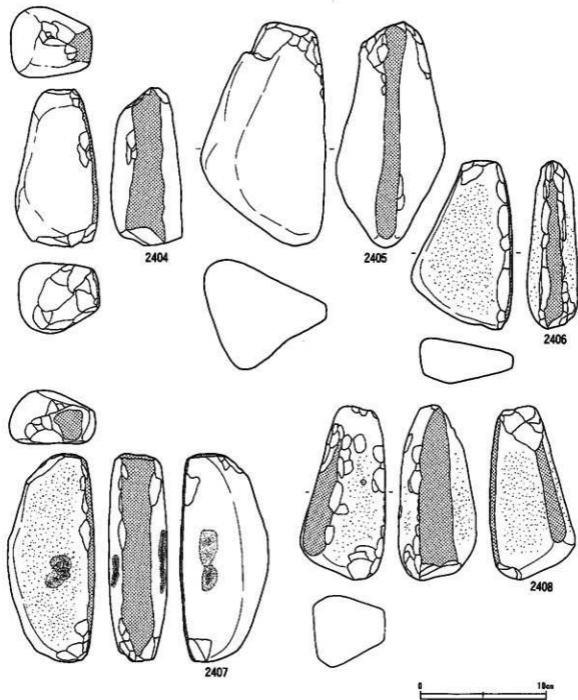
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2395	甕D5e		甌磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	13.9	7.0	5.4	805	平磨面2面。	Ia1	280
2396	甕D5i		甌磨器類A群	瑠璃質硬火岩	北上山地	13.6	8.1	5.4	780	+両石。平磨面1面。	Ia1	281
2397	甕D0f		甌磨器類A群	緑色硬火岩	北上山地	19.3	8.9	6.9	1460	平磨面1面。-両石了。刺磨なし。	Ia1	281
2398	YC6i	I層	甌磨器類A群	瑠璃	北上山地	14.1	7.0	5.3	835	磨面2面。刺磨なし。	Ia1	281
2399	XD6g	再堆積層	甌磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	15.3	6.6	6.3	1030	磨面2面。平磨面2面。	Ia1	281

第455図 遺構外出土遺物 甌磨器類A群(5)



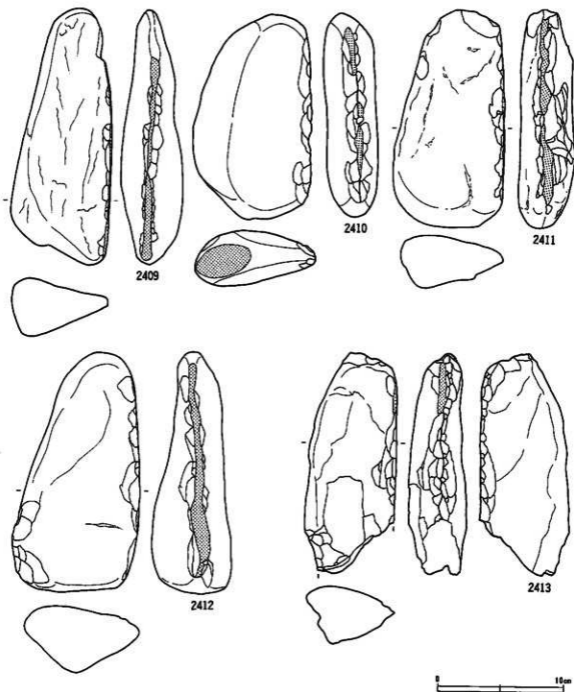
番号	出土地点	層位	器種	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2400	ⅡB区		敲磨器類A群	緑色硬灰岩	北上山地	14.6	7.4	5.7	830	磨面3面。割縁なし。	I a 1	281
2401	ⅡB 2 b		敲磨器類A群	硬灰岩	北上山地	15.7	6.7	4.1	600	磨面2面。+凹石。割縁なし。	I a 1	281
2402	ⅡB 4 a	I層	敲磨器類A群	硬砂岩	北上山地	(13.3)	6.4	6.5	(790)	磨面3面。	I a	281
2403	ⅡD区	表土	敲磨器類A群	硬灰質硬砂岩	北上山地	10.3	6.4	5.7	580	磨面2面。+凹石。割縁なし。	I a 1	281

第456図 遺構外出土遺物 敲磨器類A群(6)



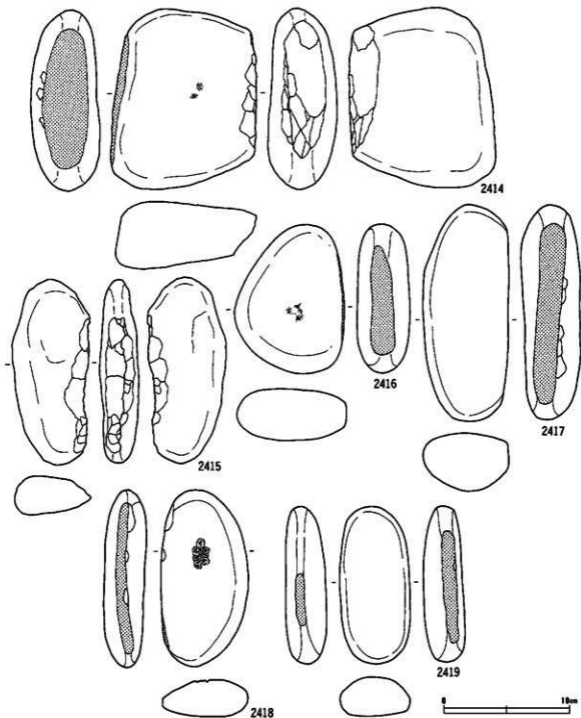
番号	出土地点	层位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2404	窪D 9 f	I層	刮削器類A群	輝石安山岩	奥羽山地	12.5	6.6	5.6	830	+磨石?	I a 2	282
2406	窪D 1 g	表土	刮削器類A群	輝石安山岩	北上山地	17.9	9.9	8.4	1810	+磨石?	I a 1	282
2406	窪D 6 i	表土	刮削器類A群	輝石安山岩	北上山地	15.3	8.1	3.3	520	平滑面2面。	I a 2	282
2407	窪C 8 f	再帰納層	刮削器類A群	凝灰岩質千枚岩	北上山地	16.5	6.9	4.6	750	磨面磨面。+磨石。平滑面1面。	I a 2	282
2408	窪D 1 g	II層	刮削器類A群	輝石安山岩	奥羽山地	13.9	6.8	5.7	740	磨面3面。平滑面3面。	I a 2	282

第457図 遺構外出土遺物 刮削器類A群(7)



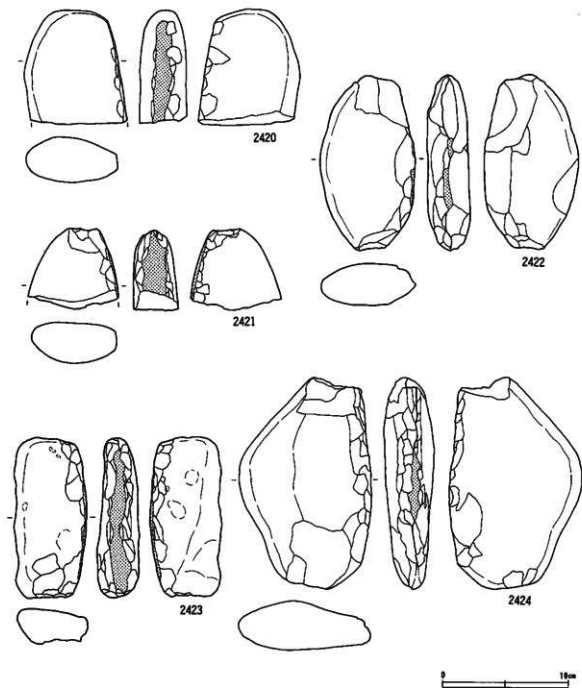
番号	出土地点	層位	部類	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	番号	分類	器具
2409	ⅡD 7 i	Ⅱ層	敲磨器類A群	珠光質燧石	北山地	20.4	7.8	4.6	790		Ⅰb 1	282
2410	ⅡD 1 i	Ⅱ層	敲磨器類A群	阿蘇石安山岩	阿蘇山地	15.0	9.5	3.9	930		Ⅰb 1	283
2411	ⅡD 3 i	Ⅱ層暗褐色土	敲磨器類A群	綠色凝灰岩	北山地	17.1	8.6	4.2	970		Ⅰb 2	282
2412	ⅡD 3 b	Ⅱ層	敲磨器類A群	陸奥質凝灰岩	北山地	19.0	10.0	5.3	1280		Ⅰb 2	283
2413	ⅡD 0 c		敲磨器類A群	綠色凝灰質千枚岩	北山地	34.8	7.0	4.0	700		Ⅰb 2	283

第458圖 遺構外出土遺物 敲磨器類A群(8)



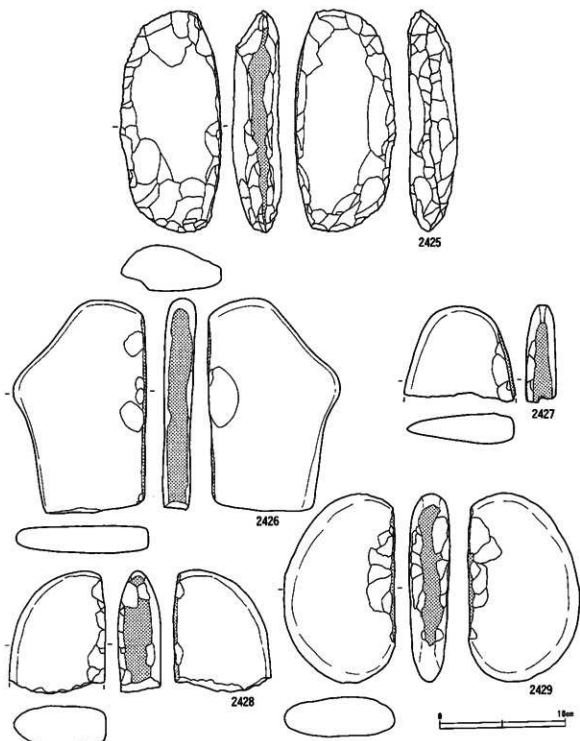
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2414	ⅡD 1 j	I層	敲磨器類A群	硬砂岩	北上山地	14.1	1.8	5.2	1259	+ 彫石	Ⅱc 1	283
2415	ⅡE 3 c		敲磨器類A群	阿保石安山岩	奥羽山地	14.7	6.2	3.0	355		Ⅱc 1	283
2416	不明		敲磨器類A群	湯沢貫硬砂岩	北上山地	11.7	8.7	4.1	730	割斷無し。+ 彫石。	Ⅱa 1	283
2417	No.17トレンチ	盛土	敲磨器類A群	阿保石安山岩	奥羽山地	17.0	6.7	4.3	850		Ⅱa 1	283
2418	ⅡD 1 h	II層	敲磨器類A群	湯沢貫硬砂岩	北上山地	14.0	7.0	3.0	440	+ 彫石。	Ⅱa 1	283
2419	ⅡD 5 a		敲磨器類A群	アルプス砂岩	北上山地	12.5	5.6	3.2	350	断面2面。割斷無し。	Ⅱa 1	283

第459図 遺構外出土遺物 敲磨器類A群(9)



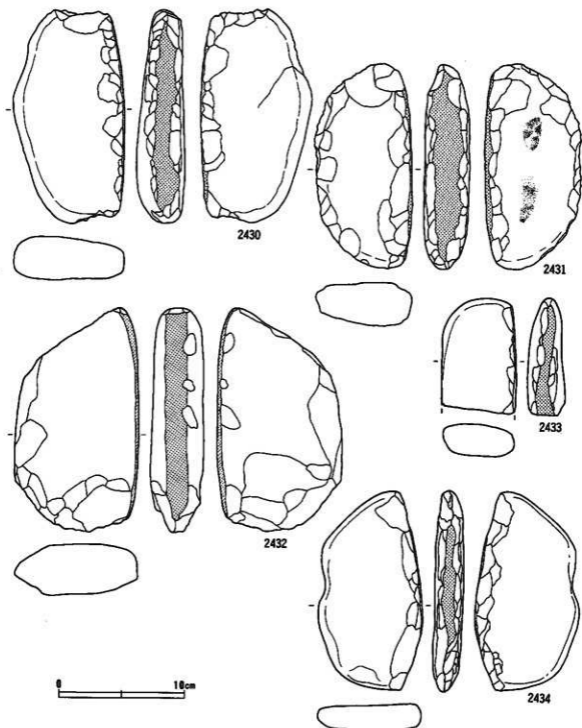
番号	出土地点	層位	群類	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2420	ⅡD 1 f	I層	敲磨器類A群	緑色凝灰岩	宇石西部	9.0	8.2	3.8	385		Ⅱ a	283
2421	ⅡD 1 g	表土	敲磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	6.4	7.1	3.2	210	挟り有り。	Ⅱ b 2	283
2422	ⅡC 5 1	I層	敲磨器類A群	緑輝石千枚岩	北上山地	13.7	7.5	3.2	480		Ⅱ b 2	284
2423	ⅡD 4 b	I層	敲磨器類A群	流紋岩質緑凝灰岩	宇石西部	12.6	5.7	2.8	380		Ⅱ b 2	284
2424	ⅡE 1 a		敲磨器類A群	輝石安山岩	奥羽山地	16.6	10.5	4.0	770	挟り有り。	Ⅱ b 2	284

第480図 遺構外出土遺物 敲磨器類A群⑩



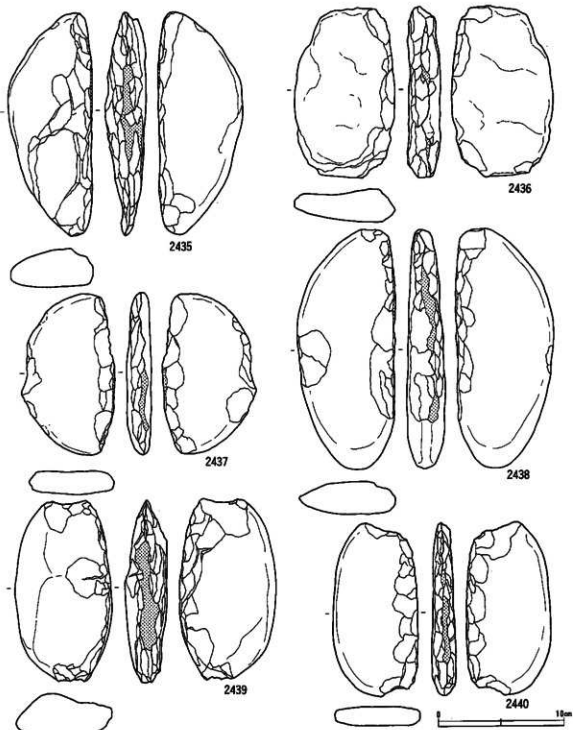
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2425	豊C区トレンチ	盛土	敲磨器類A群	流紋岩質凝灰岩	北上山地	17.4	8.1	4.0	700		II b 3	284
2426	豊D 0 h	1層	敲磨器類A群	瑤長質角閃粘板状岩	甲石西部	16.9	10.6	2.1	610		III a 1	284
2427	豊D 2 g	1層	敲磨器類A群	輝石安山岩	北上山地	(7.8)	(8.7)	(2.3)	(230)		III a	284
2428	豊D 0 g		敲磨器類A群	瑤輝石安山岩	若手火山	(9.3)	7.7	3.1	(400)		III a	284
2429	豊E 5 b	黒色土	敲磨器類A群	凝灰岩	北上山地	15.0	8.9	3.3	620		III a 1	285

第461図 遺構外出土遺物 敲磨器類A群(1)



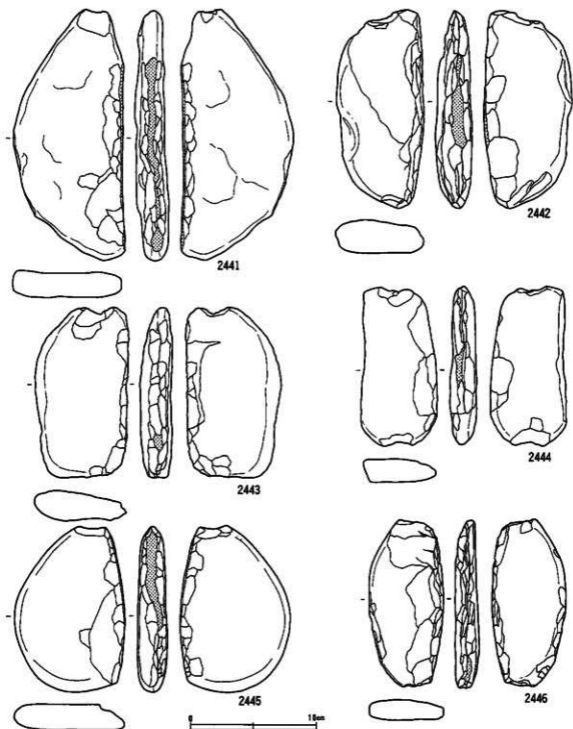
番号	出土地点	層位	群類	石質	産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	分類	写真
2430	X E c f	1層	磨石群類A群	緑長角礫灰岩	北上山地	16.0	6.9	3.8	815	快刀有り。	Ⅱ a 2	285
2431	Ⅱ D b b	1層	磨石群類A群	緑長角礫灰岩	北上山地	16.1	7.8	3.6	810	+	Ⅱ a 3	285
2432	Ⅱ C 5 h	1層	磨石群類A群	緑長角礫灰岩	北上山地	17.0	9.9	4.0	1110		Ⅱ a 3	285
2433	Ⅱ D 5 a		磨石群類A群	凝灰質礫砂岩	北上山地	9.0	5.9	2.6	270		Ⅱ b	285
2434	Ⅱ C 4 g	表層	磨石群類A群	沈黙頁岩礫凝灰岩	宇石西部	15.8	8.3	2.0	400		Ⅱ b 1	285

第462図 遺構外出土遺物 磨石群類A群(1)



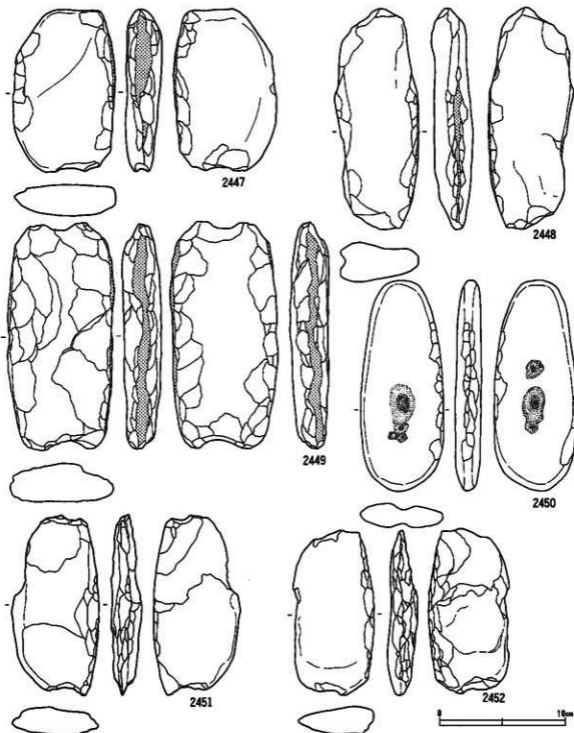
番号	出土地点	層位	器型	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2435	ⅡE 2 e	再堆積層	砥磨器類 A 群	綠泥石千枚岩	北上山地	17.6	8.7	3.1	420		Ⅱ b 1	286
2436	Ⅱ土不明		砥磨器類 A 群	砂質千枚岩	北上山地	13.4	8.1	2.6	300		Ⅱ b 1	286
2437	ⅡD 2 c	褐色土	砥磨器類 A 群	硬砂岩	北上山地	12.7	7.4	1.8	265		Ⅱ b 2	286
2438	ⅡD 6 b	I 層	砥磨器類 A 群	鉄炭質硬砂岩	北上山地	18.9	7.9	2.6	515		Ⅱ b 2	286
2439	ⅡD 9 g	II 層	砥磨器類 A 群	輝綠岩	奥山山地	14.4	7.6	3.2	460	快9有り。	Ⅱ b 2	286
2440	ⅡD 4 b	I 層	砥磨器類 A 群	輝綠岩	奥山山地	13.7	6.8	1.5	230	快9有り。	Ⅱ b 2	286

第463図 遺構外出土遺物 砥磨器類 A 群(1)



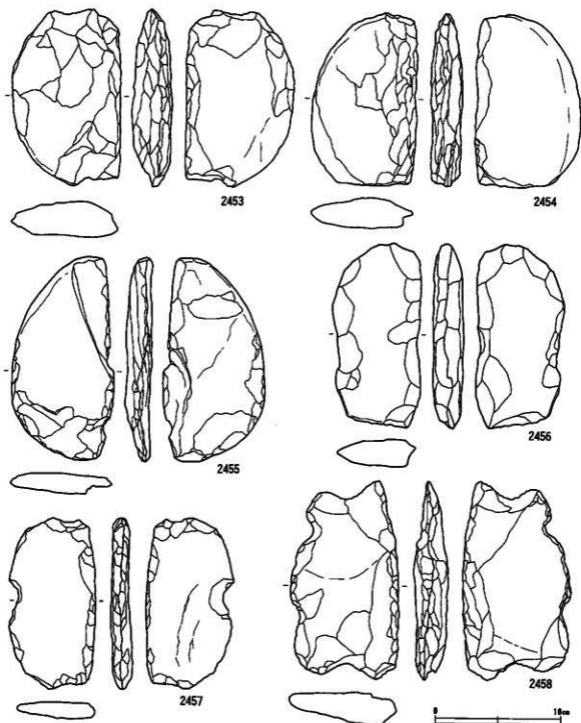
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真
2441	ⅢC 4 g	丹波郡層	融磨器類A群	流紋岩質細粒凝灰岩	宇石西郡	19.6	8.8	2.0	520 挟り有り。	Ⅲb 2	286
2442	ⅢC 8 g		融磨器類A群	緑泥石千枚岩	北上山地	15.6	7.0	2.7	420 挟り有り。	Ⅲb 2	286
2443	ⅢD 9 h	II層	融磨器類A群	両輝石閃山岩	鳥羽山地	13.4	7.4	2.5	360 挟り有り。	Ⅲb 2	287
2444	ⅢD 1 i	I層	融磨器類A群	凝灰質硬砂岩	北上山地	12.5	6.1	1.9	235 挟り有り。	Ⅲb 2	287
2445	ⅢC 6 g	丹波郡層上段	融磨器類A群	凝灰質硬砂岩	北上山地	13.0	8.0	2.1	405 挟り有り。	Ⅲb 2	287
2446	ⅢC 7 e	丹波郡層上段	融磨器類A群	緑泥石千枚岩	北上山地	13.1	5.9	2.1	210	Ⅲb 2	287

第464図 遺構外出土遺物 融磨器類A群①②



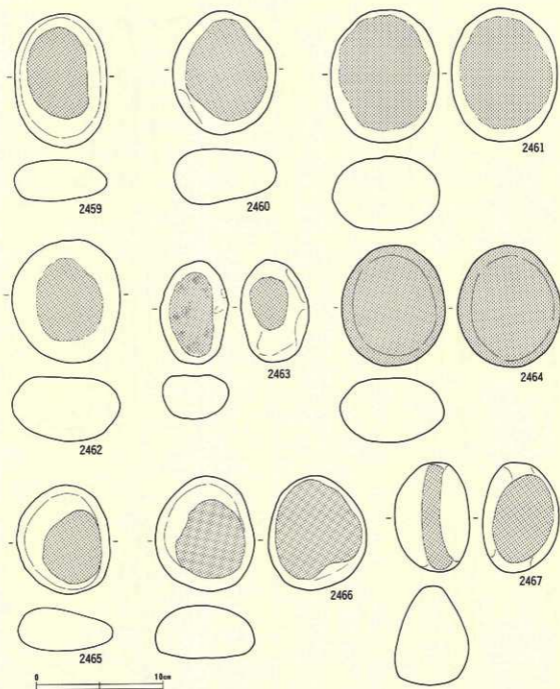
番号	出土地点	層位	種類	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2447	ⅢD 3 b	I 層	龍磨器類 A 群	褐灰質硬砂岩	北上山地	12.7	8.3	2.5	430	挟り有り。	Ⅲ b 2	287
2448	ⅢD 0 j	I 層	龍磨器類 A 群	粘板岩	北上山地	17.4	6.6	3.1	440		Ⅲ b 2	287
2449	ⅢD 4 g	I 層	龍磨器類 A 群	粗粒硬灰岩	北上山地	17.0	8.3	3.0	740	磨面 2 面。挟り有り。	Ⅲ b 3	287
2450	ⅢD 1 d	I 層	龍磨器類 A 群	褐灰質硬砂岩	北上山地	16.6	6.6	1.5	300	+ 凹石。	Ⅲ c 1	287
2451	ⅢD 5 j	Ⅱ土	龍磨器類 A 群	粗灰岩千枚岩	北上山地	14.3	6.9	3.2	265	挟り有り。	Ⅲ c 2	288
2452	ⅢD 1 h	II 層	龍磨器類 A 群	粗灰岩	北上山地	13.0	6.5	3.2	285	挟り有り。	Ⅲ c 2	288

第485図 遺構外出土遺物 龍磨器類 A 群19



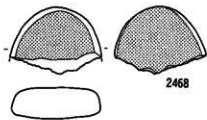
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重量	備考	分類	写真
2453	ⅧD 6 b	I層	刮磨器類A群	粘板岩質千枚岩	北上山地	13.1	8.2	3.0	400	挟り有り。	Ⅷc 2	286
2454	Ⅷa5トレンチ		刮磨器類A群	玄武岩質燧石岩	北上山地	13.5	8.1	2.0	410		Ⅷc 2	286
2455	ⅧD 3 h		刮磨器類A群	凝灰岩	北上山地	16.0	9.0	1.6	365		Ⅷc 2	286
2456	ⅧC 0 i	I層	刮磨器類A群	凝灰岩	北上山地	14.2	6.8	2.1	340		Ⅷc 2	286
2457	ⅧE 2 b	表土	刮磨器類A群	両輝石安山岩	奥羽山地	13.5	6.9	1.7	190	挟り有り。	Ⅷc 2	286
2458	ⅧD 4 g	II層	刮磨器類A群	凝灰岩	北上山地	15.7	8.4	2.8	400	挟り有り。	Ⅷc 2	286

第466図 遺構外出土遺物 刮磨器類A群06

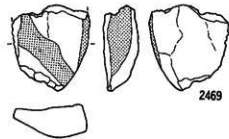


番号	発土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真	
2459	樽石 5 b	黒色土中	敲磨器類B群	海浜質硬砂岩	北上山地	10.5	7.3	3.2	380	磨面はざらつき。	1	289
2460	%D2 トレンチ	黒土	敲磨器類B群	チャート粘板岩互層	北上山地	9.8	8.2	4.4	460	磨面は光沢あり。	1	289
2461	樽 C 5 b	I 層	敲磨器類B群	輝石安山岩	北上山地	10.5	8.4	5.8	740	両面磨面。光沢あり。	1	289
2462	樽 D 9 i	黒色土直上	敲磨器類B群	柱状質凝灰岩	北上山地	9.7	8.5	5.1	610	磨面はざらつき。	1	289
2463	樽 C 4 h	汚泥層下位	敲磨器類B群	砂岩	北上山地	8.2	5.4	3.5	265	磨面も磨面。光沢あり。	1	289
2464	樽 D 7 h		敲磨器類B群	輝石安山岩	北上山地	9.6	8.2	5.1	900	全面光沢あり。	1	289
2465	豆 D 1 h	目層	敲磨器類B群	輝石安山岩	北上山地	8.6	7.3	3.5	380	磨面はざらつき。	1	289
2466	豆 D 2 i		敲磨器類B群	輝石安山岩	北上山地	9.2	7.8	4.2	490	磨面はざらつき。	1	289
2467	樽 C 7 j	I 層	敲磨器類B群	柱状質凝灰岩	北上山地	8.6	6.0	7.9	570	磨面はざらつき。	1	289

第467図 遺構外出土遺物 敲磨器類B群(1)



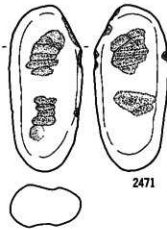
2468



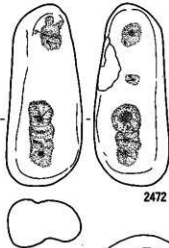
2469



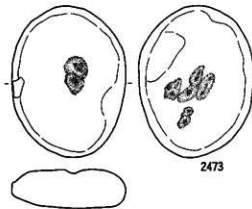
2470



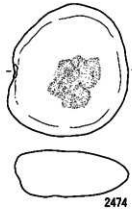
2471



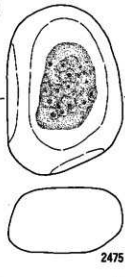
2472



2473



2474

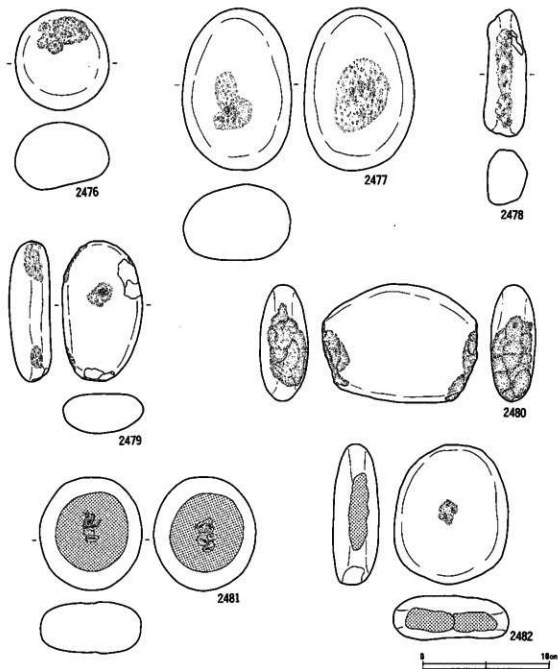


2475



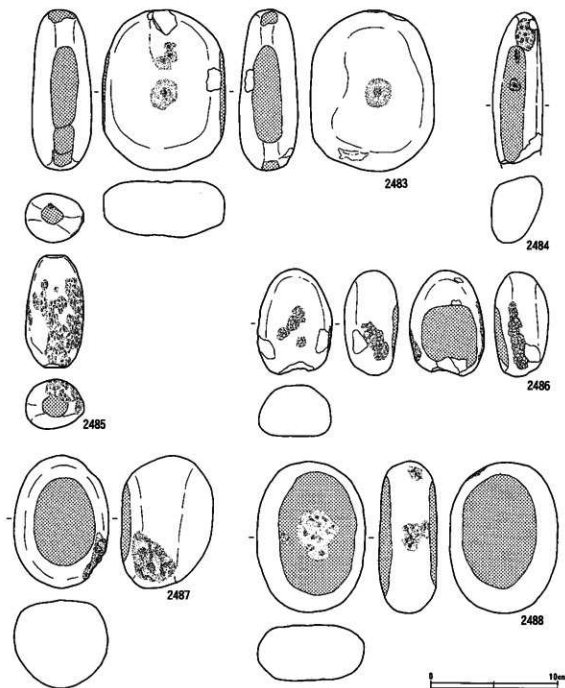
番号	出土地点	層位	形態	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	号
2468	Y D 6 a	I 層	敲磨器類 B 群	岡母石(安山岩)	岩手(大山)	(5.3)	(7.0)	(2.4)	(75)	磨研。全周ぎらつき。	I	289
2469	W D 6 i		敲磨器類 B 群	岡母石(安山岩)	岩手(大山)	(6.8)	(5.2)	(2.4)	(70)	磨研。	I	289
2470	W D 5 a	II 層	敲磨器類 B 群	地質調査所(質硬砂岩)	北上山地	13.2	5.8	2.5	200	片面に磨研。	II	289
2471	W D 7 i	黒色土(直上)	敲磨器類 B 群	硬砂岩	北上山地	13.0	5.8	3.4	400	両面に磨研。	II	289
2472	W C 2 f	痕跡	敲磨器類 B 群	硬砂岩	北上山地	14.3	6.0	3.8	480	両面に磨研。	II	289
2473	Y D 2 d	I 層	敲磨器類 B 群	緑色凝灰質硬砂岩	北上山地	11.9	9.0	2.8	500	両面に磨研。	II	290
2474	W D 3 h	黒土	敲磨器類 B 群	緑色凝灰質硬砂岩	北上山地	10.4	9.7	3.7	580	片面に磨研。	III	290
2475	W D 6 b	黒褐色土	敲磨器類 B 群	安山岩	北上山地	13.3	9.2	5.3	1180	台石磨の撥打。	III	290

第468図 遺構外出土遺物 敲磨器類 B 群(2)



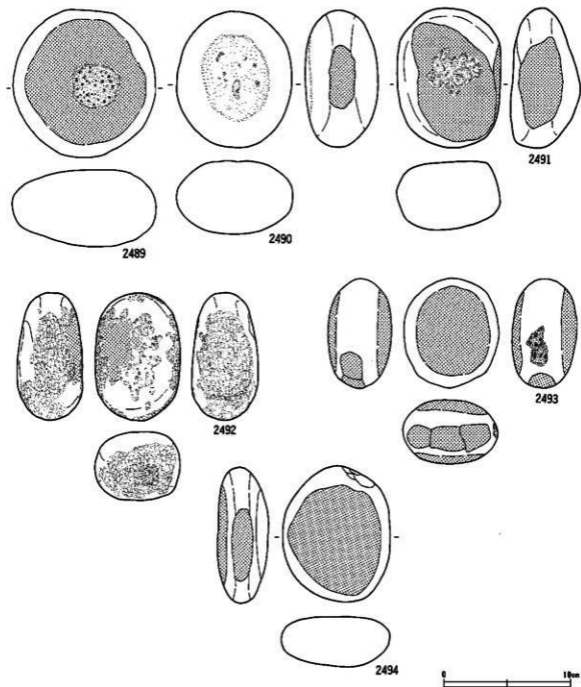
番号	出土地点	層位	器物	石質	産地	長さ	幅	高さ	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2476	VC 5 g	I層	陶器鉢類B群	緑灰質硬砂岩	北上山地	7.9	7.4	5.2	420			Ⅲ	290
2477	XD 1 g		陶器鉢類B群	安山岩	北上山地	12.7	8.7	8.0	1050		古石器の敲打痕。	Ⅲ	290
2478	XD 2 g	表土直下	陶器鉢類B群	緑色凝灰岩	宇石西部	9.6	4.5	3.1	205			Ⅲ	290
2479	XC 4 g	再結核層	陶器鉢類B群	硬砂岩	北上山地	11.0	6.3	3.2	335			Ⅲ	290
2480	XD 7 l		陶器鉢類B群	緑灰質硬砂岩	北上山地	9.4	12.3	3.5	740		両端に割罫を伴う敲打痕あり。	Ⅲ	290
2481	XD 4 b	表土直下	陶器鉢類B群	両輝石安山岩	奥羽山地	9.0	8.1	4.0	400			Ⅳ	290
2482	Nd4 トレンチ	凝土	陶器鉢類B群	緑長質凝灰岩	北上山地	11.1	9.1	3.7	530		裏面はざらつき。敲打痕は浅いが集中する。	Ⅳ	290

第489図 遺構外出土遺物 陶器鉢類B群(3)



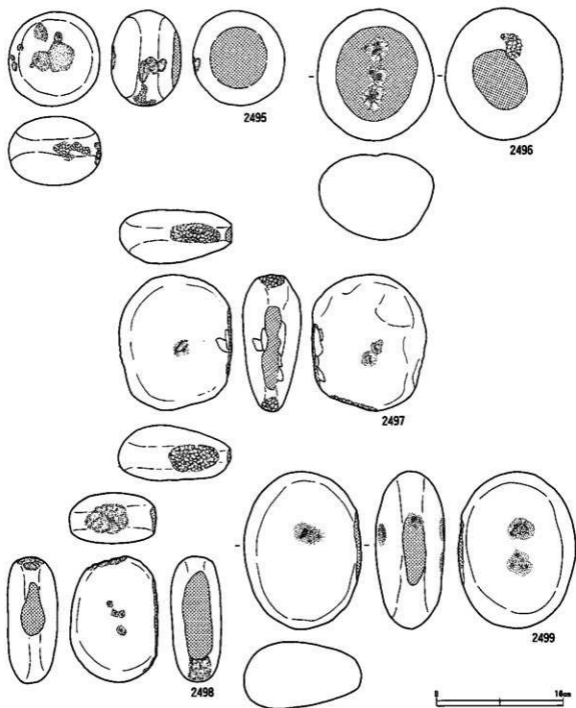
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2483	X D 5 g	II層	刮磨器類B群	硬砂岩	北上山地	12.0	9.8	4.4	900	磨面はざらつき。筋打痕は浅いが集中する。	V	290
2484	V D 4 c	II層	刮磨器類B群	角石安山岩	角礫山地	31.8	3.9	5.4	600	短辺部に筋打痕。	V	290
2485	II D 9 g	I層	刮磨器類B群	安山岩	北上山地	8.9	4.6	3.9	270	磨面はざらつき。	V	290
2486	ⅡC区	表土	刮磨器類B群	緑色凝灰岩	北上山地	8.3	5.9	4.0	285	磨面は光沢あり。	V	291
2487	ⅡD 8 b	I層	刮磨器類B群	凝灰質硬砂岩	北上山地	10.5	7.5	7.1	880	磨面光沢あり。	V	291
2488	ⅡD 7 f	I層	刮磨器類B群	閃輝石安山岩	岩手火山	12.0	8.5	4.4	810	磨面はざらつき。	V	291

第470図 遺構外出土遺物 刮磨器類B群(4)



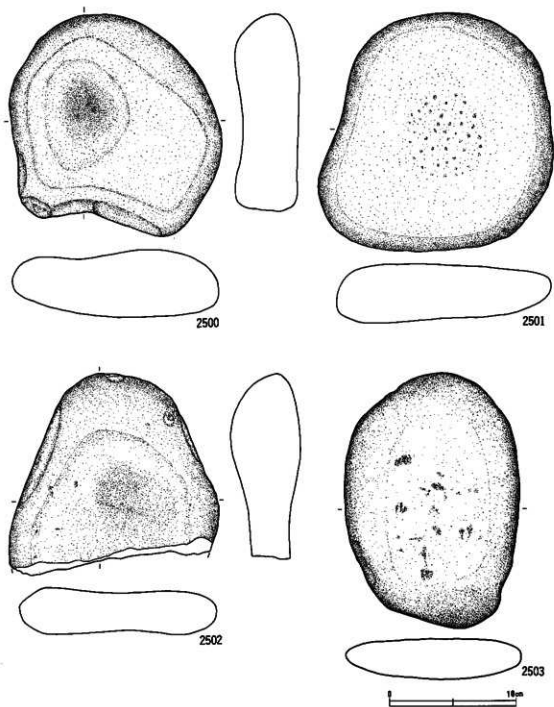
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2489	Ⅱ D 3 b	Ⅱ層	敲磨器類B群	珉長質磁灰岩	北上山地	11.6	11.2	6.0	1110	敲打痕は石粒だが今や集中。	Y	291
2490	X D 9 f	Ⅱ層	敲磨器類B群	珉長質磁灰岩	北上山地	10.8	9.2	5.7	780	磨面はざらつき。敲打痕は石粒。	Y	291
2491	Ⅱ D 0 h		敲磨器類B群	珉長質磁灰岩	北上山地	11.0	8.3	5.4	720	磨面はざらつき。敲打痕は石粒。	Y	291
2492	Ⅱ D 7 h		敲磨器類B群	珉長質磁灰岩	北上山地	10.0	6.7	5.3	615	磨面は光沢あり。	Y	291
2493	Ⅱ D 0 f	表土	敲磨器類B群	輝石安山岩	北上山地	8.7	7.5	5.0	480	全面磨り。平磨だが光沢なし。	Y	291
2494	Ⅱ E 5 a	表土	敲磨器類B群	珉長質磁灰岩	北上山地	10.8	8.6	4.1	540	磨面光沢あり。	Y	291

第471図 遠禰外出土遺物 敲磨器類B群(5)



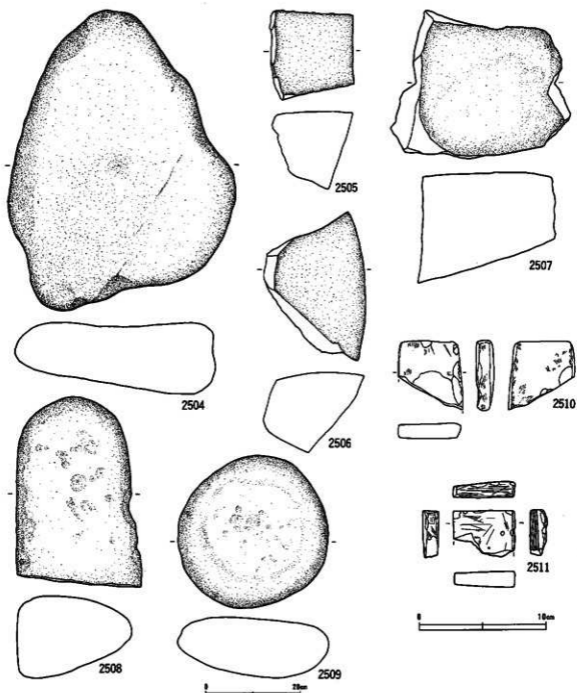
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2495	X I C 6 f	II層	敲磨器類B群	両輝石安山岩	奥羽山地	7.4	7.3	5.4	400	磨面ざらつき。	Ⅳ	291
2496	Ⅳ C 区	表層	敲磨器類B群	輝石安山岩	奥羽山地	10.4	9.3	6.7	780	磨面は光沢あり。	Ⅳ	291
2497	Ⅳ D 6 i	I層	敲磨器類B群	緑色凝灰岩	宇石西帯	10.7	8.9	4.0	670	磨面は粗乱。	Ⅳ	292
2498	V D 1 d	紅層	敲磨器類B群	両輝石安山岩	奥羽山地	10.1	7.0	4.0	480	磨面はざらつき。敲打痕は砂石様。	Ⅳ	292
2499	Ⅳ C 6 b	再層検出	敲磨器類B群	輝石安山岩	奥羽山地	12.5	9.3	5.4	780	両辺磨面。ざらつき。	Ⅳ	292

第472図 遺構外出土遺物 敲磨器類B群(6)



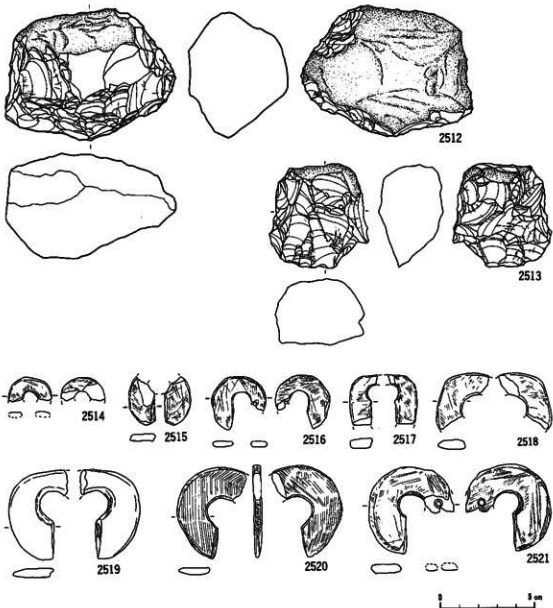
番号	出土地点	層位	器種	材質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2500	稲E区	黒色土	石皿・台石類	陸奥質凝灰岩	北上山地	16.3	16.5	5.6	2440			292
2501	ⅣD7d		石皿・台石類	陸奥質凝灰岩	北上山地	18.8	18.3	4.8	2610			292
2502	ⅣD7f	Ⅱ層	石皿・台石類	阿蘇石安山岩	岩手山	14.8	16.2	5.1	1980			292
2503	ⅣD0j		石皿・台石類	菅崎質凝灰岩	北上山地	27.2	18.7	4.3	3640			292

第473図 遺構外出土遺物 石皿・台石類(1)



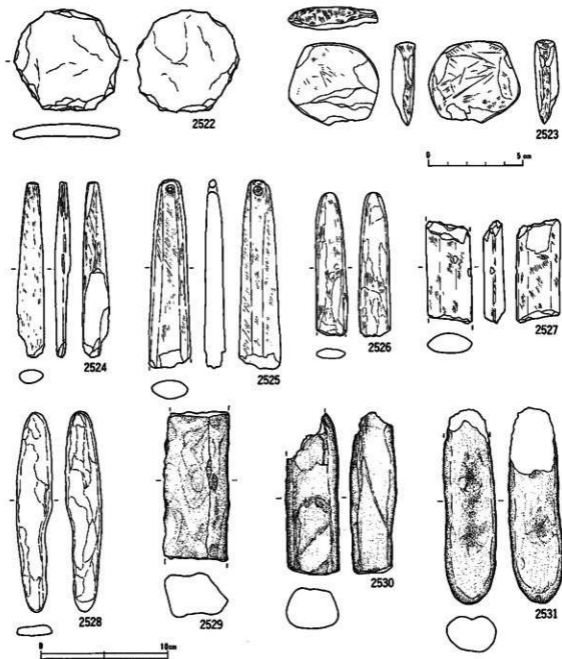
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	等尺
2504	ⅡD 0 g		石皿・台石類	地長質燧石	北上山地	22.7	17.9	8.6	3330			250
2505	ⅡE 1 a		石皿・台石類	地長質燧石	北上山地	(7.0)	(6.6)	(7.1)	(488)			250
2506	ⅡC 0 g	1層	石皿・台石類	地長質燧石	北上山地	(11.7)	(8.1)	(6.4)	(648)			250
2507	ⅡC 7 h	1層	石皿・台石類	地長質燧石	北上山地	(11.8)	(14.3)	(9.2)	(2005)			250
2508	ⅡC 9 f	1層	石皿・台石類	地長質燧石	北上山地	(26.5)	13.3	8.6	(2605)			250
2509	ⅡD 8 i	1層	石皿・台石類	アルコース砂岩	北上山地	15.9	16.2	6.4	2290			250
2510	ⅡD 0 j		礫石	地長質燧石	中石西側	(5.0)	(1.2)	1.2	(61.8)			250
2511	ⅡD 8 j	表紙	礫石	砂岩	北上山地	(3.7)	4.9	1.1	(27.2)			250

第474図 遺構外出土遺物 石皿・台石類(2)・礫石



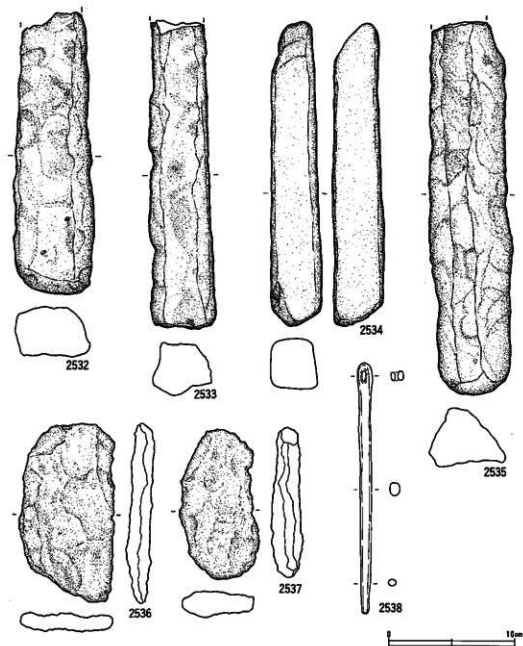
番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真
2512	Ⅷ D 7 i	表土直下	燧石	燧質泥岩	礫石産地	6.8	9.9	15.1	400		293
2513	Ⅷ D 3 g	暗褐色土	石核	燧質泥岩	礫石産地	5.5	5.3	3.5	112.5		293
2514	Ⅷ D 5 g	日層	耳飾	チャート質礫灰岩	北上山地	(1.3)	(2.3)	0.2	(1.8)		293
2515	Ⅷ D 2 h	日層	耳飾	チャート質礫灰岩	北上山地	(2.5)	(1.4)	0.4	(2.19)		293
2516	Ⅷ E 5 j	日層	耳飾	チャート質礫灰岩	北上山地	2.8	2.9	0.3	(2.70)		293
2517	Ⅷ E 3 b		耳飾	硬質泥岩	礫石産地	2.6	(1.2)	0.5	(2.70)		293
2518	Ⅷ D 0 c	日層	耳飾	チャート質礫灰岩	北上山地	(2.6)	(1.4)	0.5	(4.30)		293
2519	Ⅷ D 4 j	1層	耳飾	チャート質礫灰岩	北上山地	4.7	(3.1)	0.5	(3.30)		293
2520	Ⅷ D 3 e		耳飾	チャート質礫灰岩	北上山地西隣	5.9	(4.6)	0.4	(4.30)		293
2521	Ⅷ D 3 h	日層	耳飾	チャート	北上山地	4.6	(4.5)	0.5	(4.30)		293

第475図 遺構外出土遺物 礫器・石核・石製品(1)



番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類	写真
2522	ⅧD 8 b		円盤状石製品	緑色燧灰質千枚岩	北上山地	5.4	5.6	0.7	29		293	
2523	ⅧD 9 f	Ⅰ層	円盤状石製品	粘板岩質千枚岩	北上山地	4.4	4.7	1.1	32		293	
2524	ⅧC 7 i	黄土層下	石刀	粘板岩	北上山地	(13.8)	2.2	1.1	(40)		293	
2525	ⅧC 8 g	Ⅰ層	石剣	燧灰岩質千枚岩	北上山地	(14.8)	2.9	1.5	(105)	穿孔有り。	293	
2526	Ⅷa25トレンチ	盛土	石刀	燧灰岩質千枚岩	北上山地	(11.4)	2.5	0.8	(36)		293	
2527	Ⅷa20トレンチ		石刀	燧灰岩質千枚岩	北上山地	(8.1)	3.6	1.5	(70)		293	
2528	ⅧD 8 j	表層	石刀	ホルンフェルス	北上山地	16.9	2.6	0.9	54		293	
2529	ⅧD 7 d		石棒	粘板岩	谷尾(長巻産)	(11.3)	5.3	3.5	(265)		293	
2530	Ⅷa土地不明		石棒	粘板岩	北上山地	(12.3)	4.1	3.5	(285)		293	
2531	ⅧC 7 e	再堆積層上段	石棒	粘板岩	北上山地	(15.4)	4.1	2.8	(270)		294	

第478図 遺構外出土遺物 石製品(2)



番号	出土地点	層位	器種	石質	産地	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真
2532	ⅡC 8 g	再帰横溝上位	石棒	流紋岩	松尾(長巻層段)	22.3	6.4	3.9	(900)		294
2533	ⅡC 8 j	1層	石棒	流紋岩	松尾(長巻層段)	24.0	5.2	4.2	(800)		294
2534	ⅡD 5 g	1層	石棒	細粒凝灰岩	宇石西郷	24.0	4.0	4.1	600		294
2535	ⅡC 1 e	再帰横溝	石棒	流紋岩	松尾(長巻層段)	29.0	6.6	4.7	(1100)		294
2536	ⅡC 5 i	1層	花崗岩	花崗閃緑岩	北上山地	14.0	7.5	1.3	240		294
2537	ⅡC 5 i	1層	花崗岩	花崗閃緑岩	北上山地	11.8	6.4	2.0	200		294

番号	出土地点	層位	器種	長さ	幅	厚さ	備考	分類	写真
2538	ⅡC 8 b	1層	針	13.2	0.7	0.6	13.4		294

第477図 遺構外出土遺物 石製品(3)・鉄器

V まとめ

1. 遺構

本遺跡において検出された遺構は、竪穴住居跡166棟（縄文時代162棟、平安時代4棟）、土坑93基（縄文時代88基、平安時代1基、不明4基）、陥し穴9基、土器埋設遺構1基（縄文時代）、炉跡2基（縄文時代）、焼土遺構39基（縄文時代29基、平安時代1基、不明9基）である。ここでは、それらの遺構についての本遺跡の傾向や特徴を述べることにする。

(1) 竪穴住居跡

個別の記述に入る前に、前提となるいくつかの事柄について述べておく。

時期 竪穴住居跡の時期は、床面出土土器や埋設土器を中心に判断材料とした。埋土からの出土物についても、異なる時期の遺物の混入がない場合や、層位を異にした出土状況を示すなど、相当の妥当性を示すと考えられる場合などには時期決定の資料として用いた。また、重複関係や出土土器等から特定時期に所属する可能性が高いと認められる場合には、「推定」として記述した。時期の特定は、可能な限り時間幅を限定するように努めたが、かならずしも一律の時期の区切りにはなっていない。それは時期決定の困難度によるものであって、ある遺構は「縄文時代後葉」と限定的な時期を設定し、またある遺構は「縄文時代前期後葉から末葉」と幅をもたせたものとしている。

本遺跡の竪穴住居の大半は、縄文時代前期に属するものである。その時期の細分については、本遺跡の土器分類に基づいて行った。型式・時期の比定について詳細は後述するが、おおむね次のような時期を想定している。第Ⅱ群1～3類土器は縄文前期初頭から前葉、第Ⅱ群4類土器は前期中葉、第Ⅱ群6類aと同類bアおよびイの土器は前期後葉、第Ⅱ群7類と8類土器は前期末葉から中期初頭、第Ⅲ群1類土器は中期初頭に、それぞれ位置づくと考えた。

前葉・後葉などの区分は、纏年研究が明らかにしてきた型式名では、上川名式または長七谷地Ⅲ群・早稲田6類など大木1式期以前を前期初頭、大木1式から大木2a式期までを前葉、大木2b式から3式期までを中葉、大木4式から5式期までを後葉、大木6式または円筒下層d式期を末葉と考えた。

本遺跡の土器分類と型式名が直接対応するものではないが、以上のようなおおよその時期併行関係を想定し、それを前提として記述していく。

この前提に立って、検出された竪穴住居跡数を時期毎に区分けすると次表ようになる。

平面形 平面形の名称は、おおむね次に示すものに近いものを用いた。

- ・円形
- ・長円形（短軸方向は弧を描き、長軸方向は直線状）

- ・楕円形（長軸方向も弧を描く）
- ・長方形（特に角が強く弧を描くものについては隅丸長方形）
- ・方形（特に角が強く弧を描くものについては隅丸方形）

ただし、長円形と楕円形については実際上区別が困難な場合もあり、厳密なものではない。

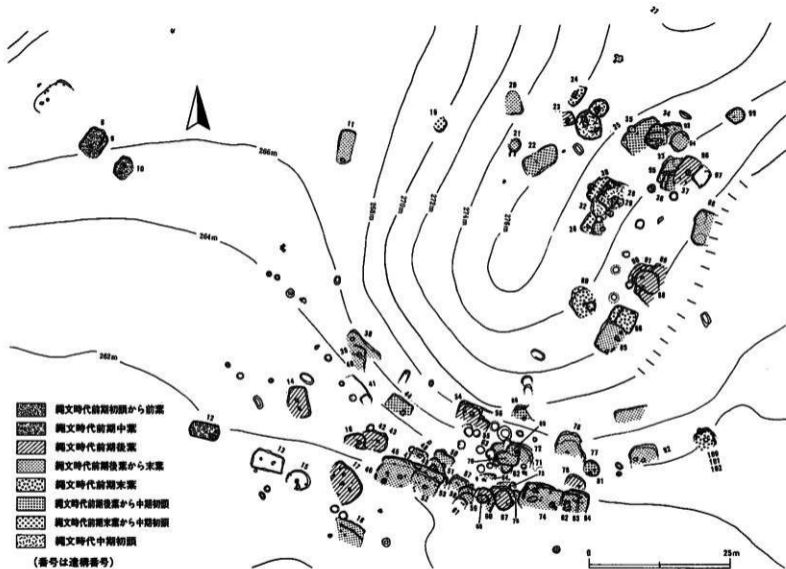
遺存状況 本遺跡は、尾根鞍部・山腹斜面・山麓緩斜面にあって、崖線性再堆積層が不均一に形成されており、遺構はこれら斜面を主体として再堆積層中に構築されている。このため、遺構の斜面下方はほとんど流失しており、また頻繁な住居の建て替えによる重複が激しく、それ

時 期	ほぼ 特定	推定	計	本報告書土器分類	時期	土器型式
縄文時代前期初頭から前葉	3	11	14	第II群1～3類	初頭～前葉	大木2 aまで
縄文時代前期中葉	1		1	第II群4類	中 葉	大木2 b・3
縄文時代前期後葉	13	21	34	第II群6類a、bア・イ	後 葉	大木4・5
縄文時代前期後葉から末葉	48	11	59	第II群6類bウーカ	末 葉	大木6 円筒下層d
縄文時代前期末葉	4	2	6	第II群7・8類		
縄文時代前期		20	20			
縄文時代前期後葉から中期初頭	10	1	11		中期 初頭	大木7 a
縄文時代前期末葉から中期初頭	2	1	3			
縄文時代中期初頭	3	2	5	第III群1類		
縄文時代中期末葉	6		6	第III群3類	中期末葉	大木10
縄文時代晩期	1		1	第V群		
縄文時代時期不明		2	2			
小 計	91	71	162			
平 安 時 代	4		4			
計	95	71	166			

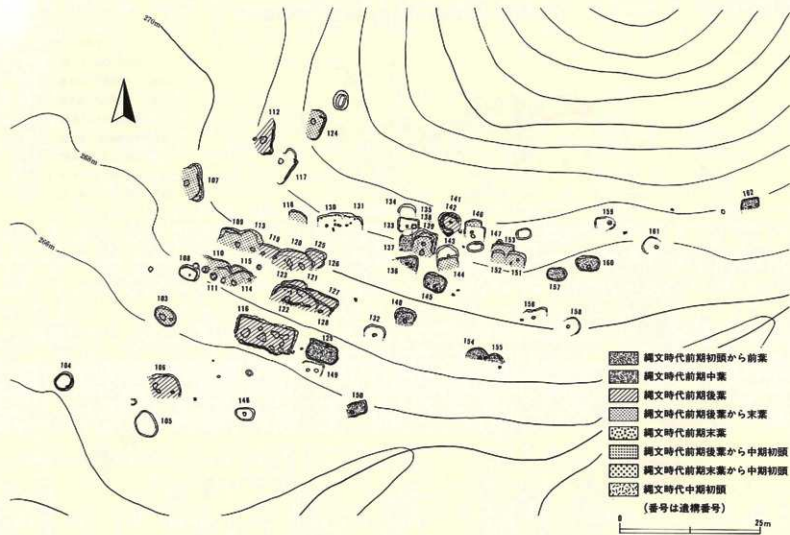
第20表 時期別住居検出



第478図 住居跡平面形名称概念図



第478図 A区南東斜面とB区西尾根地区の遺構分布



第480図 B区東尾根地区の遺構分布



第481図 縄文時代前期から中期初頭の住居跡集成図

※()内は遺構番号

それぞれの遺構の全体像を把握できるものは極めて少ない。傾向性・特徴を把握するために、資料として価値は低いものの、完全遺存ではないものも、必要に応じて取り扱った。

床面積 プラニメーターを用いて壁面下端を3回測定し、その平均値を求めた。残存状況によって推定可能なものは〔 〕で、推定できないものは残存値を（ ）で示した。

ア、縄文時代前期から中期初頭の住居跡について

本遺跡の主体を占めるのが、この時期のものである。第481図にその一部を示したが、これは比較的形状のわかるものを任意に集成したものであって、その全てではない。以下に用いる番号は、ゴシック体が第481図の番号で、明朝体は第481図にとりあげなかった遺構の遺構番号である。

(ア) 時期毎の傾向性・特徴

a、前期初頭から前葉

本時期に所属すると考えられる住居跡は3棟、特定する資料を欠くが本時期に所属すると推定される住居跡は11棟である。出土土器は、織織を比較的多く含む組縄文・単節斜縄文などの地文のみの破片であり、時期幅をさらに絞り込むことは困難である。

削剥等がなく概ね旧状のわかるものと、遺存状況から規模・平面形等をほぼ推定できる、8棟(1～8)を対象として推定値も含めて記述することとする。

平面形 円形と推定されるものはⅨD 8 g-2住居跡(8)の1棟のみで、推定も含めてその殆どは長方形・楕円形・長円形を基調とし、長軸方向は等高線にほぼ平行している。

規模 短軸2～3m、長軸3～4m前後に集中する。床面積は5～8㎡に5棟が入る。12.9㎡を有するⅨD 5 j住居跡(7)は、本遺跡では本時期に限れば、比較的大きな住居跡といえることができる。

柱穴 検出されないものがほとんどを占める。ⅨD 9 h住居跡(4)の南西部で1個検出されたが、対応するものはみられない。ⅨD 5 j住居跡(7)はこの中で例外的である。8個の柱穴が4隅とその中間の位置に等間隔に並ぶ。柱穴は径13～15cm程度とほぼ等しく、住居規模に比べ小規模である。

周溝 どの住居跡からも検出されない。

炉 検出されないものが3棟ある。検出されたものでは、1基を有するもの2棟、2基を有するもの3棟で、いずれも地床炉である。2基を有するものうち、ⅥC 2 g-2住居跡(5)およびⅥC 3 h住居跡(1)ではその長軸方向に直列的に位置しているが、すべてにあてはまるわけではない。炉の有無およびその位置について、規則性を見出だすことはできない。

8棟に限定して項目毎に見てきたが、残る6棟についても遺存状況は悪いものの、上記の状況は概ね看取でき、本遺跡における傾向性として把握することができる。

分布 A区南東斜面を3棟が占地するが、うち2棟は重複関係にあり、建替えによると思われる。他の1棟とともに斜面に階段状に並ぶ。B区東尾根南斜面には11棟が位置する。尾根筋から延長させた直線の東半部に集中する。周囲には時期を明らかにできない住居跡が数棟存在するが、規模・形状は本時期のものとの類似性が高く、あるいは同一時期となるものかも知れない。

b. 前期中葉

本時期に該当するのはⅦD5 f住居跡(9)の1棟のみである。S字状連鎖沈文土器が床面から一括出土したことを根拠に本時期に位置づけた。平面形は長円形で、床面積は10.66㎡である。柱穴は北東隅に1個検出された。南西隅には浅い土坑が位置する。

c. 前期後葉

本時期に所属すると考えられる住居跡は13棟である。床面から、第Ⅱ群6類土器のうちa～bイまでの鋸歯状裝飾体他の特徴ある土器を出土していることに基づいて位置づけたものである。また、特定する資料を欠くが重複関係他から、本時期に所属すると推定される住居跡は22棟である。

これらのうち形状・規模等が分かる又は推定できる9棟〔ⅦD0 b住居跡(11)・ⅦD1 g住居跡(12)・ⅦD1 g-2住居跡(43)・ⅦD8 e住居跡(15)・ⅦD5 i住居跡(16)・ⅨD9 f住居跡(18)・ⅨD9 f-2住居跡(142)・ⅦD5 i-3住居跡(19)・ⅨD3 j住居跡(26)]を中心とし、必要に応じて他の住居跡も取り上げ、本遺跡の傾向を検討する。

平面形 長方形基調が4棟、方形基調が3棟、楕円形・円形基調が各1棟である。長方形を基調とする住居跡の長軸方向と斜面との関係では、等高線にほぼ平行する住居跡が3棟、斜交するものが1棟である。

規模 規模が推定可能な9棟の殆どは、短軸が2～3m、長軸が2.5～5mのなかに収まる計測値を示す。遺存状態が悪いために集計に加えなかった住居跡でも、長軸方向が推定できるものがある。それによっても、長軸2.5～5mに集中することは見て取れる。一方、6～8mの範囲にも一定の集中がみられる。しかしながら、長軸10m以上というⅨD3 j住居跡(26)は、これらの中では群を抜いており、例外的な存在ということができる。床面積をみると、示す値は分散的であり集中する範囲を把握することは困難である。しかし、残存値を加えても10㎡以下におよそ3分の2が入り、15㎡以下まで広げれば8割以上がその範囲に入る。床面積の点でも、36.1㎡を測るⅨD3 j住居跡は飛び抜けて大きな値を示している。

また、下半が流失していて遺存状態が悪いものの、ⅨD4 g-2住居跡(20)・ⅨD4 h住居跡(22)・ⅨD4 g-3住居跡(24)の3棟については、床面積の残存値で15㎡程度あるいはそれ

以上を示しており、規模はⅨD3j住居跡におよばぬが、それに近似する性格を有する住居である可能性も考えられよう。また、ⅨD4h住居跡と重複するⅨD5h住居跡(23)・ⅨD5i住居跡(128)は削制されていて不明ではあるが、残存形状・位置から同住居と強い関連性を推定することができる。

柱 穴 9棟のうち、柱穴を持たない住居跡が4棟あり、他は1・2・3・5・11個有するものがそれぞれ1棟である。規模の点で例外的としたⅨD3j住居跡を除くと、数および位置において規則的な対応関係を有する住居跡は見出し難い。

周 溝 9棟のうち周溝を有するものは2棟であるが、本時期に所属すると推定される全住居跡34棟に対象を広げると7棟を数える。そのうちⅨD9f住居跡(10)とⅨD9f-2住居跡(142)は同心円状の重複で拡張建替えと考えられる。残る5棟については、ⅨD3j住居跡を初め比較的大形の住居跡であるといえることができる。周溝の規模は一様ではないが、幅10～30cm、深さ15cm内外であり、壁の下端に断続的に巡るものが多い。床面を全周するものか、部分的なものかどうかは、遺存状態の制限がありにわかに判断はできないが、ⅨD5h住居跡(23)の如く斜面上方側の壁際のみのもので、ⅨD3j住居跡の如く全周するものと両者がありそうである。

炉 炉を有する住居跡は9棟中8棟を数え、それらはすべて地床炉である。1基のみのものが4棟あるが、ほぼ床面中央部に位置する。複数基有するものは4棟である。その中に地床炉の位置について規則性がみられるのはⅨD8e住居跡(15)とⅨD3j住居跡の2棟である。前者は住居の長軸線上に直列的に、後者は長軸方向に3列に並列する。対象を35棟に広げても、炉の数・位置とも多様性がうかがえる。ⅨD4h住居跡(22)において8基が長軸方向に直列的に位置するものが規則的配置の数少ない例といえることができる。

分 布 B区西尾根の南斜面と麓部、東尾根南斜面を中心に分布する。東尾根を占地する住居跡は比較的大形で、楕円形または長方形を基調とするものが多い。西尾根を占地する住居跡は平面形・規模とも多様である。鞍部から西斜面には小形の住居跡が2棟、東斜面中腹部には5棟が分布する。

d. 前期後葉から末葉

出土遺物が木目状燃糸文や網目状燃糸文など第Ⅱ群6類bウから同カに属するものである。同土器の時期については、地文のみで他に特徴が少ないことから時期を限定的に把握することが困難である。少なくとも前期後葉よりは遡らず前期末葉よりは下らないと考えられる。竹管文土器の出土を見ない遺構は、あるいは後葉のなかで収まるもので前項のなかで取り扱うべきかも知れない。

重複関係から同時期と推定される11棟を加え、計59棟が本時期に該当すると考えられる。しかし、削剥や重複などにより遺存状況が悪いものが多く、規模・形状が分かる遺構はわずか5棟(33~35、42・43)に過ぎない。しかも、この5棟は本時期の住居跡の形質を代表するものではない。ここでは、統計的処理にはなじまない資料であることを承知の上で、適宜59棟全体をも対象にして記述する。

平面形 5棟のうちわけは、楕円形が3棟、円形が2棟である。推定によるものを加えた59棟全体を対象にすると、多い順に長方形基調17棟、楕円形9棟、方形または長方形基調6棟、方形基調5棟、長円形4棟、円形2棟となる。主体は長方形・楕円形・長円形など長軸を有するものであり、方形がそれに次ぎ、円形は希である。

規模 5棟の集計では、短軸が2~3m、長軸が3~4mに集中している。床面積は4~6㎡に多い。残存状況がよかったのは比較的小形の住居跡であったということにならうか。

それ以外の住居跡は残存値の集計になるが、長軸3~5mに最も集中しており、6棟の集計よりはやや大きめである。また、また6m以上の住居跡も5棟を数える。床面積残存値は6㎡までの中に多くの住居跡が入る。実際はそれ以上の値をとるということにならう。また、20㎡程度またはそれ以上のものもあり、小形のものと異なる性質の住居跡である可能性がある。ⅦD 2h-2住居跡(38)・ⅦD 6h-2住居跡(48)などがそれに当たる。

柱穴 5棟のうち、柱穴が検出されない住居跡が2棟、検出されたものでは1個が2棟、2個が1棟である。これだけでは柱穴の有無、数、配置等における共通性は見出だしがたい。59棟を対象とすると、全体像が不明であることから正確性は欠くが、柱穴をもたないものが36棟あり、持ったとしても配置上の規則性は観察できない。このことから結論づけることは危険であるが、傾向としては柱穴を持たない住居跡が一般的であるといえよう。

周溝 59棟のうち周溝を有するものは8棟である。規模は幅10~20cm程度のもが多い。これらは、斜面上方の壁際を中心に住居の一部に存在するものが殆どである。下半部流失により詳細不明のものもあるが、本遺跡に於いてはこの時期の周溝の特徴として把握することが可能と思われる。

炉 5棟のうち炉を有するものは2棟のみである。59棟を対象とすると26棟が炉を持たず、炉のない住居跡がかなり多いという点は変わらない。炉はすべて地床炉で、1基のみを有するのが大半であり、ⅦD 4h-4住居跡(48)のように6基も持つものは他にはない。同住居跡の炉の配置は長軸方向に5基が直列してならぶこと、および規模・形状なども勘案すれば、前項のⅦD 4h住居跡(22)やⅦD 3j住居跡(26)などと同性格を有する住居跡と考えることが可能と考えられる。

分布 B区の全域に分布するが、特に西尾根南斜面と東斜面北側、東尾根南西斜面と南斜面に

密に分布する。西尾根南斜面では、標高262～268mの等高線にそって東西に大小の住居跡が際だつて複雑に重複しあつて分布し、長期の使用または度重なる建替えがうかがえる。この区域では、ⅦD 2 h 住居跡(44)・ⅦD 4 h-4 住居跡(46)・ⅦD 6 h-2 住居跡(48)のように長軸が6m以上という、本遺跡では比較的大形の住居跡が集中する。それと重複し削刺されていて不明ではあるが、ⅦD 3 h 住居跡(38)やⅦD 2 h-2 住居跡(39)なども同程度の規模を推定することが可能であり、比較的大形の住居跡が数回の建替えをした可能性が考えられる。

東尾根西斜面には、ⅨD 1 e 住居跡(107)・ⅨD 5 c 住居跡(124)の2棟が位置するが、出土土器から前期後葉に限定したⅨD 3 c 住居跡(14)、および出土土器がなく時期不明としたⅨD 4 d 住居跡(117)と、占地・規模・形状・周溝・柱穴・炉の位置など類似する部分が多い。この4棟については、直接的に根拠となる資料はないものの、近接する時期に存在した可能性が高いと考えられる。

東尾根南斜面の東半部にも集中区がある。ここに分布する住居跡も重複が多く、詳細は明らかではないものの、平面形は方形基調、規模は1辺3m前後と推定され、やや小形のものが多し。小形の規模の住居跡は他の分布域にも存在するが、東半部には比較的大形の住居跡は見られない点が、様相に異をなす点である。

e. 前期末葉

第Ⅱ群7類・8類土器を伴出する住居跡で、第481図27～29とⅦD 8 c 住居跡(80)・ⅦD 2 g-2 住居跡(101)・ⅦD 2 g-3 住居跡(102)の6棟が該当する。このうちⅦD 2 g-2 住居跡・ⅦD 2 g-3 住居跡は、ⅦD 2 g 住居跡(27)と同一面で壁・床を共有するものであることから建替えを想定して同時期としたものであり、実質は4棟での比較検討となる。

平面形 遺存状況の比較的良好なのはⅦD 2 g 住居跡(27)とⅦD 9 c-2 住居跡(28)の2棟に限られるが、いずれも方形を基調とする。残る2棟もそれに類似する形状となるかも知れない。規模 床面積は約7㎡(推定値)と9㎡で、4棟に大きな相違は無いと思われる。

柱穴 ⅦD 2 g 住居跡(27)とⅦD 9 c-2 住居跡(28)で柱穴を検出しているが、その配置間隔や規模に統一性は見られない。

周溝 ⅦD 2 g 住居跡とそれに重複する2棟に見られるのみである。住居の下半の壁が流失しているので詳細は明らかではないが、斜面上方の壁際に巡る状況で検出されている。

炉 4棟すべての住居跡に地床炉1基が伴う。この時期に至って炉を有することが一般的であるという指摘が可能であろう。

分布 いずれもB区西尾根に限定されるが、ⅦC 8 f 住居跡(28)が西斜面に位置することを除けば東斜面に分布する。ⅦC 8 f 住居跡は第Ⅱ群8類土器を出土したもので、同7類土器を伴

う他の住居とは系列を異にするかも知れない。

f、中期初頭

第481図30~32とⅦC9 i-3 b住居跡(29)・ⅦC9 j-2住居跡(32)の5棟が該当する。このうち比較的遺存状況の良いものは、ⅦC9 f住居跡(31)とⅦC8 g住居跡(32)である。

平面形 不整形と方形である。

規模 床面積は5.7㎡を最小値とし、残存値約17㎡までと一様ではない。前期と比較してやや大形化の傾向がうかがえる。

柱穴 柱穴の有無・規模・配置などに規則性や統一性は見られない。

周溝 ⅦC9 i-3 a住居跡(30)と同b住居跡でのみ検出された。下半に不明部分があるが、斜面上方の壁際に巡るものであろう。

炉 すべての住居跡が炉を有する。1基~2基の地床炉が殆どであるが、ⅦC9 f住居跡(31)の場合は石囲炉であり、特殊な例といえる。同住居は、本時期の中では最小の規模であることと合わせて、特別な正確を有するものであろうか。

また、ⅦC9 i-3 a住居跡(30)とⅦC8 g住居跡(32)とにおいて、床面を掘込んだ炉が検出されている。その上から地床炉が検出されていることから、先行炉として報告してある。同様の例は、ⅦC6 h住居跡(54)においても見られた。同住居は、出土遺物から本時期に該当する可能性が高く、掘り込みを伴う炉は、あるいは本時期の住居跡に特徴的なものといえるかも知れない。

分布 B区西尾根の鞍部とそれに近接する東斜面に限定される。

(イ) 傾向・特徴のまとめ

時期毎に概観してきたが、その要点について簡略に表示した(第21表)。

本遺跡における縄文時代前期初頭から中期初頭にいたる住居跡の変遷を、表からたどってみたい。

平面形は、前期初頭から中葉にかけて長方形・楕円形など横に長い形状が主流である。その長軸方向は、等高線にはほぼ平行するものが多い。後葉から方形や円形のものも現れるが、比較的小形のものに多い。中期初頭の住居跡では、方形のものもやや大形である。

規模は、前期初頭では、8㎡以下の小形のものも卓越する。後葉になると30㎡以上の住居が出現している。末葉では、再び10㎡に満たない小形のものが多くなるが、中期初頭に至るとやや大形化する傾向がみえる。

柱穴は、前期初頭から中期初頭に属する全住居跡の6割強にあたる79棟において検出されて

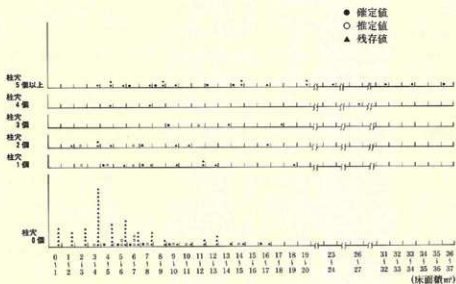
いない。例外はあるものの、比較的大きめの住居跡には柱穴を伴い、小形のものには伴わないということが傾向としては言えそうである。また、検出されたものでも、位置・規模・間隔などに規則性が見出だせないものが殆どである。

周溝は、前期初頭から中葉の住居ではみられない。後葉に属する比較的大形の住居を主体に、中期初頭まで一部の住居にみられる。その際、斜面上方の壁際に部分的に巡ることを特徴とする。

炉は、前期初頭の住居には無いものもあるが、地床炉を持つものが一般的である。その数や配置については多様であるが、横に長い住居の長軸方向に直列して2基、またはそれ以上が配置される例も少なくはない。石囲炉を有するものは2棟のみであり、やや例外的である。床面積は1棟は約4㎡、他の1棟は約6㎡と比較的小形の住居跡であること、前期の新しい時期が

	前期初頭から前葉	前期中葉	前期後葉	前期後葉から末葉	前期末葉	中期初頭
棟数	14	1	35	61	6	5
平面形	長方形・楕円形・長円形（長軸は等高線に平行）	長円形	長方形・方形が多い（長軸は等高線に平行）	長方形基調・楕円形が多い（長軸は等高線に平行）	方形基調	一様でない（円形・方形）
規模	5～8㎡ （約13㎡もあり）	約11㎡	多様である。3～15㎡多い。30㎡以上もあり。	多様である。4～8㎡程度が多いか。20㎡以上もあり。	7～9㎡	約6～17㎡
柱穴	無し （1棟除く）	1個	有るもの・無いもの半数（有るものも規則性はなし）	無いもの半数以上 （有るものも規則性はなし）	有るもの・無いもの半数（有るものも規則性はなし）	有るもの・無いもの半数（有るものも規則性はなし）
周溝	無し	無し	無いものが一般的。比較的大形の住居に有り。（部分と全周と有り）	一部の住居に有り。（斜面上方の壁際）	一部の住居に有り。（斜面上方の壁際）	一部の住居に有り。（斜面上方の壁際）
炉	多様（無いもの、地床炉1基、同2基）	地床炉1基	地床炉が多い。（数は多様、規則性を有するもの3棟）	無いもの半数、地床炉1基も多い。大型では直列。	すべて地床炉1基を有する。	1棟は石囲炉。他は全て地床炉を有する。（掘込みある焼土3棟）
分布	A区東斜面。B区東尾根南斜面東半部	B区西尾根南山麓部	B区全域。東尾根は比較的大形の住居多し。西尾根は規模形状多様。	B区全域。東尾根は西半部に比較的大形の住居。東半部は小形。西尾根は規模多様。	B区西尾根東斜面。	B区西尾根鞍部から東斜面。

第21表 縄文時代前期から中期初頭の住居跡の傾向



第482図 縄文時代前期から中期初頭の住居跡柱穴数と床面積の関係

ら中期初頭の時期であるという点が特徴的である。

(ウ) その他

偏平礫を伴う住居跡 次の5棟に於いて、床面ないしはその直上から偏平な礫が検出された。加工痕或使用痕はみられないが、周囲に同様の礫は存在しないことから、なんらかの意図をもって住居内に持ち込まれたと考えるのが自然である。大きさはひとかかえほど(35~52cm×45~65cm)で厚さは5~9cm程度、形状が楕円形をしている点が共通する。また、この種の礫を伴う住居跡が、前期後葉または後葉から末葉に属する住居跡に限られる点も特徴の一つである。しかし、住居の形状や規模・占地等に於いて、有意な共通性や特質は見い出せず、これらの礫が、住居内に持ち込まれた意味やその用途については不明である。

	遺構名	時期	床面積	礫の計測値	検出状況
16	VII D 0 g 住居跡	前期後葉	(3.4㎡)	35×55cm	床面直上 中央?
59	VII D 4 h-3 住居跡	後葉から末葉	(3.9㎡)	35×45×5cm	床面 南半部
87	VII D 9 f 住居跡	後葉から末葉	(7.2㎡)	52×55×5cm	床面直上 (4cm)
89	VII D 0 b 住居跡	前期後葉	(14.1㎡)	38×65cm	床面直上 南半部
107	IX D 1 e 住居跡	後葉から末葉	(14.9㎡)	39×55×9cm	床面 中央?

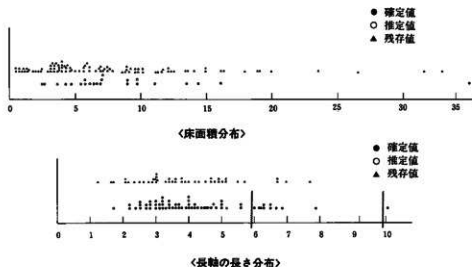
第22表 偏平な自然礫を伴う住居跡

掘り方(?)を有する住居跡 住居跡内での地床炉が検出された場合、通常はその面が床面であって、重複がない限りはその面は地山によって構成されたと考えられる。しかし、本遺跡では地床炉の面より更に下位に掘り込みのある住居跡が確認されている。ⅦD0 i 住居跡(103)・ⅨD0 f-2 住居跡(147)・XD4 g 住居跡(160)の3棟である。このことが、重複によるものである可能性もないではないが、ⅨD0 f-2 住居跡のように掘り込みの平面形が不整形であって住居跡とは考えにくいことや、ⅦD0 i 住居跡・XD4 g 住居跡のように平面形が完全に一致することなどからは、重複と考えるにはやや不自然な印象がある。むしろ、古代の住居跡にみられる掘り方を連想させるものがある。しかしながら、縄文時代前期の住居跡と同様の例の報告はなく、現段階では不明としておく。

イ、大形・中形住居について

縄文時代の集落にあって、通常の住居と異なる特殊な遺構としての「大形住居」の検出例があるが、この「大形住居」という用語の概念規定は、かならずしも確立されているとは言えない。本遺跡にも、相対的に規模の大きい住居跡は存在する。が、それがいわゆる「大形住居」に該当するか否かという明白ではない。現時点においては、遺跡内における床面積の相対的な比較によって識別する考え方(三浦謙一 1990)が妥当と考えられる。

しかしながら、再三述べてきたように本遺跡の場合住居跡の検出数は多いものの、斜面に構築された住居跡の遺存状況は思わしくなく、また重複による割削りもあって規模の比較は床面積だけでは困難であることから、長軸の計測値とあわせて考えることにした(第483図)。よって基準としては厳密性に欠けるが、おおよその傾向を把握する手掛かりとしたい。



第483図 縄文時代前期後葉から中期初頭の住居跡計測値分布

まず、床面積の確定値・推定値・残存値は、15.5㎡まで途切れることなく連続分布している。このことから、確定値で15.5㎡以下のものは通常のものとしてここから除外する。次に、長軸の測値分布では、5～6m前後にやや稀薄域、8～10mに明白な空白域をそれぞれ有することが分かる。それを境界として、本遺跡においては長軸が10mを越える住居を大形住居、6mを越え10m以下の住居を中形住居とする。長軸方向の壁を欠損しているものについては、残存値をもって前述の基準を準用する。この結果、大形住居が1棟、中形住居が12棟抽出される。

しかし、中形住居としたものでも、残存値に基づいて区分けしたものは、大形住居である可能性なしとはしないし、また逆に、面積が15.5㎡以下の通常の住居である可能性もありうるわけで、曖昧性が解消されないことは前述の通りである。

ここに抽出した13棟の特徴・傾向等については、個々の遺構が詳細不明なものも多く、推定に頼らざるを得ないものもある。時期では、前期初頭から中葉に属するものはない。これらが登場するのは本遺跡では後葉以降である。平面形は、概ね長方形・長円形・楕円形である。ⅨD4g-2住居跡(第481図20、以下同図の番号)・ⅥD0h住居跡(25)がやや円形に近いかも知れない。周構は7棟に存在し、主に斜面上方に当たる北壁際に位置するものが殆どである。柱穴を有するものが多いが、明瞭な規則性を見い出せるのは、ⅨD4h住居跡(22)・ⅨD4g

	遺構番号	遺構名	長軸	床面積	時期	平面形
大形	116	ⅨD3j住居跡	1010cm	36.1㎡	前期後葉	長方形
中形住居	17	ⅣD0h住居跡	620	(31.7)	前期後葉(推定)	方形～長方形
	35	ⅦC0g-3住居跡	(693)	(33.0)	前期後葉から中期初頭	隅丸長方形?
	38	ⅥD1d住居跡	625	(5.4)	前期後葉から末葉	長方形基調?
	45	ⅦD2h住居跡	(670)	(10.1)	前期後葉から末葉	楕円形?
	53	ⅦD3h-2住居跡	(670)	(4.6)	前期後葉から末葉(推定)	楕円形?
	60	ⅦD4h-4住居跡	630	(13.4)	前期後葉から末葉	長方形?
	74	ⅦD6h-2住居跡	690	(23.5)	前期後葉から末葉	隅丸長方形?
	89	ⅦD0b-2住居跡	650	(14.1)	前期後葉(推定)	長方形?
	120	ⅨD4g-2住居跡	650	(16.2)	前期後葉(推定)	楕円形?
	121	ⅨD4g-3住居跡	670	(14.9)	前期後葉(推定)	長方形?
	122	ⅨD4h住居跡	790	19.9	前期後葉(推定)	楕円形?
	127	ⅨD5h住居跡	(770)	(6.2)	前期後葉	長方形?

D 4 g-3 住居跡(24)・ⅨD 3 j 住居跡(26)である。炉は、9棟に存在するが、全て地床炉である。住居内の位置関係に規則性がみられる。長軸方向に3基以上の炉が一直線上に直列的に配置されるものが、5棟ある。ⅨD 4 g-2 住居跡(20)・ⅦD 6 h-2 住居跡(40)も2基は長軸方向に位置する。間仕切りの痕跡はいずれからも認められなかった。重複は、部分・完全を含めて2棟を除く全てにおいて認められた。占地については、5棟が東尾根南斜面のほぼ同じブロック、同様に4棟が西尾根南斜面のほぼ同じブロックに位置しており、限定的な傾向がうかがえる。

いわゆる「大形住居」の性格や機能については、共同作業施設説・共同居住施設説・集会所説・祭祀遺構説などが唱えられている。本遺跡の中形・大形住居を、なお検討の余地があるとしても、いわゆる「大形住居」の範疇で把握した場合に、これらの説のうちのひとつを強く支持するような資料は得られていない。

集落構成としては、大形住居のみで構成され環状に配される遺跡や、大形住居と小形住居が共存する遺跡などが知られている。本遺跡例の特徴としては、重複が著しく反復的に形成された最終の形状としての把握ではあるが、大形住居に小形住居が近接して構築され併存しており、その位置関係において規格性は見られない。大形住居はその長軸方向を等高線に平行させ、ある一定の区域に集中している。出現時期は前期後葉であるということができる。

ウ、縄文時代中期末葉の住居跡について

A区で検出された縄文中期末葉の住居群は、特異な性格を有するように考えられた。住居跡は6棟検出されているが、1棟は遺存状態が悪く詳細不明である。他の5棟について住居相互の共通点や相違点、位置関係などの面から、その特徴点をまとめると次のようになる。

共通点

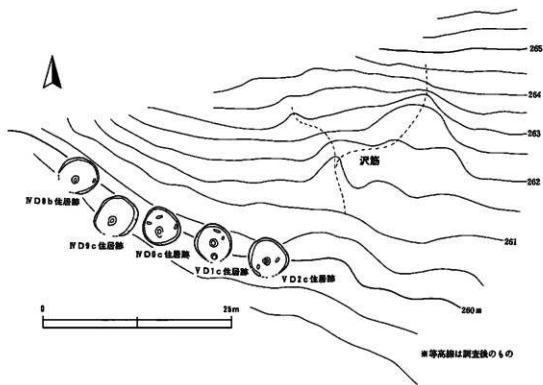
- ① 南斜面の等高線にそってほぼ一直線に概ね等間隔で並ぶ。
- ② 径4 m前後の規模をもち、平面形は円形ないしやや重なり円形であるという共通性がある。
- ③ 5棟とも炭化材や異地性焼土が床面上に分布しており、焼失住居と考えられる。
- ④ 炉は床面のほぼ中央部ないしはそのやや南側に位置する。構造は、全て土器を埋設させた後に周囲に粘土を貼りつけた土器埋設周壁炉とでも言うべきものである。土器埋設の角度は若干異なり、正立2、斜位3である。
- ⑤ 5棟のうちⅣD 9 c 住居跡(2)を除く4棟で、床面から石棒が検出された。そのうちⅣD 8 b 住居跡(1)とⅣD 0 c 住居跡(3)から出土した、折損した石棒は互いに接合した。

時期差 これらの住居は、土器型式上の時期差はみられない。が、5～6棟が同時存在したかどうかを明らかにする直接的資料はない。埋土観察からはⅣD 8 b 住居跡とⅣD 0 c 住居跡は

黄褐色土を主体とする人為的埋め戻し、VD1c住居跡とVD2c住居跡は自然堆積と考えられた。前者は隣接する住居を構築する際の土捨ての一例として把握することが可能かも知れない。さらに、住居同士があまりに近接した位置に構築されていることから5棟全てが同時に存在したとは考えにくい。しかし、単一で6回営まれたものか、複数棟が同時に存在したものは明らかではない。

石棒 ND0c住居跡の1点(遺物番号45)は直立、1点は床面直上に横位、他は全て床面に横倒しの状態で検出された。ND8b住居跡とND0c住居跡の接合した石棒は、いずれも確実に床面からの出土であり、それぞれの住居跡に伴うものと考えられるが、この2棟が人為的に埋め戻されたものと考えられることと関連があるのかも知れない。

検出位置・方位は一定ではないが、少なくとも住居東壁寄りの位置からは出土している。また、ND0c住居跡・VD1c住居跡・VD2c住居跡の3棟においては、明らかに敲打によって整形した石棒と、加工痕のない自然石と思われる石棒とが、出土位置は異なるもののセットで出土している点が注目される。



第484図 縄文時代中期末葉の住居跡群

石材は、流紋岩・デイサイト・砂岩で奥羽山地産と北上山地産とが混在しているが、ND0c住居跡では奥羽山地産のみ、VD1c住居跡では北上山地産のみが出土している。地域は離れるが、中期の集落として知られる長野県八ヶ岳山麓の遺跡では、石棒が多数検出されている。それらは炉の一角や、焚口の奥に直立して埋設されたり、入口と炉を結ぶ直線の延長線上に埋置されたりする。これらは、炉と石棒との関係の強さを示すものであろう。県内の縄文中期の遺跡に於いて石棒が住居内から出土した例はそう多くはないが、その出土位置において特に規則性は見られないようである（北上市柳上遺跡、盛岡市上米内遺跡）。近年調査された湯田町本内II遺跡において、大木9式期の複式炉の前庭部に検出されたものが稀有な例と言えよう。本遺跡の出土状況からは、炉との関連は把握できない。

焼失 5棟の住居跡から炭化材が検出され、全て焼失住居と考えられる。長野県穴場遺跡において、石棒を伴う住居が人為的に焼失させられたと考えられる例があるが、本遺跡の場合も、石棒が横倒してあったこと、5棟が同時存在とは考えにくいこと等は、役割を終えた住居跡に対する意図的な廃棄・着火を想定させる材料となろう。

炉 5棟の炉について相違点に着目すれば、土器埋設には斜位と正立があること、周堤の下に石囲いを伴うもの・埋設土器に平板な礫を伴うものがそれぞれ1棟あることである。しかし、土器埋設後に粘土を盛り上げて囲むという点では全て同じ構造であった。同時期の都南村湯沢遺跡（現在は盛岡市）では黄褐色細礫を炉の周縁に貼り付けた土器埋設炉が検出されており、同じ系譜をひくものと思われる。

炉の周囲に貼り付けられた粘土は、明白に基盤層の黄褐色ロームとは区別されることから、炉の構築に当たって持ち込まれたものであると考えられる。常識的には南接する八木田沢にかかわる粘土が想定されるが、化学的分析は行っていない。住居内から出土した土器の素材となった粘土で構築されたのではないかと仮説のもとに、化学分析を依頼した。その結果は付録2において報告されるが、土器素材粘土と炉の構築土とは異なることが判明した。しかし、それぞれの産地については不明である。

さらに、炉の構築土と土器の胎土の化学特性において、住居のグルーピングが可能であることがわかった。ND8b住居跡とND0c住居跡、ND9c住居跡とVD1c住居跡がそれぞれ近似する値を示す。このことは、埋土の状況においてND8b住居跡とND0c住居跡とが人為堆積であったという事実とも対応する。遺構の同時存在を証明する直接証拠はないが、これらの事実からは、ND8b住居跡とND0c住居跡、ND9c住居跡とVD1c住居跡の同時存在を考えることが自然であろう。

占地 本遺跡に於いて、中期末葉に属する住居跡の分布区域はごく限られている。調査後の等高線と住居の配置を図示した（第484図）。この住居群の東側には小規模ではあるが谷頭凹型斜

面が存在することが分かった。沢の流路は南半に不明部分があるが、住居の分布域はそれに強く規制されているものと思われる。すなわち、南を比高差のある八木田沢、東をそれに注ぐ小支谷によって区画され、北側に勾配のある山体を控えた南向きの緩斜面を好条件として占有したものである。

エ、縄文時代晩期の住居跡について

VID 8 h 住居跡(15) 1棟のみの検出である。出土遺物は粗製の深鉢であり時期を限定的に把握することが困難であるが、底部の特徴と器形から大洞BCからC1式期の範囲に収まるものと思われる。径が3.5 m前後の円形で、石囲炉を持つ。南東9 mには本住居と同様石囲炉であるVID 0 i 炉跡が存在する。他に確実に晩期に属すると考えられる遺構は存在せず、調査面積に比し、極めて稀薄である。

オ、平安時代の住居跡について

B区東端の谷頭凹型斜面に於いて2棟、C区(西斜面)に於いて2棟、計4棟を検出した。出土遺物からいずれも平安時代前半期に属する遺構と考えられる。うち2棟は一部または大半を削剥・流失により詳細は不明である。

平面形と規模 遺存状況の比較的2棟は、隅丸方形を呈し床面積は11㎡前後である。下半を流失した1棟も、ほぼ同形状・同規模と推定される。

柱穴・周溝 いずれの住居跡からも検出されていない。

埴土 3棟は、黒色土を主体とし埋土下位または壁際を中心に十和田a降下火山灰の微細粒を含む。埋土堆積状況の類似性から、住居の廃業時期は近接しているものと考えられる。

カマド 谷頭凹型斜面の2棟は北壁東寄りに構築され、斜面上方に向かって掘り込み式の煙道を有する。C区の2棟は東壁南寄りに構築され、同じく斜面上方に向かって掘り込み式の沿道部を有する。占地のみならず、カマド構築の類似性からも2棟ずつのセットが考えられる。また、本遺跡に於けるカマド・煙道の構築は、方位よりも斜面に対する方向と位置という規制が働いていると考えられる。

敷板 XI C 6 b 住居跡(163)に於いて、幅20cm・厚さ3~5cm程度の炭化した板材が検出された。カマド位置の反対方向に数列ずつL字状に配したものである。壁板の可能性も考えられるが、板材のない床面は、黄褐色土を混在して固く締まっていた焼成を受けているのに対し、炭化板材の下は締まりのない黒褐色土であったこと、板材の下からは遺物の出土はなかったことなどから、敷板と考えた方が妥当と思われる。

敷板を有する住居跡は、県内では浄法寺町五庵I・同町飛鳥台地I・同町桂平・上平沢新田

の各遺跡で検出されている。それらについては五庵Ⅰ遺跡報告書において集成と考察が試みられている。本遺跡の場合と比較すると、カマド位置の反対方向にあることや、1単位の板の法量などは他遺跡例に類似する。一方、転根太の存在が不明瞭であること、板敷がL字状の2方向であることは、相違点として把握できよう。また、本遺跡の場合、敷板の下から土坑が2基検出されている。類似する例は飛鳥台地Ⅰ遺跡にもあり、これを五庵Ⅰ遺跡報告者は床下貯蔵庫とする見解を述べているが、本遺跡も同様の性格と考えられる。

(2) 土坑

ア、全体的なこと

時期 93基検出された。所属時期の記載は出土遺物や重複関係などに基づいたが、根拠となる資料が少なく時期を明らかにできないものが多い。厳密には時期不明とすべきかも知れないが、検出面・形状・埋土からの推定で単に縄文時代としてあるものが殆どである。しかし、住居跡の時期や遺構外出土遺物などは縄文時代前期から中期初頭に属するものを主体とすること、土坑の検出面は住居跡と同じ面であること等から、多くの土坑もその時期に該当するものと考えてはば間違いないものと思われる。

規模と分布 便宜的に平面形および断面形によって次のタイプに分類し、それぞれの規模・分布の特徴をみていくことにする。

- | | |
|--------------------------------|------|
| a、平面形が円形かそれに近似し、断面形がフラスコ状のもの | …17基 |
| b、平面形が円形かそれに近似し、断面形がフラスコ状でないもの | …41基 |
| c、平面形が小判形か楕円形状のもの | …27基 |
| d、平面形が隅丸方形のもの | …4基 |
| e、その他 | …4基 |

aタイプは、開口部径1 m前後、深さは50～150 cmの規模を示すものが殆どで、数値上の分布は、他の土坑に比し集中的である。開口部径2 m程度のもものが1基あるが、崩落によるものと思われる。分布は、B区西尾根南斜面と東斜面に集中し、東尾根にはみられない。

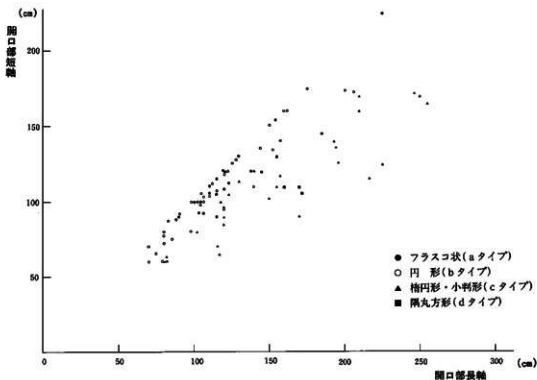
bタイプの開口部径は70～210 cmの範囲にあり多様である。深さも10～100 cmとバラツキが大きい。70 cm以下のものが多く、aタイプよりはおおむね浅いのが特徴の一つといえよう。位置的には、aタイプと同様西尾根の南斜面・東斜面に集中するが、東尾根の東半部にも若干広がる。

cタイプは、平面形の長軸方向が弯曲するものを楕円形、直線的なものを小判形としたが、主観的・直観的なものであり、同一に扱う。開口部長軸は70～250 cmとバラエティーに富む。深さは10～90 cmまで分布するが、50 cm以下の浅いものが多い。長軸が2 m程度あるいはそれ以

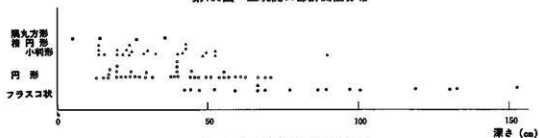
上のものの中には、住居跡である可能性が考えられるものがあり、それについては後に扱う。位置的には西尾根南斜面・東斜面がやはり多いものの、aタイプ・bタイプとは分布域をやや異にしているようにも思われる。

dタイプは詳細不明な部分も多いが、計測値は集中していて長軸150~170cm・深さ30cm以下である。西尾根南斜面に限定される。

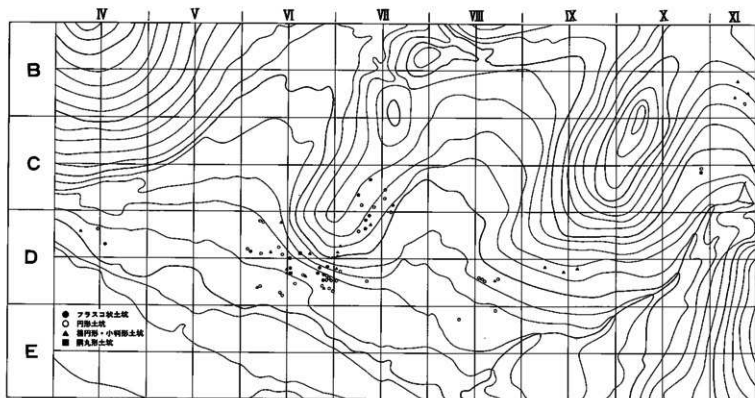
さて、aタイプの土坑が貯蔵穴として用いられたとすれば、住居跡の重複の著しい西尾根南斜面と東斜面に集中する理由も首肯できる。しかし、住居跡との重複を含めて東斜面で5基、南斜面で7基というのは、住居跡の検出数と比しあまりに少ない。フラスコ状の土坑が、ある



第485図 土坑開口部計測値分布



第486図 土坑深さ計測値分布



第487圖 形状別土坑分布圖

特定の時期の所産であって、その時期に該当する限られた住居に伴うものと考えた方がよいかと思われる。

bタイプには、aタイプを除いた平面形が円形のを全て入れたため、単一の用途を想定することはできない。貯蔵あるいは保管・廃棄など、それぞれの目的に応じて構築されたものと考えられ、計測値がバラエティーに富むのも当然といえよう。

cタイプの土坑については、特に傾向を見出だし難いが、住居跡の床面の下から検出されたものが数基あり、偶然的な事象としていいものかどうか不明である。

土坑について全体的な本遺跡の特徴として、第一にその検出数がフラスコ状土坑のみならず相対的に少ないこと、第二に東尾根には分布が極めて稀薄であることがあげられよう。

イ、大形の土坑について

住居跡・土坑など遺構の種別の認定は、規模・形状・施設・占地などから総合的に判断されるものと考えられるが、整理の進行上、一部例外はあるが便宜的に床面積3㎡程度を目安として、それより広い竪穴遺構を住居跡、逆に狭いものを土坑として進めてきた。

しかし、次に提示する土坑は床面積こそ狭いものの住居跡である可能性も考えられ、あるいは住居跡状の竪穴遺構とすべきかも知れない。

IX D 0 g 土坑と X D 2 f 土坑は、東尾根南斜面の東半部を占地する。この区域は、前期初頭から前葉にかけての住居跡が集中しており、平面形や深さもそれらの遺構と類似している。

Ⅷ C 2 j 土坑とⅧ C 2 j - 2 土坑は、Ⅷ C 2 j 住居跡の床面下から検出されたものであり、縄文前期後葉かそれ以前に属する遺構と考えられる。

これらの遺構を住居跡とするには底面積がネックになるが、3㎡以下の超小形住居を月経小屋のような特殊な用途の施設とする見解（武蔵康弘 1993）や、住居を構える契機が配偶者の獲得に無い場合とする見解（林謙作 1981）もあり、そのような吟味も必要かと思われる。

遺構番号	遺構名	開口部径	深さ	底部面積	平面形	備考
272	Ⅷ C 2 j 土坑	173×206	25	[2.0]	歪な円形	周溝・柱穴あり
273	Ⅷ C 2 j - 2 土坑	172×246	22	2.4	小判形	周溝・柱穴あり
282	IX D 0 g 土坑	165×255	53	2.0	楕円形	周溝・柱穴あり
285	X D 2 f 土坑	170×250	53		楕円形	

第24表 大形の土坑

ウ、底部に施設等を有する土坑（第488図）

本遺跡の土坑の中には、底面に柱穴状の小土坑や、周溝などを伴うものがあった。それらの土坑を取り上げる。

底部に柱穴状の小土坑を有する土坑は11基である。平面形が円形であるbタイプの土坑に多い。1個のみを有するものは5基であるが、深さは8cmのものが多いが16cmというものもある。2個を有するものが2基ある。ほぼ中心線上に位置するという特徴がある。しかし、この両者の小土坑の深さは差が大きく、同じ性格のものかどうか疑わしい。他に北壁際に浅く小さな土坑が巡るものが1基あった。

周溝を有する土坑は5基である。前項で述べたものおよび上記のものの一部重複がある。平面形は楕円形または小判形のcタイプに多い。壁の下端を全周するものと、部分的にとぎれるもの、一部のみのものであり一様ではない。

中央に溝を有するものは2基である。平面形は円形で同規模である。溝はいずれも等高線に直交する中心線上に構築されており、その計測値も大差はないことから、この2基は同一の性格を有する遺構と考えられる。ただ、占地上は西尾根東斜面と東尾根南西斜面と大きくはなれている。

施設とは異なるが、底面から粉炭または焼土が検出された土坑が2基ある。西尾根の鞍部を挟んだ両側に位置し、いずれも住居跡の床面下から検出された。

また、石棒状の礫が出土した土坑が1基ある。西尾根東斜面を占地する土坑である。

これらの土坑の用途・使用目的を推定することは困難であるが、柱穴状小土坑を有する土坑にはあるいは陥し穴も含まれているかも知れない。また、周溝を伴う土坑は前項で述べた特殊な住居跡の可能性も考える必要があろう。

（3）陥し穴

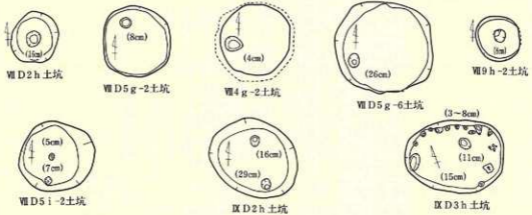
本遺跡で検出された陥し穴は9基である。これらの遺構の時期を明らかにする資料は得られず、時期不明としてある。

田村氏の基準（田村社一 1987）に従って本遺跡の陥し穴を分類するとおおむね次のようになる。

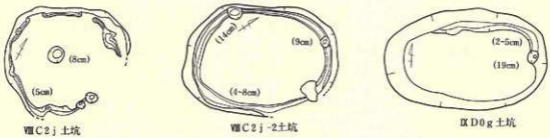
C型と円形の土坑としたものの区分については、氏の集積を参考にして、開口部径が0.8～1.8m・深さ0.5～1.5mで、断面が円筒形や摺鉢型のものをそれに当てた。

遺構の時期は、氏の研究によれば、A型は縄文時代中期末から後期前葉、B1型は縄文時代晩期中葉から平安時代前期、C型は縄文時代前期初頭以前としており、本遺跡の場合もそれにあてはめて考えておく。氏がB1型の時期の考察資料とした火山灰の堆積状況は、VI D 7 e 陥

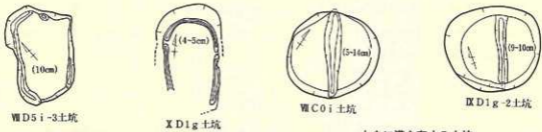
※ ()は柱穴状小土坑・周溝の深さ



柱穴状小土坑を有する土坑

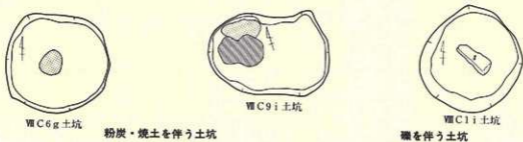


周溝と柱穴状小土坑を有する土坑



周溝を有する土坑

中央に溝を有する土坑



粉炭・焼土を伴う土坑

礫を伴う土坑

第488図 底面に施設等を有する土坑

型	平面形	遺構名 (遺構番号)
A	細長い溝状	VC8j 陥し穴(301)・VIC1f 陥し穴(307)
B1	楕円形もしくは長方形	VID7e 陥し穴(302)・VIC8g 陥し穴(304) VID2c 陥し穴(308)・IXD6b 陥し穴(309)
C	円形もしくは方形	VID8b 陥し穴(303)・VID1j 陥し穴(305) VID7j 陥し穴(306)

第25表 陥し穴分類表

し穴・IXD6b 陥し穴において見られ、氏の見解を支持している。A型のVC8j 陥し穴の埋土上位からも同様の火山灰が検出されているが、埋没速度に関わるものと考えられる。

構築時期を上記のように把握した場合に、占地上での住居跡との関係のみをみる。C型の陥し穴は3基のみであるが、西尾根の南麓部を囲むように分布する。一方、前期初頭から前葉の住居跡は西尾根には皆無であり、それを挟む両側すなわちA区南東斜面と東尾根南斜面の東半部を占地していた。仮にC型の陥し穴とこの住居跡が同時期とすると、居住域と狩猟域の使い分けをしていたと考えられるが、推測の域を出るものではない。

A型はA区と西尾根鞍部付近に位置する。中期末葉の住居跡はA区西半部を占地するが、住居跡の東に小規模の埋没谷があり、それを境界として西側を狩り場とした可能性はあり得る。

B1型は、比定された時期幅が広すぎるが、1基を除き該当する時期の住居跡からは離れている点は指摘できる。

陥し穴の検出数が少なく、場の使い分け論まで踏み込むことは危険であるが、少なくとも比定された時期において、住居跡と陥し穴の占地は重ならないといえることができる。

(4) 土器埋設遺構

確認された遺構は1基のみである。倒立して埋設された土器がほぼ完形で検出された。同土器は大木6から7a式に併行すると考えられ、本遺構は同時期の所産と考えられる。

果内の縄文時代前期から中期初頭の埋設土器は、大木2式に比定される盛岡市堂ヶ沢I遺跡(岩埋文 1980)が初現である。その後は、県北部を中心に円筒下層b～d式期のものが数遺跡で検出されているのに対し、県南部では大木6式に該当する湯田町白木野I遺跡の1基のみである。前期の特徴として現段階では次の点が言える^(注)。①器高が50cm、胴部径が30cmを超える大形のものはない。②掘り方はほぼ土器が埋め込める程度の土坑である。③円筒文化圏においては特定の地区を占地する。

大木7a式では、雫石町塩ヶ森I遺跡や北上市高畑遺跡など住居内からの出土例が多い。

本遺跡の場合は、器高は25cm、開口部径が15cm弱で上記の①には該当するが、掘り方は径が大きえばかりでなく深さも土器の2倍弱である。また、住居跡に接近する場所を占地している点などは、類例とは異なる。大きな掘り方を持つものは松尾村長者屋敷遺跡に1例あるのみで数少ない例と言えよう。

(注) 斎藤邦雄・酒井宗孝(1994)：岩手県の縄文中期葬制遺構について「北奥古代文化」第23号
尚、両氏から直接教示を得た。

(5) 焼土遺構

39基が検出された。遺構の性格上検出状況から時期を特定することはきわめて難しく、個々の遺構については厳密にはその多くを時期不明とせざるを得ない。しかし、同遺構の分布が住居跡に近接することや、検出面で縄文時代前期から中期初頭を中心とする土器片が出土することなどから、その多くは、住居跡と同様に縄文時代前期から中期初頭に属するものが多いと考えられる。特に、周辺から縄文前期の土器が多く出土し、焼土そのものも厚く形成され固く締まっているものについては、住居の炉であった可能性が高いものと思われる。例えば、VID 9 b 焼土(604)・VID 9 d 焼土(605)・VIC 5 h 焼土(608)・VIC 9 e 焼土(609)・VID 3 g 焼土(612)・VID 5 h 焼土(614)・VID 5 h-2 焼土(615)などがそれに該当する。

明らかに平安時代の遺構と考えられるのは、IID 7 e 焼土(639)である。発色・固さにむらがあり、土器片を多く含むことから、廃棄された焼土と考えられる。斜面上方約10mには、本遺構共伴遺物と同時期と考えられる平安時代の住居跡が2棟検出されている。特にXC 9 a 住居跡(164)のカマドが破壊された状態と考えられることから、それとの関連が想定されたが、遺物の接合など直接的証拠は見出だせなかった。

また、性格・時期とも不明な遺構がある。VII B 8 h 焼土はその一部に焼土が形成されることから焼土遺構として扱ったが、他のものとは明確に異なる。斜面に細長く2条のベルト状に形成され、その下位には溝状の掘り込みがある。紹介にとどめる。

2. 上八木田 I 遺跡の集落の変遷

ここで、時期別に遺跡内の住居跡の占地を中心に、その変遷を概観しておく。

本遺跡に於いて住居跡が確認されるのは、縄文前期初頭からである。その後やや疎密はあるものの、前期全般から中期初頭まで継続的・高密度に集落が形成される。

前期初頭から前葉に属する住居跡は14棟確認されている。長軸方向が等高線に平行な長方形・楕円形を基調とする平面形を有するやや小形のものが多い。遺跡の中央部の西尾根南斜面や東尾根の南斜面西半部は避け、東端と西端の緩やかな南斜面を占地する。該期に属すると想定さ

れる陥し穴は、住居の空白部にあり狩り場と居住域と区別できるかも知れない。

中葉では、西尾根南西麓に1棟があるのみだが、近接して同規模・同形状の住居跡があり、2棟がセットになるものかも知れない。

前期の後葉から中期初頭、大木5式期から7a式期において住居数は急激に増大し、本遺跡の中心的な内容を構成することになる。

前期後葉の住居跡は、西尾根南麓と東斜面と東尾根南斜面に多く分布する。前期後葉から末葉とした住居跡は、網目・木目状撚糸文の地文のみの土器が出土したものであり、大木6式期に網目状撚糸文がないとすれば、後葉とした住居と同一に把握できる可能性が高い。これらを含めれば100余棟を数え、重複が著しい。住居の規模・平面形には多様性がある。斜面の等高線に平行な長軸を有する長方形・楕円形が多いが、方形や円形の住居跡もある。比較的小形の住居が多い中で、長軸6mを越す中形・大形住居としたものが、東西両方の尾根の麓部に重複を繰り返して構築されている。それらの中には長軸方向に地床炉が複数個直列的に配置される例があり、規模は小さいもののいわゆる「大形住居」と同様の用に供する施設と考えられる。これらの中形・大形住居と小形住居の配置関係は、同時存在の遺構を明らかにできないので不明という他ない。しかし、中形・大形住居の位置はほぼ限定的である。すなわち、西尾根南斜面に於いては標高262mのライン上に多く、東尾根に於いては266~280mの斜面中央の1ブロックに集中する。しかし、小形住居がこれらの遺構とも複雑に重複していることから、占地上の使い分けはなく互いに隣接して構築されていたのではないと思われる。

前期末葉ないし中期初頭には、東尾根斜面からは住居は姿を消す。西尾根の東半部に遺構が集中する傾向があり、尾根鞍部にも進出する点が特徴である。フラスコ状土坑が東斜面傾斜変換点部にあるが、近隣に規模・形状が類似する土坑が数基あり、また南斜面に同じ形状の土坑が集中するブロックがある。分布域がそれ程広がらないことから、これらはあまり離れない時期の所産であって、該期のものという想定も成り立つ。

西尾根の西斜面からは、前期後葉から末葉にかけての土器が相当数出土したことから、土器捨て場と考えられるが、後葉の住居が麓部を中心に分布していたことと齟齬をきたす。東斜面に位置する住居の捨て場であろうか。麓部の土器がどこに捨てられたかを判明させる資料は得られなかった。

中期の前葉ないし中葉には、本遺跡から住居は一旦消滅する。再び集落が見れるには、末葉まで待たなければならない。しかもそれ以降、前期のような高密度の集落は営まれなかった。中期末葉の住居は、前期の集落が形成された場所とはまったく異なる占地をしている。これらの住居跡は位置関係・土器・石神・炉・焼失など共通点が多い。土器形式上の差異はないが、同時存在ではなく2~3棟の集落の建替えと考えられる。

後期には集落は営まれない。晩期には前葉と中葉において各1棟の住居が、ともに西尾根南西麓部に構築された。

弥生時代のものとしては、後葉の土器片が遺跡全体から疎らに出土したが、遺構は確認されていない。

平安時代になって遺跡の東端に計4棟の住居が営まれる。これらは2棟ずつ近接した位置にありセット関係にあると考えられるが、同時に存在したか否かは明らかではない。

3. 遺物

(1) 土器

本遺跡から出土した土器は、縄文時代早期から平安時代に至るまでと時期幅が広い。ここでは縄文時代の土器を中心に、編年研究の成果を踏まえ、型式や時期の比定を試みたい。本遺跡の遺物は層位的裏付けによって時期を明瞭に区分できる出土状況にはなく、任意の基準を設けて分類せざるを得なかった。そのため時期・型式の比定は、他遺跡の類例との型式学的な比較に立脚したものである。

<縄文時代早期の土器>

第1群1類 貝殻腹縁による斜位刺突と条痕を特徴とする土器で、横位の沈線を有するものもここに含めた。完全に一致する例は見出し難いが、口唇部断面が外削ぎである点、口縁が不均整波状となるらしい点、横位沈線を有する点などの特徴から、寺の沢式の前後に位置付くものであろう。

第1群2類 器形はキャリパー状で、沈線と貝殻腹縁圧痕による幾何学的模様などの特徴から、物見台式系統の土器といえる。

<縄文時代前期の土器>

第II群1類 aは組縄縄文を地文とし丸底に近い器形を有する土器で、高橋氏によれば、早稲田6類cの時期に認められ、仙台湾周辺では宮田Ⅲ群～大木1式群に類似性を求められるという(高橋至貴子 1992)。本遺跡でもそれに従いたい。

bは胎土・焼成などの質感がaに酷似するもので、時期も同時かそれに近似する可能性が高いと考えられる。

cのうち、厚手の非結束羽状縄文(A)は、0段多条による2種の原体を交互に横位回転させる点、口唇部が平らに整形される点などが長七谷地Ⅲ群B種に類似する。結束羽状縄文のイの類は長七谷地Ⅲ群の中には殆ど無い。仙台湾周辺では名取市宇賀崎貝塚(宮城県教委 1980)

B V類 b に結束羽状縄文、B V類 c に非結束羽状縄文があり、両方とも上川名Ⅱ式として位置付けている。本遺跡の結束羽状縄文は、同遺跡例に酷似する。このことから、アおよびイは長七谷地Ⅲ群、上川名Ⅱ式に併行するものと考えられる。ウも羽状縄文はあるが、ア・イより相対的に薄手で硬質であることから別個に取り上げたもので、やや新しくなるものかも知れない。大木1式には結束羽状縄文はみられず大木2式になって現れる(興野義一 1968)という指摘をふまえれば、その時期に該当するものか。

d は沈線のみを施文した土器であるが、早期の例えばムシリ1式にみられるような明瞭な沈線とは異なる浅い凹線であり、繊維を多量に含み厚手であることから前期初頭の所産と考えたが詳細は不明である。

第Ⅱ群2類 本類は繊維を含むもののうち、1類より装飾性の高いものを集めたもので、異時期・異型式のものを含んでいる可能性がある。aとbの口唇端に施文する土器は、胎土・焼成が類似し、互いに近似する時期と思われる。aの組紐を地文とし、篋状工具で口唇端施文するものは鳴瀬町金山貝塚(宮城県教委 1977) A V類中にみられ、上川名Ⅱ式に比定されている。しかし同時に、早期末から大木2式までみられる類の中に組紐回転文も含まれている。本遺跡の場合は、口唇端施文という点で、次に掲げる第Ⅱ群3類aと類似し、同類に組紐の地文もあることから、それに近い時期を想定することが許されるものと思われる。

cは、本遺跡としては数少ない横位に回転押された燃糸文土器である。胎土に繊維を少量含む薄手の土器で、後述する第Ⅱ群6類の燃糸文土器とは明白に異なる。これに類似する土器は仙台市三神峰遺跡(仙台市教委 1980)や七ヶ浜町大木園貝塚(興野義一 1968)にあり、地域的に離れるが、それらと同類とみて大木2 a式としたい。

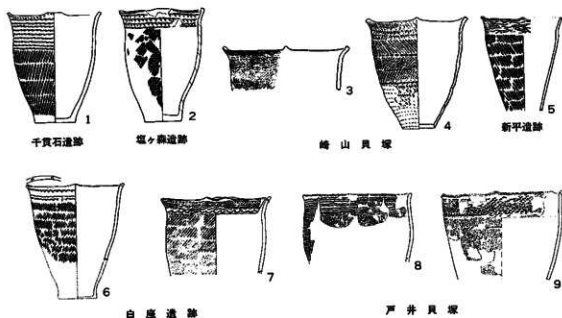
第Ⅱ群3類 aに類似する資料は、県内では金ヶ崎町千貫石遺跡(第489図1、金ヶ崎町教委 1973)・雫石町塩ヶ森遺跡(同2、岩埋文 1982)・宮古市崎山貝塚(同3・4、宮古市教委 1987)、県外では青森県階上町白座遺跡(同6・7、階上町教委 1989)・北海道戸井町戸井貝塚(同8・9、戸井町教委 1992)において見ることができる。

時期の位置付けであるが、熊谷氏は千貫石遺跡例の口唇部の刻みに注目して大木2式を想定(熊谷常正 1982)し、その後塩ヶ森遺跡例について連携伴土器から大木3式に比定し、円筒下層a式と併行する可能性を指摘している(熊谷常正 1983)。崎山貝塚では第489図3は口縁部の不整燃糸文に着目し大木1式に、同6はS字状連鎖沈文的な撚りのない不整燃糸文を施すもので大木2式に当てている(高橋憲太郎 1987)。白座遺跡においては、円筒と大木系の両方の土器文化の影響を強く受けて成立したのとして「白座式」を設定したが、その一部に類似資料があり、大木2 a式と円筒下層a式に併行するものとしている(杉山 武 1989)。また、戸井貝塚では円筒下層a式の古いタイプと位置付けた一群に含めている(佐藤智雄 1992)。

このように類例はまだ少なく、時期的位置付けについては円筒土器と大木系土器の併行関係の問題も内包して必ずしも定まっているとは言えない状況にある。

本遺跡の場合、層位的裏付けはなく型式学的類推を試みる他ないが、次の第4類に入れた土器に口縁部文様帯にS字状連鎖沈文を施し口唇端に刻みを入れたもの(第497図1395)がある。やや器形が縦に長い印象がある点と、口唇端の刻みが篋状工具ではなく棒状工具によるものである点、突起の有無が不明な点などは異なる要素ではあるが、文様構成上の類似性が感じられる。口縁部にS字状連鎖沈文を施す同種の土器は、江釣子村(現在は北上市)新平遺跡にあり(第489図5、岩手県立博物館 1982)、実測図からは口唇端の刻みが篋状工具によるものと見られること、4単位の突起を有することは、本類aとの類似性をより高めている。しかし、本遺跡例よりも胴部の膨らみは少ない。器形がより本類aに近いのは崎山貝塚出土の土器(同4)である。同土器がS字状連鎖沈文への過渡的様相を示すものと考えれば、本類aと第4類をつなぐものという見方が可能であろう。このことから、本類aは、大木2a式の所産と考えておく。

bは、不整然系文の特徴から大木2式であろう。



第489図 第II群3類土器に類似する資料

第Ⅱ群4類 S字状連鎖沈文を有することから、大木2b式に比定される。

第Ⅱ群5類 鋸歯状の沈線を有するものとして器形の異なるものをも一括したため、異なる時期のものも含めている可能性がある。

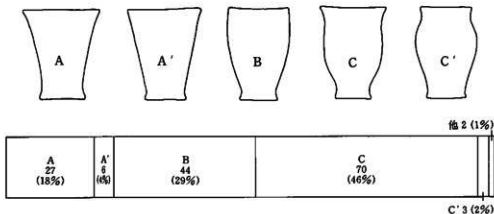
口頸部を中心に鋸歯状沈線が施されるものは、大船渡市清水貝塚（西村正衛他 1958）の第4類土器、秋田県協和町上の山口遺跡（秋田県教委 1988）の第7類土器にあり、両者とも大木4式に比定されている。また横位鋸歯状沈線に縦位短沈線が2条垂下する土器は、宇賀崎貝塚の大木3式と大木罌貝塚（七ヶ浜町教委 1972）の大木3式・4式の土器の中にある。大木罌貝塚では大木4式の沈線は断面凹形で、沈線底部には木の椎管束の跡とみられる細いすじがみられるという。また、モチーフは大木3式の文様からきたものとしている。本遺跡の沈線施文法は、大木罌貝塚のそれに類似する。このことから、本類を大木4式に位置付けておく。

第Ⅱ群6類 本遺跡においてもっとも多く出土した土器群である。遺構の共存関係からおおむね同時期のものとして把握することが可能である。

焼成・胎土・色調 焼成は全体的に良好で硬質で、胎土には粗砂を含むものが多い。色調は黄褐色から暗褐色でやや赤味を帯びるものもある。

器形（第490図） 底部から直線的に外傾するAタイプ、口縁部に最大径を有し胴部でやや膨らむBタイプ、胴上半部でやや膨らむが口縁部が外反するCタイプに大別される。数は少ないが、Aタイプより外反するA'タイプや、最大径が胴部にあるC'タイプもある。多少の相違があり、またこれらの中間形もあって判然としないものもあるが、大まかに分別すればこれらのうちのいずれかに含まれる。いずれのタイプに属するものも、底部が外側にやや張り出すものが殆どである。また、数は少ないが、上面観が楕円形となる土器もある。

タイプ別の点数とその割合を図に示した。遺構内と遺構外から出土した土器のうち、器形の



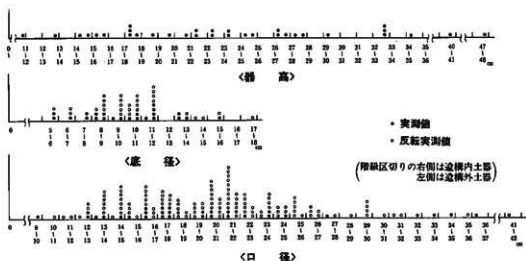
第490図 第Ⅱ群6類土器器形タイプとその割合

わかる 152 点を対象としたものである。C タイプが最も多く約半数を占め、B タイプがそれに次ぐ。しかし、同じ C タイプでも、B に近いもの、C' に近いものもあり、同列に扱うことに危険性を感じるものもあるが、おおよその傾向はつかめるものと思う。遺構内の土器に限れば、A タイプ 18 点、A' タイプ 2 点、B タイプ 25 点、C タイプ 24 点、C' タイプ 1 点、その他 2 点と、全体傾向より A・B タイプの割合が高い。このことが、資料の制約によるものか有意性のあることなのかは、にはわかには判断できない。

計測値 (第 491 図) 最小の値を示すのは、768 (器高 11.6cm・口径 9.5cm・底部径 6.0cm) で、1090 (器高 13.6cm・口径 10.2cm・底部径 7.0cm) がそれに次ぐ。最大値を示すものは欠損もあって明確ではないが、実測できた土器の中では口径 41.5cm のものが最大である。全体的な傾向としては、口径 20cm をピークとしてその前後 5cm 内外に集中している。底径では 10cm 前後が標準的である。器高はバラエティーがあるが、20~30cm が最も多い。

地文 (第 492 図) 実測できた 200 点のうち 133 点 (約 3 分の 2 に相当) が、絡条体によるものである。特に網目状捺糸文が多く、全体の約半数を占める。縄文の回転またはその組み合わせによる回転によるものの中では綾格文が最も多いが、このなかには文様としての装飾性を有するもの他に縄文原体の末端処理によるものも含めている。あるいは、斜縄文に含めるべきかも知れない。

北上市滝ノ沢遺跡 (北上市教育委員会 1983) と金ヶ崎町和光 6 区遺跡 (岩埋文 1987) の、本類に時期的に近似する土器の地文と比較してみた。対象を実測した土器に限ったため、全体



第 491 図 第 II 群 6 類土器の計測値

上八木田 I 遺跡

第II群6類 200点

多軸 4 (2%)

附加条 1 (0.5%)

網目状摺糸文 61 (31%)	木目状摺糸文 29 (15%)	摺糸文 39 (20%)	羽状 10 (5%)	綾絡文 31 (16%)	斜縄文 20 (10%)	その他 0%
-----------------------	-----------------------	--------------------	------------------	--------------------	--------------------	-----------

第II群7類 20点

木目状摺糸文 6 (30%)	羽状縄文 2 (10%)	綾絡文 4 (20%)	斜縄文 6 (30%)	その他 2 (10%)
----------------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------

和光 Ⅱ 区遺跡

大木5式 20点

網目 1 (5%)	摺糸文 11 (55%)	斜縄文 6 (30%)	その他 2 (10%)
-----------------	--------------------	-------------------	-------------------

大木5-6式 10点

摺糸文 3 (30%)	羽状縄文 2 (20%)	綾絡文 1 (10%)	斜縄文 2 (20%)	その他 2 (20%)
-------------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------

大木6式 6点

摺糸文 2 (6%)	羽状 1 (3%)	斜縄文 24 (75%)	附加条 1 (3%)	その他 6 (19%)
------------------	-----------------	--------------------	------------------	-------------------

滝ノ沢遺跡

深鉢A₁ 大木5式 18点

網目 1 (6%)	木目 1 (6%)	摺糸文 6 (33%)	斜縄文 9 (50%)	その他 1 (6%)
-----------------	-----------------	-------------------	-------------------	------------------

深鉢A₁・A₂ 大木5-6式 27点

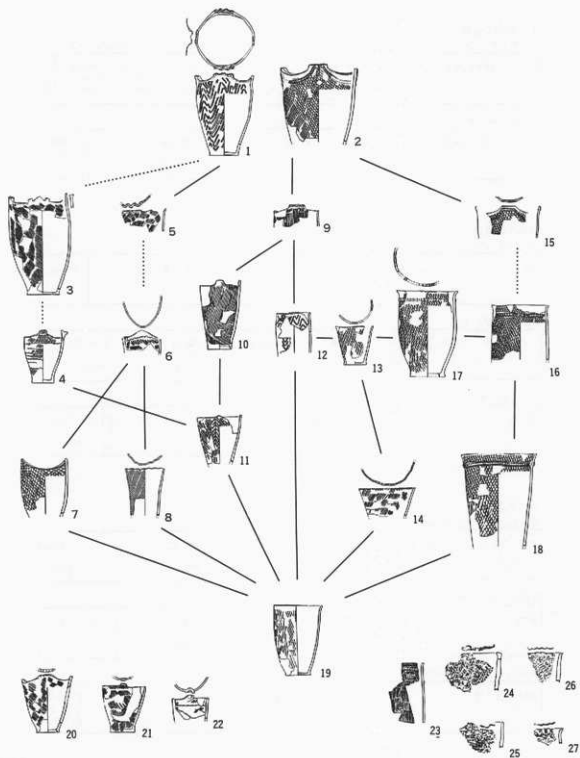
網目状 2 (7%)	摺糸文 13 (48%)	多軸 1 (4%)	斜縄文 7 (26%)	その他 4 (15%)
------------------	--------------------	-----------------	-------------------	-------------------

深鉢A₁ 大木6式 62点

羽状縄文 6 (11%)	綾絡文 2 (4%)	斜縄文 40 (75%)	附加条 2 (4%)	その他 3 (6%)
--------------------	------------------	--------------------	------------------	------------------

※ スタリントーンは踏条件

第492図 第II群6・7類土器の地文と他遺跡との比較



第493図 第II群6類土器相互の関係

の分布構成を直接反映する資料にはなり得ないが、おおよその傾向は把握できるものと思う。3遺跡とも原体に単軸給条体を用いたものが多いことがわかるが、本遺跡において網目状燃系文が抜きん出ていることが、比較の上からも特徴点といえよう。

類内相互の関連性 (第493図) 本類は装飾性の低い土器で特に特徴を有しないものも多く、類として一括することには危惧もあったが、遺構の相伴関係という観点と共に、型式学的にも強い関連性を持つと考えられた。それを模式的に線でつないでみたのが第493図である。この線は時間的前後関係を意味するものではなく、従って変化という観点で把握しようというものではない。しかし、土器製作主体者が製作にあたっての前提や完成イメージの中に意識したものとして、この関連性を推測することは許されるであろう。

まず全体の傾向では、口縁部や口頸部隆帯に着目すると、互いに対向する位置に一对の装飾体や突起・沈線が施されるものが多いことに気づく。それは1単位の場合もあるしまた2単位の場合もある。さらにその装飾体や突起・沈線の形状や施文法には、相互に類似性があると言える。次に個々に見ていく。

<1・2…3…4-11-19> 3の山形突起は1の鋸歯状装飾体を縦方向に深く刻むことから派生するであろう。4の円文は3の他の一对に観察される。4と11の間に21を置くと関係が明白になる。

<1・2-5…6-7-19, 6-8-19> 1の装飾体が鋸歯状であるのに対し5のそれはむしろ波状というべきものである。5と6では波状となる位置が異なり、この間には飛躍がある。24・25は6と10の中間に位置すると考えられる。

<1・2-9-10-11-19, 9-12-13-19> 9と10の間には弁状突起上の圧痕が浅く爪跡のみが残る20を置くことができる。10の突起上は無施文である。12は9の弁状突起と指頭状圧痕が低平化した印象がある。13は12の弁状突起が全く無くなり指頭状圧痕のみが残ったようにもみえる。

<1・2-15…16-18-19> 15は口唇部に沈線を施文し、隆帯は口縁に沿って波状である。16との間には飛躍があるが、平縁に平行する隆帯の一部に沈線を施す。

<その他> 22の隆帯のモチーフは、2のそれと関連するであろう。また8と14とは、指頭状圧痕の方向が上からか横からかという違いとして把握できるが、その中間形ともいえるべきものが26・27である。口縁部の内側上方向からの圧痕により、口縁部は前後に波状となっている。この他にも観点を定めることによって、これとは異なった関連性を把握することも容易である。

類例との比較 本類の中で特徴的な土器は、口縁部に鋸歯状の装飾体を有するものである。類似する土器は滝ノ沢遺跡 (前掲) の深鉢A 1第I群1~4類、・和光6区遺跡 (前掲) の深

鉢A第1類の中にあり、両遺跡とも大木5式に位置付けている。

まず滝ノ沢遺跡との比較を試みたい。滝ノ沢遺跡では「山形の貼り付け」を有するものをI群2類、「波形の突起」を有するものをI群4類としている。これらは、本遺跡の第II群6類aアに相当する。器形も本遺跡のCタイプとしたものに等しく、類似性を高めている。また、滝ノ沢遺跡I群5類は本遺跡の第II群6類bエに等しい。相違点としては、滝ノ沢遺跡ではI群6・7類を含め縦位のイナズマ状の隆帯・沈線が顕著であるが、本遺跡ではやや類似するものが1点ある(第498図42)だけで他には見当たらないことがまず上げられる。また、滝ノ沢遺跡に多い裝飾体上の竹管円形刺突が本遺跡においては主体的ではないこと、滝ノ沢遺跡I群1類の「円形の貼り付け」は本遺跡本類ウの中に若干はあるものの滝ノ沢遺跡ほど多くはないことも異なる点といえよう。

次に和光6区遺跡と比較をする。同遺跡で大木5式としているのは深鉢A1～3類・15類、深鉢B1類である。これらのうち、本遺跡と類似するのは、深鉢A2類の一部と3類・15類である。深鉢A2類の一部とは「山形の貼り付け」「台状の波頂部」を有するもので、本遺跡の本類aア・イに当たる。深鉢A1類の「有孔円盤状の貼り付け」も本遺跡にわずかではあるが存在する。器形は深鉢A15類は本遺跡のAタイプとCタイプに相当する。しかし、深鉢A2類・3類は、本遺跡ではごくまれなA'タイプのものが多い点が異なる印象を受ける。他に大きく相違する点は、和光6区遺跡の「鋸歯状の沈線」「鋸歯状の粘土紐」「肥厚した台状の口縁部」である。本遺跡では、鋸歯状の沈線を有する土器は第II群5類にあるが、本類とは時期を異にするのではないかと考えられた。また、鋸歯状の粘土紐はやや類似するものが1点(第339図1416)あるだけで他にはない。肥厚した台状の口縁部は全くみられない。これらのことから、本遺跡との近似性はみられるものの、滝ノ沢遺跡と比較すれば相対的に異なる点が多い。

時期 さて、県内で大木5式土器が出土した遺跡は、他に水沢市中島遺跡(草間俊一他 1965)・陸前高田市牧田貝塚(陸前高田市教委 1971)・大船渡市清水貝塚(岩手県文化愛護協会 1976)・一関市庄司合遺跡(一関市教委 1977)・陸前高田市大陽台貝塚(陸前高田市教委 1979)などがある。これらの遺跡の大木5式の内容は、細い粘土紐をちぎって鋸歯状に貼り付けたもの、縦位の鋸歯状沈線を有するもの、切り込みの深い鋸歯状裝飾体を有するものなどがある。その特徴は、大木貝塚(興野義一 1969、七ヶ浜町教委 1979)・宮城県南方町長者原遺跡(興野義一 1970)などの仙台湾周辺のものと同様と言っているほど類似する。

一方、滝ノ沢遺跡・和光6区遺跡の大木5式の内容は、仙台湾周辺のものと同様の部分も多いが、それとやや趣きや施文法を異にするものも含まれている。すなわち、地文として縦位の撚糸文を多用する点、鋸歯状裝飾体というよりはむしろ波状とでもいふべき弁状の突起を有する点、口頸部への隆帯の貼り付けなどである。本遺跡の本類土器は、両遺跡が仙台湾周辺と

異なる部分において両遺跡に類似するということが可能であろう。さらには、和光6区遺跡よりは滝ノ沢遺跡の土器により近い内容をもっているといえる。逆に言うと、和光6区遺跡の方がより仙台湾周辺のものに近いということになる。

これらのことから、本遺跡第II群6類土器は、本遺跡と仙台湾周辺の間に滝ノ沢遺跡・和光6区遺跡を挟むことによって、そのほとんどが大木5式に併行すると考えることができる。

しかし、本類土器全てが大木5式に限定されるかどうかは、まだ考慮の余地がある。太い粘土紐による波状の貼り付けが伴う土器（例えば第497図15や第495図23、第362図1631・1632など）は大木4式に相当するものかも知れない。また、次の7類土器や8類土器のなかに、本類と同様の木目状捺糸文・縦位または横位の綾絡文・羽状縄文・斜縄文などを地文とする土器がある。この事は、本類の地文のみの土器が、大木6式期まで用いられた可能性も考えなければならないことを示している。網目状捺糸文に限っては、本類の中で完結するようである。

ただ、本類に含めた土器が同じ時期に確実に共存していることは、遺構の共存関係などから明らかであり、それは大木5式期（一部は大木4式まで遡るか）であったと考えられる。

第II群7類 器形からaとbに分類した。aは全体として長胴形を呈するが、6類土器のCタイプと比較して、胴部の最大径がそれより低い位置にあるのが特徴といえる。bは球形深鉢・脚付鉢形土器とも呼ばれる。a・bとも凹線や半截竹管による平行沈線および刺突文を多用する。この特徴は宮城県長根貝塚（宮城県教委 1969）第二群にあり、それとの対比において本類土器は大木6式に比定される。

県内で大木6式土器が出土しているのは水沢市中島遺跡（前掲）・一関市庄司合遺跡（前掲）・大迫町天神ヶ丘遺跡（大迫町教委 1974）・大船渡市清水貝塚（前掲）・盛岡市大館町遺跡（盛岡市教委 1978）・江釣子村鳩岡崎遺跡（岩手県教委 1982）・北上市滝ノ沢遺跡（前掲）・金ヶ崎町和光6区遺跡（前掲）・北上市煤孫遺跡（岩埋文 1993）などである。

本類aとそれらを比較すると、口縁部が肥厚して文様が胴部にまで及ぶような典型的な大木6式土器は、本遺跡では極めて少ない。口縁部に弧線や刺突文が集約され、胴部は地文のみで構成される点が本遺跡の特徴といえる。口縁部文様では庄司合遺跡第II群、大館町遺跡第II群8類によく類似した土器を見出すことができる。

本類bは、球形深鉢とも呼ばれるもので、稲野氏は北上市周辺の同種の土器を大木系（A種）・他系統（B種）に分けその関係と推移について明らかにした（稲野彰子 1991）。本遺跡には特有の土器もあり単純な比較はできないが、胴部形状・口縁部形状・地文などの氏の分析にもとづきB種第2段階から第3段階（一部は第1段階か）に位置づくもので、大木6式に相当するものと考えられる。

第496図34・第501図117のように上面観が波彩となる変形の花弁状口縁としたものは滝ノ沢遺

跡に1点みられるのみであるが、それが6類bエに分類した花卉状口縁の承擔をひくものかどうかは確証はないものの、波形が6単位より多く細かいものもあることから、現時点では関連のあるものとしておく。

本類の地文は、絡条体を原体とする比率が6類より下がり、縄の回転によるものが多くなる。絡条体も木目状燃糸文が圧倒する点が6類と大きく相違する。滝ノ沢遺跡・和光6区遺跡と比較すると、両遺跡とも大木6式ではやはり絡条体は大きく減少するが、その比は本遺跡を大きく凌ぐ。また本遺跡で後まで残る木目状燃糸文は、両遺跡では全く見られなくなる。このことは地域差として把握することが可能であろうし、それがおそらくは円筒土器の影響の濃淡による差であろうと考えられる。

しかし第501図111・112をはじめとして破片資料の中にも、大木6式に比定していいものかどうか疑問が残るものもある。あるいは大木7a式に属するものもふくまれているかも知れない。ここでは、次の理由により大木6式の範疇で把握した。

中期最古時期の土器として、宮城県糠塚貝塚（加藤 孝 1956）第二類、長根貝塚第三群土器をおくことについては、いわゆる「糠塚式」を認めるか否かの立場を越えて、大方の支持するところであろう。長根貝塚第三群土器に類似する土器は、本遺跡に近接する上八木田V遺跡において多く出土し、第三群1類に分類され大木7a式として報告されている（平井達 1992）。しかし、本遺跡においては同類の土器はごくわずかしか出土していない。逆に本遺跡に類似する土器は、上八木田V遺跡では稀有である。この相違は、遺跡位置が近接していることからすれば時期差として理解することが妥当と考えられる。

第II群8類 口縁部への燃紐圧痕と絡条体の圧痕が施されたもので、松尾村長者屋敷遺跡（岩埋文 1983）III群2類と類似し、円筒下層d式の影響下の所産と考えられる。器形は、胴部最大径が下半部にあり口縁部がやや外反する点で本遺跡7類aに類似し、大木6式との関連性も強い。8類aイとした燃紐圧痕が幾何学的に施された土器は、口縁部形状から大木6式の方により近いと考えられる。口縁部に燃紐圧痕が施された大木6式土器は、山形県吹浦遺跡（荘内文化研究会 1955、山形県教委 1988）、県内では煤礫遺跡にもありそれらと類似するものである。しかし、原体の側面圧痕については大木7a式・円筒上層式にもみられるものであり、それに該当するものも含めている可能性がある。

第II群9類 aの櫛歯状沈線土器は、共存関係や施文の類縁性などからは6類・7類のいずれにも位置付けることが困難だったものであるが、器形・出土地点などから大木5式または6式に併行するものと考えられる。

bの竹管文土器は、モチーフおよび施文が浅い特徴から7類とは異なるものと考えられる。大木3式の所産か。

c・dには時期の異なるものも一括している。第501図130・131は、住居跡の床面出土土器である。土器の時期を明らかにできなかったことから、住居跡の時期についても不明とした。131は地文は6類に共通するが器形は口縁部が大きく外反する点が異なる。また、130は器形・地文は6類にほぼ共通するが、口縁形状（波状の形状と口唇部への筒状工具による施文）と底部網状底が異なった印象を与える。第501図128・129も器形・口縁形状・口唇部施文などの点で6類とはやや趣を異にする。1844・1846・1847（第374図）は円筒下層式土器である。

＜縄文時代中期の土器＞

第Ⅲ群1類 大木7 a式と一部7 b式に該当すると考えられる土器群である。隣接する上八木田V遺跡の第Ⅲ群1類に相当する。三角形形刻文・波状沈線・横位沈線と縦位短沈線を組み合わせる特徴などは同遺跡に類似する。

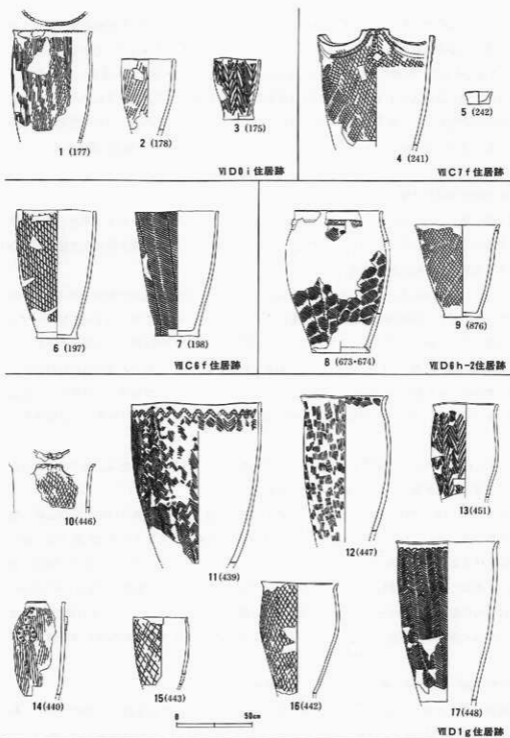
しかし、相違点も多い。まず出土量であるが、上八木田V遺跡の主体が本類に該当する土器であるのに対し、本遺跡の場合のごく少量に過ぎない。次に施文法では、同遺跡I類1 aやbの一部のような縦位に隆帯を貼り付けるもの、I類2 cの短沈線を隙間なく充填する手法、I類4の短沈線が刺突化したもの、I類5の隆帯が文様を構成する土器などは本遺跡にはない。また沈線は、本遺跡の場合は凹線を主体とするが、上八木田V遺跡は鋭利な工具によって施文するものが多い。さらに、同遺跡にみられる装飾性の高い突起や把手は本遺跡では皆無である。

これらのことから、本遺跡と上八木田V遺跡は隣接する位置にありながら、大木7 a式のなかでも若干時期を異にするのではないかと考えられる。

bの1506・1507（第354図）は天神ヶ丘遺跡第Ⅲ群2類、大館町遺跡（1976）第Ⅲa群3類に類似する。1863～1867（第375図）の口縁部に縦位の側面圧痕を施す技法は円筒上層a式の影響と考えられる。cのうち1872～1878（第376図）は疑問な部分もあるが、胎土・焼成を考慮して本類に入れた。dの1508（第354図）は不均整な波状口縁で口唇部にも刻みを有するが、口縁部の山形の沈線モチーフは大館町遺跡第Ⅲb群5類に通じる。1879・1880（第376図）は複合口縁に側面圧痕が施される手法から大木7 b式と考えた。1882（第376図）は円筒上層式か。

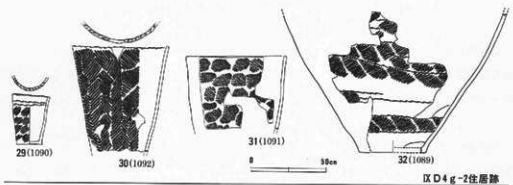
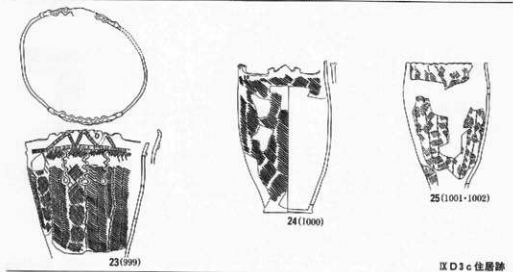
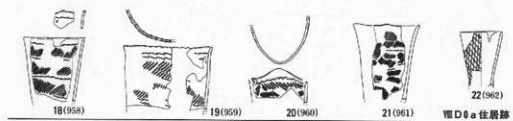
第Ⅲ群2類 渦巻き状の隆帯の特徴から、大木8 b式に比定される。

第Ⅲ群3類 沈線に区画された曲線の文様から、大木10式に比定される。1887・1888（第377図）の沈線は区画の意味をもたないが、便宜的にここに入れた。摺糸文の手法・胎土などからは同時期と思われる。



※ ()内は遺物番号。以下同じ。

第494図 遺構内共伴土器(1)



第495図 遺構内共伴土器(2)



第496図 遺構内共存土器(3)

〈縄文時代後期の土器〉

第IV群 1類は比定できる型式はないが、大木10式に後続する土器である。2類は、平行沈線の特徴から十腰内I式に比定される。3類は、器形・沈線・刺突の特徴から加曾利B1式に比定される。この土器は、近接する上八木田Ⅲ第IV群1類の刺突を有する土器に類似し、口縁形状からそれに後続するものと考えられる。

〈縄文時代晩期の土器〉

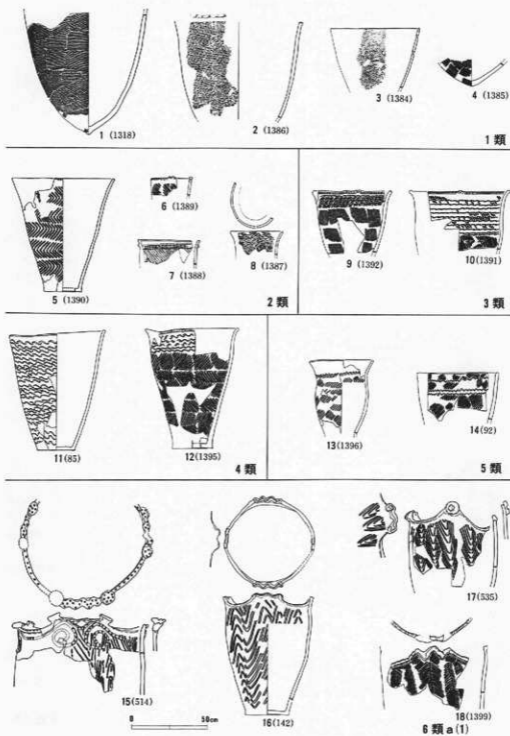
第V群 1類は入組文の特徴から大洞B1式、2類は大洞B2からBC式、3類は大洞C2式にそれぞれ比定される。

〈弥生時代の土器〉

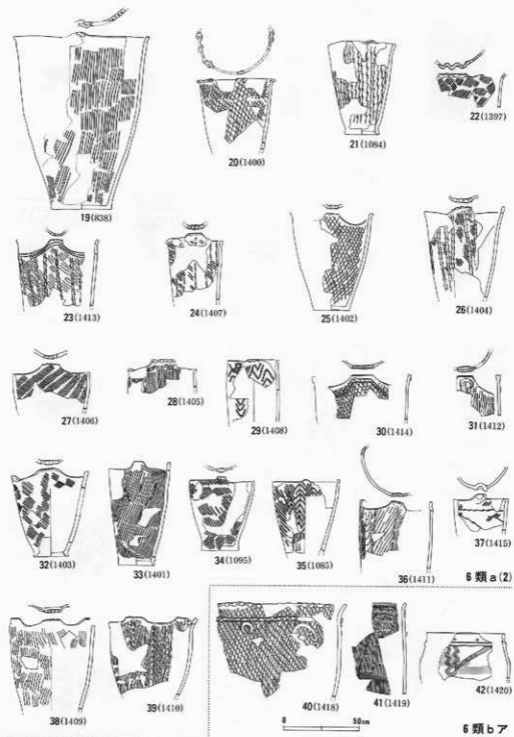
第VI群 不整燃糸文・集合沈線・交互刺突およびそれに類似する刺突などの特徴から、赤穴式に比定される。

〈平安時代の土器〉

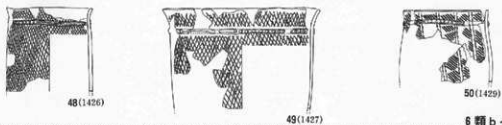
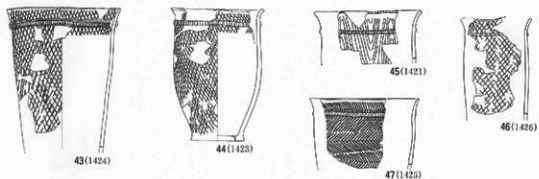
第VII群 相原編年(相原康二 1981)の第Ⅷ群、高橋編年(高橋信雄 1982)の第Ⅲ-2群に相当し、平安時代前半期の土器と考えられる。



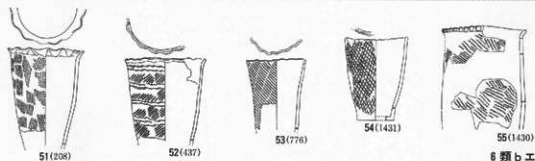
第497圖 第II群土器集成圖(1)



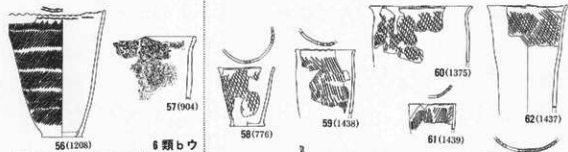
第498図 第II群土器集成図(2)



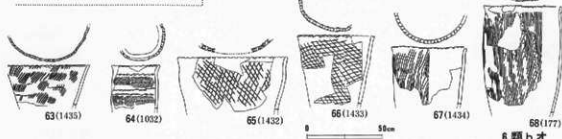
6類 bイ



6類 bエ

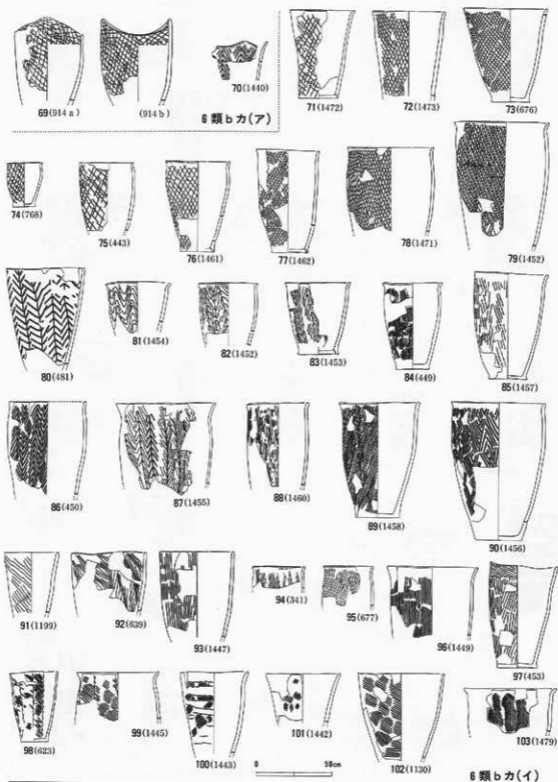


6類 bウ

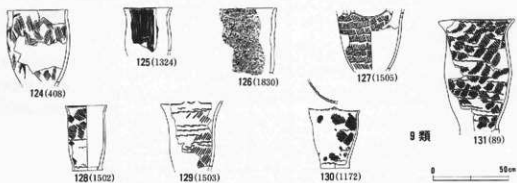
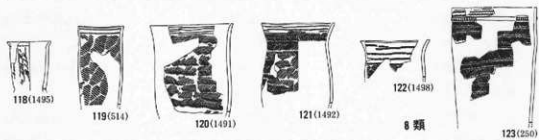
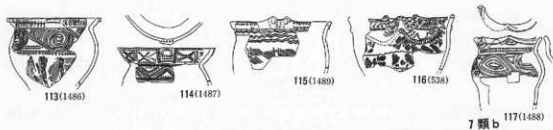
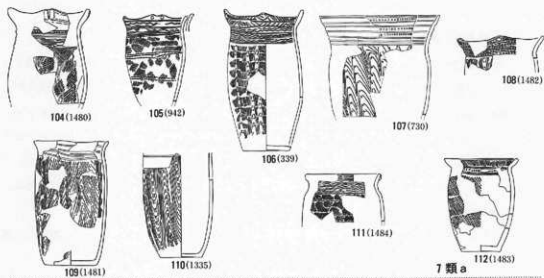


6類 bオ

第499図 第II群土器集成図(3)



第500図 第II群土器集成図(4)



第501圖 第II群土器集成(5)

〈土器の出土状況〉

第502・503図は、復元し実測した土器を除いた遺構外出土土器破片の分類別の分布状況を示すものである。本来は、可能な限り個体数が反映されることが望ましい訳だが、胴部破片が圧倒的に多く、それらが同一個体か否かの判断を逐一行うことは整理の進行上できなかった。そこで、先ず口縁部破片のみを抽出し、そのうち同一個体と思われるものを全て除外してカウントしたものである。明らかに別個体であっても、胴部破片や底部破片は含まれていない。よって、ここに示された点数は、出土個体数の最小値を表すものとして理解されるものである。個別に見る。

第Ⅱ群1類aの組縄縄文とそれに類似する土器は、尾根の鞍部を除き麓の平坦な部分の全域に分布する。

第Ⅱ群6類はA区からの出土はない。B区西尾根の鞍部にも分布域が拡大し、特にその西斜面に分布する。

第Ⅱ群7類(一部は第Ⅲ群1類も含む)は、容易に区別できない場合があったので一括した。B区西尾根の鞍部とその斜面に厚いが、特に西斜面に集中的に分布する。B区東尾根からは殆ど出土せずA区は皆無である。

第Ⅱ群8類は、ほぼ第Ⅱ群7類と分布域が重複する。特にB区西斜面からの出土量が多い点が着目される。

第Ⅲ群3類はほぼA区に限定されると言ってもいいだろう。同時期の住居跡はA区でのみ検出されている。

これらの出土状況は、住居跡の存在・土器捨て場・土壇削行等との関わりにおいて厳密に分析されるべきではあるが、おおまかに言って次の事柄を推定させる。

- ・ 第Ⅱ群6類から8類にいたるまで、西尾根西斜面の出土量が際立って多い。遺構は同区域が稀薄であったことを考えれば、同区域が大木5式から6式期に至るまでの土器捨て場として活用されたと把握することが妥当であろう。ただし出土状況は、急斜面のためか層位的に分離することはできず渾然としていた。
- ・ 第Ⅱ群7類と第Ⅱ群8類の分布域の重複は、それらが互いに時期的に併行関係にあるかあるいは近接することを想定させる。本遺跡では、遺構内での確実な共存関係や層位的裏付けは確認できなかったが、大木6式と円筒下層d式との併行関係を消極的ではあるが支持する出土状況と言える。

〈第Ⅰ群〉貝殻文



〈第Ⅱ群 1類 a〉組編織文



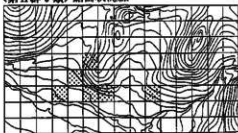
〈第Ⅱ群 3類〉重層する横位綾繪文



〈第Ⅱ群 4類〉S字状連鎖沈文



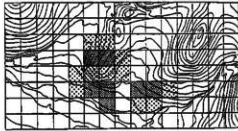
〈第Ⅱ群 5類〉鋸歯状沈線



〈第Ⅱ群 6類 a-ア〉鋸歯状飾体

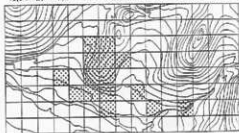


〈第Ⅱ群 6類 a-イ・ウ〉弁状突起・円形突起他



第502図 土器出土状況(1)

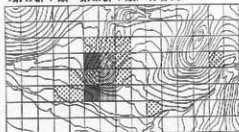
〈第II群 6類 b-ア〉鋸齒狀隆帶・曲線の隆帶



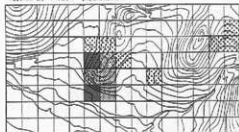
〈第II群 6類 b-エ〉花卉状口縁



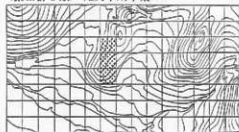
〈第II群 7類・第III群 1類〉竹管文



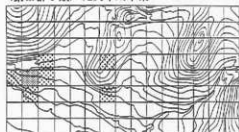
〈第II群 8類〉側面圧痕



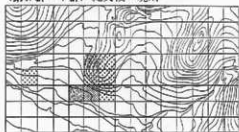
〈第III群 2類〉縄文中期中葉



〈第III群 3類〉縄文中期末葉



〈第IV群・V群〉縄文後・晩期



〈第VI群〉弥生



第503図 土器出土状況(2)

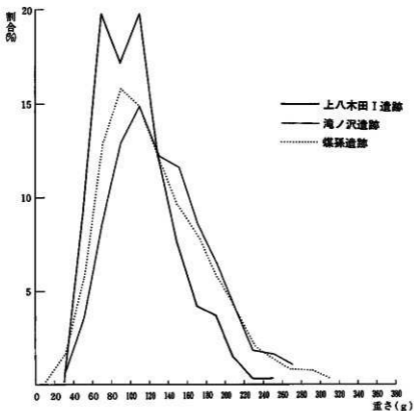
(2) 石錘

出土量・石材・計測値・分類等について、割合や分布・傾向のまとめは、既に個々の器種の説明で行っているのので、ここでは本遺跡で大きな出土割合を示している石錘と敲磨器類A群、および全体的な石器組成割合について取り上げることとする。

ア、石錘

本遺跡で出土した石錘は353点である。本遺跡と時期的に近似する遺跡で、多量の出土を見た遺跡との統計的な比較をしてみた。比較対象遺跡は、北上市滝ノ沢遺跡(2599点出土)、北上市煤孫遺跡(2393点)である。重量の分布を、全体に占める百分率で表した(第504図)。3遺跡とも60~160gが主体をなしほぼ同様の分布を示すが、本遺跡の場合若干軽い方に寄っていること、分布集中度が高いことが特徴と言えよう。

次に長軸方向に打ち欠きのある長軸型と、その逆の短軸型の出土点数を見てみる。いずれにもふくまれないものは除外した。煤孫遺跡の場合はその形状分類においてa・b・e~gを長



第504図 石錘重量分布割合

軸型、 $h \cdot i$ を短軸型とした。上八木田 I 遺跡の場合は長軸型204点 (58%)・短軸型114点 (32%)、滝ノ沢遺跡は長軸型1218点 (47%)・短軸型905点 (35%)、煤孫遺跡は長軸型1685点 (70%)・短軸型266点 (11%)と、3遺跡とも長軸型が多い点は同様であるが、全体に占める割合は、煤孫遺跡において長軸型が際立って高く、本遺跡と滝ノ沢遺跡の差異は相対的に小さい。

また長軸型と短軸型の重量分布では、本遺跡と滝ノ沢遺跡の場合、長軸型に比べ短軸型の方が10~20g程度小さい値の方に偏る傾向がうかがえる。

さて、藤村氏は東北地方の58遺跡の石鏝を集成して検討を加えている(藤村東男 198)。それによると、重量は60~200gにピークがあることを指摘しているが、前掲3遺跡ともその指摘に合致する。また、長軸型と短軸型では時期差・地域差・重量差が認められないという。縄文前期後葉から中期初頭までの範囲にある3遺跡では、長軸型が数的に卓越する傾向が見られ、本遺跡と滝ノ沢遺跡においては短軸型が長軸型に比べやや軽量である傾向を示した。しかし、限られた資料でありなお検討する必要がある。石鏝の用途については漁網用の鏝・細物製作用の鏝などが考えられているが、同氏は細物製作用の鏝と考えることの方がふさわしいとしている。ここでは用途にふれることはできないが、同氏が指摘するように一遺跡当たりの出土点数が大きく偏る点が、本遺跡と他遺跡との比較においても問題として浮かび上がる。例えば、盛岡市大館町遺跡(1978)で3点、零石町塚ヶ森 I 遺跡(岩埋文 1982)で175点出土しているが、水沢市中島遺跡・一関市庄司合遺跡・陸前高田市大陽台遺跡・同市牧田貝塚・大船渡市清水貝塚ではいずれも出土していない。近似する時期の遺跡のこのような端的な相違は、調査面積・調査地点・遺跡の性格などととも、地形・環境・生業などの面からも総合的に分析する余地があると思われるが、問題点の指摘にとどめておく。

イ、敲磨器類A群

本遺跡で敲磨器類A群としたものは、従来「特殊磨石」・「棒状擦石」等と呼ばれてきたものと、「半円状偏平打製石器」・「横刃型石斧」等と呼ばれてきたものの両者を含んでいる。機能的に重複する部分を有すること、形態的に両者の中間形があって容易に分離できなかったことから、一括して扱ったものであるが、それは同時に、それらの分類や集計分析から機能を究明する手掛かりが得られるのではないかという想定にも基づくものでもあった。

断面形によってI類(三角形)・II類(楕円形)・III類(偏平)に分類したが、それぞれの傾向から次のような事柄を推定できる。

機能面(磨面)の形状では、磨面が顕著なものをa、剥離が顕著で磨面が不定形なものをb、磨面がなく剥離のみで明瞭な稜(刃部)を有するものをcとした。I類にはb・cタイプのも

のはごく僅かである事を考えると、本類にはその稜を鋭角に尖らせる必要がなく、通常の河原石に見られる程度の稜があれば事足りたものであろう。とすれば、磨面の周囲に観察される小剥離は使用時の敲打痕と考えるのが妥当であろう。Ⅲ類にcタイプが相当数あることは、鋭利な稜(刃部)が求められた結果と考えられる。そのことは「切る」という用途を想定させる。bタイプは、cタイプの刃部を用いて「磨る」という行為によって形成されたものであろう。aタイプは、磨面の周辺に小剥離が観察され、現象面としてはI類のそれと大きな相違はないが、bタイプを更に「磨る」行為に用いた結果と考えら、形成過程は大きく異なるものではないかと思われる。また、擦痕は長軸方向に走っていると観察される。

周縁加工の観点からは、I類には機能面以外に全体に加工された痕跡はほとんどない。端部に剥離を伴うものもあるが一般的ではないことを考えれば、機能として必要とされたものではなく、偶然的なものと考えることができよう。一方、Ⅲ類は機能面以外に加工されているものの方が多い。それは端部の場合もあり(時にそれは決りにも至る)、機能面の対辺の場合もあり、また全周に及ぶものもある。このことは、I類は素材とした自然石の形状をそのまま利用することで十分であったこと、Ⅲ類は偏平な素材を選択したこと他に、一定の平面形状を必要としたことを表すものであろう。

磨面の幅が、I類は0.6~2.6cm程度、Ⅲ類は0.4~1.4cm程度が多く、一部重複する範囲はあるものの分布域を異にすることは、「磨る」対象物あるいは用いる工程場面が相違する事を示すものであろう。磨面幅の最大値が、「磨る」道具としての役割を終える段階の数値を示すものという仮定に立てば、I類は4.2cmに対してⅢ類は2.6cmであることは、用途の相違を想定させるものである。

重量では、I類が500~1000g、Ⅲ類が300~500gに多く分布したが、この分布域の相違も、機能・用途の相違を反映するものとみることができよう。

推定の上に推定を重ねた結果ではあるが、これらのことからI類とⅢ類は、機能または用途との関わりにおいて次のようにまとめることができる。

I類は主に、断面形が三角形を基本とする形状の自然石の稜を使って、500~1000gの重さを利用して「磨る・敲く」行為に用いられた。対象物とは幅0.6~2.6cm程度で接することが多く、長軸方向に動かしたものである。

Ⅲ類は主に、偏平な自然石を選択した後に平面形を整え、鋭利な稜(刃部)をつけ、「切る・磨る」行為に用いられた。鋭利な稜(刃部)は「切る・磨る」行為によって磨耗し、磨面の方が顕著になるとその役割を終える。

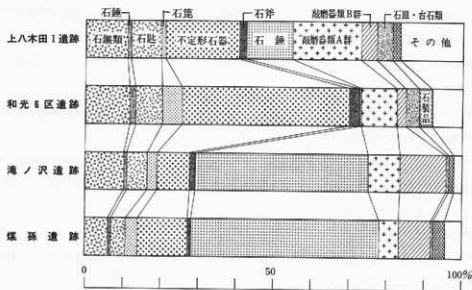
以上のような推定に立脚すると、I類の典型は本遺跡の分類ではI類a1に求められ、Ⅲ類a・b・cは道具としての使用の経過を表現するものといえよう。さて、通常の名称では、I

類a1はいわゆる「特殊磨石」であり、III類はいわゆる「半円状偏平打製石器」ということができる。その中間形はI類bとcおよびII類である。これらの存在は、この「特殊磨石」と「半円状偏平打製石器」が用途としてオーバーラップしている部分があること、および道具としての形状や重量などの許容範囲を示しているといえないだろうか。

ウ、器種構成割合

本遺跡と時期的に近似する、和光6区遺跡・滝ノ沢遺跡・煤孫遺跡の3遺跡と器種構成の割合を比較し、本遺跡の特徴を浮かび上がらせたい。調査面積や調査地点および遺跡の性格がそれぞれ異なり、またサンプリング エラーやどんなものまでを石器として認知したかによっても構成比は変わってくるものであり、単純に同一視することはできないことはもちろんである。ここではそれらをすべて捨象してある。若干器種名や分類方法が異なるが、各遺跡が共通化できるように同類と思われるものを、可能な限り本遺跡の名称に合わせてカウントした。

それによると、石鏃類（尖頭器類を含む）・石錐・石匙・石筥・石斧（打製と磨製を含む）については本遺跡と3遺跡の構成比にそれ程大きな相違はない。特徴的なのは、和光6区については不定形石器が極端に大きな割合を占めることである。このなかには、本遺跡・滝ノ沢遺跡でリタッチドフレークとしたものも一部含まれてはいるが、それを除いたとしても傾向は変わらないだろう。また、滝ノ沢・煤孫の両遺跡では石錐がとくに大きな割合を占めている。本



第505図 石器の器種構成割合

遺跡の場合、それらの遺跡のように極端な構成割合を示すものはない。敲磨器類A群（横長または扁平な礫を用いたもの）とB群（円または楕円形の礫を用いたもの）の割合では、本遺跡の場合前者が後者より大きく上回っている。これは和光6区では同様の傾向を示すが、滝ノ沢・煤孫遺跡では逆転してB群の方が多くなっている。これを時期差あるいは地域差とみることは4遺跡の比較では不可能であり、なお類例の検討が必要である。

さて、本遺跡は集落を面的に調査したものであり、その組成はサンプリングエラーと時期の問題はあるものの、縄文前期後葉から末葉を主体とする本遺跡の集落が保有した石器の組成がある程度反映しているものと思われる。本遺跡の場合、他の3遺跡と比較して顕著に偏った割合を示す器種がないこと、そのなかでは不定形石器・石錘・敲磨器類A群が比較的多いこと、石製品がやや少なめであることなど特徴として指摘できる。これは、地理的な環境や時代性に規制された当時の生業と精神生活を反映するものであると思われる。

4. 上八木田遺跡群について

上八木田遺跡群の名称は、本遺跡とII～V遺跡の総称として用いている。本遺跡群は巨視的には北上山地の西縁、盛岡低地との境界部に位置する。同低地までは直線距離で5kmほどであるが、現在でこそ道路網の整備により交通の利便性は高まっているものの、架橋・陸道が少なくお急勾配の箇所もある。また、現地からの眺望は群立する山体によって遮断され、位置によってかろうじて岩手山の山頂部を遠望することが可能であるという程度であり、基本的には本遺跡群は山間に位置するということができる。盛岡周辺において北上山地西部山間地に位置する遺跡の調査が、これほど広範囲に亘って実施される例はこれまでになく、その意味では空白地帯であったと言っても過言ではない。

本遺跡群の発掘調査に当たっては約70,000㎡を念頭に入れて試掘調査が行われ、その結果約42,500㎡が本調査の対象面積とされた。これは、集落全体を丸ごと掘り起こすことにもなり、また近接して点在する遺跡同士の関係も把握できる可能性を内包していた。調査結果は、当初から予想された通りあるいはそれ以上に、多くの遺構・遺物が検出・発見された。ここでは、遺跡同士の関係や遺跡群としての集落構成などにまでは言及できないが、時期毎にI～V遺跡全体の調査結果を概括したい。

本遺跡群内で人類の生活の痕跡をみることがきるのは、縄文時代早期からである。上八木田I・II遺跡において寺の沢式または吹切沢式類似、I・II・V遺跡において物見台式系統、V遺跡において早稲田3類式併行の土器が出土している。物見台式系統の土器は、II遺跡ではほぼ器形のわかるものが出土しているが、3遺跡とも胎土・焼成などがほぼ等しく、同一時期とみてよいものである。しかし、早期の遺構はいずれにおいても確認されておらず、遺物量も多く

はない。

前期になると、I遺跡において集落が営まれる。時期によってやや疎密はあるものの、全体としては継続的・高密度と言ってよい。一部中期初頭の遺構も含めると148棟を数え、中心的集落であったと言える。2つの尾根の南斜面を主体に、一部は鞍部・東西斜面をも占地する。それらは重複が著しく、建替えが繰り返されたことが分かる。また、いわゆる「大形住居」も構築される。I遺跡でそのような大集落が形成されていた時期において、II遺跡では前期後葉の土器が散見する程度である。V遺跡では繊維土器・大木6式・円筒下層d式の土器が少量出土した他に、前期末葉から中期初頭に属する住居が2棟存在する。1棟は平面形が円形で石囲炉を有するものであり、I遺跡の石囲炉を有する2棟の住居と、規模・形状に大きな相違はない。もう1棟もほぼ円形を呈するものである。後葉まではI遺跡に止どまっていた集落が、V遺跡に進出していったことが分かる。

中期には、V遺跡において大木7a式期の土器が多く出土する。I遺跡からも出土するが絶対量において比較にならない。前期末葉から中期初頭に属する住居中葉では大木8b式の土器がI遺跡とV遺跡でごく少量出土しているのみである。円筒式土器は、II遺跡で上層a式・c式に相当するものが若干出土している。他には遺跡群内において円筒式土器の出土は殆ど見られない。末葉になると、I遺跡に同規格の住居が5棟、詳細不明な1棟を加え計6棟が構築される。これらは同時存在とは考えにくく、とすれば該期の集落としては小規模のものと言えよう。IV・V遺跡でも土器は出土しているが、遺構は確認されていない。

後期の住居としては、III遺跡で中葉のもの、V遺跡で後葉のものが各1棟検出されているのみである。孤立的な存在と言うべきか。土器はそれらの遺跡において比較的多く、しかも前葉から後葉まで通して出土している。I・IV遺跡からも出土はしているが、ごく微量である。

晩期は、前葉の住居がI・V遺跡において各1棟、中葉の炉がI遺跡で1基確認されている。いずれも石囲炉で、V遺跡の場合はさらに土器を埋設させており3回の作り替えが行われている。同住居の近隣には前葉の土坑が2基検出されている。土器は、初頭のものがI遺跡、前葉のものがI・V遺跡、中葉のものがI～V遺跡、後葉のものがV遺跡で出土している。量的にはV遺跡が最も多く、三叉文・羊歯状文・歯列状文などがその主体を占め、それらは遺構の周囲からの出土である。集落としては、晩期においても後期同様に1棟が単独で営まれた可能性が高い。

弥生時代のものとしては、土器がI・III・V遺跡で出土している。いずれも後葉のものが卓越する。III・V遺跡には器形のわかる好資料があるが、遺構は確認されなかった。

古代の遺構としては、平安時代の住居跡と焼土遺構が検出されている。住居跡はI遺跡4棟、II遺跡2棟・III遺跡1棟・IV遺跡4棟・V遺跡1棟である。IV遺跡の4棟については同時存在

はないとされている。I遺跡においては同時存在か否か明らかではないが、2棟ずつ離れた位置にある。これらのことから少なくとも、「平安時代には1棟ないし2棟の家が山間に点在していた」という先の報告の指摘(平井進 1992)は、遺跡群全体においても確認することができる。これらの住居は、沢筋の小支谷に面した斜面を積極的に用いる。煙出し方向は斜面上方とすることが多く、全体に方位よりも地形に規制されている。平安時代の集落のあり方として丘陵地に散在的に進出する例として「離れ国分」などの名称が典型的に用いられることもあった。それに対し、それらが単一的・孤立的な存在ではなく「数軒程度が散在して山村を形成し」、山地住居出現は「奈良時代後半からの陸田雑穀栽培奨励の強化・促進という過程で具体化したもの」とする説(伊藤玄三他 1986)が唱えられている。本遺跡群においては畑地など生業に関わる資料は得られず、成因にまでは立ち入ることはできないが、遺構配置は、山村に散在する集落とする前説を支持する。

次に陥し穴についてみる。いわゆる溝状の陥し穴は、I遺跡2基・II遺跡1基・IV遺跡3基・V遺跡3基がそれぞれ検出されている。このタイプの陥し穴は中期末から後期に属するとされる(田村壮一 1987)が、本遺跡群の中では遺構の稀薄な時期である。I遺跡の大木10式期の集落との関連を考えるとすることができるかも知れない。また、開口部が楕円形または長方形を呈するものは、I遺跡4基・II遺跡4基である。田村氏の前掲論文ではB1型に当たるもので、氏は縄文時代晩期中葉から平安時代前期を想定している。該当する時期の住居跡は、I遺跡の晩期中葉の1棟(炉跡)とI～V遺跡の平安時代に属する12棟である。II遺跡では、陥し穴と住居が近接しており、これが同時に機能していたとは考えにくい。他遺跡の平安時代の住居との関連はあり得る。田村氏のC型に類似する陥し穴はI遺跡で3基検出されているが、氏は縄文時代前期初頭以前としている。該当する時期の遺構はI遺跡にのみ存在することから、I遺跡内での場の使い分けを考えるのが妥当であろう。

以上、時期を追って遺跡群としてのその内容の変遷を概観してきた。これらの時期毎のそれぞれの様相が、いかなる条件に規制された結果として表れたものであるのか、また他遺跡との関連など究明すべき課題は大きく、住居論・集落論の深化に好資料を提供することができたと考える。

引用・参考文献

記載にあたっては、教育委員会は「教委」、文化財愛護協会は「文愛協」、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは「岩埋文」、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は「岩埋文報」とそれぞれ略すこととする。

- 相原 康二 (1981) : 岩手県南部における古代の土器群編年試案 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」
- 秋田県教委 (1988) : 上ノ山口遺跡 「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ」秋田県文化財調査報告書第 166集
- 一関市教委 (1977) : 「岩手県一関市殿美町庄司合遺跡発掘調査概要(第二次調査)」一関市文化財調査報告書第10集
- 伊藤玄三他 (1986) : 第Ⅳ章 考察 「法政大学多摩校地遺跡群Ⅱ-G地区-」
- 稲野 彰子 (1991) : 大木式土器にみられる球胴形深鉢について-文様の多系統性に注目して- 「北上市立博物館研究報告第8号」
- 岩文愛協 (1976) : 「大船渡市清水貝塚発掘調査概報」
- 岩手県教委 (1982) : 江釣子村鳩岡崎遺跡 遺物・要約・分析鑑定結果編 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅴ-2」岩手県文化財調査報告書第70集
- 岩手県立博物館 (1982) : 「岩手の土器-県内出土資料の集成-」
- 岩埋文 (1982) : 塩ヶ森Ⅰ遺跡 「琴石町塩ヶ森Ⅰ遺跡・塩ヶ森Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩埋文報第31集
- 岩埋文 (1983) : 「松尾村長者屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅲ」岩埋文報第77集
- 岩埋文 (1987) : 「和光6区遺跡発掘調査報告書」岩埋文報第 114集
- 岩埋文 (1992) : 「上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書」岩埋文報第 177集
- 岩埋文 (1993) : 「上八木田Ⅱ遺跡発掘調査報告書」岩埋文報第 194集
- 岩埋文 (1993) : 「楳原遺跡発掘調査報告書」岩埋文報 第196集
- 大迫町教委 (1974) : 「岩手県特産郡大迫町天神ヶ丘遺跡」
- 岡村 道雄 (1979) : 縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例-その1- 「東北歴史資料館研究紀要 No.5」
- 加藤 孝 (1951) : 宮城県上川名貝塚の研究 「宮城女子学院研究論文集1」
- 加藤 孝 (1956) : 宮城県登米郡新田村楳原貝塚について 「地域社会研究会資料7」
- 金ヶ崎町教委 (1973) : 「胆沢郡金ヶ崎町千貫石・長根前遺跡」

- 北上市教委 (1983) : 「滝ノ沢遺跡」北上市文化財調査報告第33集
- 奥野 義一 (1968) : 大木式土器理解のために (II) 「考古学ジャーナル No16」
- 奥野 義一 (1969) : 大木式土器理解のために (V) 「考古学ジャーナル No32」
- 奥野 義一 (1970) : 大木5b式の提唱—宮城県長者塚遺跡出土資料による— 「古代文化 第22巻第4号」
- 草間俊一他 (1965) : 中島遺跡 「水沢の原始・古代遺跡」
- 熊谷 常正 (1982) : (2) 前期 「岩手の土器」岩手県立博物館
- 熊谷 常正 (1983) : 岩手県における縄文時代前期土器群の成立—条痕文系土器群から羽状縄文土器群へ— 「岩手県立博物館研究報告第1号」
- 斎藤邦雄・酒井宗孝 (1994) : 岩手県の縄文期葬制遺構について 「北奥古代文化」23
- 佐藤 智雄 (1992) : 土器 「戸井貝塚」北海道亀田郡戸井町教委
- 七ヶ浜町教委 (1973) : 「大木圓貝塚 昭和57年度環境整備調査報告」
- 庄内文化研究会 (1955) : 「吹浦遺跡」
- 杉山 武 (1989) : 白座遺跡 「白座遺跡 野場遺跡 (3) 発掘調査報告書」青森県階上町教委
- 仙台市教委 (1980) : 「三神峰遺跡」仙台市文化財調査報告書第25集
- 高橋至貴子 (1992) : 東北地方縄文時代前期前葉組縄文について 「加藤登先生還暦記念 東北文化圏のための先史学歴史学論集」
- 高橋憲太郎 (1987) : (4) 出土遺物 「崎山遺跡群 I—昭和61年度発掘調査概報—」宮古市埋蔵文化財調査報告書13
- 高橋 信雄 (1982) : 3. 古代 「岩手の土器」
- 田村 壯一 (1987) : 陥し穴状遺構の形態と時期について—岩手県北地方を中心として— 「岩埋文紀要Ⅷ」
- 戸井町教委 (1992) : 「戸井貝塚 貝層部周辺の前期包含層を中心とした発掘調査報告 I」
- 西村正衛他 (1958) : 岩手県大船渡市清水貝塚—大船渡湾沿岸地域の石器時代文化研究 その1— 「古代 第29・30合併号」
- 階上町教委 (1989) : 「白座遺跡 野場遺跡 (3) 発掘調査報告書」
- 林 謙作 (1981) : 住居面積から判ること 「信濃 第33巻第4号」
- 平井 進 (1992) : 「上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書」岩埋文報第177集
- 藤村 東男 (1985) : 岩手県九年機遺跡出土の礫石館について 「日高見の国」
- 三浦 謙一 (1990) : 住まいの大きさ—大型住居跡の場合— 「季刊考古学 第32号」
- 宮城県教委 (1969) : 「埋蔵文化財緊急発掘調査概報—長根貝塚—」宮城県文化財調査報

告書第19集

- 宮城県教委 (1977) : 「金山貝塚 鳩瀬町文化財調査報告 1」
- 宮城県教委 (1980) : 宇賀崎貝塚 「金剛寺貝塚 宇賀崎貝塚 宇賀崎 1号古墳他」宮城県文化財調査報告書第67集
- 宮城県教委 (1986) : 「田柄貝塚Ⅱ 土製品 石器・石製品編」宮城県文化財調査報告書第 111集
- 宮城県教委 (1988) : 小梁川遺跡 「七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ 大梁川遺跡 小梁川遺跡 (石器編)」宮城県文化財調査報告書第 126集
- 宮古市教委 (1987) : 「崎山遺跡群Ⅰ -昭和61年度発掘調査概報-」宮古市埋蔵文化財調査報告書13
- 武蔵 康弘 (1993) : 甕穴住居の面積 「季刊考古学 第44号」
- 盛岡市教委 (1978) : 「岩手県盛岡市大館町遺跡-昭和51年度発掘調査報告-」盛岡市文化財調査報告第20集
- 山形県教委他 (1988) : 「吹浦遺跡 第3・4次緊急発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第 120集
- 陸前高田市教委 (1971) : 「岩手県陸前高田市牧田貝塚発掘調査概要」
- 陸前高田市教委 (1979) : 「大陽台貝塚」

上八木田 I 遺跡出土種子同定報告

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上八木田 I 遺跡は、北上川の支流である中津川にそそぐ八木田沢が開析した狭小な谷底平野に張り出す 2 つの尾根とその裾野にかけて立地する。これまでの発掘調査により、縄文時代前期・中期の集落が確認され、該時代時期を主体とした遺跡であることが明らかとされた。

縄文時代前期の住居跡および中期の住居跡から種実遺体が検出された。検出された遺体の種類を明らかにすることにより、当時の可食植物について知ることができると期待された。したがって、今回は各住居跡から検出された種実遺体の同定を行うこととした。

1. 試料

試料は、縄文時代前期と中期の住居跡から出土した種実遺体と思われる炭化物である。試料については、結果と合わせて表 1 に示す。

2. 方法

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特徴から種類を同定した。

3. 結果

結果を表 1 に示す。同定の結果、コナラ属、クリおよびオニグルミに同定された。以下に形態的特徴を記す。

・コナラ属 *Quercus* sp. ブナ科

子葉が検出された。側面観は極方向に長い楕円形、上面観は半月形で、大きさは縦軸 1.3cm、横軸 1.0cm 程度。炭化している。極方向に二つに割れ半分が破損している。表面には、極方向に維管束が通った跡が筋状に窪んでいる。

・クリ *Castanea crenata* ブナ科

子葉が検出された。大きさは 1 × 1.6cm 程度。炭化し、約 2/3 の部分は破損している。表面には、荒いしわ状のくぼみがある。

・オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. *susup. sieboldiana* (Maxim) Kitamura

クルミ科

核の破片が検出された。褐灰色。大きさは 1cm 程度。表面は荒いしわ状となり、縦方向に溝が走っている。表面は厚く堅い。

表1

番号	遺構名	出土状況	時代	同定結果
1	ⅨD1e 住居跡	伊内	縄文時代前期	コナラ属(1点)
2	ⅥD8e 住居跡	埋土下位	縄文時代前期	ク　　リ(4点)
3	ⅦD1g-2 住居跡	床面出土深鉢内	縄文時代前期	オニグルミ(1点)
4	V D 1 c 住居跡	床面埋設土器内	縄文時代前期	オニグルミ(1点)

4. 考察

クリやコナラ属は、古くから食用とされてきた種類である。両者とも今回検出された部位である子葉を食用とする。コナラ属を食用とするためには、「あくぬき」と呼ばれる作業が必要となる。コナラ属の「あくぬき」を行う作業は比較的複雑であることから、当時の植物利用を考える上で興味深い。

オニグルミも縄文時代の食用植物として利用され、これまでも多くの遺跡から検出例がある。本遺跡でも縄文時代前期・中期には、オニグルミが当時の食糧の一部とされていたと思われる。



1. コナラ属 (子葉)



2. クリ (子葉)



3. オニグルミ



4. オニグルミ



順序	造 房 名	時 期	平 面 形	短 軸	長 軸	床 架 的 形 式	炉	灶 穴	階 階	附 屬 房 數	平 均 附 屬 房 數		
1	W D b 住居跡	縄文中期後葉	円形	[396]	400	[12.1]	af	土器埋没炉	3階	無	14	7	
2	W D c 住居跡	縄文中期後葉	円形	410	420	[13.4]	af	土器埋没炉	4階	無	18	8	
3	W D d 住居跡	縄文中期後葉	円形	380	400	11.7	af	土器埋没炉	0階	無	22	9	
4	W D e 住居跡	縄文中期後葉	円形	270	350	[12.5]	af	土器埋没炉	3階	無	26	10	
5	W D f 住居跡	縄文中期後葉	円形	380	400	[10.6]	af	土器埋没炉	4階	無	27	11	
6	W D g 住居跡	縄文中期後葉	円形	[325]	[335]	[11.4]	af	土器埋没炉	0階	無	30	12	
7	W D h 住居跡	縄文中期後葉	不明	不明	不明	[3.6]	af	0	無	無	33	13	
8	W C 2 g 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	長方形	290	430	[10.2]	af	土器埋没炉	0階	無	34	14	
9	W C 2-1 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	長方形	340	480	[14.7]	af	土器埋没炉	0階	無	36	38	
10	W C 3 h 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	円形	[180]	325	[6.6]	af	土器埋没炉	0階	無	37	35	
11	W C 0 g 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[300]	[560]	[12.0]	af	土器埋没炉	0階	無	39	16	
12	W D 5 f 住居跡	縄文前期後葉	長方形	260	430	10.6	af	土器埋没炉	1階	無	40	17	
13	W D 7 g 住居跡	縄文前期	隅丸長方形	310	610	13.1	af	土器埋没炉	0階	無	42	18	
14	W D 8 e 住居跡	縄文前期後葉	隅丸長方形	345	500	[13.4]	af	土器埋没炉	0階	無	46	19	
15	W D 8 h 住居跡	縄文前期後葉	円形	[310]	390	[8.0]	af	土器埋没炉	4階	無	50	20	
16	W D 0 g 住居跡	縄文前期後葉	円形	[160]	340	af	af	土器埋没炉	1階	0階	52	21	
17	W D 0 h 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	方形→長方形	[500]	620	af	af	土器埋没炉	3階	5階	54, 55	22	
18	W D 0 i 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	方形→長方形	[400]	[480]	[26.6]	af	土器埋没炉	1階	4階	57	23	
19	W C 3 g 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	不明	[120]	220	af	af	0	無	無	60	24	
20	W C 6 f 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	隅丸長方形	[260]	[385]	[7.3]	af	土器埋没炉	0階	無	63	24	
21	W C 6 g 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	円形	225	af	[2.7]	af	0	無	無	63	25	
22	W C 6 h 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	340	630	16.1	af	土器埋没炉	0階	無	66	25	
23	W C 7 f 住居跡	縄文前期後葉	不明	[300]	[310]	[2.9]	af	土器埋没炉	1階	0階	69	26	
24	W C 8 f 住居跡	縄文前期後葉	不明	[190]	[360]	[6.1]	af	土器埋没炉	1階	0階	71	26	
25	W C 8 g 住居跡	縄文前期後葉	不明	430	500	14.4	af	土器埋没炉	2階	0階	73	27	
26	W C 8 j 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[156]	[300]	[3.4]	af	土器埋没炉	1階	0階	75	28	
27	W C 9 f 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	不明	[252]	300	[5.7]	af	土器埋没炉	1階	0階	77	28	
28	W C 9 i-2 a 住居跡	縄文前期後葉	方形→長方形	[430]	[490]	[16.3]	af	土器埋没炉	1階	8階	有	79	29
29	W C 9 i-3 b 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	方形→長方形	不明	不明	af	af	土器埋没炉	1階	3階	有	79	29
30	W C 9 i-4 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	方形→長方形	310	[510]	[7.3]	af	0	無	1階	有	79	29
31	W C 9 j 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	方形→長方形	[397]	250	af	af	土器埋没炉	0階	無	75	30	
32	W C 9 j-3 住居跡	縄文前期後葉	不明	[240]	[400]	[10.6]	af	土器埋没炉	1階	0階	無	87	
33	W C 0 g 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	隅丸長方形	[222]	[360]	[6.5]	af	土器埋没炉	2階	0階	無	90	
34	W C 0 g-2 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	270	395	9.9	af	土器埋没炉	2階	0階	無	93	30
35	W C 0 g-3 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	隅丸長方形	[460]	[693]	[33.0]	af	0	無	7階	無	94, 95	
36	W C 0 h 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	方形→長方形	[130]	[287]	[3.2]	af	0	無	2階	無	96	
37	W C 0 h-2 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	方形→長方形	[310]	[320]	[1.4]	af	土器埋没炉	1階	2階	無	無	
38	W D 1 d 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[170]	625	[5.4]	af	土器埋没炉	0階	無	無	100	32
39	W D 1 d-2 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	180	[215]	[3.0]	af	0	無	無	無	100	31
40	W D 1 d-3 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[146]	[170]	[1.3]	af	土器埋没炉	1階	0階	無	100	31
41	W 1 a 住居跡	縄文前期	長方形	[306]	[425]	[7.1]	af	土器埋没炉	1階	0階	無	102	32
42	W 1 g 住居跡	縄文前期	長方形	[310]	[400]	[11.1]	af	土器埋没炉	1階	3階	無	103	32
43	W D 1 g-2 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	隅丸長方形	385	430	8.7	af	土器埋没炉	1階	5階	無	105	34
44	W D 2 f 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[240]	430	[8.6]	af	土器埋没炉	1階	0階	無	110	34
45	W D 2 h 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	円形	[250]	[670]	[10.1]	af	0	無	2階	有	112	35
46	W D 2 h-2 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	長方形	[320]	[570]	[19.0]	af	土器埋没炉	2階	10階	有	114	35
47	W D 2 h-3 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	不明	[45]	[392]	[0.9]	af	0	無	有	112	35	
48	W D 3 g 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	隅丸長方形	[120]	[280]	[3.6]	af	土器埋没炉	2階	0階	無	115	36
49	W D 3 g-2 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	方形→長方形	[98]	[125]	[0.7]	af	0	無	0階	無	116	37
50	W D 3 g-3 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	隅丸長方形	[140]	340	[2.4]	af	0	無	0階	無	117	37
51	W D 3 g-4 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[125]	375	[4.1]	af	0	無	0階	無	119	37
52	W D 3 h 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[230]	485	[8.5]	af	0	無	7階	無	120	38
53	W D 3 h-2 住居跡	縄文前期後葉→5.前期 (推定)	円形	[150]	[670]	[4.6]	af	0	無	7階	無	122	38
54	W D 4 f 住居跡	縄文前期後葉	方形	[280]	400	[8.6]	af	土器埋没炉	1階	7階	無	123	39
55	W D 4 f-2 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	方形→長方形	[200]	415	[7.4]	af	0	無	9階	無	127	40
56	W D 4 f-3 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	方形→長方形	[250]	440	[11.3]	af	0	無	1階	無	129	40
57	W D 4 h 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	円形	[196]	384	[3.9]	af	0	無	5階	無	128	41, 42
58	W D 4 h-2 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	210	[233]	[4.8]	af	土器埋没炉	1階	0階	無	131	41
59	W D 4 h-3 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	不明	[310]	350	[3.9]	af	0	無	0階	無	131	42
60	W D 4 h-4 住居跡	縄文前期後葉→5.前期	長方形	[360]	630	[12.4]	af	土器埋没炉	6階	3階	無	133	43

第28表 聖穴住居跡一覽表(1)

編號	品類名	時期	平面形	短軸	長軸	床面積	伊	柱穴	階階	四階番号	耳口階番号		
61	ⅧD 4 i 住居跡	縄文前期	不明	1100 cm	200 cm	[1.6] m ²	0	基	2階	無	124	44	
62	ⅧD 5 g-1 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	楕圓形?	1265 cm	4280 cm	[4.0] m ²	0	基	0階	無	135	44	
63	ⅧD 5 g-3 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	楕圓形?	1500 cm	1655 cm	[3.1] m ²	0	基	2階	無	137	45	
64	ⅧD 5 h 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	楕圓形?	1165 cm	2295 cm	[2.4] m ²	0	基	0階	無	138	45	
65	ⅧD 5 i 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	方形	230 cm	250 cm	4.3 m ²	0	基	1階	無	139	45	
66	ⅧD 5 j-1 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	不明形?	3280 cm	4225 cm	[10.0] m ²	0	基	0階	無	142	47	
67	ⅧD 5 j-3 住居跡	縄文前期後葉	不明形?	280 cm	320 cm	6.4 m ²	0	基	2階	無	143	47	
68	ⅧD 6 f 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	2200 cm	3300 cm	[5.1] m ²	0	基	1階	無	144	48	
69	ⅧD 6 g 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不整凸形	190 cm	320 cm	[2.6] m ²	0	基	1階	無	146	49	
70	ⅧD 6 g-2 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	楕圓形	220 cm	370 cm	[5.4] m ²	0	基	0階	無	148	49	
71	ⅧD 6 g-3 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	2200 cm	3300 cm	[2.2] m ²	0	基	0階	無	149	50	
72	ⅧD 6 g-4 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	楕圓形?	2000 cm	3350 cm	[4.3] m ²	0	基	5階	無	150	50	
73	ⅧD 6 h 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	不明	不明	[1.5] m ²	0	基	0階	無	151		
74	ⅧD 6 h-1 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	隅丸長方形	4800 cm	690 cm	[23.5] m ²	0	基	3階	17階	有	152	51
75	ⅧD 6 i 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	1300 cm	2290 cm	[1.1] m ²	0	基	0階	無	154	52	
76	ⅧD 7 g 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	円形?	4300 cm	4300 cm	[7.0] m ²	0	基	0階	無	157	52	
77	ⅧD 7 g-2 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	不整凸長方形?	4400 cm	4750 cm	[11.5] m ²	0	基	0階	無	158	53	
78	ⅧD 7 h 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	長方形?	3280 cm	320 cm	[4.7] m ²	0	基	0階	無	160	53, 54	
79	ⅧD 7 i 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	不明	不明	[0.5] m ²	0	基	0階	無	152	51	
80	ⅧD 8 c 住居跡	縄文前期末葉	円形?	5000 cm	5000 cm	[9.0] m ²	0	基	0階	無	162	54	
81	ⅧD 8 h 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不整凸形?	250 cm	250 cm	4.1 m ²	0	基	0階	無	165	55	
82	ⅧD 8 i 住居跡	縄文前期後葉中-6米室 (確定)	方形?	2880 cm	3380 cm	[5.7] m ²	0	基	0階	無	166	56	
83	ⅧD 8 i-1 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	方形?	345 cm	3440 cm	[4.4] m ²	0	基	4階	有	166	56	
84	ⅧD 8 i-3 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	不明	不明	不明	不明	0	基	2階	有	166	56	
85	ⅧD 9 c 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	長方形	4180 cm	4490 cm	[18.9] m ²	0	基	4階	1階	無	169	57
86	ⅧD 9 c-1 住居跡	縄文前期末葉	長方形	330 cm	420 cm	9.0 m ²	0	基	3階	無	169	57	
87	ⅧD 9 f 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	長方形?	1880 cm	5500 cm	[7.2] m ²	0	基	0階	無	175	58	
88	ⅧD 9 b 住居跡	縄文前期後葉	楕圓形?	340 cm	400 cm	[9.7] m ²	0	基	2階	0階	無	176	58
89	ⅧD 9 b-2 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	長方形?	2275 cm	850 cm	[14.1] m ²	0	基	0階	無	180	59	
90	ⅧD 9 b-3 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	方形基調?	2660 cm	270 cm	[7.8] m ²	0	基	4階	無	180	59	
91	ⅧD 9 b-4 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	長方形?	11800 cm	5280 cm	[1.1] m ²	0	基	0階	無	180	59	
92	ⅧD 9 h 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	隅丸長方形?	2290 cm	450 cm	[12.5] m ²	0	基	2階	0階	無	182	60
93	ⅧD 1 g 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	方形?	4480 cm	5160 cm	[17.8] m ²	0	基	2階	3階	有	184	60
94	ⅧD 1 g-2 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	円形?	290 cm	320 cm	[5.8] m ²	0	基	2階	無	185	61	
95	ⅧD 1 h 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	長方形基調?	3200 cm	470 cm	[9.8] m ²	0	基	1階	2階	有	186	61, 62
96	ⅧD 1 h-1 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	長方形?	2440 cm	4470 cm	[11.2] m ²	0	基	1階	1階	無	98	62
97	ⅧD 2 h 住居跡	縄文前期	長方形基調?	260 cm	290 cm	8.8 m ²	0	基	0階	無	188	63	
98	ⅧD 2 j 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	隅丸長方形?	3000 cm	260 cm	[12.4] m ²	0	基	0階	無	189		
99	ⅧD 3 f 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不整凸形?	280 cm	270 cm	4.7 m ²	0	基	1階	無	192	63	
100	ⅧD 2 g 住居跡	縄文前期末葉	方形	270 cm	300 cm	[6.9] m ²	0	基	1階	無	193	64	
101	ⅧD 2 g-2 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	方形	不明	不明	不明	0	基	2階	有	193	64	
102	ⅧD 2 g-3 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	方形	不明	不明	不明	0	基	3階	有	193	64	
103	ⅧD 9 i 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	楕圓形?	260 cm	380 cm	7.9 m ²	0	基	0階	無	195	65	
104	ⅧD 7 a 住居跡	縄文前期	円形?	300 cm	300 cm	5.3 m ²	0	基	4階	有	194	66	
105	ⅧD 9 b 住居跡	縄文前期	楕圓形?	340 cm	450 cm	10.8 m ²	0	基	0階	無	197	66	
106	ⅧD 9 a 住居跡	縄文前期後葉	不明	3580 cm	4880 cm	[18.1] m ²	0	基	3階	0階	無	198	67
107	ⅧD 1 e 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	円形?	3710 cm	800 cm	[14.9] m ²	0	基	1階	3階	有	201	68
108	ⅧD 1 h 住居跡	縄文前期	長方形?	220 cm	330 cm	4.4 m ²	0	基	1階	有	204	69	
109	ⅧD 2 g 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	長方形基調?	不明	2250 cm	[4.3] m ²	0	基	2階	無	205	69	
110	ⅧD 2 g-1 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	長方形基調?	1360 cm	455 cm	[3.5] m ²	0	基	0階	無	207	70	
111	ⅧD 2 h 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	不明	不明	[4.8] m ²	0	基	0階	無	207	70	
112	ⅧD 3 c 住居跡	縄文前期後葉	長方形?	3280 cm	3880 cm	[12.1] m ²	0	基	1階	1階	有	209	71
113	ⅧD 3 g 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	3440 cm	3400 cm	[11.7] m ²	0	基	1階	0階	無	206	72
114	ⅧD 3 h 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	2110 cm	3100 cm	[8.9] m ²	0	基	2階	無	207	73	
115	ⅧD 3 h-1 住居跡	縄文前期後葉中-6米室 (確定)	不明	1440 cm	3380 cm	[1.3] m ²	0	基	0階	無	207	73	
116	ⅧD 3 j 住居跡	縄文前期後葉	長方形?	470 cm	1910 cm	36.1 m ²	0	基	8階	11階	有	214, 217	74
117	ⅧD 4 d 住居跡	縄文前期	楕圓形?	2280 cm	550 cm	[12.0] m ²	0	基	1階	有	224	75	
118	ⅧD 4 f 住居跡	縄文前期後葉中-6米室	不明	1120 cm	310 cm	[7.8] m ²	0	基	0階	無	225	76	
119	ⅧD 4 g 住居跡	縄文前期後葉	不明	2280 cm	280 cm	[6.7] m ²	0	基	2階	0階	無	206	76
120	ⅧD 4 g-2 住居跡	縄文前期後葉 (確定)	楕圓形?	4180 cm	850 cm	[18.2] m ²	0	基	3階	無	227	77	

第27表 壑穴住居跡一覽表(2)

課科	造 納 名	時 期	平 面 形	幅 輪	長 軸	床 面 積	炉	柱 穴	間 通	包 圍 番 号	平 面 図 番 号
121	ⅩD 4 g - 3 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	長方形?	(220) cm	670 cm	(14.9) m ²	地床炉 3基	7個	無	232	76
122	ⅩD 4 h 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	楕圓形?	(450) cm	790 cm	(19.9) m ²	地床炉 8基	19個	有	234	79
123	ⅩD 4 h - 2 住居跡	縄文前期後葉	不明	110 cm	(430) cm	(2.3) m ²	0 基	0個	有	234	79
124	ⅩD 5 c 住居跡	縄文前期後葉+G前期	長方形?	(270) cm	460 cm	(9.5) m ²	地床炉 1基	1個	有	237	80
125	ⅩD 5 g 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	楕圓形?	(180) cm	340 cm	(3.8) m ²	0 基	0個	無	238	81
126	ⅩD 5 g - 2 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	楕圓形?	(250) cm	300 cm	(3.1) m ²	0 基	0個	無	238	81
127	ⅩD 5 h 住居跡	縄文前期後葉	長方形?	200 cm	(770) cm	(6.2) m ²	0 基	0個	有	234	79
128	ⅩD 5 i 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	長方形?	200 cm	(260) cm	(3.2) m ²	地床炉 1基	0個	無	234	79
129	ⅩD 5 j 住居跡	縄文前期後葉+G前期	長方形?	350 cm	530 cm	(12.9) m ²	0 基	0個	無	241	82
130	ⅩD 6 f 住居跡	縄文前期	楕圓形?	(310) cm	(430) cm	(10.1) m ²	地床炉 2基	7個	無	243	82,83
131	ⅩD 6 f - 2 住居跡	縄文前期	楕圓形?	(250) cm	不明	(6.7) m ²	地床炉 1基	10個	無	243	82,83
132	ⅩD 7 j 住居跡	縄文前期	楕圓形?	(180) cm	360 cm	(6.3) m ²	地床炉 1基	0個	無	245	83
133	ⅩD 8 f 住居跡	縄文前期	長方形?	230 cm	360 cm	(6.1) m ²	0 基	1個	無	246	84
134	ⅩD 8 f - 2 住居跡	縄文前期不明	不明	(170) cm	310 cm	(2.9) m ²	0 基	0個	無	247	85
135	ⅩD 8 g 住居跡	縄文前期後葉+G前期	長方形?	340 cm	(450) cm	(9.1) m ²	地床炉 2基	5個	無	248	85,86
136	ⅩD 8 g - 2 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	長方形?	(220) cm	(270) cm	(6.7) m ²	地床炉 1基	0個	無	250	87
137	ⅩD 8 g - 3 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	不明の円形	(300) cm	(300) cm	(6.8) m ²	0 基	0個	無	251	87
138	ⅩD 8 g - 4 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	不明	不明	不明	(6.3) m ²	0 基	0個	無	248	86
139	ⅩD 8 g - 5 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	不明	不明	不明	(6.9) m ²	0 基	0個	無	248	86
140	ⅩD 8 i 住居跡	縄文前期後葉+G前期	長方形?	(360) cm	360 cm	(5.3) m ²	地床炉 1基	0個	無	251	88
141	ⅩD 9 f 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	隅丸方形	(300) cm	270 cm	(7.1) m ²	地床炉 1基	0個	有	254	89
142	ⅩD 9 f - 2 住居跡	縄文前期後葉 (推定)	隅丸方形	200 cm	240 cm	(3.7) m ²	0 基	0個	有	254	89
143	ⅩD 9 g 住居跡	縄文前期	円形?	(360) cm	(360) cm	(5.7) m ²	地床炉 1基	0個	無	256	90
144	ⅩD 9 g - 2 住居跡	縄文前期後葉+G前期	方形~長方形基調	(180) cm	350 cm	(4.1) m ²	0 基	0個	無	256	90
145	ⅩD 9 h 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	長方形?	280 cm	370 cm	7.3 m ²	地床炉 2基	1個	無	257	88
146	ⅩD 9 f 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	隅丸~長方形基調	(230) cm	280 cm	(3.8) m ²	地床炉 1基	0個	無	258	91
147	ⅩD 9 f - 2 住居跡	縄文前期	方形~長方形基調	(200) cm	230 cm	(5.3) m ²	地床炉 1基	0個	無	258	91,92
148	ⅩE 2 b 住居跡	縄文前期	楕圓形?	200 cm	310 cm	4.1 m ²	地床炉 1基	0個	無	259	83
149	ⅩE 5 a 住居跡	縄文前期	長方形?	(250) cm	(300) cm	(6.0) m ²	地床炉 2基	0個	無	260	84
150	ⅩE 6 b 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	長方形?	220 cm	(300) cm	(3.3) m ²	地床炉 1基	0個	無	261	
151	ⅩD 1 g 住居跡	縄文前期後葉+G前期	方形?	(300) cm	310 cm	(5.1) m ²	地床炉 2基	0個	無	262	95
152	ⅩD 1 g - 2 住居跡	縄文前期後葉+G前期	方形~長方形?	200 cm	(300) cm	(3.7) m ²	0 基	0個	無	262	95
153	ⅩD 1 g - 3 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	方形~長方形?	(200) cm	280 cm	(5.9) m ²	0 基	0個	無	262	95
154	ⅩD 1 j 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	円形~楕圓形?	(240) cm	(250) cm	(5.8) m ²	地床炉 2基	0個	無	264	96
155	ⅩD 1 j - 2 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	円形~楕圓形?	(240) cm	(350) cm	(3.3) m ²	地床炉 1基	0個	無	264	97
156	ⅩD 2 i 住居跡	縄文前期	長方形基調	(200) cm	(400) cm	(6.8) m ²	地床炉 2基	0個	無	265	97
157	ⅩD 3 b 住居跡	縄文前期後葉+G前期	長方形?	210 cm	320 cm	5.0 m ²	0 基	0個	無	266	
158	ⅩD 3 i 住居跡	縄文前期	円形~楕圓形?	(300) cm	(300) cm	(7.7) m ²	地床炉 1基	0個	無	267	98
159	ⅩD 4 f 住居跡	縄文前期	長方形?	(200) cm	340 cm	(3.9) m ²	0 基	0個	無	268	99
160	ⅩD 4 g 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	長方形?	230 cm	380 cm	6.5 m ²	地床炉 1基	0個	無	269	99,100
161	ⅩD 6 g 住居跡	縄文前期	長方形基調	(250) cm	280 cm	(6.3) m ²	地床炉 1基	0個	無	271	101
162	ⅩD 9 e 住居跡	縄文前期後葉+G前期 (推定)	長方形基調	(200) cm	290 cm	(4.6) m ²	地床炉 2基	0個	無	272	101
163	ⅩC 6 b 住居跡	平安時代前期	隅丸方形	340 cm	360 cm	11.3 m ²	0 基	0個	無	273~277	102~104
164	ⅩC 9 a 住居跡	平安時代前期	方形	(200) cm	320 cm	(6.2) m ²	0 基	0個	無	282,283	104,105
165	ⅩE 2 b 住居跡	平安時代前期	隅丸方形	340 cm	400 cm	(10.7) m ²	0 基	0個	無	285~287	106
166	ⅩE 2 c 住居跡	平安時代前期	不明	360 cm	300 cm	不明	0 基	0個	無	289	

第28表 竪穴住居跡一覽表(3)

番号	遺 跡 名	時 期	平 面 形	壁・断面形	開口部径	底部径	深さ	図版番号	写真版番号	タイプ
201	FD 8 c 土坑	縄文時代	小判形	ほぼ直立	130×140	70×115	65	290	107	c
202	FD 0 c 土坑	縄文時代	縄文前期	直立後外反	100×102	80×86	72	290	107	b
203	FD 1 d 土坑	縄文時代	円形	フラスコ状	115	115	60	290	107	a
204	FD 6 d 土坑	縄文時代	蓋女円形	ほぼ直立	60×80	57×70	20	290	108	b
205	FD 7 e 土坑	縄文時代	蓋女円形	フラスコ状	110	134×130	70	291	108	a
206	FD 7 i 土坑	縄文時代	円形	直立・外傾	66×117	33×70	26	291	108	c
207	FD 8 a 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	70	55	22	291	108	b
208	FD 8 a-2 土坑	縄文時代	円形	やや外傾	80	70	14	291	109	b
209	FD 8 e 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	75×85	66×77	16	291	109	b
210	FD 8 h 土坑	縄文時代	円形	直立・内傾	107×115	90×100	38	292	109	b
211	FD 9 e 土坑	縄文前期	小判形	内傾・直立	125×220	115×220	33	292	109	c
212	FD 0 b 土坑	縄文時代	楕円形	やや外傾	102×150	78×124	34	292	110	c
213	FD 0 d 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	95	95	50	292	110	b
214	FD 0 e 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	100	85	17	293	110	b
215	FD 0 g 土坑	縄文前期	楕円形	外傾・直立	110×165	90×130	30	293	110	c
216	FD 0 g-2 土坑	縄文前期	不整な楕円形	外傾・直立	90×170	70×135	15	293	111	c
217	FD 0 i 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	135	120	24	293	111	b
218	FD 0 i-2 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	125	120	30	293	111	b
219	FD 6 g 土坑	縄文前期	円形	ほぼ直立	160	150	17	294	111	b
220	FD 6 g-2 土坑	縄文前期	不明	外傾・直立	84	70	40	294	112	e
221	FD 8 i 土坑	縄文前期	円形	フラスコ状	90	80	120	294	112	a
222	FD 9 g 土坑	縄文前期	円形	フラスコ状	[100]	[120]	80	294	112	a
223	FD 9 j 土坑	縄文前期	不整な楕円形		140×193	115×180	14	295		c
224	FD 9 j 土坑	縄文前期	円形	外傾	140×110	85×94	30	295	112	b
225	FD 0 i 土坑	縄文前期	円形	ほぼ直立	128	125	24	295	112	b
226	FD 0 j 土坑	縄文前期	円形	やや外反	175	150	32	295	113	b
227	FD 1 e 土坑	縄文前期	楕円方形	やや外傾	(130)×155	(120)×144	14	295	113	d
228	FD 1 f 土坑	縄文時代	蓋女円形	フラスコ状	105×115	97×117	67	296	113	a
229	FD 1 g-1 土坑	縄文前期	楕円方形	やや外傾	106×172	84×144	28	296	113	d
230	FD 2 e 土坑	縄文前期	楕円方形	やや外傾	110×(170)	78	36	296	114	d
231	FD 2 g 土坑	縄文時代	やや歪な円形	ほぼ直立	174×200	156×170	40	297	114	b
232	FD 2 h 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	72×90	58×66	70	297		b
233	FD 3 e 土坑	縄文時代	小判形	やや外傾	63×82	32×57	29	297	114	c
234	FD 3 g 土坑	縄文前期	不整形	外傾	158	96	36	297	114	e
235	FD 3 g-2 土坑	縄文前期	不明	外傾	(80)×140	100	15	297		e
236	FD 3 g-3 土坑	縄文前期	楕円形	外傾	126×196	100×180	14	297	115	c
237	FD 3 h 土坑	縄文時代	円形または小判形	ほぼ直立	(70)×116	100	20	298	114	c
238	FD 4 g 土坑	縄文時代	蓋女円形	フラスコ状	145×185	134×148	154	298	115	a
239	FD 4 g-2 土坑	縄文時代	円形	フラスコ状	120	124	98	298	115	a
240	FD 4 g-3 土坑	縄文時代	やや歪な円形	ほぼ直立	120×138	105×115	45	299	115	a
241	FD 4 h-2 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	103×106	95×104	23	299	116	b
242	FD 5 f 土坑	縄文時代	ほぼ円形	内傾・直立	154	162×190	102	299	116	a
243	FD 5 g 土坑	縄文時代	円形	フラスコ状	130	120	88	299	116	a
244	FD 5 g-1 土坑	縄文時代	円形	直立・外傾	112	102	52	300	116	b
245	FD 5 g-2 土坑	縄文時代	蓋女円形	フラスコ状	112×123	136×140	47	300	117	a
246	FD 5 g-4 土坑	縄文時代	蓋女円形	フラスコ状	225	146×195	132	300	117	a
247	FD 5 g-5 土坑	縄文前期	円形	ほぼ直立	135×144	132×135	46	300	117	b
248	FD 5 g-6 土坑	縄文前期から6世紀	蓋女円形	ほぼ直立	145×180	134×145	65	300	117	b
249	FD 5 h 土坑	縄文時代	蓋女円形	ほぼ直立	108×120	104	49	301	118	b
250	FD 5 h-2 土坑	縄文時代	楕円形	フラスコ状	120	125	67	301	118	a
251	FD 5 i 土坑	縄文時代	楕円形	やや外傾	136×194	116×160	14	301	118	c
252	FD 5 i-2 土坑	縄文前期	円形	やや外傾	118×120	84×98	64	302	118	b
253	FD 5 i-3 土坑	縄文前期	楕円形	ほぼ直立	110×160	86×140	5	302		d
254	FD 5 i-4 土坑	縄文前期	円形	外傾・直立	194×110	74×84	56	302	119	b
255	FD 6 d 土坑	縄文時代	小判形	ほぼ直立	116×216	100×200	41	302	119	c
256	FD 6 e 土坑	縄文時代	楕円形	ほぼ直立	[170]×210	175	58	303	119	c
257	FD 6 e-2 土坑	縄文時代	小判形	外傾	114×[130]	88	90	303	120	c
258	FD 6 f 土坑	縄文時代	楕円形	やや外傾	90×120	70×105	30	303	120	c
259	FD 6 f-2 土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	60×70	55×70	55	303	120	b
260	FD 6 g 土坑	縄文時代	楕円形	外傾	80×80	37×80	49	304	120	c

第29表 土坑一覧表(1)

番号	遺構名	時期	平面形	壁・断面形	開口部径	高径	深さ	図版番号	写真図番号	タイプ
261	竪D6b土坑	縄文時代	円形	外傾	100×105 cm	80×70 cm	16 cm	304	120	b
262	竪D8c土坑	縄文前期	円形	ほぼ直立	140×157 cm	125×135 cm	56 cm	304	120	b
263	竪D9a土坑	縄文前期	歪な円形	フラスコ状	105×110 cm	117×150 cm	43 cm	304	121	a
264	竪D9b土坑	縄文前期末葉	円形	フラスコ状	100×105 cm	137×174 cm	134 cm	305	121	a
265	竪D9b-2土坑	縄文時代	歪な円形	フラスコ状	90×115 cm	165×180 cm	78 cm	305	121	a
266	竪D9b-3土坑	縄文時代	楕円形	ほぼ直立	105×123 cm	83×106 cm	90 cm	305	121	c
267	竪D9b-4土坑	縄文時代	小判形	ほぼ直立	60×80 cm	45×70 cm	40 cm	305	121	c
268	竪D9b土坑	縄文時代	小判形	外傾	100×118 cm	90×118 cm	24 cm	306	122	c
269	竪D9b-2土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	45×75 cm	64×67 cm	27 cm	306	122	b
270	竪C1b土坑	縄文前期	歪な円形	ほぼ直立	150 cm	132 cm	40 cm	306	122	b
271	竪C1i土坑	縄文時代	円形	やや外傾	160 cm	130 cm	45 cm	306	122	b
272	竪C2j土坑	縄文前期	歪な円形	ほぼ直立	173×206 cm	156×190 cm	25 cm	307		b
273	竪C2j-2土坑	縄文前期	小判形	ほぼ直立	172×246 cm	152×220 cm	22 cm	307	123	c
274	竪D2g土坑	縄文前期	円形	外傾	(120) cm	(85) cm	47 cm	307	123	b
275	竪E9b土坑	縄文前期	円形	やや外傾	[88] cm	[60] cm	20 cm	307	123	h
276	竪D1g土坑	縄文前期	歪な円形	ほぼ直立	92×108 cm	74×80 cm	40 cm	308	123	b
277	竪D1g-2土坑	縄文時代	歪な円形	外傾・直立	134×152 cm	104×114 cm	62 cm	308	124	b
278	竪D2h土坑	縄文時代	歪な円形	外傾	120×145 cm	100×117 cm	45 cm	308	124	b
279	竪D3g土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	89×87 cm	64×70 cm	39 cm	308	125	b
280	竪D3h土坑	縄文前期	楕円形	外傾	117×157 cm	100×145 cm	43 cm	309	125	c
281	竪D8f土坑	縄文前期	楕円形	外傾	210 cm	160 cm	25 cm	309	124	c
282	竪D0g土坑	縄文前期	楕円形	ほぼ直立	165×255 cm	130×210 cm	53 cm	309		c
283	竪E3a土坑	縄文時代	歪な円形	外傾	95×120 cm	80×70 cm	17 cm	309	125	b
284	竪D1g土坑	縄文前期	小判形	フラスコ状	105 cm	80×[180] cm	53 cm	310		e
285	竪D2f土坑	縄文時代	楕円形	直立・外傾	170×250 cm	160×220 cm	33 cm	310	126	c
286	竪B9f土坑	不明	不整な楕円形	外傾	85×120 cm	40×65 cm	42 cm	310	126	c
287	竪B9h土坑	不明	不整な楕円形	直立・外傾	80×102 cm	50×80 cm	16 cm	310	126	c
288	竪B0h土坑	不明	不整な楕円形	外傾	96×120 cm	68×90 cm	23 cm	311	126	c
289	竪B0i土坑	不明	不整な円形	外傾・直立	80×98 cm	42×68 cm	40 cm	311	127	b
290	竪C5f土坑	縄文時代	円形	ほぼ直立	77×80 cm	64×75 cm	20 cm	311	127	b
291	竪C6f-2土坑	縄文時代	円形	フラスコ状	93×103 cm	110 cm	37 cm	311	127	a
292	竪E1c土坑	縄文時代	円形	やや外傾	98×104 cm	87×74 cm	57 cm	311	127	b
293	竪E2c土坑	平安時代	円形	ほぼ直立	190 cm	80 cm	60 cm	311	128	b

第30表 土坑一覽表(2)

(1) 石 錐

番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
1384	WD 8 c 1 層	硬質流石	宇石西側	(3.2)	1.7	0.5	(2.64)	平基はやや凸状を呈する。矢頭部のごく一部が欠損。	II
1385	Y C 0 g 1 層	硬質流石	宇石西側	(2.4)	(1.3)	(0.2)	(0.31)	基部の片面を欠損している。	I 1
1386	Y D 7 f 1 層	硬質流石	宇石西側	2.8	1.5	1.3	1.12	基部は丁寧。基部側は素材面を残し、扁平。	I 1
1389	WD 5 c 1 層	硬質流石	宇石西側	(2.1)	(1.9)	(0.4)	(1.76)	矢頭部欠損。破折れ。	I
1390	WD 1 g 1 層	硬質流石質流石	宇石西側	2.3	1.2	0.3	1.24	二次加工がやや粗い。基部側の片面に裏材面を残す。	III 1
1392	WD 9 e	粘板岩	北上山地	2.9	1.8	0.4	2.07	やや幅広い感あり。	1 2
1393	WD 0 b 1 層	硬質流石質流石	宇石西側	(2.5)	(0.9)	(0.3)	(0.64)	基部側の大半欠損。破折れ。	
1394	WD 0 a	硬質流石	宇石西側	2.8	1.7	0.5	2.01	基部はやや凸状の感も。裏・裏とは素材面を残す。	1 2
1395	WD 9 d 表土直下	粘板岩	北上山地	(2.3)	1.8	0.2	(0.90)	極めて扁平。矢頭部のごく一部が欠損	II a 2
1396	WD 0 h	硬質流石	宇石西側	2.9	1.5	0.4	1.35	幅に対し、長めの感あり。	II b 2
1397	WD 9 a 褐色土	硬質流石	宇石西側	2.9	1.3	0.3	0.65	側面は、外角部にややくびれて矢頭部につながる。	II a 2
1399	WD 9 a 褐色土	粘板岩	北上山地	(3.0)	(1.1)	(0.3)	(1.19)	矢頭部先端と、基部の一部が欠損。	
1399	WD 7 b 表土	硬質流石	宇石西側	2.6	1.7	0.2	1.20	基部には2単位の刻痕が施される。	II a 2
1411	WD 7 f 表土	硬質流石	宇石西側	2.1	1.7	0.3	2.01	両面とも周縁のみの加工である。	1 2
1414	WD 6 a - b 1 層	硬質流石	宇石西側	2.8	1.7	0.6	2.4		
1415	WD 3 g 再帰積層	粘板岩	北上山地	2.8	1.5	0.6	1.88	中央部に小さな凹溝(パルプではない)がある。	II a 2
1415	WD 3 g	粘板岩	宇石西側	(3.4)	1.4	0.5	(2.64)	矢頭部先端が欠損。	II b 1
1424	WD 7 b 1 層	硬質流石	宇石西側	(3.3)	(1.7)	0.3	(1.85)	基部の一方の一部が欠損。	II a 2
1397	WD 4 d 再帰積層	粘板岩	北上山地	(2.6)	(1.1)	(0.3)	(0.81)	矢頭部の先端部と基部の一方を大きく欠損。	
1397	WD 6 f 再帰積層下位	硬質流石	宇石西側	2.1	1.6	0.3	0.55	長さに対し幅狭く小振り。裏面に一部裏材面を残す。	II a 2
1395	WD 7 f 表層トレンチ	硬質流石	宇石西側	2.5	1.7	0.3	2.35		1 2
1332	WD 9 i 表層	硬質流石質流石	宇石西側	(2.0)	(1.7)	(0.4)	(1.00)	矢頭部および基部の一方の一部が欠損。	1
1335	WD 7 g 1 層	粘板岩	北上山地	(3.0)	(1.4)	(0.4)	(1.70)	矢頭部が欠損。破折れ。長さは確定値。	II b 4
1327	WD 5 b 1 層	硬質流石	宇石西側	(3.0)	1.6	0.4	(1.82)	矢頭部先端が欠損。	1 2
1329	WD 5 g	硬質流石	宇石西側	3.5	1.4	0.5	2.39		1 2
1340	WD 8 a 1 再帰積層	粘板岩	北上山地	(2.7)	(1.3)	(0.5)	(1.36)	矢頭部先端と、基部の一部が欠損。長さは確定値。	II b 1
1411	WD 2 f 再帰積層	硬質流石	宇石西側	(2.6)	(1.7)	(0.4)	(1.57)	矢頭部先端が欠損。使用による欠損かと思われる。	II b 2
1402	WD 4 g 再帰積層	硬質流石質流石	宇石西側	(2.8)	(1.3)	0.3	(1.77)	長さに対し、幅が狭い。基部の一部が欠損。	I
1344	WD 2 b 褐色土位	硬質流石	宇石西側	2.6	0.9	0.4	1.00		1 2
1345	WD 4 g 再帰積層	粘板岩	北上山地	3.7	2.1	0.3	2.46		II a 2
1346	WD 4 g 検出面	粘板岩	北上山地	2.1	1.5	0.3	0.53		II a 2
1349	WD 1 g	硬質流石	宇石西側	3.0	1.6	0.6	2.38	肉厚である。	II b 2
1361	WD 3 b 再帰積層	硬質流石質流石	宇石西側	2.6	1.5	0.3	0.96	やや円錐性に欠ける。	I 1
1362	WD 2 g 再帰積層	硬質流石質流石	宇石西側	3.1	2.0	0.4	2.97	基部の平面部はやや凸凹があり、2単位の刻痕があった。	V 2
1364	WD 3 f	硬質流石質流石	宇石西側	3.0	2.1	0.5	2.55		II b 2
1367	WD 2 g	硬質流石	宇石西側	(1.8)	(1.1)	(0.3)	(0.64)	基部側が大き欠損。(破折れ)	
1368	WD 4 g 検出面	硬質流石質流石	宇石西側	(2.1)	1.5	0.3	(1.09)	矢頭部先端が欠損。使用による欠損かと思われる。	II a 2
1369	WD 3 i 1 層	硬質流石	宇石西側	1.8	1.5	0.3	0.96	平基。または欠損品の再利用率。側面の一部に二次加工。	1 2
1369	WD 2 h 地上土	硬質流石質流石	宇石西側	(2.5)	(1.8)	(0.4)	(1.39)	矢頭部先端が欠損。基部側もまた欠損。	
1364	WD 1 f 1 層	硬質流石質流石	宇石西側	(3.2)	(1.8)	(0.4)	(1.70)		II a 2
1365	WD 3 j	硬質流石質流石	宇石西側	(3.5)	(1.8)	(0.3)	(2.26)	矢頭部先端のごく一部が欠損。使用による欠損か。	1 2
1366	WD 5 f 1 層	硬質流石質流石	宇石西側	(2.8)	(1.7)	(0.2)	(1.99)	二次加工後に、矢頭部方向からの打撃による欠損。	1 2
1369	WD 3 k 再帰積層	硬質流石	宇石西側	(2.4)	1.4	0.4	(1.35)	矢頭部先端の一部が欠損。使用による欠損かと思われる。	1 2
1369	WD 3 g 褐色土	硬質流石	宇石西側	(2.8)	(1.9)	(0.6)	(2.45)	基部の一方と、矢頭部先端が欠損する。	II b 2
1370	WD 3 i	粘板岩	北上山地	2.2	1.2	0.3	0.91	裾の断面形は薄形に似る。小振り。	II b 2
1375	WD 8 i	硬質流石	宇石西側	2.7	2.0	0.4	2.86		II a 1
1376	WD 4 g 検出面	硬質流石	宇石西側	(2.3)	1.5	0.2	(0.70)	矢頭部から左側部方向に欠損。	II b 1
1376	WD 4 i 表土直下	硬質流石	宇石西側	3.2	(1.5)	0.3	(1.38)	基部側の一部に打撃による欠損。	II b 3
1380	WD 5 h 検出面	粘板岩	北上山地	(1.7)	1.4	0.3	(0.69)	矢頭部先端が一部欠損。使用による欠損か。	II b 2
1382	WD 2 d 表土直下	硬質流石	宇石西側	2.9	(1.7)	0.3	(0.80)	基部の一部が欠損。	II b 1
1384	WD 0 g	粘板岩	北上山地	2.5	1.6	0.6	1.88	やや肉厚。	II a 2
1385	WD 3 f	粘板岩	北上山地	3.1	1.6	0.4	1.61		1 1
1386	WD 2 g	粘板岩	北上山地	3.9	1.4	0.3	1.68	やや作りが粗い。幅狭の感あり。	II b 1
1387	WD 3 f 1 層茶褐色土	硬質流石	宇石西側	3.2	1.9	0.3	1.97		II a 1
1388	WD 2 i 再帰積層	硬質流石	宇石西側	(3.2)	(1.7)	(0.4)	(1.56)	破折れに異い。	1 2
1389	WD 3 f 褐色土	粘板岩	北上山地	2.9	1.4	0.5	1.69	基部の裏側刻痕は大きく、やや曲線状となる。	1 2
1391	WD 0 ライン地層質流石	硬質流石	宇石西側	3.8	0.7	0.3	2.6		II a 2
1394	WD 2 g 表土	硬質流石	宇石西側	(1.5)	(2.5)	(0.6)	(1.77)	基部の裏り大きい。基部と矢頭部先端は一部欠損。	II c 2
1396	WD 2 g 1 層	粘板岩	北上山地	(2.4)	(2.3)	(0.5)	(1.85)		II d 4
1397	WD 1 a 1 層	粘板岩	北上山地	(2.3)	(1.4)	(0.6)	(1.64)	矢頭部欠損。	II a 2

第31表 不登載石器一覧表(1)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2081	ⅩD 9 b Ⅱ層	硬質泥質燧石	宇石西部	(2.9)	(1.4)	(0.6)	(2.13)		
2082	ⅩD 3 g Ⅰ層	粘板岩	北上山地	(2.5)	(1.4)	(0.2)	(0.93)	扁平で鋭い作り。	Ⅱb 1
2084	ⅩD 5 h Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	2.5	1.2	0.3	1.30		
2085	ⅩD 0 g	粘板岩	宇石西部	2.6	1.2	0.2	2.34	小振り。	Ⅱb 2
2087	ⅩD 4 h Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	(1.4)	(1.4)	(0.4)	(1.05)		I
2088	ⅩD 5 g Ⅰ層	硬質泥質燧石	宇石西部	2.6	1.5	0.2	1.10		Ⅱb 2
2089	ⅩD 0 i	粘板岩	宇石西部	3.5	1.5	0.5	2.34	基部の鋭り部分が大きい。	Ⅱb 1
2019	ⅩD 4 b Ⅱ層	硬質燧石質泥岩	宇石西部	2.8	1.7	0.4	1.84		Ⅱa 2
2013	ⅩD 1 e Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	2.5	1.5	0.4	1.48		Ⅱb 3
2017	ⅩD 7 g Ⅰ層	硬質燧石質燧石	宇石西部	2.1	1.8	0.4	1.28	先端部が円い形状のタイプ。幅広の感あり。	Ⅱa 2
2018	ⅩD 8 f Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	(2.4)	(1.8)	(0.3)	(2.07)	先端部側の大半を欠損。	Ⅱ
2019	ⅩD 4 d	粘板岩	北上山地	2.1	1.9	0.4	0.97	小振り。	Ⅱa 2
2023	ⅩE 8 a	硬質泥岩	宇石西部	(1.9)	(1.6)	(0.4)	(1.31)	基部欠損。	1.4
2025	ⅩE 5 a 表土	硬質泥岩	宇石西部	(2.0)	(1.4)	(0.2)	(1.00)	基部側の一方が欠損。	
2028	ⅩD 4 f Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	2.0	1.4	0.2	0.53	扁平。小振り。	Ⅱb 2
2029	ⅩD 4 f Ⅱ層	粘板岩	北上山地	2.2	1.5	0.2	0.66		Ⅱa 2
2031	ⅩD 7 g 褐色土	粘板岩	北上山地	2.9	1.2	0.4	1.74	裏面に黒付の層を残す。	Ⅱb 2
2035	表層	地質燧石燧石	宇石西部	2.8	1.4	0.2	1.98	基部にすかる石層にすかるか途う資料。	I 2
2036	表層	硬質泥岩	宇石西部	(1.9)	(1.6)	(0.3)	(0.78)	先端部側の大半を欠損。	Ⅱb
2040	不明	硬質泥岩	宇石西部	2.6	1.3	0.3	1.03		Ⅱb 2
1942	ⅣD 1 a Ⅱ層	粘板岩	北上山地	2.2	1.1	0.6	1.09	赤製品。	I 2
2277	ⅣE 9 a Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	2.2	1.3	0.2	1.22		I 2
1824	ⅩD 3 j 住壤土	硬質燧石質泥岩	宇石西部	(1.8)	(1.8)	(0.3)	(1.45)		I
1825	ⅩD 3 j 住壤土	硬質燧石質泥岩	宇石西部	(1.3)	(1.3)	(0.2)	(0.85)		
1829	ⅩD 5 i 住壤土	硬質泥岩	宇石西部	(2.5)	(1.6)	(0.5)	(2.29)		
1285	ⅣD 9 f	硬質泥岩	宇石西部	(1.2)	(1.9)	(0.5)	(1.9)		I 2
1388	ⅣD 4 h 表土	粘板岩	北上山地	(1.8)	(2.4)	(0.7)	(0.95)	大半欠損。	I
2590	ⅣD 0 タイントレンチ	流紋岩	宇石西部	3.7	2.7	0.6	2.78		Ⅱb 4
2594	ⅣD 0 タイントレンチ	粘板岩	北上山地	(2.7)	(1.8)	(0.3)	(1.02)		Ⅱa 2
2595	ⅣC 1 g 表土	硬質泥岩	宇石西部	(2.4)	(1.8)	(0.3)	(4.5)		1.3
2598	ⅩD 3 h Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	(2.5)	(1.5)	(0.4)	(1.07)	大半欠損。	
2629	ⅩD 3 f Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	(2.6)	(1.7)	(0.4)	(1.85)		I 2
2630	ⅣD 5 i 再編積層	流紋岩	宇石西部	(2.8)	(2.0)	(0.3)	(1.56)		Ⅱa 2
2631	ⅣC 5 e 再編積層	硬質泥岩	宇石西部	(3.1)	(1.7)	(0.4)	(1.84)		Ⅱb 3
2634	ⅣC 4 g 再編積層	硬質泥岩	宇石西部	(2.5)	(1.8)	(0.4)	(1.54)		Ⅱ
2634	ⅣC 3 h Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	(1.9)	(1.4)	(0.4)	(0.92)		I
2635	ⅣC 3 h 時褐色土	粘板岩	北上山地	(2.3)	(1.6)	(0.3)	(1.11)	基部側欠損。	
2619	ⅩD 5 e Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	2.9	1.8	0.4	2.10		Ⅱb 2
2623	ⅩD 4 g Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	1.6	1.4	0.2	0.35		Ⅱa 2
4292	ⅣD 0 f 褐色土	チャート質燧石	北上山地	3.8	1.8	0.6	3.12		1.4

(2) 石鏃

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
1440	ⅣD 0 i 住	粘板岩	北上山地	2.4	1.4	0.5	1.88	基部をつくり出してはいるが、扁平な素材の状況を残す。	
1881	ⅣD 0 d Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	2.8	1.6	0.5	1.09	基部は石鏃に似るが、二次加工が部分的。	
2606	ⅣD 7 b Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	(1.4)	(3.8)	1.0	(3.60)		I 2

(3) 石匙

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
1131	ⅣC 9 f 住洋面	硬質泥岩	宇石西部	(4.4)	(2.8)	(0.8)	(7.32)		赤製品
1136	ⅣD 4 g Ⅰ層	硬質燧石	宇石西部	(3.0)	(2.4)	(0.9)	(4.82)		I
1389	ⅩD 4 h 住壤土上位	硬質泥岩	宇石西部	(2.3)	(2.0)	(0.8)	(3.14)	つまみ部のみ残存。	
2126	ⅣC 7 f Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	(1.9)	(1.6)	(0.5)	(1.53)	つまみ部のみ残存。	Ⅳ
2602	ⅣC 0 f Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	(2.0)	(3.0)	(0.7)	(4.43)	つまみ部のみ残存。	I
2617	ⅣC 6 h 住壤土	硬質泥岩	宇石西部	(2.0)	(2.4)	(0.4)	(3.09)	つまみ部のみ残存。	Ⅱ
2640	ⅣD 2 c Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	(5.9)	(2.3)	(0.7)	(9.50)		1.3 2
2641	ⅣD 2 c Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	(4.8)	(2.5)	(0.8)	(6.27)		1.3 2
2642	ⅣC 0 b 表層	硬質泥岩	宇石西部	(2.0)	(2.0)	(1.0)	(4.30)	つまみ部のみ残存。	Ⅳ

第32表 不登載石器一覧表(2)

番号	出土地点・単位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2643	WC 4 f 1層	硬質泥岩	宇石西部	(5.9)	(1.4)	(0.7)	(5.06)	つまみ部欠損。	I a 1
2644	WC 2 e	硬質礫質泥岩	宇石西部	(5.8)	(1.8)	(0.8)	(5.06)		I a 2
2647	WD 5 i	硬質礫砂岩	宇石西部	(7.4)	(2.3)	(0.6)	(9.02)		I b 1
2648	WD 5 i 1層	硬質泥岩	宇石西部	(7.1)	(3.1)	(1.0)	(21.55)		I b 2
2649	WC 5 i 再埋積層	チャート	北上山地	(3.9)	(2.3)	(0.7)	(6.57)		I b 1
2650	WC 3 g 1層	硬質礫質泥岩	宇石西部	(6.7)	(2.9)	(0.9)	(16.44)		I b 1
2653	WC 0 j	硬質泥岩	宇石西部	(6.3)	(1.8)	(0.7)	(7.67)		I b 1
2654	WC 7 f 再埋積層	粘板岩	北上山地	(4.5)	(1.7)	(0.6)	(5.32)	実測部2ヶ所全開加工。	I b 1
2656	WC 7 f 1層	硬質礫砂岩	宇石西部	(4.5)	(4.0)	(0.9)	(13.99)		II
2657	WC 5 g 再埋積層	硬質泥岩	宇石西部	(5.3)	(2.3)	(0.7)	(8.92)		I b 1
2658	WC 0 j 再埋積層	粘板岩	宇石西部	5.2	2.8	0.7	10.81		I b 2
2659	WC 2 g 表土	硬質泥岩	宇石西部	8.0	3.8	1.0	35.71		I b 3
2660	WC 3 h	硬質泥岩	宇石西部	(5.2)	(2.4)	(1.0)	(10.56)		I b 2
2662	WC 3 j 再埋積層下位	硬質泥岩	宇石西部	6.6	3.1	0.9	19.86		I b 3
2664	WC 6 d 再埋積層	硬質泥岩	宇石西部	(2.6)	(2.9)	(0.6)	(4.41)		IV
2665	WC 4 b 再埋積層下位	硬質泥岩	宇石西部	3.8	4.5	0.7	8.34	全開加工。	III b 3
2666	WC 8 g 1層	硬質礫質泥岩	宇石西部	3.6	3.9	0.7	7.01		II a
2667	WC 3 h 1層	硬質泥岩	宇石西部	3.6	3.9	0.6	8.47	二辺加工。つまみ部と一辺は裏材面を残す。	II b
2668	WC 4 b 再埋積層下位	硬質泥岩	宇石西部	(6.0)	(3.0)	(0.7)	(19.47)	つまみ部欠損。	I b 1
2672	WC 5 b 再埋積層下位	チャート	北上山地	4.1	2.7	1.0	10.59		III
2673	WC 7 e 再埋積層	硬質泥岩	宇石西部	(3.6)	(4.0)	(0.7)	(9.43)	裏材面を残す。	II b
2674	WC 4 a 再埋積層下位	硬質泥岩	宇石西部	(4.9)	(2.5)	(0.8)	(8.86)		I b 1
2676	WC 7 g 1層下位	硬質泥岩	宇石西部	(6.3)	(3.0)	(0.6)	(12.35)		I b 1
2678	WC 3 g 再埋積層下位	硬質泥岩	宇石西部	5.1	1.9	0.7	7.62		I b 1
2679	WC 5 h 1層	硬質泥岩	宇石西部	6.6	2.3	0.5	9.98		I b 3
2680	WC 8 d 再埋積層	硬質礫砂岩	宇石西部	(5.3)	(3.5)	(0.7)	(10.71)		I b 2
2681	WC 5 a 再埋積層	粘板岩	北上山地	(7.2)	(3.9)	(1.0)	(20.36)		I b 3
2682	WC 7 f	硬質礫質泥岩	宇石西部	(6.8)	(2.9)	(0.5)	(16.51)		I b 2
2683	WD 4 f 再埋積層	チャート	北上山地	(4.2)	(2.8)	(1.0)	(11.34)	使用痕があるが、二次加工なし。	III
2684	WD 1 f 1層	硬質泥岩	宇石西部	(4.7)	(2.3)	(0.8)	(8.55)		I b 2
2685	WD 4 g 再埋積層	硬質泥岩	宇石西部	(5.3)	(2.4)	(0.5)	(8.18)		I a 2
2687	WD 4 b 再埋積層	硬質泥岩	宇石西部	(4.7)	(1.9)	(0.6)	(5.01)		I a 2
2688	WD 3 j	硬質礫砂岩	宇石西部	(2.8)	(2.3)	(0.3)	(2.73)		I
2689	WD 3 h 再埋積層	硬質礫質泥岩	宇石西部	(1.4)	(3.3)	(1.2)	(05.51)		I b 1
2691	WD 3 b 検出面	硬質泥岩	宇石西部	(5.4)	(2.4)	(0.4)	(9.15)		I a 2
2694	WD 9 j 1層黒色土	硬質礫質泥岩	宇石西部	(4.1)	(3.7)	(0.7)	(11.71)		I
2695	WD 0 a 褐色土中	硬質泥岩	宇石西部	(5.9)	(3.5)	(0.4)	(12.78)		I b 2
2696	WD 2 g 表土下	硬質泥岩	宇石西部	(4.6)	(2.4)	(0.6)	(7.95)		I b 3
2698	WD 0 c	硬質泥岩	宇石西部	(6.3)	(2.6)	(0.7)	(9.93)		I a 2
2699	WD 5 b 埋土上	硬質礫質泥岩	宇石西部	(4.9)	(2.8)	(0.4)	(8.64)		I b
2701	WD 6 g 黄褐色土上	硬質泥岩	宇石西部	(5.9)	(3.0)	(0.9)	(18.39)		I b 1
2702	WD 2 e	硬質礫質泥岩	宇石西部	(4.0)	(6.1)	(0.7)	(16.20)		II b
2705	WD 7 c 表土下	硬質泥岩	宇石西部	(3.3)	(4.0)	(0.4)	(4.80)	全開加工。	II b
2707	WD 6 h 暗褐色土	硬質泥岩	宇石西部	(8.7)	(4.5)	(0.4)	(64.43)		I b 1
2708	WD 2 g 表層	硬質泥岩	宇石西部	(2.0)	(2.9)	(0.7)	(8.03)	刃部に対つまみ部が大きい。欠損部有り。	II b
2710	WD 2 g 再埋積層	硬質泥岩	宇石西部	4.0	5.3	0.9	21.42	部分欠。	II b
2711	WD 6 g	硬質礫質泥岩	宇石西部	(2.2)	(3.4)	(1.8)	(10.71)		I
2713	WD 0 a 表土	硬質泥岩	宇石西部	(4.3)	(5.1)	(0.7)	(8.93)	裏材面と加工面で実測部を1ヶ所作る。欠損部有り。	II a
2714	WD 6 a	硬質泥岩	宇石西部	5.5	2.3	0.9	10.78		I b 2
2718	WD 9 c 表層	硬質礫質泥岩	宇石西部	(5.3)	(2.8)	(0.6)	(8.45)	使用痕があるが、二次加工はない。	I b 1
2719	WD 5 a 褐色土	硬質礫砂岩	宇石西部	(5.8)	(1.8)	(0.7)	(7.07)		I b 1
2721	WD 1 g 表土	硬質礫砂岩	宇石西部	(4.3)	(8.4)	(0.7)	(32.34)		II b
2722	WD 3 a 表土	硬質泥岩	宇石西部	(4.0)	(2.3)	(0.4)	(3.20)		IV
2723	WD 5 f 暗褐色土	粘板岩	宇石西部	(4.0)	(1.7)	(0.7)	(5.06)		I
2724	WC 2 h 1層茶褐色土	硬質泥岩	宇石西部	(4.5)	(2.3)	(0.5)	(7.00)		I a 2
2725	WC 2 j 埋土層下位	硬質泥岩	宇石西部	4.5	3.4	1.1	7.74	未製品。	II b
2726	WD 9 h	硬質礫質泥岩	宇石西部	(6.3)	(3.3)	(0.7)	(14.22)		I a 1
2727	WD 7 表土	硬質礫砂岩	宇石西部	(3.7)	(2.6)	(0.5)	(5.34)		I
2729	WD 2 d	硬質泥岩	宇石西部	(6.8)	(1.8)	(1.0)	(12.00)		I b 1
2730	WD 3 c	硬質泥岩	宇石西部	(6.4)	(2.8)	(0.8)	(10.33)		I a 2
2731	WD 8 a	赤色泥岩	北上山地	(5.1)	(4.4)	(0.5)	(10.94)		I b

第33表 不登載石器一覽表(3)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2534	ⅡC1 j 1層	硬質泥岩	宇石西部	(5.8)	(2.8)	(0.7)	(12.46)	中央尖鋭部に丸味がある。	I a 2
2536	ⅡD8 h 日層	硬質泥岩	宇石西部	(8.3)	(4.0)	(0.9)	(17.07)		I b 1
2538	ⅡD6 g 日層	硬質泥岩	宇石西部	(5.4)	(2.8)	(0.7)	(8.94)		I b 2
2539	ⅡD0 j 表土	硬質泥岩	宇石西部	(6.8)	(2.3)	(0.5)	(12.90)		I b 2
2540	ⅡD9 i 日層	粘板岩	北上山地	(4.8)	(2.4)	(0.2)	(4.77)		I b
2541	ⅡD7 i 1層	硬質泥岩	宇石西部	(5.5)	(2.7)	(0.5)	(6.41)		I b
2544	ⅡD2 d 1層	硬質泥岩	宇石西部	(6.5)	(2.0)	(0.7)	(9.30)		I b 2
2545	ⅡD9 i 1層	粘板岩	北上山地	(6.3)	(2.7)	(0.7)	(12.37)		I b 2
2547	ⅡD0 i	硬質泥岩	宇石西部	5.7	2.4	0.7	9.57		I b 1
2550	ⅡD2 h 日層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	(2.8)	(2.7)	(0.8)	(3.52)	つまみ部のみ残存。	Ⅱ
2551	ⅡD4 i 1層	硬質泥岩	宇石西部	(7.3)	(3.5)	(0.9)	(19.45)		Ⅱb
2552	ⅡD9 i 日層	地質凝結凝灰岩	宇石西部	(5.7)	(2.9)	(0.8)	(6.54)		I a 2
2555	ⅡD1 f 表層	硬質泥岩	宇石西部	(3.0)	(2.4)	(0.3)	(2.82)		I
2559	ⅡD1 j 表層	地質凝結凝灰岩	宇石西部	(6.0)	(4.1)	(0.8)	(13.90)	一辺のみ加工。	Ⅱ
2560	ⅡD8 f 日層	地質泥岩	宇石西部	(3.5)	(6.1)	(0.5)	(11.80)	二辺加工。	Ⅱb
2561	ⅡD2 e 再編積層	硬質泥岩	宇石西部	(4.8)	(1.9)	(0.5)	(5.05)		I a 2
2562	ⅡD5 f 再編積層	粘板岩	北上山地	(5.8)	(4.0)	(1.0)	(22.34)		Ⅱ
2563	ⅡD0 i	地質泥岩	宇石西部	(4.2)	(2.8)	(0.5)	(5.58)		I b 1
2564	ⅡD2 e 再編積層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	(1.8)	(2.3)	(0.7)	(2.86)	つまみ部のみ欠損。	Ⅱ
2566	ⅡD2 i	硬質泥岩	宇石西部	(5.8)	(1.5)	(0.5)	(6.35)		I b 2
2568	ⅡD2 g	硬質泥岩	宇石西部	(5.9)	(1.7)	(0.8)	(10.33)		I a 2
2569	ⅡD1 h 日層	地質泥岩	宇石西部	(4.8)	(2.8)	(0.8)	(8.21)		I b 1
2572	ⅡD3 37 トレンチ	地質泥岩	宇石西部	(6.4)	(2.4)	(0.8)	(10.90)		I a 2
2574	ⅡD1 a 1層	地質泥岩	宇石西部	(6.0)	(1.8)	(0.5)	(4.66)		I a 2
2578	表層	地質泥岩	宇石西部	(4.9)	(2.5)	(0.8)	(12.07)		I b 1
2580	No. 14 トレンチ	地質凝結凝灰岩	宇石西部	(5.0)	(2.4)	(0.5)	(7.37)		I b 2
2581	不明	地質泥岩	宇石西部	(2.4)	(5.0)	(1.1)	(12.92)		Ⅱ
2582	不明	地質泥岩	宇石西部	(7.0)	(2.9)	(0.7)	(13.07)		I b 1
2583	ⅡD3 e 再編積層	地質泥岩	宇石西部	(3.3)	(1.9)	(0.4)	(3.50)		I
2585	ⅡC4 j	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	5.5	2.3	1.0	15		I b 1
2606	ⅡC4 j	地質泥岩	宇石西部	7.0	2.6	0.8	29		I b 2
2608	ⅡC2 g 暗褐色土	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	(7.6)	(3.8)	(0.9)	(28)		I b 2
2611	ⅡC9 b 表土	地質凝灰質泥岩	宇石西部	(6.0)	(4.8)	(1.3)	(23.00)		Ⅱ
2634	ⅡC4 h 再編積層	硬質泥岩	宇石盆地西部	2.5	6.1	1.1	20.58		I a 2
2716	ⅡC1 h-2 住持面	凝灰質泥岩	宇石西部	(2.0)	(1.9)	(0.5)	(3.27)		I

(4) 石鏡

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2626	ⅡC1 g 日層	硬質泥岩	宇石盆地西部	(5.8)	(4.8)	(1.4)	(35)		I
2636	ⅡD5 i	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.6	4.6	1.8	80		

(5) 不定形石器

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
1273	ⅡD8 j-2 住ベント	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.2	2.0	0.7	2.68		Ⅱ
1274	ⅡD5 g 住	粘板岩	北上山地	2.5	2.0	0.7	6.12		I a 2
1300	ⅡD4 g 1層	硬質泥岩	宇石西部	3.7	2.7	0.8	4.94	割断面あり。三角部状となる。Uフレの可能性もあり。	Ⅱ
1387	ⅡE	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	2.9	3.2	0.6	4.21		I b
1407	ⅡC7 f 住埋土	粘板岩	宇石西部	3.6	2.3	1.8	4.41	摩耗タール付着。	Ⅱ
1482	ⅡD2 c 1層	硬質泥岩	宇石西部	3.8	5.2	0.5	12.96	素材の輪辺の角度を利用して急角度に加工。	I a 1
2049	ⅡD8 d	硬質泥岩	宇石西部	2.0	3.5	0.6	7.05	交互割断状の部分と、急角度の部分あり。	Ⅱ
2053	ⅡD0 h 暗褐色土	粘板岩	北上山地	4.4	2.0	0.7	11.21		Ⅱa
2054	ⅡD0 i 掘出面	地質泥岩	宇石西部	6.2	3.8	1.0	25.53	側加工部には、使用のためと思われる微小割断あり。	Ⅱ
2055	ⅡD8 c	硬質泥岩	宇石西部	3.5	2.1	0.7	4.21		I a 1
2062	ⅡD0 i 日層	地質泥岩	宇石西部	3.7	4.4	0.8	13.11		I a 1
2069	ⅡC9 区表層	粘板岩	北上山地	3.7	2.6	0.9	7.50		I d 2
2071	ⅡC4 g	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	4.4	2.4	0.4	6.24		I c 1
2072	ⅡC7 f 再編積層	硬質泥岩	宇石西部	3.7	5.8	1.3	19.75		I a 1
2074	ⅡC7 f 再編積層下段	地質泥岩	宇石西部	3.3	5.9	1.3	19.75	交互割断。削断状割断も観察される。	Ⅱ
2080	ⅡC8 f 表層	粘板岩	北上山地	2.1	1.9	0.7	2.40		I a 1

第34表 不登載石器一覧表(4)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	高さ	備考	分類
2982	甕C4b再地検帯下位	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	2.5	3.7	0.6	5.45		Ia1
2983	甕C4b再地検帯下位	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	4.5	4.1	0.8	12.63		Ia2
2987	甕C5h再地検帯下位	埴質泥岩	宇石西部	3.3	5.0	0.7	12.03	彫刻面には石粒に包まれるが、ノッチの作りだが強い。	Ia1
2990	甕C1h再地検帯下位	埴質泥岩	宇石西部	4.3	3.2	0.8	11.43	いわゆるエンドスレーパー状。	Ib4
2992	甕C5h日層	埴質泥岩	宇石西部	3.0	3.5	0.7	10.41		Ib1
2994	甕C6h再地検帯下位	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	3.3	3.5	0.6	9.85		Ia2
2996	甕C5h再地検帯	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	2.9	2.7	0.8	7.17		Ib1
2997	甕C3と再地検帯下位	埴質灰質凝灰岩	宇石西部	3.6	2.1	0.5	4.70	石粒のつまみ部が欠損したものと考えられる。	Ia2
2998	甕C8f再地検帯下位	埴質泥岩	宇石西部	6.7	3.4	1.2	31.15		Ib1
2994	甕C6g再地検帯下位	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	2.3	2.7	0.6	6.00		Ia2
2999	甕C8f再地検帯下位	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	4.9	7.8	0.5	30.98	1辺は明らかに刃部、もう1辺は使用による小割削。	Ia2
2910	甕C7f再地検帯下位	粘板岩	北上山地	3.0	2.1	0.5	2.86	刃部の部分が強い凹溝。	Ia2
2911	甕C1h副葬	硬質泥岩	宇石西部	2.4	2.5	0.5	3.51		Ic1
2912	甕C6g再地検帯	粘板岩	北上山地	3.5	3.4	0.8	9.82	副葬品は直線状。	II
2917	甕C4f再地検帯下位	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	5.9	4.2	0.6	31.16		Ia2
2922	甕C4h再地検帯下位	硬質泥岩	宇石西部	3.6	2.8	0.5	9.23	いわゆるエンドスレーパー状。	Ib4
2923	甕C5e再地検帯	埴質泥岩	宇石西部	3.0	2.8	0.6	7.93		Ia2
2924	甕C0j再地検帯	埴質泥岩	宇石西部	4.6	3.0	0.5	5.75		II
2925	甕C4h	埴質泥岩	宇石西部	5.7	4.0	1.3	29.11		II
2926	甕C18トレンチ盛土	埴質泥岩	宇石西部	5.0	2.6	0.4	7.56		Ia2
2929	甕C6g再地検帯	埴質泥岩	宇石西部	5.4	4.5	1.0	30.82		Ia2
2930	甕C7d再地検帯下位	硬質泥岩	宇石西部	3.4	2.7	0.4	3.23	形にまとまりあり。	Ia
2931	甕C4h日層	玉髓	北上山地	4.3	2.5	0.9	10.46		II
2932	甕C6f	硬質泥岩	新巻三系中新統	1.8	1.8	0.4	2.47		Ia2
2935	甕C4g再地検帯	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	2.7	2.7	0.6	9.93		II
2936	甕C7c再地検帯下位	埴質泥岩	宇石西部	2.8	1.9	0.5	3.41		Ib4
2937	甕C5f再地検帯下位	粘板岩	北上山地	3.7	2.8	1.0	9.09	巻帯作り。	Ic1
2939	甕C6g再地検帯	粘板岩	北七山地	5.1	3.0	1.7	23.73		II
2940	甕C4b再地検帯下位	粘板岩	北上山地	4.5	3.8	0.7	14.06	副葬品は扇形状。	III
2942	甕C7f再地検帯	硬質泥岩	宇石西部	2.1	2.9	1.8	17.80		Ia2
2943	甕C4f再地検帯	硬質泥岩	宇石西部	2.1	3.2	0.9	5.96	折痕あり。	Ia
2944	甕C区奥掛	硬質泥岩	宇石西部	4.5	2.5	0.4	7.29		Ic1
2945	甕C7f再地検帯下位	粘板岩	北上山地	4.2	1.4	0.4	3.39		Ia2
2947	甕C2j日層	硬質泥岩	宇石西部	9.8	5.5	1.5	54.17		Ia2
2950	甕D3g	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.9	3.4	0.8	9.70		Ib4
2951	甕D5f風岡木	粘板岩	北上山地	7.2	5.5	1.8	57.13		Ib1
2952	甕D3f日層	粘板岩	北上山地	3.9	3.3	0.3	6.19		Ia1
2954	甕D2g	硬質泥岩	宇石西部	5.8	4.8	0.7	30.87	片面磨が微状となる。	Ia1
2959	甕D2j裏土直下	粘板岩	北上山地西縁	3.4	3.1	1.0	10.89		II
2960	甕D4e裏土直下	粘板岩	北上山地	4.0	6.0	1.1	24.46		Ia2
2961	甕D6f再地検帯下位	粘板岩	北上山地	3.0	3.0	0.7	8.46		Ia1
2962	甕D5i裏土直下	硬質泥岩	新巻三系中新統	5.3	2.2	1.1	8.89		Ia2
2963	甕D8i	埴質泥岩	宇石西部	6.8	2.2	1.1	16.29	石粒の未成品とも考えられる平面磨をしている。	Ia
2965	甕D4h	硬質泥岩	新巻三系中新統	5.9	2.9	0.5	10.07		Ib4
2967	甕D1a日層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	2.7	2.4	0.7	5.83	折痕あり、全体として三角形状。	Ia2
2968	甕D4h裏土直下	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.4	3.1	0.4	5.08		Ia2
2972	甕D2e再地検帯	粘板岩	北上山地	2.6	2.1	1.1	8.28		Ia1
2973	甕D5i裏土直下	埴質泥岩	宇石西部	4.0	3.1	0.4	5.92	スレーパーエッジだが、二次加工部分は一部。	Ia1
2976	甕D2e	埴質泥岩	宇石西部	4.6	2.5	1.0	13.91		II
2977	甕D7b	硬質灰質凝灰岩	宇石西部	4.4	2.9	0.9	10.59		III
2979	甕D4g横出面	硬質泥岩	宇石西部	3.4	2.4	0.7	5.08	不連続。	Ia2
2982	甕D5i裏土直下	硬質泥岩	宇石西部	2.8	2.8	0.5	5.74	刃部と想定される部分は小割削。	Ia1
2983	甕D7h	硬質泥岩	宇石西部	2.9	3.2	0.3	4.84	やや粗磨。	Ia2
2984	甕D4h横出面	埴質泥岩	宇石西部	1.2	2.0	0.2	0.64		Ib2
2985	甕D1d再地検帯	硬質泥岩	宇石西部	3.3	3.7	0.7	7.34		II
2986	甕D4g再地検帯	粘板岩	北上山地	3.9	2.6	0.7	7.43	二次加工は一部。	Ia1
2987	甕D4h裏土直下	硬質泥岩	宇石西部	2.8	4.5	0.6	7.15	二次加工は素材移送の中央部に4単位ある。	W
2990	甕D1g	硬質泥岩	宇石西部	4.8	2.6	0.9	8.86		Ia2
2991	甕D9f	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.7	5.5	1.2	27.46		Ia2
2993	甕D5h横出面	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.6	1.8	0.3	3.39		Ia1
2997	甕D3j埴岡色土	硬質泥岩	宇石西部	2.2	2.8	0.8	3.89	片面磨は刃部。	III

第35表 不登載石器一覧表(5)

番号	高土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
2106	WD 9 g	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	2.4	1.5	0.3	1.20		Ia1
2204	WD 4 g	硬質泥岩	宇石西部	4.0	1.3	0.3	2.21	尖頭部を作り出す。	Ia1
2205	WD 4 g 被上面	粘板岩	北上山地	3.7	1.8	0.5	3.16		Ia2
2206	WD 9 c Ⅱ層	粘板岩	北上山地	3.4	4.1	6.0	13.72	二次加工は部分的。	Ia2
2207	WD 1 j	硬質泥岩	宇石西部	1.9	1.5	0.2	0.94	欠損又は、折断により扁平な三角形状を呈する。	Ib2
2219	WD 7 c Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	3.3	1.7	0.3	1.97	月の部分はやや不揃である。	Ia2
2211	WE 5 f 褐色土直上	硬質泥岩	宇石西部	6.3	5.9	1.9	31.49	スクレーパーエッジの部分はごく一部である。	Ia1
2214	WE 4 a	硬質泥岩	宇石西部	3.3	1.3	0.8	3.90	楕状の石器である。	Ia1
2215	WE 7 b 表土	硬質泥岩	宇石西部	5.3	3.4	1.3	26.98		Ⅱ
2216	WD C 1 Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	3.5	2.6	1.1	8.06	刃部に打痕がある。	Ⅱ
2219	WD C 2 g 再結核層	硬質泥岩	宇石西部	2.8	1.8	0.6	3.32	二次加工は丁寧である。	Ic2
2222	WD 1 f	硬質泥岩	宇石西部	7.4	4.3	1.4	41.44		Ⅱ
2223	WD C 4 f 暗褐色土	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	1.7	1.5	0.7	1.46	折断面とかかわって三角形状を呈するタイプ。	Ia1
2224	WD C 1 j 再結核層	硬質泥岩	宇石西部	2.8	2.0	0.4	4.13		Ib2
2225	WD C 3 f	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.9	2.0	0.6	5.41	典型的な尖頭部状石器である。	Ic
2228	WD C 4 f 暗褐色土	硬質泥岩	宇石西部	5.6	3.4	0.9	15.42		Ⅱ
2234	WD C 1 Ⅰ層	粘板岩	北上山地	3.0	1.8	0.5	3.45	野蠻的には石器のつまみ部が大きく欠損したよう。	Ic2
2236	WD C Ⅱ層	粘板岩粘板岩	宇石西部	4.1	3.4	1.2	11.49		Ⅱ
2238	WD C 4 f 暗褐色土	硬質泥岩	宇石西部	3.2	2.8	0.8	5.31	刃部は一部分で、折断面が見える。	Ia1
2241	WD C 1 j 暗地層	硬質泥岩	宇石西部	3.6	2.6	0.5	6.73		Ib2
2245	WD D 8 Ⅰ層	粘板岩	北上山地	3.1	1.7	0.5	3.92	折断面または欠損部が2つあり、全体としては三角形状。	Ia2
2248	WD D 6 Ⅰ層	粘板岩	宇石西部	6.8	3.4	1.1	25.64	石器のつまみ部を作り出すためのノッチか。	V
2250	WD D 2 c	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	2.9	3.7	1.8	15.70	折断面あり、欠損部とも考えられる。	Ia3
2253	WE E 0 a 黄土	石髓	北上山地	3.8	1.8	0.7	6.36		Ia2
2257	WE E 0 b 黄土	粘板岩	北上山地	4.8	2.9	0.6	9.97		Ic1
2258	WE E Ⅱ層	粘板岩	宇石西部	6.7	4.8	1.1	33.09		Ic2
2260	WE 7 a	硬質泥岩	宇石西部	3.0	2.1	0.3	2.15	素材の形をそのまま残し、やや粗雑。	Ib2
2266	WE D 1 e Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	3.3	2.7	0.9	7.99		Ib2
2267	WE D 1 j Ⅰ層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.6	3.3	0.9	12.73	典型的な儀器。	Ia1
2270	WE D 9 Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	4.8	3.8	0.9	1.96		Ia2
2273	WE D 2 g Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	6.1	4.1	1.1	25.18		Ia1
2276	WE D 4 h	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	4.4	5.4	1.1	22.87	不整なスクレーパーエッジ。	Ia1
2285	WE D 7 h Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	0.5	4.9	0.8	21.83		Ic2
2287	WE D 5 g Ⅰ層	粘板岩	宇石西部	2.7	3.6	0.7	7.96		Ia2
2288	WE 5 b	硬質泥岩	宇石西部	4.8	3.9	1.6	17.07		Ia2
2291	WE 1 a	硬質泥岩	宇石西部	4.3	4.3	0.4	3.97	扁平で細長い形跡をしている。	Ia1
2295	WE 5 a	硬質泥岩	宇石西部	3.6	2.3	0.9	7.49	二次加工の痕跡は4単位程度。	Ia1
2298	WE 2 a Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	4.5	2.8	0.6	9.05		Ⅱ
2300	WE D 3 h Ⅱ層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	5.3	3.3	1.3	19.81		Ia2
2301	WE D 1 d Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	3.5	1.6	0.6	3.84	細長い素材。両端に尖頭部があり、あるいは石髄となる。	Ia2
2305	WE D 9 g	硬質泥岩	宇石西部	4.3	3.9	0.7	25.75		Ib2
2308	WE D 5 Ⅰ層	粘板岩	北上山地	4.3	2.9	0.5	6.60	欠損品の可能性。	Ic1
2310	WE D 9 e Ⅰ層	地質凝灰質泥岩	宇石西部	2.2	2.6	0.7	3.96	部分両面加工石器とでもいへべきもの。	Ia4
2311	WE D 3 f Ⅰ層	地質泥岩	宇石西部	6.4	5.7	1.4	27.41		Ⅱ
2312	WE D 3 h Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	3.0	2.5	0.5	3.48	粗雑な作り。	Ia2
2313	WE D 4 d Ⅱ層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.8	2.4	1.0	10.48		Ⅱ
2318	WE C 2 g Ⅰ層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	2.7	2.6	0.9	6.37	2つの刃部で尖頭部となる。	Ic2
2319	WE D 5 Ⅰ層	硬質泥岩	宇石西部	2.8	2.7	0.7	3.25	2つの刃部で尖頭部となる。	Ib2
2323	WE D 5 Ⅰ層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	2.8	2.5	0.6	3.37	裏面からの剝離はネグティブが発達している。	Ib2
2325	WE D 1 h Ⅱ層	硬質泥岩	宇石西部	3.7	2.7	0.8	7.53		Ia2
2328	WE D 3 h 再結核層	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.3	3.1	1.4	15.32	野蠻的には打板石片の基部部のようにも見える。	Ⅱ
2333	WE D 8 a 黄土	粘板岩	北上山地	4.0	2.4	0.7	10.25		Ic2
2336	WE D 3 h Ⅱ層	地質泥岩	宇石西部	4.5	2.6	0.6	6.32		Ia2
2342	WE D 8 b 黄土	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	4.1	4.2	0.8	17.87		Ia2
2345	不明	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	2.9	4.8	0.9	15.12	幅の広い半圓に微小尖頭が付着。	Ia2
2347	不明	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	3.5	1.9	0.7	4.93	2つの刃部で尖頭部を形成する。断面形状はやや扁平。	Ib2
2348	不明	硬質泥岩	宇石西部	5.0	2.7	0.9	18.20	鋭角部がやや不揃。	Ⅱ
2349	不明	地質泥岩	宇石西部	2.3	2.5	0.4	3.25	薄く扁平。折断面がかわかる。	Ic2
2351	不明	硬質凝灰質泥岩	宇石西部	4.6	5.9	1.4	28.36	粗雑な作り。	Ia2
2352	不明	硬質泥岩	宇石西部	5.1	2.4	0.7	7.46		Ib1
2353	不明	粘板岩	北上山地	2.8	2.0	0.6	3.78	小型の儀器という印象だが、粗雑な作り。	Ib4

第36表 不登載石器一覧表(6)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2264	ⅧD3e 再地焼結	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	4.8	2.4	0.6	7.09	1面は折断面。対向する刃部は両面加工。	1d2
2265	ⅧD5a1層	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	5.9	4.8	1.00	34.50		1a2
2267	ⅧD4g 黄土直下	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	4.2	1.6	0.6	5.02	丁字を作りてあるが、石匙の欠損品とも考えられる。	1d2
2269	ⅧD5h	硬質泥岩	宇石西部	3.6	4.8	0.9	13.05	横断面は鈍角三角形状。	1a2
2271	ⅧD3g 再地焼結	硬質泥岩	宇石西部	6.4	6.4	1.4	59.10		1b2
2272	ⅧD5b	硬質泥岩	宇石西部	2.9	1.6	0.3	1.19	2つの刃部で尖頂部を形成する。	1a2
2273	ⅧC0c 黄土褐色土	硬質泥岩	宇石西部	2.0	1.2	0.2	0.62	欠損品の可能性。	1a2
2274	ⅧD4h 黄土直下	硬質泥岩	宇石西部	4.0	2.2	0.6	6.10		1c1
2276	ⅧC2g1層	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	3.9	3.2	1.0	11.07	欠損品の可能性。	1e
2281	ⅧC5h 再地焼結下位	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	3.5	4.4	1.0	15.85		1a2
2284	ⅧC511層下位	凝灰岩	宇石西部	9.0	6.1	1.3	30.04		Ⅷ
2285	ⅧD5g2層	硬質泥岩	宇石西部	4.6	4.0	0.9	13.62		1a3
2286	ⅧD5g1層	凝灰岩	宇石西部	2.9	2.8	0.4	3.62		1e
2282	ⅧD3h1層	地質泥岩	宇石西部	5.4	3.1	0.8	12.26		1a4
2283	ⅧD5f2層	地質泥岩	宇石西部	2.9	2.5	0.9	8.27		1c1
2284	ⅧD21	硬質泥岩	宇石西部	4.1	3.4	0.7	9.59		1c1
2285	ⅧD2h	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	3.9	3.2	0.6	8.70		1a1
2212	ⅧD511住居土	硬質泥岩	宇石西部	2.3	1.3	0.4	1.21		1a1
2215	ⅧD01	粘板岩	北上山地	3.0	1.5	0.3	1.86		1c1
2216	ⅧD9d 暗褐色土	硬質泥岩	宇石西部	3.6	2.0	0.4	2.92		1b2
2217	ⅧD9c 再地焼結	硬質泥岩	宇石西部	4.7	2.6	0.8	11.13	石匙の未製品?。スケーパー?。	Ⅷ
2218	ⅧD0 ライントレンチ	硬質泥岩凝灰岩	宇石西部	3.3	4.5	0.9	11.82		1c2
2225	ⅧD3e 再地焼結	砂質粘板岩	北上山地	4.1	2.8	0.9	8.85		1a2
2227	ⅧD9h 暗褐色土	硬質泥岩	宇石西部	2.3	1.7	0.3	1.40		1b2
2231	ⅧD4g 再地焼結	砂質粘板岩	北上山地	2.1	1.7	0.5	1.63		1b2
2232	ⅧD7d2層	砂質粘板岩	北上山地	6.8	3.6	1.3	32.65		1a2
2236	ⅧD8h2層	硬質泥岩凝灰岩	宇石西部	4.3	2.4	0.5	9.60		1c1
2240	ⅧD3b1層暗褐色土	粘板岩	北上山地	1.8	2.3	0.6	2.19		1c1
2244	ⅧC1g 黄土	硬質泥岩凝灰岩	宇石西部	3.2	5.3	0.6	9.56		1b4
2245	ⅧC2g 暗褐色土	硬質泥岩	宇石西部	3.3	3.6	0.9	19.56		1a2
2248	ⅧD91層	硬質泥岩	宇石西部	2.8	1.1	0.2	0.92	石鏝?	Ⅷ
2251	ⅧD311層	粘板岩	北上山地	5.1	3.0	0.9	13.10		1b2
2253	ⅧD3b2層	地質泥岩	宇石西部	2.9	3.4	0.5	6.00		1a2
2267	ⅧD9g1層	粘板岩	北上山地	5.3	3.2	0.7	15.85		1c1
2269	ⅧD22トレンチ	粘板岩	北上山地	3.6	1.7	0.3	1.78		1b2
2272	ⅧC3h 暗褐色土	地質泥岩	宇石西部	2.6	2.9	0.7	7.14		1b1
2290	ⅧC511層	砂質粘板岩	北上山地	2.6	1.8	0.4	1.53		1b2
2291	ⅧC2g1層	粘板岩	北上山地	2.5	2.3	0.5	2.43		1b2
2292	ⅧD8f1層	硬質泥岩凝灰岩	宇石西部	3.0	3.1	0.9	8.70		1C1
2295	不明	流紋岩	宇石西部	4.7	3.5	0.7	8.13		1a2
2273	ⅧD24	赤色凝灰岩	北上山地	9.1	6.2	1.4	11.29		Ⅷ
2279	ⅧC0h1層	地質泥岩	宇石西部	7.3	3.2	1.2	30.29		1b2
2280	ⅧC9g	地質凝灰質泥岩	宇石西部	7.3	2.6	0.8	16.69		1c1
2281	ⅧC0g1層	地質泥岩	宇石西部	7.3	4.6	0.8	28.12		Ⅷ
2282	ⅧD8c 黄土	硬質泥岩	宇石盆地西部	5.1	4.4	1.2	20.85		1a1
2285	ⅧD1d1層	硬質泥岩	宇石盆地西部	5.0	3.0	0.9	13.22		1a2
2296	ⅧD1d2層	地質凝灰質泥岩	宇石西部	3.3	1.6	0.5	2.60		1b2
2297	ⅧC区	粘板岩	北上山地	3.7	3.6	1.1	11.56		1a2
2298	ⅧC011層	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	3.6	2.7	0.5	6.08		1c2
2299	ⅧC3b2層	硬質泥岩	宇石盆地西部	6.3	3.8	1.2	18.86		1a2
2299	ⅧC区崖	硬質泥岩	宇石盆地西部	7.3	4.4	1.3	34.31		Ⅷ
2292	ⅧC4f1トレンチ黄土	地質泥岩	宇石西部	7.9	3.5	1.4	39.65		Ⅷ
2294	ⅧD0h 暗褐色土	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.2	2.4	0.6	3.67		1b2
2295	ⅧD7c 2層	粘板岩	北上山地	4.8	2.6	0.6	12.71		1c2
2296	ⅧC2e2層	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	5.4	3.7	1.2	20.40		1c1
2298	ⅧD9c 黄土直下	粘板岩	北上山地	4.1	2.1	0.7	8.01		Ⅷ
4000	ⅧD9c 黄土直下	硬質泥岩	宇石西部	3.7	2.9	0.8	11.30		Ⅷ
4001	ⅧD0h 暗褐色土	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	3.9	2.9	0.7	7.78		1a2
4002	ⅧD2e2層	地質泥岩	宇石西部	2.2	1.8	0.4	2.32		1b1
4003	ⅧD8d 暗褐色土	地質凝灰質泥岩	宇石西部	4.9	3.6	0.7	13.64		1a2
4006	ⅧD0b1層	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	2.8	2.7	1.1	3.09		1b2

第37表 不登載石器一覽表(7)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
4008	ⅧD 9 g	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	3.4	1.9	0.5	3.37		1a6
4010	ⅧD 7 a 黄土	硬質泥岩	宇石盆地西部	2.8	2.9	0.5	5.24		1b2
4011	ⅧD 8 C 1 層	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.5	2.0	0.5	4.54		1d5
4012	ⅧC 5 x	地質泥岩	宇石西部	4.0	2.6	0.4	6.72		1b2
4013	ⅧC 6 g 1 層	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	2.6	2.5	1.1	5.19		II
4015	ⅧC 3 h 1 層	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	5.8	2.0	0.6	8.41		1c2
4018	ⅧC 0 g 西端段層	粘板岩	北上山地	6.5	3.4	0.7	24.65		1c1
4017	ⅧC 4 h 1 層	地質貫硬質泥岩	宇石西部	2.7	1.6	0.4	2.84		II
4019	ⅧC 4 c 1 層	硬質泥岩	宇石盆地西部	6.2	4.8	1.3	29.45		1d2
4023	ⅧC 6 e	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	5.3	2.6	0.6	11.73		1a2
4027	ⅧC 7 f 西端段層	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.4	3.1	0.5	5.34		1c2
4024	ⅧC 区 表層	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	10.1	7.3	1.2	75.51		1a2
4025	ⅧC 4 d 新層	硬質泥岩	宇石盆地西部	9.2	4.8	1.3	63.63		1c3
4025	ⅧC 5 g 再地段層	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	2.7	2.5	0.6	6.91		1a1
4025	ⅧC 7 f 再地段層	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	3.5	2.4	0.8	6.67		1c1
4026	ⅧC 4 g 再地段層	地質泥岩	宇石西部	4.7	3.5	1.5	23.77		1a2
4030	ⅧC 6 f 再地段層	粘板岩	北上山地	4.5	2.8	0.6	8.51		1d5
4040	ⅧC 6 g 再地段層	硬質泥岩	宇石盆地西部	4.5	2.7	0.7	8.50		1c5
4042	ⅧC 6 f	硬質泥岩	宇石盆地西部	2.2	0.9	0.3	0.74		1a1
4043	ⅧC 5 j 1 層	粘板岩	北上山地	3.8	2.5	0.5	3.52		1b2
4045	ⅧC 7 f 再地段層	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	3.3	2.3	0.6	3.81		1b2
4046	ⅧC 6 f 再地段層	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	4.1	3.7	0.9	11.87		II
4047	ⅧC 5 g	硬質泥岩	宇石盆地西部	5.0	3.4	0.8	14.01		1a1
4049	ⅧC 4 i 西端段層	チャート質粘板岩	北上山地	2.3	2.4	0.5	2.84		1b2
4052	ⅧC 5 h 1 層	地質貫硬質泥岩	宇石西部	3.4	2.2	1.1	7.74		1a2
4053	ⅧC 3 g 再地段層	地質貫硬質泥岩	宇石西部	5.3	3.0	1.3	19.08		II
4055	ⅧD 0 c 1 層	地質泥岩	宇石西部	1.2	3.5	1.2	6.38		1a1
4056	ⅧD 0 c 1 層	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.0	1.8	0.7	1.88		1b2
4057	ⅧD 3 i 1 層	地質泥岩	宇石西部	4.8	2.7	0.8	11.78		1b2
4058	ⅧD 1 g 黄土	地質泥岩	宇石西部	5.4	3.4	0.6	10.00		1b2
4061	ⅧD 6 h 黄土直下	地質貫硬質泥岩	宇石西部	3.5	1.3	0.7	5.51		1b2
4062	ⅧD 3 h 再地段層	粘板岩	北上山地	4.3	1.7	0.6	5.04		1c5
4065	ⅧD 6 a 黄土直下	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	6.0	3.0	0.8	14.47		1c4
4066	ⅧD 0 i	粘板岩	北上山地	4.1	3.3	0.8	8.30		1b2
4067	ⅧD 1 g 1 層	硬質泥岩	宇石盆地西部	4.7	2.4	0.7	10.43		1c2
4068	ⅧD 3 e 再地段層	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.1	2.0	0.6	3.71		1c5
4069	ⅧD 0 c	粘板岩	北上山地	4.5	3.3	1.0	15.83		1c1
4070	ⅧD 0 g	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.9	3.6	1.1	14.80		II
4071	ⅧD 0 g	硬質泥岩	宇石盆地西部	4.3	2.5	0.7	11.08		1d1
4072	ⅧD 0 g	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	3.3	3.2	0.7	7.76		1a1
4073	ⅧD 3 g 黄土直下	粘板岩	北上山地	3.9	1.7	0.6	5.28		1c5
4074	ⅧD 0 b 黄土直下	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	3.7	2.5	1.0	8.13		1a2
4075	ⅧD 1 g 黄土直下	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	4.0	1.9	1.2	9.80		1c2
4076	ⅧD 4 b 黄土直下	硬質泥岩	宇石盆地西部	4.7	3.3	0.9	9.75		II
4078	ⅧD 0 i	硬質泥岩	宇石盆地西部	4.5	2.5	0.6	7.87		1c1
4079	ⅧD 3 h 黄土直下	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.2	2.5	0.4	3.98		1b2
4080	ⅧD 1 g	硬質泥岩	宇石盆地西部	5.5	3.4	0.6	19.59		1c1
4081	ⅧD 1 g	硬質泥岩	宇石盆地西部	5.4	2.9	0.6	11.22		1b5
4085	ⅧD 4 g 検出面	硬質泥岩	宇石盆地西部	2.9	3.3	0.6	5.98		1b2
4087	ⅧD 2 g 黄土直下	粘板岩	北上山地	5.5	2.0	1.3	12.18		1a2
4088	ⅧD 6 c 断面トレンチ	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	5.3	2.8	1.0	17.57		1d1
4090	ⅧD 1 j 黄土直下	粘板岩	北上山地	3.1	3.0	0.5	5.06		1c1
4091	ⅧD 3 h 1 層	地質泥岩	宇石西部	3.9	2.7	0.7	7.77		1c5
4092	ⅧD 4 j	地質泥岩	宇石西部	4.7	3.5	1.4	29.44		1a2
4094	ⅧD 5 a 1 層	地長貫軸粒礫灰岩	宇石西部	4.0	3.7	0.5	8.94		1a2
4095	ⅧD 2 g 黄土	硬質泥岩	宇石西部	4.7	4.0	1.0	18.25		1a2
4096	ⅧD 2 g 1 層	地質泥岩	宇石西部	2.7	3.0	0.8	10.85		1a1
4097	ⅧD 2 j 黄土直下	硬質泥岩	宇石西部	2.7	1.7	0.6	2.78		1a1
4101	ⅧD 1 f 黄土	硬質泥岩	宇石西部	5.5	2.7	0.8	11.80		II
4102	ⅧD 2 g	湖沢貫硬質泥岩	宇石西部	6.5	5.3	1.5	41.80		1a2
4102	ⅧD 0 c 1 層	粘板岩	北上山地	5.3	4.2	1.6	36.78		1a2

第34表 不登載石器一覧表(8)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
4106	甕D4h 灰土	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	8.3	3.3	1.2	39.77		1c4
4110	甕D7j 表様	硬質泥岩	宇石西部	8.2	4.0	1.0	31.79		1c1
4111	甕D5i	硬質泥岩	宇石西部	4.9	4.1	1.4	34.75		1d5
4113	甕D0c	硬質泥岩	宇石西部	8.3	3.4	0.9	30.87		1c2
4115	甕E5f 黒色土直下	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	4.5	2.6	0.6	9.77		1b1
4116	甕E9c 表様	硬質泥岩	宇石盆地西部	4.5	2.8	0.9	16.68		1c1
4121	甕C4e	地質泥岩	宇石西部	3.1	2.4	0.7	2.25		1c3
4125	甕C1f 灰土	塊状質粗粒凝灰岩	宇石西部	8.9	4.9	1.2	39.87		1a2
4127	甕D9i 目層	塊質泥岩	宇石西部	3.6	2.3	0.6	4.97		1b3
4128	甕D3j	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	3.8	2.6	0.7	7.40		1d4
4130	甕D1a 目層	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	4.3	2.8	1.0	10.63		1f
4131	甕D5g 目層	塊状質細粒凝灰岩	宇石西部	4.8	3.1	0.8	10.94		1d4
4137	甕D2g 1層	チャート質粘板岩	北上山地	3.7	2.0	0.7	4.68		1a2
4141	甕D4i 目層	硬質泥岩	宇石西部	2.1	2.1	0.4	2.33		1b2
4143	甕D2h	硬質泥岩	宇石西部	4.5	4.0	1.0	14.27		1a2
4145	甕D5i 目層	硬質泥岩	宇石西部	2.9	2.8	0.7	4.44		1d1
4147	甕D3h 目層	硬質泥岩	宇石西部	3.8	3.9	0.9	14.39		1f
4152	甕D4g 目層	塊状凝灰質泥岩	宇石西部	2.8	1.4	0.5	1.87		1c2
4153	甕D9g	粘板岩	北上山地	3.7	2.3	0.6	5.39		1e
4156	甕D5g 目層	硬質泥岩	宇石盆地西部	2.8	4.3	0.7	9.16		1d5
4180	不明	硬質泥岩	宇石盆地西部	7.7	6.3	0.8	36.06		1b2
4181	甕D5g	硬質泥岩	宇石盆地西部	2.8	2.0	0.6	3.18		1e
4184	甕D4h 灰土	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.5	3.3	0.7	7.68		1a1
4195	甕I1c4e 目層	チャート質粘板岩	北上山地	2.2	2.7	0.7	6.34		1f
4199	No.13 トレンテ盛土	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.7	4.8	0.8	12.86		1c1
4170	表様	凝灰質硬質泥岩	宇石西部	2.8	4.5	1.3	11.86		1a2
4171	No.15 トレンテ	地質泥岩	宇石西部	3.4	2.8	0.8	7.77		1f
4172	表様	塊状凝灰質泥岩	宇石西部	2.8	2.1	0.4	2.70		1c1
4173	表様	地質泥岩	宇石西部	3.5	1.7	0.4	3.39		1d4
4174	No.13 トレンテ盛土	硬質泥岩	宇石盆地西部	6.3	2.9	0.9	21.44		1c2
4176	表様	地質凝灰質泥岩	宇石西部	6.4	5.0	1.2	31.82		1b2
4178	No.13 トレンテ盛土	硬質泥岩	宇石盆地西部	3.0	2.0	0.5	4.16		1a2
4179	C8h 目層	硬質泥岩	宇石西部	2.8	3.1	0.4	4.32		1b1

(6) 磨製石斧

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2418	甕D6g 土坑埋土	硬質泥岩凝灰岩	宇石西部	(1.7)	(1.8)	(1.0)	(4)		
2605	VE6a	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(16.3)	(4.7)	(2.7)	(222)		1
2606	甕C6a 1層	粘板岩	北上山地	(16.2)	(2.3)	(1.2)	(33)		
2607	甕D9d 灰土直下	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(8.9)	(2.0)	(1.3)	(41)		
2608	甕D0h 暗褐色土	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(4.4)	(2.4)	(1.1)	(26)		
2611	甕D4j	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(4.6)	(2.2)	(2.6)	(76)		
2614	甕D6g 再検察上位	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	8.8	4.4	2.5	153	刃部欠損。	1
2617	甕D1g	粘板岩	北上山地	(6.3)	(5.3)	(3.0)	(125)		
2620	甕D2e 再検察層	塊状凝灰質硬質泥岩	北上山地	8.8	5.2	2.9	190	刃部欠損。	1
2621	甕D1g 目層	塊状凝灰質硬質泥岩	北上山地	(4.6)	(3.1)	(2.4)	(49)		
2622	甕E7c	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	11.3	4.5	2.6	207	横すり手法。	1
2623	甕E6b	安山岩	北上山地	(7.5)	(4.6)	(2.5)	(149)	基部欠損。	1
2625	甕D9i 目層	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(2.5)	(2.1)	(1.8)	(33)		
2629	甕D2e 1層	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(7.4)	(4.5)	(1.8)	(98)	刃部欠損。	1
2631	甕E2a	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(4.7)	(4.4)	(1.8)	(98)	基部欠損。	1
2632	甕E1b 灰土	地質凝灰質硬質泥岩	北上山地	7.1	4.0	2.0	91	基部欠損。	1
2633	X1C7f 目層	粘板岩	北上山地	(4.2)	(2.7)	(1.6)	(30)		
2635	No.14 トレンテ盛土	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(4.2)	(2.6)	(0.7)	(16)		
2640	甕E0h	凝灰岩	北上山地	(4.4)	(3.8)	(2.2)	(46)		
2636	甕C0g 1層	凝灰岩	北上山地	(6.0)	(3.7)	(1.5)	(43)		
2619	甕C5j 1層	極細粒緑色凝灰岩	北上山地	(7.8)	(4.9)	(2.4)	(96)		

第39表 不登載石器一覧表(9)

(7) 石鐘

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
1548	ⅧD5 i	凝灰岩	北上山地	7.7	5.4	1.8	110		I
1550	ⅧD4 g I層	輝石岩	北上山地	8.0	8.1	2.0	200		I
1554	ⅧD5 g	凝灰岩	北上山地	6.9	5.3	1.0	50		I
1560	ⅧD5 g	凝灰岩	北上山地	7.1	9.7	1.3	120		I
1564	ⅧC2 j I層	凝灰岩	北上山地	6.1	4.9	1.7	85		II
1568	ⅧD0 h	粘板岩	北上山地	6.9	6.2	1.5	80		I
1575	ⅧC2 j I層	凝灰岩	北上山地	6.2	4.7	1.2	50		I
1580	ⅧD4 g I層	凝灰岩	北上山地	7.6	6.4	2.4	180		I
1583	ⅧC8 i	硬砂岩	北上山地	5.2	6.5	2.1	100		II
1583	ⅧC8 i	凝灰質千枚岩	北上山地	6.4	6.1	1.7	60		II
1584	ⅧD6 i 褐色土	凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	7.7	2.1	170		I
1585	ⅧD8 a 表土直下	凝灰質千枚岩	北上山地	4.6	5.7	1.5	60		I
1586	ⅧD9 c 表土直下	凝灰質千枚岩	北上山地	6.9	5.3	1.3	70		I
1587	ⅧD6 i	凝灰質千枚岩	北上山地	6.5	4.7	1.6	75		I
1588	ⅧD9 b I層	凝灰質千枚岩	北上山地	6.5	6.1	1.2	70		II
1589	ⅧD9 d	凝灰質千枚岩	北上山地	5.7	7.1	1.7	95		I
1540	ⅧD9 b	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.2	4.7	1.8	65		I
1543	ⅧD7 i	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.5	7.8	2.1	145		I
1544	ⅧD7 i	凝灰質千枚岩	北上山地	6.9	7.0	2.0	100		II
1545	ⅧD9 d	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.2	6.3	1.2	50		I
1546	ⅧD6 i	凝灰質千枚岩	北上山地	6.6	5.3	1.2	60		I
1549	ⅧD8 c 表土直下	凝灰質千枚岩	北上山地	7.5	5.5	1.5	95		I
1552	ⅧC6 g	硬砂岩	北上山地	7.0	7.4	2.3	110		II
1552	ⅧC7 e 再埋積層	硬砂岩	北上山地	8.5	13.0	2.3	400		II
1553	ⅧC8 h 表層	チャート質千枚岩	北上山地	5.9	4.0	1.2	40		I
1554	ⅧC6 g 表層	チャート質千枚岩	北上山地	4.4	7.9	1.4	75		I
1556	ⅧD5 f 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	7.4	5.4	1.6	100		I
1557	ⅧC5 f I層	ホルンフェルス	北上山地	6.5	7.8	1.8	140		II
1558	ⅧC7 f	凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	7.3	1.8	85		I
1559	ⅧC8 g	凝灰質千枚岩	北上山地	5.5	6.9	1.9	110		I
1560	ⅧC8 d 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	4.5	6.8	1.7	75		I
1562	ⅧC7 f I層下位	凝灰質千枚岩	北上山地	7.0	6.4	2.7	105		I
1563	ⅧC3 f 表土	チャート質千枚岩	北上山地	6.7	6.0	1.8	130		I
1566	ⅧC9 e I層	凝灰質千枚岩	北上山地	5.9	5.4	1.7	90		II
1576	ⅧC8 c 再埋積層下位	緑色凝灰岩	鳥羽山脈	7.0	6.4	2.7	105		I
1572	ⅧC8 d 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	5.3	5.2	1.4	40		I
1573	ⅧC9 e I層	凝灰質千枚岩	北上山地	6.9	6.1	1.5	145		I
1575	ⅧC9 d I層	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.3	6.0	1.4	60		II
1576	ⅧC9 g 表土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.1	4.9	1.6	65		I
1577	ⅧC8 e 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.9	4.7	1.6	75		I
1579	ⅧC9 e I層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.4	6.3	1.1	110		II
1581	ⅧC6 f	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.4	6.5	1.3	90		I
1582	ⅧC9 j 再埋積層上面	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.2	4.7	1.4	60		I
1583	ⅧC3 f 表土	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.8	5.3	1.5	80		I
1584	ⅧC3 h 再埋積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	(5.4)	6.5	1.6	(95)		II
1585	ⅧC7 f I層下位	砂質凝灰岩	宇石西部	4.4	5.3	1.0	40		I
1586	ⅧC4 g 表土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	4.7	7.1	1.4	65		II
1587	ⅧC1 i I層茶褐色土	硬砂岩	北上山地	5.3	6.0	1.5	85		I
1589	ⅧC5 f 再埋積層下位	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.5	4.9	1.4	60		I
1589	ⅧC区露積	粘板岩質千枚岩	北上山地	4.5	7.0	1.5	85		I
1591	ⅧC5 h II層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	4.7	6.8	1.2	60		II
1593	ⅧC5 g 再埋積層	硬砂岩	北上山地	7.8	5.3	1.1	135		I
1595	ⅧC4 f 再埋積層	硬砂岩	北上山地	5.3	6.0	1.9	90		II
1596	ⅧC4 g	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	6.0	2.1	115		I
1597	ⅧC6 f 再埋積層下位	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.1	5.0	2.1	90		I
1598	ⅧC5 h 再埋積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.9	5.3	1.3	100		II
1599	ⅧC5 i I層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.3	4.9	2.0	105		I
2001	ⅧD5 g	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	8.1	1.8	105		II
2003	ⅧC3 f 埋褐色土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.3	5.5	1.4	50		I
2004	ⅧD2 c 埋褐色土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.4	6.2	2.3	150		I

第40表 不登載石器一覽表(1)

番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
3205	ⅧD 7 c Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	5.5	1.5	156		Ⅱ
3206	ⅧD 3 f Ⅱ層	粘板岩質千枚岩	北上山地	9.0	5.4	1.7	130		Ⅲ
3207	ⅧD 7 f 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	8.3	5.6	1.9	100		Ⅰ
3208	ⅧD 7 f 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.5	5.8	1.1	55		Ⅱ
3209	ⅧD 7 f 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.3	5.0	1.5	100		Ⅰ
3212	ⅧD 7 i 埋褐色土	凝灰質千枚岩	北上山地	5.2	6.5	1.7	65		Ⅱ
3213	ⅧD 7 j 黄土層下	赤色凝灰岩	北上山地	7.0	5.5	1.9	65		Ⅰ
3214	ⅧD 4 f 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	6.2	5.3	1.6	65		Ⅰ
3215	ⅧD ライントレンテ	凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	5.0	1.3	80		Ⅰ
3216	ⅧD 5 f 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	6.0	6.1	1.7	100		Ⅰ
3217	ⅧD 4 i 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.4	6.3	1.9	120		Ⅱ
3218	ⅧD 4 h 黄土	粘板岩質千枚岩	北上山地	8.6	6.4	2.0	145		Ⅰ
3219	ⅧD 1 a 赤色土上面	凝灰質千枚岩	北上山地	6.7	5.6	1.6	70		Ⅱ
3220	ⅧD 0 g 黄土層下	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.9	4.7	2.3	100		Ⅰ
3224	ⅧD 区	凝灰質千枚岩	北上山地	6.3	6.4	1.8	75		Ⅰ
3225	ⅧD 3 e 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	4.9	7.9	1.2	65		Ⅱ
3226	ⅧD 4 f 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	4.4	7.2	1.8	80		Ⅱ
3227	ⅧD 3 f Ⅱ層	凝灰質千枚岩	北上山地	6.1	4.6	1.4	50		Ⅰ
3229	ⅧD 8 e Ⅱ層	輝石散石岩	北上山地	7.8	7.4	2.0	200		Ⅰ
3230	ⅧD 2 e	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.4	4.8	1.0	45		Ⅰ
3231	ⅧD 2 g Ⅰ層	凝灰質千枚岩	北上山地	6.6	6.2	1.2	63		Ⅱ
3232	ⅧD 0 i	凝灰質千枚岩	北上山地	7.4	5.9	1.7	75		Ⅰ
3233	ⅧD 1 h	凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	5.5	1.8	110		Ⅰ
3234	ⅧD 1 g Ⅰ層	凝砂岩	北上山地	5.5	6.0	1.3	60		Ⅱ
3238	ⅧD 6 g Ⅱ層	凝灰質千枚岩	北上山地	5.7	7.2	1.7	85		Ⅱ
3239	ⅧD 5 h 焼出面	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.7	5.1	1.3	69		Ⅰ
3240	ⅧD 8 i	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	7.0	2.0	75		Ⅱ
3242	ⅧD 5 f 黒刺木	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.4	5.8	1.2	80		Ⅰ
3244	ⅧD 0 c	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.3	6.0	1.6	110		Ⅰ
3245	ⅧD 3 e 再埋積層	凝砂岩	北上山地	6.3	6.1	1.5	70		Ⅱ
3246	ⅧD 7 c 黒刺木埋土	埼玉県凝灰岩	北上山地	8.8	6.4	1.6	120		Ⅲ
3247	ⅧD 7 f 再埋積層	両輝石安山石	碧手火山	7.4	6.3	2.1	90		Ⅲ
3248	ⅧD 8 a 赤色土	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.7	4.9	1.4	65		Ⅰ
3249	ⅧD 0 a	凝砂岩	北上山地	8.4	7.4	2.4	180		Ⅰ
3250	No. 2 0 トレンテ埋土	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.5	5.7	1.7	85		Ⅰ
3251	ⅧD 6 b Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.1	7.4	1.7	165		Ⅰ
3252	ⅧD 0 ライン	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.0	7.4	1.3	70		Ⅱ
3254	ⅧD 6 b 黄土直下	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.3	6.0	1.8	110		Ⅱ
3257	ⅧD 6 a 黄土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	6.2	2.0	130		Ⅱ
3258	ⅧE 5 a 赤色土	凝砂岩	北上山地	6.8	7.4	1.8	130		Ⅱ
3259	ⅧE 5 b 赤色土直下	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.8	5.8	1.2	70		Ⅰ
3261	ⅧC 3 f 埋褐色土	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.4	6.5	1.4	55		Ⅰ
3262	ⅧC 3 a 黄土	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.0	6.2	2.1	120		Ⅰ
3263	ⅧC 3 f 埋褐色土	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.3	5.9	1.9	109		Ⅱ
3264	ⅧC 3 f 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.7	4.7	1.7	85		Ⅰ
3265	ⅧC 4 f 埋褐色土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.1	5.9	1.7	90		Ⅰ
3266	ⅧC 4 c 埋土	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.2	5.9	1.7	85		Ⅰ
3268	ⅧD 9 i Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.3	4.9	1.7	80		Ⅰ
3270	ⅧE 5 f 表積	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.9	5.7	1.5	90		Ⅰ
3271	ⅧC 1 d 黄土	黄土凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	9.0	2.0	71		Ⅱ
3275	ⅧD 9 i Ⅰ層	凝砂岩	北上山地	6.5	5.7	1.8	80		Ⅰ
3278	ⅧD 9 h Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	4.5	1.7	100		Ⅱ
3279	ⅧD 2 c 赤色土	凝砂岩	北上山地	6.6	5.9	1.4	90		Ⅲ
3280	ⅧD 9 g Ⅰ層	粘板岩質千枚岩	北上山地	8.4	6.5	2.0	180		Ⅱ
3281	ⅧD 9 f Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	5.3	2.1	105		Ⅰ
3282	ⅧD 2 c 赤色土	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.0	5.5	1.8	90		Ⅰ
3285	ⅧC 0 i Ⅰ層	凝砂岩	北上山地	7.9	6.9	1.6	115		Ⅰ
3286	ⅧC 0 j Ⅰ層	地底貫通灰岩	北上山地	7.2	4.6	1.4	70		Ⅰ
3288	ⅧD 5 j Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.5	6.0	1.4	130		Ⅰ
3294	ⅧD 3 d Ⅱ層	凝砂岩	北上山地	5.3	3.0	2.0	100		Ⅰ
3295	ⅧD 区Ⅱ層	赤色凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	5.0	1.3	65		Ⅰ

第41表 不登載石器一覽表(1)

番号	高土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	電号	備考	分類
3206	ⅡD5g 母層上層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.4	4.4	2.0	75		I
3207	ⅡD5f Ⅱ層	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.4	7.6	2.2	170		II
3208	ⅡD6f Ⅱ層	塊状質凝灰岩	北上山地	5.7	5.4	2.1	85		II
3209	ⅡE2b 表土	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.5	5.8	2.3	105		I
3210	ⅡD3f	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.9	4.5	1.5	70		I
3211	ⅡE1a	凝灰質千枚岩	北上山地	8.4	8.1	2.5	205		II
3208	ⅡE3a	凝灰質千枚岩	北上山地	7.5	6.0	1.4	100		I
3211	No.20トレンチ	凝灰質千枚岩	北上山地	6.5	5.6	1.3	70		I
3213	表層	チャート質千枚岩	北上山地	8.7	6.3	1.9	145		I
3214	表層	凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	6.7	1.7	100		II
3460	ⅡD7b 表土直下	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.7	6.8	2.5	145		I
3261	ⅡC5f 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.6	7.1	1.7	60		I
3462	ⅡC5e 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.3	6.8	1.8	105		II
3463	ⅡC5g Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	5.3	1.7	65		I
3464	ⅡC6f Ⅱ層	赤色凝灰質千枚岩	北上山地	4.7	8.5	1.5	100		II
3465	ⅡD7f 暗褐色土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.7	4.6	1.3	40		I
3466	ⅡD3g 表土直下	硬砂岩質千枚岩	北上山地	6.7	6.9	1.5	85		I
3467	ⅡD5f 表土直下	硬砂岩質千枚岩	北上山地	9.2	5.2	1.3	85		I
3468	ⅡD2e	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	6.5	2.2	115		I
3469	ⅡD3h 検出部	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.9	6.5	1.9	135		I
3470	ⅡD9g Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.4	6.4	2.0	130		I
3473	ⅡD9g Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.5	6.3	2.0	135		I
3474	ⅡD9f Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	7.1	2.3	150		I
3475	ⅡD5h Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.7	6.4	2.0	150		I
3478	ⅡD3f Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.6	6.0	2.1	115		I
3479	ⅡD5h Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	8.3	2.0	170		II
3538	No.19トレンチ露土	赤鉄質凝灰岩	北上山地	8.0	5.2	1.7	130		I
3539	ⅡD4b 表土直下	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	4.7	5.9	1.5	80		II
3540	ⅡC3h	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.4	4.3	1.7	85		I
3531	ⅡD6i	チャート質千枚岩	北上山地	5.6	8.6	1.7	120		II
3532	ⅡD6e 表土直下	チャート質千枚岩	北上山地	6.7	6.9	1.4	100		I
3533	ⅡD9d 表土直下	塊状質凝灰岩質千枚岩	北上山地	4.8	7.1	1.3	55		I
3534	ⅡC3h 再堆積層下位	塊状質凝灰岩質千枚岩	北上山地	5.0	4.3	1.4	40		I
3535	ⅡC6f	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.0	5.0	1.3	50		I
3536	ⅡC3h 再堆積層下位	粘板岩質千枚岩	北上山地	5.3	4.6	1.5	50		I
3537	ⅡC4g 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.0	6.2	2.1	110		I
3538	ⅡC4g 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	5.8	1.7	120		I
3539	ⅡC2g 表層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.6	5.5	2.0	115		I
3540	ⅡIB9j Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	8.0	2.3	190		I
3541	ⅡC8f	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	4.6	7.0	1.2	55		II
3542	ⅡC9e Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	6.7	1.7	135		I
3543	ⅡC3e 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	4.7	5.8	1.4	55		II
3544	ⅡC2f 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.5	4.5	1.3	65		I
3545	ⅡC5f 再堆積層下位	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.5	8.3	1.9	120		I
3546	ⅡC7f Ⅱ層下位	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.3	5.6	1.7	115		I
3547	ⅡC4f 再堆積層	塊状質凝灰岩質	宇石西部	(3.9)	(5.2)	(1.1)	(80)		I
3548	ⅡC3f 表土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.1	5.2	1.7	80		I
3549	ⅡC8e Ⅱ層下位	硬砂岩質千枚岩	北上山地	5.7	7.8	1.5	85		II
3550	ⅡC4b 再堆積層下位	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	7.4	2.2	100		II
3551	ⅡC4g 表土	赤色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	4.6	1.4	75		I
3552	ⅡC6d 表層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.3	5.6	1.7	95		I
3553	ⅡC6d 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.4	5.3	1.4	65		I
3554	ⅡC0g	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.7	5.5	1.3	70		II
3555	ⅡC6g 表層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	5.3	1.2	80		I
3556	ⅡC6h 表土直下	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.5	8.1	2.1	130		II
3557	ⅡC5f Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.1	8.0	1.7	110		II
3558	ⅡC0c	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.7	5.2	1.7	75		I
3559	ⅡC6i 表土	チャート質千枚岩	北上山地	5.0	5.0	1.2	50		II
3560	ⅡC1g 表土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	6.0	2.0	120		I
3561	ⅡC4f 再堆積層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.0	6.0	1.9	110		I
3562	ⅡC6e Ⅱ層	赤色凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	7.0	2.0	145		I

第42表 不登載石器一覽表(1)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2640	ⅧC 4 f 再編被褥	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.8	6.0	1.4	80		I
2644	ⅧC 6 c 土直下	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.0	6.8	2.2	150		I
2645	ⅧC 4 f 再編被褥	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.4	5.0	1.8	130		I
2646	ⅧC 7 i	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.0	7.2	1.6	140		I
2647	ⅧD 1 d 再編被褥	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.5	5.2	1.5	60		II
2648	ⅧD 8 d Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.3	6.0	1.7	120		I
2649	ⅧD 7 c Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.8	6.0	1.3	100		I
2670	ⅧD 1 d 再編被褥	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	6.1	1.3	90		I
2671	ⅧD 6 c	塊状凝灰質千枚岩	北上山地	4.9	7.2	2.2	115		II
2672	ⅧD 7 f 再編被褥	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.5	5.2	0.8	75		I
2673	ⅧD 2 g	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.2	8.2	1.6	125		I
2674	ⅧD 7 i	粘板岩質千枚岩	北上山地	7.7	6.3	1.3	95		I
2675	ⅧD 8 a	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.5	6.2	1.2	110		I
2676	ⅧE 7 j 黄土	河礫石宝山岩	河子山	5.3	6.1	1.3	60		II
2678	ⅧE 5 a 褐色土直上	赤色凝灰岩質千枚岩	北上山地	4.6	6.5	1.1	55		II
2679	ⅧC 1 j 黄土	礫砂岩質千枚岩	北上山地	5.0	8.1	1.8	100		II
2679	ⅧC 2 b 褐色土直上	赤色凝灰岩質千枚岩	北上山地	5.2	6.7	1.2	55		II
2680	ⅧC 3 j 再編被褥	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.0	6.7	1.2	60		II
2681	ⅧC 3 i	緑色凝灰岩	奥羽山地	5.6	6.9	2.2	125		II
2682	ⅧD 2 c 褐色土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	4.9	6.8	1.5	55		II
2683	ⅧD 3 c	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.6	4.9	1.5	85		I
2684	ⅧD 3 c 褐色土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	5.8	8.2	1.5	95		II
2685	ⅧD 8 g Ⅱ層	粘板岩質千枚岩	北上山地	6.4	7.7	1.7	85		II
2686	ⅧD 1 a Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.0	6.9	2.4	85		I
2687	ⅧD 1 g Ⅱ層	塊状凝灰岩質千枚岩	北上山地	5.1	7.3	1.6	90		II
2688	ⅧD 3 c	粘板岩質千枚岩	北上山地	4.4	7.8	1.3	60		II
2689	ⅧE 6 区	塊状凝灰岩質千枚岩	磐石河原	2.4	4.7	1.7	35		II
2690	ⅧC 0 1 Ⅱ層	塊状凝灰岩質千枚岩	北上山地	7.5	5.0	2.0	100		I
2691	ⅧC 0 1 Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.3	5.9	1.7	80		I
2692	ⅧC 0 1 Ⅲ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.8	4.2	2.3	95		I
2693	ⅧD 1 i Ⅱ層	塊状凝灰岩質千枚岩	北上山地	5.7	4.9	1.1	45		I
2694	ⅧD 5 c Ⅰ層	塊状凝灰岩質千枚岩	北上山地	6.4	4.7	1.5	70		I
2695	ⅧD 4 b Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.6	5.0	1.4	75		I
2696	ⅧD 2 d Ⅰ層	塊状凝灰岩質千枚岩	北上山地	8.2	7.0	2.0	185		I
2697	ⅧD 5 h Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.6	6.3	1.8	125		I
2698	ⅧD 2 d Ⅰ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.2	7.6	1.7	135		II
2699	ⅧD 3 h Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.9	5.9	2.0	140		I
2699	ⅧE 3 c	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	6.4	7.3	1.8	110		II
2699	ⅧE 4 a 表段	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.9	6.8	2.2	145		I
2699	ⅧD 3 f Ⅱ層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	7.6	4.8	1.9	95		I
2699	ⅧC 0 1 Ⅰ層	赤色凝灰岩質千枚岩	北上山地	7.4	5.6	2.4	140		I
2699	ⅧC 7 f 再編被褥	塊状凝灰岩質千枚岩	北上山地	6.7	4.7	1.5	90		II

(8) 敲磨器類 A 群

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
1646	ⅧD 7 i Ⅱ層	河礫石宝山岩	奥羽山地	15.2	8.4	4.6	600	平滑面 2 面。	I a 1
1649	ⅧC 9 1-3 住棟北面	塊状黄褐色砂岩	北上山地	(7.9)	(7.2)	(4.2)	(400)		II a 1
1685	ⅧC 1 h 住<セ>ト 黄土	凝灰質硬砂岩	北上山地	(7.0)	(4.9)	(1.6)	(85)		
1685	ⅧD 4 g Ⅰ層	凝灰質千枚岩	北上山地	15.1	6.6	2.5	400		III b 2
1700	ⅧD 4 g Ⅰ層	凝灰岩	北上山地	14.2	8.1	2.1	340	残り有り。	III b 2
1720	ⅧD 4 g Ⅰ層	硬砂岩	北上山地	11.5	10.6	6.3	1120	割線無し。	II a 1
1724	ⅧD 4 g Ⅰ層	河礫石宝山岩	奥羽山地	(7.8)	(5.9)	(2.9)	(280)		II b
1729	ⅧD 4 g-2 住棟土	塊状砂岩	北上山地	(4.1)	(5.1)	(3.8)	(70)		I a
1780	ⅧC 9 1-3 住棟 1 2	河礫石宝山岩	奥羽山地	11.08	(4.8)	(2.8)	(130)		
1780	ⅧC 9 1-2 住棟土	硬砂岩	北上山地	(11.4)	(8.1)	(2.7)	(300)	欠頂部少し。	
1787	ⅧC 9 1 住	硬砂岩	北上山地	(7.8)	(5.8)	(2.4)	(300)		
1792	ⅧD 3 j 住 No. 9 黄土	赤色凝灰岩	北上山地	(9.3)	(11.4)	(2.3)	(740)		III c 3
1792	ⅧD 4 h 住棟土	河礫石宝山岩	奥羽山地	(10.1)	(5.2)	(1.8)	(140)		III b 2
2776	ⅧD 1 g 黄土	塊状黄褐色砂岩	北上山地	14.4	9.0	4.2	740	割線無し。	II a 1
2777	ⅧD 9 j Ⅱ層褐色土	凝灰質硬砂岩	北上山地	12.3	7.8	4.3	575	平滑面 1 面。	I a 1

第43表 不登載石器一覧表(1)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2770	不明	粘板岩	北上山地	18.0	5.5	4.5	670	割除無し。	II a 1
2773	ⅡD 8 j Ⅱ層黒色土	両輝石安山岩	奥羽山地	13.0	8.3	5.0	720		I a 1
2781	ⅡD 9 j Ⅱ層	両輝石安山岩	奥羽山地	13.2	5.8	3.0	350		I a 2
2782	ⅡD 0 f Ⅱ層	緑長質凝灰岩	北上山地	12.4	7.5	4.5	430	割除無し。平滑面 1 面。	II a 1
2786	ⅡD 1 i 即層上位	凝灰質凝灰岩	北上山地	14.5	8.3	4.9	840		II a 1
2787	ⅡD 2 i Ⅱ層土	緑長質凝灰岩	北上山地	9.5	8.5	4.8	290		I a 1
2788	ⅡD 8 j Ⅱ層	輝石安山岩	奥羽山地	(8.3)	(7.2)	(3.9)	(250)		I a
2789	ⅡE 7 a Ⅱ層土	輝石安山岩	奥羽山地	(10.3)	(7.3)	(5.7)	(640)		I a
2790	ⅡD 9 f Ⅱ層	凝灰岩	北上山地	10.2	9.0	5.7	970		I a 1
2791	ⅡD 5 j 再堆積層	凝灰岩	北上山地	(14.3)	(7.1)	(6.1)	(290)		I a
2792	ⅡD 0 g 検出面	輝石安山岩	奥羽山地	14.5	8.5	5.0	700	平滑面 1 面。	II a 2
2793	ⅡD 9 i Ⅱ層	凝灰質凝灰岩	北上山地	13.8	8.5	4.1	900		II a 1
2794	ⅡC 0 g Ⅱ層土	緑長質凝灰岩	北上山地	(7.4)	(8.0)	(3.8)	(360)	平滑面 1 面。+四石。	II a
2797	ⅡD 7 a Ⅱ層土直下	チャート粘板岩互層	北上山地	10.7	5.9	4.7	400		I a 1
2798	ⅡD 7 c Ⅱ層	凝灰質凝灰岩	北上山地	(7.4)	(5.0)	(4.1)	(250)		I a 2
2800	ⅡD 5 h	輝石安山岩	奥羽山地	12.5	7.0	3.8	490	平滑面 1 面。	I a 1
2801	ⅡD 1 g Ⅱ層	輝石安山岩	奥羽山地	(10.7)	(7.4)	(4.3)	(450)	平滑面 1 面。	I a
2802	ⅡD 7 j	輝石安山岩	北上山地	(8.3)	(7.0)	(4.7)	(450)		I a
2803	ⅡD 7 i Ⅱ層土直上	緑長質凝灰岩	北上山地	(8.3)	(7.4)	(5.0)	(290)		I a
2804	ⅡD 8 i Ⅱ層土	輝石安山岩	北上山地	(8.3)	(6.4)	(4.3)	(220)		I b
2805	ⅡD 0 g Ⅱ層	花崗閃緑岩	北上山地	(10.3)	(5.2)	(4.5)	(220)		I a
2806	ⅡE 5 a Ⅱ層土	半花崗岩	北上山地	16.3	8.8	5.1	750		I b 2
2807	ⅡD 7 a	凝灰岩	北上山地	13.6	7.7	5.1	720		I a 1
2808	ⅡD 5 j Ⅱ層土	凝灰質凝灰岩	北上山地	10.7	6.0	6.2	900		I a 1
2809	不明	緑長質凝灰岩	北上山地	(10.5)	(7.1)	(5.6)	(885)		I a
2810	ⅡD 5 c Ⅱ層粘層	凝灰質凝灰岩	北上山地	17.2	6.8	4.6	740		不明
2812	ⅡE 6 b Ⅱ層	緑長質凝灰岩	北上山地	15.5	7.8	5.5	1250		II a 1
2813	ⅡD 1 j	緑長質凝灰岩	北上山地	10.2	9.5	5.3	1430	磨面 2 面。	II a 1
2814	ⅡD 8 c Ⅱ層トレンチ	緑長質凝灰岩	北上山地	10.0	8.8	6.2	1230		I a 1
2815	ⅡD 0 f Ⅱ層土	緑長質凝灰岩	北上山地	(5.7)	(6.0)	(3.6)	(325)		II a
2816	ⅡC 6 g 再堆積層	チャート	北上山地	(8.3)	(7.3)	(5.0)	(290)		I b
2817	ⅡE 7 b Ⅱ層土	両輝石安山岩	岩手火山	(10.3)	(8.0)	(4.3)	(540)		I a
2819	ⅡD 6 f Ⅱ層	凝灰質凝灰岩	北上山地	(10.3)	(7.3)	(4.7)	(540)	+四石。	I a
2820	ⅡD 1 g Ⅱ層土	凝灰質凝灰岩	北上山地	(9.1)	(7.4)	(3.7)	(330)		II b
2821	ⅡD 0 h Ⅱ層	緑色凝灰岩	北上山地	12.2	8.2	6.5	1110		I a 1
2822	ⅡC 6 g 再堆積層	緑長質凝灰岩	北上山地	(9.0)	(5.5)	(3.3)	(270)	+四石。	II a
2823	ⅡD 2 h Ⅱ層	緑色凝灰岩	北上山地	(12.7)	(6.3)	(5.3)	(500)		I a 1
2824	ⅡE 6 b	凝灰質凝灰岩	北上山地	(9.2)	(6.1)	(4.3)	(240)		I a
2825	ⅡD 3 h Ⅱ層	緑色凝灰岩	北上山地	14.8	8.4	5.3	915		I a 1
2827	不明	緑色凝灰岩	北上山地	(9.3)	(6.1)	(7.1)	(790)		I a
2828	ⅡD 3 h 検出面	緑色凝灰岩	北上山地	(15.2)	(8.4)	(5.3)	(980)		I b
2829	ⅡD 4 i Ⅱ層土直下	両輝石安山岩	岩手火山	(7.7)	(6.8)	(4.1)	(130)		I a
2830	ⅡD 5 h Ⅱ層	赤色凝灰質内層岩	北上山地	(11.8)	(6.4)	(4.7)	(410)		I a
2831	ⅡD 5 f Ⅱ層黒色土	凝灰質凝灰岩	北上山地	(6.4)	(7.0)	(4.3)	(250)		I a
2832	不明	緑長質凝灰岩	北上山地	(5.3)	(9.0)	(3.1)	(210)		I a
2834	ⅡD 3 i 褐色土直上	凝灰質凝灰岩	北上山地	(12.0)	(8.5)	(5.3)	(880)		I a
2836	ⅡD 6 g Ⅱ層	ホルンフェルス	北上山地	(17.2)	(8.7)	(3.3)	(810)		III a 1
2836	トレンチⅡ層土	半花崗岩	北上山地	15.8	8.3	4.9	960		I a 1
2837	ⅡE 9 c Ⅱ層土	緑長質凝灰岩	北上山地	18.3	7.3	5.1	910		I a 1
2838	ⅡD 4 j Ⅱ層上層	凝灰質凝灰岩	北上山地	10.4	10.4	6.4	1180		I a 1
2841	ⅡD 9 h Ⅱ層	凝灰岩	北上山地	12.7	7.8	4.0	670	平滑面 1 面。	II a 1
2842	ⅡC 0 b 再堆積層	緑長質凝灰岩	北上山地	(10.8)	(6.5)	(5.2)	(520)	磨面 2 面。	I a
2844	ⅡE 5 a Ⅱ層土直下	粘板岩	北上山地	(10.8)	(6.5)	(4.7)	(510)		II a
2845	ⅡD 3 g Ⅱ層土直下	緑長質凝灰岩	北上山地	10.9	4.7	4.0	310	磨面 2 面。割除無し。	I a 1
2846	ⅡC 4 g 再堆積層下位	凝灰質凝灰岩	北上山地	(6.8)	(7.7)	(3.3)	(335)		II a
2847	ⅡD 4 i Ⅱ層土直下	輝石安山岩	北上山地	(10.5)	(6.0)	(5.0)	(450)	平滑面 1 面。	II a
2848	ⅡC 2 h	赤色凝灰質内層岩	北上山地	12.4	7.6	4.7	730	平滑面 1 面。	I a 1
2849	ⅡD 9 h Ⅱ層	輝石安山岩	北上山地	(6.3)	(6.0)	(6.6)	(280)	平滑面 1 面。	I a
2850	ⅡD 1 j Ⅱ層	凝灰質凝灰岩	北上山地	10.7	8.0	3.7	705		II a 1
2852	ⅡD 3 h Ⅱ層	輝石安山岩	北上山地	14.9	9.8	7.0	1080	平滑面 1 面。	I a 1
2854	ⅡD 2 i	緑色凝灰岩	北上山地	12.4	6.9	5.0	830	割除無し。	II a 1

第44表 不登載石器一覧表(1)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2055	X D 5 f 再埋積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(9.4)	(6.7)	(4.3)	8300	平滑面1面。	1a
2056	No.3 トレンチ壁土	緑色凝灰岩	北上山地	(11.4)	(9.5)	(6.3)	10000		1a
2057	No.2 トレンチ内	緑色凝灰岩	北上山地	14.2	5.6	3.2	415	割離無し。	1a1
2058	WC 4 a 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	12.4	7.3	3.6	430		1a1
2060	WE 8 a e	凝灰質硬砂岩	北上山地	17.5	7.8	3.9	890	平滑面1面。	1a1
2061	WE D 3 f	輝石安山岩	北上山地	16.8	5.7	3.1	890	割離無し。平滑面1面。	1a1
2064	WE D 2 i 埋層	緑色凝灰岩	北上山地	13.3	6.8	3.1	770	平滑面1面。	1a1
2065	X D 2 i	緑色凝灰岩	北上山地	17.4	6.3	4.7	925	磨研2面。平滑面1面。	1a1
2066	WE D 1 e 1 層	凝灰質千枚岩	北上山地	12.7	8.4	5.4	780	割離無し。	1a1
2069	XD 6 g 埋層下位	凝灰質硬砂岩	北上山地	(10.1)	(9.0)	(3.7)	(650)	平滑面1面。	1a
2070	WC 6 e 再埋積層下位	輝石安山岩	奥羽山脈	12.5	7.4	4.6	545	平滑面1面。	1a1
2072	WE D 9 f 1 層	硬砂岩	北上山地	13.0	6.4	4.7	520	割離無し。	1a1
2073	WE F 8 c	緑色凝灰岩	北上山地	(11.8)	(5.9)	(4.7)	(485)		1a1
2074	WE D 0 i 埋層	輝石安山岩	奥羽山脈	(11.3)	(7.0)	(6.4)	(880)	磨研2面。	1a
2076	WE D 1 g 1 層	輝石安山岩	奥羽山脈	16.0	7.2	4.4	810	平滑面1面。	1a1
2078	X D 5 i 埋層	硬砂岩	北上山地	14.0	8.3	5.7	874	平滑面1面。	1a1
2079	X D 3 h	赤色凝灰質千枚岩	北上山地	11.7	7.8	5.6	790		1a1
2080	X D 0 a 1 層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	12.5	6.4	3.1	400	割離無し。	1a1
2081	WD 9 b 褐色土上面	輝石安山岩	奥羽山脈	(12.8)	(7.7)	(5.5)	(810)		1a
2082	WE D 8 c	緑色凝灰岩	北上山地	12.5	7.8	3.5	500		1a1
2083	WC 7 e 再埋積層下位	粘板岩	北上山地	(11.4)	(5.8)	(3.0)	(380)		1b2
2084	WE C 4 g 再埋積層下位	輝石安山岩	北上山地	(7.9)	(6.0)	(5.8)	(190)	平滑面1面。	1a
2086	WE D 3 f 1 層	輝石安山岩	奥羽山脈	(7.0)	(7.7)	(3.9)	(500)		1b
2088	WE D 7 i	輝石安山岩	奥羽山脈	(6.7)	(7.1)	(4.0)	(195)		1a
2089	WE D 1 j	輝石安山岩	奥羽山脈	(11.3)	(7.3)	(5.3)	(580)	平滑面1面。	1a
2089	WE D 0 i 再埋積層上面	輝石安山岩	奥羽山脈	(7.3)	(5.8)	(4.4)	(520)	平滑面1面。	1a
2089	WC 3 d 再埋積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(14.5)	(7.4)	(5.7)	(670)	平滑面1面。	1a1
2090	WE D 8 褐色土下面	輝石安山岩	奥羽山脈	15.5	6.1	4.3	610	平滑面1面。	1a1
2091	WC 6 f 再埋積層下位	輝石安山岩	奥羽山脈	(10.8)	(7.7)	(3.7)	(520)		1a2
2093	WE D 4 i 黄土	凝灰質硬砂岩	北上山地	(10.7)	(5.3)	(4.0)	(285)		1a
2094	WE C 4 f 暗褐色土	緑色凝灰岩	北上山地	(10.4)	(5.7)	(5.3)	(560)	平滑面1面。	1a
2097	WE C 3 j 埋層	緑色凝灰岩	北上山地	(12.3)	(8.4)	(4.3)	(500)		1a
2098	WE D 8 j 1 層	輝石安山岩	奥羽山脈	(9.5)	(7.7)	(5.7)	(510)	平滑面1面。	1a
2099	WE E 9 a	輝石安山岩	奥羽山脈	12.0	7.9	3.1	680	平滑面2面。	1a1
2099	WE D 9 i	アモース砂岩	北上山地	11.8	7.3	4.8	565		1a1
2091	WE D 8 g 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	11.8	7.8	3.7	475		1a1
2092	WE D 8 g 2 層	輝石安山岩	奥羽山脈	13.3	7.3	6.7	890	平滑面1面。	1a1
2093	WE D 1 h 1 層	輝石安山岩	奥羽山脈	20.5	10.8	6.6	1900	平滑面1面。	1a1
2094	WE D 0 i	凝灰質硬砂岩	北上山地	(11.7)	(9.4)	(6.3)	(780)		1a
2095	WE D 5 g 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	15.3	10.2	7.1	1480	割離無し。	1a1
2095	WE D 9 g 1 層	輝石安山岩	奥羽山脈	(14.3)	(6.3)	(3.7)	(750)	平滑面2面。+印石。	1a1
2097	WE D 7 g 1 層	硬砂岩	北上山地	9.0	6.8	3.6	300		1a1
2098	WE D 0 g	硬砂岩	北上山地	6.7	7.8	4.6	320	割離無し。	1a1
2099	WE D 0 i	アモース砂岩	北上山地	10.3	6.5	5.9	460		1b1
2099	WE E 3 a 1 層	凝灰岩	北上山地	14.3	4.2	4.6	400		1a1
2091	WE E 3 a 2 層	凝灰岩	北上山地	16.2	5.7	3.1	430	割離無し。	1a1
2091	WE E 4 a	輝石安山岩	奥羽山脈	15.5	7.9	4.7	680	平滑面1面。	1a1
2093	WE E 1 c 黄土	凝灰質硬砂岩	北上山地	12.2	7.3	3.4	530	平滑面1面。	1a2
2094	X D 6 g 再埋積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(8.7)	(8.0)	(3.3)	(410)	平滑面1面。	1a1
2095	不明	凝灰質硬砂岩	北上山地	9.7	4.7	5.3	395	割離無し。	1a1
2096	WE D 5 h 褐色土	輝石安山岩	奥羽山脈	15.3	7.8	5.7	960	磨研2面。平滑面2面。	1a1
2097	WE C 4 h	凝灰質硬砂岩	北上山地	(8.5)	(7.3)	(3.2)	(400)		1a
2098	WE C 3 e 再埋積層	凝灰質千枚岩	北上山地	12.7	9.2	7.8	1210	平滑面1面。	1a1
2099	WE C 5 i 再埋積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	14.9	7.9	3.5	580		1a1
2099	WE C 5 f 再埋積層下位	凝灰質硬砂岩	北上山地	16.0	7.3	3.5	520		1b2
2092	WE D 9 d 1 層	凝灰質千枚岩	北上山地	16.5	6.5	3.0	450		1b2
2093	WE D 8 g 1 層	安山岩	北上山地	14.8	7.8	6.8	1080		1a1
2094	WE D 1 j 1 層	輝石安山岩	奥羽山脈	15.8	7.8	4.5	680		1a1
2095	WE D 3 e 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	16.5	9.4	4.5	830		1b1
2095	WE D 9 j 1 層	輝石安山岩	奥羽山脈	11.9	8.4	5.8	680		1a1
2097	WE D 8 j 1 層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	9.7	6.9	3.1	320		1b1

第45表 不登載石器一覧表(1)

番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
2020	ⅡD 8 j 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	14.3	6.0	2.3	350		Ⅱa 1
2021	ⅡE 区Ⅱ層	埴長貫硬砂岩	北上山地	(13.5)	(6.0)	(4.7)	(750)	磨石 2個。	Ⅱa
2022	ⅡD 9 b褐色土下層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(7.8)	(7.2)	(5.5)	(400)	平研削 1個。割離無し。	Ⅱa
2023	ⅡC 5 h 1層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(6.8)	(5.5)	(4.0)	(215)	割離無し。	Ⅱa
2024	ⅡD 5 h 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(7.4)	(6.4)	(3.7)	(250)	平研削 1個。	Ⅱa
2024	ⅡD 8 j 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(13.7)	(8.0)	(5.4)	(970)	平研削 1個。	Ⅱa
2025	ⅡD 9 i 1層	埴長貫硬砂岩	北上山地	10.7	8.0	5.3	570	割離無し。	Ⅱa 1
2026	ⅡD 2 d	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(12.4)	(6.4)	(2.3)	(250)	+磨石・印石。	
2023	ⅡC 6 h 1層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	12.0	7.8	6.2	710		Ⅱa 1
2024	ⅡC 5 g 再埋積層	埴長貫硬砂岩	北上山地	14.5	5.3	2.9	330	+印石。	Ⅱa 1
2024	ⅡD 2 h 1層	埴長貫硬砂岩	北上山地	12.8	9.1	5.8	805		Ⅱa 1
2020	ⅡE 3 a 表土	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(10.5)	(6.3)	(2.5)	(245)		
2022	ⅡI C 4 i 1層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(7.5)	(8.1)	(5.7)	(400)		Ⅱa
2026	ⅡD 5 i 1層	緑色凝灰岩	北上山地	(8.50)	(7.4)	(2.4)	(220)	決り有り。	Ⅱb
2026	ⅡD 8 c 表土直下	粘板岩	北上山地	(7.4)	(7.8)	(2.3)	(160)		Ⅱb 1
2026	ⅡD 8 a 表土直下	緑色凝灰岩	北上山地	14.5	9.5	2.5	510		Ⅱc 2
2020	ⅡD 5 i 表土直下	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(8.5)	(9.7)	(3.9)	(500)	決り有り。	Ⅱb 2
2024	ⅡD 7 d 褐色土	阿摩石安山岩	奥羽山脈	13.1	8.4	3.2	495		Ⅱb 1
2025	ⅡC 5 i 1層	阿摩石安山岩	岩手山	18.0	8.3	2.5	450		Ⅱb 1
2026	ⅡC 6 d 再埋積層下位	粘板岩	北上山地	13.3	5.1	2.1	340	決り有り。	Ⅱb 2
2026	ⅡC 6 f 再埋積層下位	埴長貫硬砂岩	北上山地	(9.1)	(8.0)	(2.8)	(310)		Ⅱc 2
2026	ⅡC 4 h 再埋積層	阿摩石安山岩	北上山地	17.2	9.9	3.4	640		Ⅱb 2
2026	ⅡC 5 f 再埋積層下位	緑色凝灰岩	北上山地	16.0	7.0	2.6	450	決り有り。	Ⅱb 2
2026	ⅡC 5 g 再埋積層	緑色凝灰岩	北上山地	19.8	5.7	2.7	290		Ⅱb 2
2026	ⅡC 2 b 再埋積層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	15.0	1.3	2.5	800		Ⅱa
2022	ⅡC 5 h 再埋積層下位	凝灰質硬砂岩	北上山地	15.3	7.6	1.9	335	決り有り。	Ⅱb 2
2020	ⅡC 9 c 1層	洗灰質赤粘板凝灰岩	磐石西部	(8.3)	(6.4)	(2.0)	(280)		Ⅱb
2026	ⅡC 0 g 表土	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(8.8)	(8.0)	(2.5)	(290)	決り有り。	Ⅱa
2026	ⅡC 5 j 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(6.4)	(7.3)	(2.3)	(180)		Ⅱb
2020	ⅡC 5 g 再埋積層	緑色凝灰岩	北上山地	13.7	5.3	1.7	190		Ⅱb 2
2021	ⅡC 8 h 表土	埴長貫硬砂岩	北上山地	(9.1)	(7.4)	(2.8)	(215)	決り有り。	Ⅱb
2022	ⅡC 5 i 1層	緑色凝灰岩	北上山地	(7.4)	(7.3)	(2.4)	(140)	決り有り。	Ⅱb
2020	ⅡC 4 i 再埋積層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(12.0)	(8.7)	(2.5)	(400)		Ⅱb
2025	ⅡD 7 i	阿摩石安山岩	奥羽山脈	14.0	8.0	2.8	520	決り有り。	Ⅱa 2
2026	ⅡD 7 f 再埋積層	粘板岩	北上山地	(8.7)	(5.5)	(2.4)	(135)		Ⅱb 2
2026	ⅡD 3 g 褐色土	凝灰質硬砂岩	北上山地	15.0	4.6	2.4	250		Ⅱb 2
2026	ⅡD 5 f 再埋積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	15.0	7.2	2.5	410		Ⅱa 1
2021	ⅡD 4 f 再埋積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(4.8)	(7.3)	(2.9)	(135)		Ⅱb
2023	ⅡD 4 f 再埋積層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(8.4)	(8.5)	(3.8)	(280)		Ⅱ
2024	ⅡD 8 d 1層	阿摩石安山岩	北上山地	(9.4)	(6.5)	(3.2)	(280)	決り有り。	Ⅱa 2
2025	ⅡD 8 i 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	9.3	4.1	2.3	110		Ⅱb 1
2026	ⅡC 5 g 再埋積層下位	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(7.9)	(10.4)	(2.2)	(315)		Ⅱb 2
2026	ⅡD 4 f 再埋積層	粘板岩質千枚岩	北上山地	(14.0)	(7.1)	(2.9)	(390)		Ⅱb 2
2020	ⅡD 4 f 再埋積層	赤色凝灰質千枚岩	北上山地	17.8	7.4	2.4	490		Ⅱb 1
2020	ⅡD 6 a 1層	凝灰岩	北上山地	18.5	8.4	3.7	700		Ⅱa 2
2023	ⅡD 6 h 表土直下	凝灰質千枚岩	北上山地	14.6	6.5	1.9	280		Ⅱb 2
2025	ⅡD 9 j 表土	凝灰岩	北上山地	(15.5)	(6.0)	(1.3)	(195)		Ⅱb 2
2026	ⅡD 6 g 1層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	12.0	7.4	1.7	245		Ⅱc 2
2027	ⅡE 8 a	緑泥石片岩	北上山地	11.8	9.2	1.7	310		Ⅱc 3
2029	ⅡC 1 g 褐色土上面	砂質粘板岩	北上山地	(7.4)	(6.4)	(3.1)	(280)	磨面 2。	Ⅱb 2
2030	ⅡD 1 i 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(13.0)	(6.6)	(2.3)	(310)	決り有り。	Ⅱb 2
2030	ⅡD 4 j 1層	緑泥石片岩	北上山地	16.5	6.0	2.5	405		Ⅱb 1
2033	ⅡD 1 h 1層	緑泥石片岩	北上山地	15.5	6.1	2.7	349		Ⅱb 1
2034	ⅡD 3 j 1層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	(8.0)	(6.7)	(2.6)	(220)	決り有り。	Ⅱb 2
2035	ⅡD 4 c 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	12.7	8.0	2.1	340	決り有り。	Ⅱa 2
2036	ⅡD 1 b 1層	凝灰岩	北上山地	(11.2)	(10.2)	(4.0)	(570)		Ⅱ
2037	ⅡD 3 i 1層	緑泥石片岩	北上山地	(9.3)	(7.3)	(2.5)	(285)	決り有り。	Ⅱb
2038	ⅡD 2 j 1層	緑泥石片岩	北上山地	14.7	5.2	2.4	230	決り有り。	Ⅱb 3
2039	ⅡD 9 i 1層	阿摩石安山岩	奥羽山脈	7.5	5.3	2.5	140		Ⅱb 1
2041	ⅡD 8 h 表土直下	阿摩石安山岩	岩手火山	(4.9)	(5.0)	(1.7)	(400)		Ⅱb 2
2047	ⅡE 1 a	緑泥石片岩	北上山地	17.3	8.0	1.7	300		Ⅱc 2

第46表 不登載石器一覽表(6)

番号	出土地点・部位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
3060	X D 3 f 日層	緑泥石千枚岩	北上山地	(12.5)	(8.0)	(3.5)	(540)	挟り有り。	II a
3062	WE C 0 a 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	16.8	6.7	2.7	465		III b 1
3063	WE C 2 e 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	14.4	7.3	2.3	360	未使用。	
3064	WE D 7 i	凝灰質硬砂岩	北上山地	(9.0)	(7.0)	(2.4)	(360)	挟り有り。	III a
3066	WE D 5 i 再埋積層	両輝石安山岩	奥羽山脈	(12.5)	(8.0)	(2.4)	(310)	挟り有り。	III b 2
3068	WE D 4 g 埋出面	凝灰石千枚岩	北上山地	12.6	9.5	3.7	520		I b 2
3070	WE D 0 c	流紋岩質凝結灰岩	宇石河原	(6.7)	(7.1)	(2.2)	(120)		II a
3066	WE D 8 i 埋層黒色土	緑泥石千枚岩	北上山地	(16.0)	(6.2)	(2.4)	(200)		III b 3
3069	WE D 8 i 埋層黒色土	緑泥石千枚岩	北上山地	14.4	6.6	1.1	160		III c 3
3066	No. 2 0 トレンチ盛土	両輝石安山岩	奥羽山脈	(6.7)	(6.7)	(2.7)	(160)		III b
3064	VC 9 g 1 層	緑色凝灰岩	北上山地	(5.7)	(6.4)	(4.0)	(160)		II a
3065	VC 9 g 1 層	緑色凝灰岩	北上山地	(10.4)	(6.4)	(3.5)	(260)		I a
3067	WE D 0 h 再埋積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	18.2	8.5	4.9	1020		I a 2
3068	WE D 8 c 表土直下	凝灰質硬砂岩	北上山地	(13.9)	(5.7)	(3.2)	(200)		II a
3070	WE C 7 e	陸奥質凝灰岩	北上山地	(8.9)	(5.0)	(5.0)	(200)	平接面 1 面。	I a
3071	WE C 6 f 再埋積層下位	凝灰質硬砂岩	北上山地	12.5	9.3	2.7	525		III a 1
3073	WE C 6 g 再埋積層下位	凝灰質質千枚岩	北上山地	(6.0)	(5.1)	(3.3)	(170)		
3074	WE C 4 i 埋層	輝石安山岩	北上山地	14.2	7.1	2.7	350		III b 2
3075	WE C 4 g 再埋積層	輝石安山岩	北上山地	(8.9)	(6.0)	(3.4)	(400)	平接面 1 面。	I e
3077	WE D 6 g 埋層	花崗閃緑岩	北上山地	13.0	6.7	8.4	960		I a 1
3078	WE D 1 d 再埋積層	流紋岩質凝灰岩	北上山地	(8.6)	(5.7)	(4.4)	(220)		I a
3079	WE D 2 j 埋層	凝灰岩	北上山地	(11.0)	(7.3)	(3.4)	(400)	平接面 1 面。	I a
3084	WE D 4 f 再埋積層	輝石安山岩	北上山地	(7.0)	(7.0)	(4.9)	(320)		II a
3085	WE C 0 j 1 層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(10.4)	(11.1)	(2.5)	(250)		III a
3087	WE D 0 j 1 層	輝石安山岩	北上山地	(7.1)	(7.2)	(4.1)	(260)		I e
3088	WE D 5 g 表土直下	凝灰質硬砂岩	北上山地	13.3	9.2	6.8	1040		I a 1
3089	WE C 8 j 1 層	緑色凝灰岩	北上山地	13.9	8.4	3.7	735		III a 1
3090	WE C 3 e 再埋積層	流紋岩	北上山地	(16.5)	(6.0)	(3.5)	(540)	平接面 1 面。	II a
3091	WE C 5 g	緑色凝灰岩	北上山地	(11.0)	(7.4)	(2.9)	(410)		
3092	WE C 6 f 再埋積層下位	輝石安山岩	北上山地	(12.1)	(9.0)	(2.4)	(460)	平接面 1 面。	III a
3093	WE D 1 f 1 層	緑色凝灰岩	北上山地	13.1	5.7	3.5	370		III a 1
3094	WE D 0 c 再埋積層	凝灰質質千枚岩	北上山地	(11.5)	(6.5)	(3.9)	(450)		I a
3095	WE D 2 g	凝灰質質千枚岩	北上山地	(6.1)	(7.5)	(5.1)	(200)		I a
3096	WE D 3 b 表土	緑色凝灰岩	北上山地	13.2	8.0	5.5	830		I a 1
3096	WE D 7 i	凝灰質硬砂岩	北上山地	16.5	6.2	4.1	675	平接面 1 面。	I a 1
3099	WE E 9 b 1 層	凝灰質質千枚岩	北上山地	17.9	5.2	5.6	690	割離なし。	I a 1
3100	WE E 4 a 埋層黒色土	緑色凝灰岩	北上山地	13.9	6.6	5.6	745	平接面 1 面。	I a 1
3101	WE D 9 i 1 層	緑色凝灰岩	北上山地	15.2	6.8	3.9	570	平接面 1 面。	I a 1
3102	WE D 7 i 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(12.8)	(6.8)	(5.4)	(510)		I a 1
3103	WE D 7 i 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(6.5)	(6.9)	(3.7)	(380)	平接面 1 面。	I a
3104	X D 1 g	凝灰質質千枚岩	北上山地	19.8	6.9	3.5	550		I b 1
3105	No. 1 5 トレンチ盛土	凝灰質硬砂岩	北上山地	13.3	5.7	3.7	475		II a 2
3106	WE D 4 i 1 層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(11.4)	(6.8)	(6.7)	(380)	平接面 1 面。	I a 1
3109	WE D 2 c 1 層	アルコウス砂岩	北上山地	(14.9)	(6.9)	(4.3)	(600)		III b
3110	WE D 2 h 埋層	輝石安山岩	北上山地	12.8	6.7	5.3	675	平接面 1 面。	I a 1
3111	WE D 9 i 3 層	緑色凝灰岩	北上山地	(6.5)	(4.9)	(5.2)	(380)		I a
3112	WE D 4 g 埋層	緑色凝灰岩	宇石河原	17.5	7.6	3.3	650	平接面 1 面。	II a 1
3113	WE D 6 c 1 層	輝石安山岩	北上山地	17.7	7.1	5.5	940	磨面 2 面。平接面 1 面。	I a 1
3116	WE D 7 i 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(13.2)	(7.4)	(7.3)	(660)	割離なし。平接面 1 面。	I a 1
3117	WE D 4 f 埋層	緑色凝灰岩	宇石河原	16.5	8.0	3.3	690		II a 2
3118	WE D 8 f 埋層	準花崗岩	北上山地	(13.0)	(7.1)	(6.9)	(730)		I a 1
3119	WE D 0 j	凝灰質硬砂岩	北上山地	(8.4)	(7.7)	(3.7)	(450)		I a
3120	WE D 8 g 埋層	凝灰岩	北上山地	14.3	8.3	5.8	900		I a 1
3122	WE E 3 c	凝灰質硬砂岩	北上山地	12.7	5.6	3.7	500	平接面 1 面。	I a 2
3123	WE E 3 a 埋層	アルコウス砂岩	北上山地	(9.3)	(5.4)	(5.5)	(710)		I a
3124	WE E 6 a 表土	両輝石安山岩	奥羽山脈	(8.1)	(7.1)	(8.3)	(560)	平接面 1 面。	I a
3125	No. 1 5 トレンチ盛土	凝灰質硬砂岩	北上山地	(12.8)	(6.8)	(6.0)	(320)		I a
3127	不明	凝灰質硬砂岩	北上山地	8.4	8.8	6.4	1060		I a 1
3128	No. 4	チャート	北上山地	11.9	7.8	8.5	980	平接面 1 面。	I a 1
3129	WE D 6 b 斜掘トレンチ	ホルンフェルス粘板岩	北上山地	(17.4)	(12.0)	(3.3)	(790)		III c 1
3254	VC 0 g 1 層	緑色凝灰岩	北上山地	(15.1)	(6.5)	(5.5)	(680)		I a

第47表 不登載石器一覧表(11)

調査 番号	出土地点・層位	石 質	所 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
3359	WC 0 j 1層	緑色凝灰岩	北上山地	(12.4)	(4.3)	(3.3)	600	磨削2面。	Ⅱa
3360	WC 3 h 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(7.4)	(5.0)	(4.0)	180	磨削1面。	Ⅰa
3361	WC 3 h 2層	凝灰質硬砂岩	北上山地	9.0	5.1	4.8	200	平滑面1面。観察無し。	Ⅰa 1
3362	WD 5 c 黄土直下	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	16.5	6.2	4.6	750		Ⅰa 1
3363	WD 9 c	輝石安山岩	奥羽山脈	14.6	4.7	4.8	580		Ⅰa 1
3364	WD 7 a 黄土直下	輝石安山岩	奥羽山脈	(8.4)	(5.1)	(5.0)	290		Ⅰa
3365	WC 7 j 1層	輝石安山岩	奥羽山脈	(4.4)	(6.4)	(4.8)	220		Ⅰa
3366	WD 7 a 黄土直下	凝灰質硬砂岩	北上山地	(9.5)	(7.4)	(4.7)	430		Ⅰa
3367	WD 8 c 黄土直下	凝灰質硬砂岩	北上山地	16.5	8.0	6.4	945		Ⅰa 1
3368	WD 8 c 黄土直下	凝灰質硬砂岩	北上山地	(10.4)	(8.0)	(4.8)	510		Ⅰa
3369	WC 5 j 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	15.2	6.1	4.7	530	平滑面1面。	Ⅰa 1
3370	WC 7 e 再埋検体	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	(9.4)	(4.0)	(3.7)	155		Ⅰa
3371	WD 8 c 黄土直下	凝灰質硬砂岩	北上山地	14.9	8.6	5.0	750		Ⅰa 1
3372	WD 2 j 黄土	凝灰質硬砂岩	北上山地	(13.4)	(6.0)	(3.5)	320		Ⅰa
3373	WD 2 j 埋褐色土	輝石安山岩	北上山地	(4.8)	(6.3)	(3.4)	140	平滑面1面。	Ⅰb
3381	WD 8 i 1層	地長形凝灰岩	北上山地	10.9	7.3	3.7	400		Ⅰa 1
3382	WD 5 a 黄土直下	粘結岩	北上山地	11.9	7.4	5.2	329		Ⅰa 1
3383	WD 5 a 黄土直下	輝石安山岩	北上山地	14.4	6.7	5.0	770	平滑面1面。	Ⅰa
3384	WD 5 a 黄土	輝石安山岩	北上山地	(16.4)	(7.0)	(4.5)	640	平滑面1面。	Ⅰa
3385	WD 5 a 黄土直下	閃綠岩	北上山地	12.1	7.4	4.6	450		Ⅰa 2
3386	WD 6 c 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	20.5	9.4	3.9	1220		Ⅰa 1
3387	WD 3 b 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	14.3	5.6	3.8	455		Ⅱa 1
3388	WD 7 g 1層	地長形凝灰岩	北上山地	(9.3)	(7.4)	(5.4)	420		Ⅰa
3390	WD 2 d	赤色凝灰質チャート	北上山地	(8.5)	(6.3)	(5.5)	400		Ⅰa
3391	WD 4 a 1層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(7.2)	(6.8)	(5.9)	465		Ⅰa
3392	WD 7 g 黄土	緑色凝灰岩	北上山地	(12.4)	(8.3)	(6.4)	670	平滑面1面。	Ⅰb
3393	WD 1 e 1層	緑色凝灰岩	北上山地	12.7	7.7	9.0	600		Ⅰa 1
3395	No. 1 4 トレンチ	輝石安山岩	北上山地	(8.9)	(2.8)	(6.3)	680	平滑面1面。	Ⅰa 2
3404	WC 6 h 1層	緑輝石千枚岩	北上山地	13.4	5.2	1.9	250		Ⅱb 2
3405	WD 9 e	緑輝石千枚岩	北上山地	14.1	7.2	2.2	315	決り有り。	Ⅱc 3
3406	WC 0 i 1層	西輝石安山岩	奥羽山脈	(12.4)	(10.4)	(5.0)	950		Ⅱc
3427	WD 8 e 黄土直下	緑輝石千枚岩	北上山地	(10.3)	(6.1)	(2.6)	205		Ⅱa 2
3429	WC 0 g 1層	緑輝石千枚岩	北上山地	12.5	7.8	2.7	320		Ⅱb 2
3431	WC 4 f 再埋検体	流紋岩質凝結凝灰岩	平石西部	20.2	11.4	2.4	650		Ⅱb 2
3434	WC 4 h	緑輝石千枚岩	北上山地	14.9	6.8	3.1	325	磨削2面。	Ⅱa 2
3435	WD 5 f 表探	流紋岩質凝結凝灰岩	北上山地	18.9	6.4	3.3	500		Ⅱa 1
3437	WC 7 c	凝灰質硬砂岩	北上山地	16.9	5.6	2.5	320	決り有り。	Ⅱa 2
3438	WC 7 e 再埋検体	流紋岩質凝結凝灰岩	平石西部	(10.4)	(3.8)	(1.2)	125		Ⅱa 2
3439	WD 5 f	緑輝石千枚岩	北上山地	14.7	6.7	2.5	410		Ⅱc 1
3440	WD 7 a 1層	凝灰岩	北上山地	(16.3)	(7.0)	(2.2)	420	決り有り。	Ⅱb 2
3441	WD 1 e 黄土	流紋岩質凝結凝灰岩	北上山地	(15.3)	(16.7)	(3.8)	990		Ⅱc 2
3442	WD 7 i 黄土直下	緑輝石千枚岩	北上山地	12.8	10.2	2.9	600	決り有り。	Ⅱb 2
3443	WD 4 f 再埋検体	凝灰岩	北上山地	14.9	9.3	5.0	720		Ⅱb 2
3444	WD 3 h	流紋岩質凝結凝灰岩	平石西部	(10.5)	(9.0)	(1.9)	320		Ⅱa
3445	WD 3 j 再埋検体	西輝石安山岩	奥羽山脈	(15.3)	(6.3)	(4.2)	650		Ⅱb 2
3447	WC 3 j 埋褐色土	緑輝石千枚岩	北上山地	12.8	6.1	2.2	210	決り有り。	Ⅱb 2
3448	WD 1 i 1層	緑輝石千枚岩	北上山地	(6.7)	(7.2)	(2.3)	175	決り有り。	Ⅱb 2
3449	WD 5 c 埋褐色土	輝石安山岩	奥羽山脈	17.1	7.1	4.0	670		Ⅰa 2
3451	WD 4 i	緑色片岩	北上山地西縁	(14.7)	(5.2)	(1.4)	120		Ⅱc
3453	WD 2 d	輝石安山岩	奥羽山脈	(8.7)	(7.9)	(2.1)	260		Ⅱb
3454	WD 5 c	凝灰質硬砂岩	北上山地	16.7	7.3	2.7	435	決り有り。	Ⅱb 2
3455	No. 2 4 トレンチ盛土	片麻岩	北上山地	14.5	7.2	2.8	570		Ⅱa 1
3456	No. 2 4 トレンチ盛土	緑色凝灰岩	奥羽山脈	8.9	6.7	2.5	190		Ⅰb 1
3457	No. 2 5 トレンチ	凝灰質硬砂岩	北上山地	(11.3)	(6.4)	(1.9)	245	決り有り。	Ⅱa
3492	WD 9 a	凝灰質硬砂岩	北上山地	9.7	7.8	4.8	420	+閉石。	Ⅰa 1
3494	WD 3 g 黄土直下	凝灰質硬砂岩	北上山地	13.3	8.6	7.9	1100		Ⅰa 1
3499	WD 3 e	粘結凝結凝灰岩	北上山地	(6.5)	(6.3)	(2.4)	140		Ⅱb
3511	WC 0 h 黄土	安山岩	北上山地	(8.3)	(6.4)	(3.4)	180		Ⅰa
3545	WD 1 g 1層	両輝石安山岩	平石山	(12.9)	(9.2)	(1.9)	265		Ⅰa
3546	No. 1 5 トレンチ検出面	凝灰質硬砂岩	北上山地	(9.4)	(7.3)	(2.7)	260		Ⅱb 2
3556	WD 0 a 黄土	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	8.3	5.3	2.8	120		Ⅱb 1

第48表 不登載石器一覽表(1)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
3802	WD 0 h 1層	緑色凝灰質千枚岩	北上山地	(9.5)	(6.4)	(2.6)	(279)		II a
3803	WD 2 h 褐色土上位	輝石安山岩	奥羽山脈	(7.3)	(7.2)	(3.9)	(440)		II a
3874	IX D 1 i 1層	凝灰岩	北上山地	(5.3)	(3.7)	(1.7)	(44)		
4183	Y C 0 g 1層	緑長質凝灰岩	北上山地	16.9	7.7	8.8	800		II a 1
4219	WD C 7 f 堆積土	凝灰質硬砂岩	北上山地	(2.1)	(3.1)	(1.9)	(59)		
4257	IX D 2 g 1層	凝灰岩	北上山地	(7.8)	(6.7)	(6.2)	(460)		II a
4258	IX D 1 e 1層	凝灰岩	北上山地	11.3	7.0	5.5	340		II a 1
4259	IX D 3 h 日層	緑長質凝灰岩	北上山地	13.0	6.8	7.4	870		II a 1
4300	WC 4 i 再地積層	輝石安山岩	奥羽山脈	(7.0)	(9.5)	(1.8)	(131)		III b
4351	WC 9 g 再地積層上位	輝石安山岩	奥羽山脈	(14.5)	(8.8)	(2.1)	(450)		III b 2

(9) 敲磨器類 B 群

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
2507	Y D 4 f 再地積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	8.7	6.4	4.2	400	片面に磨面。ややざらつき。	I
2520	WD 7 i	硬砂岩	北上山地	7.9	6.7	4.6	350	磨面はざらつき。	I
2941	WD 7 a 黄土直下	緑長質凝灰岩	北上山地	10.4	8.8	4.2	550		I
2942	WD 2 g 褐色土	花崗閃緑岩	北上山地	10.5	9.1	5.5	730	磨面はざらつき。	I
2945	WD 6 i 黄土	両輝石安山岩	奥羽山脈	9.5	9.8	5.4	700	磨面は光沢あり。	I
2946	WD 3 g 暗褐色土	輝石安山岩	北上山地	10.6	8.3	4.4	550	磨面はざらつき。	I
2949	WD 7 i	硬砂岩	北上山地	(6.4)	(6.3)	(4.0)	(300)	断面に割傷を伴う敲打痕。	II
2951	WD 0 j 再地積層上面	両輝石安山岩	内子火山	9.6	8.0	5.4	530	両面に敲打痕。	II
2952	WE 4 a 暗褐色土	硬砂岩	北上山地	11.2	8.4	5.2	719	平らな面と側面に敲打痕。	II
2955	WC 5 i 1層下位	輝石安山岩	北上山地	9.9	7.7	6.8	800		II
2957	IX D 0 g	凝灰質硬砂岩	北上山地	9.3	7.2	4.9	400		Y
2961	IX E 6 f 1層	緑長質凝灰岩	北上山地	8.7	8.0	5.1	510	平らな面と石縁の敲打痕。	III
2966	WD 0 j 1層	堆れい岩	北上山地	12.9	10.5	5.5	1139	平らな面と石縁の敲打痕。	III
2967	WD 6 g 黄土	硬砂岩	北上山地	10.5	8.2	3.4	830	平らな面と石縁の敲打痕。	III
2968	IX E 9 a	緑長質凝灰岩	北上山地	9.9	9.8	5.0	600	敲打痕は合石縁。	Y
2969	IX D 5 g	硬砂岩	北上山地	8.7	7.6	4.5	445	敲打痕は合石縁。	III
2972	IX E 2 h 日層	両輝石安山岩	奥羽山脈	5.7	6.8	5.0	250	敲打痕は強い*風中する。	II
3120	WD 0 c	凝灰質千枚岩	北上山地	9.5	6.7	2.1	220		II
3128	WC 3 f 再地積層	硬砂岩	北上山地	12.7	5.7	3.3	340		II
3200	WC 5 g	輝石安山岩	北上山地	(2.8)	(7.4)	(2.5)	(75)		I
3422	WC 4 f 再地積層下位	緑長質凝灰岩	北上山地	(7.8)	7.8	6.5	(390)	全面磨面。ざらつき。	I
3425	WD 9 h 日層	輝石安山岩	北上山地	(5.4)	(7.4)	(4.4)	(250)	全面磨面。ざらつき。	I
3427	WE 9 a 黒色土	赤色凝灰質内礫岩	北上山地	(4.3)	(3.4)	(4.4)	(85)	断面光沢あり。	I
3410	WC 5 b 黒色土中	両輝石安山岩	内子火山	12.4	8.2	2.2	250	磨面はやや凹凸。	I
3414	IX E 区	凝灰質硬砂岩	北上山地	8.9	5.7	2.9	220	磨面は光沢あり。	I
3422	IX D 1 h 日層	輝石安山岩	奥羽山脈	(3.1)	(7.8)	(4.7)	(170)	磨面はざらつき。	IV
3423	WD 8 b 1層	輝石安山岩	奥羽山脈	11.3	9.7	3.9	600	磨面は光沢あり。	V
3423	WC 区黄土	硬砂岩	北上山地	8.0	8.0	3.5	230	片面に磨面。片面に敲打痕。	VI
3424	WD 6 h 褐色土直上	硬砂岩	北上山地	10.3	8.8	4.6	540	片面に合石縁の敲打痕。	III
3425	WD 0 b 黄土	緑長質凝灰岩硬砂岩	北上山地	10.5	4.6	2.8	225	片面に凹面。	III
3427	WC 5 f 再地積層下位	凝灰岩	北上山地	7.4	6.7	3.4	250	片面は凹面。片面は合石縁。	III
3428	WC 4 g	緑色凝灰質硬砂岩	北上山地	10.7	7.8	3.6	290	敲打痕は合石縁。	III
3429	WC 5 f 再地積層下位	緑色凝灰質硬砂岩	北上山地	8.5	7.8	5.2	460	両面に凹面。	II
3430	WC 2 g 黄土	両輝石安山岩	奥羽山脈	9.7	8.5	4.2	480	両面に凹面。	II
3431	WC 8 f 再地積層	緑色凝灰質硬砂岩	北上山地	10.3	7.1	3.4	440	片面に凹面。	II
3432	WD 区	粘板岩質千枚岩	北上山地	12.0	2.8	2.5	190	片面に凹面。	II
3433	WD 1 f 1層	硬砂岩	北上山地	11.8	5.6	2.8	330	両面合石縁の敲打痕。	III
3437	WD 3 f 再地積層	凝灰質凝灰岩	北上山地	12.7	5.2	3.0	300	片面に凹面。	II
3438	WD 0 j 1層	凝灰質千枚岩	北上山地	11.1	5.4	1.8	220	両面に凹面。	II
3500	IX D 1 j 1層	凝灰質千枚岩	北上山地	9.6	8.5	2.7	240	片面は凹面。片面は強い*敲打痕*風中。	II
3503	IX D 0 i	両輝石安山岩	奥羽山脈	8.0	9.0	4.9	510	片面に凹面。	III
3504	IX D 0 i	凝灰質硬砂岩	北上山地	10.7	9.8	4.6	620	片面に凹面。	VI
3505	IX E 3 c	凝灰質硬砂岩	北上山地	(7.3)	(6.3)	(3.1)	(110)	片面に凹面。	III
3508	IX D 1 f 再地積層	両輝石安山岩	奥羽山脈	7.9	6.7	3.5	280	片面に凹面。片面は合石縁の敲打痕。	III
3509	IX D 区	凝灰質硬砂岩	北上山地	11.2	7.5	4.9	450	両面に合石縁の敲打痕。	III
3558	IX D 4 d 日層	凝灰質硬砂岩	北上山地	8.5	6.5	4.7	410	両面に凹面。	II
3510	WD 1 g 日層	両輝石安山岩	奥羽山脈	8.8	7.1	4.6	380	磨面はざらつき。	VI

第49表 不登載石器一覽表(1)

管理番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
3511	No. 1 ヲトロンナ盛土	凝灰質硬砂岩	北上山地	(7.0)	(7.3)	(4.3)	(320)	最打痕は浅い。が集中。	Ⅱ
3512	ⅡE 5 a	凝灰質硬砂岩	北上山地	10.2	7.2	3.1	330	最打痕は浅い。が集中。	Ⅱ
3643	ⅡE 8 g No. 6	凝灰質硬砂岩	北上山地	13.1	5.7	4.8	490	片面に、浅い最打痕が集中。	Ⅱ
3646	ⅡD 8 b 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	8.4	3.7	3.5	210	両端面に最打痕あり。	Ⅱ
3648	ⅡD 3 層	緑色凝灰岩	北上山地	11.7	4.7	3.4	350	磨滅部。	Ⅱ
3649	ⅡD 3 g	珪長質凝灰岩	北上山地	9.4	5.2	3.4	290	ほぼ全面に最打痕あり。	Ⅱ
3650	ⅡD 8 j 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	9.5	8.4	5.4	370	平面部両面に台石様の最打痕あり。	Ⅱ
3652	ⅡE 2 b 表土	硬砂岩	北上山地	12.0	5.0	4.3	380	両面に凹部。	Ⅱ
3654	ⅡD 2 i	珪長質凝灰岩	北上山地	11.7	8.1	4.7	540	台石様の最打痕。	Ⅱ
4262	ⅡD 1 a 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(2.8)	(6.9)	(2.4)	(60)	全面に磨滅あり。	Ⅰ
3657	ⅡC 5 g 再層積層下位	珪長質凝灰岩	北上山地	(5.5)	(7.4)	(4.7)	(300)	端面に割断を伴う最打痕。	Ⅱ
3658	ⅡC 5 i 1 層	硬砂岩	北上山地	11.9	5.8	3.3	410	端面に最打痕。	Ⅱ
3663	ⅡD 5 h 検出面	安山岩	北上山地	(6.2)	(9.4)	(8.4)	(650)	端面に最打痕。	Ⅱ
1785	ⅡC 0 g - 3 再埋土	凝灰質硬砂岩	北上山地	(9.4)	(7.5)	(4.4)	(420)		Ⅱ
2401	ⅡD 9 h 表埋土	流紋岩質凝灰岩	北上山地	(6.4)	(6.4)	(1.9)	(80)		Ⅰ

(10) 石皿・台石類

管理番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
1752	ⅡD 1 g - 2 住	凝灰質硬砂岩	北上山地	22.5	17.5	4.2	2310		
1758	ⅡD 0 i 住	硬砂岩	北上山地	(9.3)	(6.6)	(4.3)	(200)		
1764	ⅡD 9 c 住埋土	硬砂岩	北上山地	(13.1)	(5.3)	(2.8)	(140)		
1780	ⅡD 7 g 住埋土	珪長質凝灰岩	北上山地	(10.0)	(5.2)	(5.1)	(50)		
1790	ⅡD 4 f 住埋土	凝灰岩	北上山地	(6.2)	(3.4)	(2.3)	(60)		
1791	ⅡC 0 f 住	凝灰質砂岩	北上山地	17.5	12.3	3.8	1470	使用痕は明確でない。	
3315	ⅡD 2 c 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(16.4)	(3.2)	(1.9)	(35)		
3316	ⅡD 0 b	凝灰質硬砂岩	北上山地	(9.4)	(4.0)	(3.1)	(130)		
3317	ⅡD 0 i	凝灰質硬砂岩	北上山地	(8.8)	(5.8)	(4.4)	(230)		
3318	ⅡC 5 g	凝灰質硬砂岩	北上山地	(13.4)	(8.4)	(6.8)	(735)		
3319	ⅡD 3 f 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	17.0	4.1	6.3	580		
3320	ⅡD 3 f 1 層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(8.4)	(7.9)	(6.4)	(400)		
3321	ⅡE 6 a	苦鉄質凝灰岩	北上山地	17.7	15.0	3.0	1215		
3323	ⅡE 9 b 表土	凝灰質硬砂岩	北上山地	4.4	5.0	3.3	80		
3325	ⅡD 9 c 再層積層	珪長質凝灰岩	北上山地	21.1	15.7	4.2	2160		
3326	ⅡD 0 i	輝石安山岩	北上山地	(10.3)	(9.5)	(5.4)	(800)		
3327	ⅡD 8 i	粘板岩質千枚岩	北上山地	(9.0)	(3.8)	(1.7)	(45)		
3328	ⅡD 9 i 黒色土直上	珪長質凝灰岩	北上山地	(8.3)	(8.1)	(3.7)	(300)		
3330	ⅡD 8 h 表土直下	珪長質凝灰岩	北上山地	(11.0)	(3.4)	(4.7)	(190)		
3331	ⅡC 4 g 再層積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(8.3)	(5.1)	(5.7)	(200)		
3332	ⅡC 5 g	輝石安山岩	豊前山脈	(8.3)	(5.2)	(2.1)	(110)		
3333	ⅡD 7 d	緑色凝灰岩	北上山地	(10.7)	(5.0)	(5.4)	(405)		
3334	ⅡC 5 h 再層積層	珪長質凝灰岩	北上山地	(6.7)	(2.7)	(1.4)	(35)		
3335	ⅡC 7 f 再層積層	珪長質凝灰岩	北上山地	(10.7)	(11.7)	(3.2)	(630)		
3336	ⅡC 3 e 再層積層	珪長質凝灰岩	北上山地	(6.7)	(3.0)	(1.4)	(30)		
3338	ⅡC 7 e	珪長質凝灰岩	北上山地	(8.2)	(6.2)	(3.4)	(300)		
3339	ⅡC 6 f 再層積層	珪長質凝灰岩	北上山地	(10.3)	(8.0)	(5.4)	(285)		
3340	ⅡC 3 h 再層積層	凝灰質硬砂岩	北上山地	(11.3)	(5.5)	(3.1)	(150)		
3341	ⅡD 6 g 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(11.7)	(6.4)	(3.9)	(520)		
3342	ⅡD 3 i 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(16.4)	(10.4)	(5.0)	(950)		
3343	ⅡC 7 e	珪長質凝灰岩	北上山地	(13.5)	(4.9)	(5.8)	(370)		
3344	ⅡC 7 f トロンナ盛土	珪長質凝灰岩	北上山地	(10.9)	(9.8)	(4.9)	(560)		
3345	ⅡC 7 e 再層積層	珪長質凝灰岩	北上山地	(13.9)	(8.7)	(3.4)	(420)		
3346	ⅡC 4 c 表土	苦鉄質凝灰岩	北上山地	(11.4)	(17.5)	(5.4)	(600)		
3347	ⅡD 9 c	珪長質凝灰岩	北上山地	(11.0)	(11.4)	(3.4)	(430)		
3348	ⅡD 9 h 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(12.0)	(4.2)	(5.0)	(220)		
3351	ⅡD 3 e 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(4.1)	(5.8)	(2.1)	(70)		
3353	ⅡC 9 f 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(10.2)	(13.2)	(8.4)	(350)		
3355	ⅡE 5 a 表土	緑色凝灰岩	北上山地	(15.1)	(10.1)	(4.9)	(520)		
3357	ⅡE 4 a 1 層	珪長質凝灰岩	北上山地	(6.9)	(4.4)	(3.0)	(75)		
3670	ⅡD 8 c	珪長質凝灰岩	北上山地	(21.4)	(18.2)	(3.8)	(2500)		
3671	ⅡC 9 i 表板	凝灰質硬砂岩	北上山地	(21.7)	(12.7)	(6.6)	(2520)		

第50表 不登載石器一覽表(20)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
3075	甕C9c1層	褐色質硬砂岩	北上山地	(14.9)	(6.0)	(3.0)	(350)		
3076	甕C0g黄土	ダイナイト	奥羽山脈	(14.7)	(9.6)	(5.4)	(730)		
3074	甕C6g再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(8.7)	(5.7)	(8.3)	(560)		
3075	甕C区灰岩	陸奥質凝灰岩	北上山地	(20.9)	(4.0)	(7.7)	(715)		
3076	甕D9f黄土	褐色質硬砂岩	北上山地	(7.4)	(7.0)	(6.3)	(640)		
3077	甕D8c黄土直下	陸奥質凝灰岩	北上山地	(16.2)	(8.2)	3.5	(500)		
3078	甕C1g黄土	褐色質硬砂岩	北上山地	(9.6)	(7.0)	(5.4)	(730)		
3079	甕D3h日層	花崗閃緑岩	北上山地	(12.4)	(5.9)	(1.2)	(80)		
3081	甕C7f1層下位	凝灰岩	北上山地	12.3	5.9	2.8	250		
3082	甕C7f1層下位	淡緑色凝灰岩	北上山地	9.3	6.3	2.7	145		
3084	甕C7f1層下位	淡緑色凝灰岩	北上山地	5.7	4.6	2.6	30		
3086	甕C7f1層下位	凝灰岩	北上山地	12.5	3.5	1.4	60		
3087	甕C7f1層下位	淡緑色凝灰岩	北上山地	5.0	4.8	1.87	25		
3076	XD0g日層	御石安山岩	奥羽山脈	(12.1)	8.5	(5.7)	(850)		
4130	甕D8c風割水	陸奥質凝灰岩	北上山地	28.0	7.0	7.0	1050		
4191	甕D6d日層	御石安山岩	磐平山	23.5	17.3	9.0	2170		
4192	甕D2f黄土	陸奥質凝灰岩	北上山地	20.5	15.3	4.9	2380		
4193	XD2b	陸奥質凝灰岩	北上山地	21.1	8.5	4.5	2360		
4204	甕D8c	陸奥質凝灰岩	北上山地	19.5	15.3	4.8	2420		
4205	甕D8c	褐色質硬砂岩	北上山地	(26.0)	(16.6)	5.0	(3760)		
4206	甕D8d	陸奥質凝灰岩	北上山地	22.5	19.5	6.2	4050		
4207	甕E1a	陸奥質凝灰岩	北上山地	29.0	22.0	8.5	5900		
4214	甕C91位	陸奥質凝灰岩	北上山地	(9.4)	(9.3)	(16.6)	(340)		
4235	甕D71黒色土直上	陸奥質凝灰岩	北上山地	(8.4)	(6.0)	(3.1)	(220)		
4237	甕C9b1層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(9.6)	(8.0)	(6.0)	(685)		
4238	甕C7f再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(16.7)	(6.0)	(4.8)	(440)		
4239	甕C9g再堆積層上位	陸奥質凝灰岩	北上山地	(30.8)	(12.9)	(7.4)	(1310)		
4240	甕C7f1層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(15.8)	9.1	(5.4)	(300)		
4241	甕C7f再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(7.1)	(4.1)	(1.2)	(35)		
4242	甕C7f再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(6.8)	(6.2)	(2.1)	(70)		
4243	甕C7f再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(6.8)	(5.5)	(2.8)	(135)		
4244	甕E8a黄土直下	粘板岩	北上山地	(7.9)	(4.8)	(3.1)	(120)		
4245	丸15トロンチ凝土	陸奥質凝灰岩	北上山地	(11.4)	(6.5)	(5.3)	(510)		
4246	甕C7f再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(16.8)	(5.1)	(4.2)	(440)		
4247	甕E8a黄土直下	凝灰岩	北上山地	(15.3)	9.7	(5.2)	(1160)		
4248	甕C5g再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(26.3)	(8.4)	(7.1)	(900)		
4249	甕E2d	陸奥質凝灰岩	北上山地	(26.3)	(8.0)	(6.3)	(1120)		
4250	甕C7f再堆積層	陸奥質凝灰岩	北上山地	(4.3)	(8.0)	(3.7)	(120)		
4251	甕D1f1層	流紋岩	奥羽山脈	(11.4)	(3.8)	(1.8)	(80)		
4252	甕D区黄土直下	陸奥質凝灰岩	北上山地	(27.5)	(11.5)	(11.0)	(2030)		
4253	甕C6f再堆積層	褐色質硬砂岩	北上山地	(26.0)	(10.0)	(7.0)	(2650)		
4254	甕D5g黄土直下	陸奥質凝灰岩	北上山地	22.5	21.5	5.0	5160		
4255	甕D7f黄土直下黒色土	褐色質硬砂岩	北上山地	(8.9)	(6.5)	(7.0)	(870)		
4256	甕D7f黒色土直上	褐色質硬砂岩	北上山地	(8.9)	(6.8)	(2.5)	(150)		
4263	甕C5g1層	凝灰岩	北上山地	(10.8)	(9.0)	(4.9)	(670)		
4265	甕C5g1層	凝灰岩	北上山地	(16.8)	(9.0)	(4.9)	(670)		
4267	甕C91-4位	陸奥質凝灰岩	北上山地	(16.6)	(10.4)	(8.0)	(2450)		

(11) 砥石

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
3055	YD2c日層	凝灰岩	北上山地	(6.0)	(5.5)	(1.9)	(120)		
3056	甕D7d	アモース砂岩	北上山地	(11.8)	(16.0)	(8.1)	(2020)		
3057	甕D6a母褐色土	淡緑色凝灰岩	宇石西部	(7.5)	(7.9)	(2.0)	(130)		
3058	甕D51	淡緑色凝灰岩	宇石西部	(7.8)	(4.8)	(1.7)	(90)		
3059	甕D区黄土	淡緑色凝灰岩	宇石西部	(7.0)	(8.0)	(7.1)	(600)		
3060	甕C4h	淡緑色凝灰岩	宇石西部	13.9	4.7	2.1	250		
3061	甕C0b再堆積層	細粒凝灰岩	宇石西部	14.0	5.8	3.5	300		
3062	甕C1g黄土	淡緑色凝灰岩	宇石西部	(3.5)	(7.0)	(2.5)	(120)		
3063	甕C4g黄土	細粒凝灰岩	宇石西部	(8.3)	(4.3)	(2.0)	(160)		
3065	甕D0a黄褐色土	淡緑色凝灰岩	宇石西部	(5.0)	(2.9)	(1.4)	(32)		

第51表 不登載石器一覽表(2)

発掘 番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
2096	ⅡC 3 f 1 層黄褐色土	細粒凝灰岩	宇石西部	7.0	4.3	1.3	16		
2097	ⅡD 1 h Ⅱ層	細粒凝灰岩	宇石西部	10.2	4.3	2.7	180		
2098	ⅡE 2 b	細粒凝灰岩	宇石西部	12.3	7.7	3.5	450		
2099	ⅡC 6 e Ⅱ層	細粒凝灰岩	宇石西部	14.0	5.6	1.5	90		

(12) 礫器

発掘 番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
2073	ⅡE 3 c 表土	凝灰岩	北上山地	6.5	7.2	2.4	200		

(13) 石核

発掘 番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
2072	ⅡC 3 g 両面積層下位	硬質花崗凝灰岩	宇石西部	2.9	3.5	1.2	14.81		多方角
2118	ⅡC 7 f 両面積層	塊状質細粒凝灰岩	宇石西部	3.3	4.0	1.3	16.76		
2070	ⅡD 4 g Ⅱ層	塊質泥岩	宇石西部	4.13	2.40	0.50	20.38		
2797	ⅡD 6 a	塊質泥岩	宇石西部	7.0	5.2	4.0	128.74		
2792	ⅡD 2 Ⅱ両面積層	塊質泥岩	宇石西部	5.1	4.0	2.4	51.41		
2793	ⅡD 7 g Ⅱ層	硬質花崗凝灰岩	宇石西部	6.49	3.7	3.0	98.93		
2794	No. 2 0 トレンチ盛土	硬質泥岩	宇石西部	5.13	4.0	1.7	42.03		
2800	ⅡD 7 f 横出面	硬質泥岩	宇石西部	7.4	6.1	5.0	205		
2825	ⅡD 4 b 横出面	塊質泥岩	宇石盆地	8.9	7.8	5.3	460		
2820	ⅡD 6 f Ⅱ層	塊質泥岩	宇石盆地	7.3	5.4	4.0	185		
2825	出土地不明	塊質泥岩	宇石盆地	8.3	5.9	4.5	280		

(14) 石製品

発掘 番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
2085	ⅡC 7 e	白石細粒凝灰岩	宇石西部	4.5	5.3	1.3	95		

(15) 半円状花崗岩質岩

発掘 番号	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
1636	ⅡC 1 b 住	花崗閃緑岩	北上山地	7.0	5.1	2.5	119		
1637	ⅡC 9 g-3 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	13.9	9.4	2.7	509		
1638	ⅡC 9 f-3 住	花崗閃緑岩	北上山地	10.5	7.6	2.0	210		
1639	ⅡC 9 i-4 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	7.4	6.9	2.5	169		
1640	ⅡC 9 g-3 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	17.0	8.0	4.0	605		
1641	ⅡC 9 i-3 住	花崗閃緑岩	北上山地	12.4	7.4	4.0	430		
1642	ⅡC 6 b 住東西<ノ>	花崗閃緑岩	北上山地	6.7	6.0	2.6	130		
1643	ⅡC 9 i-3 住	花崗閃緑岩	北上山地	8.7	5.3	2.6	180		
1644	ⅡC 7 f 住横面	花崗閃緑岩	北上山地	14.8	9.4	3.0	550		
1645	ⅡC 9 i-3 住	花崗閃緑岩	北上山地	5.4	5.4	2.4	80		
1646	ⅡC 6 b 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	8.5	5.8	3.2	180		
1647	ⅡC 6 b 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	4.4	3.7	1.5	35		
1648	ⅡC 6 g 住	花崗閃緑岩	北上山地	2.7	1.7	1.5	15		
1649	ⅡC 6 g 住	花崗閃緑岩	北上山地	10.9	5.2	2.4	80		
1650	ⅡD 6 b 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	9.6	7.6	2.6	210		
1651	ⅡD 6 b-3 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	8.2	7.4	2.6	195		
1652	ⅡD 6 b-2 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	7.3	6.2	2.6	120		
1653	ⅡD 6 b 住埋土下位	花崗閃緑岩	北上山地	9.1	7.4	3.9	300		
1654	ⅡC 6 b 住埋土下位	花崗閃緑岩	北上山地	5.4	2.0	2.8	85		
1655	ⅡD 6 b 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	7.8	6.8	2.6	180		
1656	ⅡD 6 i 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	4.8	2.8	1.9	25		
1657	ⅡD 5 i-3 住埋土上位	花崗閃緑岩	北上山地	8.2	7.1	3.9	300		
1658	ⅡC 1 g 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	8.4	5.8	3.0	150		
1659	ⅡC 2 j 住埋土	花崗閃緑岩	北上山地	8.1	7.0	2.8	210		
1660	ⅡC 9 i 住	花崗閃緑岩	北上山地	9.9	5.7	3.0	170		
1661	ⅡD 4 g-2 住	花崗閃緑岩	北上山地	8.3	6.5	3.4	180		
1662	ⅡD 1 e 住No.7	花崗閃緑岩	北上山地	9.9	6.5	2.3	230		
2771	ⅡC 3 g Ⅱ層	花崗閃緑岩	北上山地	4.39	4.95	3.1	469		

第52表 不登載石器一覽表(2)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	分類
3712	甕C 6 h I層	花崗閃緑岩	北上山地	(12.0)	(7.7)	(1.2)	(236)		
3713	甕C 6 f 遺積	花崗閃緑岩	北上山地	(9.3)	(7.2)	(2.6)	(210)		
3714	甕C 6 h I層	花崗閃緑岩	北上山地	(9.3)	(5.7)	(1.9)	(160)		
3750	甕C 7 f 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	14.4	6.7	3.0	405		
3752	甕C 4 i I層	花崗閃緑岩	北上山地	14.7	6.7	3.0	495		
3753	甕C 5 i I層	花崗閃緑岩	北上山地	15.7	7.2	2.6	370		
3754	甕C 7 e 再堆積層上位	花崗閃緑岩	北上山地	16.7	6.3	3.0	385		
3756	甕C 5 i I層	花崗閃緑岩	北上山地	15.3	6.7	2.6	385		
3757	甕C 6 i	花崗閃緑岩	北上山地	11.6	6.5	2.7	276		
3758	甕C 7 g I層下位	花崗閃緑岩	北上山地	5.6	4.1	2.3	65		
3759	甕C 5 f	花崗閃緑岩	北上山地	6.3	4.4	1.8	70		
3760	甕C 3 h 再堆積層下位	花崗閃緑岩	北上山地	6.4	4.6	1.9	90		
3761	甕C 7 e 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	4.0	3.6	2.3	35		
3762	甕C 7 f I層	花崗閃緑岩	北上山地	6.3	4.6	2.2	86		
3763	甕C 7 f 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	5.7	4.1	2.3	70		
3764	甕C 6 g トレンチ	花崗閃緑岩	北上山地	4.1	2.3	1.6	20		
3765	甕C 7 e 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	5.3	3.7	1.9	60		
3766	甕C 5 e 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	3.8	3.9	2.3	50		
3767	甕C 7 f 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	3.5	3.9	1.6	20		
3768	甕C 5 i	花崗閃緑岩	北上山地	10.6	7.0	1.8	165		
3769	甕D 6 f 目層	花崗閃緑岩	北上山地	7.1	36.3	2.3	190		
3771	甕D 6 d 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	5.7	4.4	2.0	80		
3772	甕D 0 c 賞賜色土	花崗閃緑岩	北上山地	8.3	4.9	2.4	130		
3773	甕D 0 f 黄土	花崗閃緑岩	北上山地	10.5	7.6	2.1	240		
3774	甕D 0 f 黄土	花崗閃緑岩	北上山地	9.4	6.6	2.2	190		
3775	甕D 7 a 目層	花崗閃緑岩	北上山地	7.6	7.6	2.8	215		
3776	甕D 6 e	花崗閃緑岩	北上山地	11.2	6.4	2.8	300		
3777	甕D 0 c	花崗閃緑岩	北上山地	(8.3)	6.0	3.7	(210)		
3778	甕D 0 f 黄土	花崗閃緑岩	北上山地	6.4	4.8	1.6	70		
3780	甕D 区	花崗閃緑岩	北上山地	12.3	6.4	2.5	430		
3781	甕D 7 g 目層	花崗閃緑岩	北上山地	15.5	8.5	2.1	460		
3782	甕D 7 a 目層	花崗閃緑岩	北上山地	12.7	7.9	3.3	470		
3783	甕D 7 i	花崗閃緑岩	北上山地	4.5	3.7	1.5	40		
3784	甕C 1 j 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	11.1	6.6	2.3	230		
3715	甕D 8 c II層	花崗閃緑岩	北上山地	(76.5)	(5.7)	(1.0)	(160)		
3716	甕C 4 e	花崗閃緑岩	北上山地	(4.3)	(3.7)	(2.4)	(35)		
3717	甕C 4 e	花崗閃緑岩	北上山地	(3.0)	(2.3)	(1.8)	(15)		
3718	甕C 4 h 再堆積層下位	花崗閃緑岩	北上山地	12.3	5.7	2.9	250		
3719	甕C 7 f 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	(8.4)	(6.7)	(2.3)	(205)		
3721	甕C 4 g 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	(8.6)	6.5	2.7	250		
3722	甕C 5 h 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	(8.0)	(6.3)	3.8	(420)		
3723	甕C 5 h 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	8.4	7.9	3.2	330		
3724	甕C 5 h 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	20.5	(19.0)	(4.6)	(2900)		
3725	甕C 5 h I層	花崗閃緑岩	北上山地	12.6	4.4	1.4	120		
3727	甕C 5 h 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	9.3	6.7	2.6	190		
3728	甕C 6 f 再堆積層下位	花崗閃緑岩	北上山地	10.4	6.5	2.3	250		
3729	甕C 5 i I層	花崗閃緑岩	北上山地	8.0	6.8	2.0	180		
3730	甕C 6 g 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	10.5	5.0	2.7	185		
3731	甕C 6 g	花崗閃緑岩	北上山地	6.7	6.2	3.4	130		
3732	甕C 3 h	花崗閃緑岩	北上山地	7.1	6.4	2.5	150		
3733	甕C 8 h I層	花崗閃緑岩	北上山地	11.0	4.9	2.2	170		
3734	甕C 4 i 目層	花崗閃緑岩	北上山地	8.6	3.0	2.6	150		
3735	甕C 5 d I層	花崗閃緑岩	北上山地	6.7	6.9	1.9	100		
3736	甕C 区 トレンチ 黄土	花崗閃緑岩	北上山地	16.4	6.4	2.7	340		
3737	甕C 9 i I層	花崗閃緑岩	北上山地	10.7	5.2	1.7	160		
3738	甕C 5 i I層	花崗閃緑岩	北上山地	12.8	3.7	1.7	230		
3739	甕C 6 h 再堆積層	花崗閃緑岩	北上山地	10.4	5.5	1.9	190		
3740	甕C 5 g	花崗閃緑岩	北上山地	9.2	6.7	3.1	200		
3741	甕C 8 f I層	花崗閃緑岩	北上山地	10.0	7.0	3.2	365		
3742	甕C 1 f I層	花崗閃緑岩	北上山地	12.8	6.7	2.8	320		
3744	甕C 0 g 黄土	花崗閃緑岩	北上山地	8.7	5.4	2.8	180		

第53表 不登載石器一覽表(2)

層序	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
3746	ⅡC 8 d 再埋痕層	花崗閃綠岩	北上山地	8.3	6.4	3.3	230		
3747	ⅡC 5 g 再埋痕層下位	花崗閃綠岩	北上山地	9.4	6.8	2.0	250		
3748	ⅡC 5 g 再埋痕層	花崗閃綠岩	北上山地	10.4	5.9	2.4	210		
3749	ⅡC 7 f 再埋痕層	花崗閃綠岩	北上山地	(9.7)	7.5	3.5	(340)		
3750	ⅡC 2 i 再埋痕層	花崗閃綠岩	北上山地	4.7	3.4	2.2	80		
3756	ⅡC 2 g 黄土	花崗閃綠岩	北上山地	6.1	5.8	2.8	120		
3787	ⅡC 1 g 黄土	花崗閃綠岩	北上山地	8.8	4.4	1.4	80		
3788	ⅡD 0 g Ⅱ層	花崗閃綠岩	北上山地	8.3	5.8	2.1	140		
3789	ⅡD 1 a Ⅱ層	花崗閃綠岩	北上山地	2.7	2.4	1.8	30		
3790	ⅡD 5 表層	花崗閃綠岩	北上山地	7.9	6.0	1.3	100		
3791	ⅡD 8 g Ⅱ層	花崗閃綠岩	北上山地	8.7	6.2	2.3	180		
3792	ⅡD 2 h Ⅱ層	花崗閃綠岩	北上山地	9.4	5.4	1.5	120		
3793	ⅡD 1 h Ⅱ層	花崗閃綠岩	北上山地	8.6	5.0	2.5	190		
3794	ⅡD 2 h Ⅱ層	花崗閃綠岩	北上山地	12.1	6.0	2.8	320		
3795	ⅡD 2 h Ⅱ層	花崗閃綠岩	北上山地	7.8	6.0	2.0	150		
3796	ⅡD 1 e Ⅰ層	花崗閃綠岩	北上山地	7.8	3.7	2.3	90		
3797	ⅡE 1 a	花崗閃綠岩	北上山地	8.2	4.7	2.6	120		
3798	ⅡE 2 b	花崗閃綠岩	北上山地	5.7	3.8	1.6	50		
3799	ⅡD 3 h	花崗閃綠岩	北上山地	7.8	6.7	2.9	170		

(16) 溶岩

層序	出土地点・層位	石 質	産 地	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	分類
1817	ⅡD 4 g - 4 住床跡	両輝石安山岩	岩手火山	(14.7)	(12.0)	(7.4)	(510)		
1818	ⅡD 0 h 住埋土	両輝石安山岩	岩手火山	(6.4)	(7.3)	(5.8)	(280)		
1819	ⅡD 0 a 住	両輝石安山岩	岩手火山	9.0	8.2	5.7	140		
1820	ⅡD 3 j 住埋土	両輝石安山岩	岩手火山	8.4	9.0	5.2	290		
1821	ⅡC 0 g - 3 住埋土	両輝石安山岩	岩手火山	(7.5)	4.9	3.7	(30)		
1822	ⅡC 9 i - 3 住	両輝石安山岩	岩手火山	8.5	6.4	2.8	80		
1823	ⅡD 0 g 住	両輝石安山岩	岩手火山	(7.4)	(5.8)	(4.3)	(165)		
1824	ⅡE 6 h 住埋土	両輝石安山岩	岩手火山	6.3	3.6	2.4	55		
1825	ⅡE 0 a 住	両輝石安山岩	岩手火山	10.8	7.7	3.5	280		
1826	ⅡC 9 i - 3 化床直上	両輝石安山岩	岩手火山	(7.9)	(4.2)	(3.3)	(70)		
1827	ⅡC 9 i - 3 住	両輝石安山岩	岩手火山	(7.9)	(5.7)	(4.3)	(130)		
1828	ⅡC 9 i - 3 住	両輝石安山岩	岩手火山	4.2	5.1	0.7	15		
1830	ⅡC 0 h 住Q 4 埋土	両輝石安山岩	岩手火山	(4.6)	(3.8)	(1.6)	(30)		
1831	ⅡD 5 g 住埋土	両輝石安山岩	岩手火山	(8.3)	(8.1)	(6.3)	(300)		
1832	ⅡD 0 g 住	両輝石安山岩	岩手火山	(2.3)	(4.8)	2.8	(15)		
1833	ⅡD 9 c - 2 住	両輝石安山岩	岩手火山	(3.3)	(2.8)	0.8	(50)		
1834	ⅡC 8 g	両輝石安山岩	岩手火山	(9.4)	(6.8)	5.6	(220)		
3801	ⅡC 6 f 再埋痕層下位	両輝石安山岩	岩手火山	(4.8)	(4.9)	(4.3)	(60)		
3802	ⅡC 6 e 再埋痕層下位	両輝石安山岩	岩手火山	(9.6)	(6.4)	(2.8)	(46)		
3803	ⅡC 7 e	両輝石安山岩	岩手火山	(5.8)	(4.5)	(1.8)	(40)		
3804	ⅡC 5 h Ⅰ層	両輝石安山岩	岩手火山	(13.3)	(8.8)	(6.4)	(230)		
3805	ⅡC 5 h Ⅰ層下位	両輝石安山岩	岩手火山	(9.7)	(7.4)	(3.0)	(30)		
3806	ⅡC 7 f 再埋痕層	両輝石安山岩	岩手火山	(5.5)	(5.1)	(2.0)	(30)		
3807	ⅡC 7 f 再埋痕層	両輝石安山岩	岩手火山	(10.8)	(9.3)	(3.0)	(130)		
3808	ⅡC 5 e 再埋痕層	両輝石安山岩	岩手火山	(12.4)	8.8	(3.1)	(130)		
3809	ⅡE 9 a 黒色土	両輝石安山岩	岩手火山	(8.3)	(8.4)	(2.4)	(130)		
3810	ⅡD 7 i	両輝石安山岩	岩手火山	(3.8)	(3.8)	(2.8)	(200)		
3811	ⅡD 4 h 焼沸面	両輝石安山岩	岩手火山	(3.3)	(4.4)	(1.8)	(12)		
3812	ⅡD 9 b 灰	両輝石安山岩	岩手火山	(5.8)	(5.0)	2.5	(50)		
3813	ⅡD 1 g 黄土上	両輝石安山岩	岩手火山	(5.5)	(5.3)	(2.8)	(30)		
3814	ⅡD 3 g 埋土	両輝石安山岩	岩手火山	(4.9)	(3.2)	(1.7)	(19)		
3815	ⅡD 7 i	両輝石安山岩層部	岩手火山	(7.3)	(8.0)	(5.0)	(280)		
3816	ⅡD 0 g 黄土直下	両輝石安山岩	岩手火山	(10.8)	(8.3)	(6.3)	(340)		
3817	ⅡD 6 g Ⅱ層	両輝石安山岩	岩手火山	(14.8)	(10.8)	(4.8)	(340)		
3818	ⅡD 2 h Ⅱ層	両輝石安山岩	岩手火山	(8.3)	(6.3)	(3.7)	(140)		
3819	ⅡD 3 h Ⅱ層	両輝石安山岩	岩手火山	(7.8)	(3.8)	(3.0)	(80)		
3796	ⅡD 3 h Ⅱ層	両輝石安山岩	岩手火山	(10.3)	(7.9)	(5.8)	(400)		
3791	ⅡD 3 i Ⅱ層	両輝石安山岩	岩手火山	(13.1)	(8.8)	(5.7)	(440)		

第54表 不登載石器一覽表(2)

番号	出土地点・層位	石質	産地	長さ	幅	厚さ	重さ	図号	分類
3702	ⅡE 1 a	阿蘇石安山岩	岩手火山	(4.9)	(6.0)	(4.1)	(190)		
3703	ⅡD 3 f Ⅱ層	阿蘇石安山岩	岩手火山	(10.0)	(6.7)	(4.6)	(190)		
3704	ⅡE 1 a	阿蘇石安山岩	岩手火山	(8.9)	(7.2)	(3.1)	(130)		
3705	ⅡD 2 a 黄土	阿蘇石安山岩	岩手火山	(7.4)	(5.4)	(3.0)	(45)		
3706	ⅡD 9 e Ⅱ層	阿蘇石安山岩	岩手火山	(6.4)	(5.5)	(4.2)	(85)		
3707	ⅡI D 1 f Ⅰ層	阿蘇石安山岩	岩手火山	(7.8)	(5.5)	(3.5)	(90)		
3708	No. 1 5 トレンチ	阿蘇石安山岩	岩手火山	(9.1)	(7.3)	(3.5)	(170)		
3709	No. 4 4 トレンチ	阿蘇石安山岩	岩手火山	(3.9)	(4.1)	(3.0)	(30)		
3710	不明	阿蘇石安山岩	岩手火山	(10.2)	(7.8)	3.8	(130)		
4222	ⅡD 4 h 黄壤土	阿蘇石安山岩	岩手火山	(6.0)	(4.2)	(3.0)	(65)		
4223	ⅡD 3 g Ⅱ	阿蘇石安山岩	岩手火山	(3.5)	4.5	(3.3)	(80)		
4224	ⅡD 3 g 住埋土	阿蘇石安山岩	岩手火山	(5.8)	(3.2)	(2.0)	(20)		

第55表 不登載石器一覽表(2)

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長	高 橋 重 實				
副 所 長	千 葉 政 男				
(管理課)					
管理課長	澤 田 寛	囀 託		吉 田 十 次	
主 事	佐 藤 理	"		野 崎 他 夫	
"	久保田 幸 恵				
(調査課)					
調査課長	鈴 木 恵 治	文 化 財		金 子 昭 彦	
課長補佐	三 浦 謙 一	専門調査員		木 戸 口 俊 子	
"	高 橋 典 右衛門	"		大 道 都 勝 則	
主任文化財	菊 池 強 一	"		大 阿 星 部 雅 直	
専門調査員	渡 辺 洋 一	"		星 羽 柴 木 晃	
"	工 藤 利 幸 紀	"		羽 高 村 上 高 橋	
"	中 川 重 文 介	"		高 村 上 高 橋	
"	佐々木 清 義 俊	"		高 杉 沢 昭 二 郎	
"	高 村 英 宗 孝 雄	"	期 限 付	溜 高 橋 英 樹	
文 化 財	酒 千 葉 孝 人 見	専門職		高 佐 藤 垣 雅 一	
専門調査員	伊 東 格 充	"		稲 元 吉 弘 明	
"	吉 田 邦 雄 浩	"		元 熊 谷 木 裕 貴	
"	斎 藤 邦 一 浩 勉	"		熊 谷 木 裕 貴	
"	高 橋 田 透 速 子	"		佐々木 葉 田 宏 円	
"	鎌 田 建 速 子	"		千 沼 後 藤 和 子	
"	小山内 建 速 子	"		沼 後 藤 和 子	
"	松 本 平 克 政 博 務	"			
"	笹 坂 政 博 務	"			
"	花 坂 政 博 務	"			
"	佐々木 政 博 務	"			
(資料課)					
資料課長	駒 嶺 高 幸				
主任文化財	高 橋 正 之				
専門調査員					

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第227集

上八木田 I 遺跡発掘調査報告書

新盛岡競馬場建設関連遺跡発掘調査

分冊 2 (住居跡以外の遺構・遺構外出土遺物・まとめ)

印刷 平成 7 年 3 月 25 日

発行 平成 7 年 3 月 31 日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 盛岡市下飯岡11-185

電話 (0196) 38-9001・2

印刷 株式会社 熊谷印刷

〒020 盛岡市上田一丁目6-49

電話 (0196) 53-4151